ユーザーマニュアル
EWS シリーズコントローラ

バージョン 3.90.0004

著作権について

Edgecore Networks Corporation

著作権

免責事項

Edgecore, INC.は、本書に記載されている製品またはソフトウェアのアプリケーションまたは使用から生じる一切の責任を負いません。また、当社の特許権や他の特許権のもとでライセンスを供与することもありません。Edgecoreはさらに、ここに記載されている製品に予告なく変更を加える権利を留保します。この出版物は、予告なく変更されることがあります。

商標

Edgecoreは、Edgecore, INC.の登録商標です。本書に記載されているその他の商標は、識別目的でのみ使用され、それぞれの所有者の所有物である場合があります。

目次

第1章　はじめに

1.1 EWS 無線 LAN ゲートウェイコントローラシリーズ

Edgecore EWS 無線 LAN ゲートウェイコントローラは、ネットワークサービスのプロビジョニング、認証、セキュリティ、および管理用に設計された機能豊富なネットワークエッジデバイスです。配置の規模に応じて、Edgecore EWS 無線 LAN ゲートウェイコントローラモデルを選択し、さまざまな容量におけるネットワークの需要を満たすことができます。

Edgecore EWS コントローラは、認証、認可、アカウンティングを表すトリプル A（AAA）など、あらゆるネットワーク環境の基本的なニーズに対応するように設計されています。Edgecore EWS コントローラを使用すると、ユーザーの役割に基づいてさまざまなユーザーが認証され、そこからユーザーのアクセス可能なネットワークセグメント、ユーザーのネットワークポートフォリオ（アクセス可能な時間、QoS、ルーティングルール、ファイアウォールルール、使用条件、権限を含む）が定義され、総称して「認可」と呼ばれます。最後に、クライアントがネットワークを使用している間に Edgecore EWS コントローラによって定期的にアカウンティングが実行されます。配置に応じて、このクライアントのアカウンティング情報が内部ユーザーデータベースまたは外部ユーザーデータベースに更新されます。

複数の AP を配置する規模になる場合、ワイヤレスネットワークのプロビジョニングは簡単な作業ではありません。Edgecore EWS コントローラは、ローカルエリアネットワーク（LAN）の下でローカルに配置された 4ipent の AP デバイスだけでなく、Edgecore EWS コントローラの位置を基準に、ワイドエリアネットワーク（WAN）にリモートに配置された Edgecore AP デバイスもカバーする包括的な AP 管理機能を備えています。さらに、サードパーティの AP 管理インターフェースにより、Edgecore EWS コントローラは、関連するオンラインユーザー監視、GUI インターフェースへのショートカット、非 Edgecore AP の位置計画など、一般的な AP 管理機能を実行できます。

ネットワークの安全性とトラフィック制御もまた、ネットワーク所有者、ホテル経営者にとって懸念される大きな分野であり、ネットワーク環境全体の品質と安定性を決定する主要な要因です。Edgecore EWS コントローラは、最適なパス選択のための静的および動的ルーティング

機能、個々のユーザーに帯域幅制御を適用するための QoS マッピング、システムのアップリンク帯域幅制御、カスタマイズされたファイアウォールプロトコルとルールにより、これらのニーズに対応します。

一般的なネットワーク機能は、Edgecore EWS コントローラに十分に詰め込まれています。3 種類の NAT 機能、無料のウェブサイトを閲覧できるウォールド・ガーデン、ネットワークデバイス監視ツール、静的 DNS 変換、プロキシサーバー、VPN などを提供します。Edgecore EWS コントローラは、複数のネットワーク機能を 1 つのデバイスに組み込んで、外部 NAT サーバー、プロキシサーバー、VPN ゲートウェイなどをセットアップする必要がなくなり、配置の複雑さを軽減します。

ネットワークメンテナンスとネットワーク監視タスクは、システムトラフィック、CPU 使用率やメモリ消費量などのシステムリソース使用率、オンラインユーザー記録、DHCP リース記録などの組み込みディスプレイで簡単に行うことができます。イベントログを外部サーバーに送信して、長期的な記録保持や詳細な分析を行うことができます。

1.2 EWS コントローラモデル

Edgecore EWS コントローラの製品ラインには、さまざまな規模のネットワーク配置を対象とする以下のモデルが用意されています。

SMB およびエンタープライズ無線 LAN ゲートウェイコントローラ
EWS100、EWS5203、VEWS5203、VEWS5204

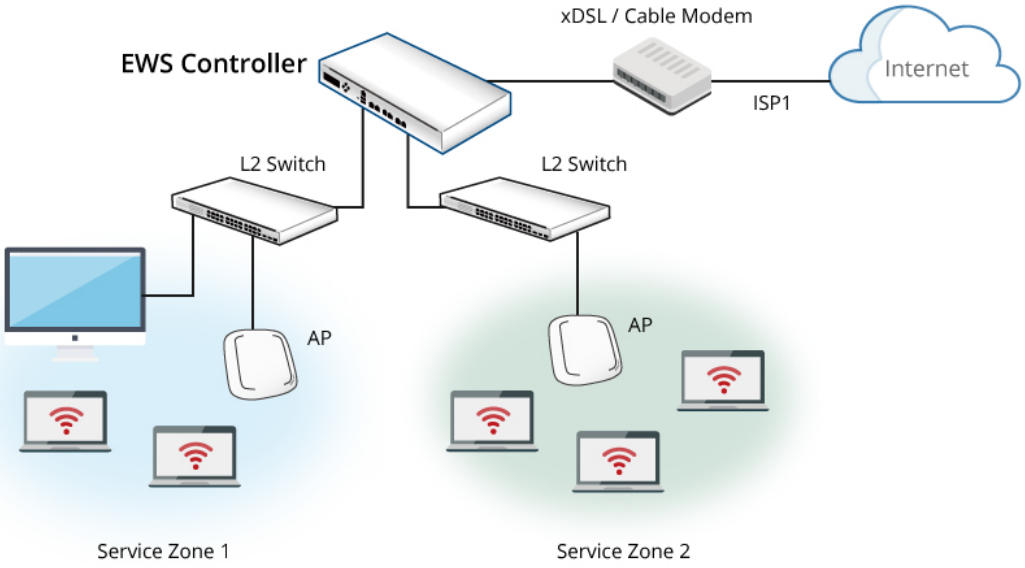
大規模エンタープライズおよびキャリアグレードコントローラ
EWS5204、EWS5207、VEWS5207、VEWS1000

注：Edgecore は引き続き新しいプラットフォームを導入する場合があり、古いプラットフォームを廃止する場合もあります。最新の製品ラインのについては、当社のウェブサイト http://www.Edgecore.com を参照してください。各モデルのハードウェアおよび設置方法の詳細なリストについては、**付録 A** を参照してください。

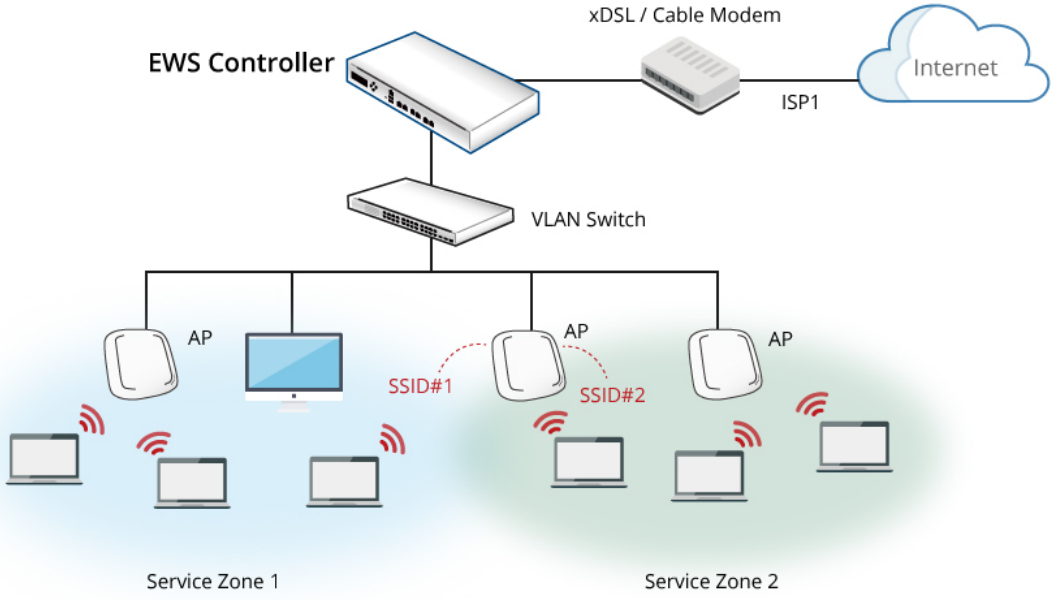
1.3 Edgecore ソリューションの概要

Edgecore EWS コントローラは、現在のほとんどすべてのネットワークアーキテクチャ、レイヤ 2（データリンク層）およびレイヤ 3（ネットワーク層）のネットワーク管理用に設計されています。

レイヤ 2 ネットワークは、Edgecore EWS コントローラの LAN ポートで物理的に広がる相対的な単純なネットワーク配置トポロジです。次の 2 つの配置シナリオを示します。

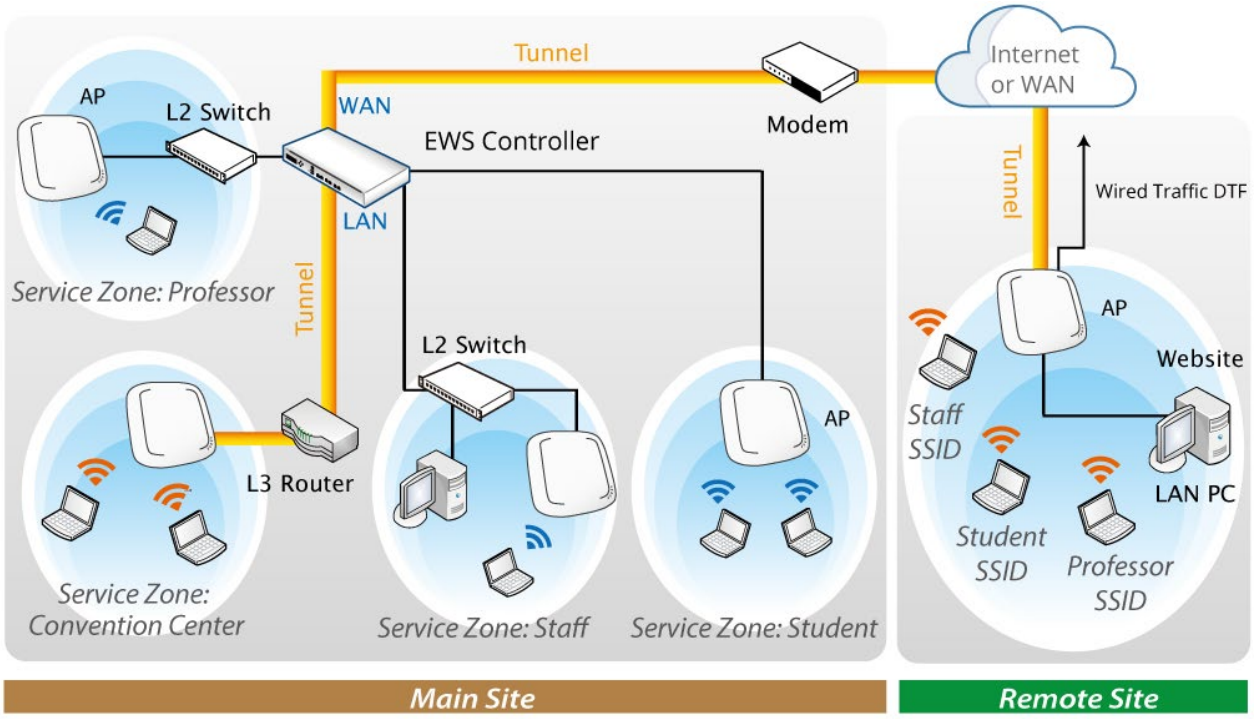


【ポートベースモードのレイヤ 2 ネットワーク】



【タグベースモードのレイヤ 2 ネットワーク】

レイヤ 3 ネットワークは、Edgecore EWS コントローラの LAN ポートで物理的に広がるだけでなく、トンネル経由でルーティング可能な IP アドレスを持つリモートサイトを管理するために、異なる IP ネットワーク経由で到達することもできます。



【トンネルを持つレイヤ 3 ネットワーク】

1.4 主な用語と概念

ゲートウェイは、小さなネットワークがより大きなネットワークに接続するエッジデバイスまたはネットワークノードです。Edgecore EWS コントローラは、本質的にネットワーク環境のゲートウェイです。通常、大きなネットワークとは WAN 側またはアップストリームネットワーク（物理的に WAN ポート経由で接続されている）を指しており、小さなネットワークとは LAN 側を指しています。

ローカルユーザーは、アカウント資格情報が Edgecore EWS コントローラの「ローカル」という組み込みデータベースに格納されているユーザーのタイプです。Edgecore EWS コントローラの「ローカル」データベース容量は、モデルによって異なります。一度作成されたローカルユーザーアカウントには有効期限がありません。管理者がローカルアカウントを削除する場合は、Web 管理インターフェースから手動で削除する必要があります。また、Edgecore EWS コントローラの Local データベースは、アカウントローミング用の別の Edgecore EWS コントローラの外部 RADIUS データベースとして構成できます。

オンデマンドユーザーは、アカウント資格情報が Edgecore EWS コントローラの「オンデマンド」という組み込みデータベースに格納されているユーザーのタイプです。Edgecore EWS

コントローラの「オンデマンド」データベース容量は、モデルによって異なります。オンデマンドユーザーは、短期的な使用目的のために設計され、時間または容量の制約と有効期限があります。オンデマンドアカウントの記録は、15 日以上経過していた場合、または管理者/マネージャによって手動で削除された場合、新しいオンデマンドアカウントを作成するためにリサイクルされます。また、Edgecore EWS コントローラのオンデマンドデータベースは、アカウントローミング用の別の Edgecore EWS コントローラの外部 RADIUS データベースとして構成できます。

外部認証データベースは、Edgecore EWS コントローラに組み込まれていないユーザーアカウントデータベースです。Edgecore EWS コントローラは、ローカルデータベースとオンデマンドデータベースの他に、RADIUS、POP3、LDAP（Active Directory を含む）、NTDomain（Win2K の NTDS）の 4 種類の外部認証データベースをサポートしています。外部認証データベースは、アカウントローミングの実装と集中管理の両方に役立ちます。

サービスゾーンは、Edgecore EWS コントローラの LAN の論理パーティションです。サービスゾーンの概念は、独自のゲートウェイプロパティ（LAN IP アドレス、DHCP サーバー設定、認証オプションなど）やカスタマイズ可能なログインポータルページを持つ仮想ゲートウェイです。最大 9 つの独立したサービスゾーンプロファイルを備えた Edgecore EWS コントローラは、単一のデバイスで複数のホットスポットフランチャイズに対応できます。

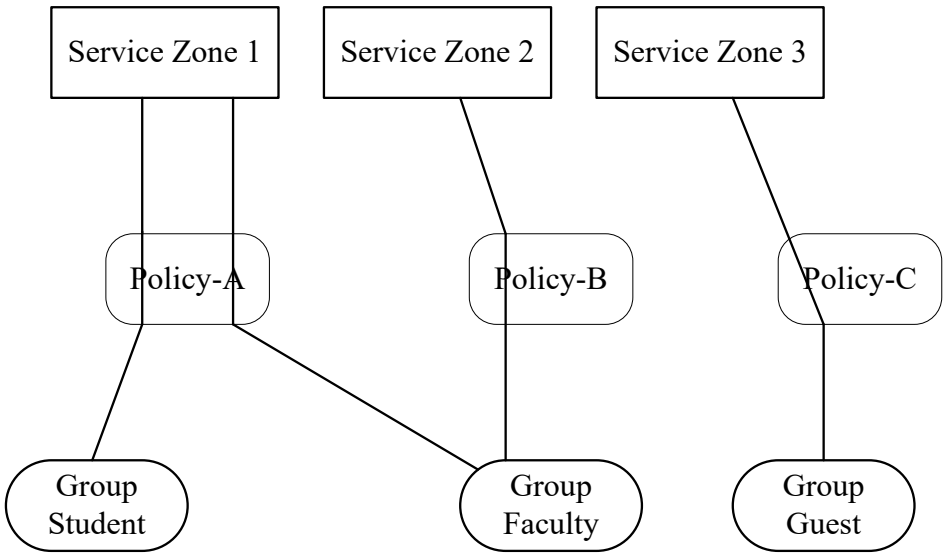
LAN ポートマッピングは、サービスゾーンと Edgecore EWS コントローラ上の物理 LAN ポートなどの論理ネットワークパーティションの対応関係です。マッピングには、「ポートベース」と「タグベース」の 2 つのモードがあります。ポートベースモードでは、サービスゾーンを物理 LAN ポートの下流のクライアントに静的にマッピングします。このモードでは、物理 LAN ポートの数に応じた最大数のサービスゾーンのみサービスを提供します。タグベースモードでは、トラフィックパケットにタグ付けされた VLAN ID に基づいて、クライアントをサービスゾーンに動的にマッピングします。

グループは、異なるサービスゾーンへのユーザーのアクセス性を定義するユーザーの役割プロファイルであり、アクセスが許可されたときの QoS プロパティとネットワークポリシーを定義します。接続している各ユーザーは、認証に使用されるユーザーアカウントのタイプによって決定されるグループに属します。管理者が新しいアカウントを特定のグループに割り当てない

場合、または認証が不要なユーザーに割り当てない場合、デフォルトでは「無し」という名前のキャッチオールグループに属します。

ポリシーは、ユーザーのグループプロファイルが決定された後のユーザー制御の第 2 階層です。ポリシーは、特定のグループのユーザーに適用されるファイアウォールルール、権限、ログインスケジュール、ルーティングルール、およびセッション制限を定義します。ユーザーは 1 つのグループにのみ属することができますが、異なるサービスゾーンにアクセスしている間、異なるポリシーによって管理することができます。
「無し」グループに属するユーザー、またはネットワークポリシーを明示的に割り当てられていないユーザーについては、「グローバルポリシー」というデフォルトのキャッチオールポリシーによって管理されます。グローバルポリシーは基本ポリシーであり、別のポリシーが適用されない場合はすべてのユーザーに適用されます。

次の図は、サービスゾーン、グループ、およびポリシーの関係を示す例です。この例では、サービスゾーン 1 にログインした学生および学部は、ポリシーA によって管理されます。お客様は、サービスゾーン 3 のみにアクセスでき、ポリシーC によって制限されます。学部は、2 つの異なるポリシーの下でサービスゾーン 1 とサービスゾーン 2 の両方にアクセスできます。



【サービスゾーン、グループ、ポリシーの関係】

1.5 推奨される構成順序

- システムのタイムゾーン、NTP サーバー、DNS サーバー、WAN1 アドレスを設定する
- 少なくとも 1 つのサービスゾーンの LAN アドレス範囲を構成し、その認証を有効にする。
- 有効なサービスゾーンで、有線回線を介してログインページをテストするためのユーザーアカウントを作成する。
- オンデマンドユーザーを生成し、アカウントをテストする。
- サービスゾーンのワイヤレス設定を構成し、AP を追加する。
- アプリケーションに応じて必要なサービスゾーンを構成する。
- グループとポリシー（ファイアウォールルールとセッション制限を含む）を設定する。
- ポータルログインページをカスタマイズし、必要に応じてウォールド・ガーデンの広告リンクを追加する。
- 必要に応じて、オンデマンドアカウントに対してエンドユーザーのクレジットカードによる自己支払を許可するように支払いゲートウェイを設定する。
- 操作前に Web サーバーの SSL 証明書をロードする。
- 生成されたステータスページとレポートを監視する。
- 他の特定のアプリケーションに対してその他の詳細設定を行う。

1.5.1 共通設定

標準ネットワークで最も一般的に配置されるシナリオについては、第 3 章～7 章を参照してください。

第 3 章～7 章には、一般的なネットワーク環境で最も一般的に使用される機能を含む構成トピックが含まれています。ユーザーは、第 3 章から始め、第 7 章まで進めることが推奨されます。

1.5.2 詳細設定とアプリケーション

第 8 章～10 章では、セキュリティ、システムメンテナンス、および監視について説明します。これらの内容は、必要な機能を正常に構成し、ネットワークが起動して実行された後の操作に役立ちます。

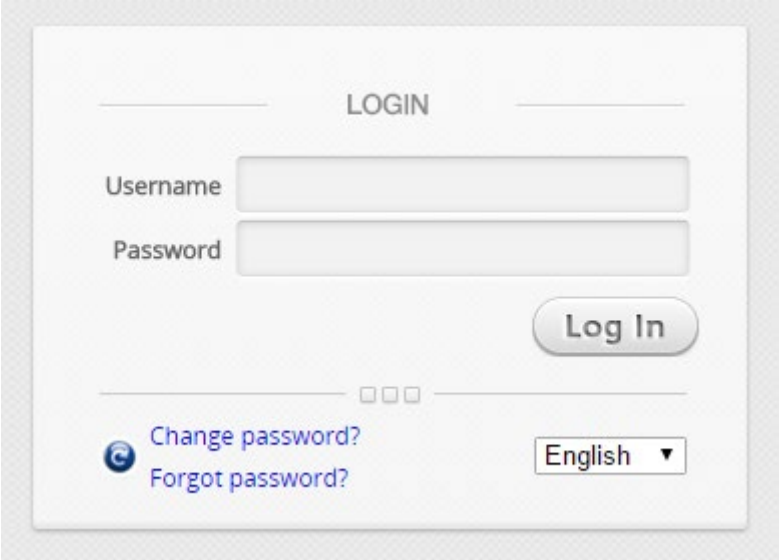
特定のアプリケーション、サードパーティのデバイスとの統合、カスタマイズなどのニ

ーズがあるお客様は、高度な機能の設定については、**第 11 章**以降を参照してください。

第2章　WMI とセットアップウィザード

2.1.　Web 管理インターフェース

EWS コントローラの Web 管理インターフェース（WMI）は、デフォルトの IP アドレスである **192.168.1.254** で LAN インターフェースに接続された任意の PC の Web ブラウザ（Firefox、Chrome、Safari 推奨）を介してアクセスすることができます。

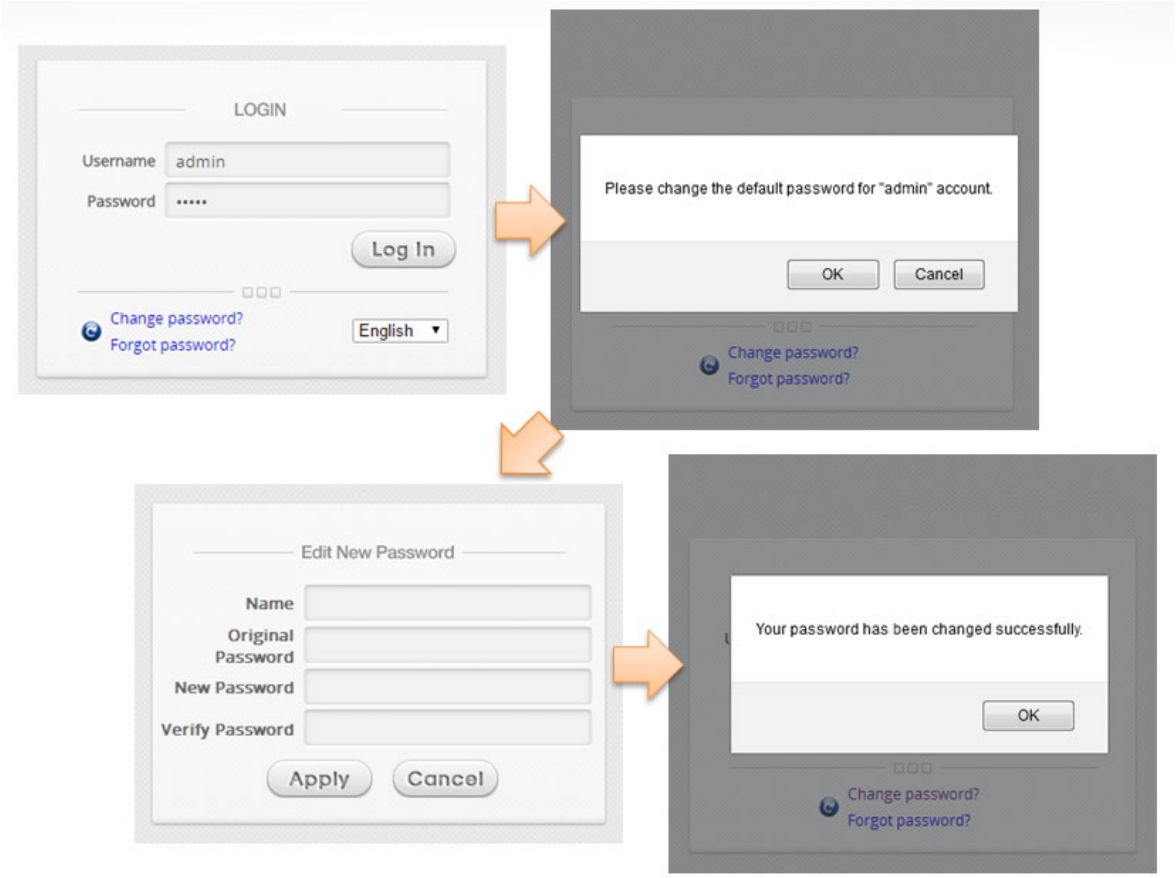


デフォルトの管理者アカウントとパスワードは次のとおりです。

- ユーザー名：「admin」
- パスワード：「admin」

最初のログイン時に、システムセキュリティを強化するためにパスワードを変更するよう管理者に要求します。パスワードは 6 文字以上で、アルファベットと数字を少なくとも 1 つ含める必要があります。

管理者アカウントの設定の詳細については、付録 F のパート E を参照してください。



ダッシュボードページは、管理者ログインに成功すると以下のようになります。

メモ

1. ログアウトするには、インターフェースの右上隅にある ***Logout*** アイコンをクリックしてログイン画面に戻ります。

2.2　ウィザードの実行

セットアップウィザードには、最小限の構成でネットワークのセットアップと運用に不可欠な一連の構成手順が用意されています。

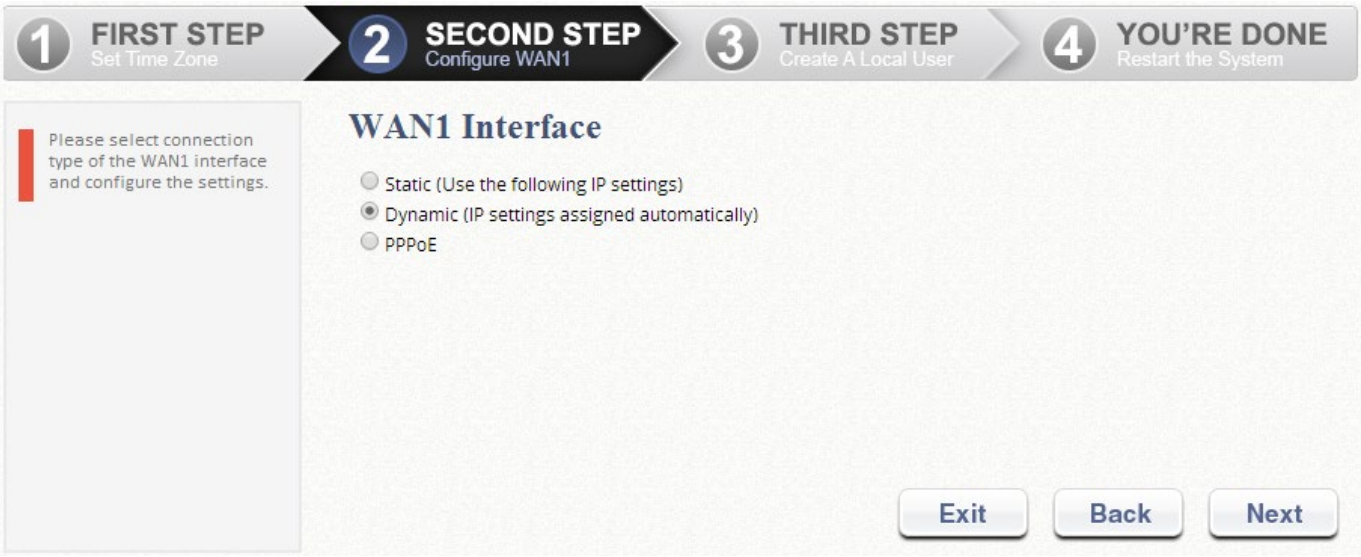
セットアップウィザードを使用して EWS をすばやく構成するには、WMI ホームページの右上隅にある **Setup Wizard** ボタンをクリックして、構成プロセスを開始してください。

ステップ 1 一般設定

- **Time Zone** のドロップダウンリストから適切なタイムゾーンを選択する。
- **Next** をクリックして続行する。

ステップ 2WAN1 ポートの接続タイプを選択

- 次の 3 種類の WAN 接続から選択：**静的 IP アドレス**、**動的 IP アドレス**、および **PPPoE クライアント**。適切なインターネット接続タイプを選択する。以下は、動的 IP 接続の使用例を示す。
- ***Next*** をクリックして続行する。
- **静的 IP アドレス**または **PPPoE クライアント**の場合は、画面の指示に従う。

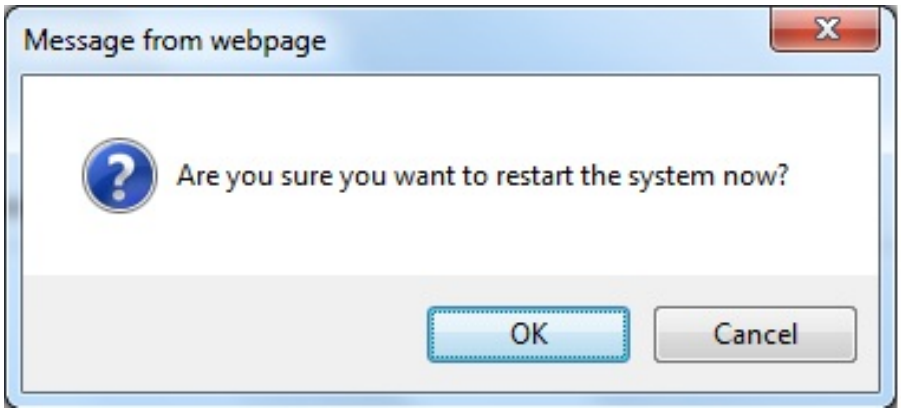


ステップ 3 ローカルユーザーアカウントの追加（オプション）

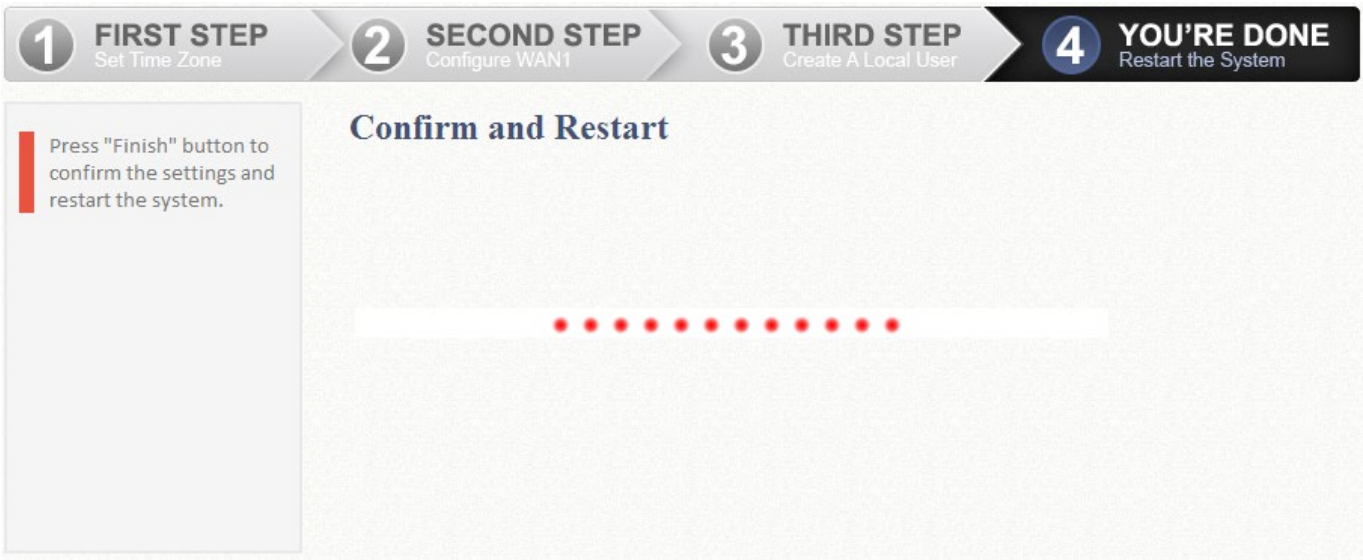
- 新しいユーザーをローカルユーザーデータベースに追加できる。ここにユーザーを追加するには、***ユーザー名***（例：testuser）、***パスワード***（例：testuser）を入力し、***適用されたグループ***をこの特定のユーザーに割り当てる（またはデフォルトの**グループ 1** を使用する）。
- ***Next*** をクリックして続行する。

ステップ 4EWS の確認と再始動

- ***Finish*** をクリックして現在の設定を保存し、システムを再始動する。
- 確認のダイアログボックスが表示される。**OK** をクリックして続行する。

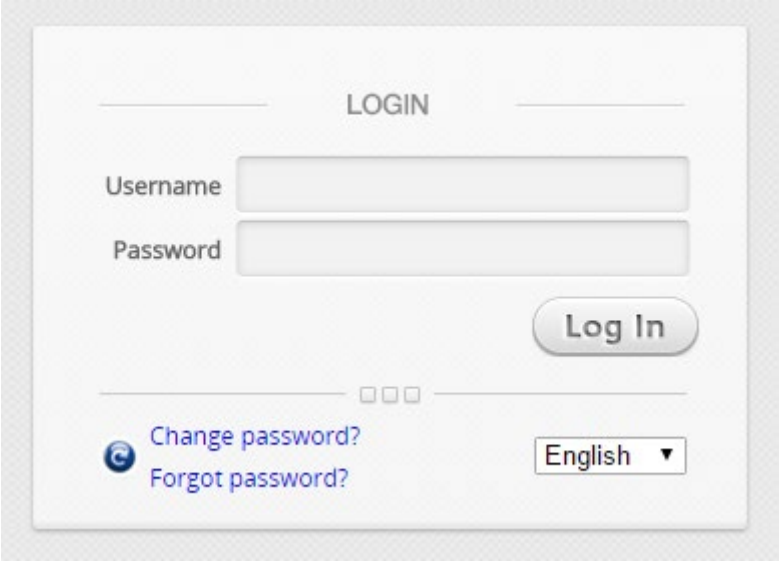


➤ 再起動プロセス中に、**確認と再始動**のメッセージが画面に表示される。管理者ログインページが表示されるまで、システムを中断しないでください。



<u>再始動プロセスが完了したことを示す管理者ログインページが再び表示されるまで</u>、EWS の再始動プロセスを中断しないでください。

再始動プロセスが完了しました。



第3章　基本ネットワーク設定

3.1.　ネットワーク計画

Edgecore EWS コントローラを設置する前に、ネットワークリソースを最も効率的に利用してネットワークのニーズを満たすために、慎重なネットワーク計画が必要です。組織の IT スタッフは、利用可能なネットワークリソースを評価し、回復力、容量、生存性を念頭に置いて、適切なネットワークトポロジを設計する必要があります。

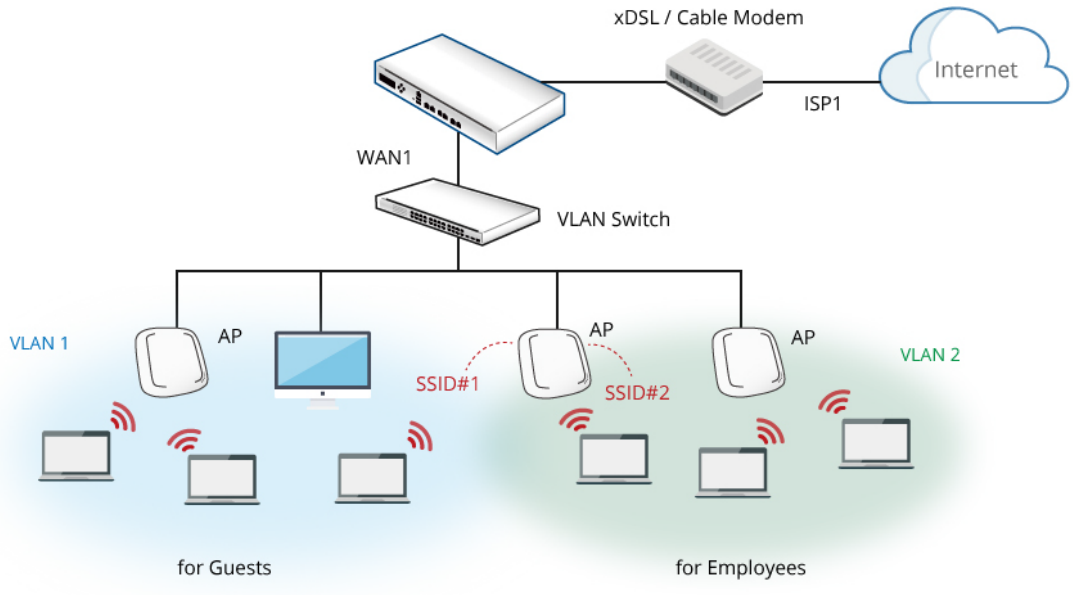
通常、今日の組織ネットワークは、管理可能な有線 LAN と無線 LAN（場合によってはリモート LAN）を組み合わせたものです。ほとんどの配置ニーズを満たすように設計されており、Edgecore EWS コントローラがサポートしているネットワークトポロジは、主に次の 2 つのカテゴリに分かれています。

1）レイヤ 2 トポロジ

2）レイヤ 3 トポロジ

レイヤ 2 トポロジ

このネットワークトポロジは、オフィスビル、ホテル、学校施設などの限られた物理的エリアにネットワークサービスを提供するために、有線および無線機能で構成されたマネージドローカルエリアネットワーク（LAN）を構築することを目的としています。



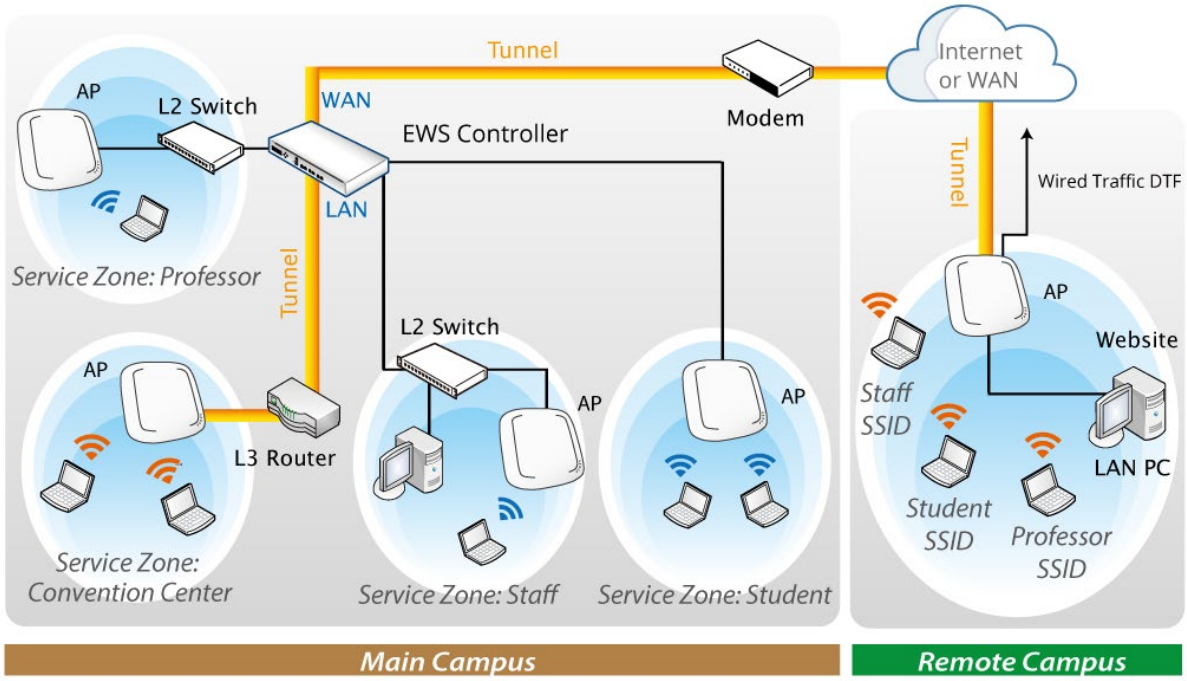
【レイヤ 2 トポロジのグラフィック図】

レイヤ 2 ネットワーク設計ガイドライン

- 常に階層的に接続する。建物内に複数のスイッチがある場合は、集約スイッチを使用する。
- 集約スイッチをネットワークコア（メインフレームハウジングなど）の近くに配置する
- エッジスイッチをユーザーの近くに配置する（例：フロアごとに 1 つ）

レイヤ 3 トポロジ

このネットワークトポロジは、企業ビル、ホテルチェーン、大学キャンパスなどのローカルおよびリモートの物理エリアにネットワークサービスを提供するために、有線および無線機能で構成されたマネージドローカルエリアネットワーク（LAN）を構築することを目的としています。



【レイヤ 3 トポロジのグラフィック図】

レイヤ 3 ネットワーク設計のガイドライン

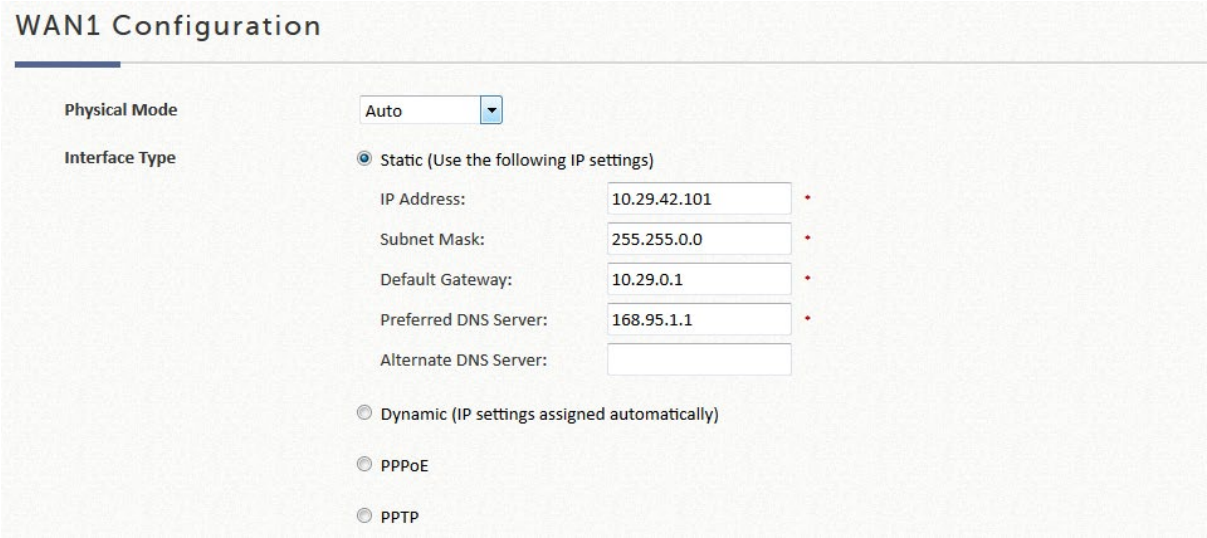
- ローカル LAN でもリモート LAN でも、常に階層的に接続する。建物内に複数のスイッチがある場合は、集約スイッチを使用する。
- 集約スイッチをネットワークコア（メインフレームハウジングなど）の近くに配置する
- エッジスイッチをユーザーの近くに配置する（例：フロアごとに 1 つ）
- リモートサイトのデバイス（Edgecore AP または Edgecore EWS コントローラ）のアップリンクは、メイン EWS コントローラの WAN IP アドレスと同じサブネット内にパブリック IP アドレスまたは IP アドレスを持つ必要がある。

3.2. アップリンク（WAN 側）の構成

3.2.1 WAN 設定

設定パス：Main Menu >> System >> WAN

WAN ポートは、Static、Dynamic、PPPoE および PPTP の 4 つの接続構成をサポートしています。これらの接続タイプは、ほとんどの ISP をサポートするのに十分です。**Physical Mode** ドロップダウンリストでは、管理者は WAN 接続の速度と二重を選択できます。自動ネゴシエーションがオンの場合、システムはインターフェースに接続されたシステムとデバイスの両方がサポートする最高性能の伝送モード（速度/二重/フロー制御）を選択します。



WAN ポートが接続している ISP のインターフェースデバイスに応じて、適切な接続タイプを選択する必要があります。例えば、ISP が動的アドレスを発行するケーブルモデムである場合は、**Dynamic** 接続を選択します。

Static： WAN ポートの IP アドレスを手動で指定します。赤いアスタリスクの付いたフィールドは、入力する必要があります。
Dynamic：DHCP サーバーがアップストリームネットワークで利用可能なネットワーク環境にのみ適用されます。IP アドレスを自動的に取得するには、***Renew*** ボタンをクリックしてください。

PPPoE：ISP が PPPoE ダイヤルアップ接続を提供している場合、ISP はパスワード付きのアカウントを発行します。ISP にダイヤルアップするには、WAN 構成ページでアカウント資格情報を入力する必要があります。

PPTP：一般的な方法ではありませんが、ダイヤルアップ接続用の PPTP プロトコルは、いくつかの ISP（ヨーロッパ諸国）で採用されています。PPTP ISP は、パスワードと PPTP サーバーのアドレスを持つアカウントを発行します。

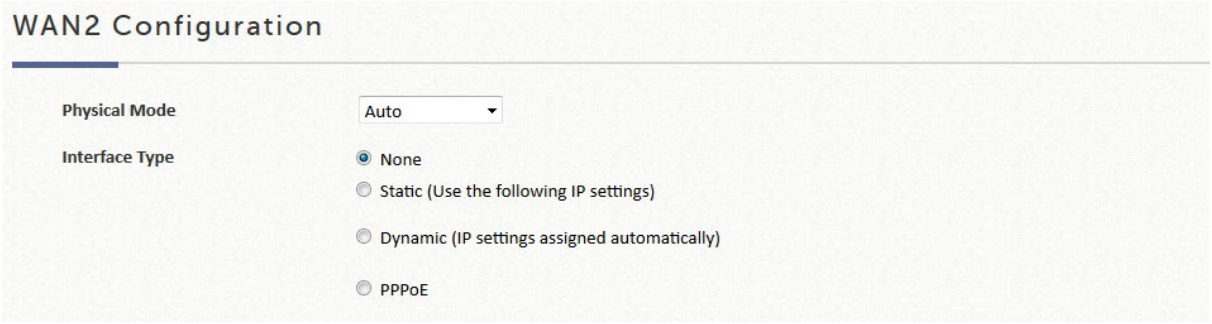
メモ

1. 不明な場合は、契約しているアップリンクサービスの詳細について ISP プロバイダにお問い合わせください。

3.2.2. デュアルアップリンク

EWS コントローラは、ロードバランシングとフェイルオーバーをサポートするために 2 つの WAN ポートを備えています。WAN1 接続が確立されると、サービスに対して WAN2 を有効にすることができます。

2 つ目のインターネットフィードを使用する場合は、WAN2 ポートに適用可能な 3 つの接続タイプのいずれかを選択してください。つまり、**Static**、**Dynamic**、**PPPoE** から選択してください。WAN2 ポートの物理モードを選択できます。



Static： WAN ポートの IP アドレスを手動で指定します。赤いアスタリスクの付いたフィールドは、入力する必要があります。

Dynamic：DHCP サーバーがアップストリームネットワークで利用可能なネットワーク環境にのみ適用されます。IP アドレスを自動的に取得するには、***Renew*** ボタンをクリックしてください。

PPPoE：ISP が PPPoE ダイヤルアップ接続を提供している場合、ISP はパスワード付きのアカウントを発行します。ISP にダイヤルアップするには、WAN 構成ページでアカウント資格情報を入力する必要があります。

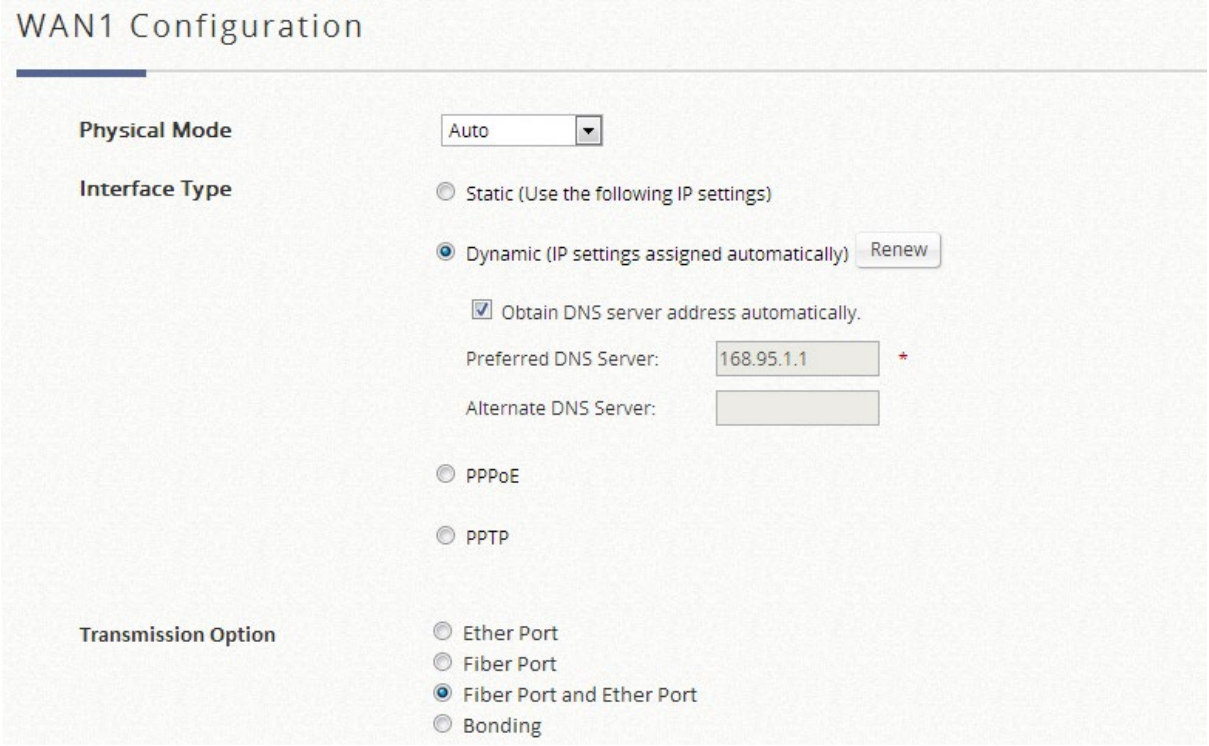
メモ

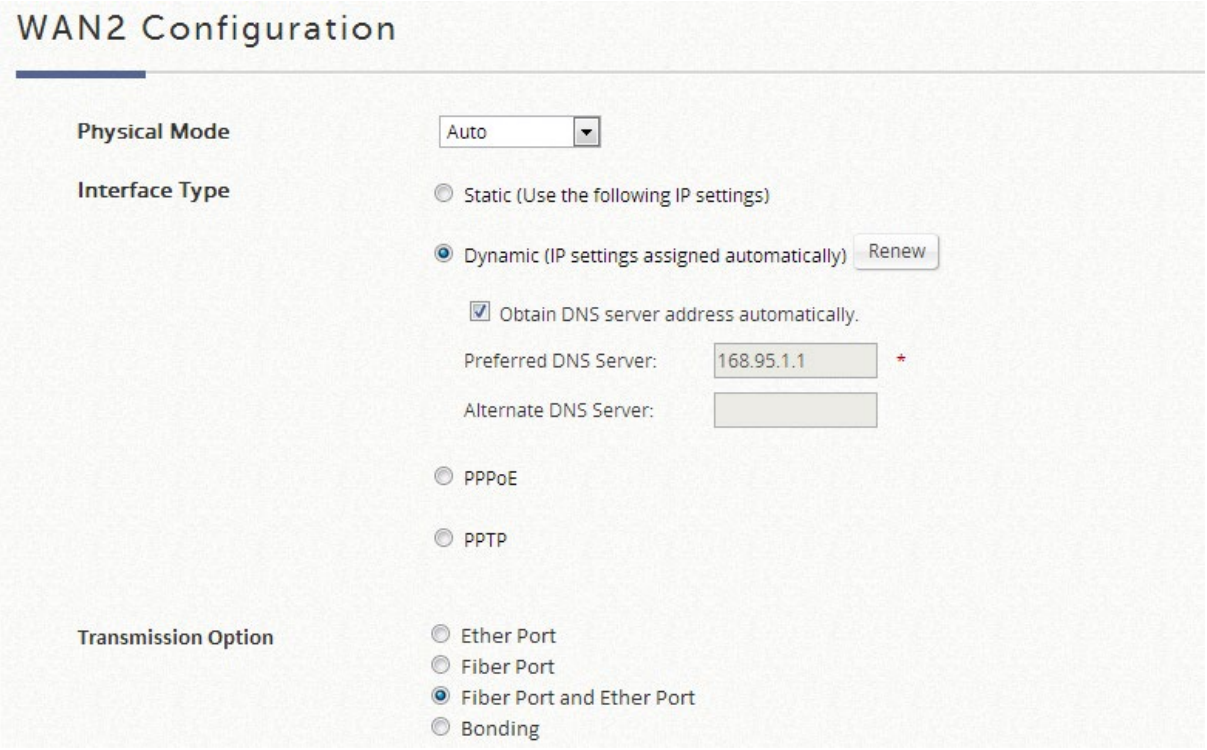
1. 不明な場合は、契約しているアップリンクサービスの詳細について ISP プロバイダにお問い合わせください。
2. WAN ロードバランシングおよび WAN フェールオーバー機能は、WAN2 を構成した場合にのみ使用できます。

3.2.3. デュアル WAN1/WAN2 モデル用の WAN ポート選択

EWS コントローラモデル EWS5204 以上は、WAN1 と WAN2 にそれぞれ SFP ポートとイーサネットポートを搭載したキャリアグレードモデルです。管理者は、どの物理ポートを WAN1 または WAN2、イーサネットポート、SFP ポート、イーサネットと SFP ポート、または集約されたスループットでボンディングされるポートとして配置するかをさらに決定できます。

設定パス：Main Menu >> System >> WAN





配置オプションは次のとおりです。

- **Ether Port**：サービス用に銅線イーサネット WAN ポートを配置します。
- **Fiber Port**： サービス用の SFP ポートを配置します。
- **Fiber Port and Ether Port**：ファイバポートとイーサネットポートの橋渡しをします。物理的には、SFP ポートまたはイーサポート経由で 1 つのアップリンクだけを接続します。
- **Bonding**：サービス用に SFP ポートと銅線イーサネットポートの両方を配置します。このオプションは、2 つの接続を集約し、集約されたスループットが高くなります。

3.2.4. WAN トラフィック制御

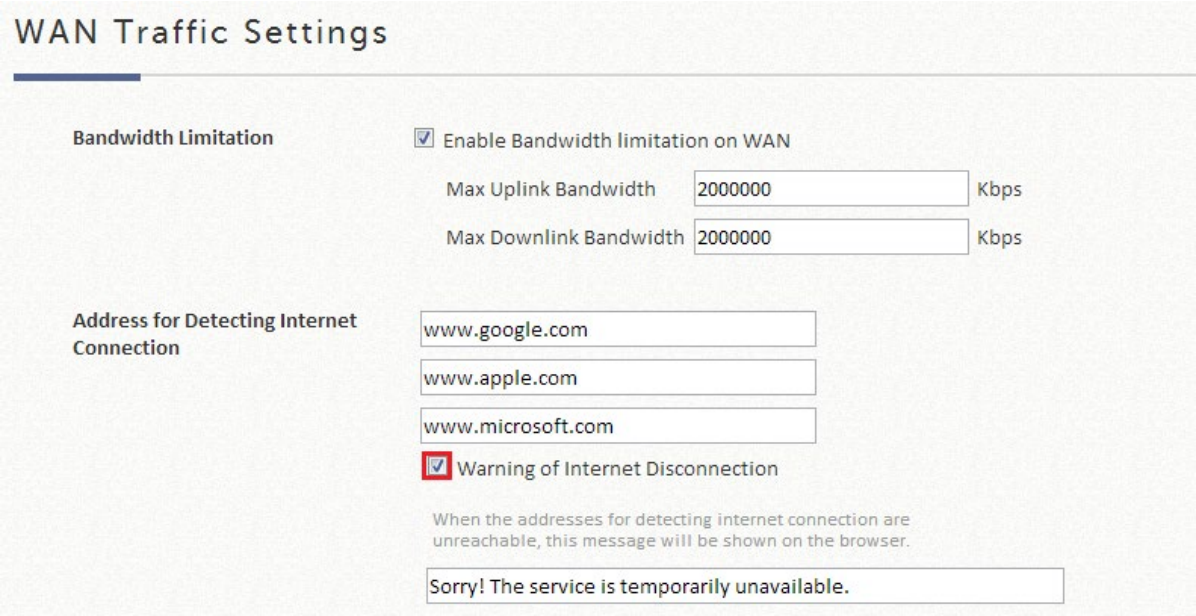
ここで構成するアップリンク帯域幅とダウンリンク帯域幅は、WAN1 および WAN2 を含む WAN インターフェースの合計帯域幅です。ただし、実際の帯域幅は、ISP オペレータのネットワーク速度によって制限されることに注意してください。例えば、ISP のネットワーク速度が 1 Gbps に制限されている場合、コントローラで 2 Gbps を設定しても、このような制約の下でのスループットの合計は 1 Gbps を超えることはできません。

3.2.5. アップリンク検出とフェイルオーバー

アップリンク検出

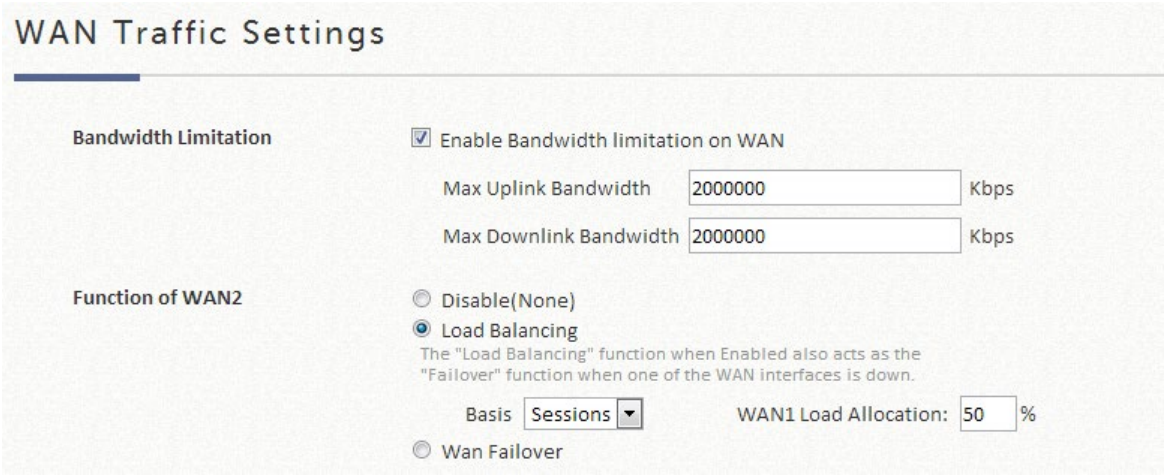
WAN インターフェースが有効なアップリンク接続で構成されている場合、管理者はアップリンクサービスが生きているかダウンしているかを検証するために、検出対象として最大 3 つのアウトバウンドサイトを指定できます。コントローラは定期的にアップリンクのステータスをチェックします。

警告メッセージテキストのフィールドは、管理者がカスタマイズできます。このフィールドは、3 つの検出対象がすべて応答しなかった場合にユーザーの Web ブラウザに表示されます。



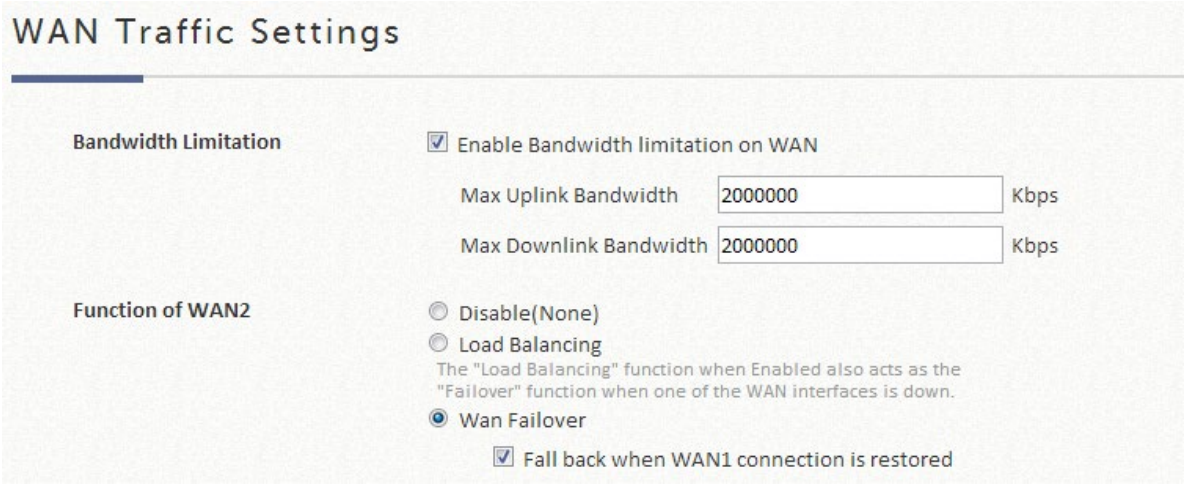
ロードバランシング

管理者は、セッション、バイト、またはパケットを使用して計算された負荷の割合に基づいて、システムトラフィックを WAN1 および WAN2 ポートに分散させることができます。



WAN フェールオーバー

有効にすると、WAN1 がダウンするたびに、WAN2 は WAN1 によって処理されたトラフィックを処理します。ネストされたオプションが選択されている場合、WAN1 リンクが再び立ち上がると、サービスは WAN1 リンクに戻されます。この機能は、ロードバランシングと同時に使用することはできません。



メモ

1. WAN フェールオーバー機能は、ロードバランシング機能と同時に有効にすることはできません。

3.3. ダウンリンク（LAN 側）VLAN オプション

EWS コントローラのダウンリンクは、基本的にサービス用に配置された管理対象ネットワークです。EWS コントローラの LAN ポートに接続されたネットワークには、次の 2 種類の配置モードがあります。ポートベースモードとタグベースモードです。

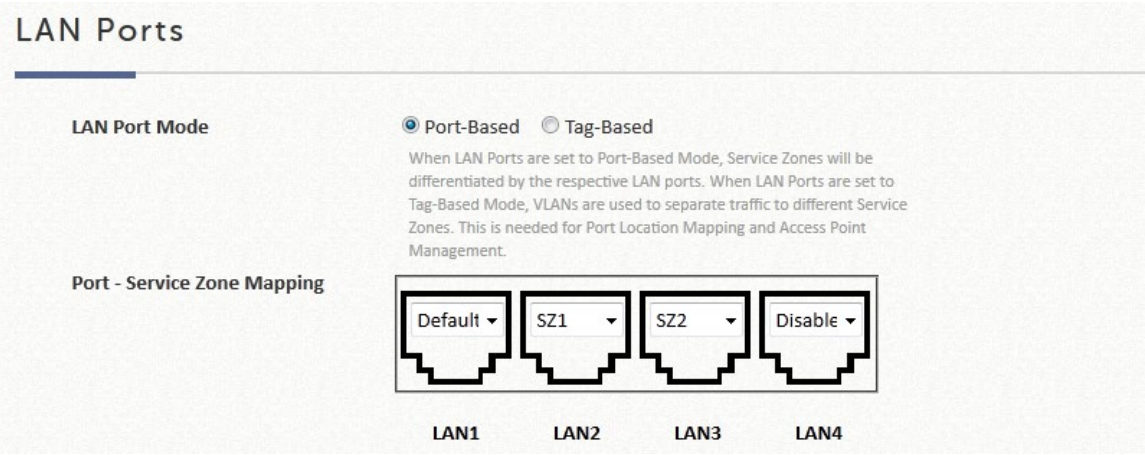
メモ

1. HA 機能が**有効**になっている場合、LAN1 は専用の HA ポートに変換され、どのサービスゾーンにもサービスを提供できなくなります。
2. VEWS-Series コントローラーは、Tag-Based Service Zone のみサポートしています。

設定パス：Main Menu >> System >> LAN Ports

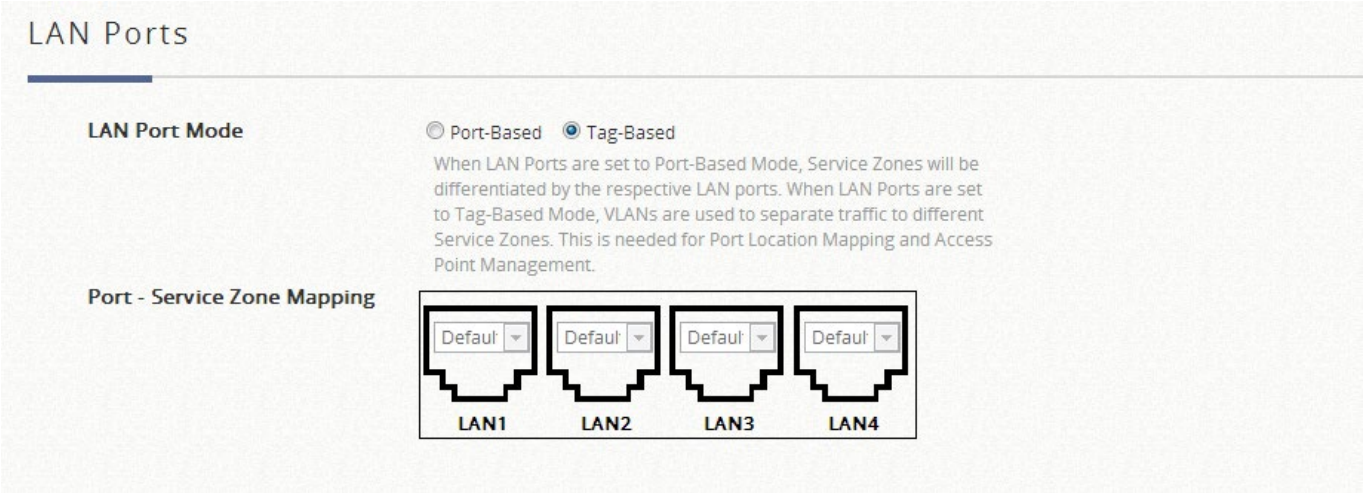
3.3.1. ポートベースのサービスゾーン

ポートベースモードは、各物理 LAN ポートを有効なサービスゾーンにマッピングするか、サービスの提供を無効にするという原則で動作します。したがって、ポートベースモードでの動作は、実際にサービスを提供するために利用可能なサービスゾーンの最大量は、コントローラ上の LAN ポートの数によって決まります。



3.3.2. タグベースのサービスゾーン

タグベースの動作モードは、異なるサービスゾーンが VLAN ID によって識別されるという原則の下で動作します。つまり、タグベースの動作により、各物理 LAN ポートは、有効なサービスゾーンのトラフィックを受け入れることができます。トラフィック処理は、パケットが伝送する VLAN ID トラフィックに応じて内部的に処理されます。



第4章　ユーザー認証データベース

4.1.　認証データベースの構成

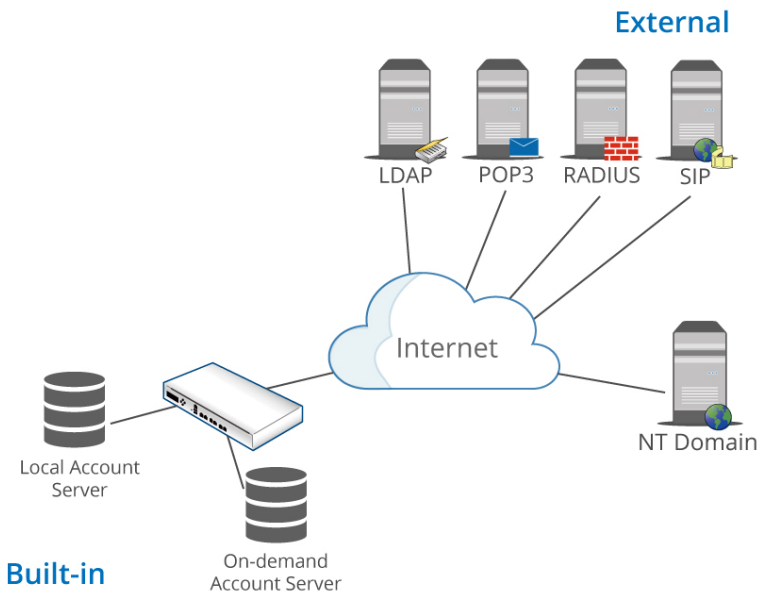
認証データベースは、ユーザーの資格情報の有効性を照会できるストレージデバイスです。サービスゾーンで有効な認証にユーザーが関連付けられている場合、Edgecore EWS コントローラは、ユーザーがネットワークアクセスを取得するために送信されたユーザーID とパスワードの組み合わせが存在するかどうかについて、データベースをチェックします。Edgecore EWS コントローラは、組み込みおよび外部認証データベースをサポートしています。
すべての認証オプションは以下のとおりです。

組み込み認証オプション

ローカル：組み込みのローカルデータベースにユーザーの資格情報が格納されています。
オンデマンド：組み込みのオンデマンドデータベースにユーザーの資格情報が格納されています。
ゲスト：ユーザーがログインページ上の任意の指定の ID トークンを使用してネットワークにアクセスできるようにするアクセスオプションです。
ワンタイムパスワード：SMS によって送信されたパスワードでユーザーがネットワークにアクセスできるようにするアクセスオプションです。このパスワードは、1 つのログインセッションでのみ有効です。

外部認証オプション

これらのオプションは、外部サーバーを使用して認証プロセスを実装します。Edgecore EWS コントローラは、最も一般的な外部認証オプションをサポートしています。それは、
RADIUS、LDAP、NT ドメイン、POP3、SIP、ソーシャルメディアです。



【EWS コントローラに関連する認証データベースの図】

Authentication Options

Auth. Option	Auth. Database	Postfix	Default	Enabled
Server 1	LOCAL	local	◉	☑
Server 2	RADIUS	radius	○	☑
Server 3	NTDOMAIN	ntdomain	○	☑
Server 4	LDAP	ldap	○	☑
Server 5	POP3	pop3	○	☑
On-Demand	ONDEMAND	ondemand	○	☑
SIP	SIP	N/A	○	☐
Guest	FREE	N/A	○	☐
Social Media Login	SOCIAL	N/A	○	☐
One Time Password	OTP	N/A	○	☐

内部認証と外部認証の認証オプションの設定は別々に行われます。5 つの外部認証サーバー（RADIUS、POP3、LDAP、NT ドメイン、SIP）はカスタマイズ可能で、同時に有効にできます。

メモ

1. 認証オプションは、各サービスゾーンプロファイルでユーザーを認証するために選択的に有効または無効にすることができます。

4.2.組み込み認証データベース

設定パス：Main Menu >> Users >> Internal Authentication

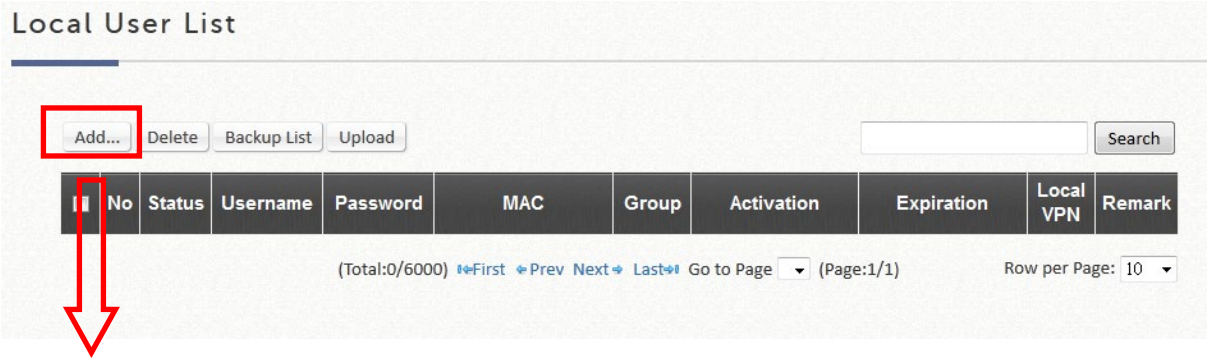
4.2.1.ローカルユーザーデータベース

このタイプの認証方法は、ユーザー、多くの場合、スタッフと資格情報を内部的に格納するローカルデータベースをチェックします。ローカルユーザーデータベースは、管理者が手動で実行しない限り、削除されない静的アカウントを保存するように設計されています。

設定パス：Main Menu >> Users >> Internal Authentication >> Local >> Local User List

アカウント生成

Add User をクリックして、1 つまたは複数のアカウントを作成してください。



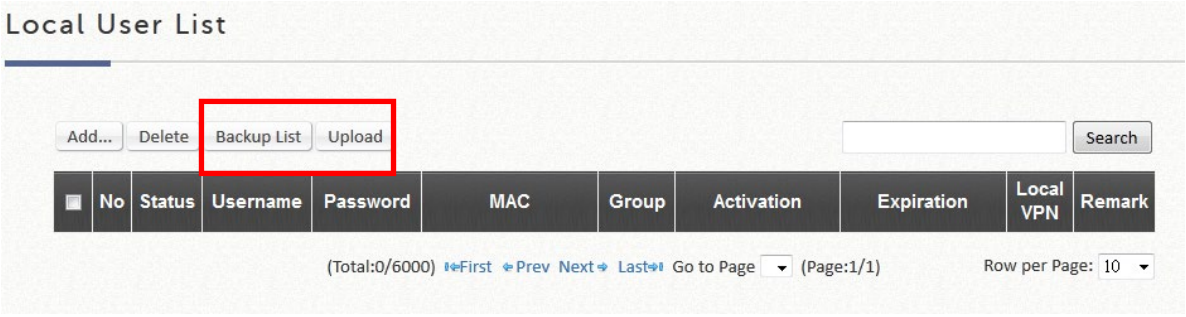
Username	Password	MAC Address	Group	Local VPN	Account Span	Remark
example	●●●●●●●		Group 1			
			Group 1			
			Group 1			
			Group 1			

メモ

1. 赤いアスタリスクの付いたフィールドは必須フィールドであり、その他のフィールドはオプションです。
2. **MAC Address** フィールドが設定されると、指定されたデバイスを使用してのみアクセスを許可できるという条件の下で、この特定のアカウントがバインドされます。
3. **Group** フィールドでは、作成するアカウントのグループプロファイルを指定します。
4. **Remark**（備考）は、管理者が強調したい追加のメモのためのものです。これは、ユーザーリストに表示されます。
5. **Enable Local VPN** チェックボックスをチェックして、アカウントとコントローラを使用してデバイス間に安全な VPN トンネルを構築できます。
6. **Expiration**（有効期限）は、**the Account Span** オプションがチェックされている場合に、このアカウントに強制されるオプションの時間制約です。これは、**複数のログイン**を補完して使用する場合に便利な属性です。例えば、セミナーのイベント中など、特定の時間だけグループのユーザーにネットワークアクセスを提供するのに理想的です。
7. Username や Password の長さは 1～64 文字になります。使える文字は、「0~9」、「A~Z」、「a-z」、「.」、「-」、「_」だけになります。

アカウントのインポートとエクスポート

ローカルユーザーデータベースでは、アップロード機能とダウンロード機能を使用して、ユーザー資格情報をインポートおよびエクスポートできます。ダウンロードファイルは、新しいブラウザウィンドウに表示される csv 形式のテキストファイルになり、管理者は「名前を付けて保存」を実行して、将来の使用のために PC ストレージ内のユーザーアカウントをバックアップすることができます。アップロード操作は、バックアップされた txt ファイルを参照して行い、アカウントをローカルユーザーデータベースにインポートして戻します。

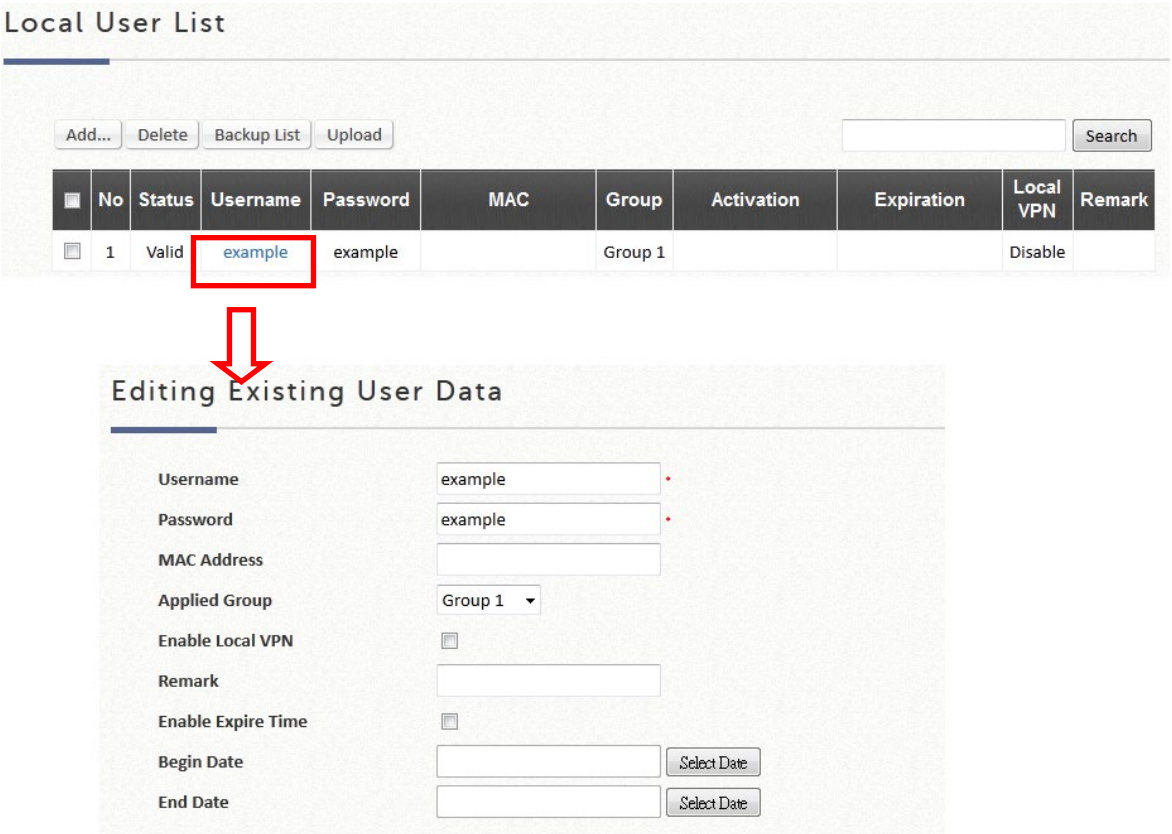


メモ

1. 生成された txt ファイルは、すべてのモデルで定義された csv 形式が一貫しているため、すべての EWS コントローラシリーズで相互に使用することができます。
2. アカウントが重複すると、アップロードに失敗し、警告メッセージが表示されます。

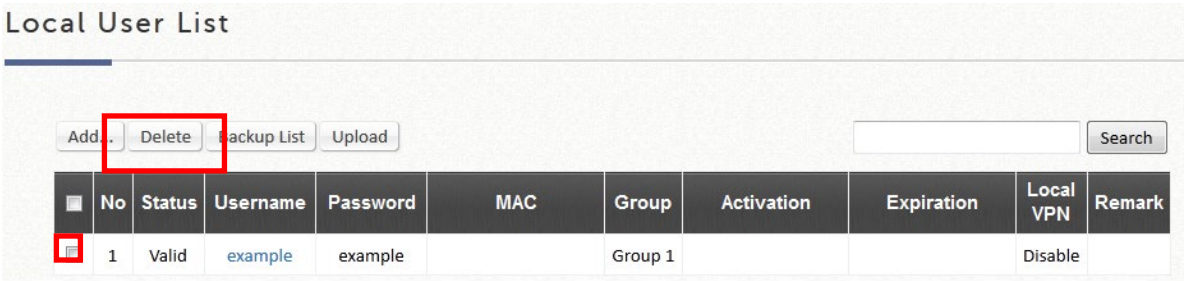
アカウント資格情報の変更

既存のユーザーアカウントの場合、ページ上のユーザー名のハイパーリンクをクリックするだけで、アカウント属性を再設定し、さらに変更を加えることができます。



アカウントの削除

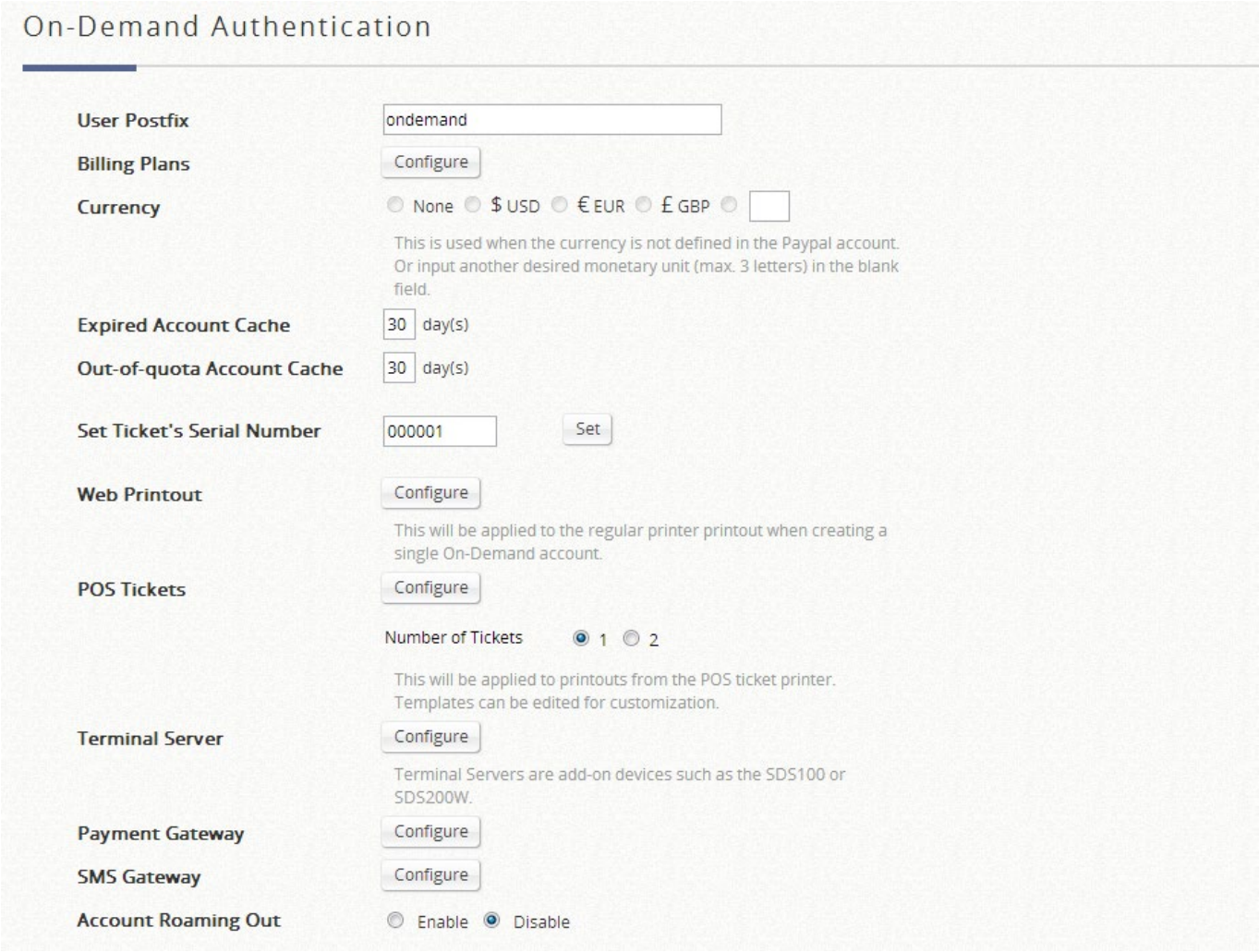
ローカルユーザーデータベースのアカウントは、個別に削除でき、または「すべて選択」チェックボックスを選択することで、全部に削除することもできます。アクションを実行することを確認するポップアップウィンドウが表示されます。



4.2.2.オンデマンドユーザーデータベース

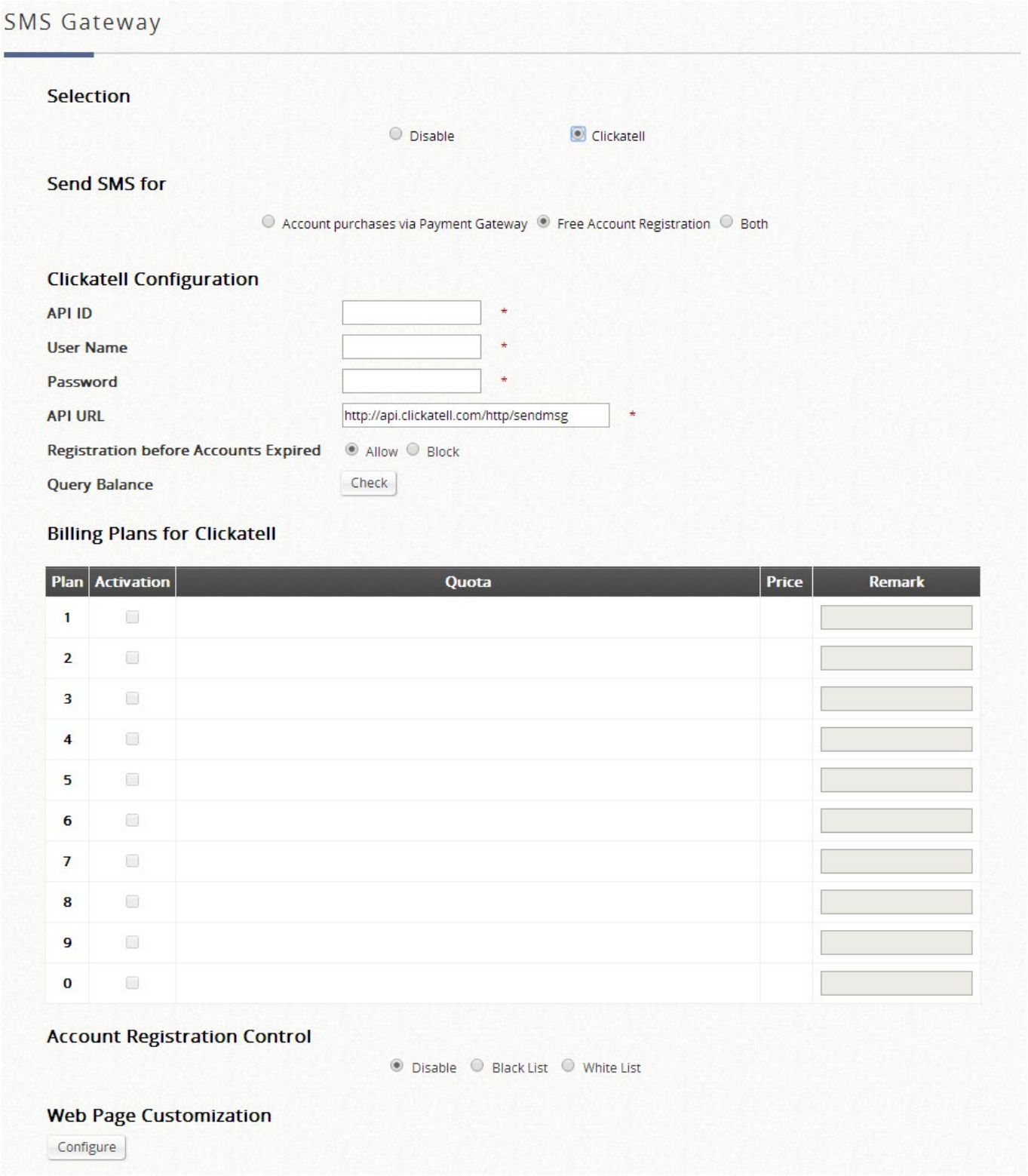
オンデマンドユーザーデータベースは、時間またはトラフィック量の制約があるゲストユーザーアカウントのプロビジョニング用に設計されています。ホテル、ホットスポット会場、企業の訪問者受付などの配置ニーズに最適です。オンデマンド認証オプションは、カスタマイズのための多くのオプションを提供します。POS チケットはビジネスニーズに合わせてカスタマイズできます。また、EWS コントローラでは複数の支払いオプションを利用できます。

設定パス：Main Menu >> Users >> Internal Authentication >> On-Demand



オンデマンドアカウント設定

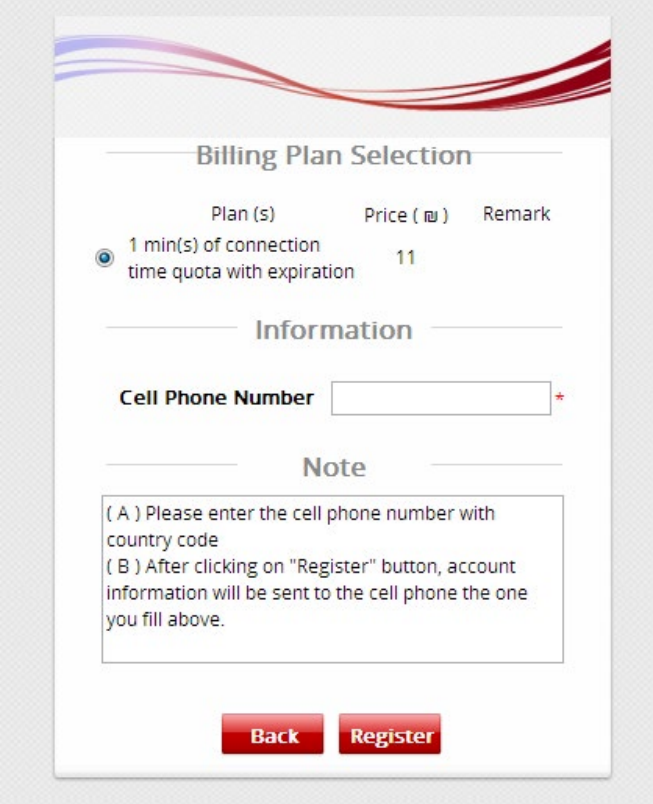
1. オンデマンドアカウントデータベースの**一般設定**は、このページで設定できます。一般設定には、POS/Web チケットのカスタマイズ、支払いゲートウェイオプションなどが含まれます。チケットプリンター（EC-PP200 など）がアカウント生成用に配置されている場合は、ターミナルサーバー構成で IP とポートを構成することを忘れないでください。EWS コントローラは、Clickatell SMS サーバーと連携して、オンデマンドアカウントの資格情報を SMS メッセージでユーザーに送信することができます。



Clickatell アカウントのユーザー名/パスワードのセットを使用すると、オンデマンドアカウントの作成時に SMS メッセージを送信するように SMS ゲートウェイを構成できます。SMS サービスは、無料アクセス、支払いゲートウェイ統合による有料アクセス、またはその両方に使用できます。API ID を定義し、必要な請求プランをアクティブにしてください。必要に応じて、複数の請求プランをアクティブにするこ

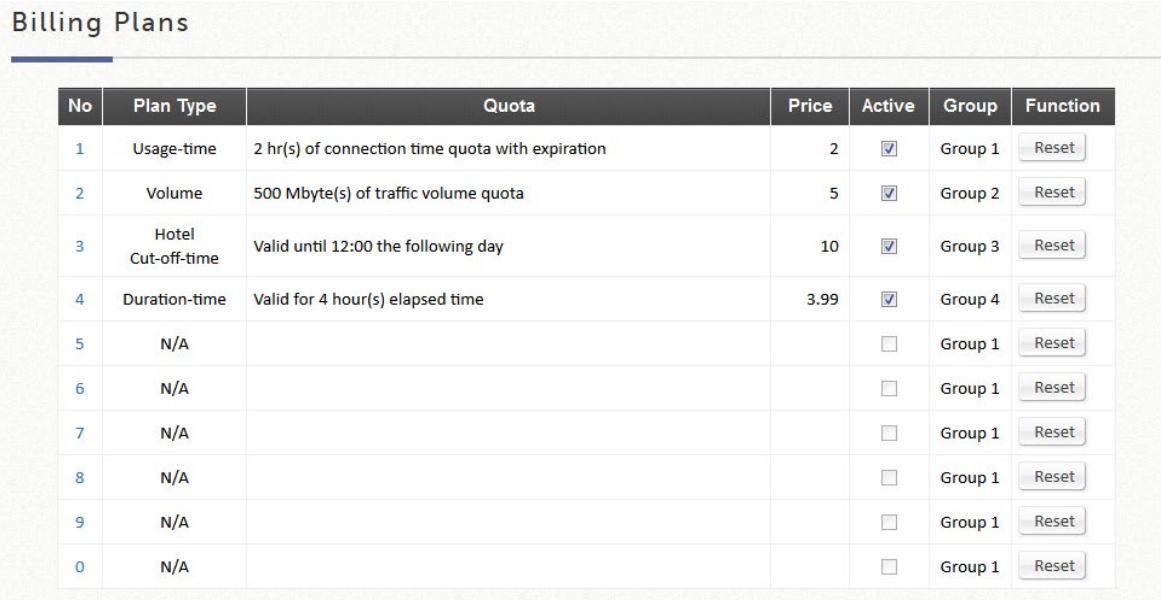
とができます。アカウント生成のための SMS クエリによって SMS ゲートウェイがフラッディングされないようにするには、アカウント登録制御オプションを使用できます。さらに、管理者は、アカウントの有効期限が切れる前にユーザーが新しいアカウントを登録することを許可または禁止するオプションがあります。有効なアカウントが新しいアカウントを要求することをブロックするには、オプションを「有効」に設定してください。

SMS ゲートウェイを有効にすると、請求プラン選択ページが次のように表示されます。



請求プラン選択ページは、必要に応じてカスタマイズできます。

2. **請求プラン**でアカウント使用条件を定義してください。管理者は、最大 10 の請求プランプロファイルを使用し、適切なアカウントタイプを選択して使用条件をカスタマイズできます。各請求プランのユーザーグループプロファイルもここで割り当てられます。



メモ

1. 4 つの主要なアカウントタイプの詳細については、**付録 D** を参照してください。
2. チケットのカスタマイズの詳細については、オンラインヘルプまたはチケットのカスタマイズに関する Edgecore アプリケーションノートを参照してください。

オンデマンドアカウント

設定パス：Main Menu >> Users >> On-Demand Accounts

選択した請求プランを有効にすると、**On-Demand Account Creation**（オンデマンドアカウントの作成）でオンデマンドアカウントの生成が可能になります。オンデマンドアカウントは、個別に作成することも、一括で作成することもできます。

On-Demand Accounts List（オンデマンドアカウントリスト）には、既存のオンデマンドアカウントがすべて表示されます。各アカウントのステータス、クォータなどが表示されます。オンデマンドアカウントのインポート、エクスポート、削除、管理者の引き換えもこのページで実行されます。

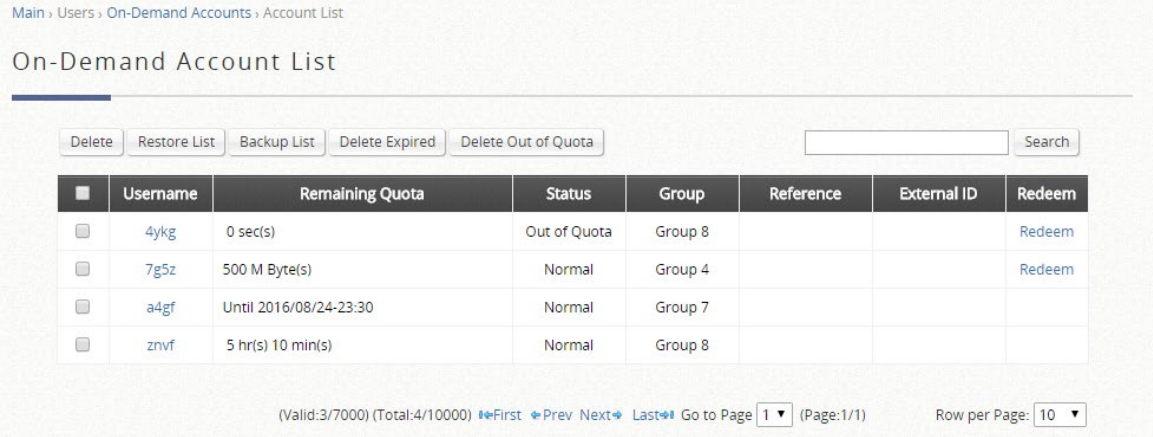
オンデマンドアカウントのステータスは、有効、クォータ切れ、および期限切れとして定義されます。

有効　　= オンデマンドアカウントがアクティブであるか、またはクォータが残って

いる

合計　　= 有効 + クォータ切れ + 期限切れ

また、そのような有効なオンデマンドアカウントおよび総数は、このリストの最後に記載されています。



4.2.3.ゲスト認証オプション

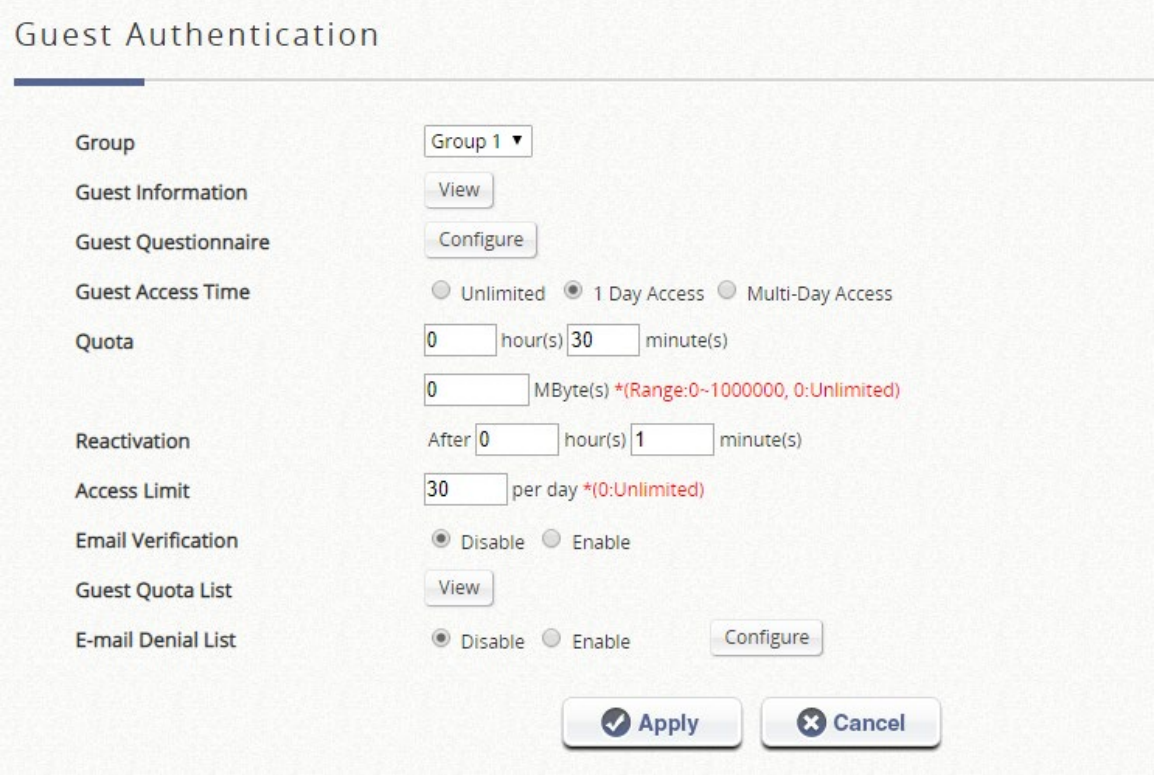
ゲスト認証オプションは技術的にはユーザーデータベースではなく、ユーザーがユーザーアカウントやパスワードなしでネットワークにアクセスして閲覧できるように特別に設計されたオプションです。

この機能により、ユーザーは特定のサービスゾーンに関連付けて、管理者が定義した社会保障番号や電子メールなどのテキスト文字列を入力し、実際の認証なしでネットワークを使用することができます。

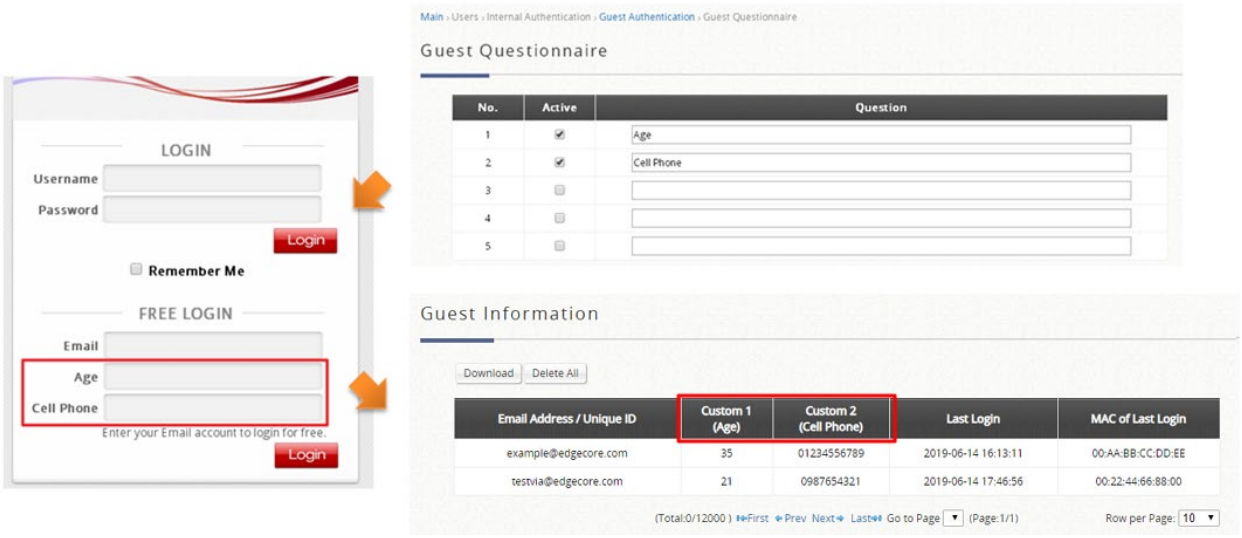
使用条件と使用制約は、ゲスト認証オプションプロファイルで設定できます。

設定パス：Main Menu >> Users >> Internal Authentication >> Guest

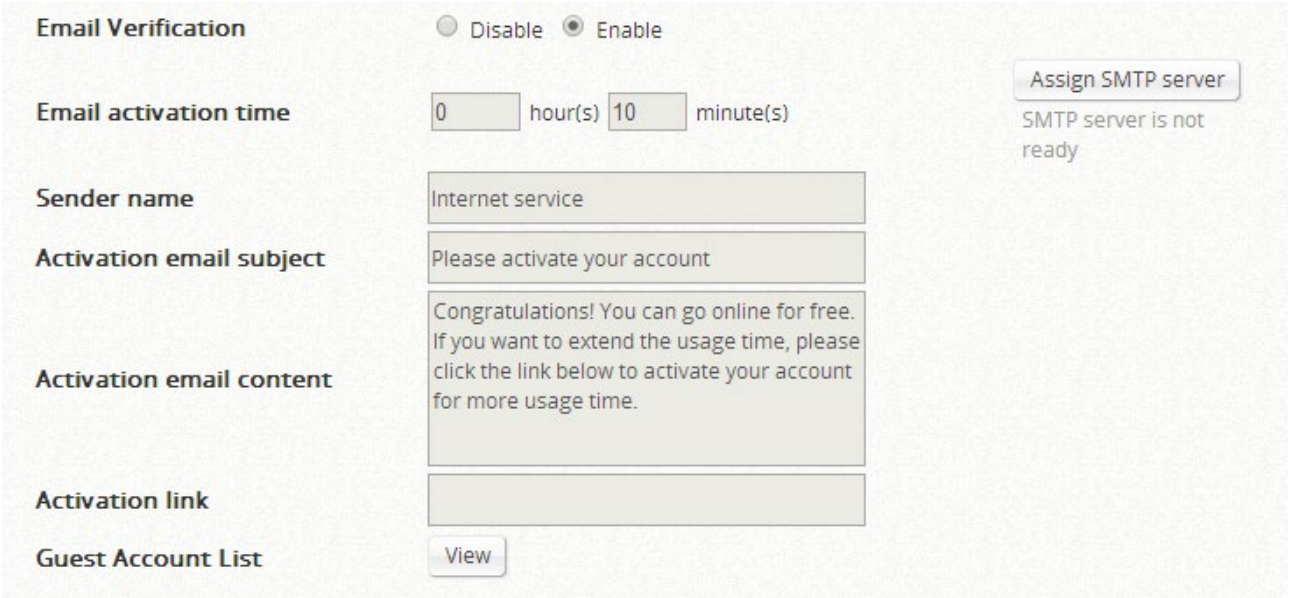
ステップ 1：ゲスト認証プロファイルの設定



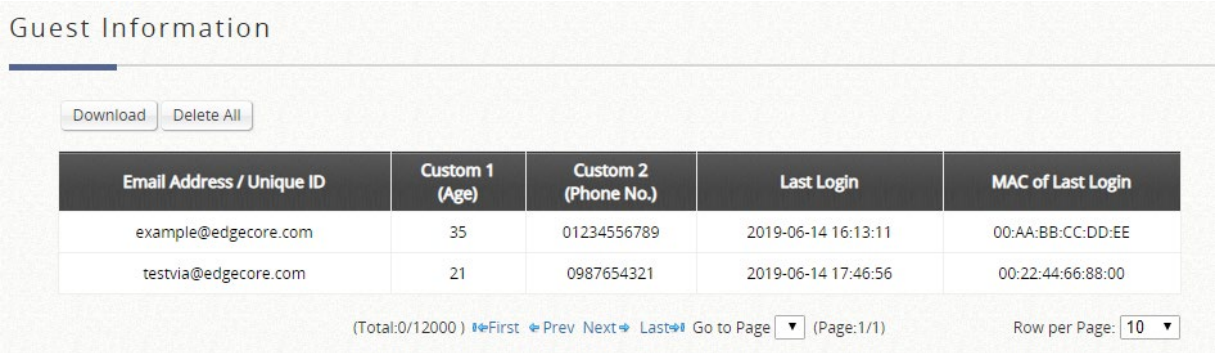
E-mail Denial List（電子メール拒否リスト）は、迷惑メールボックスの防止が必要な場合、電子メールドメインにログイン許可を確認します。**Guest Questionnaire**（ゲストアンケート）は、管理者がゲストログイン用のログインページで追加の質問をカスタマイズできるオプションに提供します。ゲストユーザーからのアクセス情報が収集され、**Guest Information**（ゲスト情報）リストに表示されます。**Guest Access Time**（ゲストアクセス時間）を「制限付き」に設定すると、MAC アドレスに基づいて使用時間の制約が強制されます。**Quota** を 30 分に設定した場合、各デバイスの使用は 30 分しか許可されず、**Reactivation**（再アクティブ化）時間が経過した場合にのみ新しいセッションが可能になります。管理者は、**Access Limit**（アクセス制限）を設定することで、デバイスが 1 日に無料アカウントを要求できる回数を決定することもできます。次に、ゲストユーザーは、ポリシーアプリケーション用に選択されたユーザーグループにマッピングされます。**Guest Quota List** を使用すると、管理者は、アクセスを制限されたゲストアカウントの残りの許容回数を MAC アドレスと電子メールアドレスで確認できます。（毎日午前 0 時に自動的に更新され、最大クォータである 12000 に達すると、最も古いエントリは削除されます。）



Email verification（E メールの検証）により、入力された電子メールが有効な電子メールアドレスであることが確認されます。このオプションを有効にすると、アクティベーション時間がクライアントに割り当てられます。その後、クライアントはメールサーバーから送信されたメール内のリンクをクリックすることで、アクティベーション時間内にこのアカウントをアクティブにして、使用時間を延長する必要があります。アクティベーションは単なるタイマーであり、アカウントのクォータには追加されないことに注意してください。送信者名、電子メールの件名、電子メールの内容（最大 2000 文字）は、SMTP サーバーの準備が整うとすぐにカスタマイズできます。SMTP サーバーの設定は、「Assign SMTP Server」（SMTP サーバーを割り当てる）ボタンをクリックして行います。



アカウントの一部の情報は、管理者のさらなる分析やマーケティングを目的として、**Guest Information**（ゲスト情報）リストに収集できます。電子メールアドレス、デバイスの MAC アドレス、最終ログイン時刻、およびゲストアンケートの回答が含まれます。



管理者は、「Download」ボタンをクリックして収集したゲスト情報をダウンロードできます。また、「Delete All」ボタンは、保存されたデータをすべて削除できます。管理者は、エクスポート後にすべてのエントリを削除して、リストを最新の状態に保つことができます。

メモ

- **Guest Questionnaire**（ゲストアンケート）が有効な場合、コントローラはクライアントから情報を収集します。クレームとリマインダーを含めるには、免責事項またはカスタマイズされたログインページを有効にしてください。

ステップ 2：特定のサービスゾーンとログインページへの実装

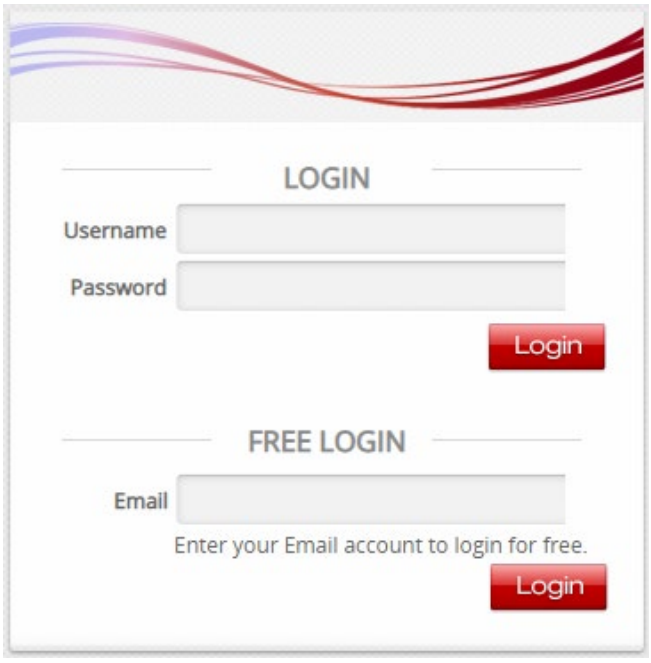
ゲスト認証オプションを適用するサービスゾーンを選択してください。Main Menu > System > Service Zone > Configure の順に選択してください。ページを下にスクロールして、**Authentication Options**（認証オプション）が表示されます。次の図に示すように、ゲスト認証オプションを有効にする場合はチェックを入れてください。

Authentication Options

Auth. Option	Auth. Database	Postfix	Default	Enabled
Server 1	LOCAL	local	◉	☑
Server 2	RADIUS	radius	○	☑
Server 3	NTDOMAIN	ntdomain	○	☑
Server 4	LDAP	ldap	○	☑
Server 5	POP3	pop3	○	☑
On-Demand	ONDEMAND	ondemand	○	☑
SIP	SIP	N/A	○	☐
Guest	FREE	N/A	○	☑

その結果、ステップ 1 とステップ 2 の設定を行った後、エンドユーザーは、ゲストアクセスの追加セクションがサービスゾーンのログインページに表示されることが見えます。

電子メールアドレスを入力して login をクリックし、公衆 Wi-Fi の無料アクセス条件を承認することで、ゲストユーザーはゲスト認証オプションプロファイルとグループプロファイルで指定された制約でネットワークにアクセスできるようになります。無料アクセスの悪意のある使用を避けるために、MAC アドレスがチェックされます。



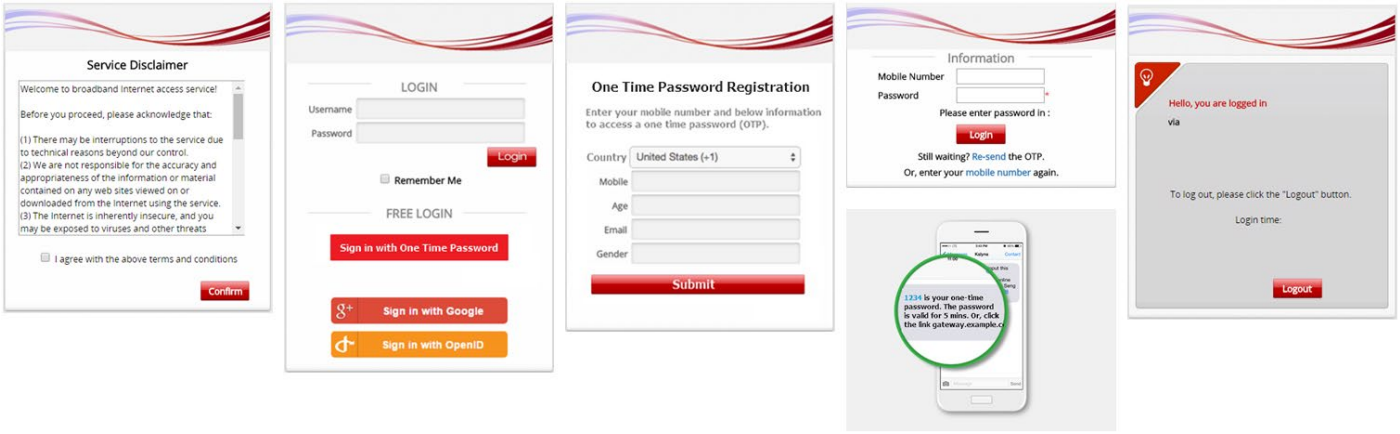
4.2.4.ワンタイムパスワード

ワンタイムパスワード（OTP）認証オプションの場合、クライアントは自分の携帯電話番

号を入力し、認証ページに入力するために必要なワンタイムパスワードを含む SMS メッセージを受信することで、インターネットにアクセスできます。その後、クライアントはインターネット閲覧を始めることができます。

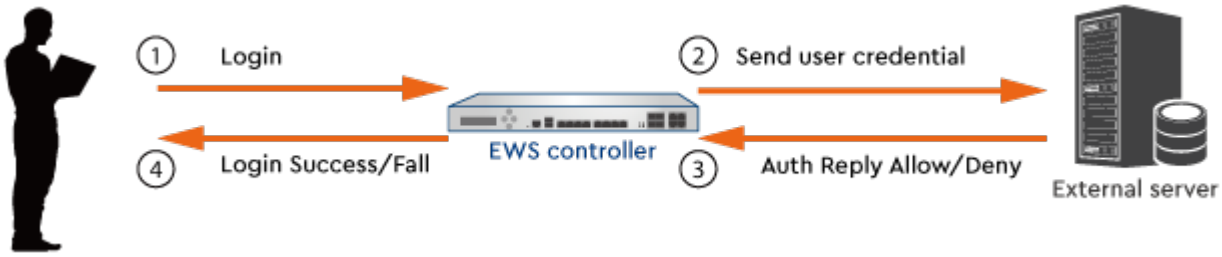
通常、ユーザーログインフローには、次の手順とページが含まれます。

A. **サービス免責事項**：（有効になっている場合）ログインプロセスを続行するための利用規約とサービスに同意すること
B. **一般ログインページ**：sign in with one time password ボタンをクリックすること
C. **OTP 登録ページ**：携帯電話番号を入力し、有効になっている場合は他のアンケートを入力すること
D. **OTP で SMS を受信**：クライアントの携帯電話にパスコード付きのテキストが受信されること
E. **OTP 認証ページ**：検証および認証を行う OTP を入力すること
F. **ログイン成功ページ**：インターネット閲覧ができること



4.3.外部認証オプション

ほとんどの組織では、一元化されたユーザーアカウントサーバーがすでに構築されています。そのため、Edgecore EWS コントローラは、アカウントローミングをサポートし、既存のネットワークに適応するために、さまざまな外部認証オプションを備えています。外部認証を使用する簡単な例を以下に示します。



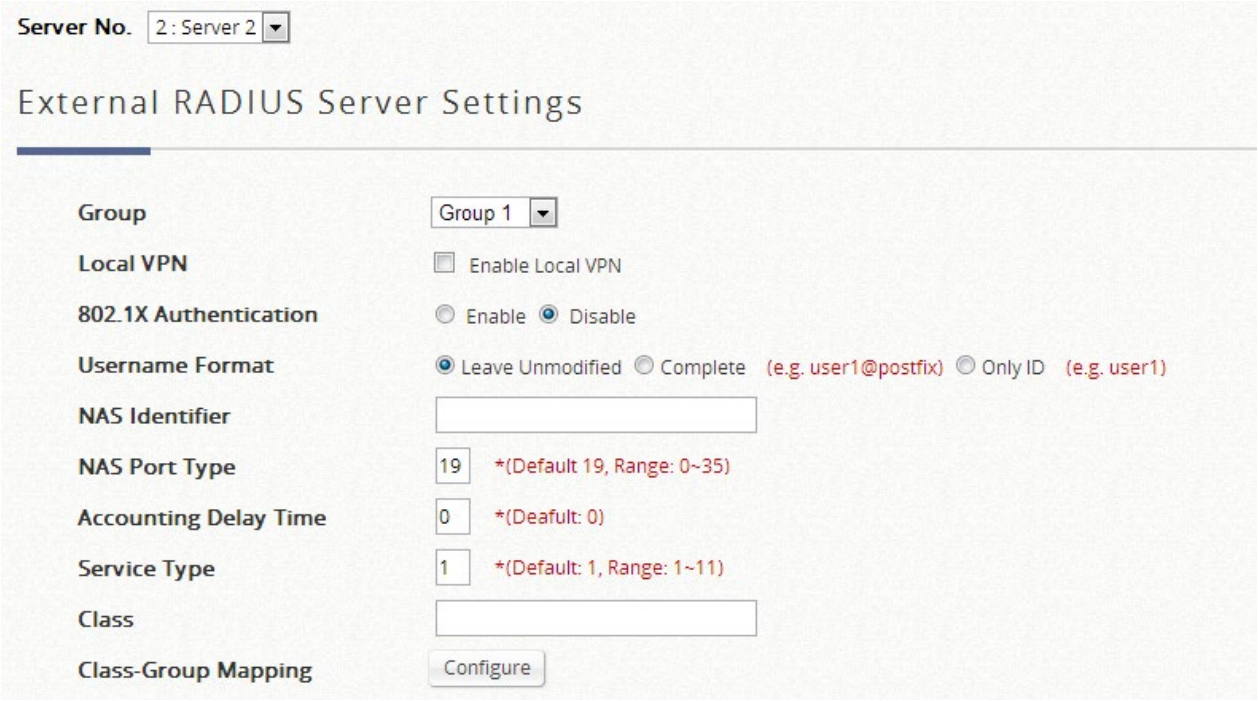
メモ

1. 組み込みデータベースと外部データベースのどちらを使用するかに関係なく、認証オプションを設定した場合は、有効な各サービスゾーンで個別に有効にする必要があります。

4.3.1.RADIUS

リモート認証ダイヤルインユーザーサービス（RADIUS）は、コンピュータがネットワークサービスに接続して使用するために、認証、認可、アカウンティング（AAA）の一元管理を提供するネットワークプロトコルです。また、現在使用されている外部認証メカニズムの中で最も一般的に使用されているものです。

設定パス：Main Menu >> Users >> External Authentication



サーバー2 は、デフォルトで RADIUS 認証を使用するように構成されています。

Edgecore EWS コントローラは、RADIUS 認証、RADIUS クラスマッピング、および 802.1X を使用した RADIUS 透過ログインをサポートします。

以下に、RADIUS 設定の詳細設定ページを示します。**Primary RADIUS Server** と **Secondary RADIUS Server** の属性は、サービスの配置に応じて設定できます。

External RADIUS Server Related Settings

802.1X Authentication ○ Enable ◉ Disable

Username Format ◉ Leave Unmodified ○ Complete (e.g. user1@postfix) ○ Only ID (e.g. user1)

NAS Identifier

NAS Port Type 19 *(Default 19, Range: 0~35)

Accounting Delay Time 0 *(Deafult: 0)

Service Type 1 *(Default: 1, Range: 1~11)

Class

Class-Group Mapping Configure

This shows the mapping of RADIUS class attributes to the different Groups.

DM & CoA Settings Configure

Send Acct Interim when users' IP changes ○ Enable ◉ Disable

Failover between RADIUS Servers ○ Enable ◉ Disable

Attributes Priority Follow Server's Setting

Standard RADIUS Attributes

- Session Timeout 240 Minutes *(Range: 5-1440 mins)
- Idle Timeout 10 Minutes *(Range: 1-120 mins)
- Acct Interim Interval 15 Minutes *(Range: 1~120 mins, 0 is disable)

WISPr Vendor Specific Attributes

- Redirection URL
- Billing Class Of Service
- Session Terminate on Billing Time ○ Enable ◉ Disable
- Session Terminate Time Never
- Bandwidth Setting Group 1

Retransmission Settings

- Number of Retries 3 *(Default: 3)
- Timeout 6 *(Default: 6)

Primary RADIUS Server

- Authentication Server *(Domain Name/IP Address)
- Authentication Port *(Default: 1812)
- Authentication Secret Key *
- Authentication Protocol CHAP
- Accounting Service ◉ Enable ○ Disable
- Accounting Server *(Domain Name/IP Address)
- Accounting Port *(Default: 1813)
- Accounting Secret Key *

Secondary RADIUS Server

- Authentication Server (Domain Name/IP Address)
- Authentication Port
- Authentication Secret Key
- Authentication Protocol CHAP
- Accounting Service ◉ Enable ○ Disable
- Accounting Server (Domain Name/IP Address)
- Accounting Port
- Accounting Secret Key

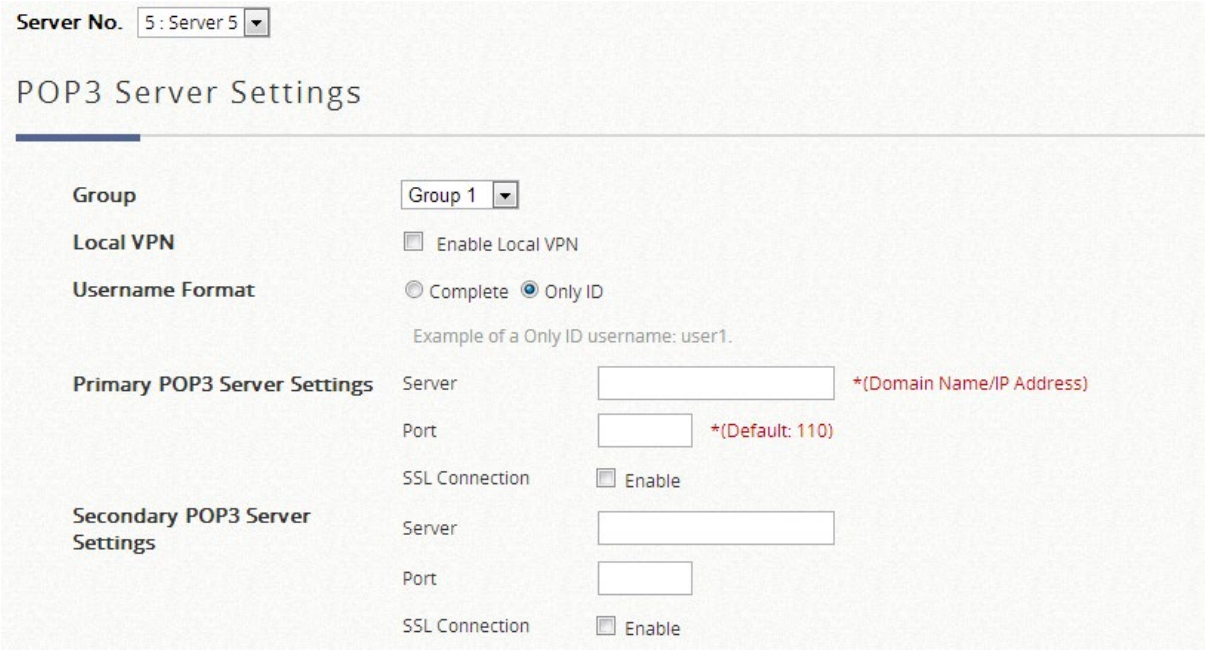
もう 1 つの重要な設定フィールドは、このページの **Class-Group Mapping** です。これは、RADIUS クラスを Edgecore EWS コントローラ上の異なるグループにマッピングする変換設定で、異なる RADIUS アカウントを異なるグループに組み込むことができます。

4.3.2.POP3

POP3 は、電子メールが特定のインターネットサーバーによって保持される一般的なメールサービスプロトコルです。Edgecore EWS コントローラは、管理者に POP3 サーバーに格納されている電子メールアドレスとパスワードを入力して、インターネットサービスを許可する認証方法を提供します。

設定パス：Main Menu >> Users >> External Authentication

サーバー5 は、デフォルトで POP3 認証を使用するように構成されています。**Server Name** をクリックすると、詳細な設定ページが表示され、POP3 サーバーアドレス、セカンダリ POP3 サーバーの仕様など、必要な設定を確認できます。



4.3.3.LDAP

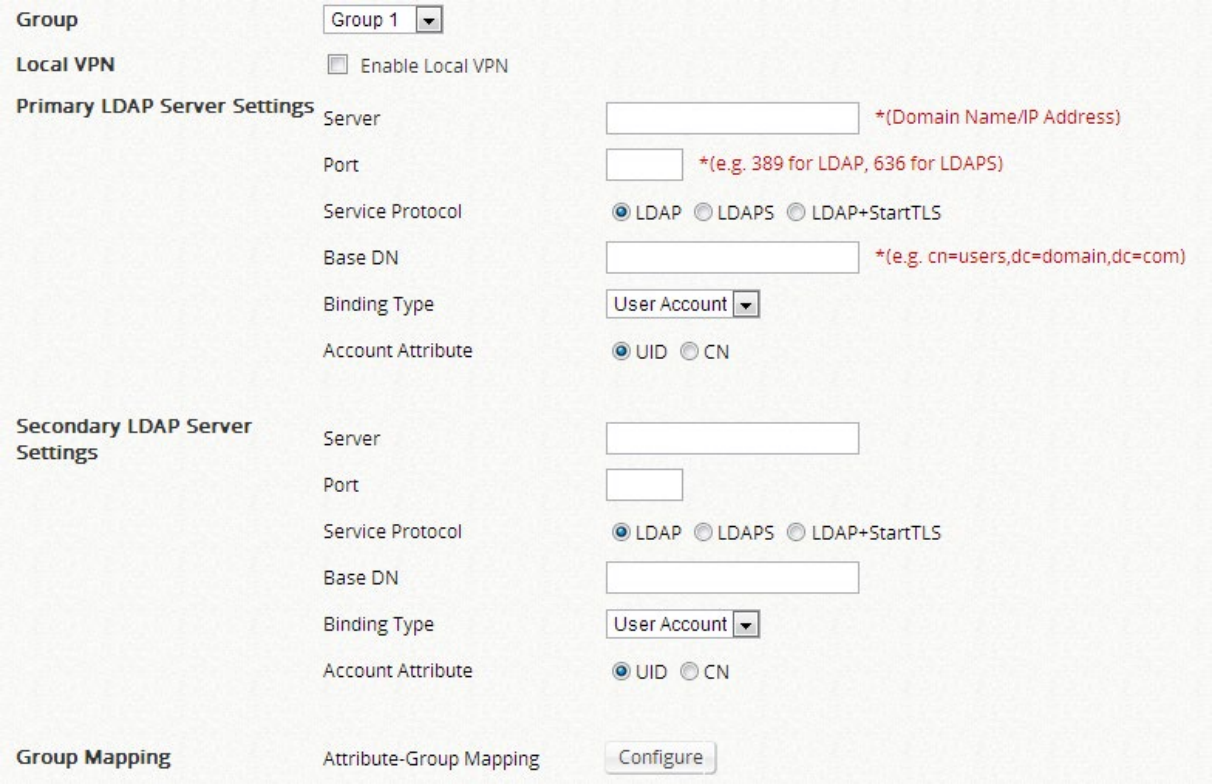
ライトウェイトディレクトリアクセスプロトコル（LDAP）は、IP ネットワーク経由で分散ディレクトリ情報サービスにアクセスして維持するためのアプリケーションプロト

コルです。

ユーザー認証用に LDAP サーバーを配置する場合は、完全なセットアップに進んでください。

設定パス：Main Menu >> Users >> External Authentication

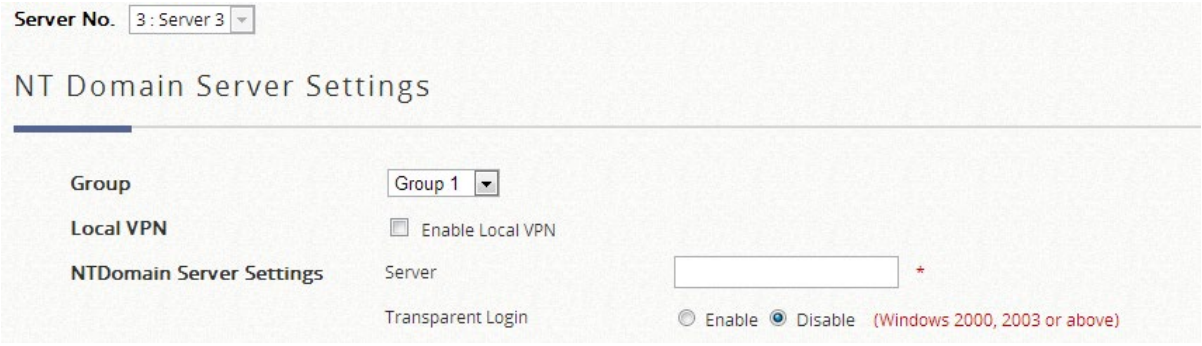
サーバー4 は、デフォルトで LDAP データベースを使用してユーザーの資格情報をチェックするように選択されています。
Server Name をクリックして、LDAP の詳細設定ページに入ります（セカンダリ LDAP サーバーをバックアップサーバーとして指定することができます）。さらに、LDAP 設定ページには、LDAP 属性を Edgecore EWS コントローラ上の異なるグループにマッピングする **Attribute-Group Mapping**（属性-グループマッピング）ページがあり、異なるアカウントを異なるグループに組み込むことができます。



4.3.4.NT ドメイン

NT ドメインオプションは、Windows ドメインデータベースをサポートし、ユーザーの資格情報認証を実行します。

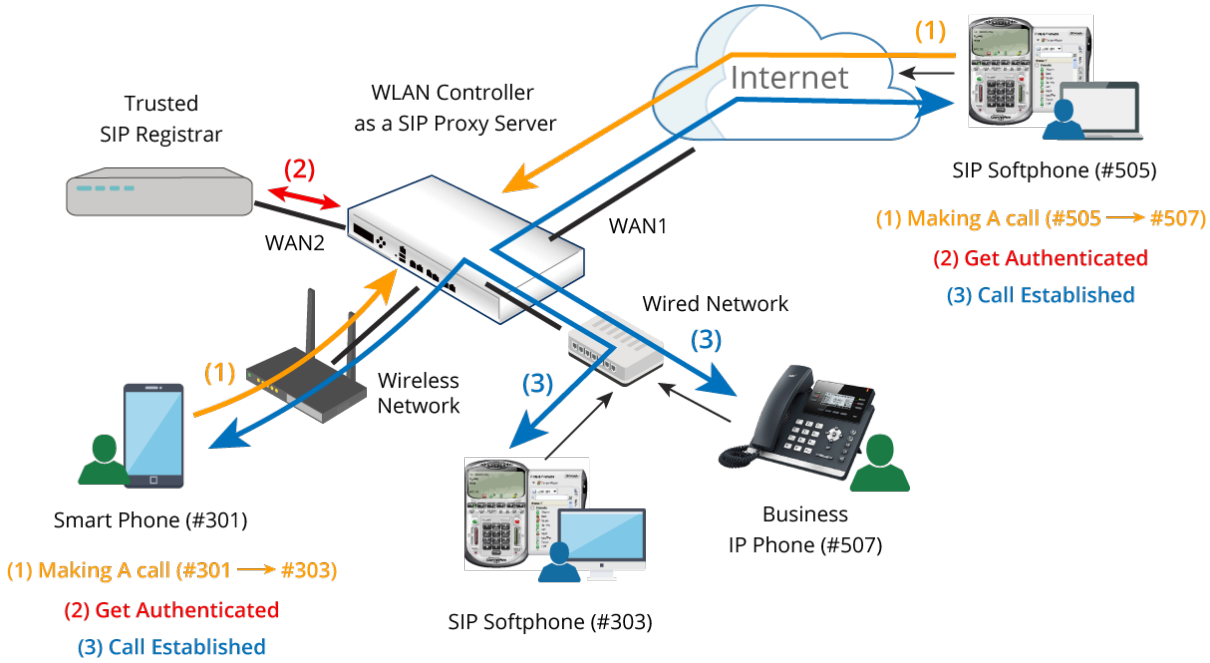
設定パス：Main Menu >> Users >> External Authentication



サーバー3 はデフォルトで NT ドメインを使用するように選択されています。管理者は、ユーザーの資格情報が格納されているドメインコントローラの IP アドレスを入力するだけです。さらに、Windows Active Directory がデバイスアクセスの ID チェックとして配置されている場合、**Transparent Login**（透過ログイン）機能を有効にして、単一のログインアクションでデバイスとネットワークへのアクセスを許可できます。

4.3.5.SIP

SIP（セッション開始プロトコル）は、VoIP（Voice over Internet Protocol）およびその他のマルチメディアセッション用に定義された IETF プロトコルです。Edgecore EWS コントローラは、SIP 認証と SIP 電話の使用をサポートします。Edgecore EWS コントローラに加えて、管理者は SIP 電話を成功させるために、他のデバイスを設定する必要があります。これには以下が含まれます。有効な SIP レジストラ、SIP 電話です。



（1）ユーザーがSIPベースの電話（例：#301 —> #303）を介してコールを発信しています。

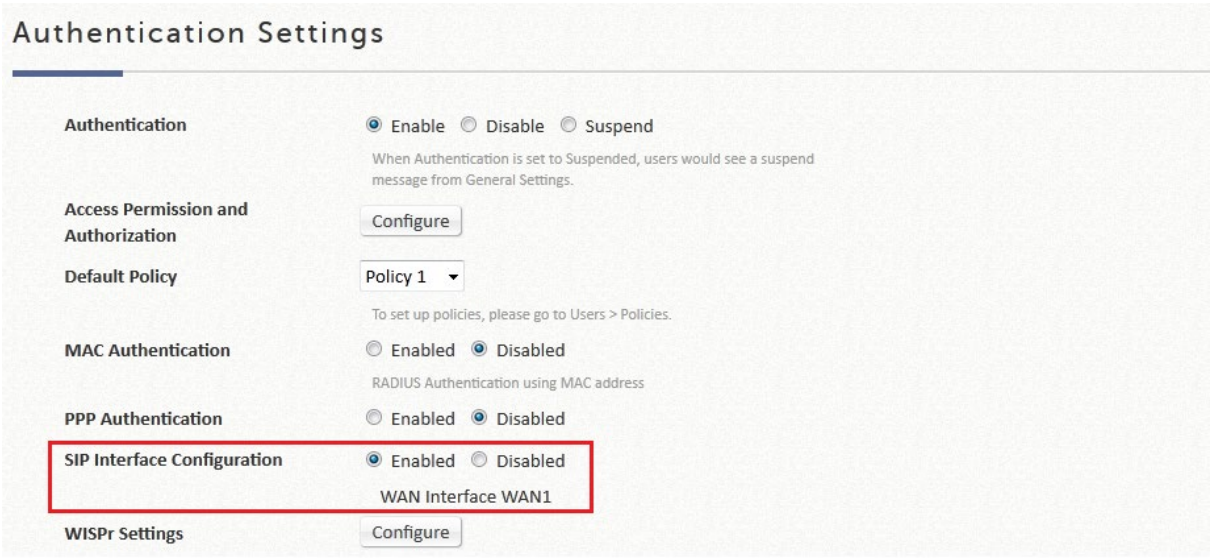
（2）ユーザーがSIPレジストラに登録されている場合、ユーザーは透過的に認証されます。

（3）コールが正常に確立されました。

設定パス：Main Menu >> Users >> External Authentication

デフォルトでは、認証オプションのデータベースとして SIP が選択されていません。それぞれのサービスゾーンで認証設定から SIP を有効にしてください。管理者は、コールサービスを提供するために、少なくとも 1 つの有効な SIP レジストラをコールセンターとして入力する必要があります。最大 4 つを指定できます。対応するグループプロファイルには、音声アプリケーションをサポートするように適切に設定されている QoS 設定が必要です。

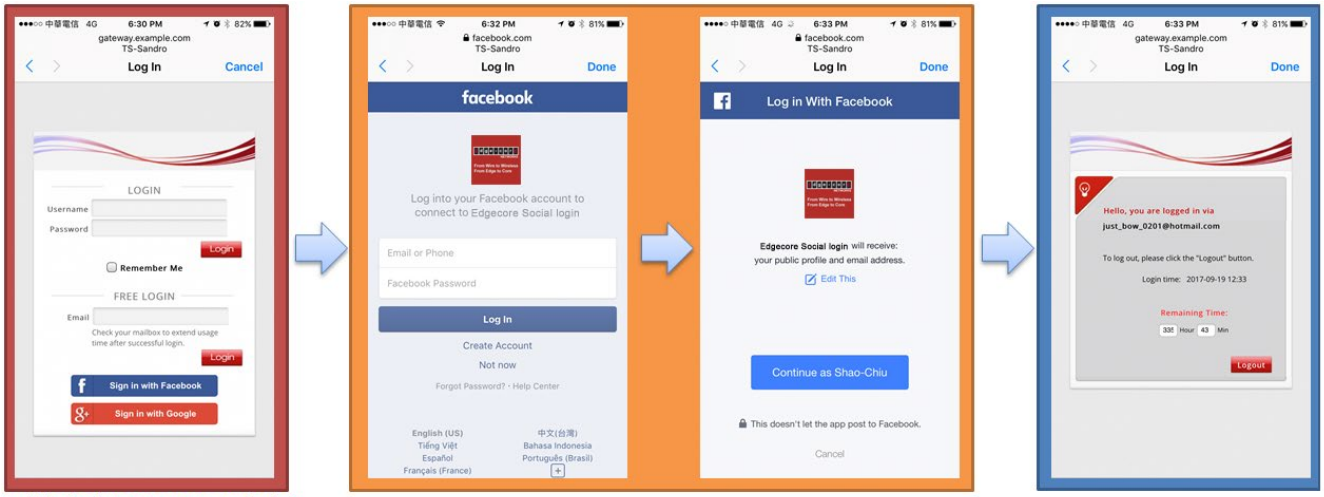
また、正しく機能するために、対応するサービスゾーンの SIP Interface Configuration（SIP インターフェース設定）で「Enable」（有効）になっていることを確認してください。



4.3.6.ソーシャルメディア

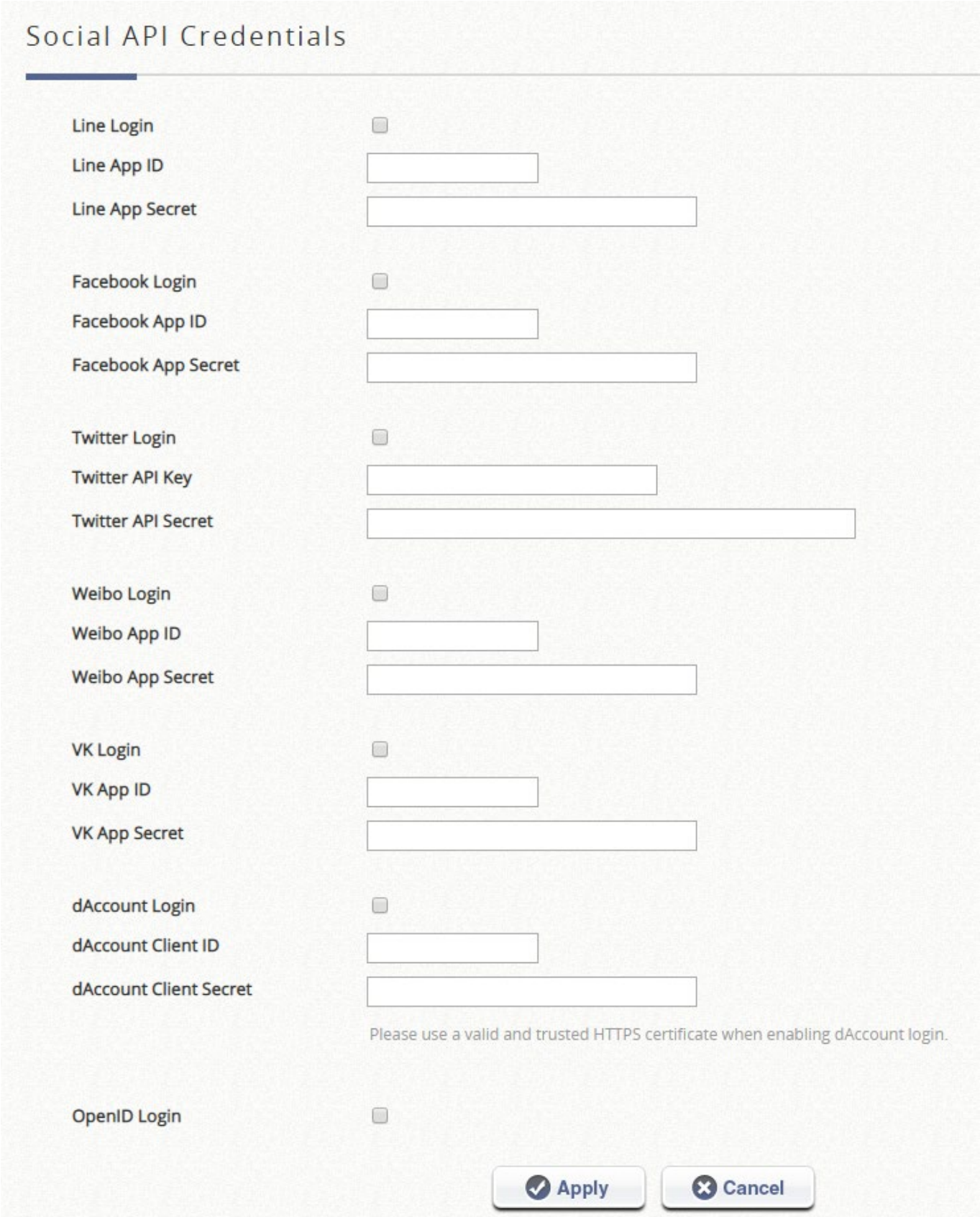
ソーシャルメディアログインを使用すると、Wi-Fiユーザーは面倒なアカウント登録プロセスを経ずにインターネットにアクセスできます。Edgecore EWS シリーズコントローラは、LINE、Facebook、Twitter、Weibo、VK、dAccount、およびオープンIDなどのソーシャルメディアアカウントをサポートしています。すべての管理者は、対応するIDとシークレットを適用する必要があります。

ユーザーがソーシャルメディアアカウントでサインインするためにボタンをクリックすると、ログインと許可を与えるためのソーシャルメディアサイトにリダイレクトされます。ウォールド・ガーデンのジレンマに悩まされる必要はありません。接続されたクライアントは、ソーシャルログインボタンのいずれかをクリックしている限り、5 分間の無料許可を取得します。その後、5 分間に必要なソーシャルアカウント情報を使用してログインプロセスを完了する必要があります。その後、それは下の図のようにインターネット閲覧を開始する時間です。



この設定ページでは、コントローラがソーシャルメディアサイトに接続するように設定できます。

- LINE：LINE Developers サイト（https://developers.line.me/console/）にアクセスし、「LINE ログイン」アプリを申請して、アプリタイプでウェブを選択してチャンネル ID とチャンネルシークレットを取得してください。
- Facebook：Facebook 開発者サイト（https://developers.facebook.com/）にアクセスし、「Facebook ログイン」アプリを申請してアプリ ID とアプリのシークレットを取得してください。
- Twitter：Twitter developers サイト（https://developer.twitter.com/）にアクセスし、「Twitter API」を申請して API キーと API シークレットを取得してください。
- Weibo：Weibo 開発者サイト（http://open.weibo.com/liveapi/index.php）にアクセスし、「LINE ログイン」アプリを申請して、アプリタイプでウェブを選択してチャンネル ID とチャンネルシークレットを取得してください。
- VK：VK 開発者サイト（https://vk.com/dev）にアクセスし、「LINE ログイン」アプリを申請して、アプリタイプでウェブを選択してチャンネル ID とチャンネルシークレットを取得してください。
- dAccount：dAccount・コネクトサイト（https://id.smt.docomo.ne.jp/src/index_business.html?btn01）にアクセスし、クライアント ID とクライアントシークレットの取得を申請してください。
- オープン ID：ログインパスを通過し、OpenID Walled Garden に追加する必要があり、リダイレクト先は OpenID プロバイダに依存します。


Social API Credentials
Line Login
Line App ID
Line App Secret
Facebook Login
Facebook App ID
Facebook App Secret
Twitter Login
Twitter API Key
Twitter API Secret
Weibo Login
Weibo App ID
Weibo App Secret
VK Login
VK App ID
VK App Secret
dAccount Login
dAccount Client ID
dAccount Client Secret
Please use a valid and trusted HTTPS certificate when enabling dAccount login.
OpenID Login
Apply
Cancel

第5章　グループ属性とポリシールール

すべての Edgecore EWS コントローラモデルでは、「グループ」と「ポリシー」を使用して、ユーザーのアクセス性とネットワーク権限を定義し、ユーザーの動作に制約を設定します。グループ化、ポリシー設定、およびサービスゾーンは互いに絡み合っているため、このセクションでは、グループ化、ポリシー、およびサービスゾーンとの関係の概念、および、これら 3 つの属性に関する実用的な設定プロセスについて説明します。

5.1　コンセプトの概要

- **グループ**

グループは、役割ベースなどのある程度類似した特性を共有していると管理者にみなされる一連のユーザーです。例えば、大学では、一般的に学生、教職員、ゲストがいます。したがって、IT スタッフは、これら 3 つのカテゴリのインターネットサービスユーザーを区別する 3 つのグループを設定して、これらのグループに異なるインターネットアクセス性の許可を与えることができます。Edgecore EWS モデルには、モデルの容量に応じて、8～24 個のグループプロファイルがあります。

オンデマンドユーザーとローカルユーザーは、アカウントごとに異なるグループに割り当てることができます。外部サーバーによって認証されるユーザーについては、Edgecore EWS コントローラは、クラスグループマッピングと属性グループマッピングを使用して、RADIUS オプションと LDAP オプションに対するアカウントごとのグループ割り当ても提供します。

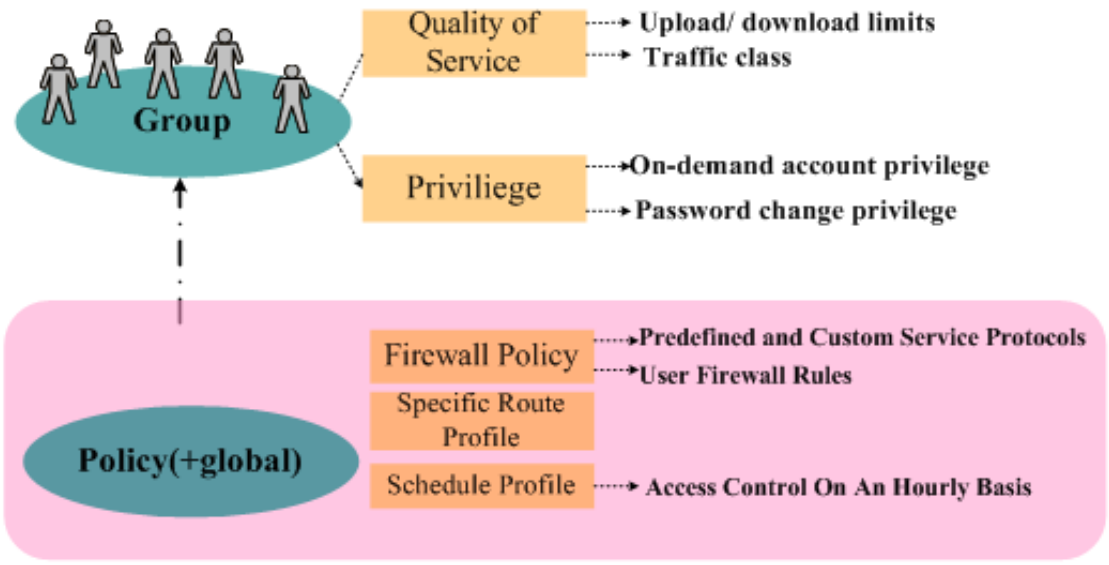
各グループプロファイルには、管理者が定義できる属性がいくつかあります。

1. **サービス品質（QoS）**：
   音声、ビデオ、ベストエフォート、およびバックグラウンドのトラフィッククラスの選択です。
   すべてのグループのメンバーが共有するアップリンクとダウンリンクの合計レート
   個々の最大ダウンリンクおよびアップリンクレート
2. **権限プロファイル**：
   *オンデマンドアカウント権限*は、特定のグループの認証されたユーザーが、コントローラのデフォルト/テンプレートログイン成功ページでオンデマンドアカウントを生成できるようにします。
   *パスワード変更権限*は、コントローラのデフォルト/テンプレートログイン成功ページで、ログインに成功した後で、ユーザーが自分のパスワードを変更できるようにします。
   *最大同時セッション数*は、ユーザーごとに許可される同時ログインの数を決定します。
3. **サービスゾーンへのアクセス性**：
   特定のサービスゾーンへのアクセス許可またはアクセス拒否と、バンドルされたポリシーを設定できます。

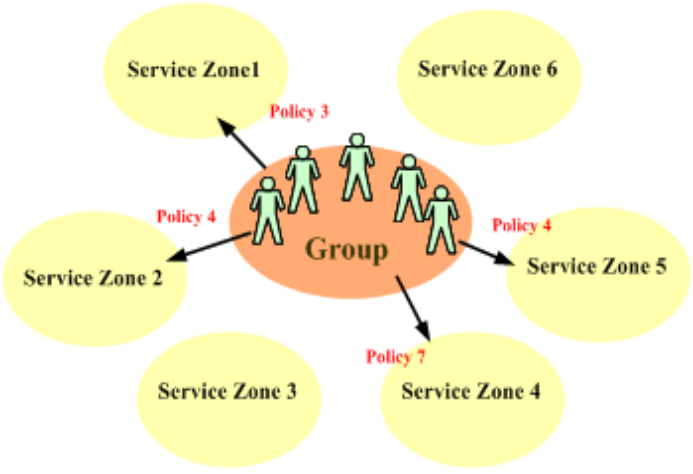
- **ポリシー**

ポリシーとは、ファイアウォールルール、ログインスケジュール、ルーティングルール、セッション許容値など、ユーザーに適用されるネットワーク管理上の制約のプロファイルです。**グローバル**ポリシーがあり、ユーザーがどのポリシーにもバインドされていないグループに属している場合に適用されます。ポリシープロファイルの数はモデルによって異なります。
グループプロファイルとポリシープロファイルが分離されているため、より柔軟性が高くなっています。これにより、同じグループのユーザーは、管理者が定義するグループサービスゾーンのアクセス許可マッピング設定に従って、異なるポリシーにバインドできるようになります。例えば、グループ 1 のユーザーは、サービスゾーン 1 のポリシー1 によって課されますが、サービスゾーン 3 に移動するとポリシー 3 によって課されます。

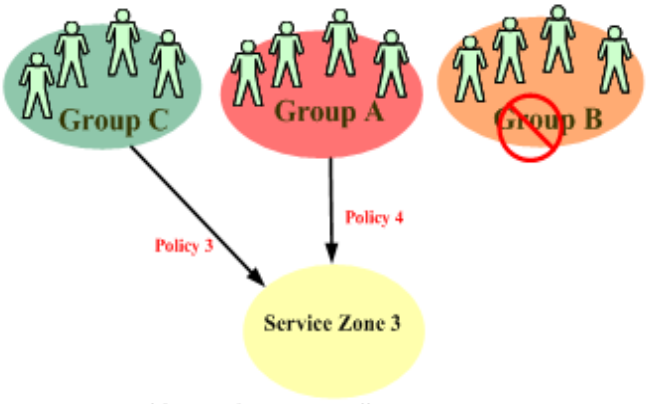
- **グループ、ポリシー、およびサービスゾーンの関係**



最初の図は、グループとポリシーの関係、および各カテゴリで定義できる属性を示しています。管理者は、ポリシー、グループ、およびサービスゾーン間の関係を 2 つの視点から定義できます。グループをサービスゾーンにマッピングする視点と、その逆の視点です。以下の視覚的な説明を参照してください。



*Admin can impose a group with different policies in different service zones



*One service zone can allow many groups to come in (association) with different policies enforced on each one

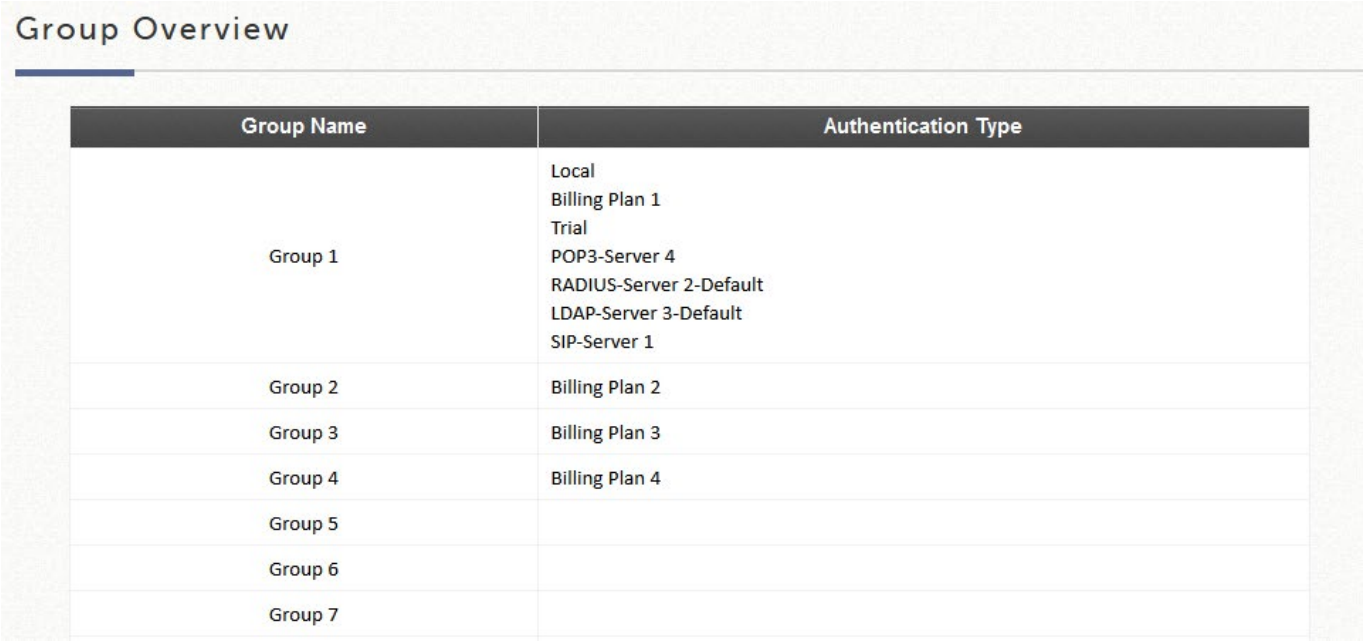
5.2 グループとポリシーの実用的な設定

このセクションでは、Edgecore EWS コントローラの WMI でグループとポリシーの実用的な設定をする方法のスクリーンショットを示します。

- **グループ概要**

設定パス：Main Menu >> Users >> Groups >> Overview

Group Overview（グループ概要）の表には、対応する各グループで使用される認証サーバーの概要が表示されます。オンデマンド認証データベースの請求プランに割り当てられたユーザーグループもここに表示されます。


Group Overview

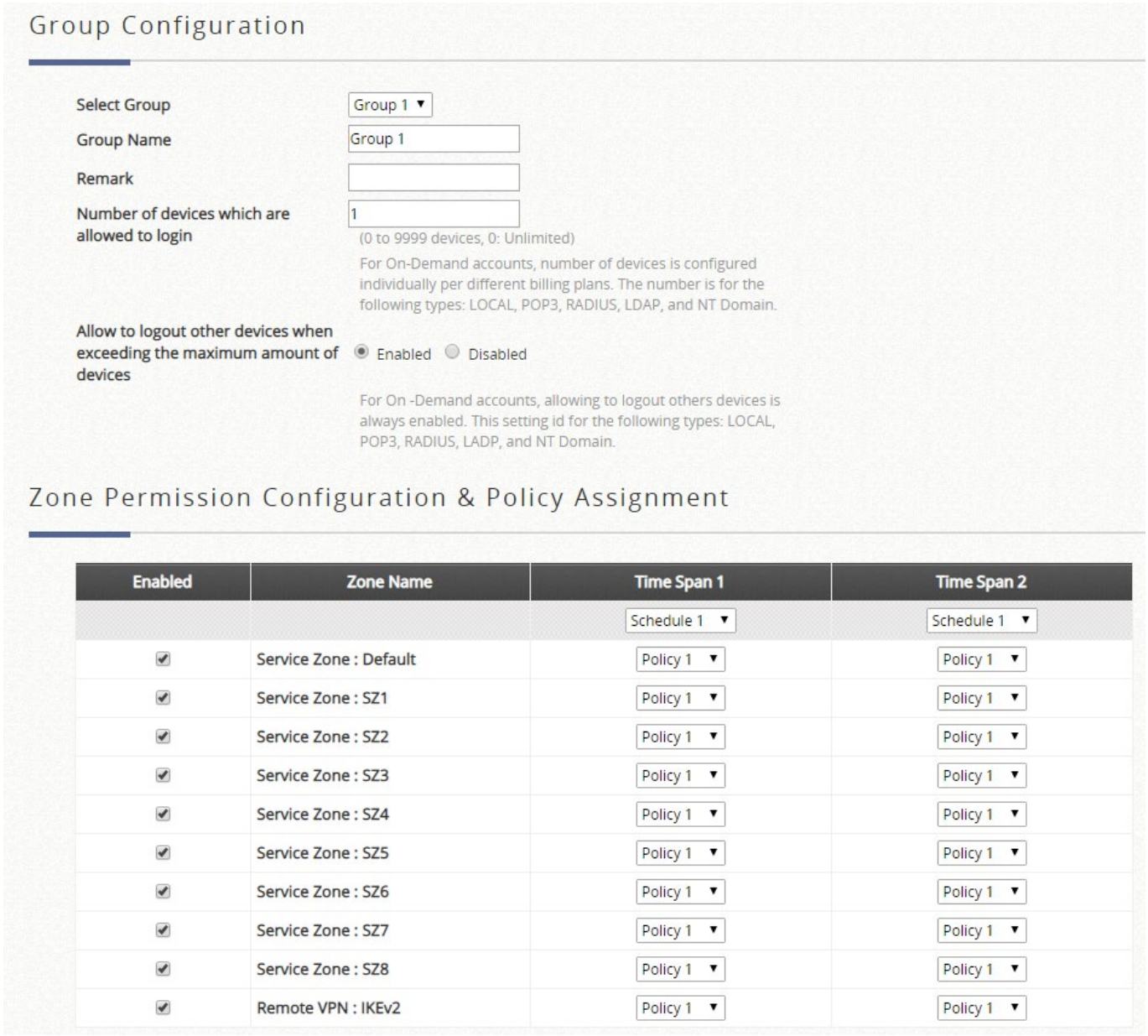
Group Name	Authentication Type
Group 1	Local Billing Plan 1 Trial POP3-Server 4 RADIUS-Server 2-Default LDAP-Server 3-Default SIP-Server 1
Group 2	Billing Plan 2
Group 3	Billing Plan 3
Group 4	Billing Plan 4
Group 5	
Group 6	
Group 7	

- **グループ設定**

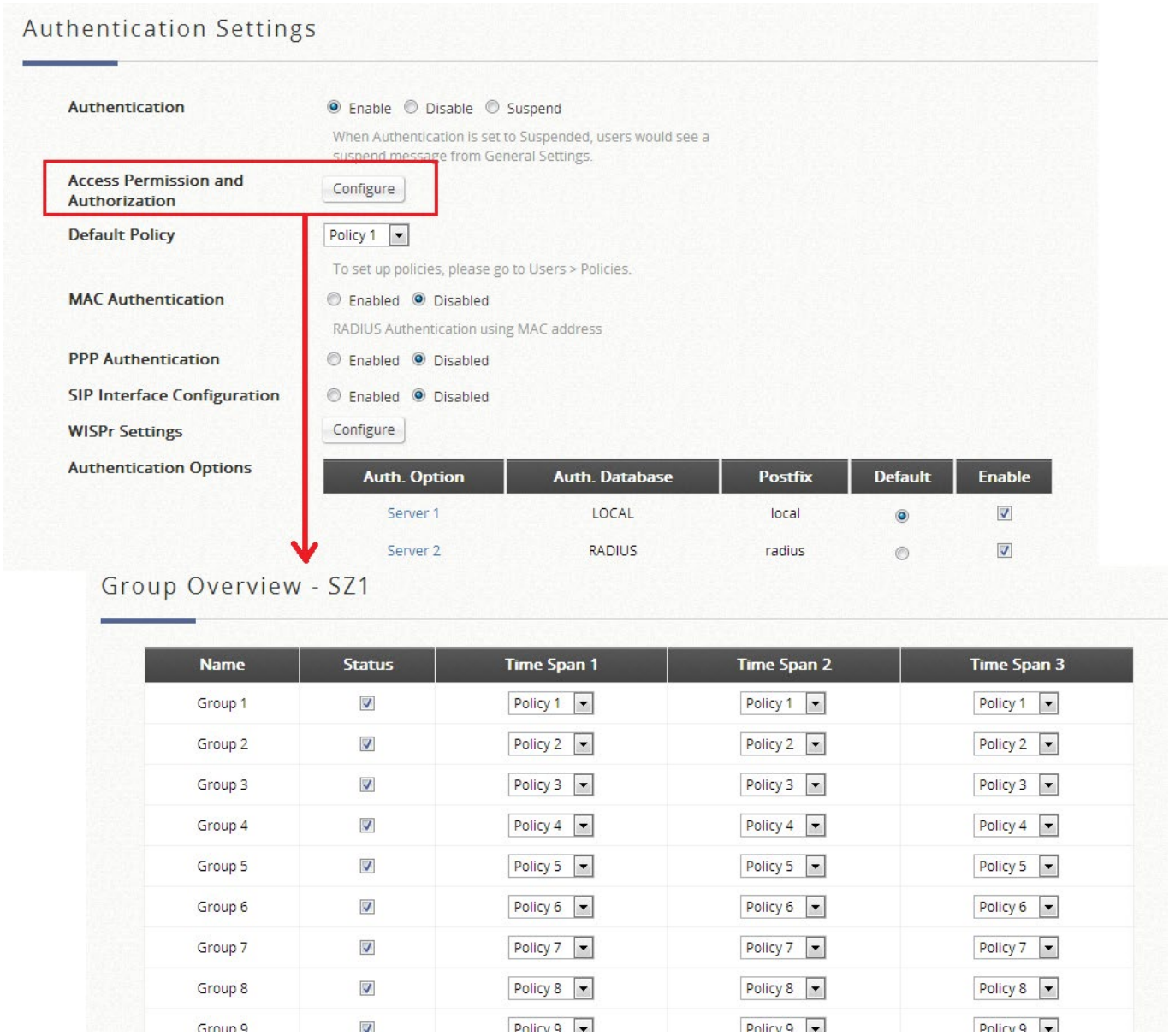
設定パス：Main Menu >> Users >> Groups >> Configuration

Group Configuration – Group x（グループ設定 — グループ x）は、グループに対して定義するポリシー設定のための表です。複数のデバイスログイン（オンデマンドを除く）は、ここで有効にすることができます。

Zone Permission Configuration & Policy Assignment – Group x（ゾーンのアクセス許可設定とポリシーの割り当て — グループ x）の表を使用すると、管理者はグループ、ポリシー、およびサービスゾーンの関係を確認できます。



ステータスチェックボックスにチェックを入れて、このグループのユーザーが対応するサービスゾーンにアクセスできるようにしてください。サービスゾーンの観点から設定するには、サービスゾーン設定の Access Permission and Authorization（アクセス権限と認可）を参照してください。



- **ポリシー設定**

設定パス：Main Menu >> Users >> Policies >> Policy Configuration

1. Select Policy を使用すると、管理者は設定するポリシープロファイルを選択できます。
2. *Firewall Profile* は、サービスプロトコル、ユーザーファイアウォールルール、および IPv6 ファイアウォールルールを定義するためのものです。
3. *Privilege Profile*（権限プロファイル）では、オンデマンドアカウント作成、パスワード変更権限、および最大同時セッション数を設定します。
4. QoS プロファイルを使用すると、管理者はトラフィック設定を編集できます。
5. *Specific Route Profile（特定のルートプロファイル）では*、管理者が特定の宛先にトラフィ

ックを転送するルーティングノードを静的に割り当てることができます。

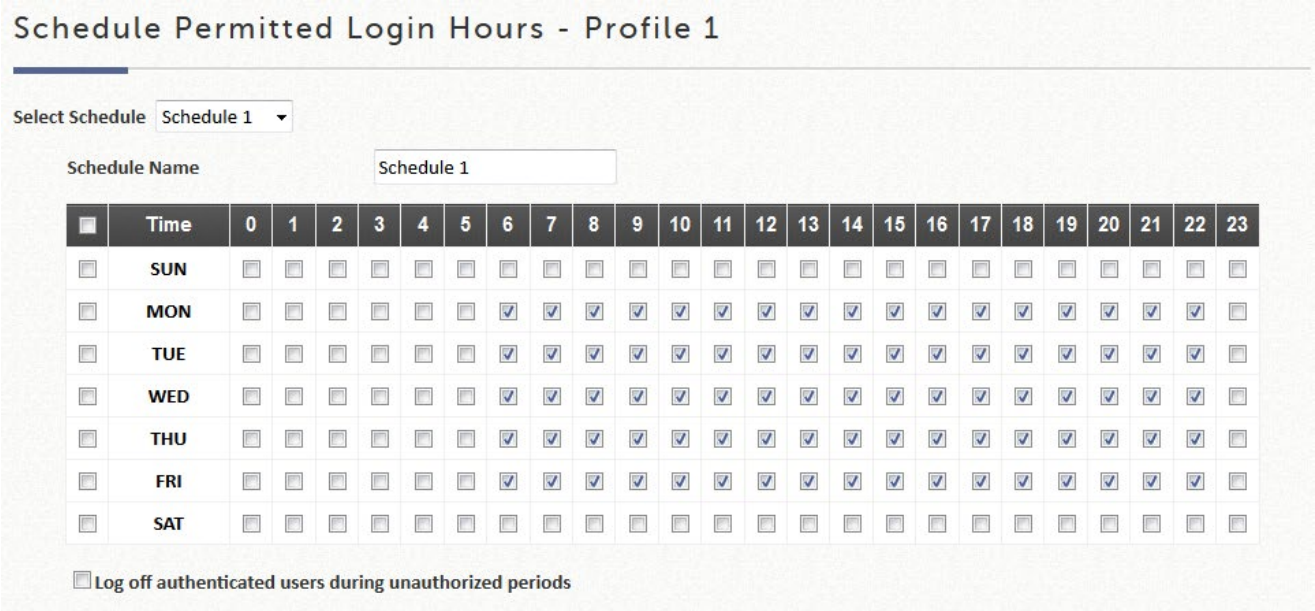
6. *IPv6 traffic class and 802.1p mapping*（グローバルポリシーのみ）は、IPv6 トラフィックが VLAN IPv4 ネットワークに転送されているときに、IPv6 トラフィッククラスを 802.1p にマッピングします。

ドロップダウンリストで 1 つのポリシーを選択し、**Configure** をクリックして各属性の設定を開始してください。設定後、必ず **Apply** をクリックして変更を保存してください。グローバルポリシーは、ポリシープロファイルによって明示的に管理されていないすべてのサービスゾーンのすべてのユーザーに適用されるポリシーであることに注意してください。

- **スケジュール**

設定パス：Main Menu >> Users >> Schedule

スケジュールとは、時計の時間から 1 時間単位でユーザーのログインが許可されている期間を割り当てたものです。チェックされていないタイムスロットは、このポリシーの下にあるユーザーがその特定の時間間隔でログインできないことを意味します。



定義済みのスケジュールは、グループ設定に適用されます。

- **ユーザーのグループ化**

グループは、認証サーバー、クラス（RADIUS）、属性（LDAP）、またはアカウント（ローカル、オンデマンド）によって決定されます。

通常、グループは認証オプションのすべてのユーザーに割り当てられます。
Users > Authentication > Auth Option > Group

ただし、次のような柔軟性があります。

- ローカルアカウントは、作成時にアカウントごとにグループを割り当てるか、既存のアカウントの次のパスから割り当てることができる。Users > Authentication > Local > Configure > Local User List > username（管理者が **Applied Group** 行を使用して属性を決定する）

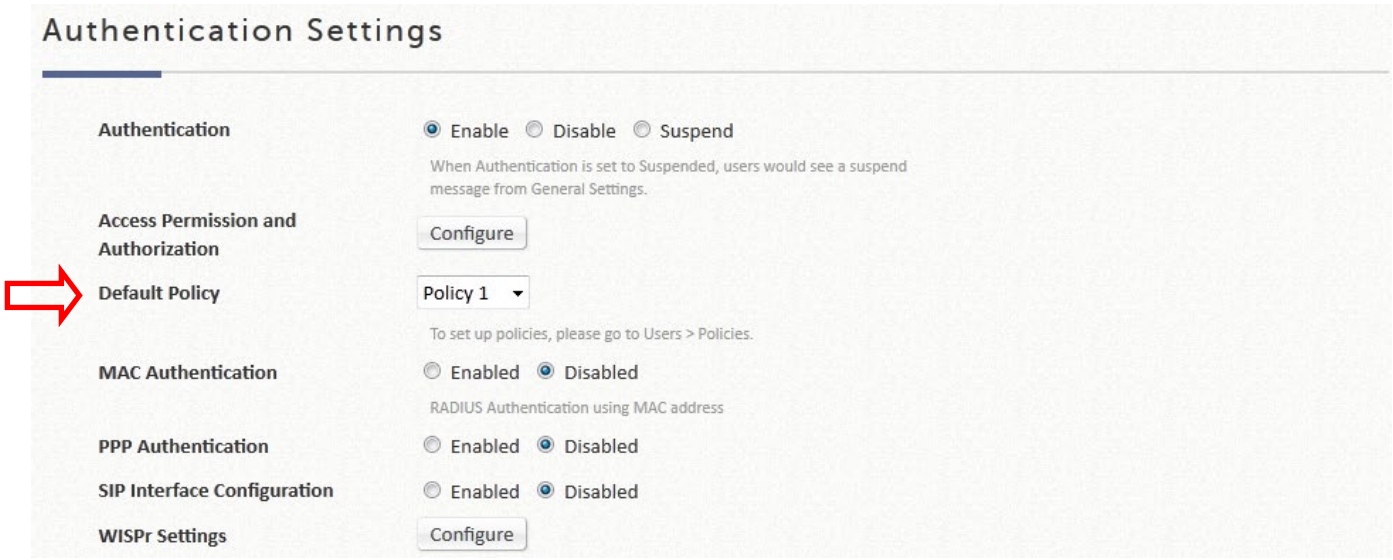
- オンデマンドアカウントは、作成時にアカウントごとに個別にグループを割り当てることができる。

- RADIUS ユーザーは、RADIUS クラスに基づいて異なるグループに割り当てられるユーザーを持つことができる。Users > Authentication > RADIUS > Configure > Class-Group Mapping > Configure でマッピングを設定できる

- LDAP ユーザーは、LDAP 属性に基づいて異なるグループに割り当てることができる。Users > Authentication > LDAP > Configure > Map LDAP Attributes to Group でマッピングを設定できる

- **ポリシーの優先度**

ポリシーは、グループサービスゾーンのアクセス許可マッピングとサービスゾーンプロファイルで設定できます。



ポリシー強制の優先順位は次のとおりです。

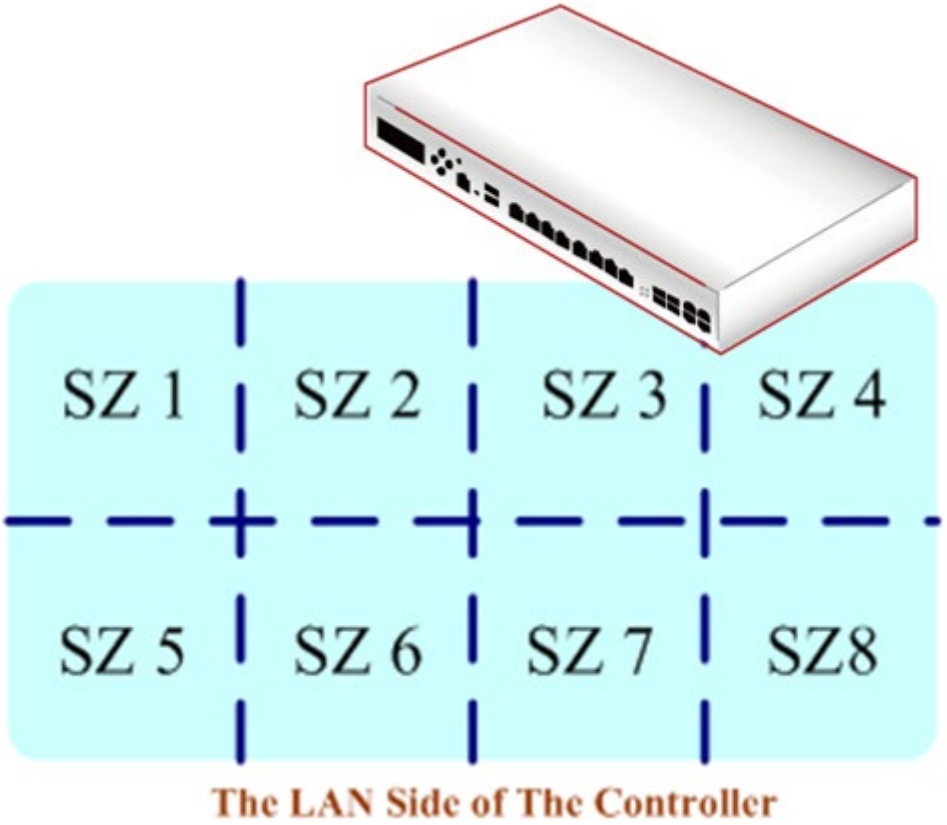
グループサービスゾーンマッピング > サービスゾーンのデフォルトポリシー > グローバルポリシー

したがって、管理者が特定のユーザーの設定階層でグループまたはポリシーを指定しない場合、システムはグローバルポリシーによって管理します。

第6章　基本的なサービスゾーン設定

5.3　サービスゾーンの概念

サービスゾーンは、Edgecore コントローラの物理 LAN 側の仮想パーティションです。VLAN と同様に、個別に管理および定義でき、独自のユーザーランディングページ、ネットワークインターフェース設定、DHCP サーバー、認証オプション、ポリシー、セキュリティ設定などを設定できます。固有の VLAN タグ（タグベースの場合）と SSID をサービスゾーンに関連付けることで、管理者は有線ネットワークと無線ネットワークを柔軟に分離できます。



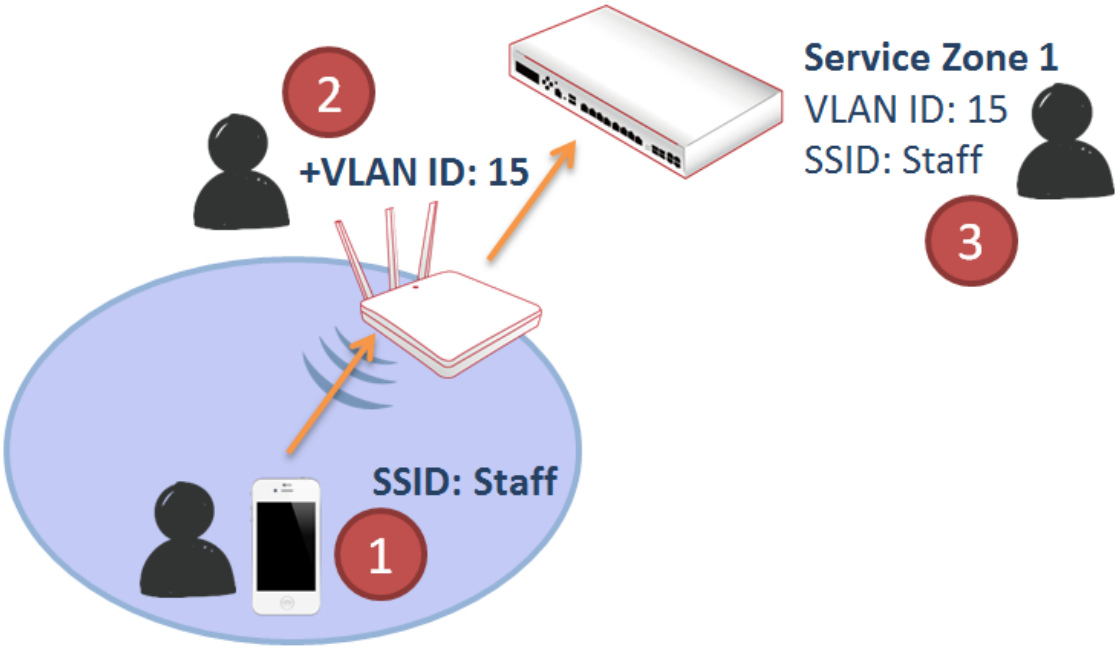
5.4　サービスゾーンの設定

6.2.1.タグベースまたはポートベースのサービスゾーン

Edgecore EWS コントローラは、物理 LAN ポートとサービスゾーンのマッピングに、ポートベースモードとタグベースモードの 2 つのモードを提供しています。直観的には、ポートベースモードは、各 LAN ポートが 1 つのサービスゾーンにサービスを提供するか、またはサービス

を提供しないことを意味します。したがって、サービスゾーンの最大数は、Edgecore EWS コントローラ上の LAN ポートの数に相当します。

逆に、タグベースのサービスゾーンは、LAN ポートに関係なく、管理者が事前に定義した VLAN タグ ID によって指定されるため、ポートの数に制限されません。下の図には、簡単なコンセプトが表示されています。

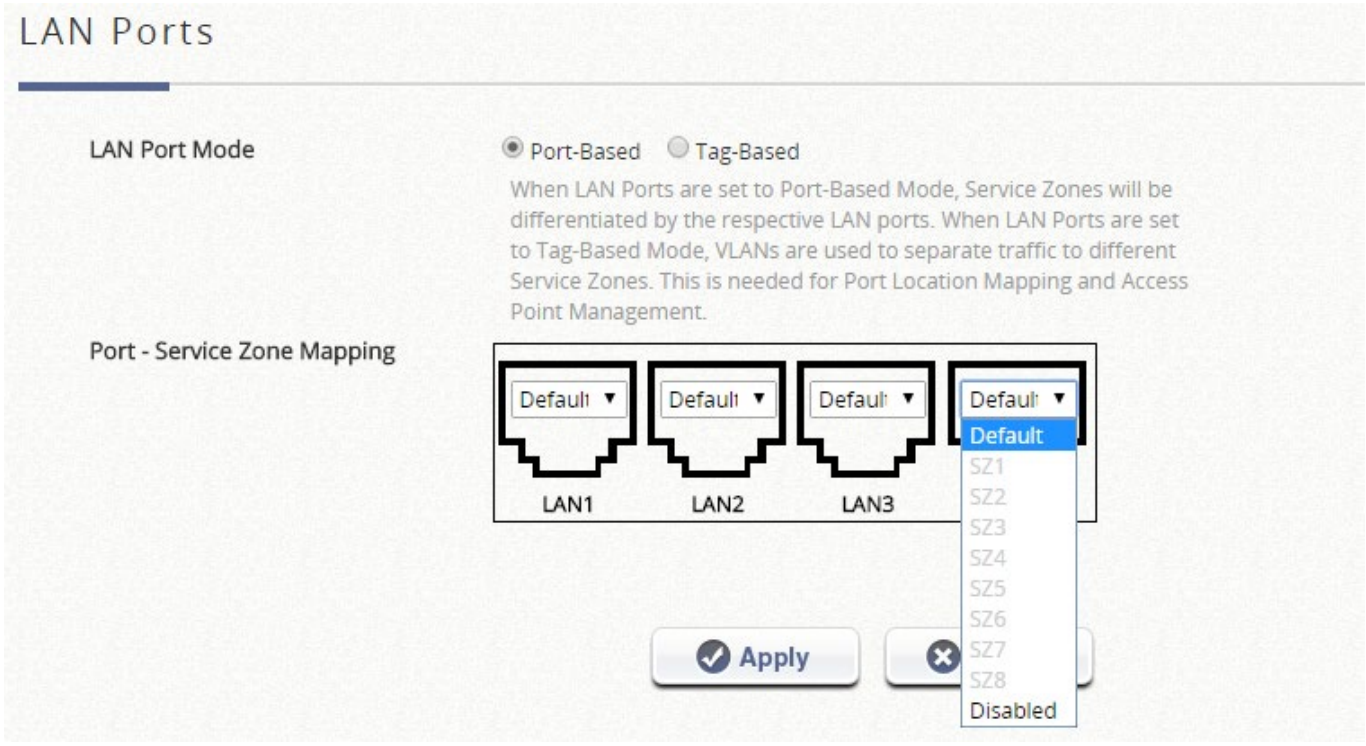


図に示すように、会社のスタッフは、アクセスポイントによる特定の SSID ブロードキャストに関連付けられています。この SSID は、VLAN ID 15 の VAP に属するとします。したがって、コントローラに転送された AP のトラフィックは、スタッフアクセス用の設定を使用してサービスゾーン 1 にマッピングされます。

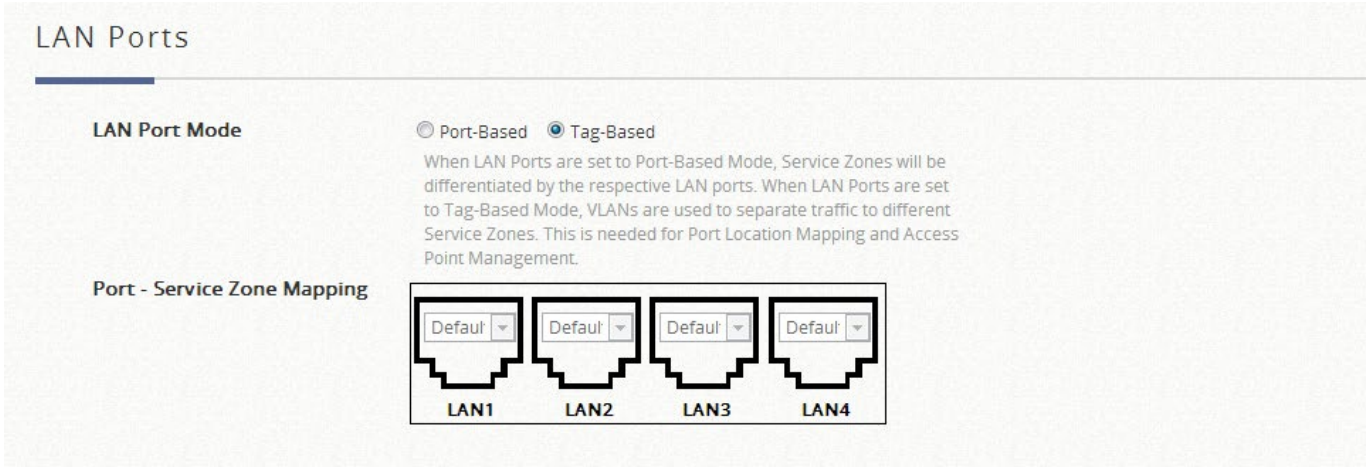
設定のマッピング

設定パス：Main Menu >> System >> LAN Ports

管理者は、サービスゾーンのタイプを変更できます。無効になっているため、一部のサービスゾーンがグレー表示されています。したがって、管理者はまず「System > Service Zones > Configure」の順に選択して、必要なサービスゾーンを有効にする必要があります。



設定を **Tag-based** に変更すると、サービスゾーンとポートの対応がグレー表示されます。各サービスゾーンには、1～4096 の範囲で固有の VLAN ID を割り当てる必要があります。



デフォルトサービスゾーンは、ローカルアクセスポイントを管理し、タグ付けされていないトラフィックを処理するためにタグなしに設計されていることに注意してください。

6.2.2. NAT モードまたはルータモード

設定パス：Main Menu >> System >> Service Zones >> Configure

NAT は、アップリンクネットワークに転送する前に、コントローラの LAN 側のデバイスのプライベート IP アドレスをルーティング可能な IP に変換する Network Address Translation の頭字語です。プライベート IP アドレスは、コントローラの WAN 側のデバイスまたはルータには見えません。NAT を配置しているコントローラだけが対応する変換を認識します。このモードは、LAN 上のユーザーが外部デバイスから「見え」されないように保護するだけでなく、制限されたパブリック IP の問題も解決します。

ルータモードは、名前が示すように、コントローラへのアドレス変換なしで動作するネットワークです。ルータモードは、パブリック IP を使用する場合、またはダウンストリームデバイスがアップストリームルータへのルーティング可能な IP アドレスを必要とする場合に選択されます。

6.2.3.サービスゾーンネットワークインターフェース

設定パス：Main Menu >> System >> Service Zones >> Configure

IP address は、このサービスゾーンに接続されたユーザーへのコントローラ IP として機能します。**Subnet mask** は、サービスゾーンネットワークのサイズを定義し、このサービスゾーンにアクセスできる IP の範囲を定義します。ユーザーが範囲外のアドレスを使用できるようにするには、**Network Alias List** に IP を入力し、**Enable**（有効）にチェックを入れてください。完了したら、必ず **Apply** をクリックしてください。

システムがタグベースモードに設定されている場合、次の 3 つのアイソレーションオプションがあります。**Inter-VLAN Isolation**、**Clients Isolation**、および **None** です。

- Inter-VLAN Isolation（VLAN 間アイソレーション）：同じ VLAN 内の 2 つのクライアントが、異なるポートから入ってくるときにお互いを見ることはありません。アイソレーションは、トラフィックがゲートウェイを通過するときに行われることに注意してください。スイッチまたは AP を配置する場合は、AP/スイッチでステーションアイソレーショ

ンを有効にする必要があります。

- Clients Isolation：同じレイヤ 2 ネットワーク上のすべてのクライアントは、このサービスゾーンで互いにアイソレーションされます。
- None（無し）：このサービスゾーンのクライアントにはアイソレーションが適用されません。

「None」（無し）を選択すると、スイッチでループ保護が有効で、かつ 1 つのサービスゾーンに属している VLAN が 2 つ以上ある場合、EWS の LAN ポートに接続しているスイッチポートがシャットダウンされることがあります。

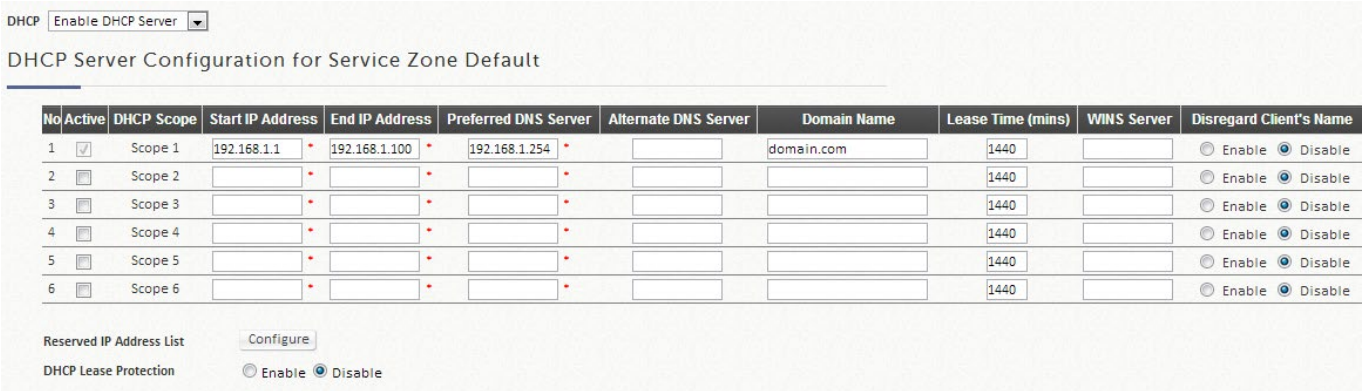
メモ

1. Default のサービスゾーンは無効化できません。

6.2.4.DHCP サーバーオプション

設定パス：Main Menu >> System >> Service Zones >> Configure

動的ホスト構成プロトコル（DHCP）とは、特定のネットワークに対して設定された定義された数値の範囲（スコープ）からサーバーが自動的にコンピュータに IP アドレスを割り当てることを可能にするネットワークプロトコルです。Edgecore EWS コントローラは、サービスゾーンプロファイルごとに独立した DHCP 設定をサポートします。オプションには、DHCP オプションを無効にする、組み込みの DHCP サーバーを有効にする、または DHCP リレーを有効にするなどがあります。



1. DHCP Server Configuration（DHCP サーバーの設定） — DHCP サーバーのデフォルト設定は「Enabled」（有効）です。ドロップダウンリストから他のオプションを選択してください。
2. DHCP サーバー（ビルトイン）の有効化を使用する場合に発行する IP 範囲を定義してください。設定には、合計 6 つの DHCP プールがあります。
3. 各プールでの DHCP リース時間は、アイドルタイムアウトの 2 倍の値より小さくすることはできません。
4. Reserving IP addresses（IP アドレスの予約） — DHCP サーバーIP 範囲内の特定の IP を、内部ファイルサーバーなどの特定のデバイス用に予約するための設定リストです。
5. DHCP lease protection（DHCP リース保護） — これは、有効にすると、リース期限切れの IP が現在オンラインになっているかどうかを確認するためのコントローラのオプションのチェックメカニズムです。はいの場合、コントローラはユーザーセッションが終了するまでこの IP アドレスの発行を停止します。
6. 「Apply」をクリックして変更を有効にしてください。

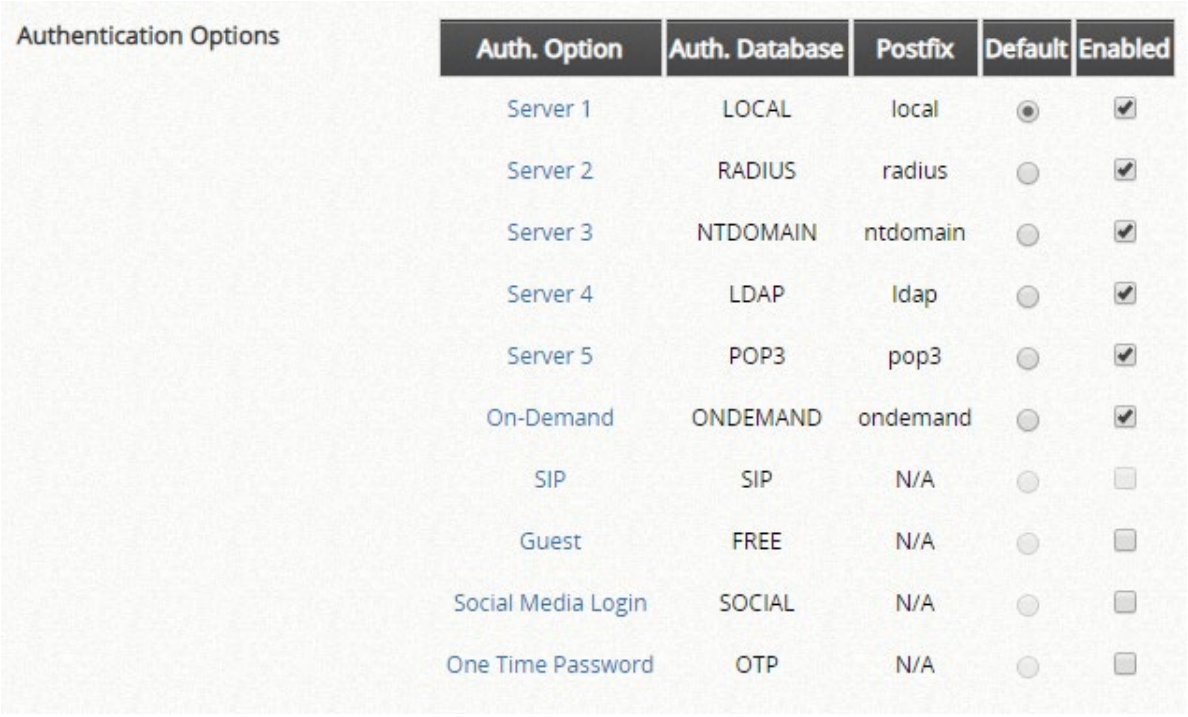
6.2.5.認証オプション

設定パス：Main Menu >> System >> Service Zones >> Configure

管理者が Main Menu で認証サーバーを正しく設定すると、各サービスゾーンは、ダウンストリームクライアントに優先されるログイン用の認証オプションを選択できます。デフォルトでは、認証は常に有効になっていることに注意してください。

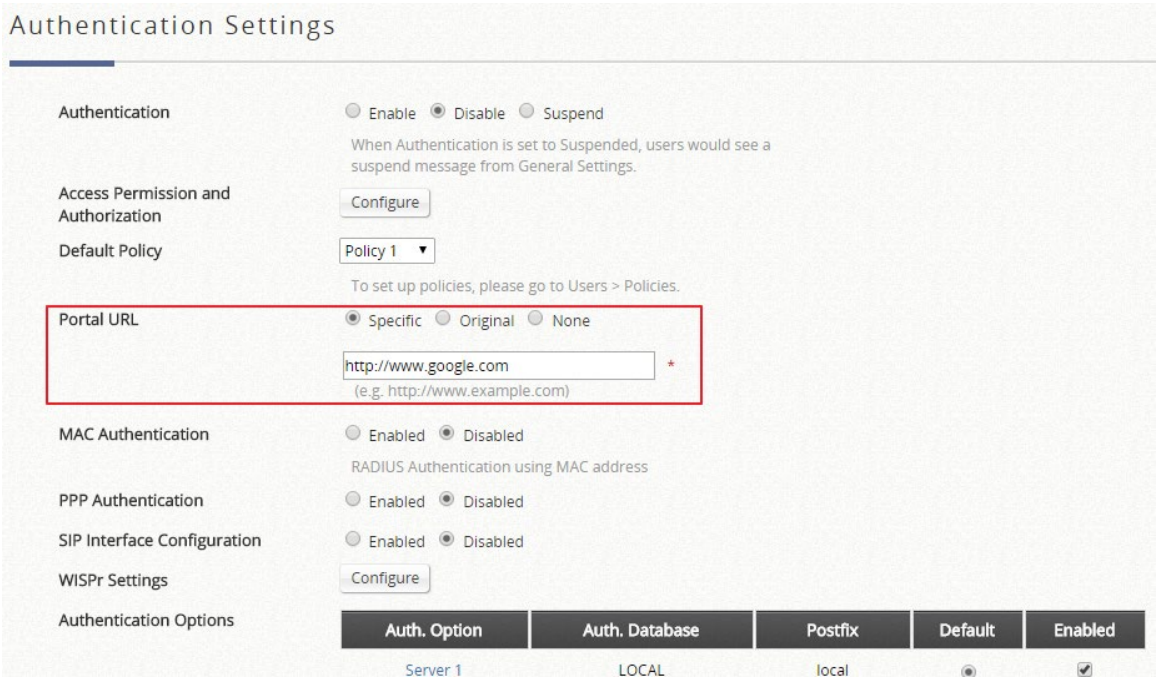
1. Databases

管理者は、使用する設定済みの認証サーバーを指定できます。複数の認証サーバーがサービスに対して有効になっている場合、接尾辞は認証サーバー識別子として使用されます。



2. Portal URL

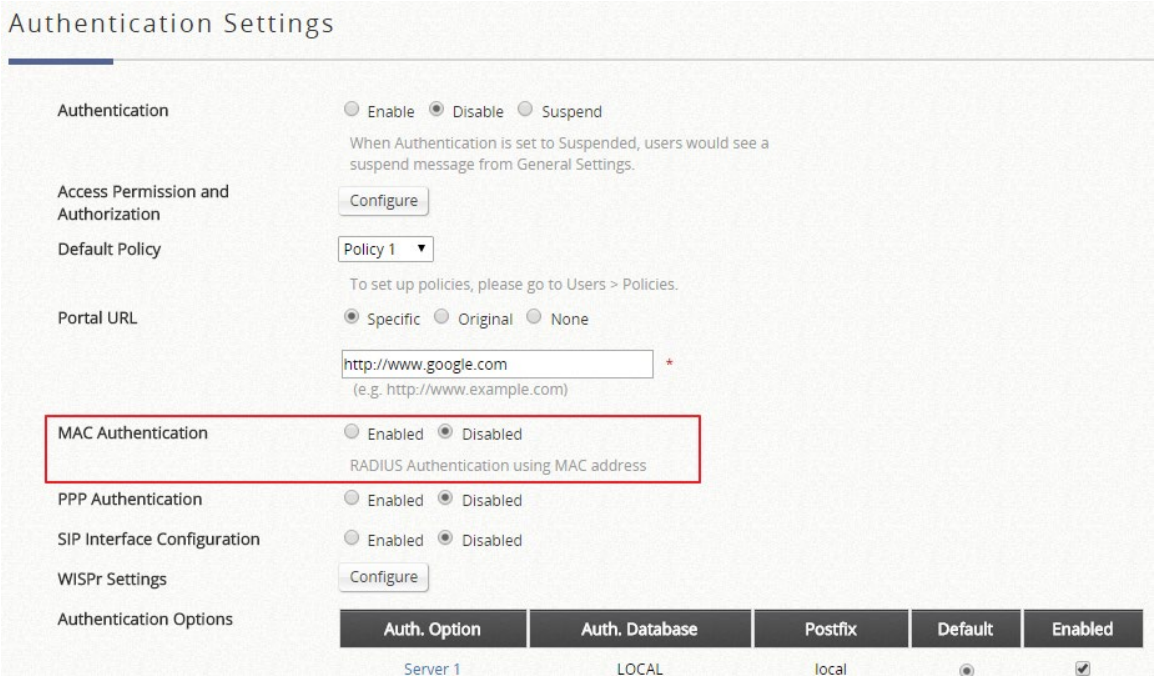
ここで必要なランディングページの仕様を設定できます。有効にすると、管理者はユーザーの初回ログイン後に開いたブラウザの URL を設定できます。



3. MAC address authentication（MAC アドレス認証）

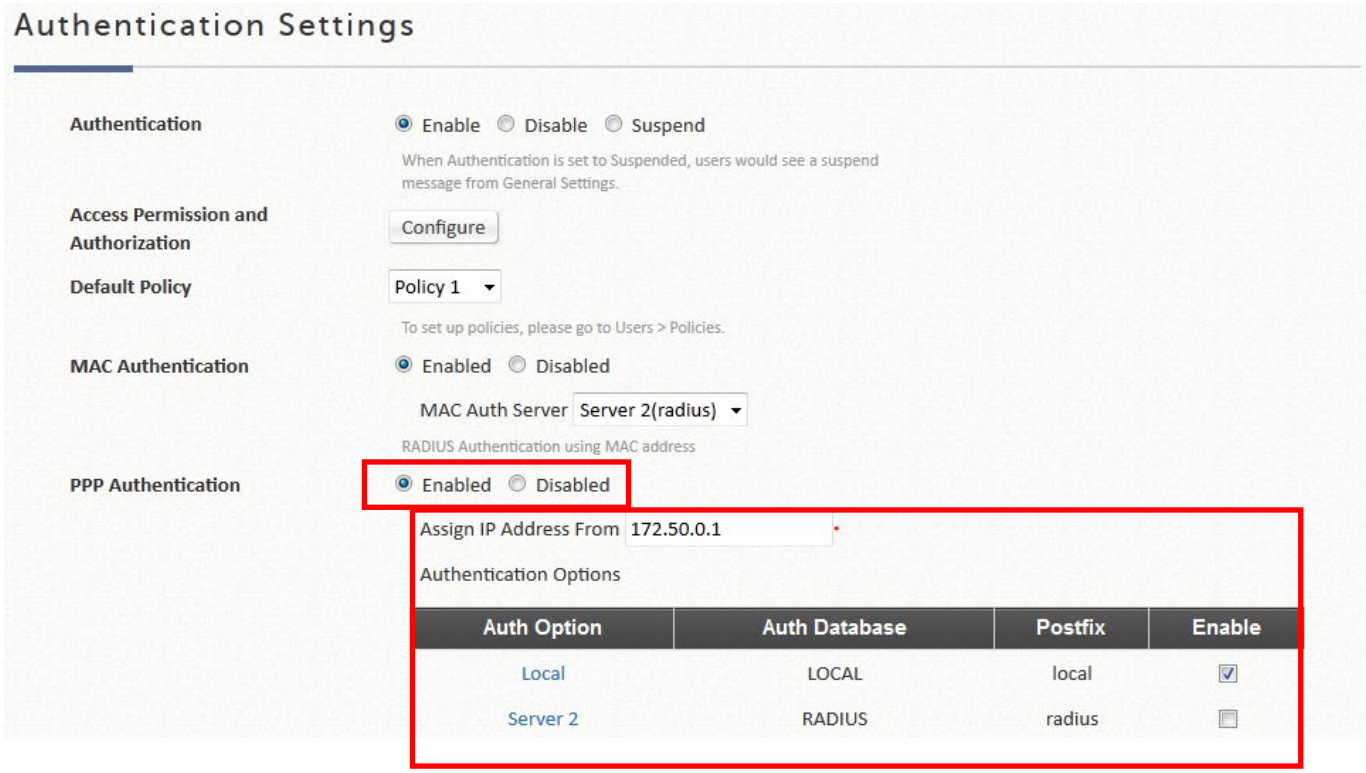
RADIUS MAC 認証機能が有効になると、接続されたデバイスに設定された RADIUS サーバーに MAC アドレスが入力されている場合、コントローラは自動的に認証され、認証が成功する

とすぐにアクセスを許可します。ユーザーは、透過的なログインを経験します。



4. PPP dial-up authentication（PPP ダイヤルアップ認証）

ポイントツーポイントプロトコル（PPP）とは、2 つのネットワークノード間の直接接続を確立するために一般的に使用されるデータリンクプロトコルです。この機能がサービスに対して有効になっている場合、エンドユーザーは有効なユーザー名とパスワードを使用してダイヤルアップ接続設定を設定できます（ローカルユーザーと RADIUS ユーザーのみをサポートします）。ダイヤルアップ接続が確立されると、ユーザーは UAM ログインなしで正常に認証されます。

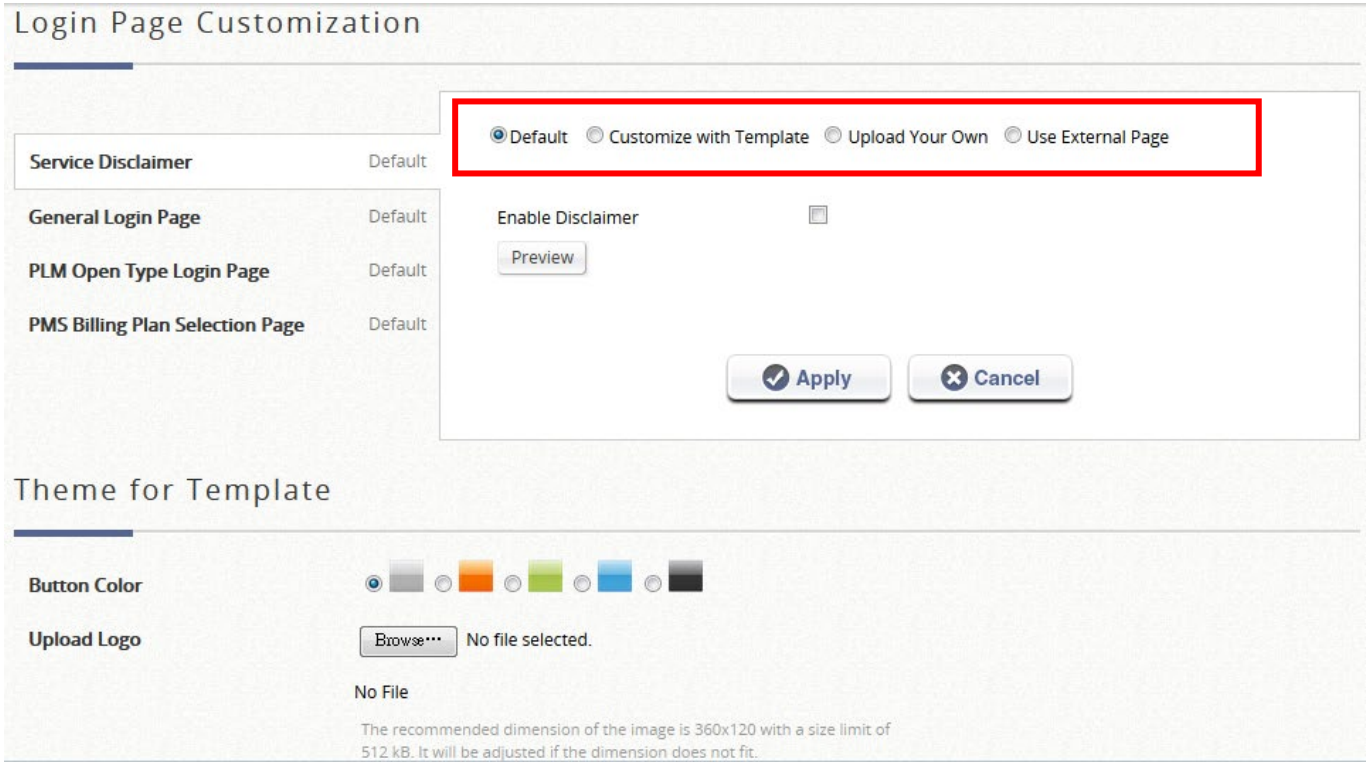


IP Address Range Assignment（IP アドレス範囲の割り当て）フィールドは、PPP がダイヤルアップ仮想インターフェースに IP アドレスを割り当てることができる開始 IP 範囲を設定します。割り当てられたインターフェース IP アドレスは、トンネルの両側のネットワーク間のルーティングに使用されます。

6.2.6.キャプティブポータルのカスタマイズ

設定パス：Main Menu >> System >> Service Zones >> Configure

各サービスゾーンには、固有のログインページまたはメッセージページを持つように設定できます。ログインページには 3 つのタイプがあります。一般ログインページ、PLM オープンタイプログインページ（ポートロケーションマッピングの無料アクセス用）、および PMS 請求プラン選択ページです。必要に応じて、サービス免責事項ページを有効にできます。これらのページは完全にカスタマイズ可能で、管理者には完全な柔軟性を提供します。メッセージページはカスタマイズでき、メッセージページには以下が含まれます。ログイン成功ページ、オンデマンドユーザーのログイン成功ページ、ログイン失敗ページ、デバイスログアウトページ、ログアウト成功ページ、ログアウト失敗ページ、およびオンラインデバイスリストです。



Edgecore のデフォルトページとは別に、いくつかのカスタマイズオプションがあります。Customize with Template（テンプレートでのカスタマイズ）、Upload Your Own（独自のアップロード）、Use External Page（外部ページの使用）、Editor を使用できます。

Edgecore Default：ゲートウェイには、Edgecore ロゴが付いた標準の Edgecore デフォルトログインページがあり、管理者は必要に応じてサービス免責事項を有効にすることができます。

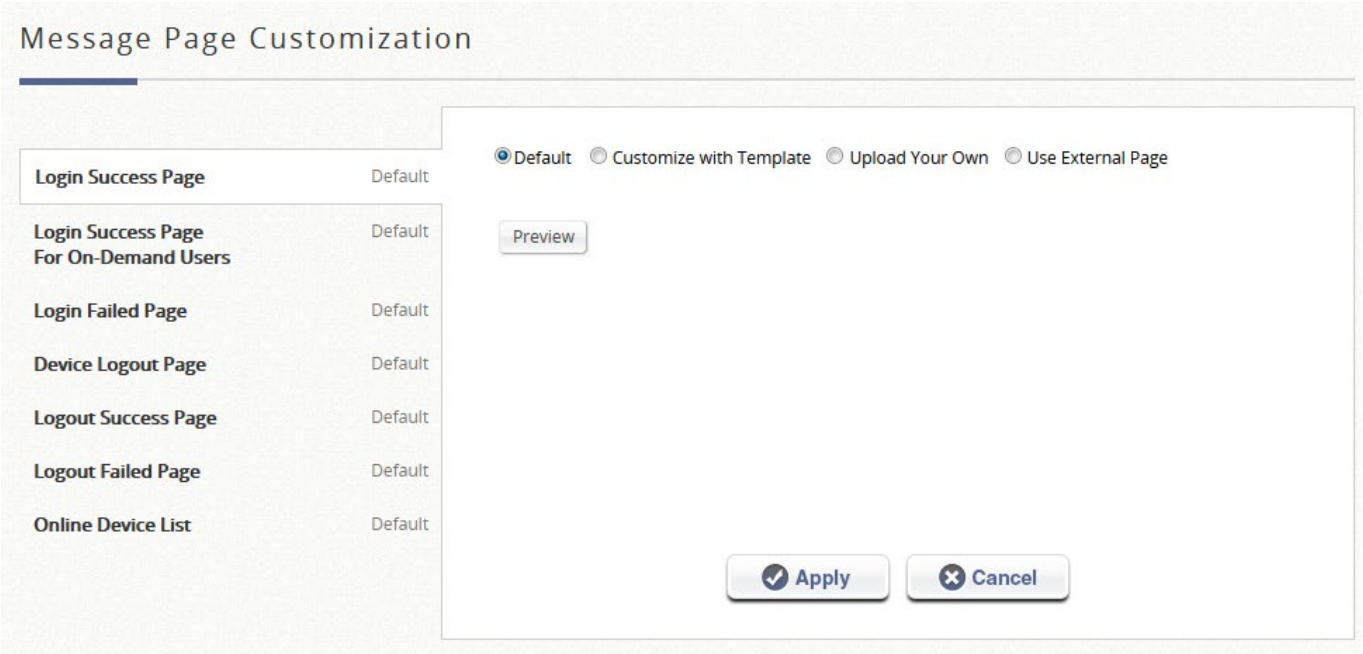
Customize with Template（テンプレートでのカスタマイズ）：このオプションでは、管理者が簡単にカスタマイズできるようにテンプレートが用意されています。一般的なレイアウトは管理者用に設定されていますが、内容は自分の好みに合わせてカスタマイズできます。カラーテーマとロゴをアップロードし、サービス免責事項などのコンテンツフィールド、テキストカラーをテンプレート内のレイアウトに入力することができます。

Upload Your Own（独自のアップロード）：管理者には、ログインページとして html ファイルをアップロードするオプションがあります。「Download HTML Sample File」（HTML サンプルファイルのダウンロード）では、編集元となるサンプル HTML コードを管理者に提供します。このサンプル HTML コードをダウンロードしたら、任意のブラウザでファイルを開き、右クリックして「View Page Source」（ページソースの表示）を選択してください。ファイルが.html 形式で保存されていれば、任意のテキストエディタで HTML コードを編集できます。

Use External Page（外部ページの使用）：ログインページには、定義済みの外部 URL を指定できます。このオプションでは、メッセージページと連携する URL パラメータの使用に関する広範な知識が必要であり、慎重に編成する必要があります。外部ログインページのカスタマイズの詳細については、ユーザーマニュアルの付録 C を参照してください。

Editor（エディタ）：ログインページは、見たままが得られる（WYSIWYG）エディタで編集することができます。エディタを使用すると、管理者はシンプルで直感的な方法でページ内の要素を追加、削除、または構成できます。現時点では、このオプションは一般ログインページでのみ使用できます。

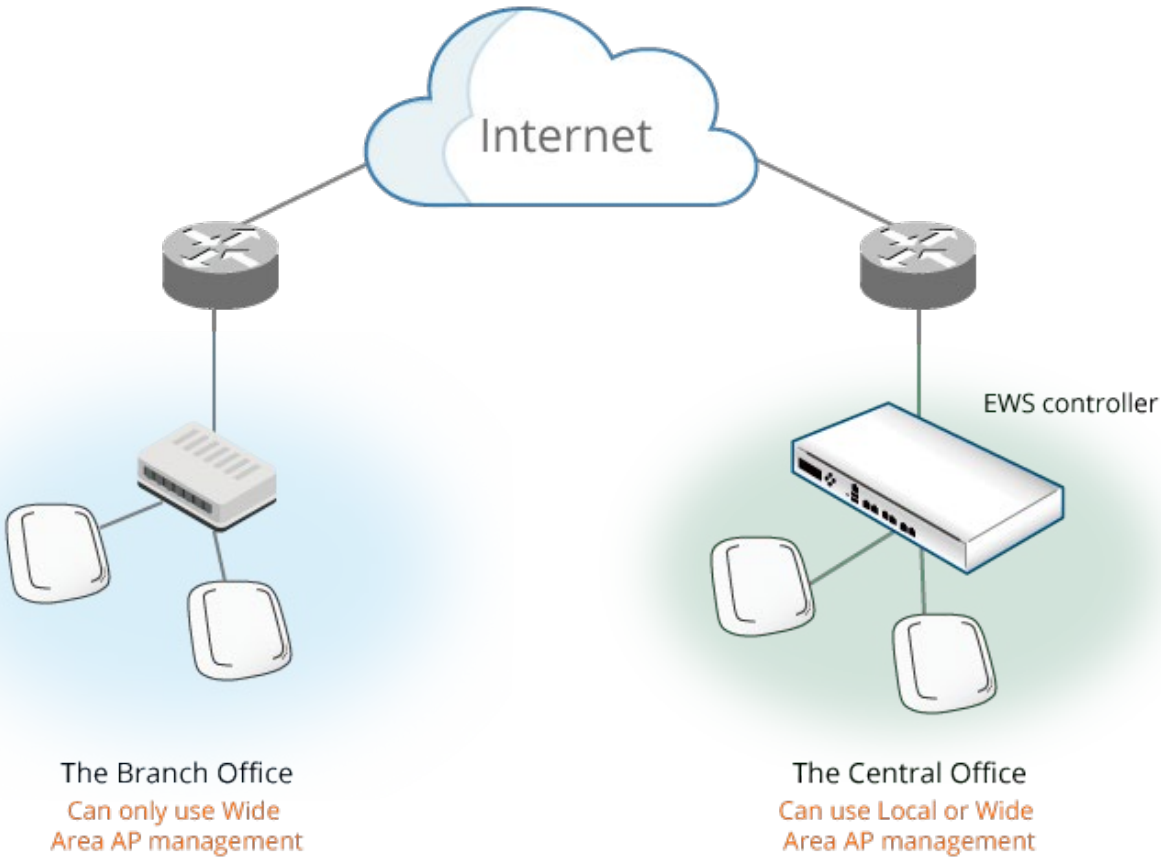
カスタムページのプレビューを表示するには、「Apply」をクリックし、「Preview」ボタンをクリックしてください。同様に、メッセージページにもその 4 つのオプションを使用できます。



第7章　基本的な AP 管理

7.1.　はじめに

アクセスポイントの管理は、ネットワーク管理者にとって常に重要です。したがって、Edgecore はそれを実現するためのシンプルでわかりやすい管理ツールセットを提供しています。一般的には、WAN 側と LAN 側の両方でアクセスポイントを担当するコントローラを備えた集中型ネットワークをお勧めします。インターネットやイントラネットの拡張性を考慮して、WAN 側の AP 管理を「**ワイドエリア AP 管理**」と呼び、LAN 側の AP 管理を「**ローカルエリア AP 管理**」と呼びます。以下は、これら 2 つの管理タイプの概念を示しています。

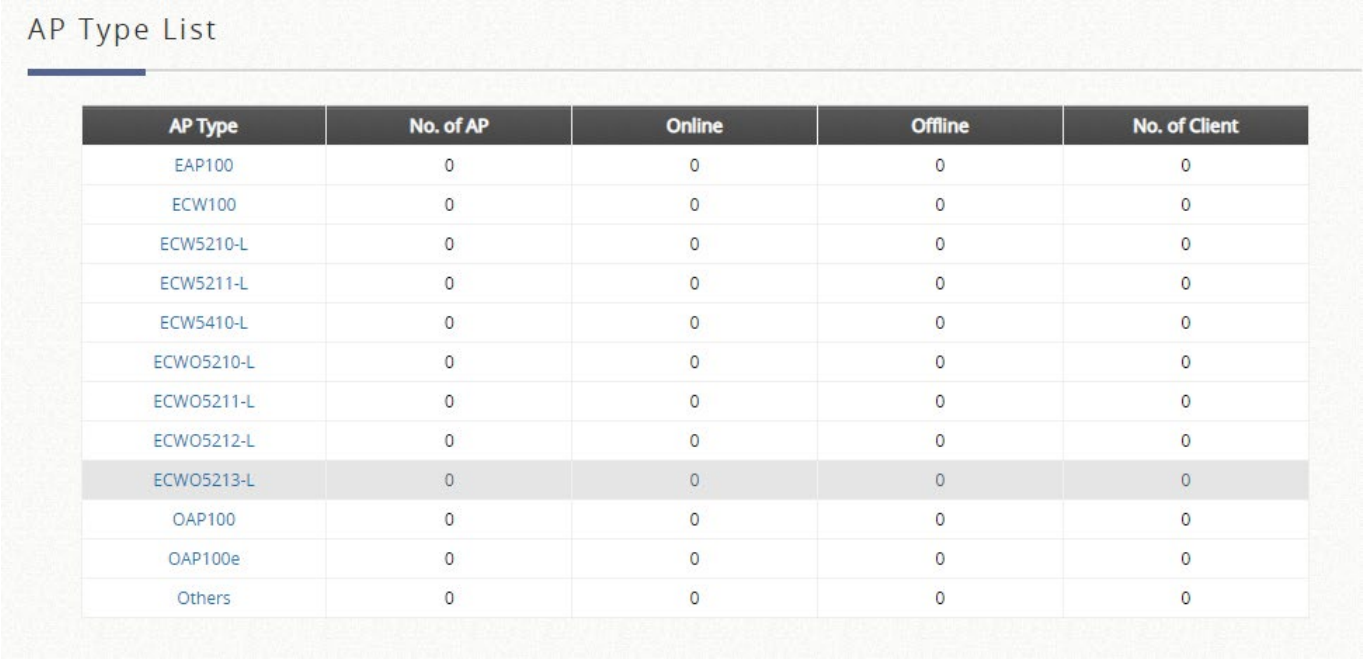


【ワイドエリアとローカル AP 管理図】

Edgecore EWS モデルは、Edgecore アクセスポイントによって管理性が異なります。つまり、管理者は、お使いの Edgecore EWS コントローラがサポートする AP モデルを確認する必要があります。

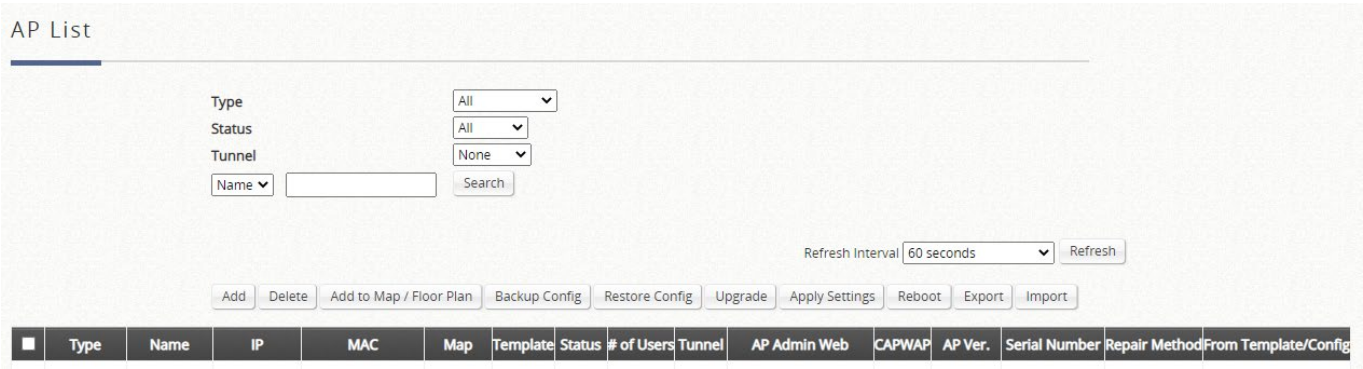
ローカル AP 管理用の管理可能な Edgecore アクセスポイントは、次の場所から確認できます。

Main Menu >> Devices >> Local Area AP Management >> Overview



ワイドエリア AP 管理用の管理可能な Edgecore アクセスポイントは、次の場所から確認できます。

Main Menu >> Devices >> Wide Area AP Management >> Overview



大規模な AP 配置の場合、個別の AP 設定は非常に時間がかかり、実用的ではありません。

ローカルエリア AP 管理では、各 AP モデルに対して最大 8 つのテンプレートを使用できます。これには、主に無線バンド、データレート、送信電力、データレートなどの設定属性が含

まれます。AP を自動または手動で管理するために適用でき、AP を 1 つずつ設定する面倒なプロセスを回避できます。

ワイドエリア AP 管理には、管理者が集中管理で AP を設定するためのテンプレートもあります。

この章では、AP 管理の観点から無線ネットワーク環境を設定する方法について詳しく説明し、AP の検出と追加、一般的な AP 設定などの側面について説明します。このセクションでは、「不正 AP 検出」や「AP ロードバランシング」などの高度な設定ではなく、さまざまな一般的な AP 管理設定の明確な設定プロセスのみを扱っています。 リファレンスガイドでは、上位レベルのアプリケーションについて紹介しています。

メモ

1.AP をサービスゾーンに追加する前に、管理者は事前にゾーンに一般的なワイヤレス環境を設定する必要があります。その環境は、ローカルで管理された AP にのみ適用されます。
2.各 AP には、管理下に 1 つの固有の IP アドレスも割り当てられます。タグベースモードでは、AP アドレスはデフォルトサービスゾーンの DHCP サーバーによって与えられます。ポートベースモードでは、AP は関連サービスゾーンの DHCP サーバーによって IP アドレスを割り当てられます。

7.2 ローカルエリア AP 管理（EWS101、EWS5203、EWS5204、EWS5207)

設定パス：Main Menu >> Devices >> Local Area AP Management

このセクションでは、Edgecore EWS コントローラの LAN 側のアクセスポイントの管理について説明します。まず、コントローラの AP 管理リストにアクセスポイントを追加する方法論から始めます。その管理された AP にコントローラ上で適用できるユーティリティに至るまで、すべての方法を網羅しています。

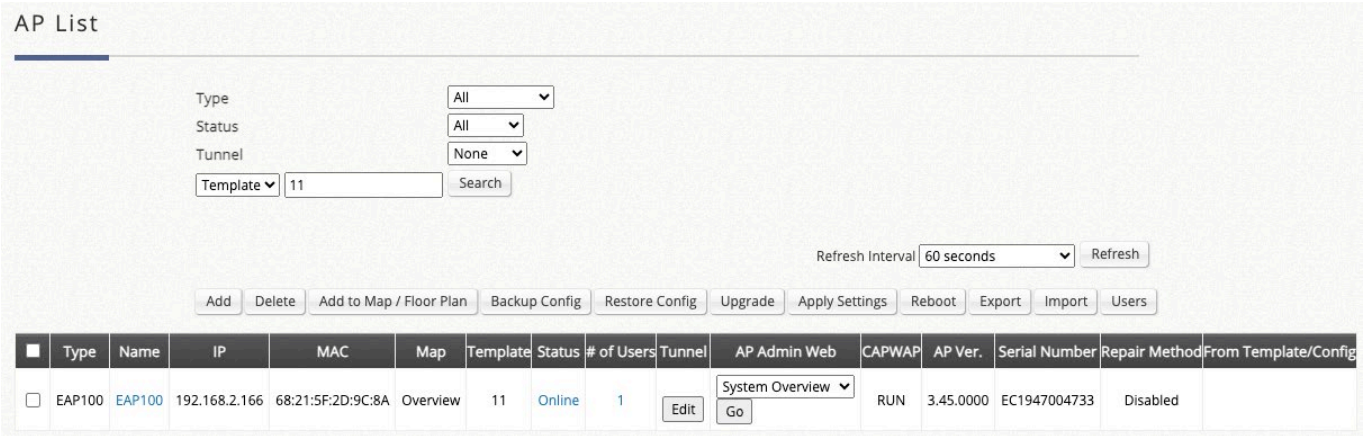
メモ

1. LAPM 関連機能は Wi-Fi 6 AP ではサポートされていません。

7.2.1 AP リスト

設定パス：Main Menu >> Devices >> Local Area AP Management >> AP List

システム管理下のサポート対象の AP がすべてリストに表示されます。必要な AP タイプのチェックボックスにチェックを入れて、Apply をクリックすると、AP リストに表示されます。ドロップダウンリストから選択して、AP 名、IP アドレス、MAC アドレス、チャネルに基づいて検索を行うことができます。さらに、テンプレート（ID）による検索の強化により、目的のテンプレートを採用した配備済み AP がフィルタリングされます。AP 名がハイパーリンクとして表示されます。管理対象の各 AP のハイパーリンクをクリックして、AP をさらに設定してください（一般設定、LAN 設定、無線 LAN、レイヤ 2 ファイアウォール）。AP の詳細ステータス情報（システムステータス、サービスゾーンステータス、ワイヤレスステータス、アクセス制御ステータス、および関連付けられたクライアントステータス）を表示するには、表示されている各管理対象 AP のハイパーリンクをクリックしてください。



管理者は、必要な AP モデルを選択して AP リストをフィルタリングできます。AP タイプの AP モデルを確認し、「Apply」をクリックしてフィルタを適用してください。

1 つの AP または複数の AP を追加するには、「Add」ボタンをクリックしてください。これは、セクション 7.2.2 の AP の追加と検出で詳しく説明しています。

AP の有効化または無効化、テンプレートおよびサービスゾーンの適用などのオプションは、AP リストの左側にあるチェックボックスにチェックを入れ、それぞれのボタンをクリックす

ることで行うことができます。AP テンプレートの設定の詳細については、セクション 7.2.3 のテンプレートの設定を参照してください。監視には、更新間隔オプションがあり、管理者は各管理対象 AP の正確なステータスを把握できます。

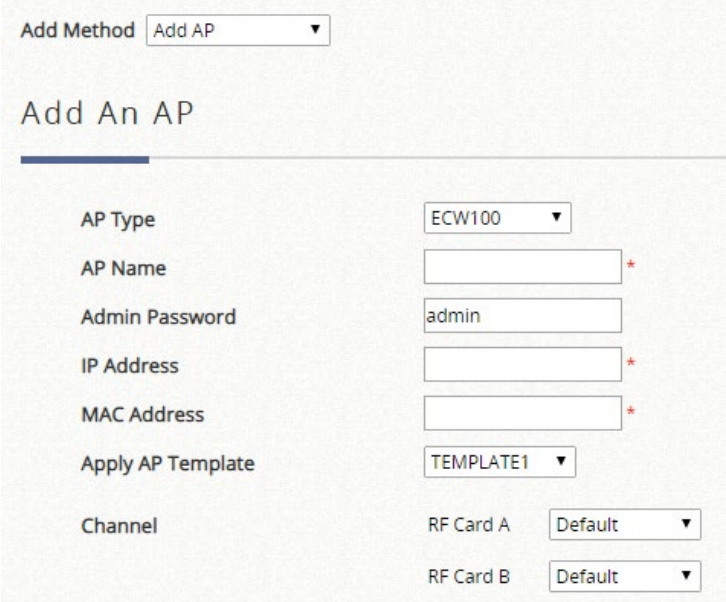
すべてのファームウェアバージョンが EWS の AP 管理機能と完全に互換性があるわけではありません。「Status」列で互換性を確認してください。

7.2.2 AP の追加と設定の適用

設定パス：Main Menu >> Devices >> Local Area AP Management >> AP List >> Add

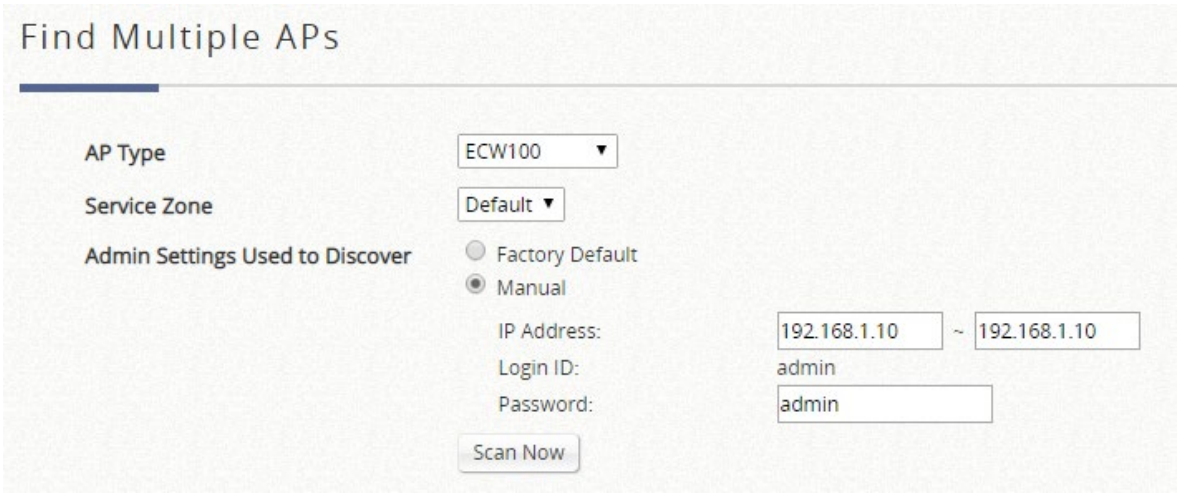
すべての AP が正しく接続されると、管理者は管理リストへの追加を開始できます。これは、AP リスト上にある「Add」をクリックすることで実現できます。AP は個別に、または一括で追加できます。これは「Add Method」（追加方法）によって決まります。ドロップダウンリストから「Add AP」を選択して AP を個別に追加するか、「Find Multiple APs」を選択して一括で追加してください。

AP を追加するには、AP 名を指定し、その IP アドレスと MAC アドレスを入力してください。赤いアスタリスクが付いた行は、必須の情報です。すべてのフィールドに入力したら、ページの下部にある **Apply** をクリックして AP を追加してください（AP を追加するには、必ずしもオンラインである必要はありません）。**AP List** をチェックして、追加を確認します。



AP を一括で追加するには、管理者は IP アドレス範囲をスキャンし、同じタイプの AP をまとめて検出します。

1. 「Factory Default」（工場出荷時のデフォルト）スキャン — 管理者が AP の設定を変更していない場合に使用します。そして、どのフィールドにも記入する必要はありません。**Scan Now** をクリックするだけです。
2. 「Manual」（手動）スキャン —AP の IP アドレスが 192.168.1.1 以外のアドレスに変更された場合に使用します。スキャンする IP アドレスの範囲を入力し、**Scan Now** をクリックしてください。



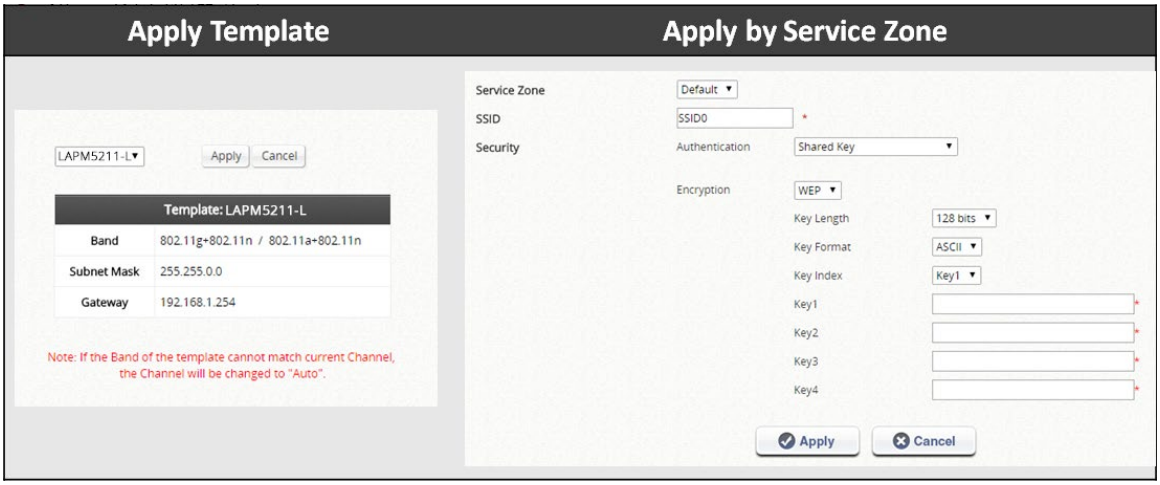
Discovery Results（検出結果）表には、現在生きているすべての AP が表示されます。AP を見つけたら、管理者は適用するテンプレートと動作チャネルをさらに設定し、さらに有効にした特定のサービスゾーンに AP を配置できます。

メモ

1. コントローラが AP を検出するまでに時間がかかる場合があります。スキャン対象の AP が **Discovery Results**（検出結果）リストに表示されるまで、しばらくお待ちください。
2. 検出リスト上にある **Background** を有効にすると、管理者の設定に基づいて、一定時間ごとにワイヤレス環境をスキャンできます。**Configure** をクリックして、機能を設定してください。

それ以降の AP 設定の変更は、AP 名の下にあるハイパーリンクから行うことができます。AP 名のいずれかをクリックして、**一般設定、LAN インターフェース設定、ワイヤレスインターフェース設定**などの設定ページにアクセスしてください。
また、**再起動、有効化、無効化、削除、テンプレートの適用、サービスゾーン別に適用、デフォルトにリセット**を示すボタンが並んでおり、AP リストの内容を変更するための名前としては非常に直感的です。事前に 1 つまたは複数の AP を選択し、1 つの機能を実行してください。

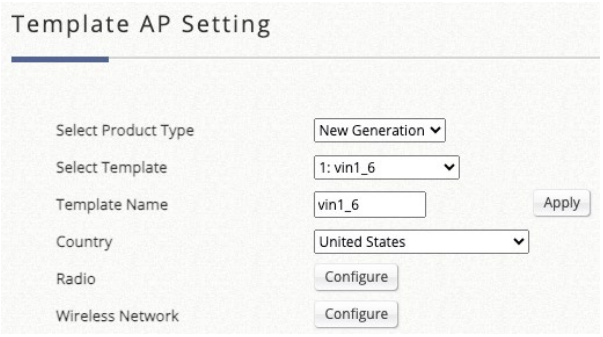
Applying template（テンプレートの適用）は、管理者が事前に用意した基本的な無線パラメータなどの AP 設定を初期化するために設計されています。Edgecore のローカルエリア AP 管理機能は、管理者が実用的な使用期間を経て、SSID 名やワイヤレスセキュリティ事前共有キーなどの VAP 設定を変更したい場合に、設定を適用するための別のオプション、すなわち **Applying by Service Zone**（サービスゾーン別に適用）機能を提供しています。VAP が選択したサービスゾーンにマッピングされているかどうかを確認するだけです。

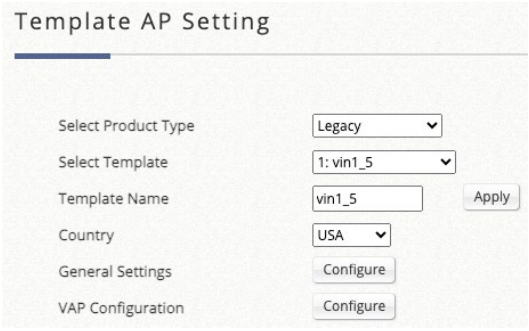


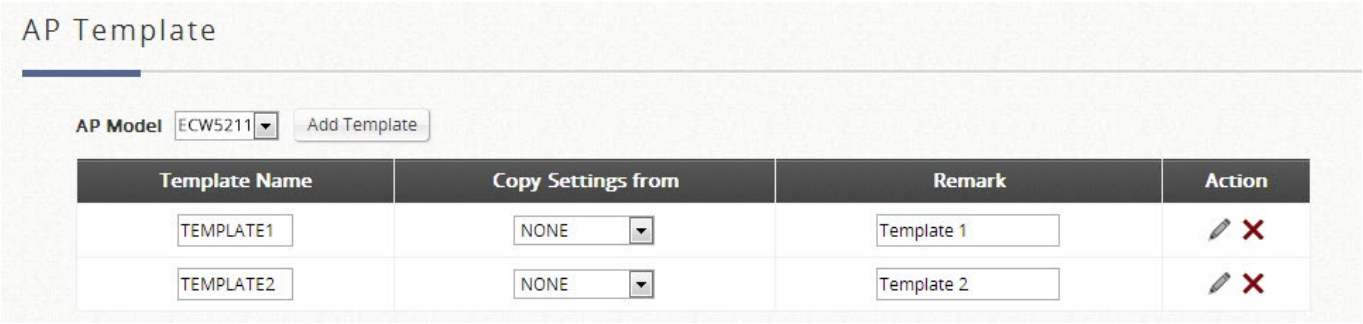
7.2.3 テンプレートの設定

設定パス：Main Menu >> Devices >> Local Area AP Management >> Templates

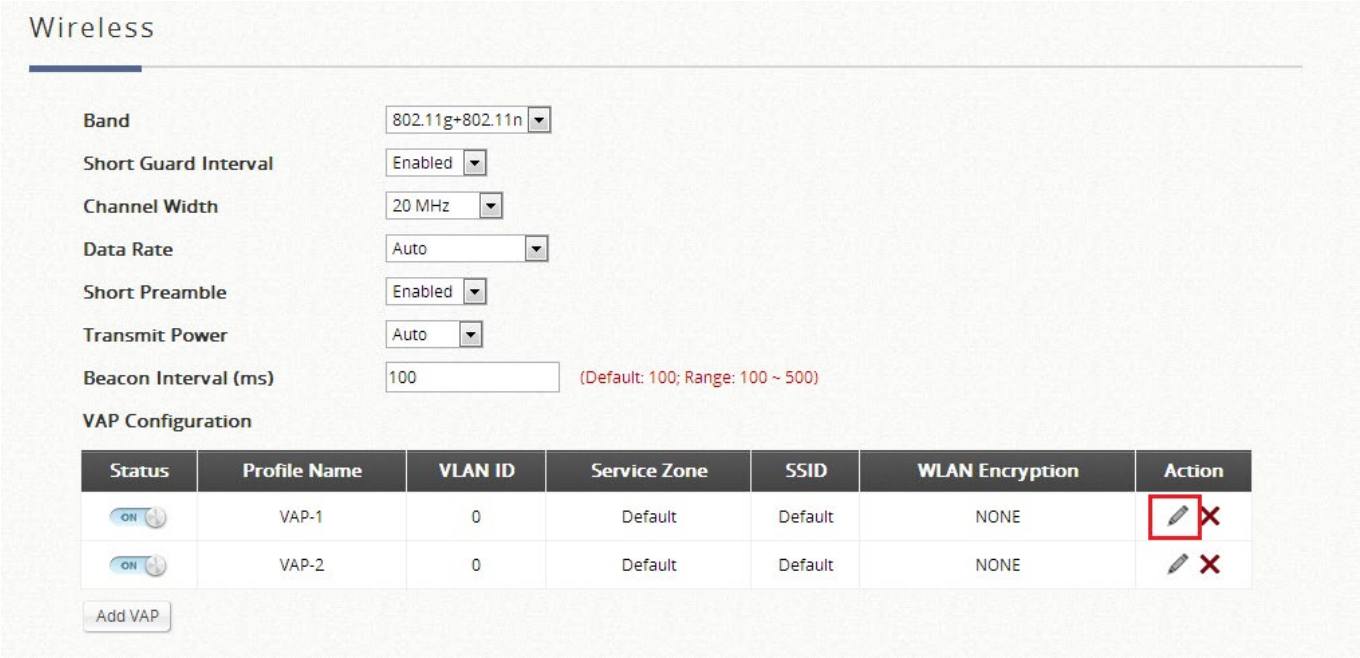
冒頭で述べたように、管理者は AP 設定のテンプレートを使用して、面倒な AP 設定タスクを 1 つずつ排除できます。サブネットマスクやデフォルトゲートウェイなどの詳細な設定を表示するには、**Configure** をクリックしてください。異なるテンプレート名を持つレガシーAP と新世代 AP の両方に対応するテンプレートを、AP モデルごとに最大 8 つまで保存できます。「Add Template」ボタンをクリックしてテンプレートを増やし、Action 列の下に表示される「編集」アイコンをクリックして設定を編集してください。







ここでは、AP のデフォルトゲートウェイなどの一般的な設定を行います。ワイヤレス設定と該当するサービスゾーン/SSID もここで設定できます。



SSID とワイヤレスセキュリティは、サービスゾーンごとに指定できます。配置のニーズによっては、個々のサービスゾーンの管理対象 AP デバイスにアクセスフィルタリングが課される場合があります。VAP Configuration（VAP 設定）リストの下にある Wireless Settings（ワイヤレス設定）セクションでは、Access Control（アクセス制御）リストを含むワイヤレス設定を指定できます。

管理者は、サービスゾーンごとに、認証と暗号化を含むワイヤレスセキュリティプロファイルを設定できます。利用可能なオプションは、オープンシステム、共有キー、WPA、WPA2 または WPA/WPA2 混合です。

WEP：認証がオープンシステムまたは共有キーの場合、WEP が有効になります。
WPA2：認証が WPA の場合、WPA パーソナルまたは WPA エンタープライズは、WPA のオプションになります。WPA パーソナルでは、事前共有キーとしてパスフレーズまたは HEX を選択できます。
WPA/WPA2 混合：認証が WPA の場合、WPA パーソナルまたは WPA エンタープライズは、WPA のオプションになります。WPA パーソナルでは、事前共有キーとしてパスフレーズまたは HEX を選択できます。

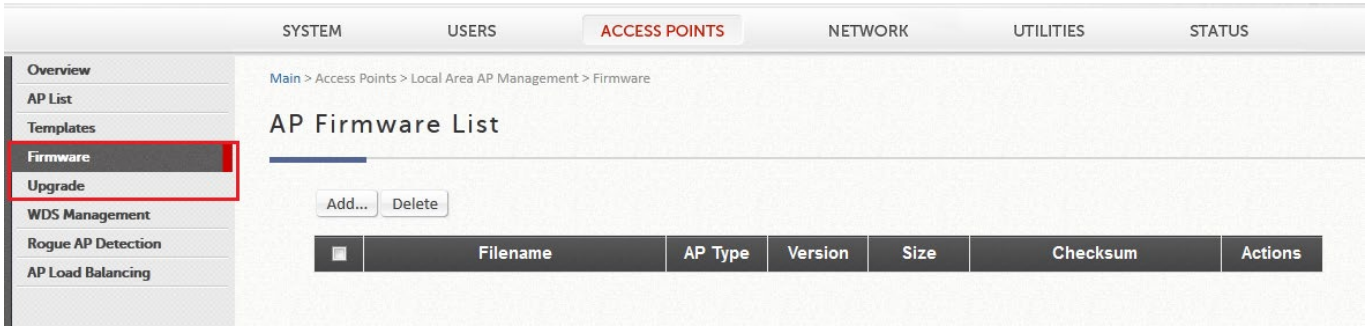
MAC address フィールドは、管理者が拒否または許可する MAC アドレスを入力するためのフィールドです。ステータス「Denied」（拒否）は、ブラックリストを設定したことを意味しま

す。「Allowed」（許可）は、ホワイトリストを設定したことを意味します。「Disable」（無効）は、以下に設定されている MAC エントリに関係なく、アクセスフィルタリングが課されないことを意味します。

Status	MAC Address	コントローラによって実行されるアクション
Disabled（無効）		コントローラは、このサービスゾーンの AP に MAC ACL を適用しない
Allowed（許可）	Enabled（有効）	AP では、これらのアドレスを持つデバイスだけが、このサービスゾーンの AP に関連付けることを許可します。
Allowed（許可）	Disabled（無効）	AP では、これらのアドレスを持つデバイスがこのサービスゾーンの AP に関連付けることを許可しません。
Denied（拒否）	Disabled（無効）	これらのアドレスを持つデバイスは、このサービスゾーンの AP に関連付けることができます。
Denied（拒否）	Enabled（有効）	AP では、これらのアドレスを持つデバイスがこのサービスゾーンの AP に関連付けることを許可しません。

7.2.4.AP ファームウェア管理

強化された標準/機能のためにソフトウェアの強化の多くが定期的にリリースされているため、ファームウェアのアップグレードは重要です。Edgecore では、コントローラの AP 管理インターフェースから簡単にファームウェアのアップグレードプロセスが提供されるため、管理者は複数の AP デバイスを一度にアップグレードできます。



1.まず、ファームウェアを追加し、Devices >> Local Area AP Management >> Firmware でファームウェアファイルを選択し、行の横にある **Upload** をクリックして、AP ファームウェアをコントローラ内に保存してください。

2.Devices >> Local Area AP Management >> Upgrade で必要な AP をアップグレードし、バージョンをインポートしたい AP を選択してください。選択が完了したら、ページの下部にある **Upgrade** をクリックしてください。

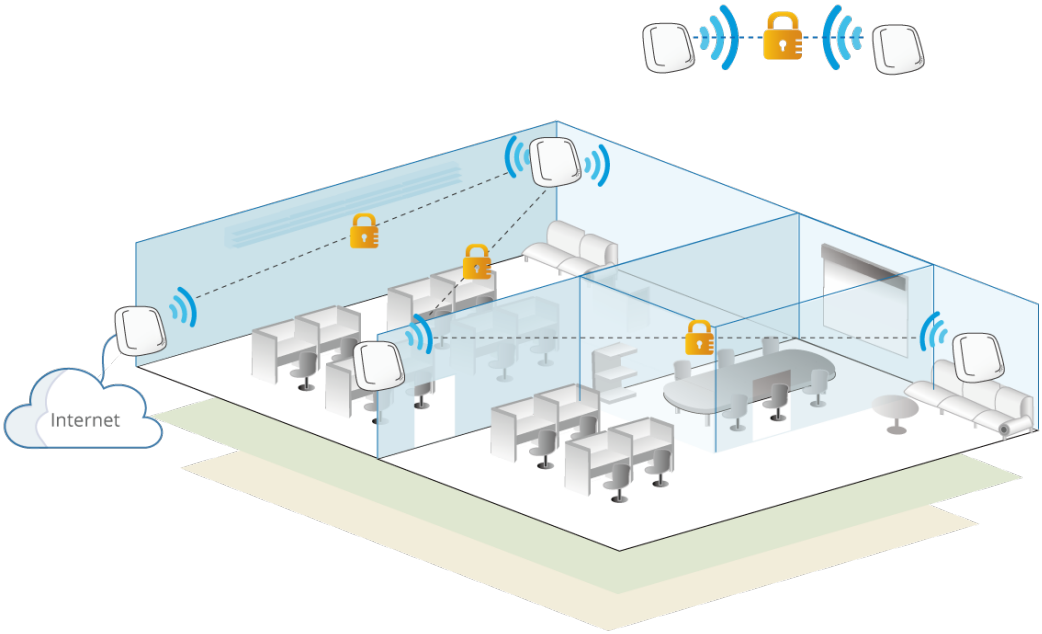
メモ

1. 予期せぬ結果を避けるため、各 AP ファームウェアのリリースノートをお読みください。

7.2.5 WDS リンク

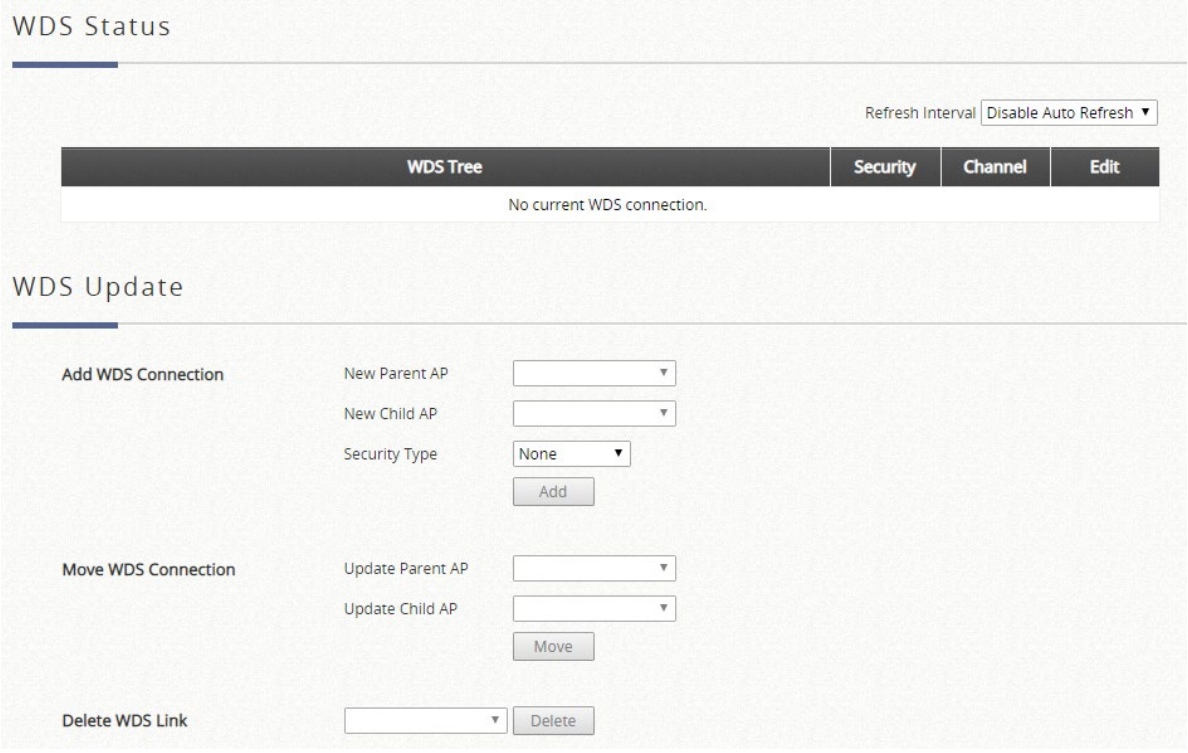
設定パス：Main Menu >> Devices >> Local Area AP Management >> WDS Management

WDS は、Wireless Distribution System の頭字語で、追加の AP でネットワークの無線範囲を拡張する機能です。



【WDS 接続を示すシンプルなコンセプト図】

WDS 管理機能を使用すると、管理者は、管理された AP を使用して WDS ネットワークの「ツリー」構造を計画およびセットアップできます。

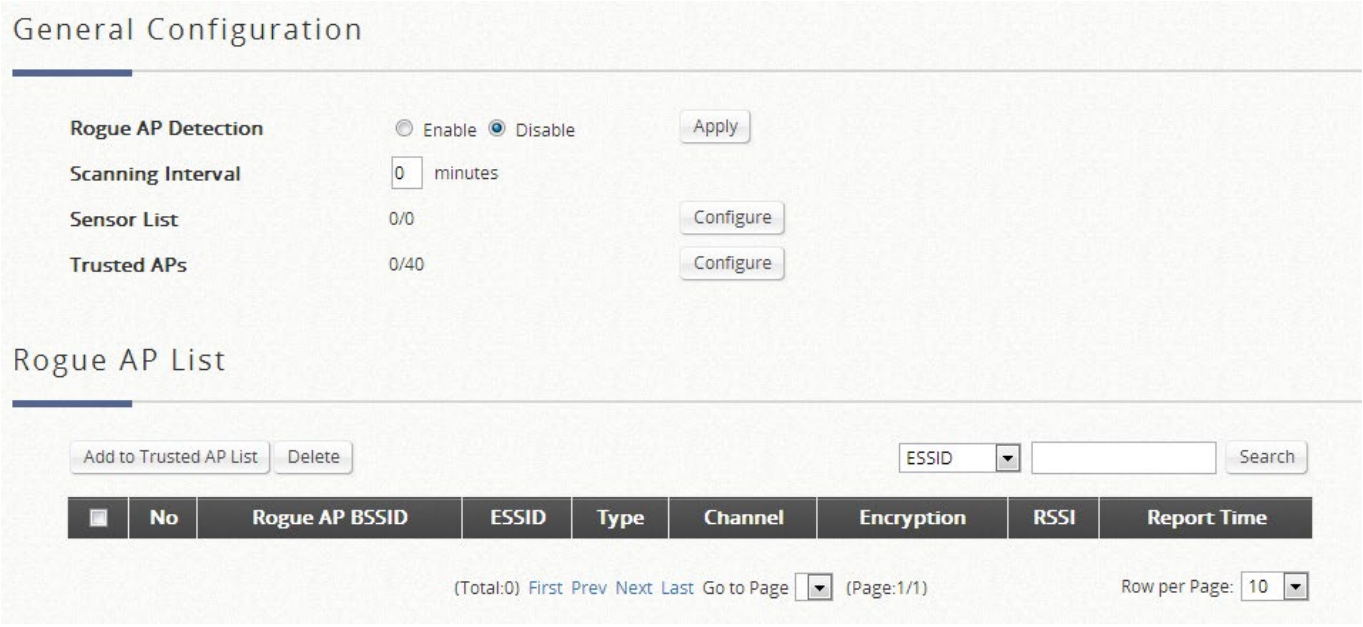


WDS Status：WDS ツリーに追加された AP を、Security と Channel の設定とともに表示します。ネットワークには複数の WDS ツリーを設定できます。関連する WDS ツリーの WDS 接続設定を変更するには、Edit をクリックしてください。このリストは、一定の間隔（10 秒、20 秒、30 秒、40 秒、50 秒、60 秒）で自動的に更新されるように設定できます。

WDS Update：新しい WDS 接続を追加するには、それぞれのドロップダウンリストから New Parent AP（新しい親 AP）と（新しい子 AP）を選択し、Add（追加）をクリックしてください。選択した親 AP が現在の WDS ツリーのいずれにもない場合、新しい WDS ツリーが追加されることに注意してください。現在の WDS ツリーを更新するには、それぞれのドロップダウンリストから Update Parent AP（親 AP を更新）と Update Child AP（子 AP を更新）を選択し、Move（移動）をクリックしてください。選択した更新子 AP の元の親 AP へのリンクが削除されることに注意してください。WDS リンクを削除するには、ドロップダウンリストから AP を選択し、Delete（削除）をクリックします。子 AP への WDS 接続を含め、選択した AP のすべての WDS 接続が削除され、有線接続のない子 AP には到達できなくなりますのでご注意ください。

7.2.6 不正 AP スキャン

不正 AP 検出は、ネットワーク環境を保護するもう 1 つの重要な方法です。ローカル AP 管理は、近くに存在する許可されていないアクセスポイントの検出をサポートします。
許可されていないアクセスポイントは、ワイヤレス干渉の観点から問題が発生する可能性があります。Main Menu >> Devices >> Enter Local Area AP Management >> Rogue AP Detection の順に選択して、この機能を設定してください。管理者は、スキャン間隔を決定し、スキャンジョブのための AP をセンサーとして選択し、安全なソースとして手動で識別できる場合は、疑わしい不正 AP リストに表示されている AP を信頼できるリストに追加する必要があります。



検出されたアクセスポイントが一時的に不正 AP リストに入れられます。ハイパーリンクされている BSSID のいずれかをクリックすると、その詳細情報が表示されます。ただし、管理者が、リストされた AP の一部を信頼できると認識した場合は、BSSID 列の前のチェックボックスにチェックを入れて、**Add to Trusted AP List**（信頼できる AP リストに追加）をクリックしてください。このアクションは、**Trusted AP Configuration**（信頼できる AP 設定）に記録されます。

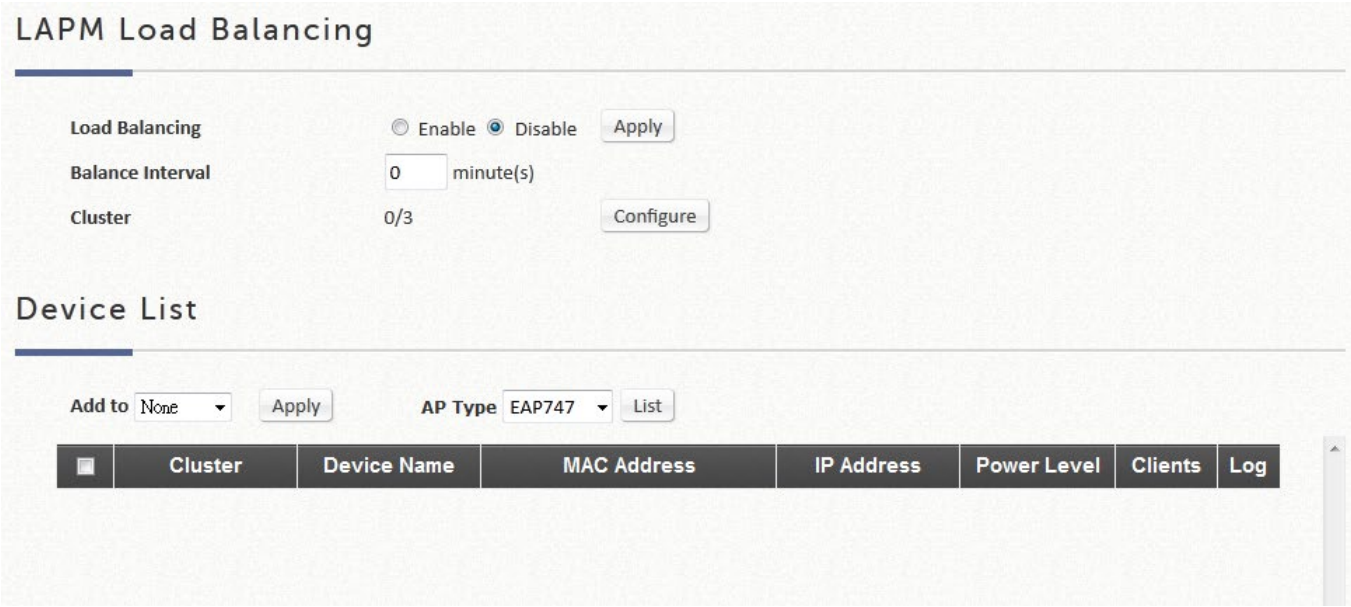
7.2.7 AP ロードバランシング機能

これは、管理対象 AP が過負荷にならないようにする機能です。システムは、状況において、AP の関連クライアント数が事前に定義されたしきい値を超えていることを検出し、同じグループ内の他の AP がまだしきい値を下回っている場合、バランシング機能は、過負荷の AP の送信電力を減少させ、他の利用可能な AP の送信電力を増加させるためにアクティブにされ、これにより、他の利用可能な AP が関連付けられる可能性が高くなります。システムは、管理対象 AP をグループに分割し、グループしきい値、および AP ロードバランシングをトリガーする時間間隔を定義できます。

ローカルエリア AP 管理機能は、さまざまな管理対象 AP のグループ化をサポートし、送信電力管理を実行して、同じグループの AP 間でネットワークの負荷をできるだけ均等に分散させます。

管理者は、AP ロードバランシング機能を適用する基準を指定できます。独自のロードバラン

シング開始基準を作成するためにカスタマイズできる属性には、強制間隔および関連するクライアントしきい値が含まれます。



AP デバイスのグループ化は、Device List ページで行うことができます。

7.3　ワイドエリア AP 管理

設定パス：Main Menu >> Devices >> Wide Area AP Management

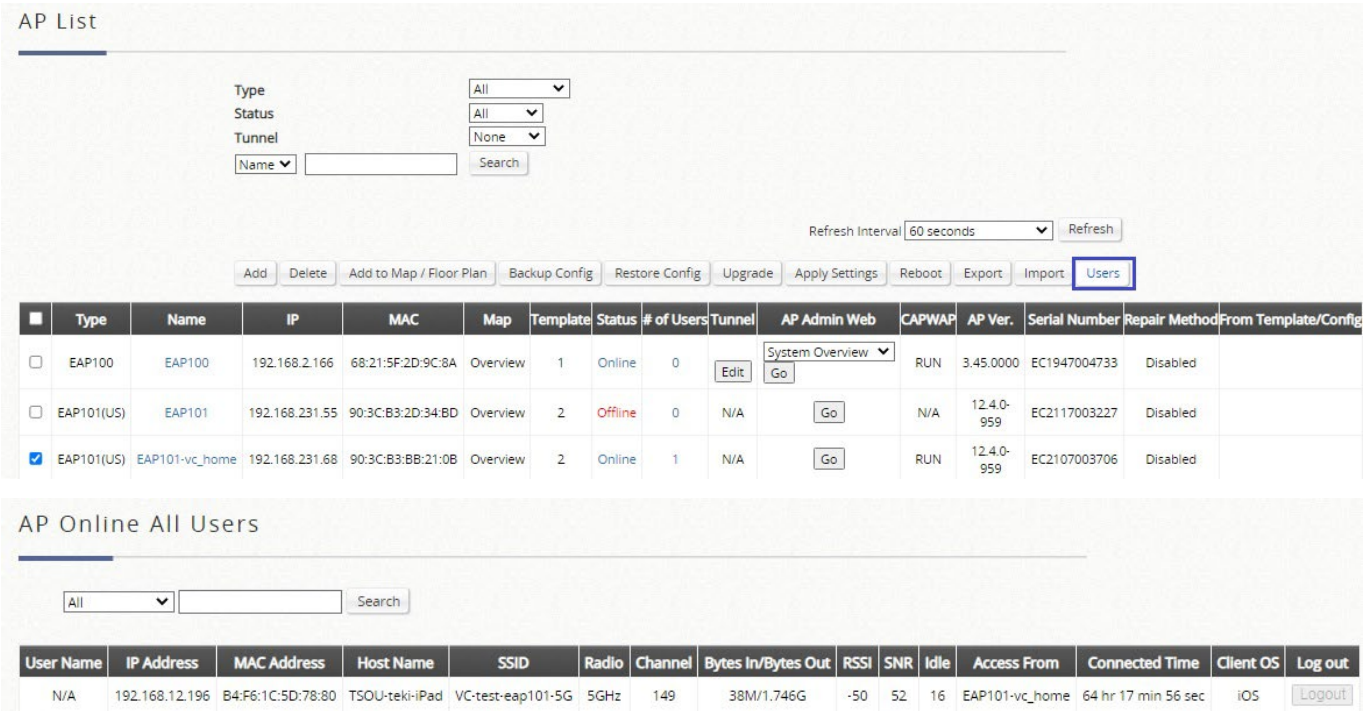
ここでは、Edgecore EWS コントローラから WAN 上のアクセスポイントを集中管理する方法について説明します。WAN 側の AP には、インターネット上でルーティング可能なパブリック IP アドレスがあることが想定されていることは注目に値します。

ワイドエリア AP 管理の主な利点：

- クロスレイヤ 3 IP ネットワーク管理
- 分散リモート AP サイトの一元化されたトラフィック転送。
- 簡単な参照と配置計画のためのグラフィカルマップユーティリティ。
- サードパーティの AP デバイスのトラフィック送信統計情報。
- CAPWAP サポート、完全なトンネルおよびスプリットトンネル。
- 指定した AP のオンラインユーザーを表示します。

ワイドエリア管理対象アクセスポイントの概要は、AP リストに記載されています。

設定パス：Main Menu >> Access Points >> Wide Area AP Management >> AP List



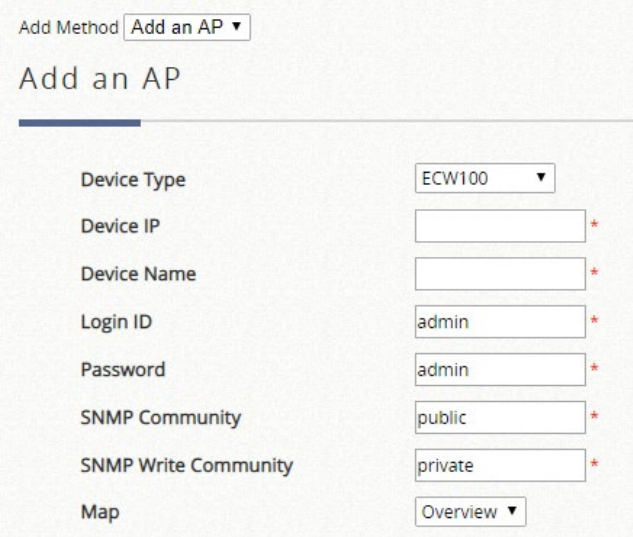
メモ

1. ワイドエリア AP 管理を使用すると、コントローラの WAN 側と LAN 側に物理的に配置された AP を管理できます。
2. 各 AP の WAPM 機能の詳細については、ユーザーマニュアルの「付録 F」を参照してください。
3. インポート機能は、CAPWAP が有効なレガシーデバイスにのみ対応しています。レガシーデバイスについては、ユーザーマニュアルの付録 F を参照してください。

7.3.1.アクセスポイントの追加

設定パス：Main Menu >> Access Points >> Wide Area AP Management >> AP List >> Add

追加ページでは、管理者は、ステータスに関係なく、1 つのアクセスポイントを管理リストに直接追加できます。デバイスの IP アドレス、名前、ログイン資格情報を設定し、SNMP コミュニティ文字列を設定し、Apply ボタンをクリックするだけです。

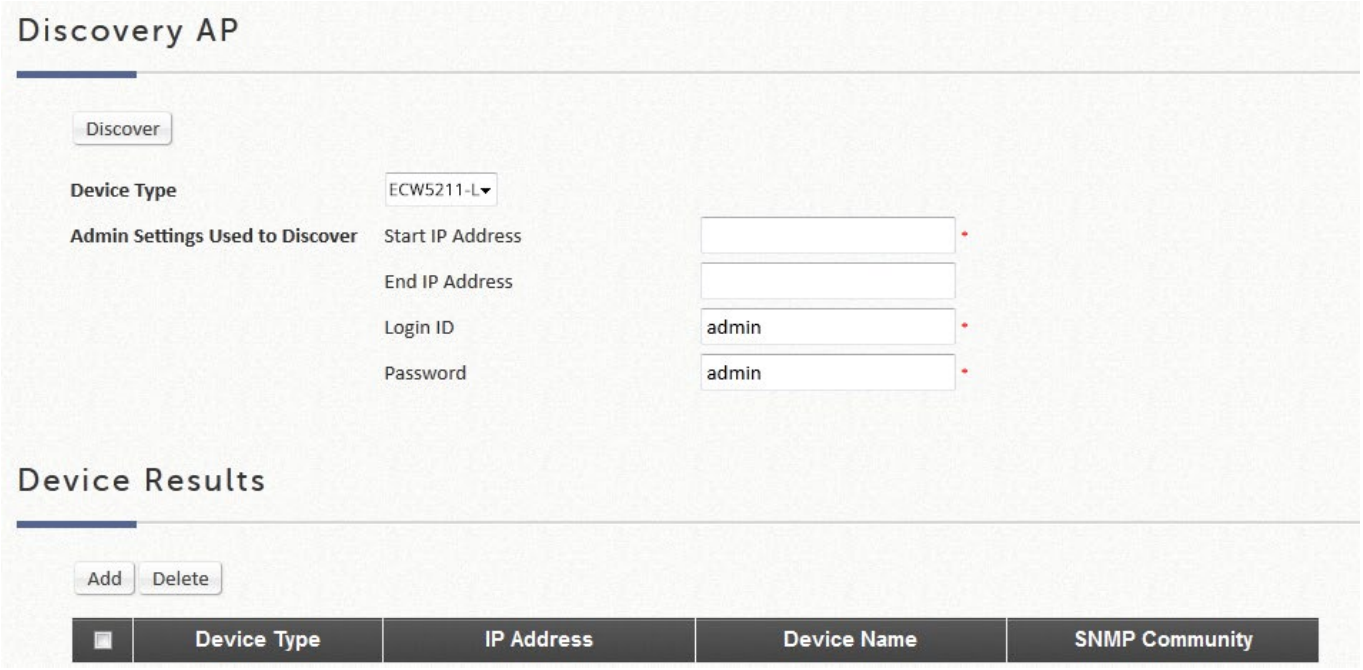


7.3.2.AP 検出による複数のアクセスポイントの検出

設定パス：Main Menu >> Access Points >> Wide Area AP Management >> AP List >> Add

AP 検出機能を使用すると、管理者は IP アドレスに到達できる限り、物理的な場所に関係なく AP をスキャンできます。IP スキャン範囲を設定できます。対象デバイスタイプを選択し、ス

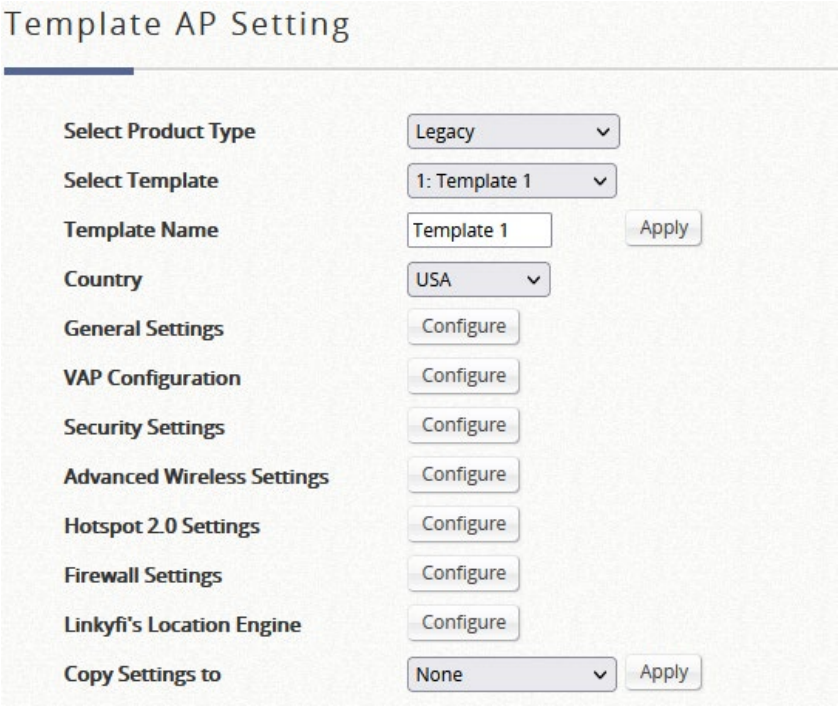
キャン IP 範囲と管理者設定を定義して、「Discover」（検出）をクリックしてください。検出プロセスの後、新しく検出された AP が Device Results（デバイスの結果）に表示されます。管理者は、個々の AP デバイス名と SNMP コミュニティ文字列を指定できます。Add ボタンを選択し、クリックすると、検出された AP がリストに追加されます。



7.3.3 テンプレートを使用する AP 設定

テンプレートを使用した設定は、ワイドエリア AP 管理用に選択したモデルでサポートされています。

設定パス：Main Menu >> Devices >> Wide Area AP Management >> Template



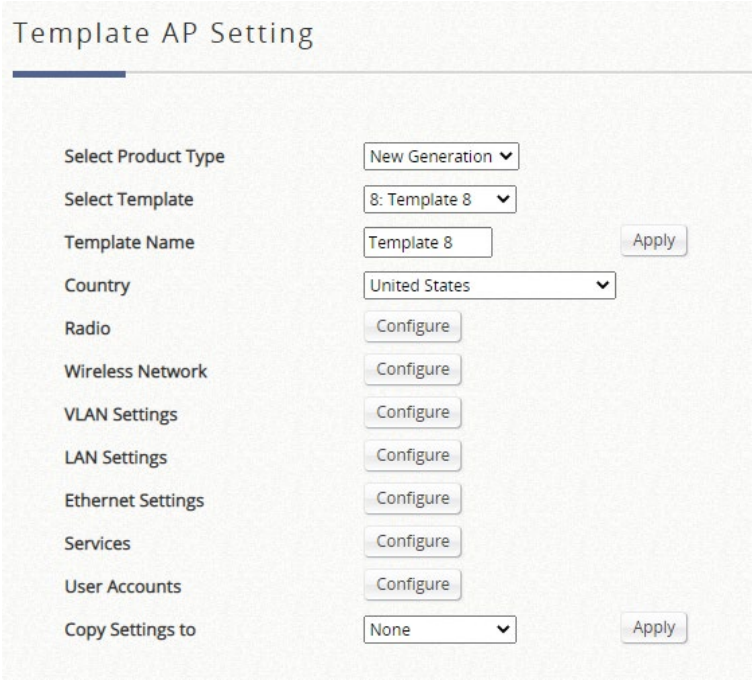
テンプレートが用意されており、アクセスポイントの無線で設定可能なすべての機能をテンプレートから設定することができます。各モデルハードウェアのテンプレート数の詳細については、ユーザーマニュアルの付録 A を参照してください。

選択できるテンプレートには、2 つの製品タイプがあります： **Legacy** と **New Generaton** です。

- **Legacy**

アクセスポイントの **General Settings**（一般設定）には、バンド、チャネル、送信電力、送信レートなどの基本的なワイヤレス設定が含まれます。**VAP Settings**（VAP 設定）を使用すると、管理者は VAP を有効/無効にし、ESSID を指定し、必要に応じて対応するトンネルの有無に VLAN ID を割り当てることができます。必要に応じて、WEP、802.1X、WPA-Personal、WPA-Enterprise などの **Security Settings**（セキュリティ設定）を設定してください。**Advanced Wireless Settings**（高度なワイヤレス設定）を使用すると、管理者はアクセスポイントのパフォーマンスと効率を微調整して、関連付けられたクライアントのワイヤレス接続品質を良好に維持できます。**Hotspot 2.0 Settings**（ホットスポット 2.0 の設定）は、異なるサービスプロバイダの無線 LAN ネットワーク間のローミングをサポートするためのものです。**Firewall Settings**（ファイアウォールの設定）では、プロキシ ARP 機能を有効/無効にできます。**Linkyfi's Location Engine**（Linkyfi のロケーションエンジン）については、RTLS と DPI DNS を有効にして、Linkyfi のロケーションエンジンと統合してユーザートラッキングを行うこ

とができます。

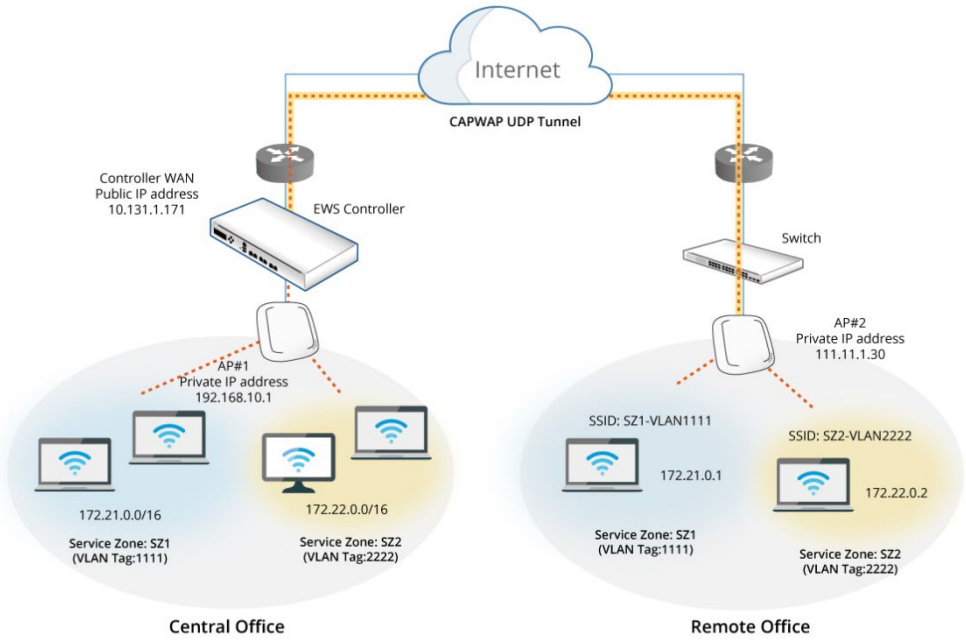


- **New Generation**

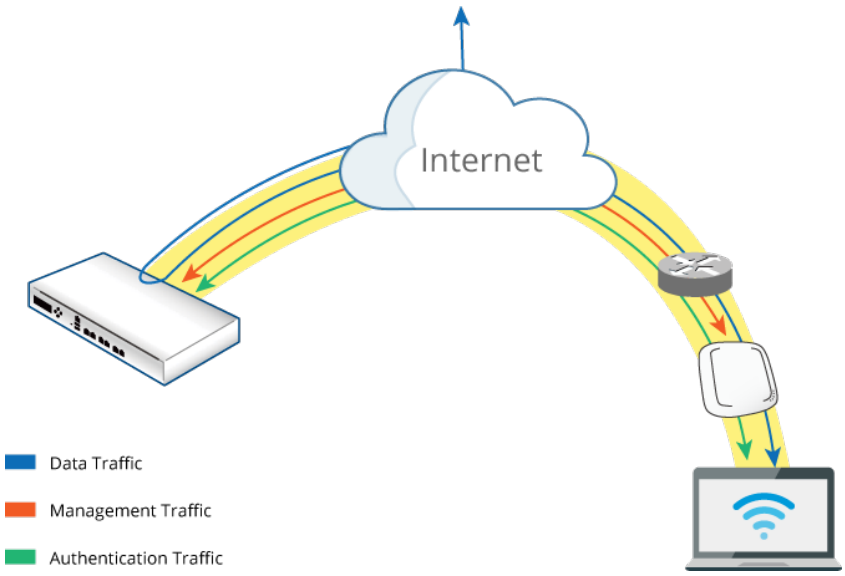
国名は、アクセスポイントと同じ国番号を選択します。アクセスポイントの Radio には、Band、Channel、Transmit Power などの基本的な無線設定が含まれています。ワイヤレスネットワークでは、VAP の有効/無効、SSID の指定、WPA-Personal/Enterprise、WPA2-Personal/Enterprise、WPA3 Personal/Enterprise 、WPA3 Personal/Enterprise Transition、WPA3 Enterprise 192bit、OWE などのセキュリティの割り当てが可能です（必要な場合）。VLAN Settings は、SSID や他のインターフェースに使用する VLAN ID を作成するためのものです。LAN 設定 ローカルネットワークとゲストネットワークの LAN 設定を行います。Ethernet Settings は、Ethernet ポートのネットワーク動作を設定します。サービスでは、iBeacon の有効/無効を設定することができます。さらに、SSH、SNMP、NTP、マルチキャスト DNS など、関連するサービスもこのページで設定することができます。

7.3.4 CAPWAP を使用した AP の自動検出と設定

CAPWAP は、EWS コントローラが無線アクセスポイントの集合を管理できるようにする標準の相互運用可能なプロトコルです。トンネリングオプションには、完全なトンネルとスプリットトンネルの 2 つがあります。

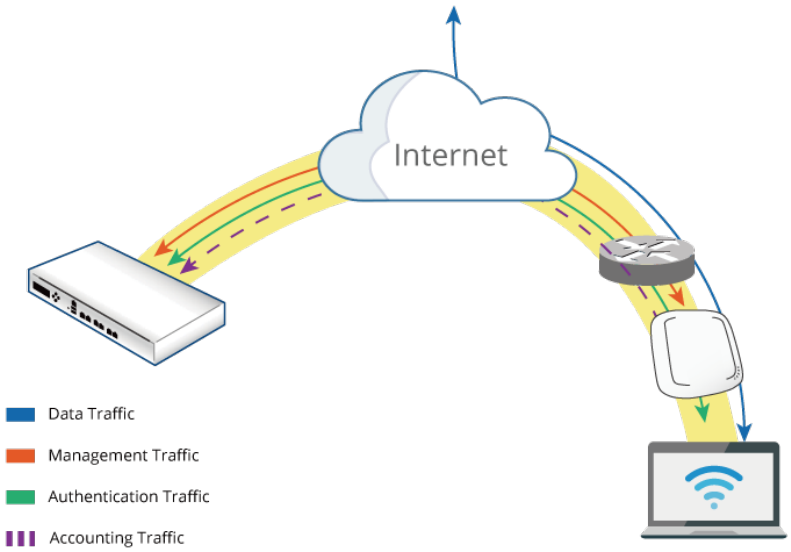


コンプリートトンネルは CAPWAP プロトコルを使用してアクセスポイントと通信します。これにより、提供されるサービスエリア AP からのすべての管理トラフィック、認証トラフィック、およびデータトラフィックが、データトラフィックをインターネットに転送する前に、コントローラに転送されます。EWS コントローラは、レイヤ 3 ネットワーク上で役割ベースのポリシーを実装でき、リモートサイトでユーザーアクセス制御を利用できます。この機能により、Edgecore EWS コントローラは、一元化された AP 管理とユーザー管理を完全にサポートできます。



スプリットトンネルの場合、ユーザー認証に関連するトラフィックだけがコントローラに送り

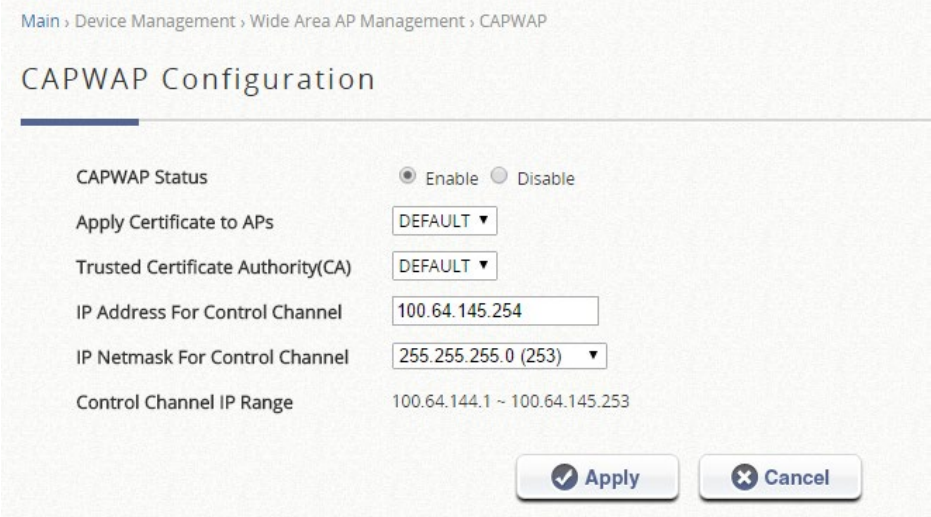
返されます。認証されたユーザーの場合、データトラフィックはローカルネットワーク経由でインターネットに直接送られます。ユーザーデータは、より短いパスで送信することができ、コントローラのネットワーク負荷も低減することができます。



設定手順：

1. Edgecore コントローラで、次の操作を行います。Main Menu >> Devices >> Wide Area AP Management >> CAPWAP から CAPWAP を有効にします

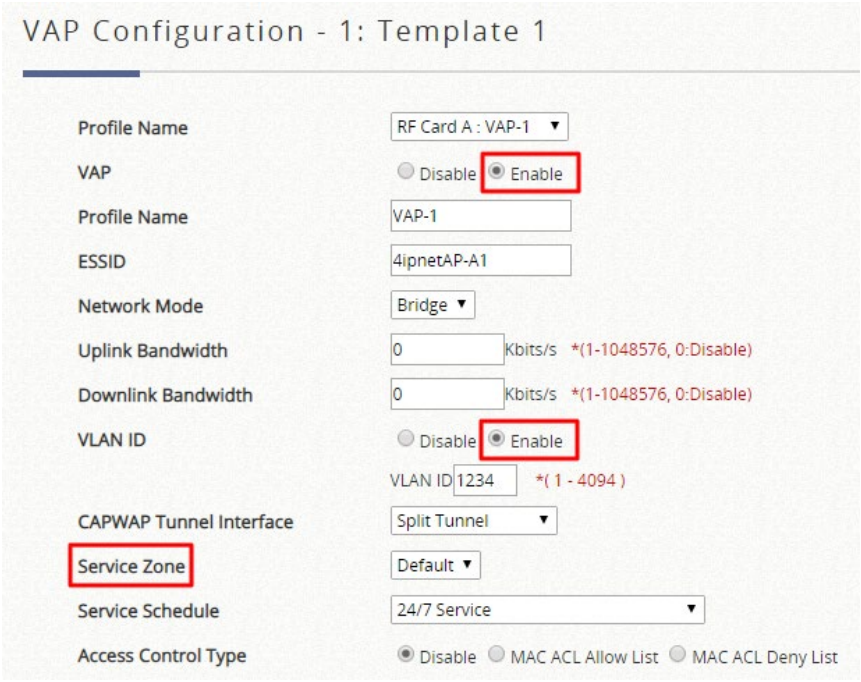
2. コントローラの CAPWAP 設定で、同じ CA によって発行されたセキュリティ証明書が使用されていることを確認します。コントローラでの証明書管理については、このガイドの後続の章を参照してください。



3. コントローラが CAPWAP 検出および加入要求を検証するために、必要なセキュリティ証明

書を AP にアップロードします。

4. テンプレートの VAP Settings（VAP 設定）から CAPWAP テンプレートを設定します。VAP トラフィックは、コントローラの有効な SZ プロファイルにトンネリングされるように選択できます。トンネルインターフェースには 3 つのタイプがあります。**Disabled**（無効）はトンネルを確立しません。**Complete Tunnel**（コンプリートトンネル）は、すべてのデータをコントローラに転送するトンネルを作成します。一方、Split Tunnel は管理トラフィックと認証トラフィックのみをコントローラに転送します。 管理者が各 VAP の Service Zone を選択する必要があるのは、後者の 2 つのトンネルインターフェースだけです。



5. On the AP side: レガシーデバイスの場合は、システム >> CAPWAP から CAPWAP 機能を有効にします。新世代デバイスの場合は、システム >> システム設定 >> 管理から EWS-Series Controller を選択し、管理者は有効化すべきいくつかの検出方法を確認できます：

(1) **DNS SRV 検出**

このタイプの検出では、DNS サーバーを使用して検出方法を完了します。取得した DNS SRV 記録を通じて、AP は CAPWAP 加入要求を送信するコントローラを認識します。

(2) **DHCP オプション検出**

AP が、接続しようとしている Edgecore EWS コントローラのサブネットと同じサブネットにある IP アドレスを取得するには、管理者が CAPWAP 機能とコントローラの DHCP サ

ーバーを有効にする必要があります。

(3) **ブロードキャストの検出**

AP は、サブネット内のすべての IP アドレスにブロードキャスト要求を送信します。Edgecore EWS コントローラおよびその他のゲートウェイでは、ブロードキャストがサブネットを経由することを許可しません。機能を有効にする場合は、コントローラが AP と同じサブネットにあることを確認してください。

(4) **マルチキャスト検出**

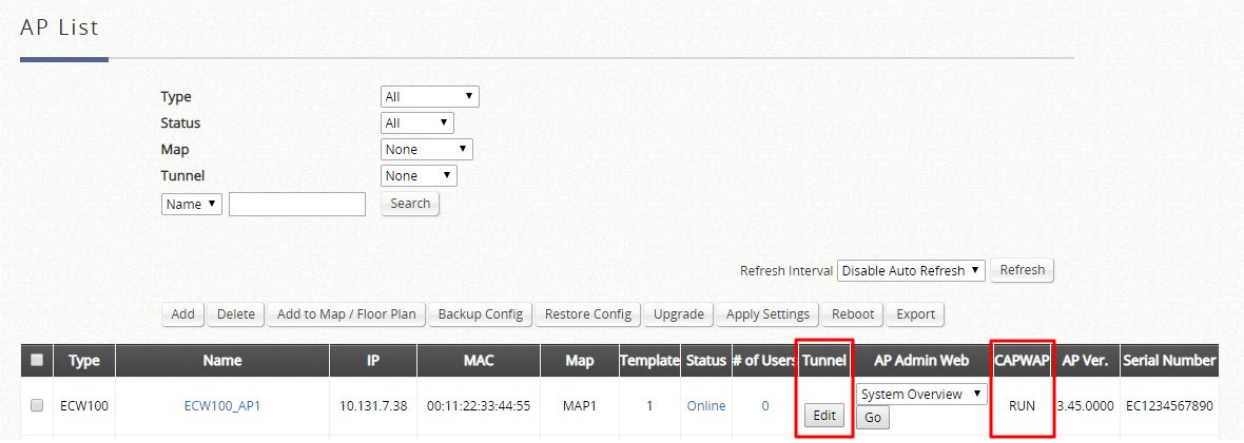
マルチキャスト検出は、正しいコントローラが応答することを期待して、ネットワークにマルチキャスト検出パケットを送信することによって機能します。この機能は、AP のルーティングパスに適切に設定する必要があります。関連する設定を有効にしてください。

(5) **静的検出**

静的検出は、事前設定なしで直感的に実装できるため、最も推奨される検出方法です。機能を有効にして、この AP を接続する Edgecore EWS コントローラの IP アドレスを入力するだけです。

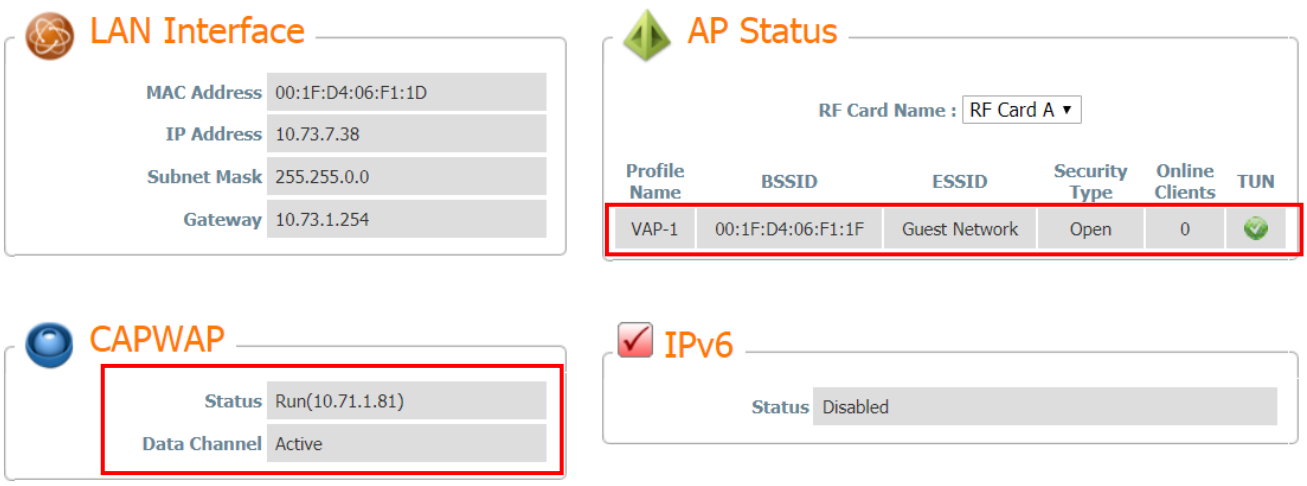
CAPWAP の加入に成功すると、次に示すように、AP が管理対象の AP list に表示されます。

CAPWAP 列には「RUN」ステータスが表示され、VAP がコントローラにトンネリングされるように設定されている場合、トンネルのステータスはクリック可能な「edit」ボタンが黒色で表示されます。

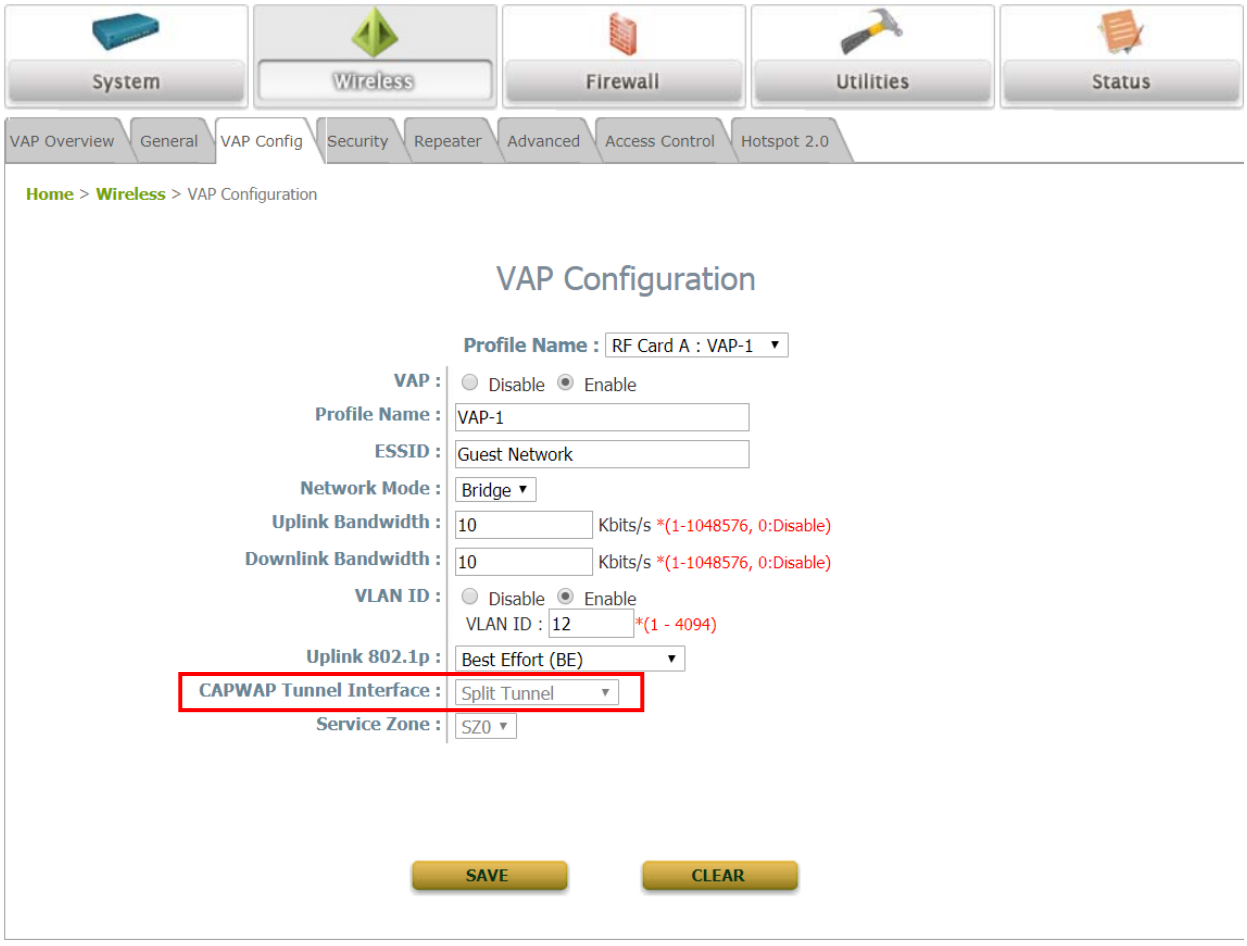


AP WMI は、VAP が有効で、トンネルのステータスもシステム概要ページに表示されます。

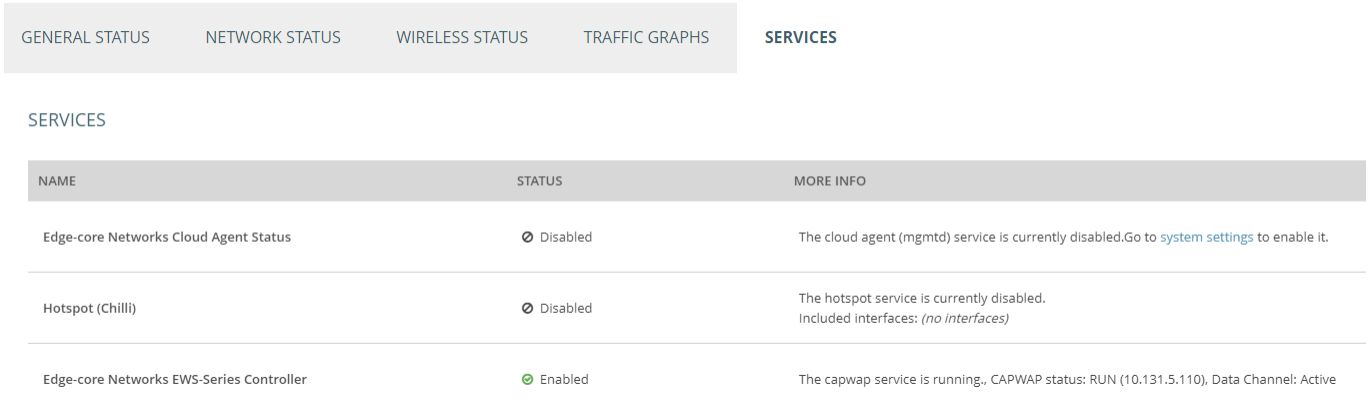
- **Legacy**



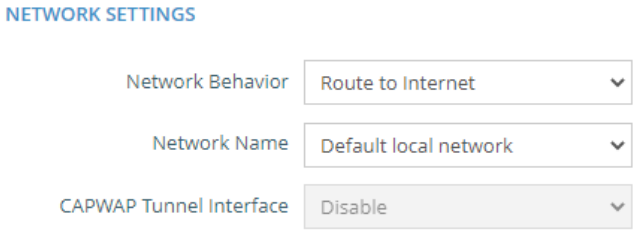
AP WMI の VAP Configuration（VAP 設定）には、異なる VAP で動作している CAPWAP Tunnel Interface の種類も表示されます。



- **次世代**



AP WMI の SSID Configuration は、異なる SSID でどの種類の CAPWAP Tunnel Interface が動作しているかも表示します。



メモ

1. CAPWAP テンプレートが VAP を選択して有効にし、SZ にトンネリングした場合、AP トンネルは自動的に確立されます。
2. CAPWAP 検出プロセスが失敗した場合は、コントローラで使用されている証明書設定と、AP にアップロードされた証明書を確認してください。
3. コントローラ CAPWAP ログは、トラブルシューティングプロセス中に参照されることがあります。

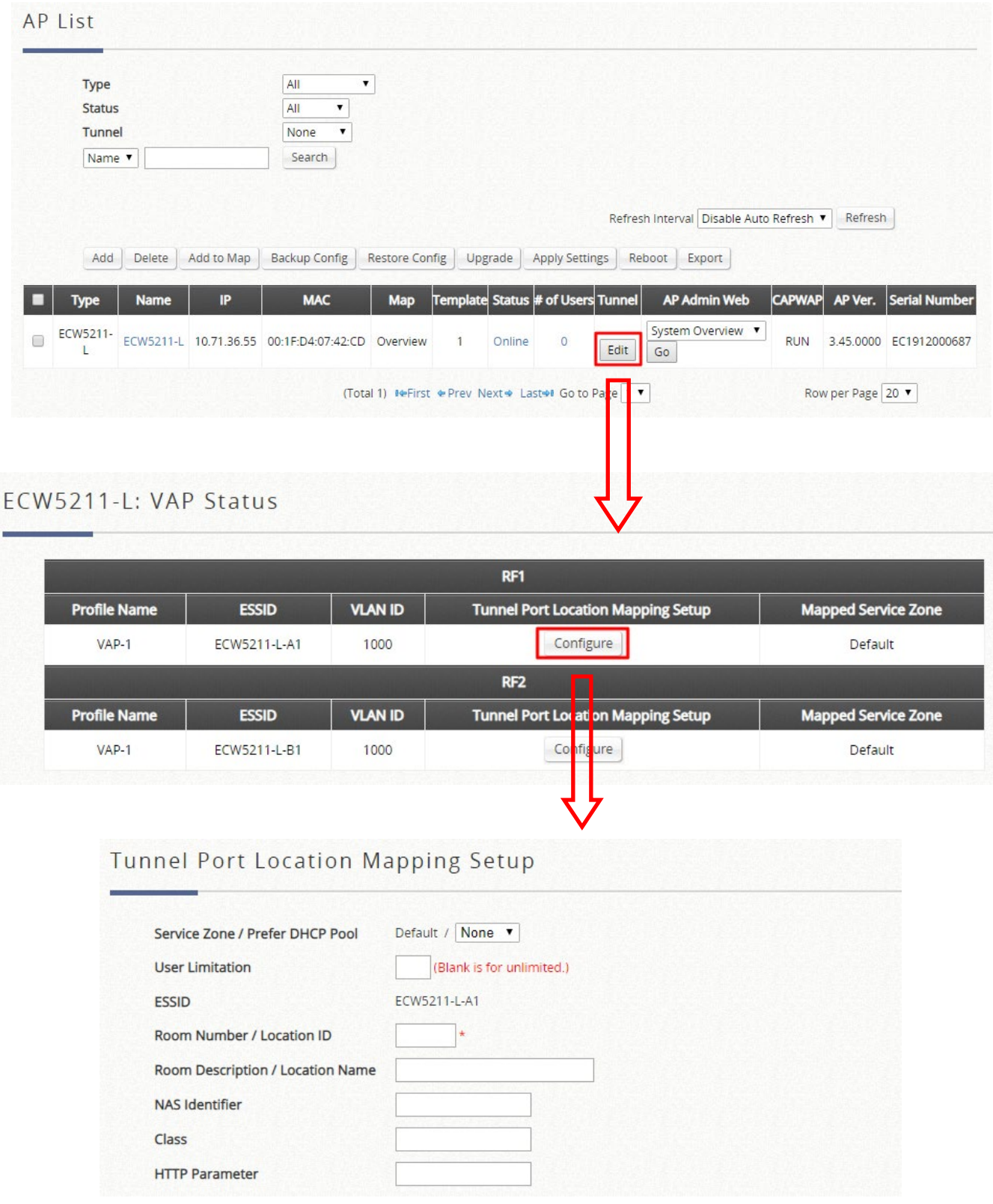
7.3.5 トンネリングされた VAP ロケーションマッピングの設定

設定パス：Main Menu >> Devices >> Wide Area AP Management >> List

リモート AP からコントローラにトンネリングされる VAP の場合、管理者は、NAS 識別子を割り当てるとともに、サービス用の IP プールを指定することもできます。

Wide Area AP Management の管理対象 AP List では、管理者は NAS 識別子を割り当て、管理対象 AP の VAP ごとにサービス用の IP プールを指定できます。これは、AP とコントローラの

間にトンネルを確立するときに設定できます。



VAP がトンネリングバック、完全なトンネル、またはスプリットトンネルを PLM（Port Location Mapping）で設定すると、リモートサイトは PMS システムや、ロケーション属性や情報を必要とする、集中管理されたホットスポット操作の恩恵を受けることができます。

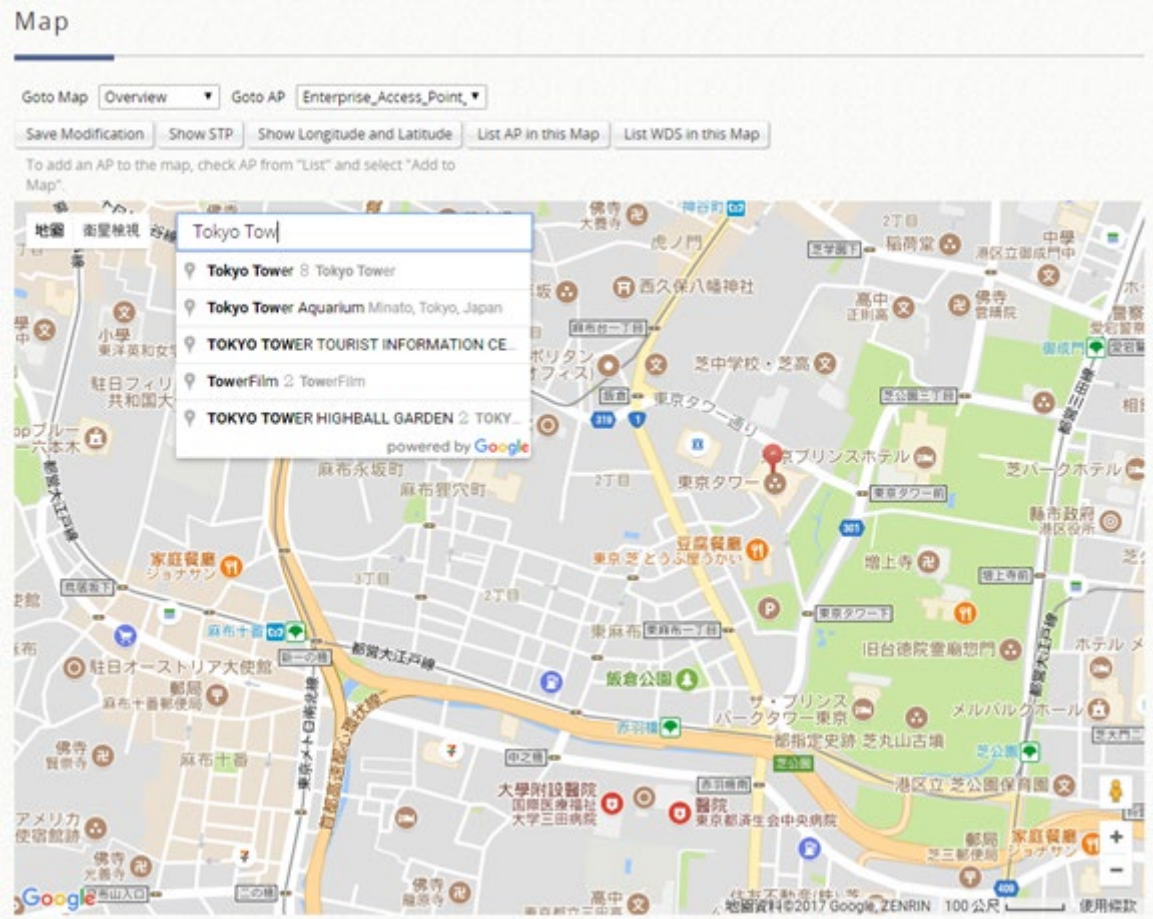
メモ

1. 本機能はレガシーデバイスにのみ対応しています。レガシーデバイスについては、ユーザーマニュアルの付録 F をご参照ください。

7.3.6 Google マップでのアクセスポイントの監視

マップは Google マップ API バージョン 3 で実装されており、管理者はワイドエリア AP 管理（WAPM）の下にあるすべての AP の所在を一目で確認できます。この機能は、ネットワークの計画と管理に関して役立ちます。

管理者が管理リストに AP を追加すると、以下のように Google マップ API でこれらの AP にタグを付けたり、マークを付けたりして、その地理的位置を示すことができます。



マップを作成する手順は次のとおりです。

ステップ1 ISP からパブリック IP アドレスを取得し、このアドレスを WAN インターフェースに設定します。

ステップ2 Google Maps Registration key（Google マップ登録キー）を申請します。

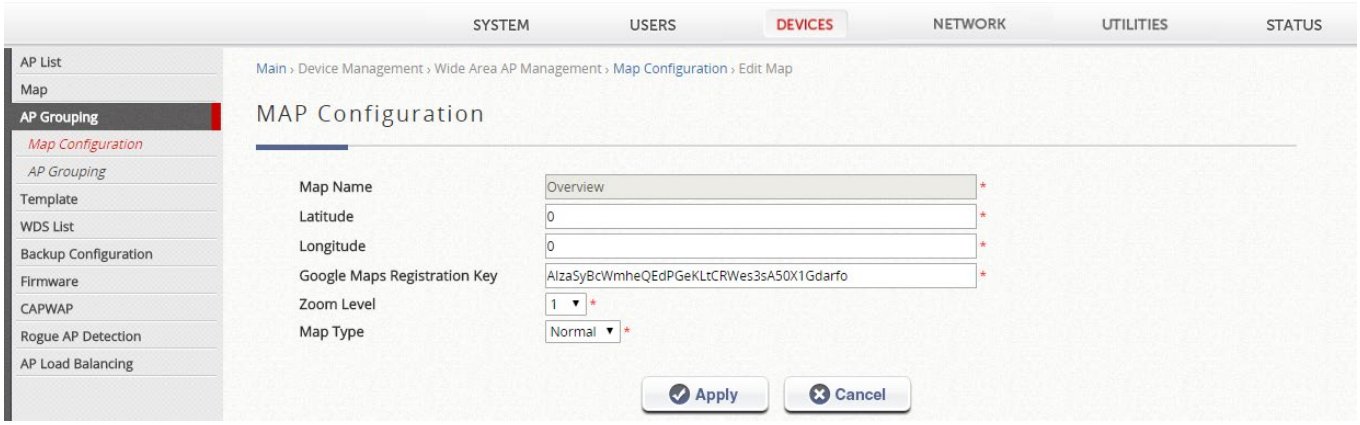
ステップ3 Map ページの Add a New Map（新しいマップを追加）ボタンをクリックします。Map Name（マップ名）と登録キーを設定します。

ステップ4 AP を検出し、これらの AP を管理対象リストに追加します。

ステップ5 List ページで、作成したマップにいくつかの AP を追加します。

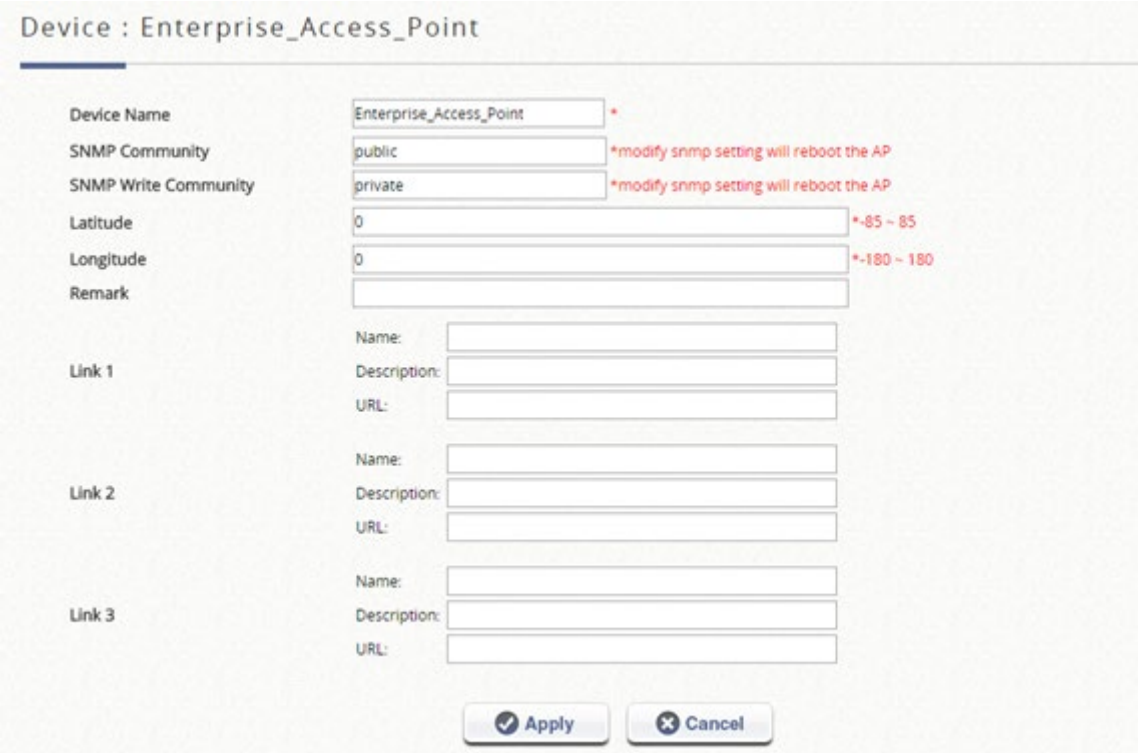
AP 情報を使用してマップを構成するために必要な手順については、以降のセクションで説明します。

ワイドエリア AP 管理で新しい地図を追加する前に、Google アカウントにサインアップする必要があります。このアカウントは、Google マップ API v3 キーの申請に使用されます。詳細については、https://developers.google.com/maps/documentation/javascript/v2/introduction の Google の指示に従って、Maps API v3 キーを入手してください。Map Configuration（マップ設定）ページの「Google Maps Registration Key」（Google マップ登録キー）フィールドにキー情報を入力してください。

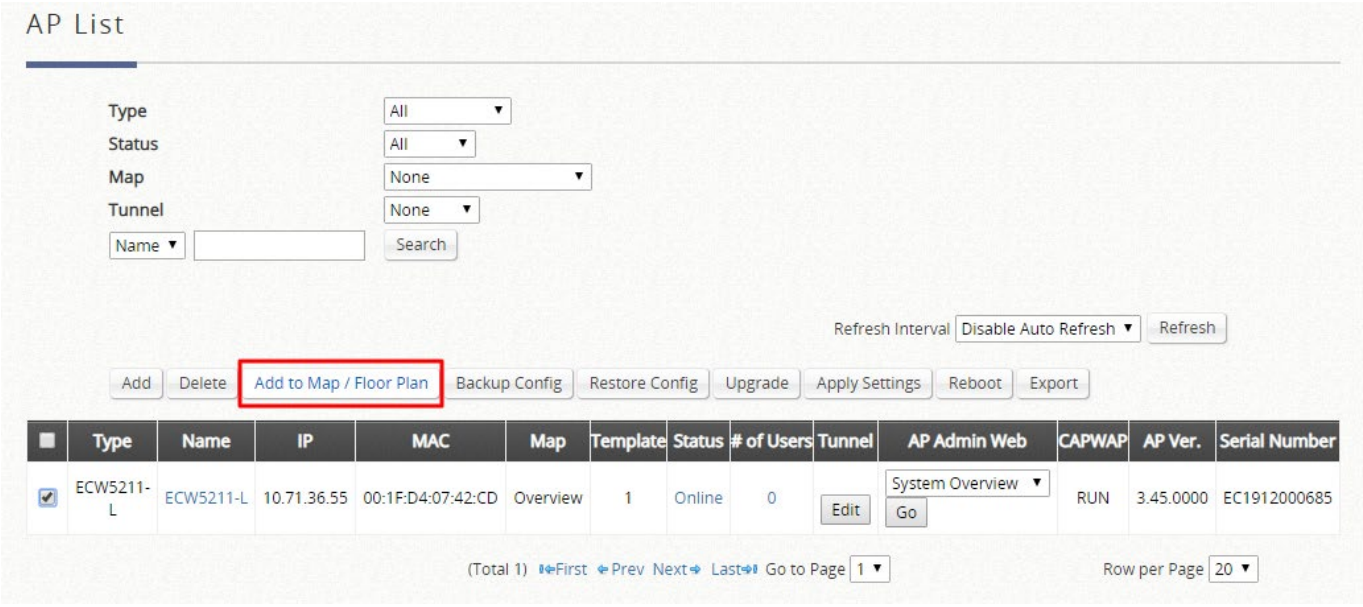


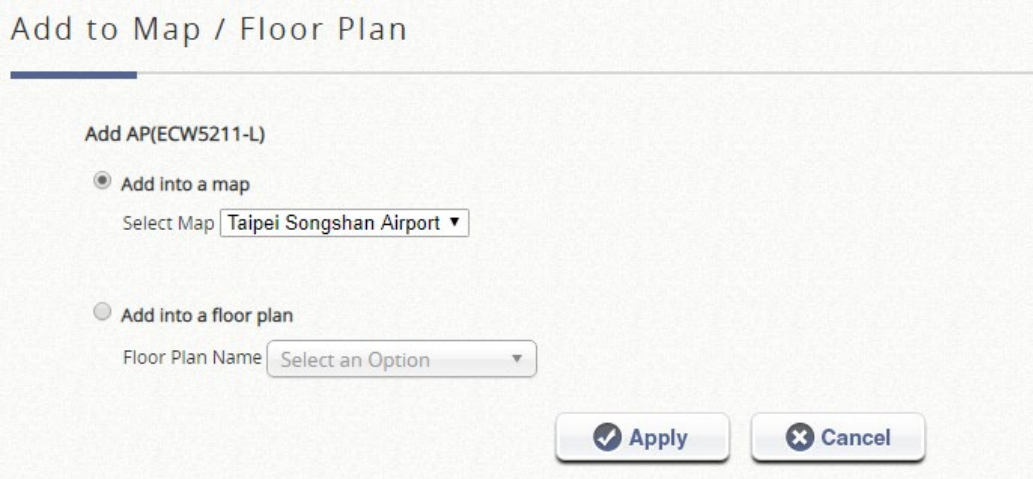
この Map Configuration（マップ設定）ページでは、このマップの Map Name（マップ名）と、Longitude（経度）と Latitude（緯度）で定義されている地理的位置を設定することもできます。表示する Zoom Level と Map Type も選択してください。

AP をマップに追加するには、まず AP List に移動し、AP 名をクリックして AP の緯度と経度を定義する必要があります。緯度と経度は、対象マップの位置を中心にしてください。このページでは、管理者は各 AP のマップ上に表示されるリンクや備考を設定することもできます。

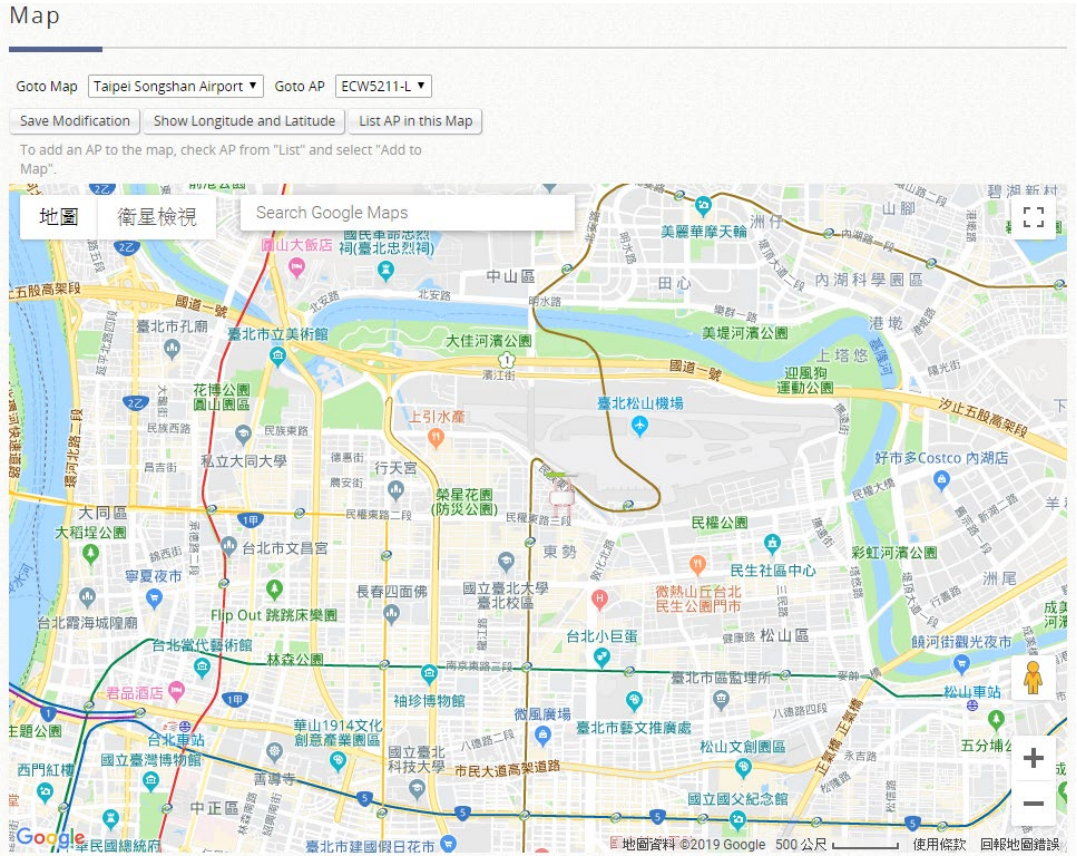


各 AP の場所を定義したら、AP List ページに戻ってください。マップ上にマークしたい AP を選択し、「Add to Map」（マップに追加）ボタンをクリックし、これらの AP をマークするマップの名前を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

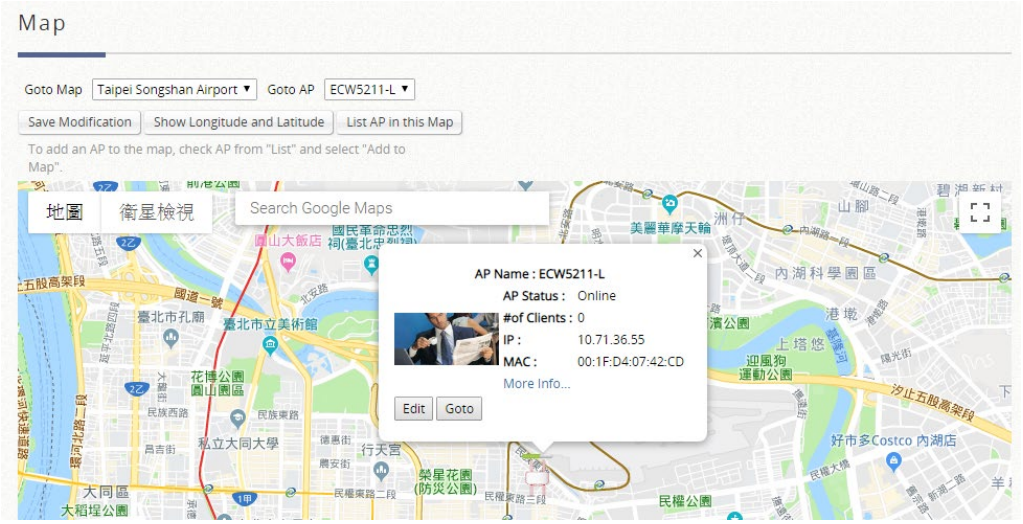


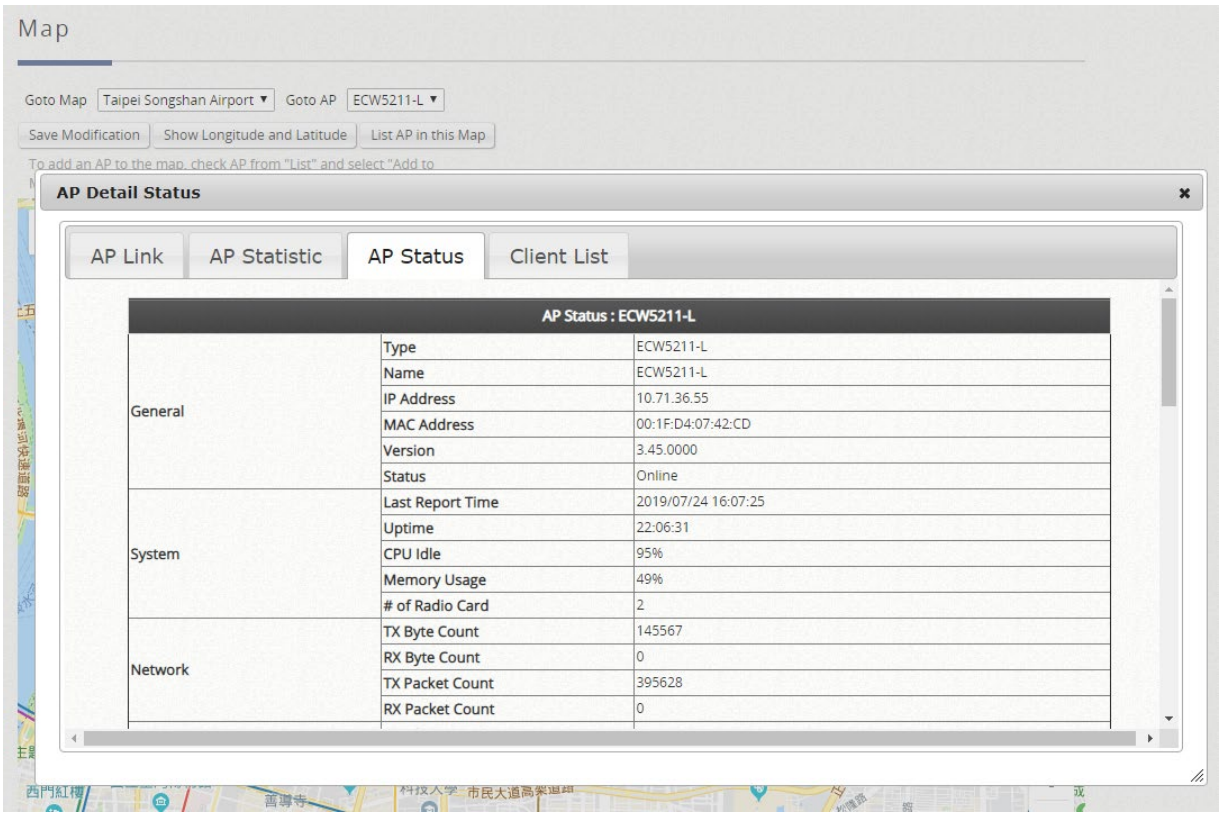


選択した AP は、以下に示すように、設定された物理座標でマーカーイメージとしてマップ上に表示されます。



管理者は AP アイコンをクリックすると、設定済みの追加情報やリンクに関するダイアログボックスが表示されます。さらに、管理者は more info リンクをクリックすると、SNMP 経由でリモート AP から収集された AP Link、AP Statistic（AP 統計）、AP Status、Client List、WDS List、およびこの AP に関連する Links に関する情報が表示されます。





メモ

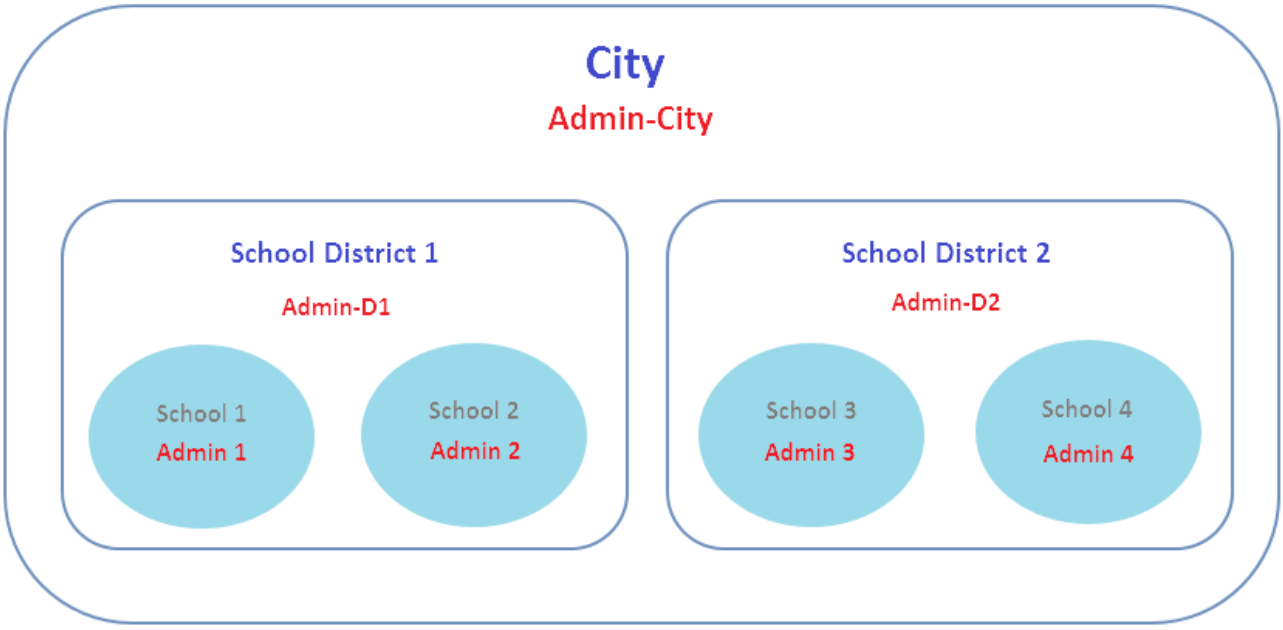
1. 「Overview」マップは、システムのデフォルトマップです。このマップは、すべての管理対象 AP の概要を示します。
2. 管理リストに追加される AP は、「Overview」マップに属します。
3. AP をマップに追加した後も、AP を「Overview」マップで監視できます。

7.3.7 AP のグループ化

設定パス：Main Menu >> Devices >> Wide Area AP Management >> AP Grouping >> Map Configuration

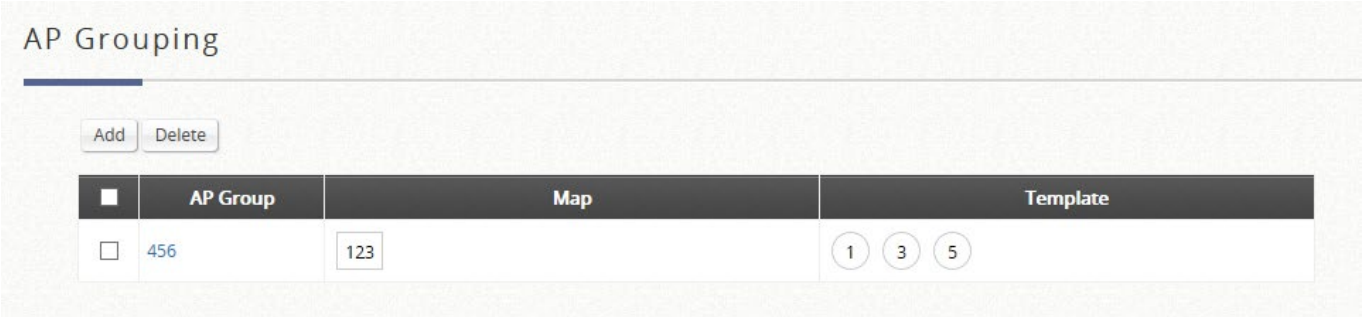
Wide Area AP Management では、すべての管理対象 AP を、マップによって AP グループに指定する必要があります。各 AP は、マップに属するように設定する必要があります。すべての AP がデフォルトマップに追加されます。または、新しい AP を追加する前に、選択用の新しいマップを作成することもできます。

AP のグループ化を使用すると、異なるレベルの管理者が異なる AP グループで AP を管理できます。AP グループには、複数のマップと AP テンプレートを含めることができます。一方、マップを異なる AP グループに含めることができます。異なる管理者グループには、AP グループごとに異なる読み取り/書き込み権限を割り当てることができます。

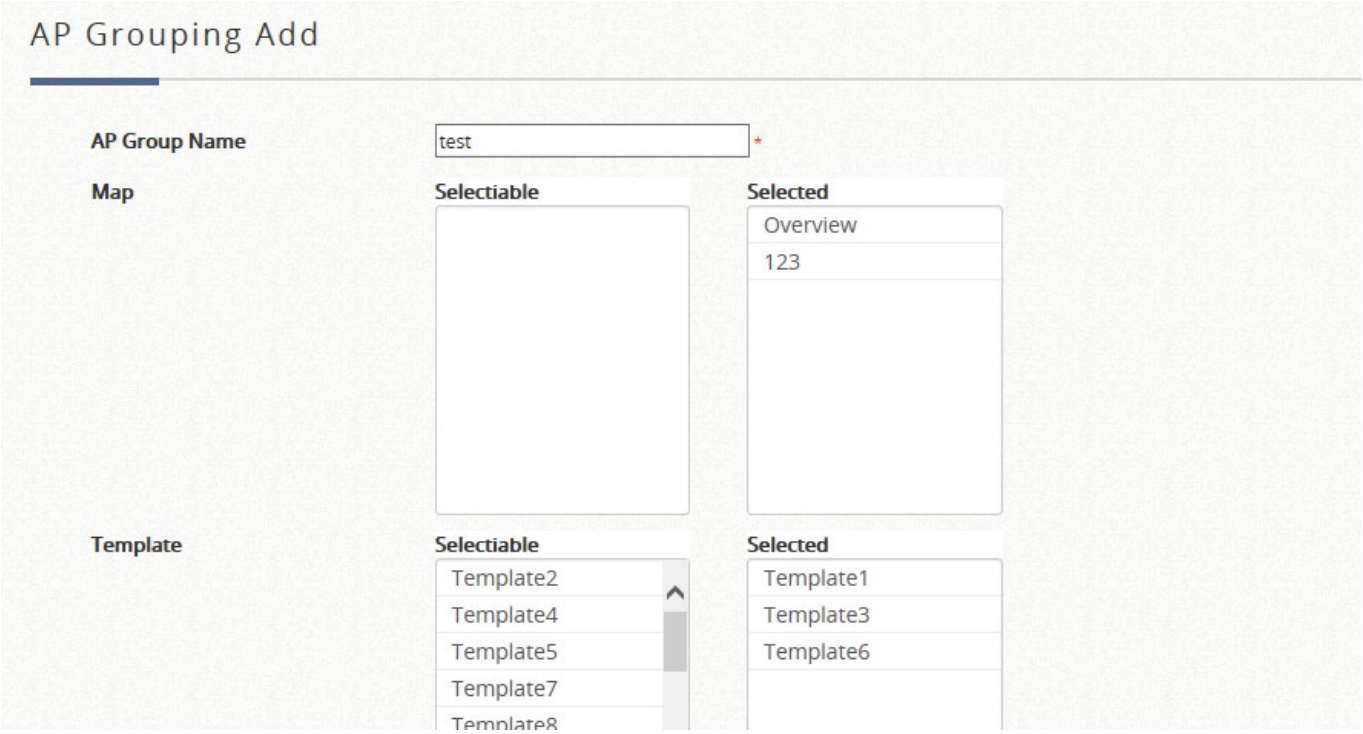


【AP のグループ化の簡単な概念図】

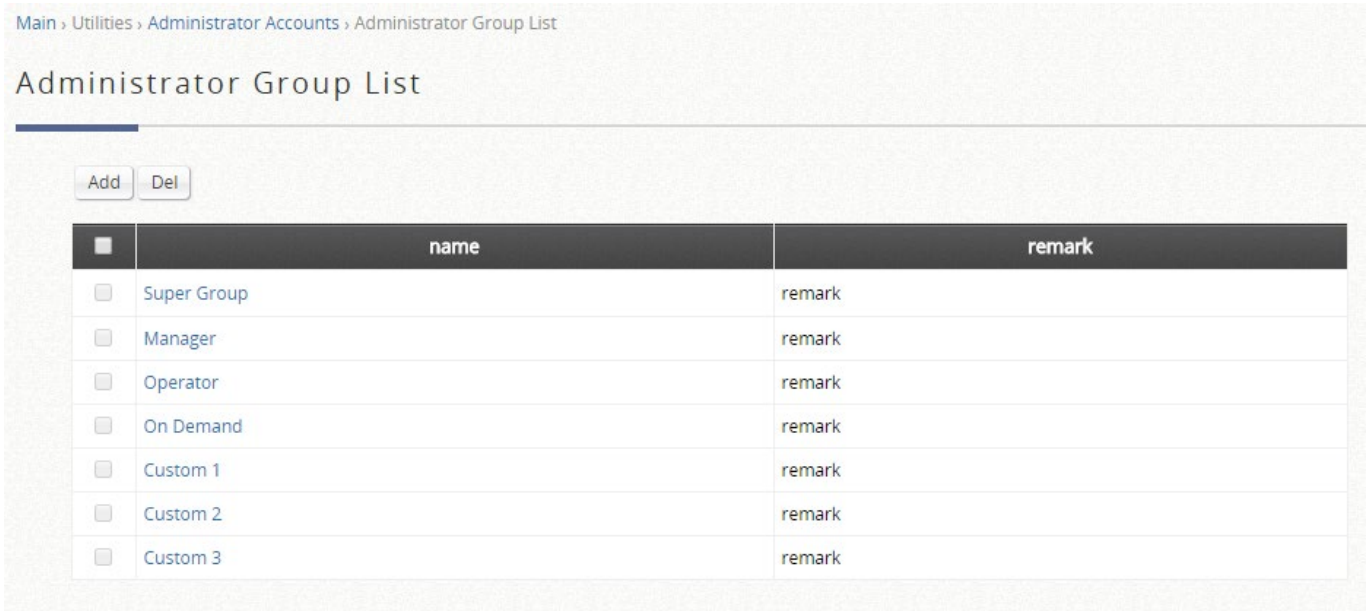
AP のグループ化機能を使用するには、Main Menu >> Devices >> Wide Area AP Management >> AP Grouping >> AP Grouping List の順に選択して、AP グループを追加または削除してください。



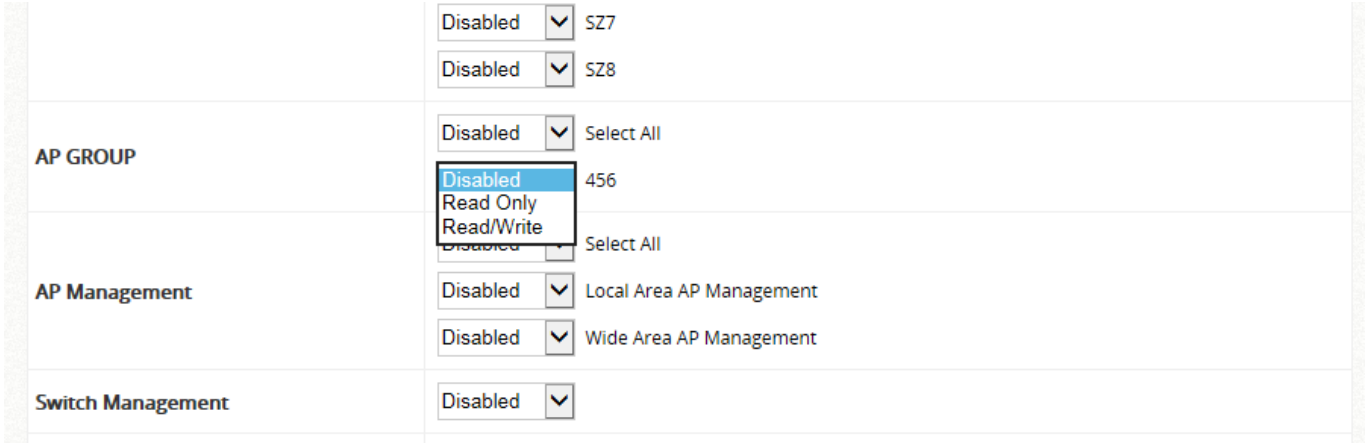
Add をクリックして AP グループを追加してください。各 AP グループには、管理対象のマップとテンプレートを含めることができます。



AP グループを作成したら、管理者グループを Administrator Group List に追加することによって、各 AP グループにアクセス許可を割り当てることができます。



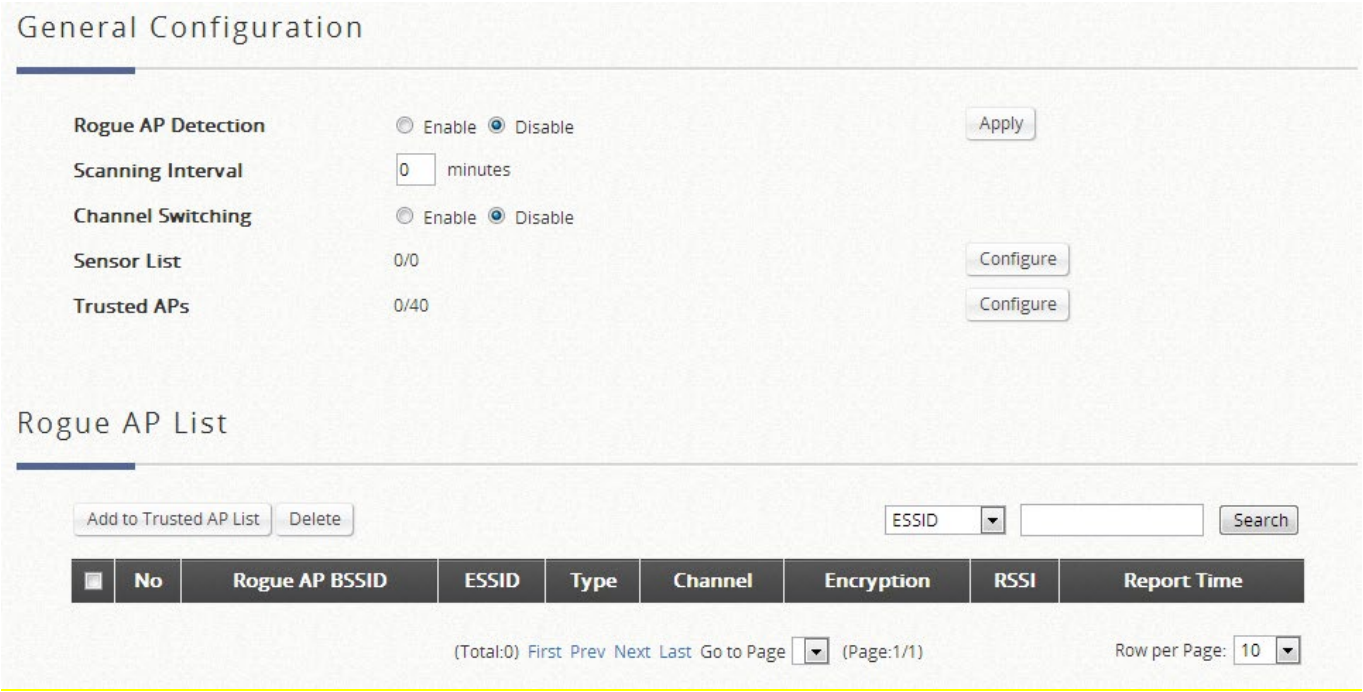
AP グループへの権限の割り当ててください。



7.3.8 不正 AP スキャン

不正 AP 検出は、ネットワーク環境を保護するもう 1 つの重要な方法です。ワイド AP 管理は、近くに存在する許可されていないアクセスポイントの検出をサポートします。

許可されていないアクセスポイントは、ワイヤレス干渉の観点から問題が発生する可能性があります。Main Menu >> Devices >> Enter Local Area AP Management >> Rogue AP Detection の順に選択して、この機能を設定してください。管理者は、スキャン間隔を決定し、スキャンジョブのための AP をセンサーとして選択し、安全なソースとして手動で識別できる場合は、疑わしい不正 AP リストに表示されている AP を信頼できるリストに追加する必要があります。



検出されたアクセスポイントが一時的に不正 AP リストに入れられます。ハイパーリンクされている BSSID のいずれかをクリックすると、その詳細情報が表示されます。ただし、管理者が、リストされた AP の一部を信頼できると認識した場合は、BSSID 列の前のチェックボックスにチェックを入れて、**Add to Trusted AP List**（信頼できる AP リストに追加）をクリックしてください。このアクションは、**Trusted AP Configuration**（信頼できる AP 設定）に記録されます。

メモ

1. 本機能はレガシーデバイスにのみ対応しています。レガシーデバイスについては、ユーザーマニュアルの付録 F をご参照ください。

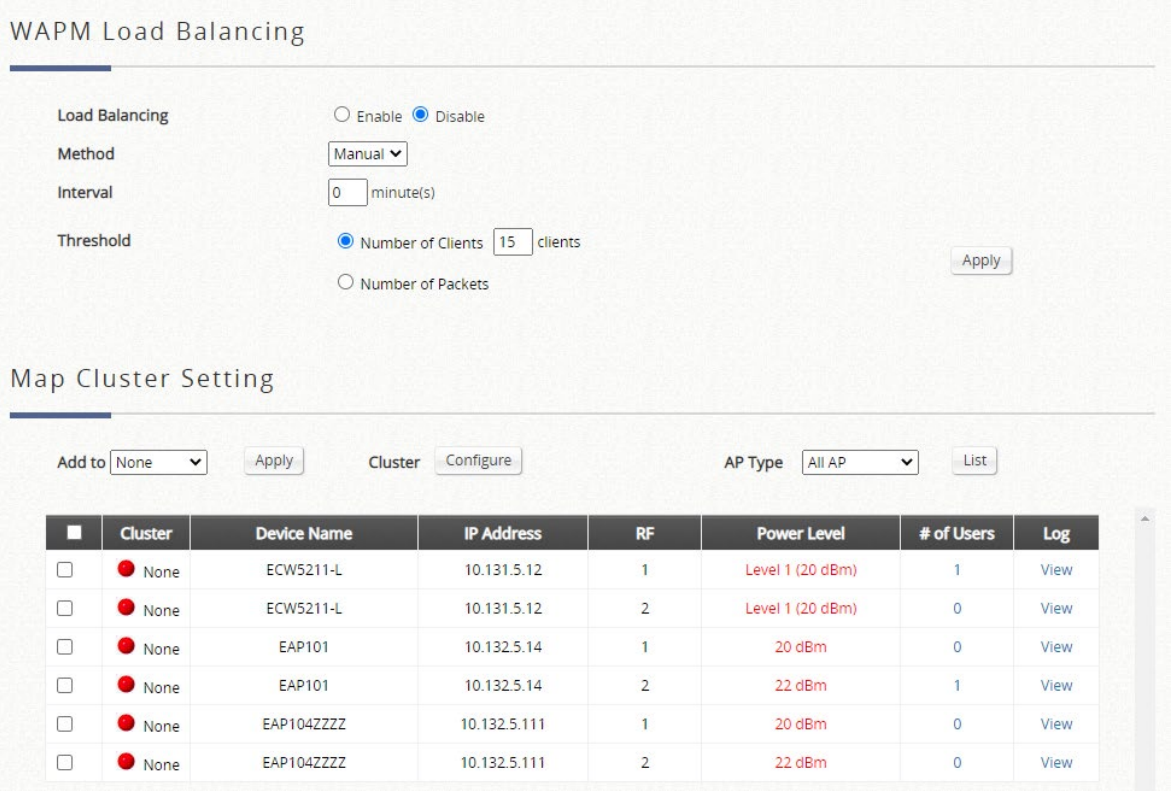
7.3.9 AP ロードバランシング機能

これは、管理対象 AP が過負荷にならないようにする機能です。システムは、状況において、AP の関連クライアント数やネットワークトラフィックが事前に定義されたしきい値を超えていることを検出し、同じクラスタ内の他の AP がまだしきい値を下回っている場合、バランシング機能は、過負荷の AP の送信電力を減少させ、他の利用可能な AP の送信電力を増加させるためにアクティブにされ、これにより、他の利用可能な AP が関連付けられる可能性が高くなります。システムは、管理対象 AP をクラスタに分割し、しきい値、および AP ロードバラ

ンシングをトリガーする時間間隔を定義できます。クラスタを決定するために、Auto と Manual の 2 つのオプションがあります。方法が Auto の場合、システムは管理された AP をクラスタに分割することができ、距離の閾値と AP ロードバランシングをトリガーする時間間隔を定義することができます。方法が Manual の場合、管理されている AP を手動でクラスタに分割することができます。

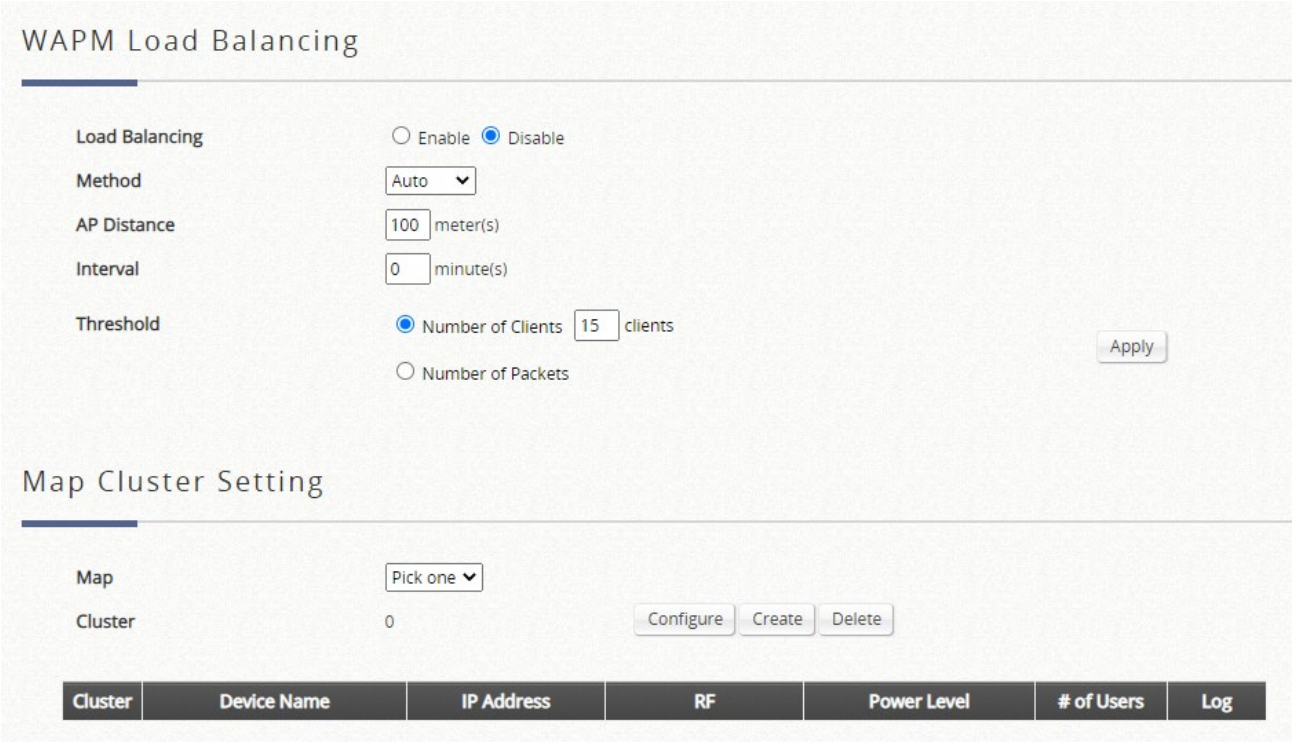
ワイドエリア AP 管理機能は、さまざまな管理対象 AP のクラスタ化をサポートし、送信電力管理を実行して、同じクラスタの AP 間でネットワークの負荷をできるだけ均等に分散させます。

管理者は、AP ロードバランシング機能を適用する基準を指定できます。独自のロードバランシング開始基準を作成するためにカスタマイズできる属性には、強制間隔および関連するクライアントまたはトラフィックのしきい値が含まれます。



- **Manual**

方法が Manual に選択されている場合、リストで管理対象 AP を選択し、Apply ボタンをクリックして AP ロードバランシングクラスターに参加します。



- **Auto**

方法が Auto に選択されている場合、AP ロードバランシングクラスターを作成するには、管理者がマップに AP を追加する必要があります。同じロードバランシングクラスター内の AP は、同じマップに存在する必要があります。AP をマップに追加した後、Main Menu >> Devices >> Wide Area AP Management >> AP Load Balancing で、Map Cluster Setting でマップを選択します。次に、「Create」ボタンをクリックすると、AP の各ペア間の距離に基づいて、このマップ上にクラスタが自動的に生成されます。クラスタが作成されたら、Configure ボタンをクリックして、各クラスタの AP ロードバランシング機能の有効/無効を設定することができます。

AP の場所が変更された場合（AP アイコンをマップ上の別の場所にドラッグし、「Save Modification」（変更を保存）ボタンをクリックするなど）、AP は自動的に再クラスタ化されません。管理者は、まずマップ上の既存のクラスタを削除し、Create ボタンをクリックして、更新された位置情報に従ってクラスタを生成する必要があります。

一方、「AP Distance」（AP の距離）を変更すると、既存のクラスタは自動的に削除されます。クラスタ化の更新された基準に基づいてクラスタを生成するには、Create ボタンをクリックする必要があります。

最後に、クラスタで AP ロードバランシング機能を有効にすると、各 AP の送信電力管理アクションのログを確認できるようになります。

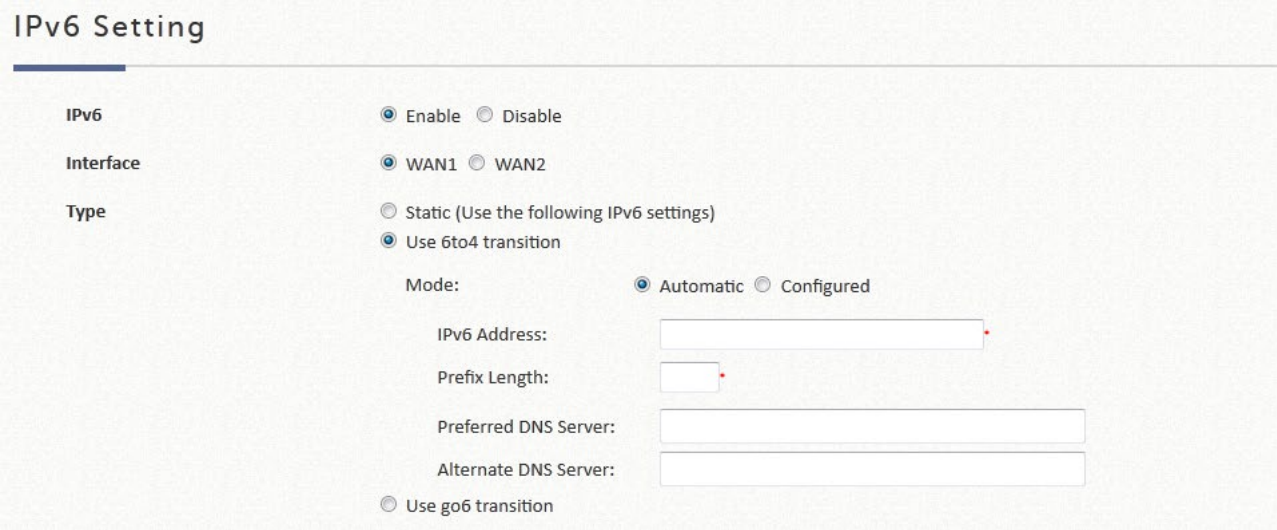
第8章　ネットワーク環境の詳細設定

8.1　IPv4/IPv6 デュアルスタックネットワーク

設定パス：Main Menu >> System >> IPv6

Edgecore EWS コントローラは、IPv6 ネットワーク環境での動作をサポートします。IPv6 設定オプションが有効になっている場合、管理者は IPv4 IP アドレスと IPv6 アドレスをネットワークインターフェースの WAN1 または WAN2 のいずれかに割り当てることができます。選択

した WAN インターフェースに IPv6 アドレスを設定するには、Static、6to4、および go6 という 3 つの方法があります。ご使用の環境に適用できるオプションを選択してください。

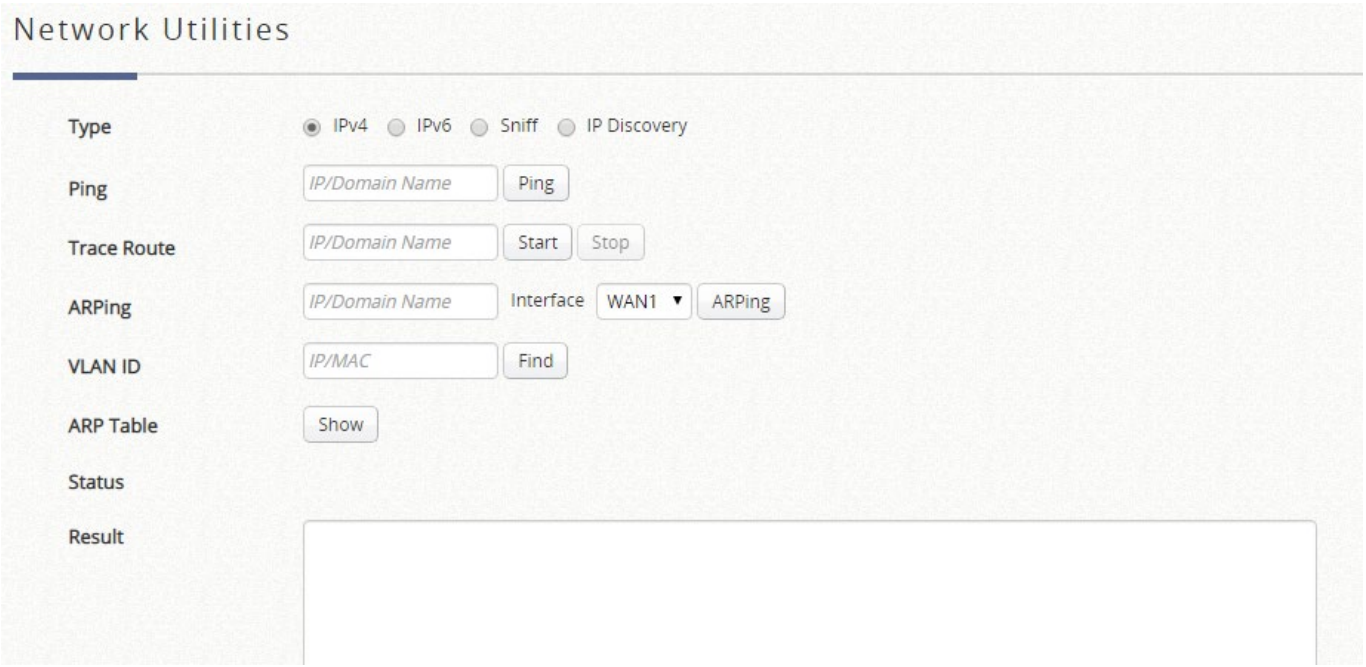


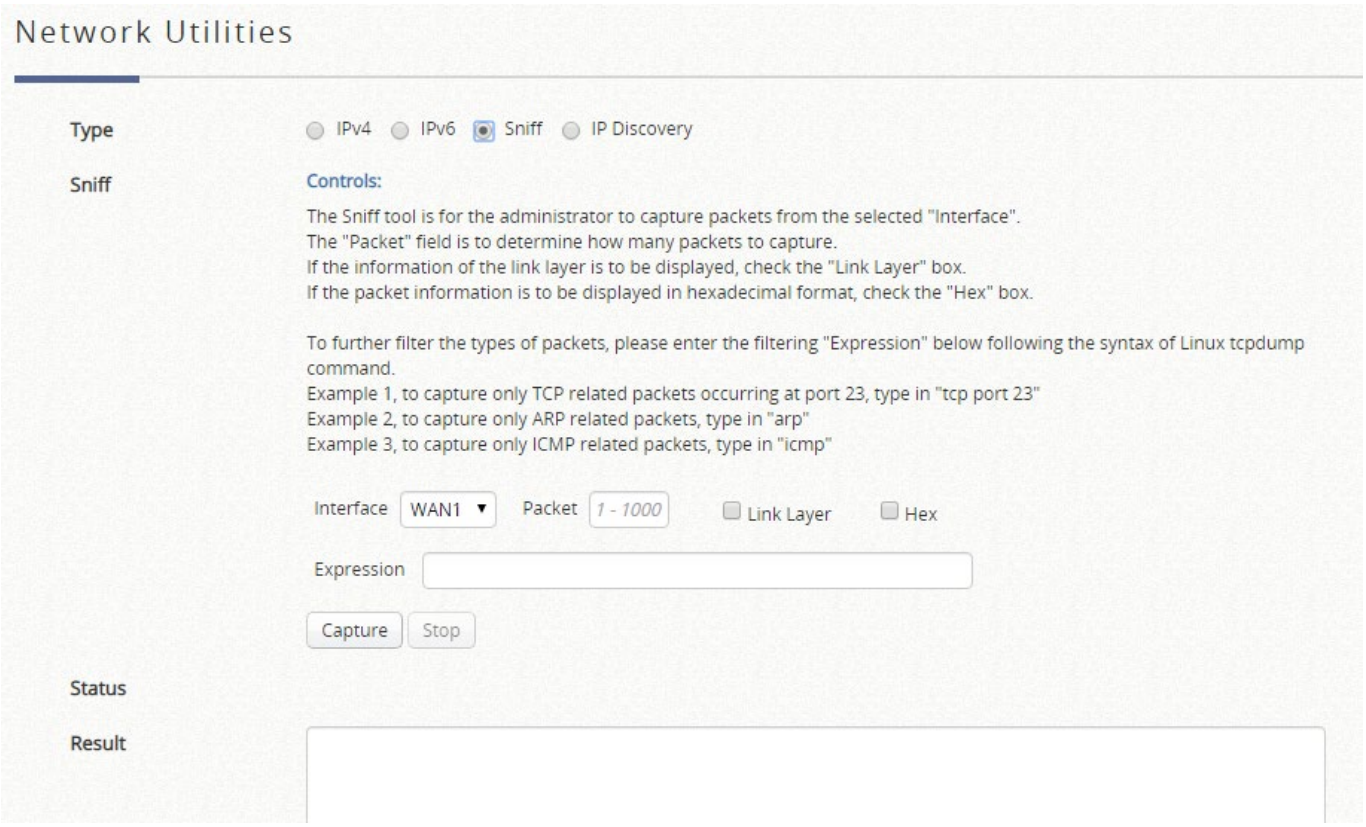
- **6to4**：6to4とは、IPv4からIPv6に移行するためのインターネットの移行機構で、明示的なトンネルを設定することなく、IPv4ネットワーク（一般的にはIPv4インターネット）上でIPv6パケットを送信できるようにする仕組みです。6to4オプションは、選択したWANインターフェースに静的IPv4アドレスが設定されている場合にのみ選択できます。

- **IPv4/IPv6 ネットワークユーティリティ**

  ネットワークユーティリティを設定するには、次の順に選択してください。Main Menu >> Utilities >> Network Utilities

  システムには、管理者が簡単にネットワークを管理するのに役立つネットワークユーティリティが用意されています。


Network Utilities
Type
IPv4
IPv6
Sniff
IP Discovery
Ping
IP/Domain Name
Ping
Trace Route
IP/Domain Name
Start
Stop
ARPing
IP/Domain Name
Interface
WAN1
ARPing
VLAN ID
IP/MAC
Find
ARP Table
Show
Status
Result


Network Utilities
Type
IPv4
IPv6
Sniff
IP Discovery
Sniff
Controls:
The Sniff tool is for the administrator to capture packets from the selected "Interface".
The "Packet" field is to determine how many packets to capture.
If the information of the link layer is to be displayed, check the "Link Layer" box.
If the packet information is to be displayed in hexadecimal format, check the "Hex" box.
To further filter the types of packets, please enter the filtering "Expression" below following the syntax of Linux tcpdump command.
Example 1, to capture only TCP related packets occurring at port 23, type in "tcp port 23"
Example 2, to capture only ARP related packets, type in "arp"
Example 3, to capture only ICMP related packets, type in "icmp"
Interface
WAN1
Packet
1 - 1000
Link Layer
Hex
Expression
Capture
Stop
Status
Result

項目	説明
IPv4	・ **Ping**：管理者が IP アドレスやホストドメイン名を使用してデバイスを検出し、それが応答しているかどうかを確認することができます。 ・ **Trace Route**：管理者は、IP アドレスまたはホストドメイン名を使用して、ゲートウェイから宛先へのパケットの実際のパスを回復することができます。 ・ **ARPing**：管理者が特定の IP アドレスまたはドメイン名に対する ARP 要求を送信できるようにします。 ・ **ARP Table**： 管理者は、アドレス解決プロトコル（ARP）で使用される、IP から物理アドレスへの変換表を表示できます。
IPv6	・ **Ping**：管理者が IPv6 アドレスやホストドメイン名を使用してデバイスを検出し、それが応答しているかどうかを確認することができます。 ・ **Trace Route 6**：管理者は、IPv6 アドレスまたはホストドメイン名を使用して、ゲートウェイから宛先へのパケットの実際のパスを回復することができます。 ・ **Neighbor Discovery**（近隣検出）：管理者は、この機能を使用して、同じ IP セグメントまたはドメイン名にある IPv6 近隣ノードを知ることができます。 ・ **Neighbor Cache**（近隣キャッシュ）：ノードは、近隣キャッシュ内の近隣の情報を管理します。この機能により、管理者はシステムの近隣キャッシュに格納されている情報を表示できます。
Sniff	この機能を使用すると、管理者は選択したインターフェースからのパケットをリッスンできます。管理者は、**Expression** フィールドの tcpdump コマンドを使用して、キャプチャするパケットのタイプをさらにフィルタリングできます。

IP Discovery（IP 検出）	この機能を使用すると、コントローラは同じレイヤ 2 ネットワーク内で接続されている AP の IP アドレスを検出できます。管理者は、検出された AP の IP 設定を変更することもできます。
Status	管理者がネットワークユーティリティ機能を実行している場合、操作の状態がここに表示されます。
Result（結果）	操作結果が表示されます。

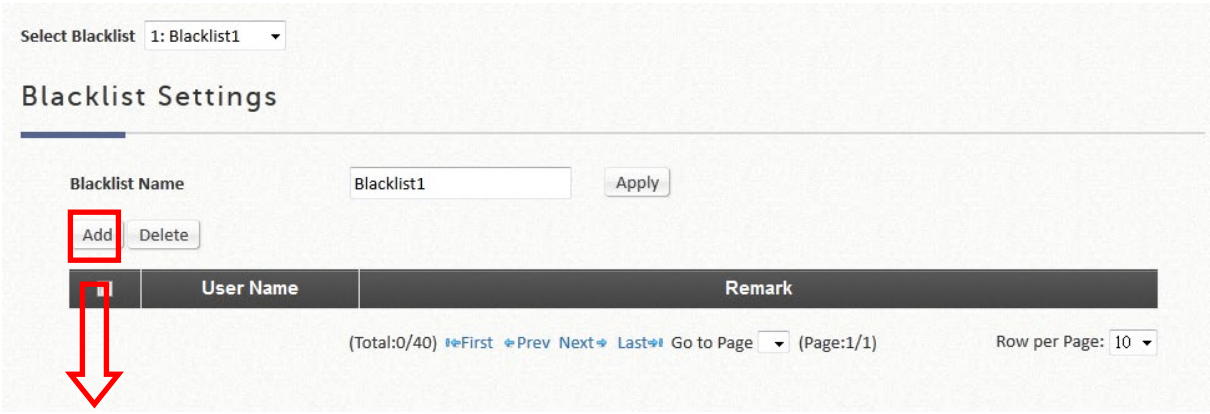
8.2 ユーザーアクセス制御

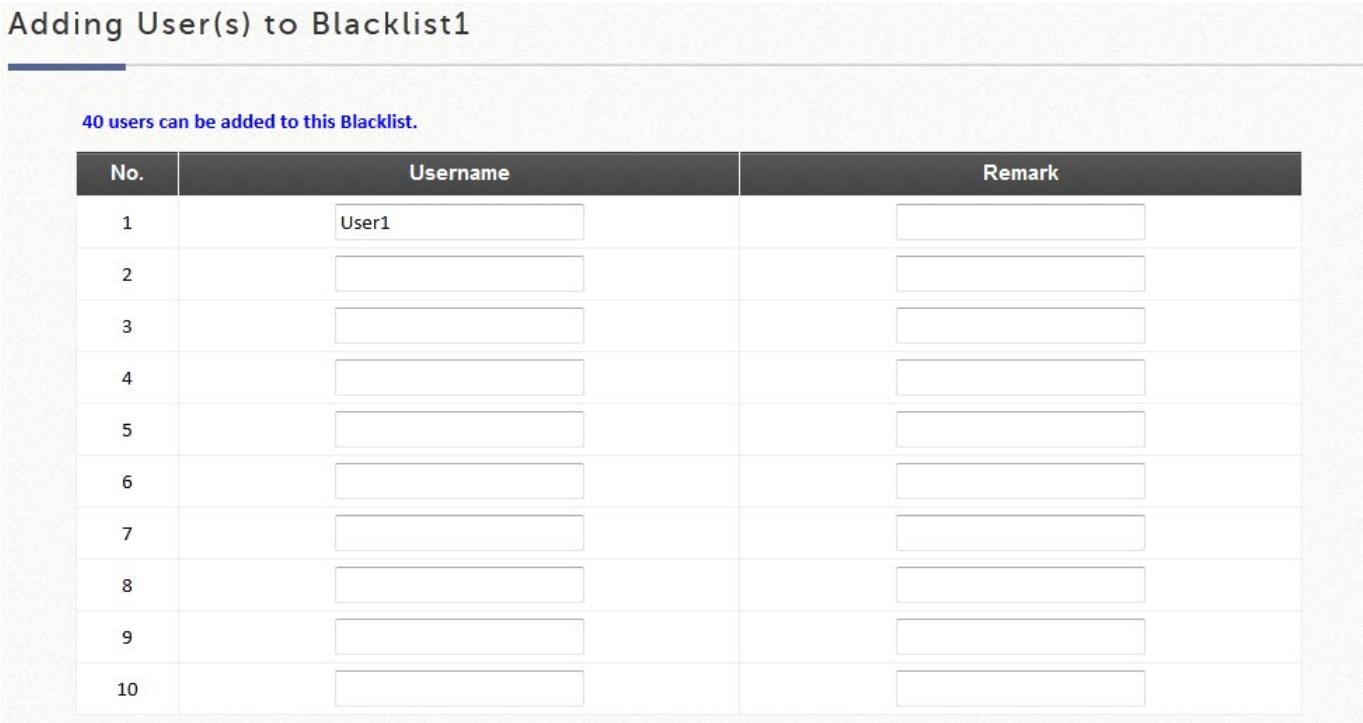
ネットワークオペレータは、認証や関連付けから特定のアカウントやデバイスのアクセス性を制限したい場合があります。このセクションでは、ユーザーまたはデバイスの制限を実現する方法について説明します。

8.2.1 ブラックリスト

設定パス：Main Menu >> Users >> Black List

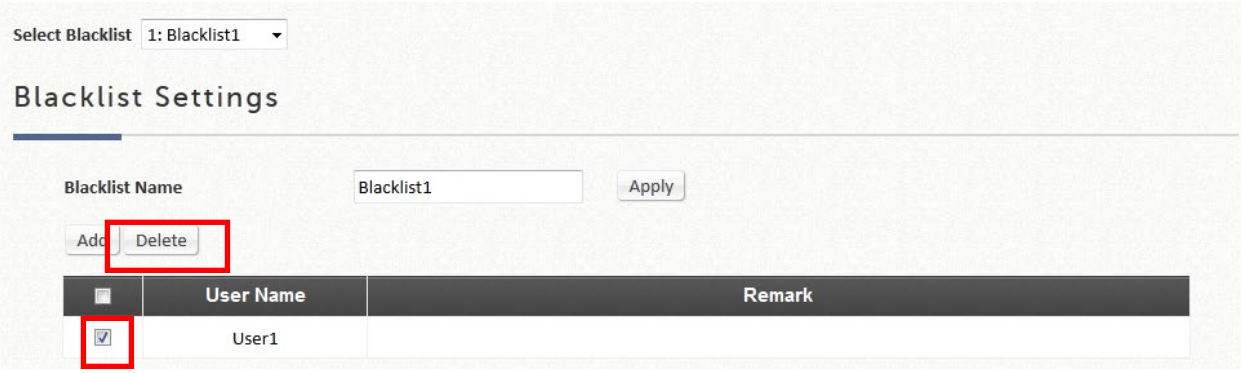
ブラックリストは、ユーザーアクセス制御のためのツールです。各ブラックリストには、ネットワークアクセスが拒否される特定のユーザーアカウントを保持できます。管理者は、プルダウンメニューを使用して、編集するブラックリストプロファイルを選択できます。



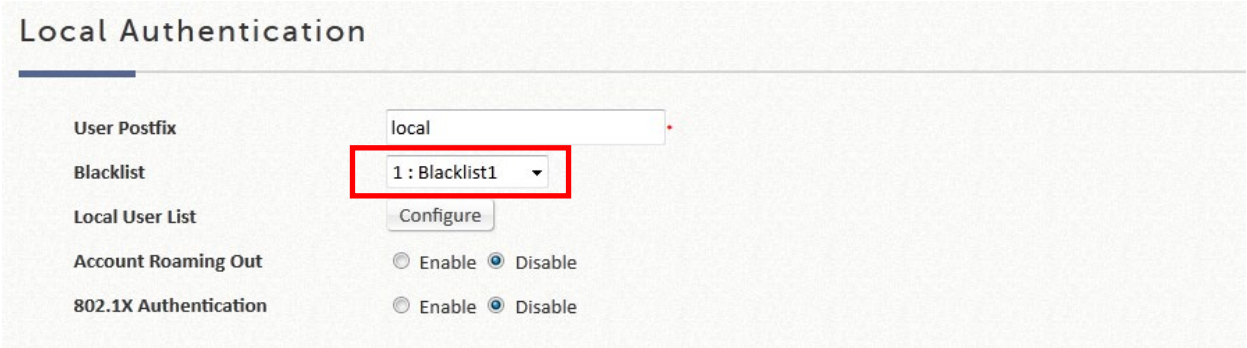


Username のブランクフィールドにユーザー名を入力し、**Remark** のブランクフィールドに関連情報を入力（必須ではありません）したら、***Apply*** をクリックしてユーザーを追加してください。

ブラックリストからユーザーを削除するには、ユーザーの **Delete** ハイパーリンクを選択して、そのユーザーをブラックリストから削除してください。



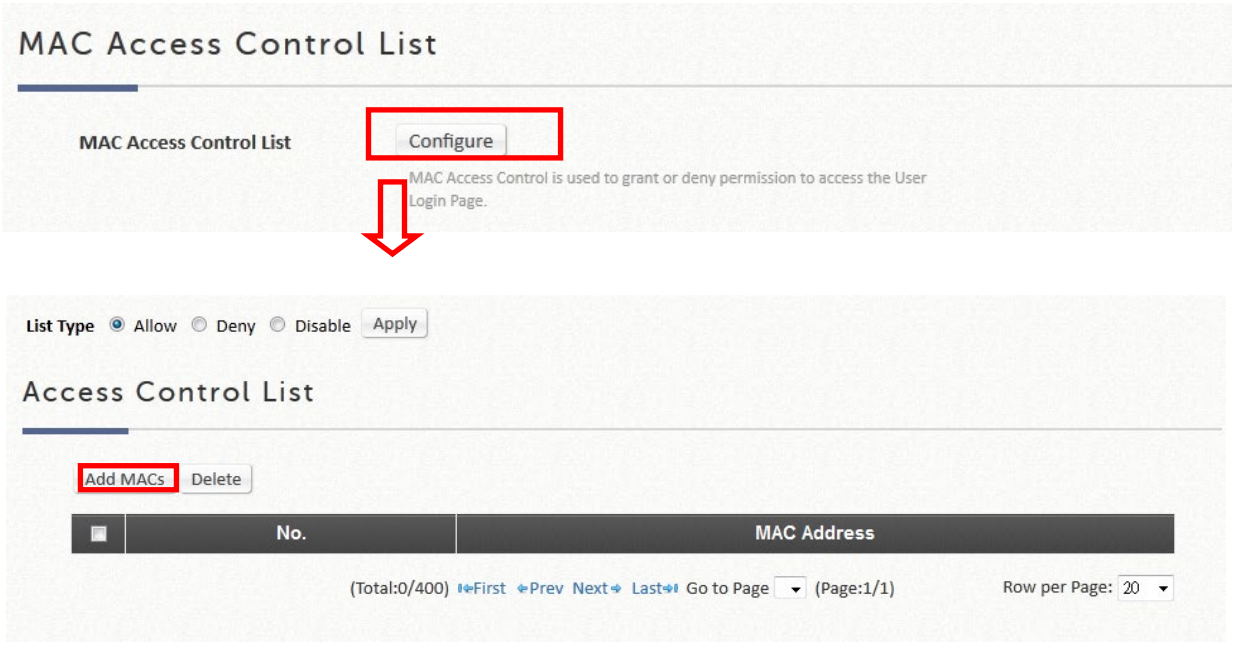
ブラックリストのセットアップが完了したら、必要な認証サーバーでブラックリストを選択すると、ブラックリストが有効になります。



8.2.2 MAC ACL

設定パス：Main Menu >> Users >> Additional Controls

MAC ACL は、アクセスフィルタリングのために特定の MAC アドレスを許可または拒否することができる MAC アドレスアクセス制御リストです。MAC ACL 許可ユーザーには、引き続きユーザー認証が必要です。***Configure*** をクリックして、**MAC アドレス制御**リストに入ってください。**Add MACs** をクリックして必要な MAC アドレスを入力し、***Allow***（許可）または ***Deny***（拒否）を選択して ***Apply*** をクリックしてください。



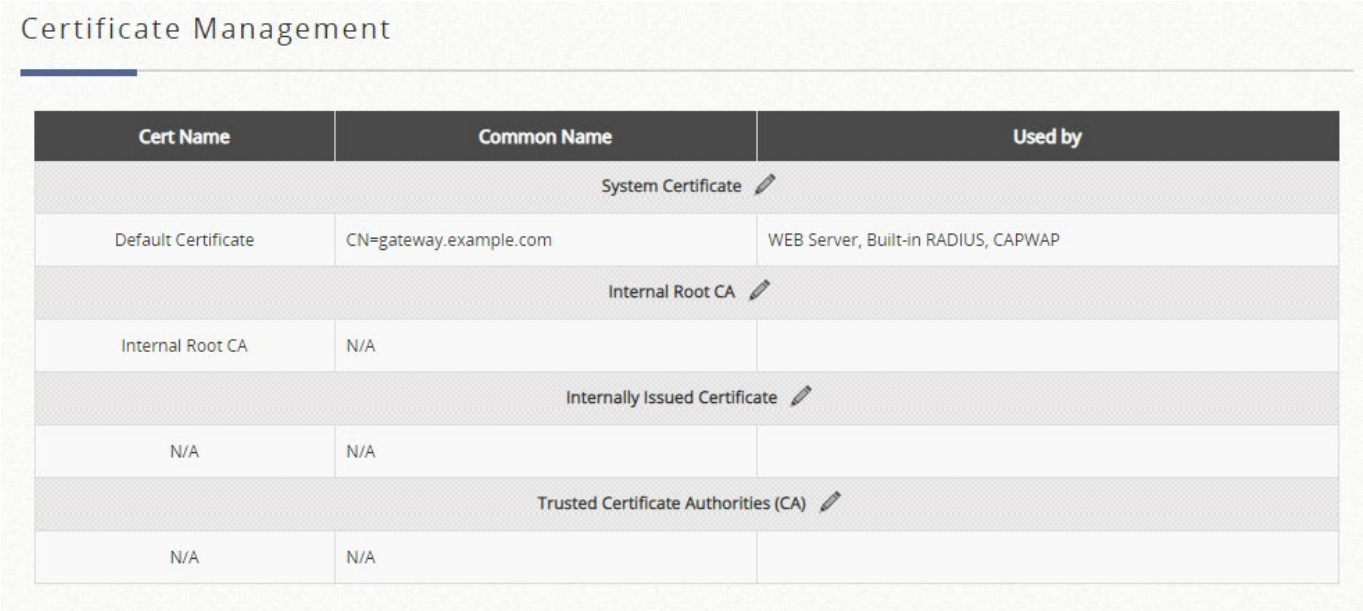
メモ

1. MAC アドレスの形式は xx:xx:xx:xx:xx:xx または xx-xx-xx-xx-xx-xx です。コロンは、システムによって自動的に挿入されます。

8.3　認定

設定パス：Main Menu >> Utilities >> Certificate

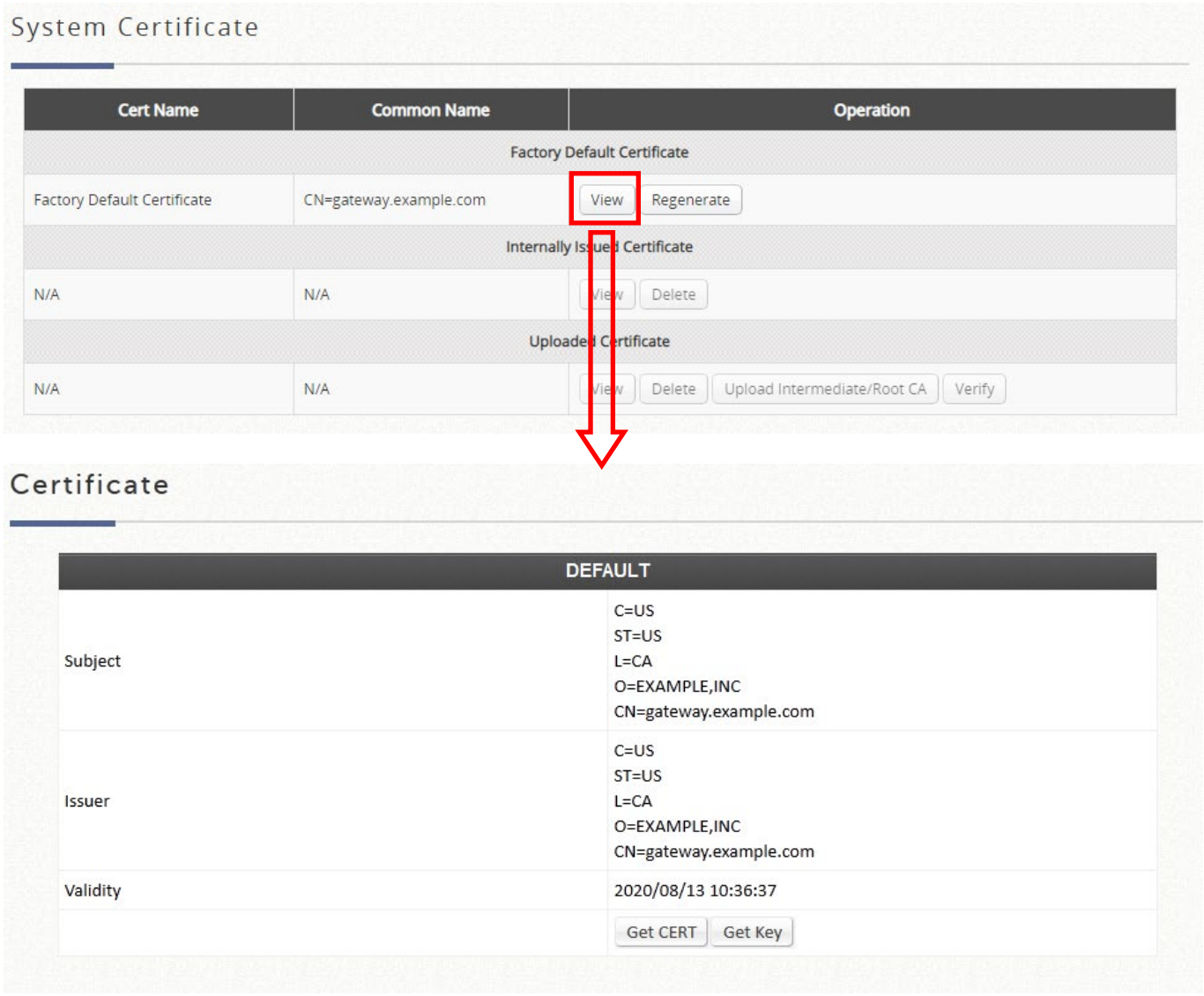
EWS アクセスコントローラは、プライベートネットワークで管理する AP に証明書を発行できます。管理者は、システムのルート CA が発行する証明書に署名し、管理された AP にこれらの証明書をロードすることができます。これらのセキュリティ証明書は、AP と AC の間の CAPWAP 検出要求の ID と信頼性の検証に使用されます。また、ローミングアウトする組み込み RADIUS サーバーのユーザーの認証にも使用できます。 「Certificate Management」（証明書管理）には、利用可能な証明書と現在使用中の証明書の概要が表示されます。



設定に入るには、各カテゴリの左上隅にある「編集」アイコンをクリックしてください。

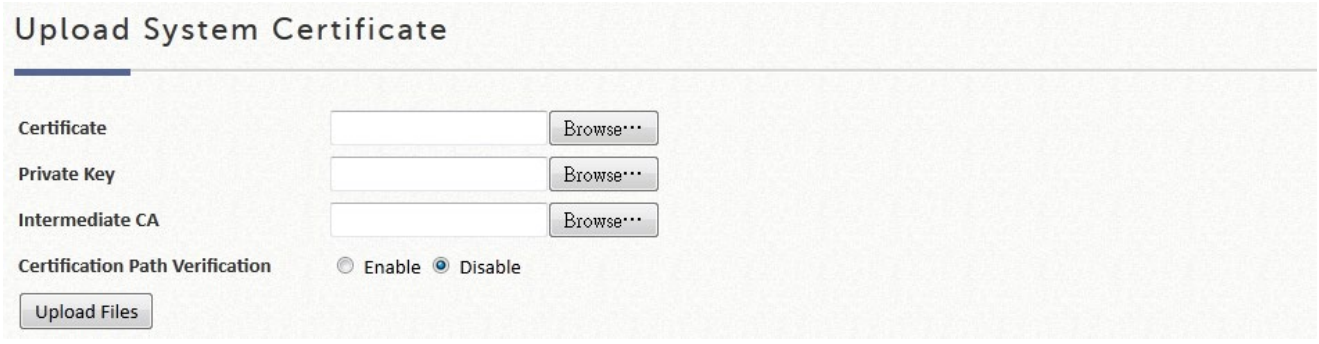
8.3.1.システム証明書

これは、システムを識別する証明書です。これらの証明書は、HTTPS ログイン、CAPWAP などのアプリケーションに使用できます。コントローラには、削除できない出荷時デフォルト証明書（gateway.example.com）が組み込まれていますが、証明書のアップロードは許可されています。Re-generate（再生成）ボタンを使用すると、管理者はゲートウェイの MAC アドレスに基づいて独自の証明書を自動的に生成できます。証明書の詳細を表示するには、対応する View（表示）ボタンをクリックしてください。



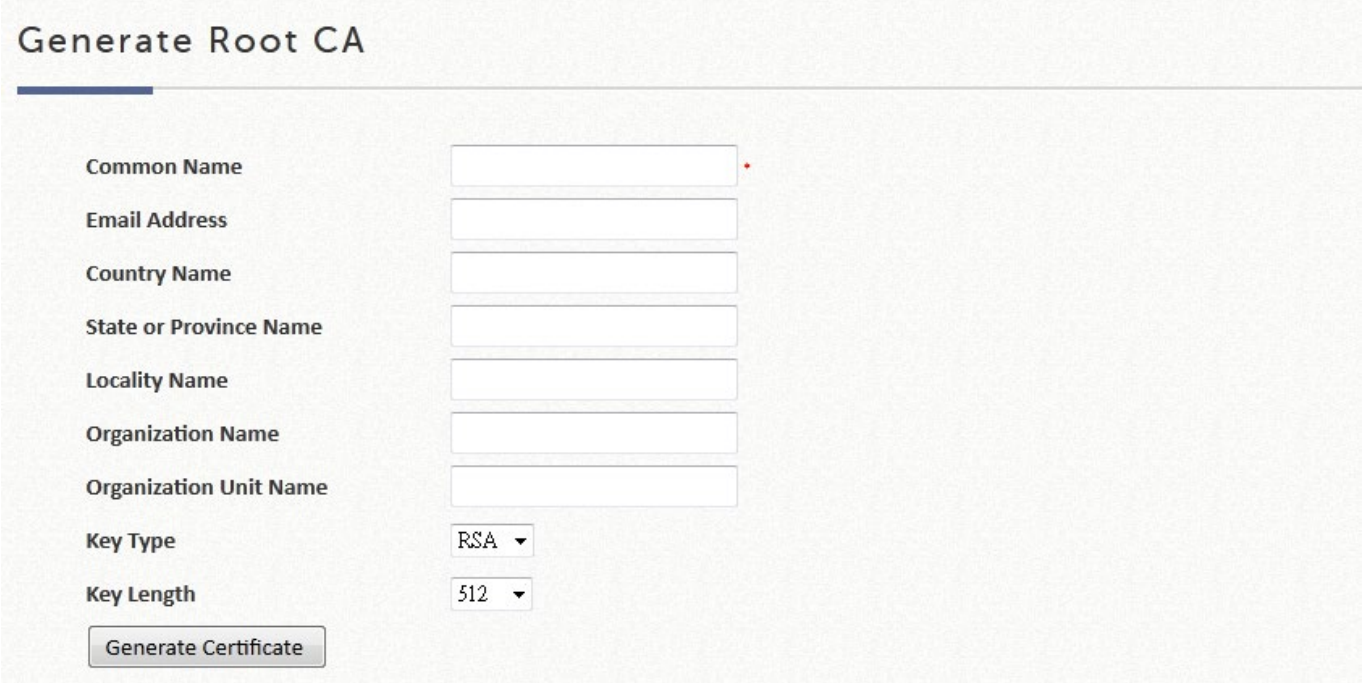
証明書と公開キーをローカルディスクにダウンロードするには、「Get CERT」（証明書を取得する）と「Get Key」（キーを取得する）をクリックしてください。

証明書/秘密キー/中間 CA をアップロードするには、「Browse」（参照）をクリックして適切なファイルを選択し、Upload Files（ファイルをアップロードする）をクリックしてください。



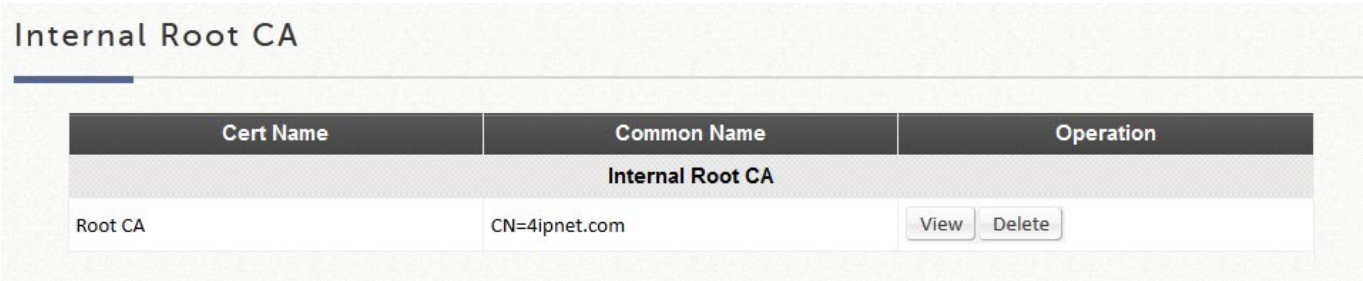
8.3.2.内部ルート CA

管理者は、内部ルート CA をアップロードし、またはプライベート用にルート CA を生成することができます。作成されたルート CA 証明書をダウンロードして、システムによって生成された証明書に署名するために使用できます。システムでは、内部ルート CA を 1 つしか作成できないことに注意してください。



内部ルート CA をアップロードするには、Browse（参照）をクリックしてローカルディスクから証明書と一致する秘密キーを選択し、「Upload Files」（ファイルをアップロードする）をクリックしてください。

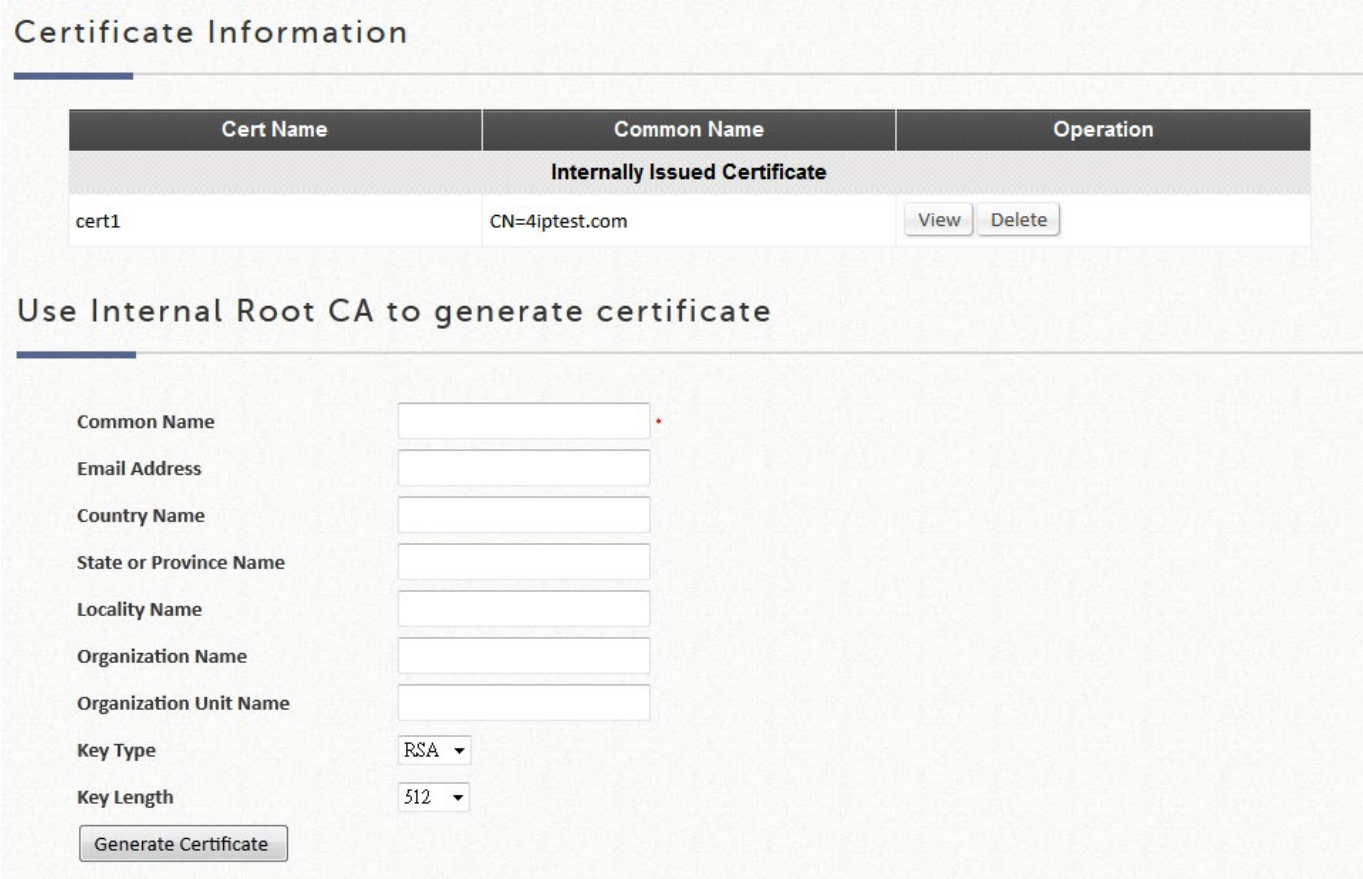
内部ルート CA がアップロード/生成されると、詳細は次の形式で表示されます。



証明書の詳細を表示するには、View（表示）ボタンをクリックしてください。

8.3.3. 内部発行証明書

内部発行証明書は、このページで生成できます。内部発行の証明書に署名する前に、内部ルート CA を最初に作成する必要があることに注意してください。Certificate Information（証明書情報）は、現在発行されているすべての内部発行証明書を表示する概要です。証明書の詳細を表示するには、対応する View（表示）ボタンをクリックしてください。



8.3.4. 信頼できる証明書発行者

自己署名証明書とシステムのルート CA とは別に、管理者は、他の CA エンティティまたは信頼できる CA によって署名された他の証明書をシステムにアップロードすることもできます。これらの信頼できるルート CA 証明書は、コントローラが外部支払いゲートウェイおよび/または CAPWAP 対応 AP の証明書を認識し、信頼するためのものです。信頼できる CA をアップロードするには、browse（参照）をクリックして証明書を選択し、Upload Files（ファイルをアップロードする）をクリックしてください。証明書の詳細を表示するには、対応する View（表示）ボタンをクリックしてください。

8.4 管理アクセス

設定パス：Main Menu >> System >> General >> Management IP Address

EWS アクセスコントローラでは、管理者は WAN または LAN の両方から特定の IP アドレスまたは IP アドレスの範囲をリストで指定することで、Web 管理インターフェースへのアクセスを許可できます。例えば、「192.168.3.1」と「192.168.1.0/24」を入力すると、192.168.3.1 のデバイスと 192.168.1.0～192.168.1.255 の範囲のデバイスだけが Web 管理インターフェースに到達できることを意味します。

Remote Console が有効になっている場合、コンソールインターフェースにリモートでアクセスできます。セキュリティ上の理由から、コンソールアクセスはデフォルトで無効になっており、悪意のあるユーザーがシステムにアクセスできないようにしています。

第9章　コントローラ管理用ユーティリティ

9.1EWS コントローラ管理

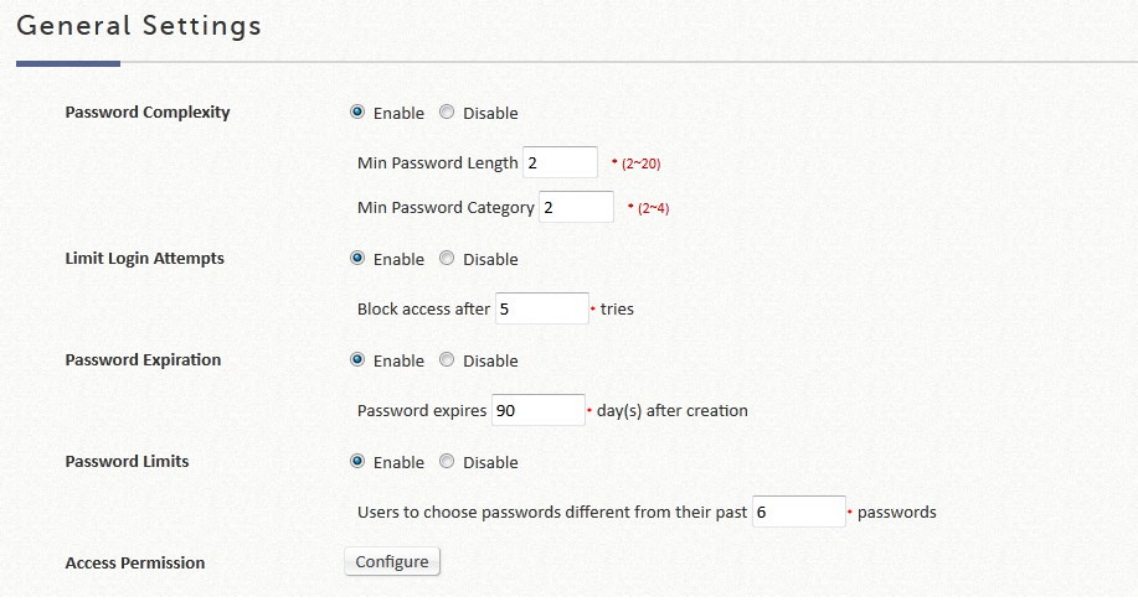
設定パス：Main Menu >> Utilities >> Administrator Account

EWS コントローラのルート管理アカウントは、フルアクセス、変更、アプリケーションの特権と権限を持つ「管理者」アカウントです。ただし、管理担当者が指定した権限領域にアクセスするために作成できる、権限の低い第 2 階層のアカウントがあります。これは、複数の管理担当者を必要とする大規模な展開に必要な機能です。

この設定パスは、権限プロパティを割り当てるページと、ネットワークのニーズに合わせてカスタマイズ可能な他の管理アカウントを生成するためのページにつながります。

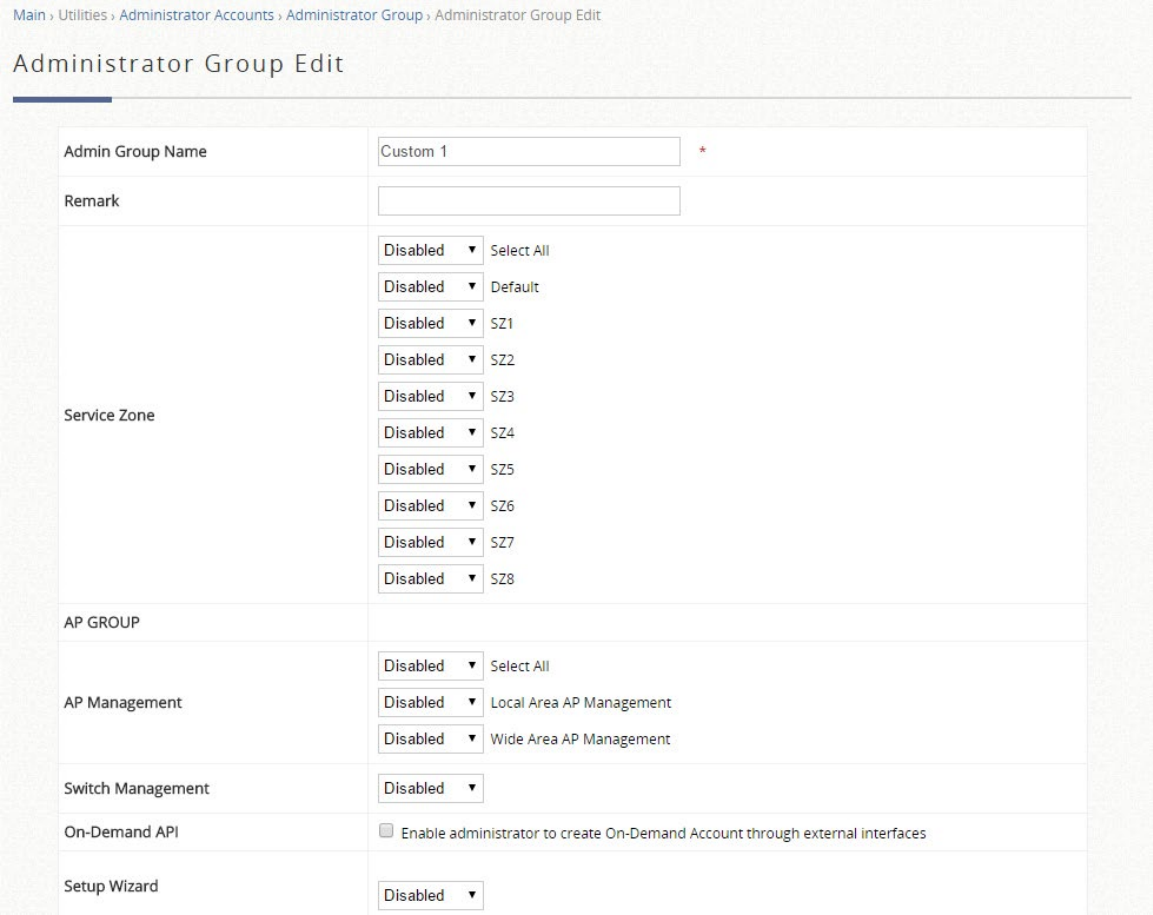
デフォルトの状態では管理アカウントが 1 つだけです。**Group Permission Settings**（グループのアクセス許可設定）では、特定の管理グループに対してアクセス可能な WMI ページをカスタマイズし、そのグループの管理アカウントを作成できます。

ステップ 1： パスワードの安全設定



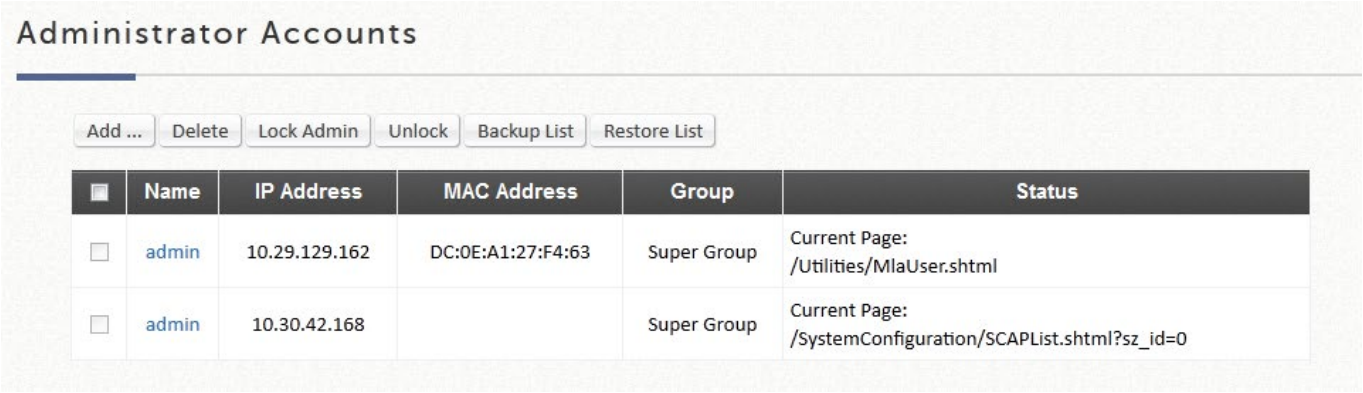
パスワードの安全性を有効にして、Web 管理インターフェースを権限のない担当者から保護することができます。これらの設定はデフォルトで無効になっています。

ステップ 2：グループアクセスプロパティの設定



コントローラは、カスタマイズ可能な管理アカウントタイプ（スーパーグループ、マネージャ、オンデマンドマネージャ、オペレータなど）をサポートします。管理者は、すべてのアクセス権限と設定権限を持つ、スーパーグループに分類されます。スーパーグループメンバーのみが、他の管理アカウント（マネージャー、オンデマンドマネージャー、オペレータ）を生成できます。すべての管理アカウントの権限設定をカスタマイズできます。スーパーグループメンバーを除き、他の管理アカウントは、読み取り/書き込みアクセス権または読み取り専用アクセス権を持つように設定できます。

ステップ 3：管理者アカウントリストを使用して、管理者アカウント情報とそのステータスを表示できます。「Add」をクリックし、必要なアカウント名、パスワード、および割り当てられた権限グループを入力してアカウントを作成してください。**Apply** をクリックした後、新しく生成されたアカウントが下表に表示されます。



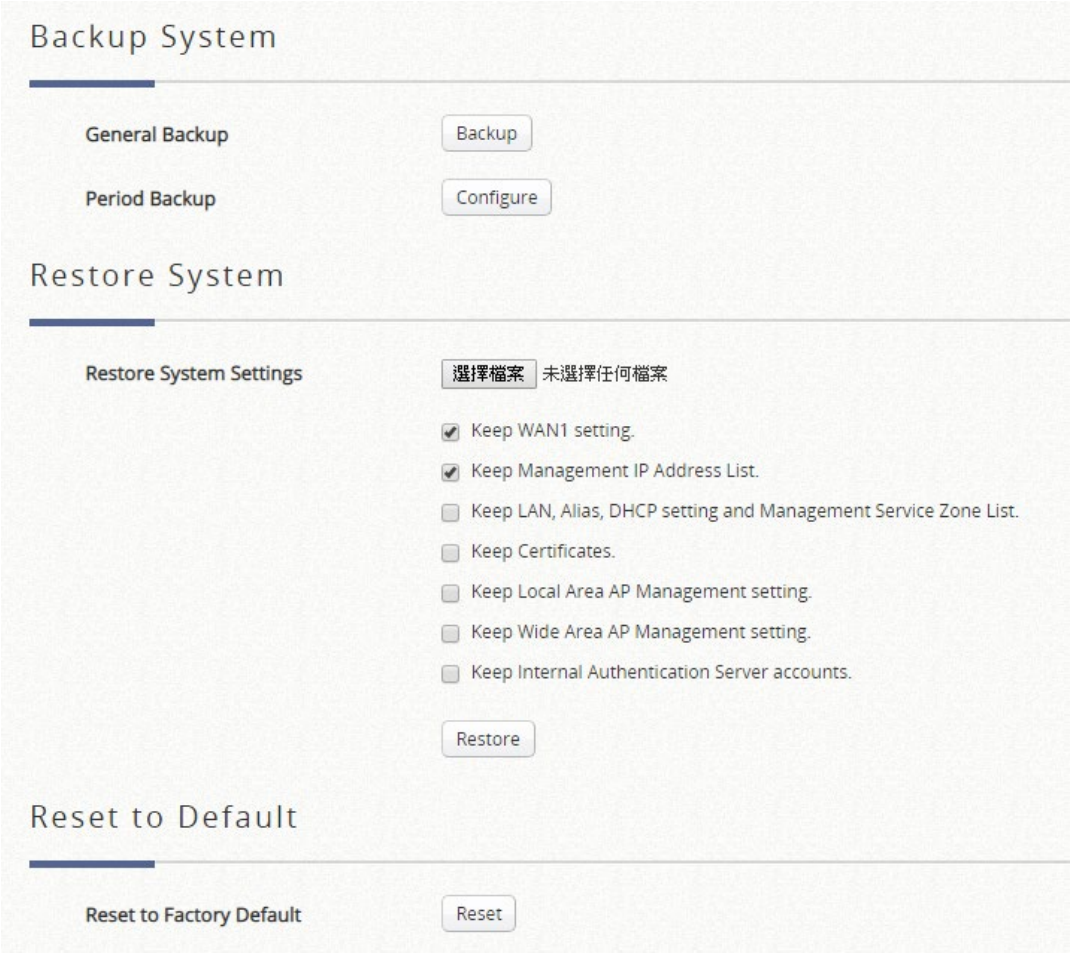
メモ

1. パスワードの安全設定には、管理アカウントの作成またはパスワードの変更時に従う必要がある制約または規則が含まれています。
2. このアカウントが現在 WMI にアクセスしている場合、管理者リストには、既存のすべての管理アカウントとログイン状態が表示されます。
3. 管理者アカウントはルートアカウントであり、削除したり、権限を変更したりすることはできません。

9.2設定のバックアップと復元

設定パス：Main Menu >> Utilities >> Backup & Restore

この機能は、EWS コントローラの設定をバックアップ/復元するために使用します。バックアップは FTP 経由で定期的に行うことができます。さらに、EWS コントローラを工場出荷時の設定に戻すことが可能です。



メモ

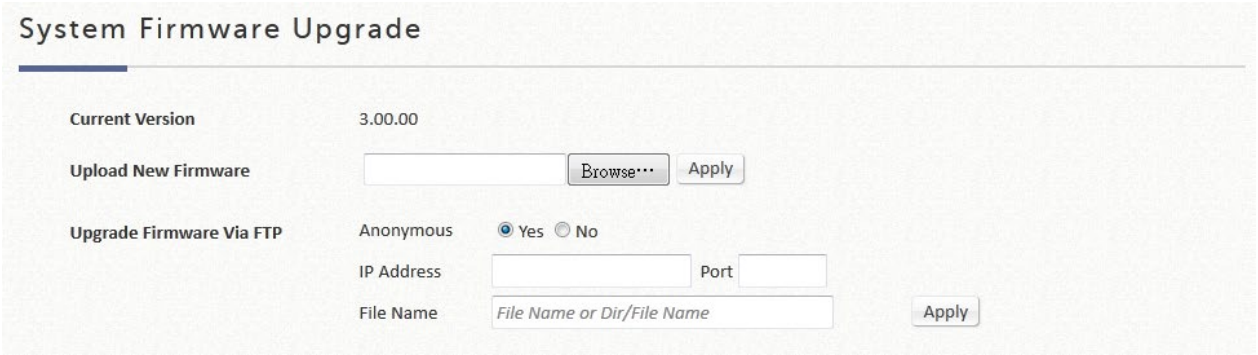
1. General Backup（一般バックアップ）機能を使用すると、db ファイルの保存を求めるポップアップウィンドウが表示されます。
2. この操作をリモートで実行する場合、WMI 接続の損失を防ぐために WAN 設定を保持するなどのオプションを使用して、以前の db 設定の復元を実行できます。
3. 工場出荷時のデフォルトにリセットすると、すべての設定が消去され、コントローラが工場出荷時の設定に復元します。このアクションには、重要な設定を保持するための追加オプションもあります。

9.3ファームウェアのアップグレード

設定パス：Main Menu >> Utilities >> System Upgrade

管理者は、Edgecore のウェブサイトまたは Edgecore のサポートチームから最新のファームウェアを入手し、システムをアップグレードすることができます。***Browse***（参照）をクリックしてローカルドライブ上のファームウェアファイルを検索し、***Apply*** をクリックしてファームウェアをアップグレードしてください。アップグレードプロセスが完了するまでに数分かかる場合があります。その後、新しいファームウェアをアクティブ化するためにシステムを再始動する必要があります。FTP ファームウェアのアップグレードもオプションで、FTP サーバーの IP アドレス、FTP サーバーポート、および FTP アカウント名とパスワードを入力し、最後に、システムのアップグレードに使用する FTP サーバーに格納されている完全なファームウェアファイル名を指定してください。

アップグレードを実行する前に、システムはバージョンの互換性をチェックし、システムの健全性を確認します。バージョンの互換性については、Edgecore サポートチームにお問い合わせください。



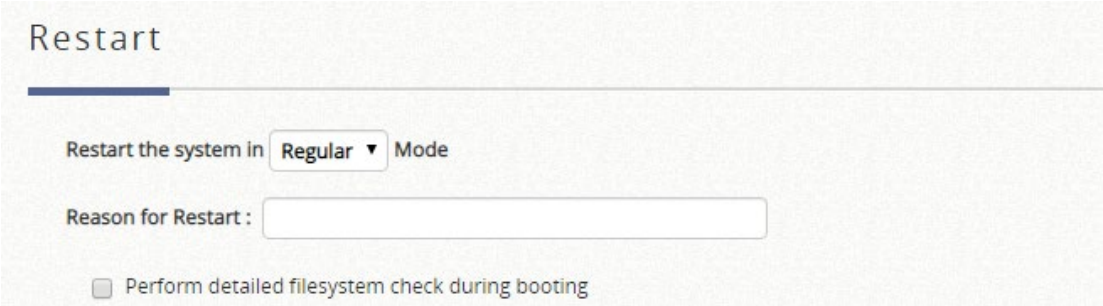
メモ

ファームウェアのアップグレード後に工場出荷時のデフォルトにリセットする前に、システムを再始動する必要があります。

9.4再始動

設定パス：Main Menu >> Utilities >> Restart

この機能により、管理者は EWS コントローラを安全に再始動でき、処理が完了するまで数分かかる場合があります。***Apply*** をクリックして、EWS コントローラを再始動してください。電源を切る必要がある場合は、まず EWS コントローラを再始動し、再始動プロセスの完了後に電源を切ることを強くお勧めします。管理者は、保守のために再始動の理由を入力できます。



メモ

1. システムの再始動中に、システムのすべてのオンラインユーザーの接続が切断されます。

第10章 監視用のレポートとログ

10.1　システム関連のステータス

10.1.1 ダッシュボード

このページには、一般的なシステム設定、ネットワークインターフェース、オンラインユーザーなどを含む、管理者が把握する必要がある重要なシステム関連情報が表示されます。ドロップダウンメニューを使用して、このページの情報更新レートを選択できます。または、「Refresh」ボタンをクリックして手動で更新することもできます。

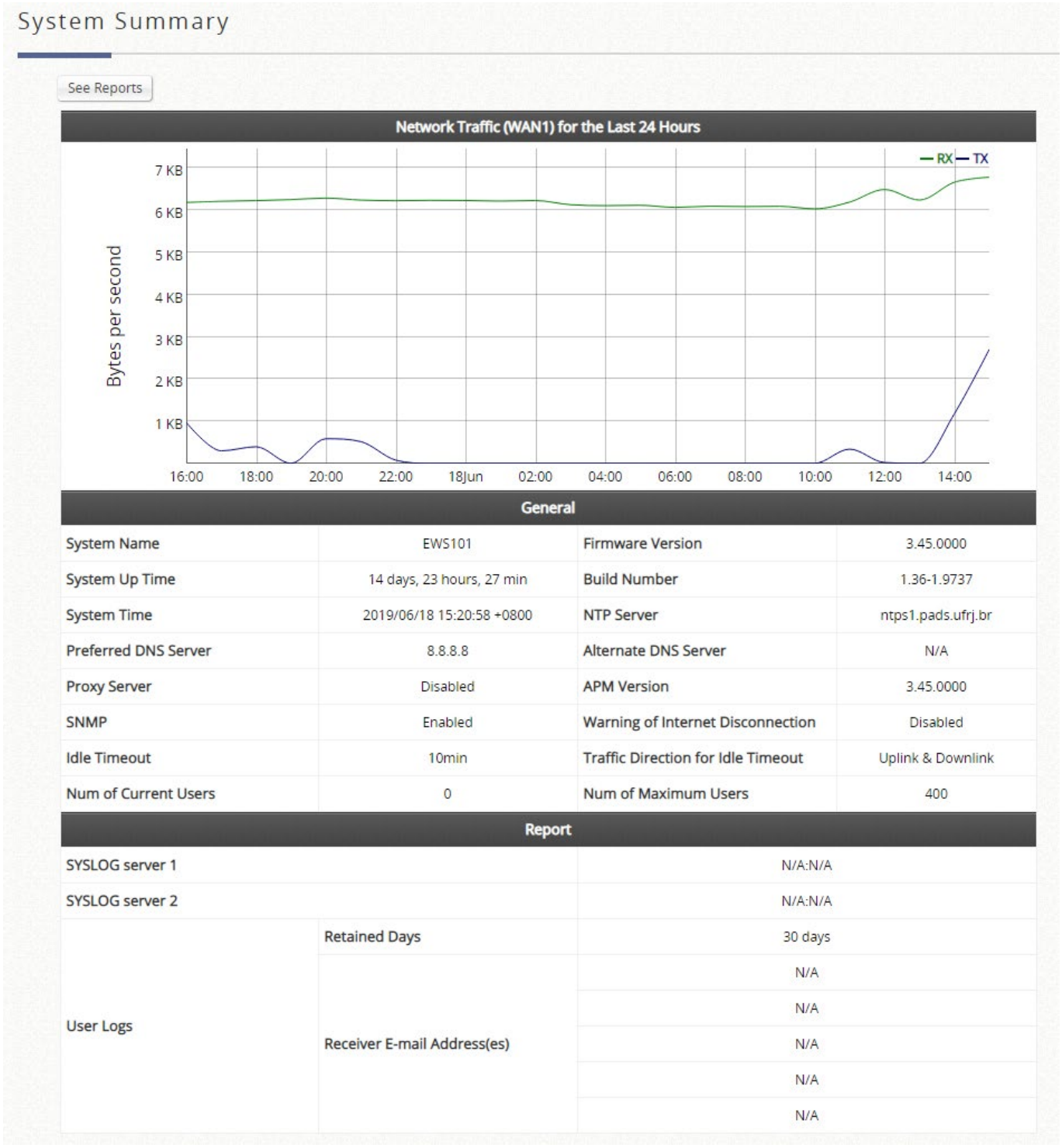
画面右上の「Display Mode」（表示モード）ボタンを使用すると、管理者はダッシュボードに表示される項目を決定できます。

右上隅の Download ボタンは、システム設定をキャプチャするツールです。これは、メンテナンスまたはトラブルシューティングの目的で使用されます。

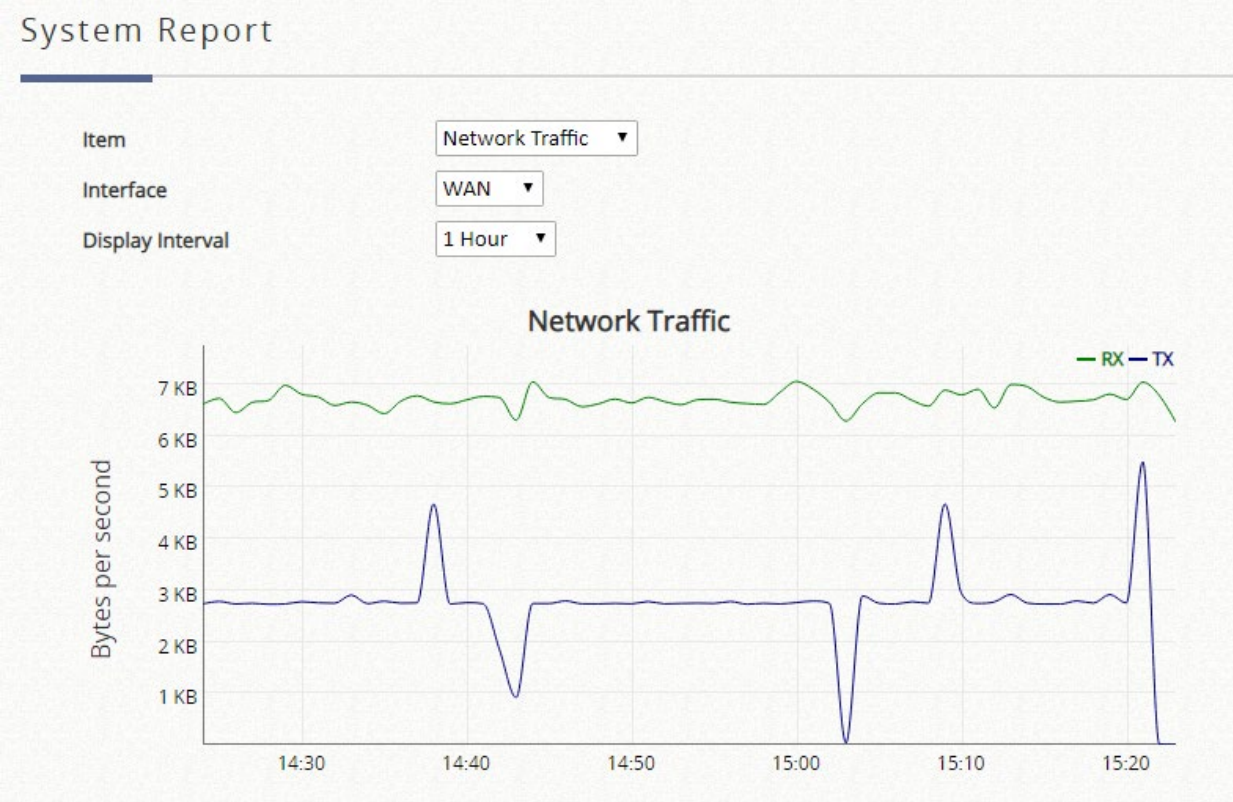
10.1.2 システムの概要

設定パス：Main Menu >> Status >> System Summary

システムステータスページには、システムファームウェアバージョン、設定されたレポートサーバー、WAN オプション設定、ユーザーログプロファイル、システム時間、セッション制御設定などの目次が表示されます。この概要は、主要な設定項目用に設計されています。詳細なステータスについては、対応する設定ページに進んでください。



See Reports（レポートを表示する）ボタンをクリックすると、レポートを選択できます。これらのレポートは、インターフェースと間隔に基づいてソートできます。

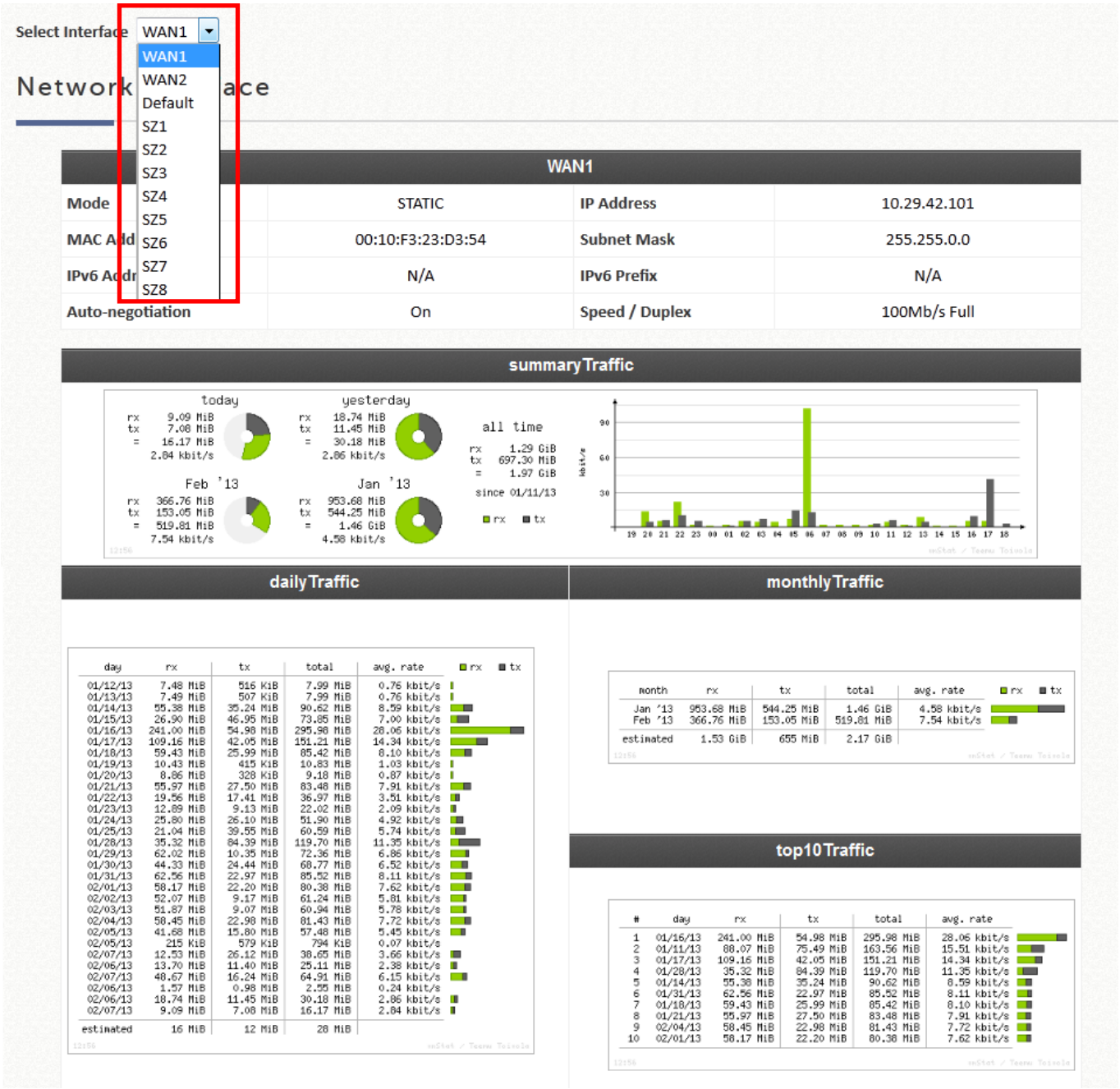


10.1.3 ネットワークインターフェース

設定パス：Main Menu >> Status >> Interface

このセクションでは、**WAN1**、**WAN2**、**SZ デフォルト**、**SZ1～SZ8** など、管理者が検査する各ネットワークインターフェースの詳細を説明します。

表示するネットワークインターフェースを選択してください。選択されたインターフェースが有効になっている場合は、対応するネットワーク設定が表示されます。ページをスクロールダウンすると、トラフィックの概要、その日のトラフィック、月のトラフィック、上位 10 日間のトラフィックなど、さまざまなスケールのトラフィック統計がグラフィカルに表示されます。



メモ

1. 長期保存のために統計を保存する必要がある場合は、外部サーバーでのネットワークトラフィックの送信と保存の手順について、「レポートと通知」セクションを参照してください。

10.1.4 ルーティング

設定パス：Main Menu >> Status >> Routing Tables >> IPv4/IPv6

このステータスページには、すべての**ポリシー**ルートルールが表示され、**グローバルポリシー**ルートルールがここに表示されます。これは、管理者が異なるポリシーに属するユーザーのルーティングルールの適用状況を確認するための迅速な参照ウィンドウを提供します。また、各ネットワークインターフェースに指定された**システム**ルートルールも表示されます。

IPv6 はグローバルポリシーで使用できます。また、そこで構成されたルールは、IPv6 トラフィックのシステムインターフェース設定とともに IPv6 ルーティングテーブルページにも表示されます。

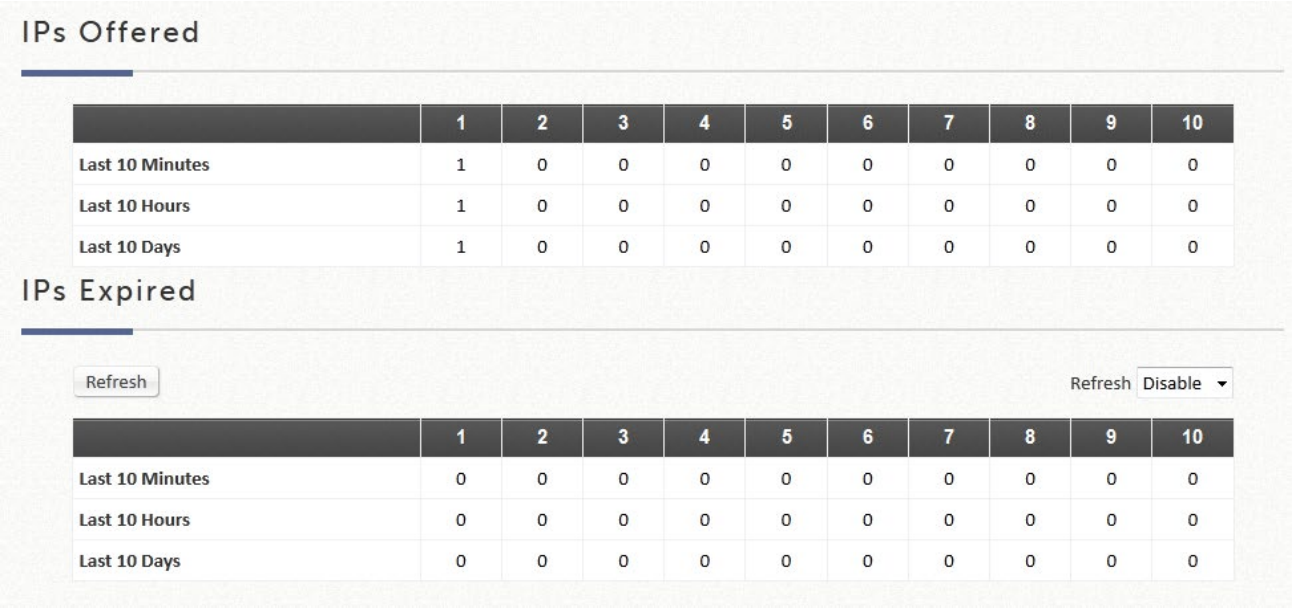
10.1.5 DHCP サーバー

設定パス：Main Menu >> Status >> DHCP Leases

DHCP IP リース統計情報は、このページの ***Show*** Statistics List をクリックすると表示できます。

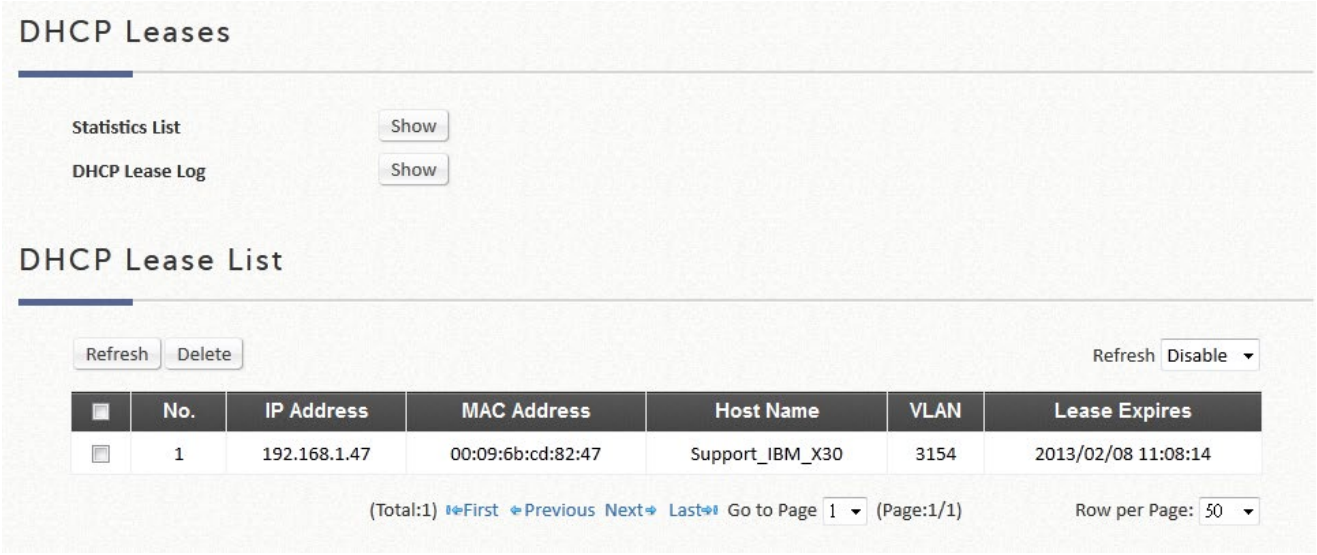
- **提供リストの統計**
  ここには、**Last 10 Minutes**（分）、**Hours**（時間）、および **Days**（日間）の有効なリース数が表示されます。ヘッダー1～10 は単位乗数です。例えば、列 2 の下の数字は過去 20 分/時間/日間のリース数を示し、列 3 の下の数字は過去 30 分/時間/日間のリース数を示します。

- **期限切れリストの統計**
  ここには、**Last 10 Minutes**（分）、**Hours**（時間）、および **Days**（日間）に期限切れになったクライアントへの IP リースが表示されます。ヘッダー1～10 は単位乗数です。例えば、列 2 の下の数字は過去 20 分/時間/日間の期限切れ数を示し、列 3 の下の数字は過去 30 分/時間/日間の期限切れ数を示します。



- **DHCP リースリスト**

  DHCP サーバーから発行された有効な IP アドレスと、この IP アドレスを使用するクライアントの関連情報がここに表示されます。



10.2　クライアント関連のステータス

10.2.1　オンラインユーザー

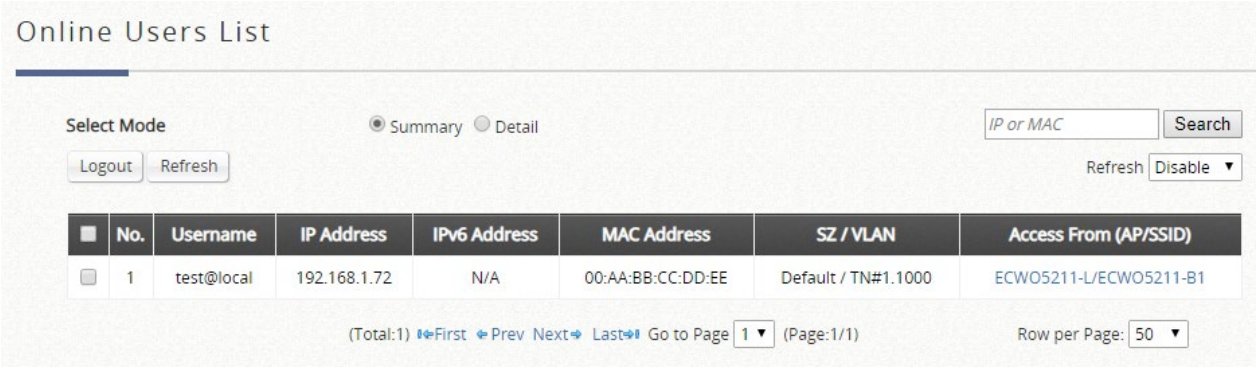
ページパス：Main Menu >> Status >> Monitor Users >> Online Users

このページに表示されるユーザーは、LAN またはリモートでトンネリングされたサイト

の管理対象ネットワークで、このコントローラによって認証されたユーザーです。

メモ

1. 非トンネル構成時にはオンラインユーザーリストに接続端末情報が表示されません。



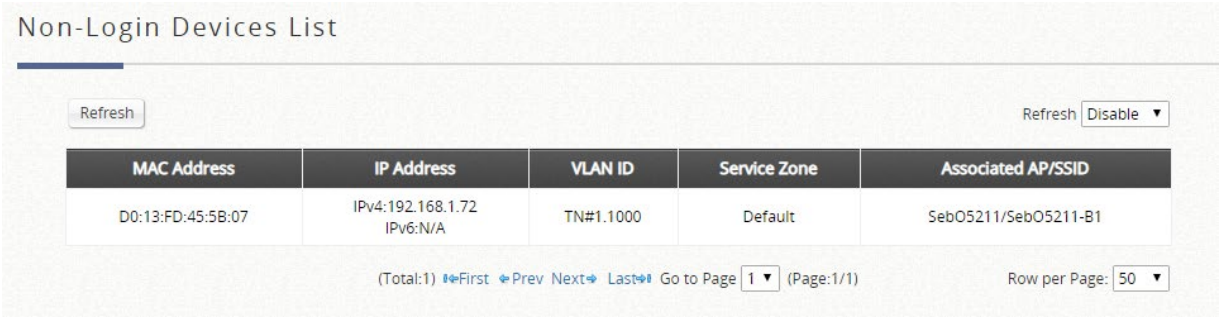
選択できるモードは 2 つあります。「Detail」を選択すると、Pkts In/Out、Bytes In/Out などの詳細情報が表示され、インスタンスのクライアント認証タイプも表示されます。管理者は、***Kick Out*** をクリックして特定のオンラインユーザーを強制退出させたり、**Access From**（アクセス元）の AP 名のハイパーリンクをクリックしてユーザーアクセスの AP ステータスを確認することができます。特定のオンラインユーザーの IP アドレスまたは MAC アドレスを検索するための「Search」（検索）ツールが用意されています。***Refresh*** をクリックして現在のユーザーリストを更新するか、このページの右下隅にあるドロップダウンボックスから自動更新の時間間隔を選択できます。

10.2.2　関連付けられた非ログインユーザー

ページパス：Main Menu >> Status >> Monitor Users >> Non-Login Devices

このページには、システムの DHCP サーバーから IP アドレスを取得している、LAN ま

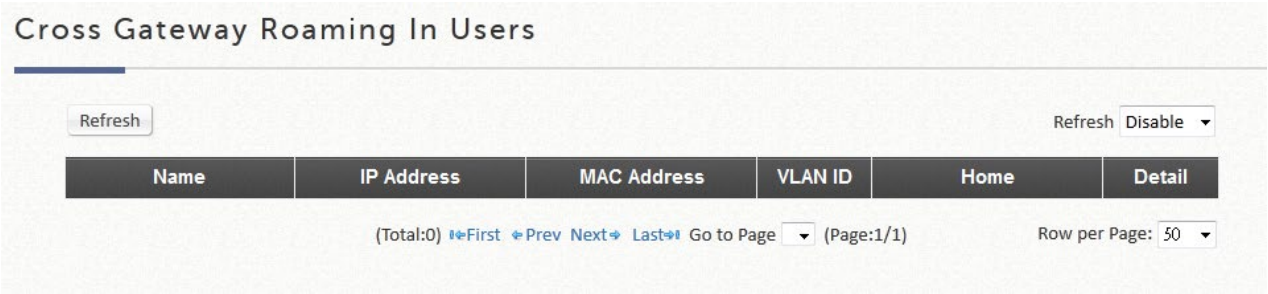
たはリモートでトンネリングされたサイトで認証されていないユーザーが表示されます。この機能は、管理者がシステムのリソースが枯渇しないように管理するために設計されています。リストには、クライアントの **MAC Address**、**IP Address**、および関連付けられた **VLAN ID**、**Service Zone**、クライアントがワイヤレス接続を使用している場合の **Associated AP**（関連付けられた AP）が表示されます。



10.2.3　クロスゲートウェイローミングユーザー

ページパス：Main Menu >> Status >> Monitor Users >> Roaming In Users

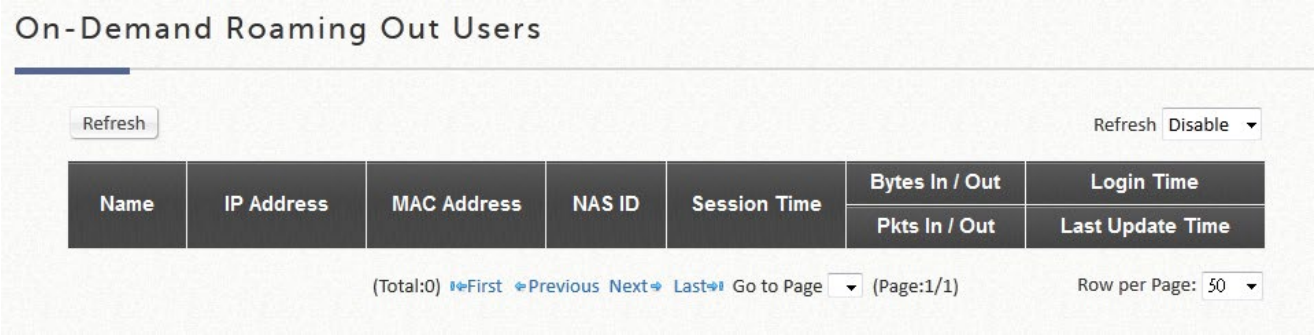
このページには、物理的にこのコントローラの下にある、ローミングピアコントローラによって認証されているユーザーが表示されます。ここにリストされているユーザーは、自分のホームコントローラにトンネリングされ、インターネットに転送されます。



10.2.4　オンデマンドローミングアウトユーザー

ページパス：Main Menu >> Status >> Monitor Users >> Roaming Out Users

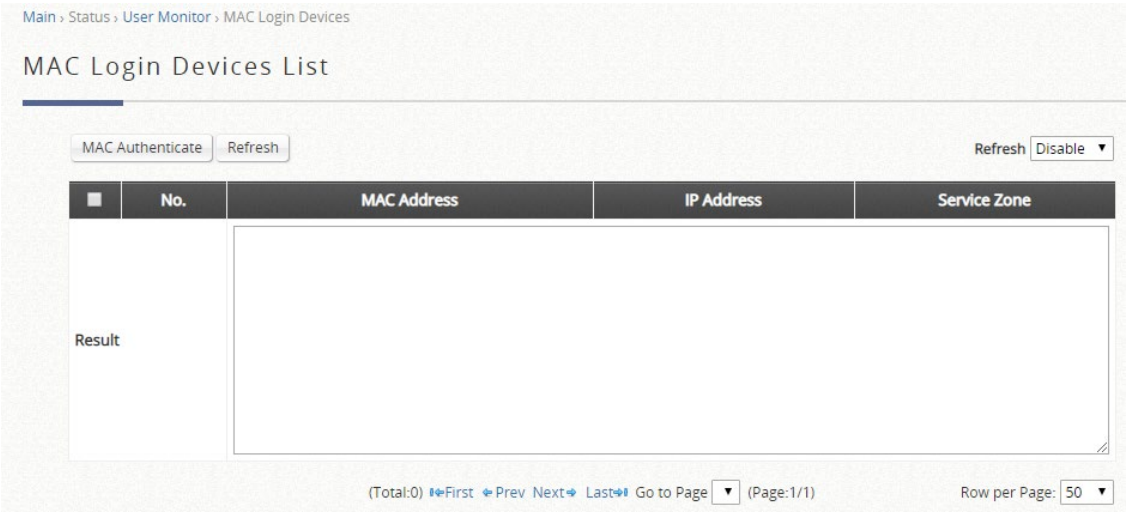
このページには、このコントローラのオンデマンドデータベースを RADIUS データベースとして使用して、他のコントローラによって認証されたユーザーが表示されます。



10.2.5　MAC ログインデバイス

ページパス：Main Menu >> Status >> Monitor Users >> MAC Login Devices

このページには、それ自体で MAC 認証を完了できないデバイスが表示されます。管理者は、デバイスを選択し、「MAC Authenticate」（MAC 認証）ボタンをクリックすると、手動で認証を行うことができます。認証結果は、このページのテキスト領域に表示されます。



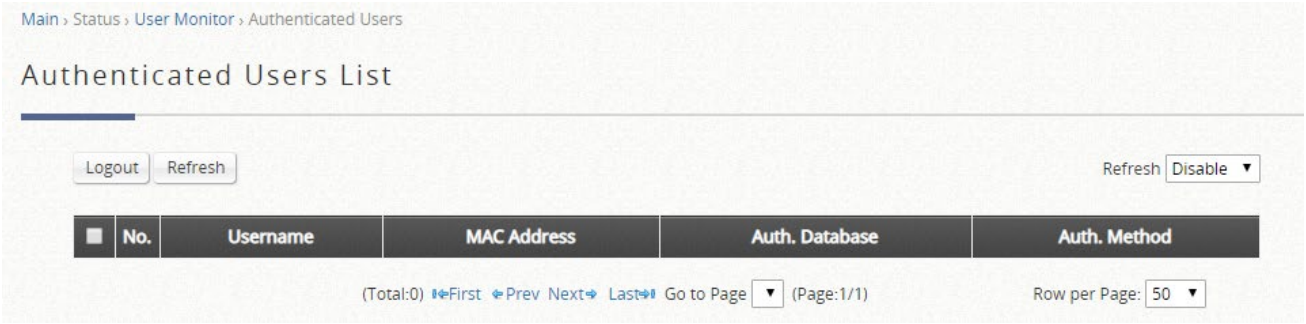
10.2.6　認証されたユーザー

ページパス：Main Menu >> Status >> Monitor Users >> Authenticated Users

このページには、コントローラに対して不明な IP 情報を持つ認証完了ユーザーが表示されます。一部のタイプの認証（802.1X、MAC 認証、PPP 認証、CoA ログイン）では、ユーザーはネットワークアクセスを許可する前にネットワークアクセスを認証する必要

があります。したがって、ユーザーは、認証が完了した後にのみ DHCP 経由で IP アドレスを要求できます。認証されたユーザーが IP アドレスを取得し、ネットワークの使用を開始すると、認証されたユーザーリストからオンラインユーザーリストに移動されます。

管理者は、ユーザーを選択し、「Logout」ボタンをクリックすると、認証されたユーザーをログアウトできます。



10.2.7　スマートログインユーザー

ページパス：Main Menu >> Status >> Monitor Users >> Smart Login Users

スマートログインは、オンデマンドユーザーにとって便利な機能です。スマートログインを有効にしたとき、オンデマンドユーザーがログインに成功すると、デバイスがログアウトしていても、定義された期間内に自動的にログインされます。

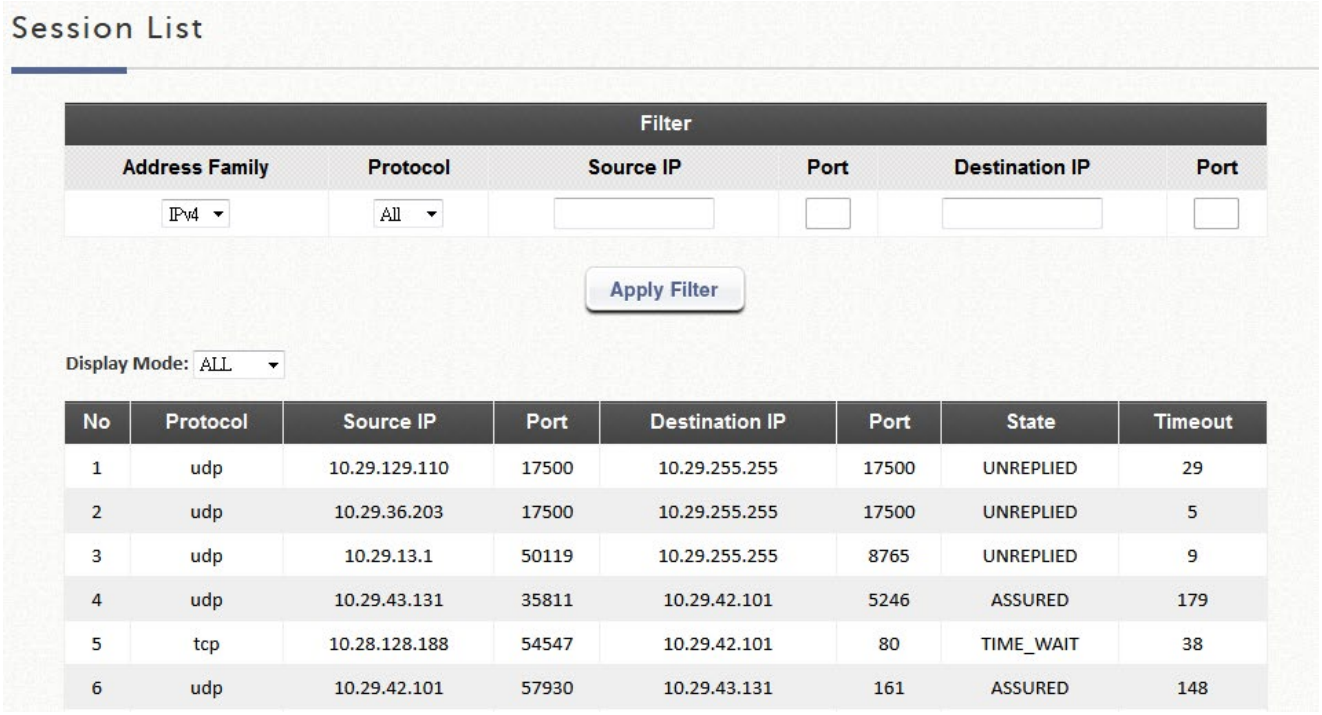
このページには、スマートログイン期間内のオンデマンドユーザーが表示されます。このリストのユーザーは、次回ネットワークにアクセスしたときに自動的にログインします。

管理者は、スマートログインユーザーリストでユーザーを削除できます。削除されたユーザーは、次回手動でログインする必要があります。

10.2.8　セッションリスト

設定パス：Main Menu >> Status >> Sessions

このページでは、管理者はクライアントとシステムの間で現在確立されているセッションを検査できます。各結果には、送信元と宛先の IP とポートの値が表示されます。フィルタ条件を定義し、希望する結果のみを表示できます。



No	Protocol	Source IP	Port	Destination IP	Port	State	Timeout
1	udp	10.29.129.110	17500	10.29.255.255	17500	UNREPLIED	29
2	udp	10.29.36.203	17500	10.29.255.255	17500	UNREPLIED	5
3	udp	10.29.13.1	50119	10.29.255.255	8765	UNREPLIED	9
4	udp	10.29.43.131	35811	10.29.42.101	5246	ASSURED	179
5	tcp	10.28.128.188	54547	10.29.42.101	80	TIME_WAIT	38
6	udp	10.29.42.101	57930	10.29.43.131	161	ASSURED	148

10.3　ログとレポート

10.3.1　システム関連

設定パス：Main Menu >> Status >> Logs and Reports

このページには、システムの起動後にシステムのローカルログとユーザーイベントが表示されます。管理者は、さまざまなイベントのログエントリを調べることができます。ただし、これらの情報はすべて揮発性メモリに格納されるため、再起動/再始動操作中に失われます。したがって、ログ情報を文書化する必要がある場合は、管理者が手動でバックアップを作成する必要があります。

- **CAPWAP Log**：このページには、コントローラと CAPWAP 対応の AP 間で通信される CAPWAP メッセージが表示されます。
- **Configuration Change Log**：このページには、コントローラの WMI 設定を変更したユーザーのアカウントと IP が表示されます。
- **Local Monthly Usage**：このページには、ローカルユーザーの集計統計が表示され、その月の送信トラフィックが表示されます。
- **Local Web Log**：このページには、コントローラ組み込み Web サーバー上でアクセスされた Web ページが表示されます。
- **On-Demand User Billing Report Log**：このページには、オンデマンドアカウントの取引概要が表示されます。
- **RADIUS Server Log**：このページには、コントローラを通過する RADIUS メッセージが表示されます。
- **SIP Call Usage**：ログには、開始時刻、発信者、着信者、期間（秒）などの SIP クライアント（デバイスおよびソフトクライアント）のログインおよびログアウトアクティビティが表示されます。
- **System Log**：このページには、イベントトレース用のシステム関連のログが表示されます。
- **UAMD Log**：UAM デーモンから出力される UAM 関連情報を表示します。
- **Alarm**：選択した項目のエラーメッセージまたは警告メッセージを表示します。障害が解決されるまで、アラームメッセージはアラームリストに残ります。アラーム項目

は、「Alarms & Events Settings」ページで設定できます。

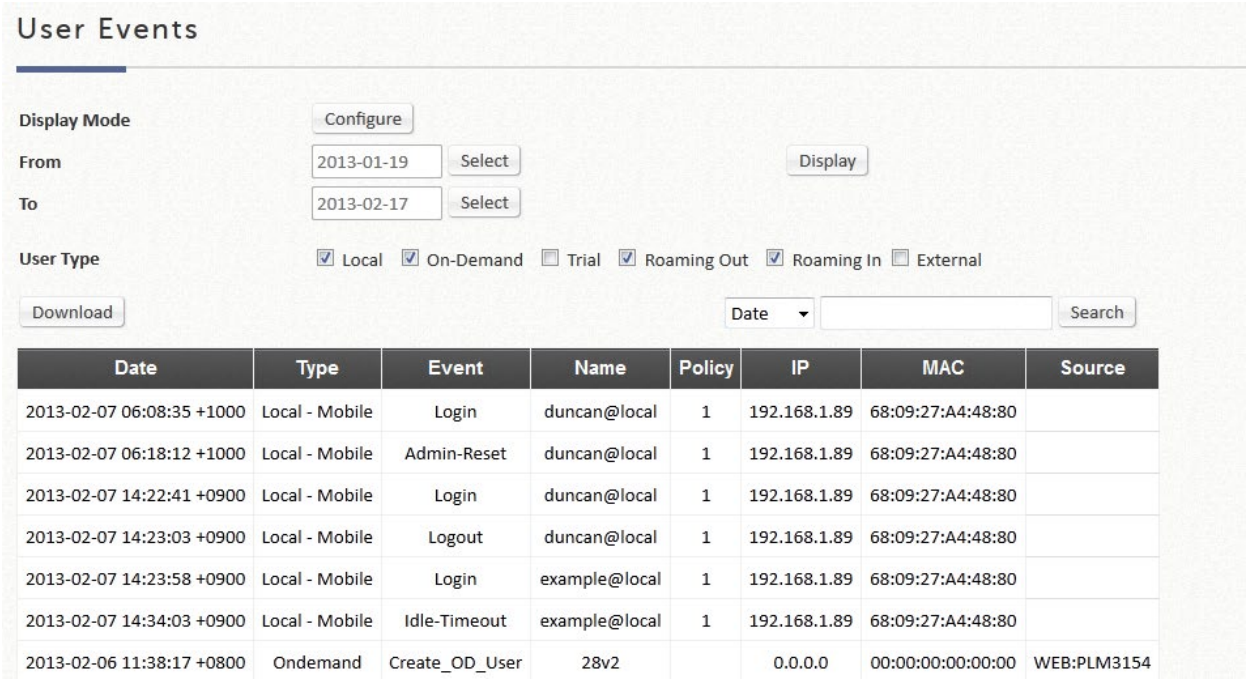
- **Management Event**：選択した管理イベントのログを表示します。管理イベントは、「Alarms & Events Settings」ページで設定できます。

10.3.2　ユーザーイベント

設定パス：Main Menu >> Status >> Logs and Reports >> User Events

このページには、すべてのユーザーログとイベントがまとめられています。ユーザーログとイベントは、最大 40 日間保存できます。管理者の好みに合わせてカスタマイズ可能なすべてのユーザー関連情報を表示します。管理者は、ページごとに表示する行数（20、40、60、80、100）を選択できます。カレンダーから「開始」と「終了」の日付を選択して、不要なユーザーイベントをフィルタリングしてください。開始日と終了日を選択したら、「Display」をクリックして、選択した日付内のすべてのユーザーイベントを表示します。

「Download」ボタンでは、表示されたユーザーイベントをカンマ区切りの.txt ファイルにダウンロードできます。ダウンロードしたデータをセルにソートするには、.csv 拡張子を付けて新しいファイルとして保存してください。「Clear」ボタンでは、ユーザーインターフェースに表示されている現在のユーザーイベントを削除できます。



Date	Type	Event	Name	Policy	IP	MAC	Source
2013-02-07 06:08:35 +1000	Local - Mobile	Login	duncan@local	1	192.168.1.89	68:09:27:A4:48:80	
2013-02-07 06:18:12 +1000	Local - Mobile	Admin-Reset	duncan@local	1	192.168.1.89	68:09:27:A4:48:80	
2013-02-07 14:22:41 +0900	Local - Mobile	Login	duncan@local	1	192.168.1.89	68:09:27:A4:48:80	
2013-02-07 14:23:03 +0900	Local - Mobile	Logout	duncan@local	1	192.168.1.89	68:09:27:A4:48:80	
2013-02-07 14:23:58 +0900	Local - Mobile	Login	example@local	1	192.168.1.89	68:09:27:A4:48:80	
2013-02-07 14:34:03 +0900	Local - Mobile	Idle-Timeout	example@local	1	192.168.1.89	68:09:27:A4:48:80	
2013-02-06 11:38:17 +0800	Ondemand	Create_OD_User	28v2		0.0.0.0	00:00:00:00:00:00	WEB:PLM3154

Display Mode の「Configure」ボタンを使用すると、管理者はユーザーイベントに表示される列を変更できます。

ユーザータイプが異なると、ユーザー情報が異なることに注意してください。ユーザータイプに適用できない場合、カテゴリは空白のままになります。

ローカルユーザーに適用可能なユーザーイベントカテゴリ：
Date、Type、Name、IP、IPv6、MAC、Pkts In、Bytes In、Pkts Out、Bytes Out、VLAN ID、Group、Policy、MaxDnLoad、MaxUpload、ReqDnLoad、RequPload。

オンデマンドユーザーに適用可能なユーザーイベントカテゴリ：
Date、System Name、Type、Name、Unit、Price、Total Price、IP、IPv6、MAC、Pkts In、Bytes In、Pkts Out、Bytes Out、Activation Time、1st Login Expiration Time、Account Valid Through、Remark、VLAN ID、Group、Policy、MaxDnLoad、MaxUpload、ReqDnLoad、RequPload。

ローミングアウトユーザーの適用可能なユーザーイベントカテゴリ：
Date、Type、Name、NSID、NASIP、NASPort、UserMac、SessionID、SessionTime、Bytes In、Bytes Out、Pkts In、Pkts Out、Message。

ローミングインユーザーに適用可能なユーザーイベントカテゴリ：
Date、Type、Name、NSID、NASIP、NASPort、UserMac、UserIP、SessionID、SessionTime、Bytes in、Bytes Out、Pkts In、Pkts Out、Message。

10.4　レポートと通知

設定パス：Main Menu >> Status >> Reporting

EWS コントローラは、設定された電子メールアドレス、SYSLOG サーバー、または FTP サーバーに、ユーザーおよび/またはシステム関連のさまざまなレポートを自動的に送信できます。

- **SMTP Settings**： 5 つの受信者の電子メールアドレスと、さまざまなユーザー関連のログを送信する必要なメールサーバー設定を設定できます。
- **SYSLOG Settings**： 選択したユーザーログとシステムログが送信される 2 つの外部 SYSLOG サーバーの設定を許可できます。
- **FTP Settings**： 選択したユーザーログとシステムログが送信される外部 FTP サーバーの設定を許可できます。
- **Notification Settings** : 選択可能なすべてのユーザーおよびシステムログの概要を示します。

選択したログは、カスタマイズ可能な時間間隔で、選択した場所（電子メール、SYSLOG、FTP）に送信できます。

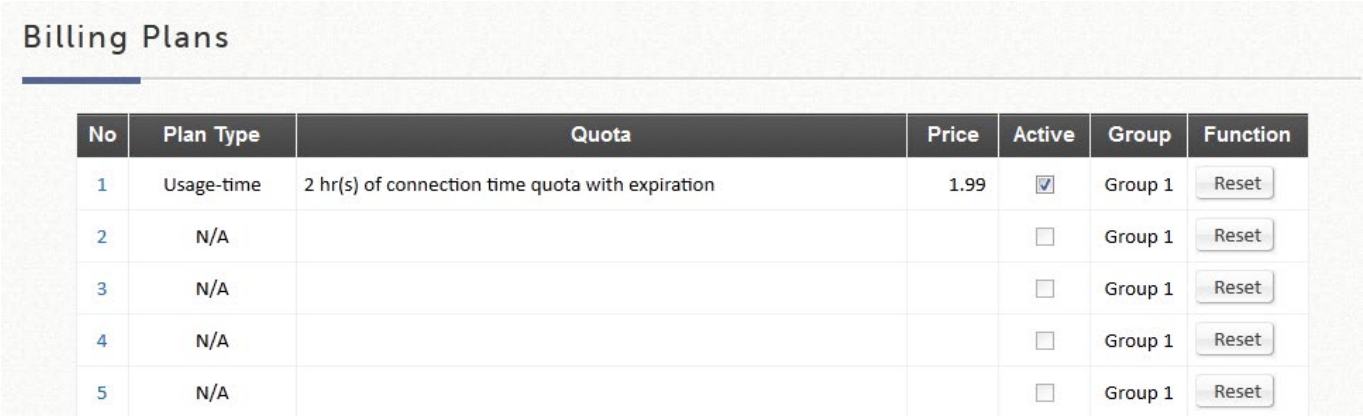
- **Alarms & Events Settings**：選択可能な管理イベントのリストが表示されます。項目を管理イベントとして選択すると、関連ログが管理イベントページとダッシュボードに記録されます。項目をアラームとして選択すると、関連する障害が発生したときに、警告メッセージまたはエラーメッセージが表示されます。障害が解決されると、メッセージはアラームから削除され、管理イベントとして記録されます。

第11章 ホットスポットアプリケーション

11.1　オンデマンド請求プラン

設定パス：Main Menu >> Users >> Internal Authentication >> On-Demand >> Billing Plans

請求プランプロファイルは、ゲストのインターネットアクセスの利用規約を定義します。***請求プラン番号***のリンクをクリックして、選択した請求プランプロファイルの設定ページに入ってください。請求プランプロファイルの設定が完了したら、**Billing Plans**（請求プラン）の画面に戻り、***Active*** チェックボックスにチェックを入れ、**Apply** をクリックして有効にしてください。



- **Plan**：選択した請求プランプロファイルの番号。
- **Plan Type**：このプランで選択されたアカウントタイプ。アカウントの種類によって、プロパティが異なります。ゲストの使用要件に最も適した、適切なアカウントタイプを選択する必要があります。
- **Quota**：オンデマンドユーザーがネットワークへのアクセスを許可する量または期間に関する使用条件。
- **Price**：それぞれの請求プランの単価。
- **Active**：チェックボックスにチェックを入れて、請求プランを有効にできます。無効化された請求プランは、オンデマンドゲストアカウントの生成には使用できません。
- **Group**： それぞれの請求プランに関連付けられたオンデマンドユーザーのグループ割り当て。
- **Function**： Reset ボタンをクリックして、選択した請求プランプロファイルの設定をクリアできます。

11.2 オンデマンド請求プランのタイプ

11.2.1 使用時間（有効期限あり）

残りのクォータ（使用可能時間）でアカウントが有効である限り、ユーザーはインターネットにアクセスできます。ユーザーは、ログインして、所定の期間内に購入したアカウントを有効にする必要があります。これは、コーヒーショップや空港ターミナルなどの短期的な使用に最適です。クォータは使用中のみ減らされます。ただし、有効期限へのカウントダウンは、ログインまたはログアウトに関係なく継続されます。***有効期間***が使い切れたり、クォータが枯渇したりすると、アカウントは期限切れになります。

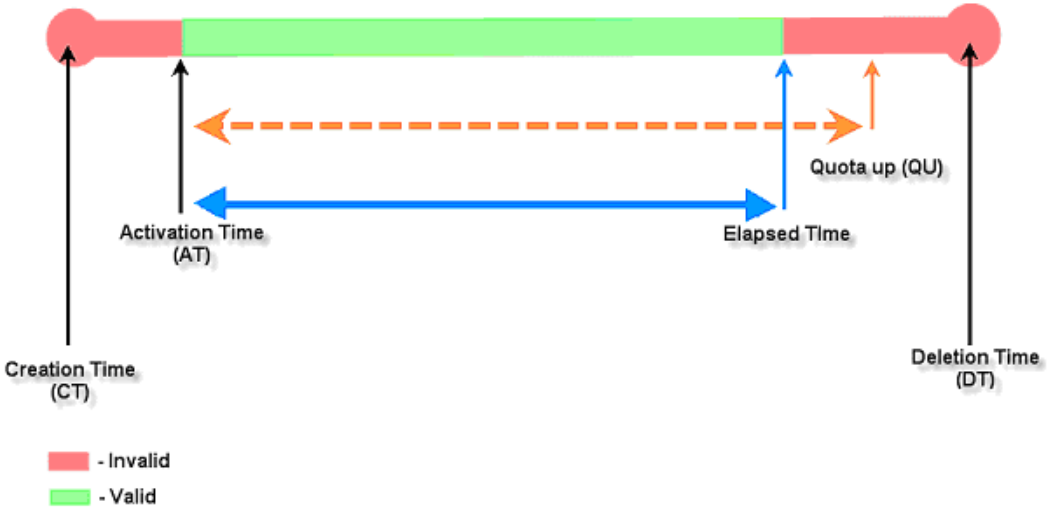
- **Quota** は、オンデマンドユーザーがネットワークへのアクセスを許可されている期間の合計（xx *days* yy *hrs* zz *mins*）です。引き換え後も合計最大のクォータは「364Days 23hrs 59mins 59secs」です。
- **Account Activation** は、ユーザーが最初のログインを実行する必要がある期間です。Account Activation で設定した期間内にそれを行わないと、アカウントの有効期限が切れます。
- **Valid Period** は使用するための有効期間です。この期間が過ぎると、クォータが残っていても、アカウントは期限切れになります。
- **Price** はこのプランの単価です。
- **Group** はこのプランから作成されたユーザーに適用されたグループです。
- **Reference** フィールドでは、管理者は追加情報を入力できます。

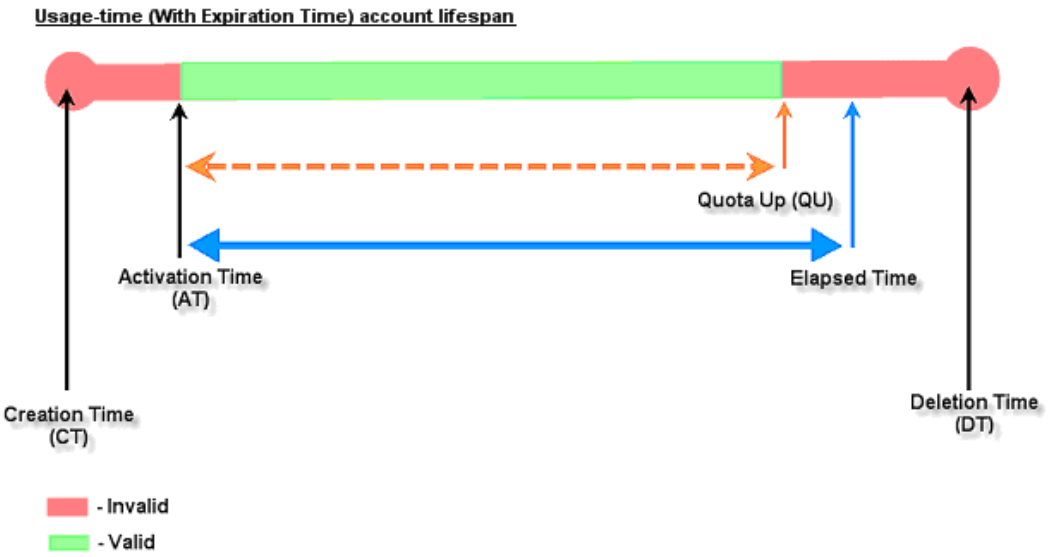
Billing Plan Configuration

Plan Number	1
Plan Type	Usage-time
Activation	User's First time login must be done within 0 day(s) 2 hour(s) The value for hour(s) has to be between 0~23; Day(s) and hour(s) cannot be both zeros.
Expiration	Enable Disable *Account will expire in* 7 *day(s) after activation*
Quota	0 day(s) 2 hr(s) 0 min(s) The value for day(s) cannot exceed 364; The value for hr(s) has to be 0~23; The value for min(s) has to be between 0~59.
Unit Price	1.99 The unit price cannot exceed 100000, and can take values up to two decimal places.
Group	Group 1
Reference	

Apply Cancel

Usage-time (With Expiration Time) account lifespan





11.2.2.使用時間（有効期限なし）

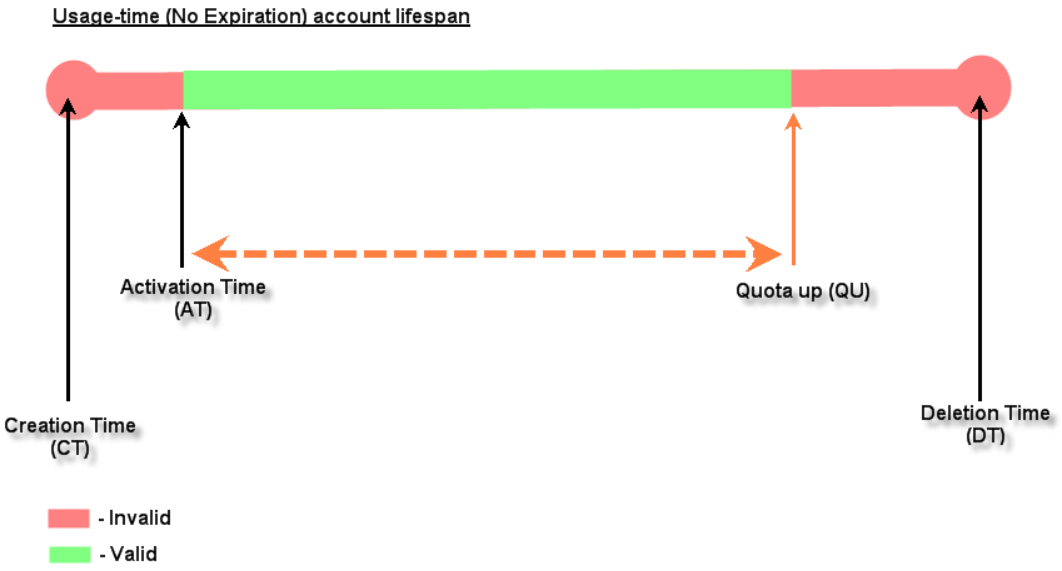
アカウントのクォータ（使用可能時間）が残っている限り、ユーザーはインターネットにアクセスできます。ユーザーは、ログインして、所定の期間内に購入したアカウントを有効にする必要があります。これは、コーヒーショップや空港ターミナルなどの短期的な使用に最適です。クォータは使用中のみ減らされます。クォータが枯渇した場合にのみアカウントが失効します。

- **Quota** は、オンデマンドユーザーがネットワークへのアクセスを許可されている期間の合計（xx *days* yy *hrs* zz *mins*）です。引き換え後も合計最大のクォータは「364Days 23hrs 59mins 59secs」です。
- **Account Activation** は、ユーザーが最初のログインを実行する必要がある期間です。Account Activation で設定した期間内にそれを行わないと、アカウントの有効期限が切れます。
- **Price** はこのプランの単価です。
- **Group** はこのプランから作成されたユーザーに適用されたグループです。
- **Reference** フィールドでは、管理者は追加情報を入力できます。

Billing Plan Configuration

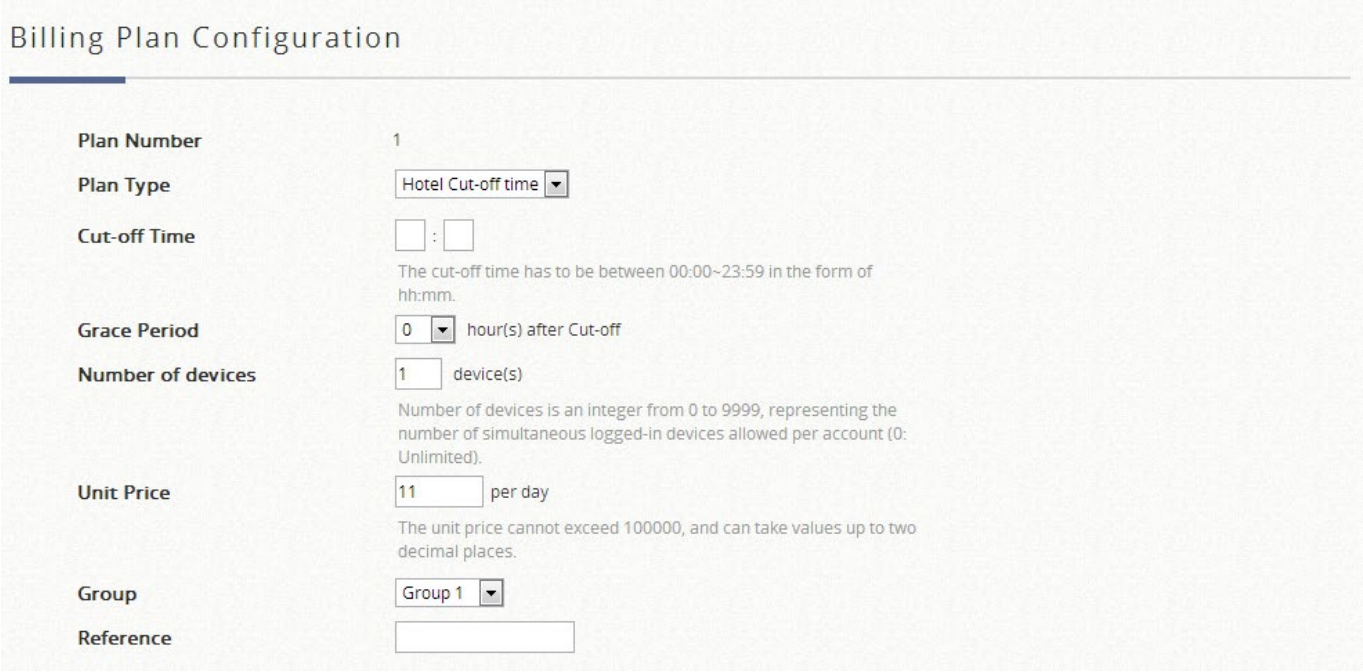
Plan Number	1
Plan Type	Usage-time
Activation	User's First time login must be done within 0 day(s) 2 hour(s) The value for hour(s) has to be between 0~23; Day(s) and hour(s) cannot be both zeros.
Expiration	Enable Disable
Quota	0 day(s) 2 hr(s) 0 min(s) The value for day(s) cannot exceed 364; The value for hr(s) has to be 0~23; The value for min(s) has to be between 0~59.
Unit Price	1.99 The unit price cannot exceed 100000, and can take values up to two decimal places.
Group	Group 1
Reference	

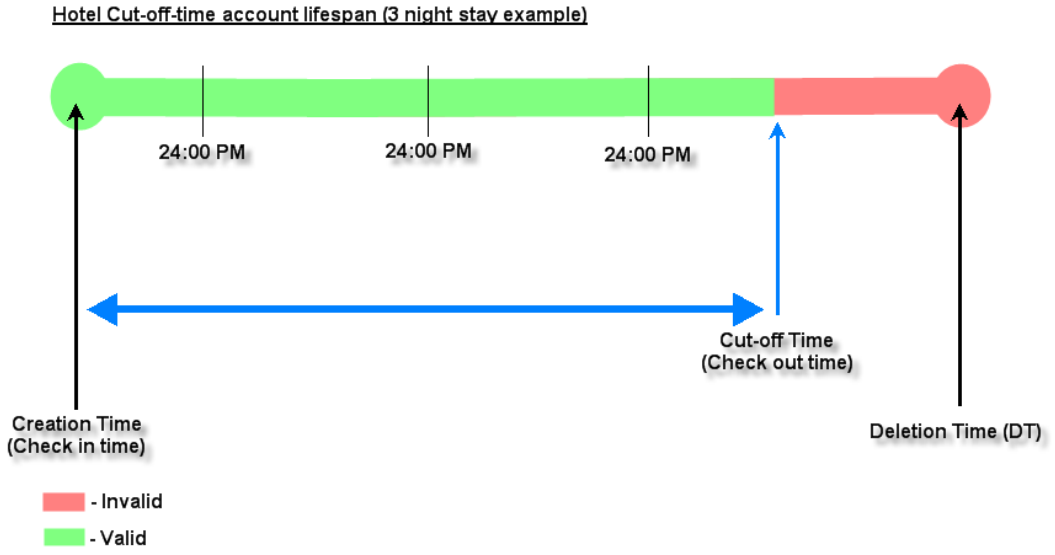
Apply Cancel

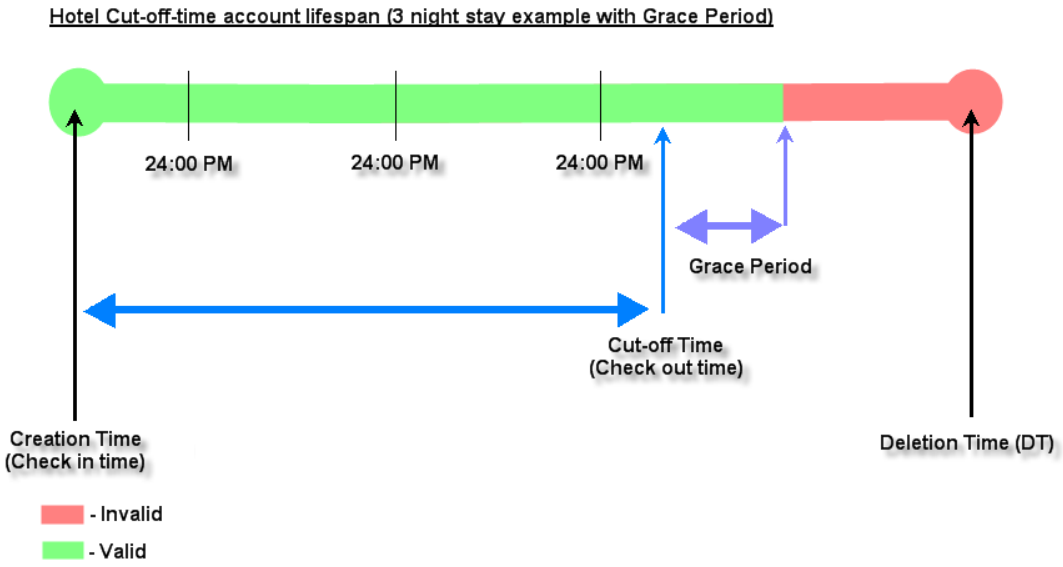


11.2.3.ホテルカットオフ時間

ホテルカットオフ時間とは、翌日または何日後にシステムによってオンデマンドアカウントが遮断される（有効期限が切れる）時計の時間（通常はチェックアウト時間）です。このプランのアカウント作成 UI で、オペレータは顧客の滞在時間に応じてカットオフまでの日数である単位値を入力できます。例えば、次のようになります。単位=2 日間、カットオフ時間=13:00 の場合、アカウントは 2 日後の 13:00 に期限切れになります。**Grace Period**（猶予期間）は、アカウントが切断された後の短期間の追加期間で、ユーザーは追加料金を支払うことなく、オンデマンドアカウントを使用してインターネットにアクセスし続けることができます。**Number of Devices** は、アカウントごとに同時にログインできるデバイスの数を定義できます。**Unit Price** は、この請求プランの 1 日あたりの価格です。これは、主に宿泊時間に応じてインターネットサービスを提供するために、ホテルの会場で使用されています。**Group** はこのプランから作成されたユーザーに適用されたグループです。**Reference** フィールドでは、管理者は追加情報を入力できます。



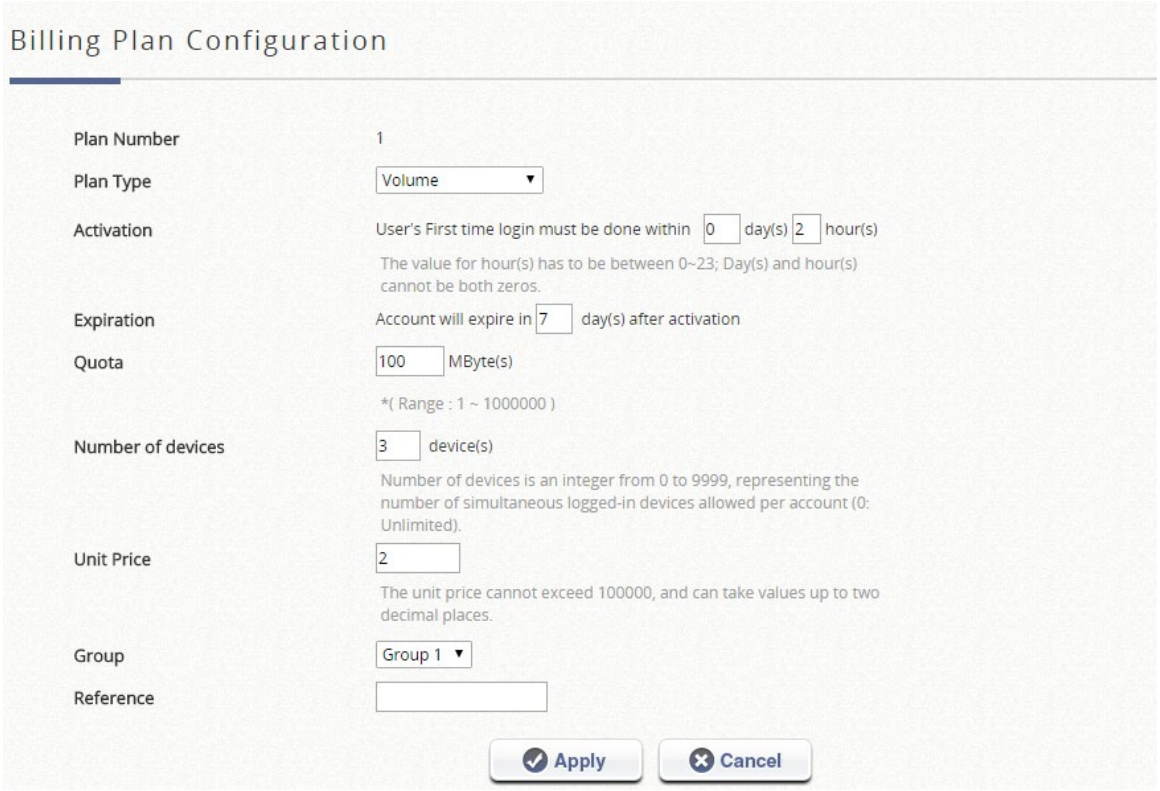


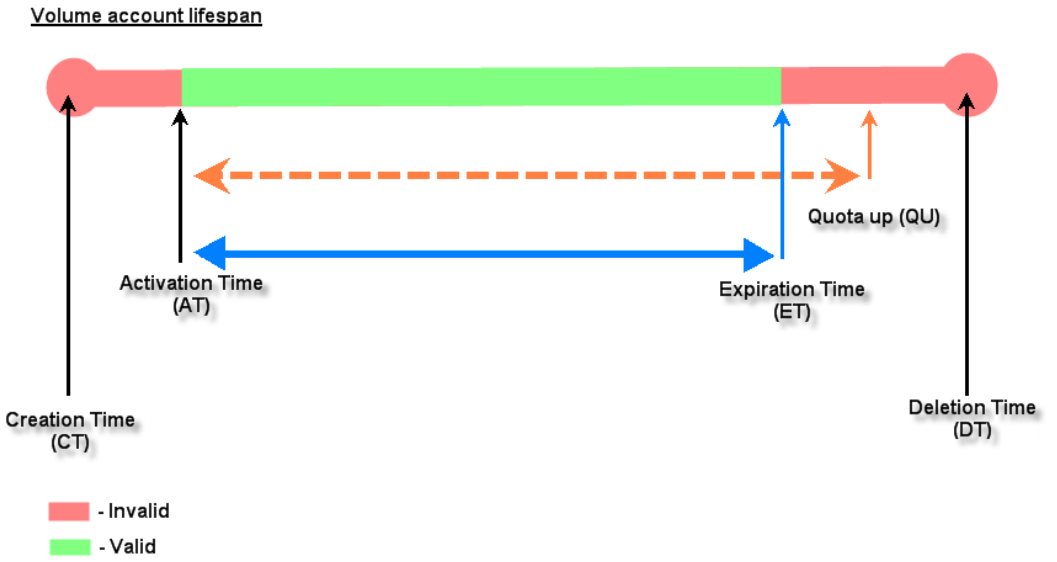


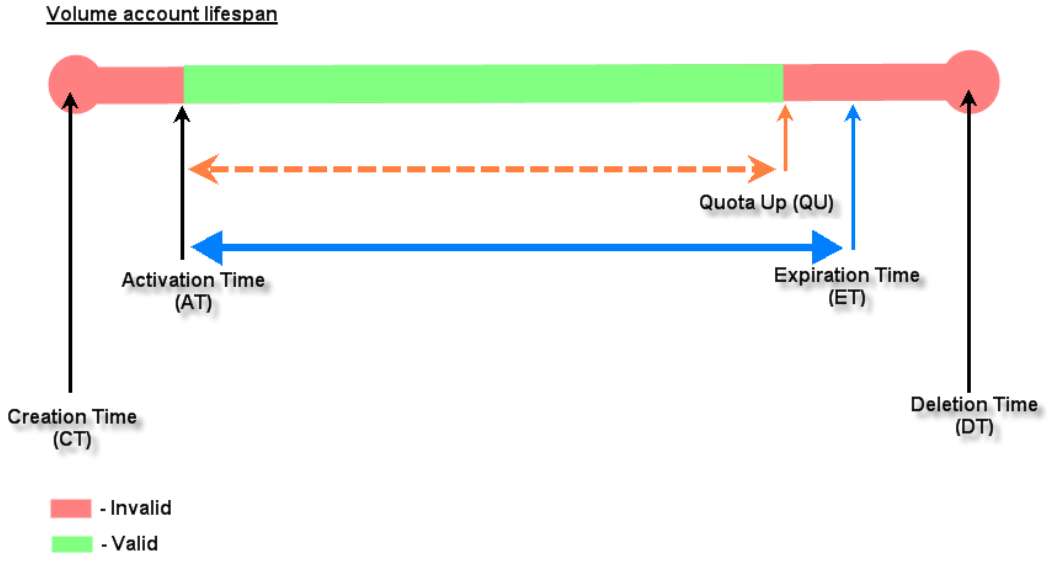
11.2.4.ボリューム

残りのクォータ（トラフィック量）でアカウントが有効であれば、ユーザーはインターネットにアクセスできます。*有効期間*が使い切れたり、クォータが枯渇したりすると、アカウントは期限切れになります。これは、メールの送受信やファイルの転送など、少量アプリケーションに最適です。有効期間のカウントダウンは、ログインまたはログアウトに関係なく継続されます。

- **Account Activation** は、ユーザーが最初のログインを実行する必要がある期間です。Account Activation で設定した期間内にそれを行わないと、アカウントの有効期限が切れます。
- **Expiration** は使用するための有効期間です。この期間が過ぎると、クォータが残っていてもアカウントは期限切れになります。
- **Quota** は、オンデマンドユーザーがネットワークへのアクセスを許可されている M バイトの合計（1～1000000）です。
- **Number of Devices** は、アカウントごとに同時にログインできるデバイスの数を定義できます。（0：無制限）
- **Unit Price** はこのプランの単価です。
- **Group** はこのプランから作成されたユーザーに適用されたグループです。
- **Reference** フィールドでは、管理者は追加情報を入力できます。







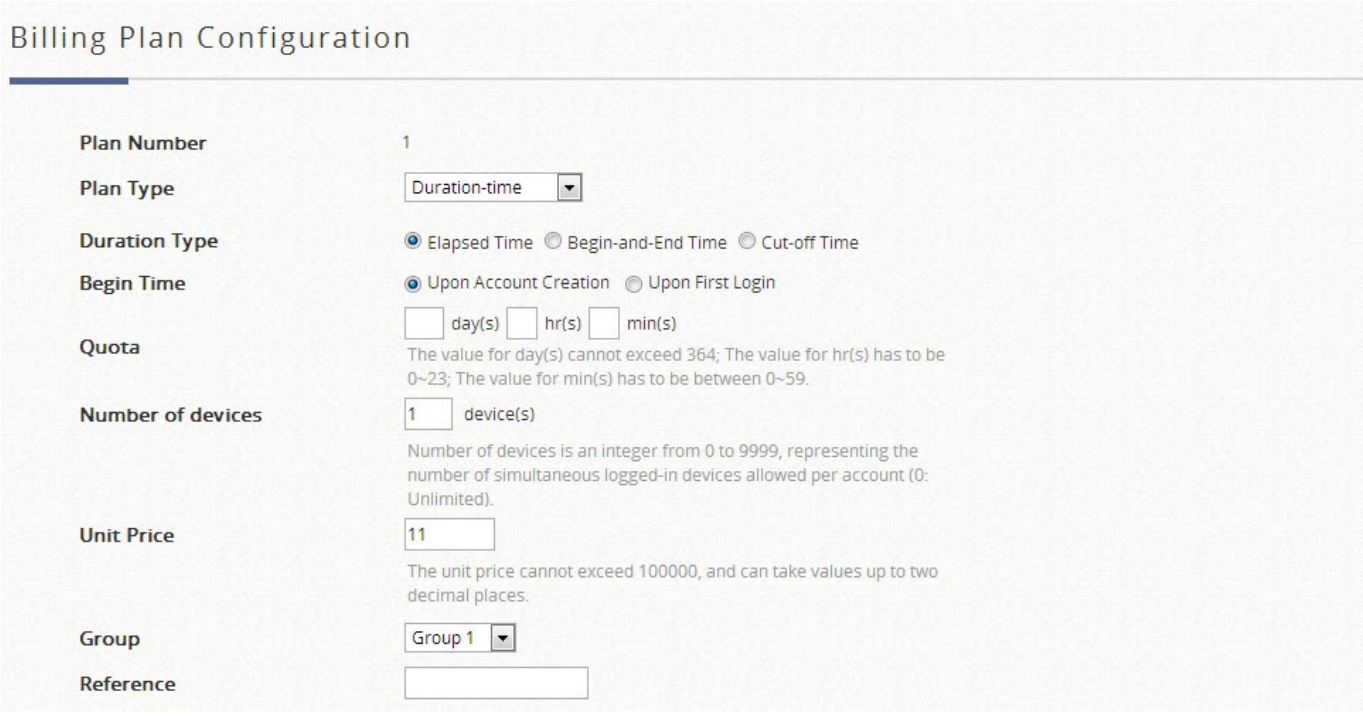
11.2.5.経過時間を含む継続時間

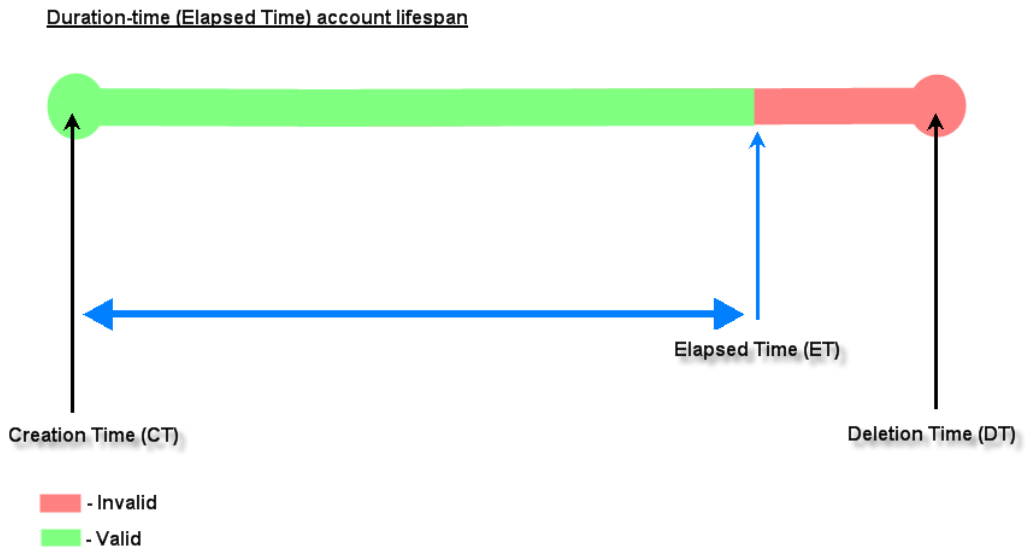
アカウントは、アカウントの作成時にアクティブ化されます。カウントダウンは、アカウントが作成された直後に開始され、ログインまたはログアウトに関係なく継続されます。*経過時間*に達すると、アカウントは期限切れになります。これは、特定の期間を通じてアカウント作成直後にインターネットサービスを提供するのに理想的です。

- **Begin Time**（開始時間）は、アカウントが使用可能になる時間です。アカウント作成時間に設定されています。
- **Elapsed Time**（経過時間）は、アカウントがインターネットアクセスに対して有

効である時間間隔（xx *hrs* yy *mins*）です。

- **Number of Devices** は、アカウントごとに同時にログインできるデバイスの数を定義できます。
- **Price** はこのプランの単価です。
- **Group** はこのプランから作成されたユーザーに適用されたグループです。
- **Reference** フィールドでは、管理者は追加情報を入力できます。

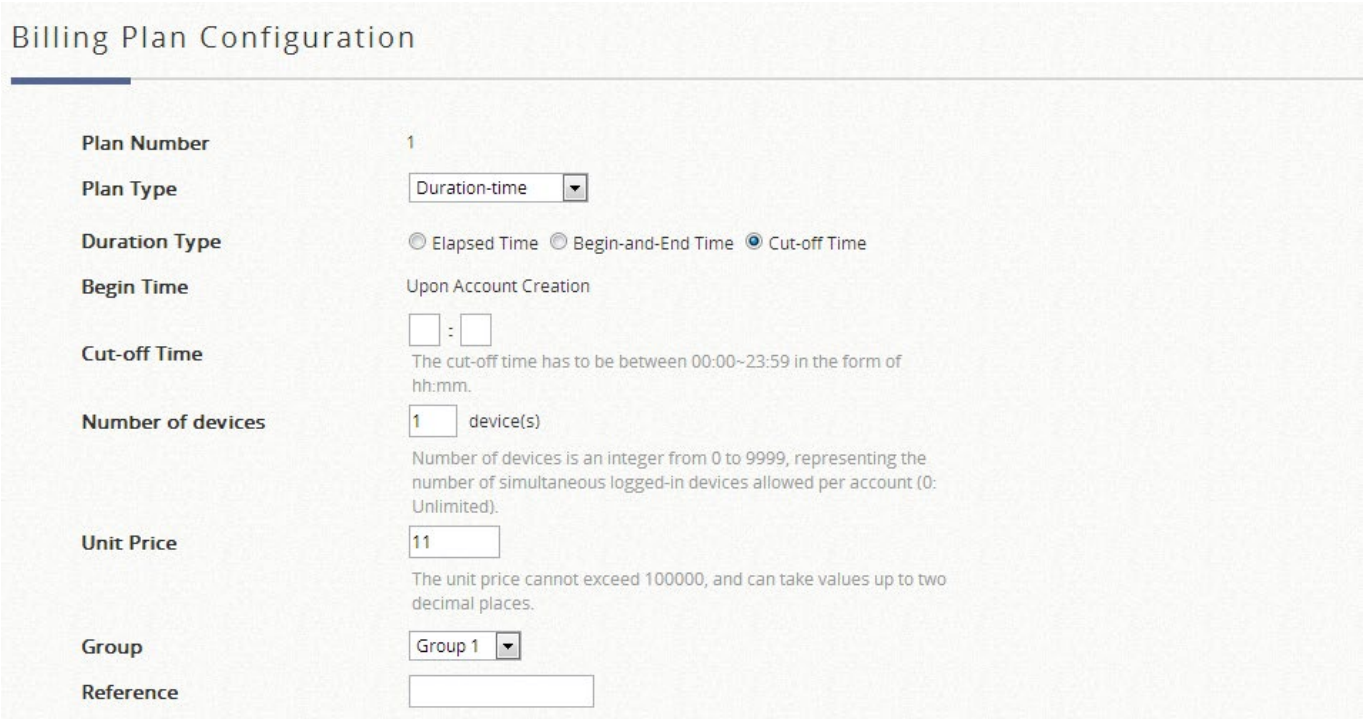


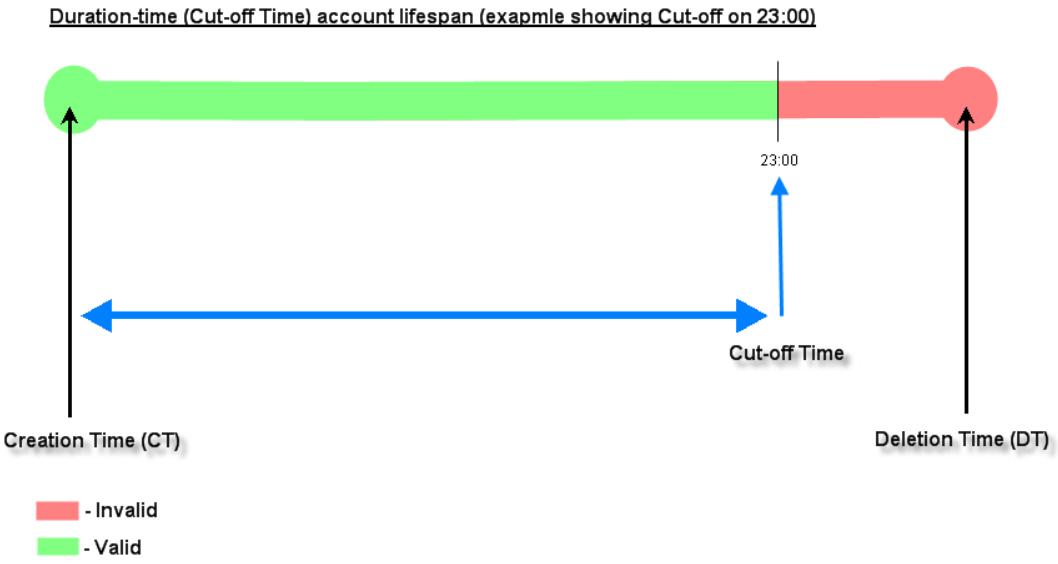


11.2.6.カットオフ時間付き継続時間

カットオフ時間は、システムによってオンデマンドアカウントがその日に切断される（期限切れ）時計の時間です。例えば、ショッピングモールが 23:00 に閉じられるように設定されている場合、オンデマンドチケットを販売する事業者は、このプランを使用して 23:00 に切れるようにチケットセットを作成できます。この種類のアカウントが「カットオフ時間」の後に作成されると、そのアカウントは自動的に期限切れになります。

- **Begin Time**（開始時間）は、アカウントが使用可能になる時間です。アカウント作成時間に設定されています。
- **Cut-off Time**（カットオフ時間）は、アカウントの有効期限が切れる時計の時間です。
- **Number of Devices** は、アカウントごとに同時にログインできるデバイスの数を定義できます。
- **Price** はこのプランの単価です。
- **Group** はこのプランから作成されたユーザーに適用されたグループです。
- **Reference** フィールドでは、管理者は追加情報を入力できます。

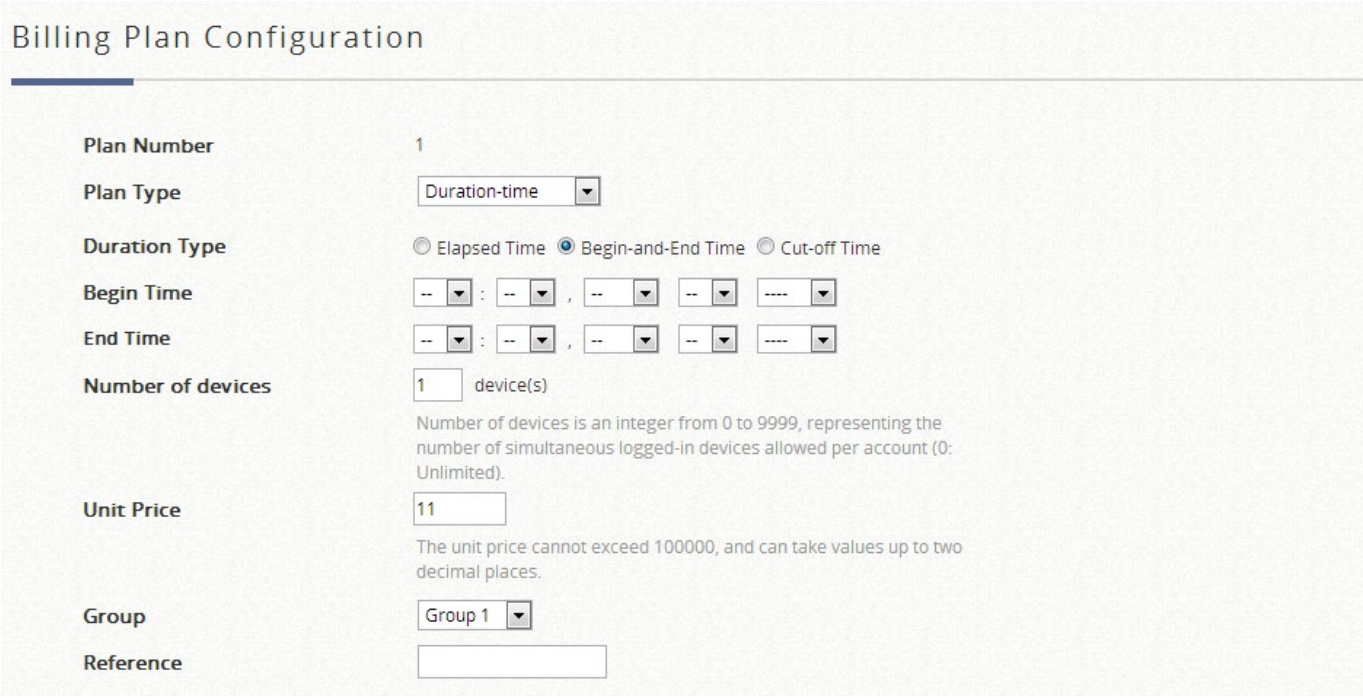


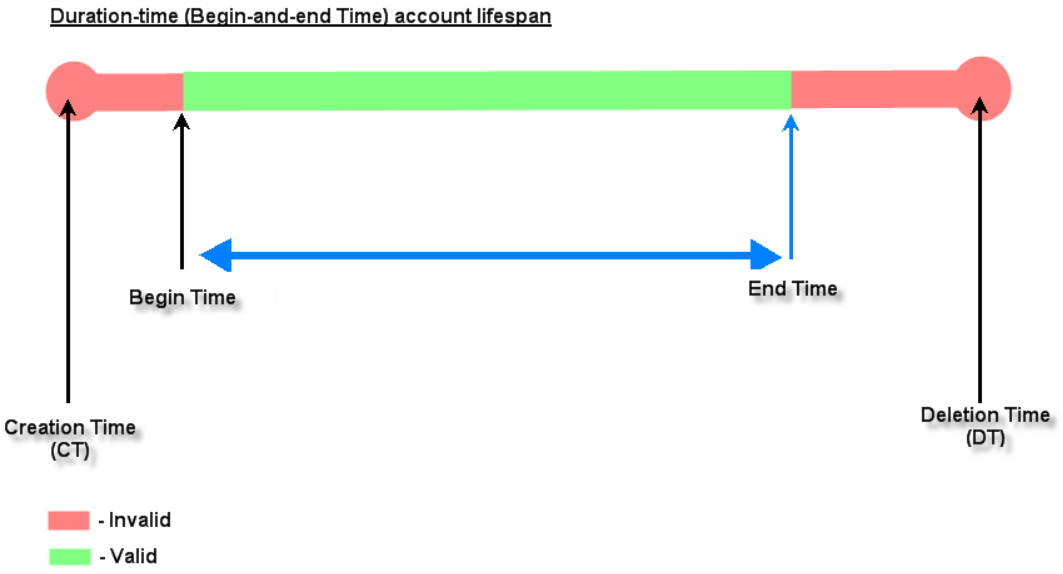


11.2.7.開始時間と終了時間を含む継続時間

アカウントの*開始時間*と*終了時間*が明示的に定義されます。カウントダウンは、アカウントのアクティブ化直後に開始され、*終了時間*に達すると期限切れになります。これは、特定の期間を通じてインターネットサービスを提供するのに理想的です。例えば、展示会イベントや Computex などの大規模なコンベンションでは、登録された各参加者は、クーポンのように一括で作成された 6 月 1 日午前 8:00 から 6 月 5 日午後 5:00 まで有効なインターネットアカウントを取得することができます。

- **Begin Time**（開始時間）は、オペレータによって明示的に定義され、アカウントが使用可能になる時間です。
- **End Time**（終了時間）は、オペレータによって明示的に定義されたアカウントが終了する時間です。
- **Number of Devices** は、アカウントごとに同時にログインできるデバイスの数を定義できます。
- **Price** はこのプランの単価です。
- **Group** はこのプランから作成されたユーザーに適用されたグループです。
- **Reference** フィールドでは、管理者は追加情報を入力できます。





11.3　POS プリンタのセットアップ

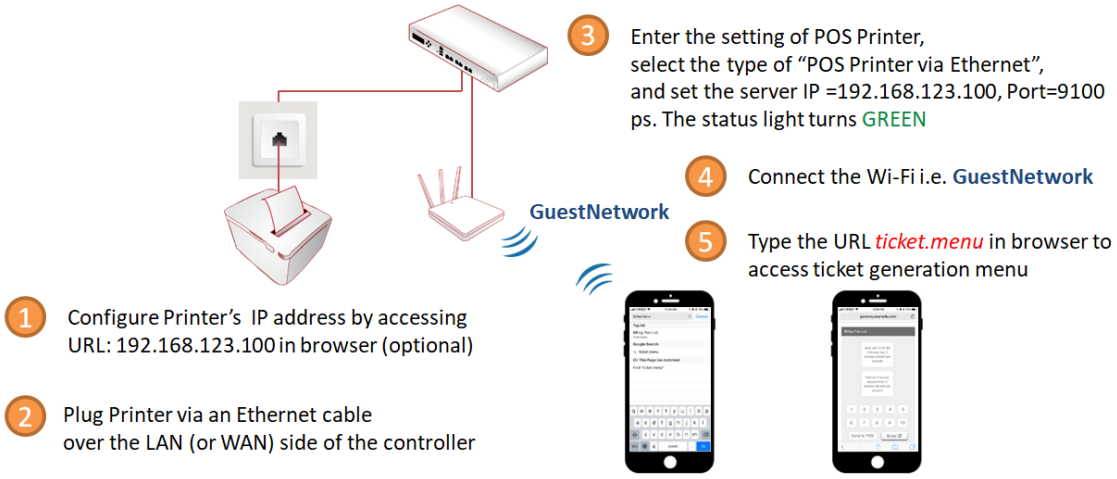
ネットワークチケットジェネレーターの概要

オンデマンドアカウント生成をサポートするように設計された EC-PP200 は、Edgecore 無線

LAN コントローラに組み込まれたオンデマンド請求プラン機能を使用してチケットを印刷できます。注目すべきことは、EC-PP200 は、追加の機器なしでイーサネットを介して 4pnet コントローラに接続できることです。

ネットワークへの EC-PP200 の組み込み

次の図は、ネットワークで EC-PP200 を利用するための簡単なユースケースと簡単なセットアップを示しています。



1. EC-PP200 の IP アドレスを設定します。
2. コントローラ付き EC-PP200 をイーサネットケーブルで接続します。
3. コントローラのターミナルサーバーページで、EC-PP200 の IP アドレスとポートを入力します。
4. Wi-Fi またはイーサネット経由でネットワークを接続します。
5. コントローラの Web 管理インターフェースにアクセスして、チケット生成メニューにアクセスします。

Web 管理インターフェースでの EC-PP200 の管理

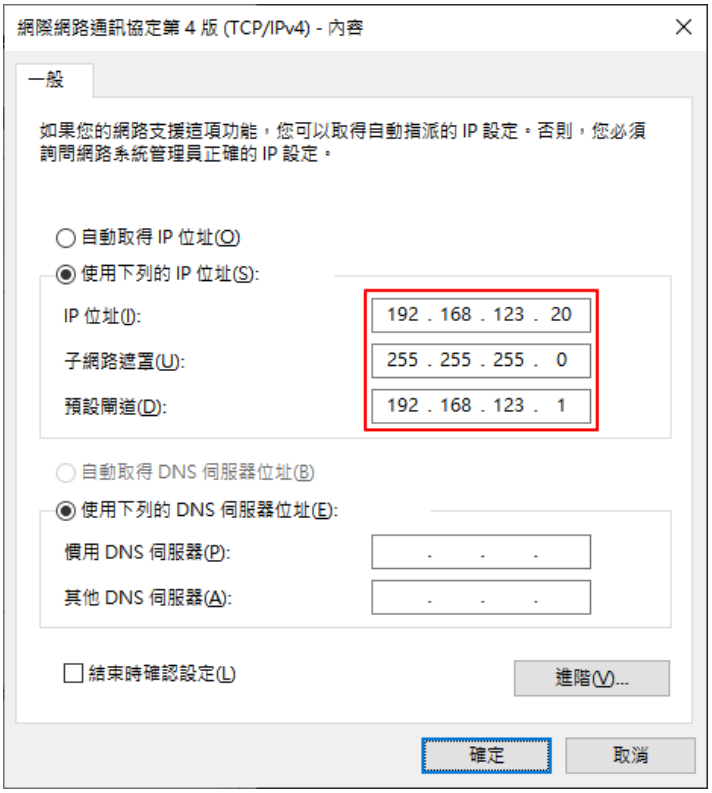
EC-PP200 は、すべての Edgecore ゲートウェイ/コントローラと連携して動作するように特別に設計されています。EC-PP200 を Edgecore ゲートウェイ/コントローラに接続する前に、いくつかの設定手順が必要です。

EC-PP200 の関連設定については、Web 管理インターフェース（WMI）を参照してください。デフォルト値は次のとおりです。

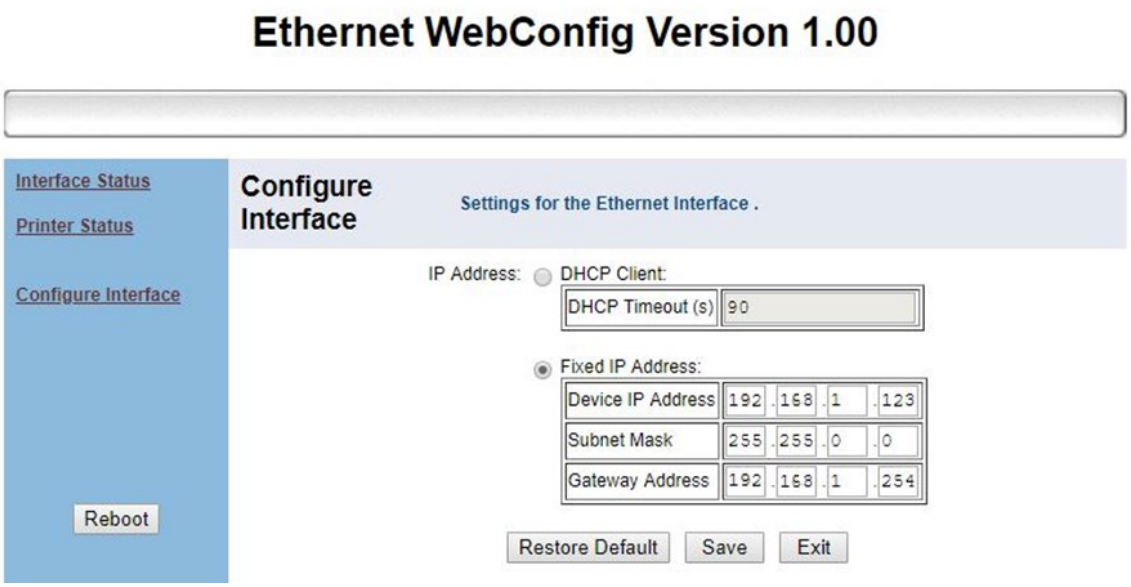
IP アドレス：192.168.123.100

サブネットマスク：255.255.255.0

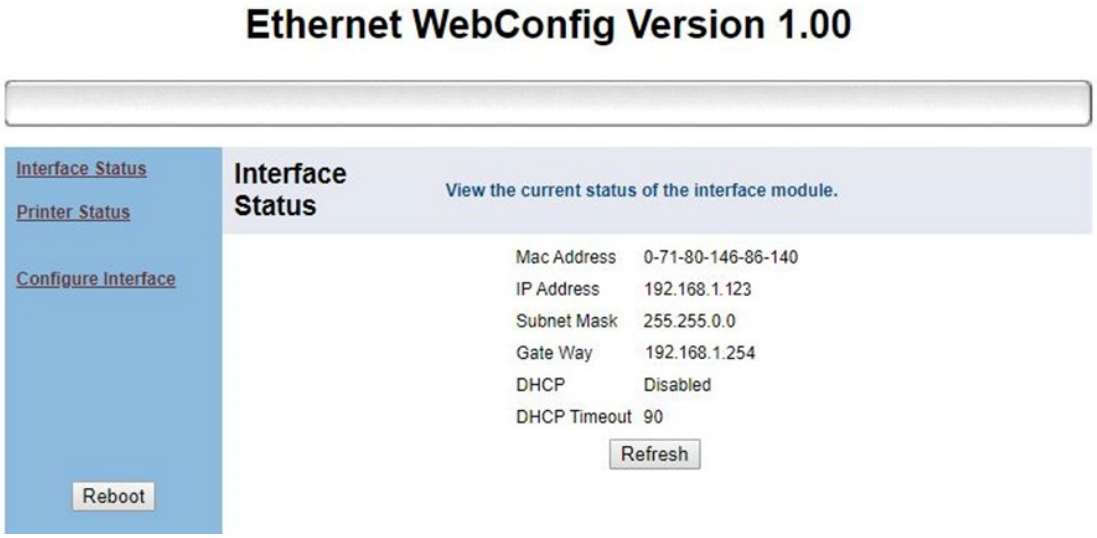
使用するコンピュータの TCP/IP 設定は、EC-PP200 と同じサブネットの下にある静的 IP アドレスで設定することを忘れないでください。例えば、192.168.123.20 です。



EC-PP200 の WMI では、「Configure Interface」ページで IP 設定を変更してください。「Fixed IP Address」（固定 IP アドレス）が設定されていることを確認してください。



EC-PP200 を再起動した後、新しい IP アドレスを使用して WMI にアクセスし、EC-PP200 の「Interface Status」が正しいことを確認してください。



Edgecore ゲートウェイ/コントローラでの EC-PP200 の設定

設定パス：Main Menu >> Users >> Internal Authentication >> On-Demand Authentication >> POS Printer Configuration

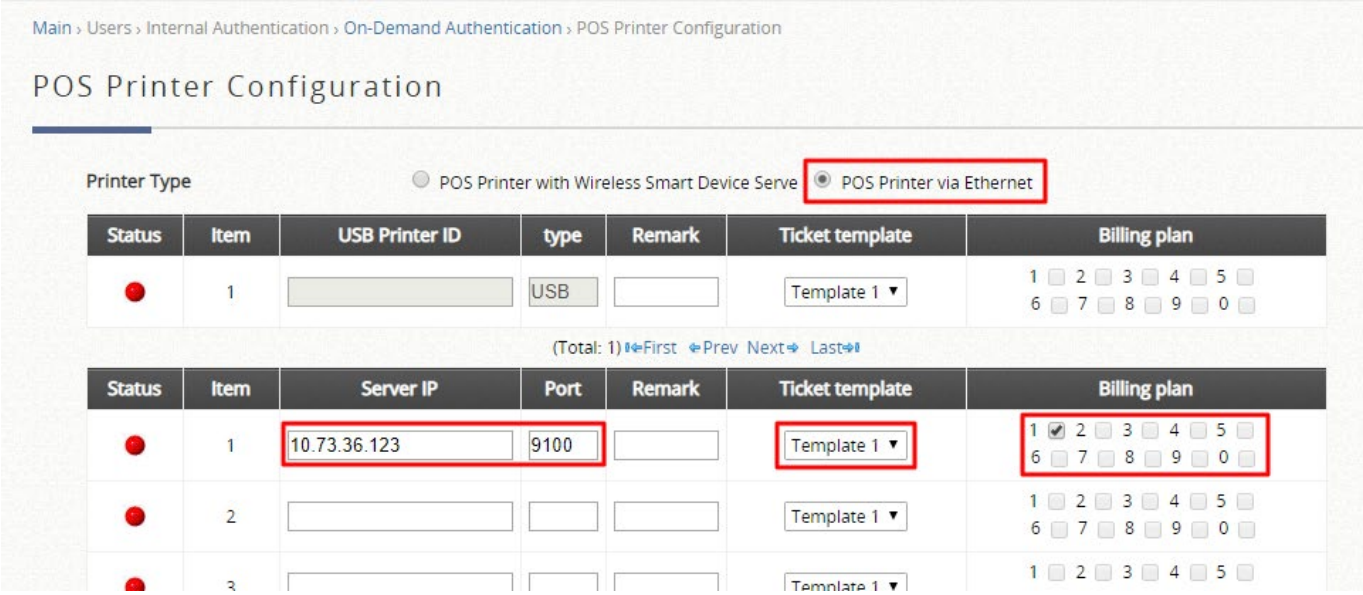
Edgecore ゲートウェイ/コントローラは、複数の POS プリンタの管理をサポートします。EC-PP200 を使用してアカウントチケットを印刷するには、管理者がプリンタの IP アドレスをコントローラのリストに追加する必要があります。EC-PP200 を管理するには、以下の手順に従

ってください。

1. 請求プランを作成して有効にします。（11.1 および 11.2 を参照）
2. POS チケットテンプレートを構成します。（11.4 を参照）
3. 「POS Printer via Ethernet」（イーサネット経由の POS プリンタ）を選択し、Server IP フィールドに POS プリンタの IP アドレスを入力します。チケットテンプレートを選択し、有効にする請求プランを確認してください。

メモ

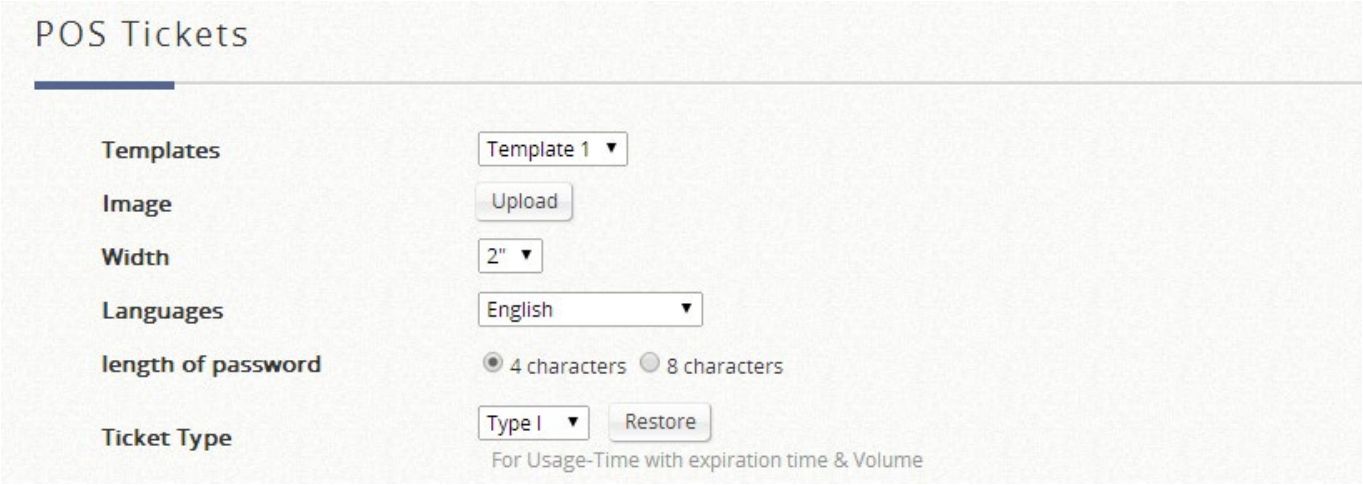
1. EC-PP200 を POS プリンタリストに追加する場合は、Port を **9100** にする必要があります。



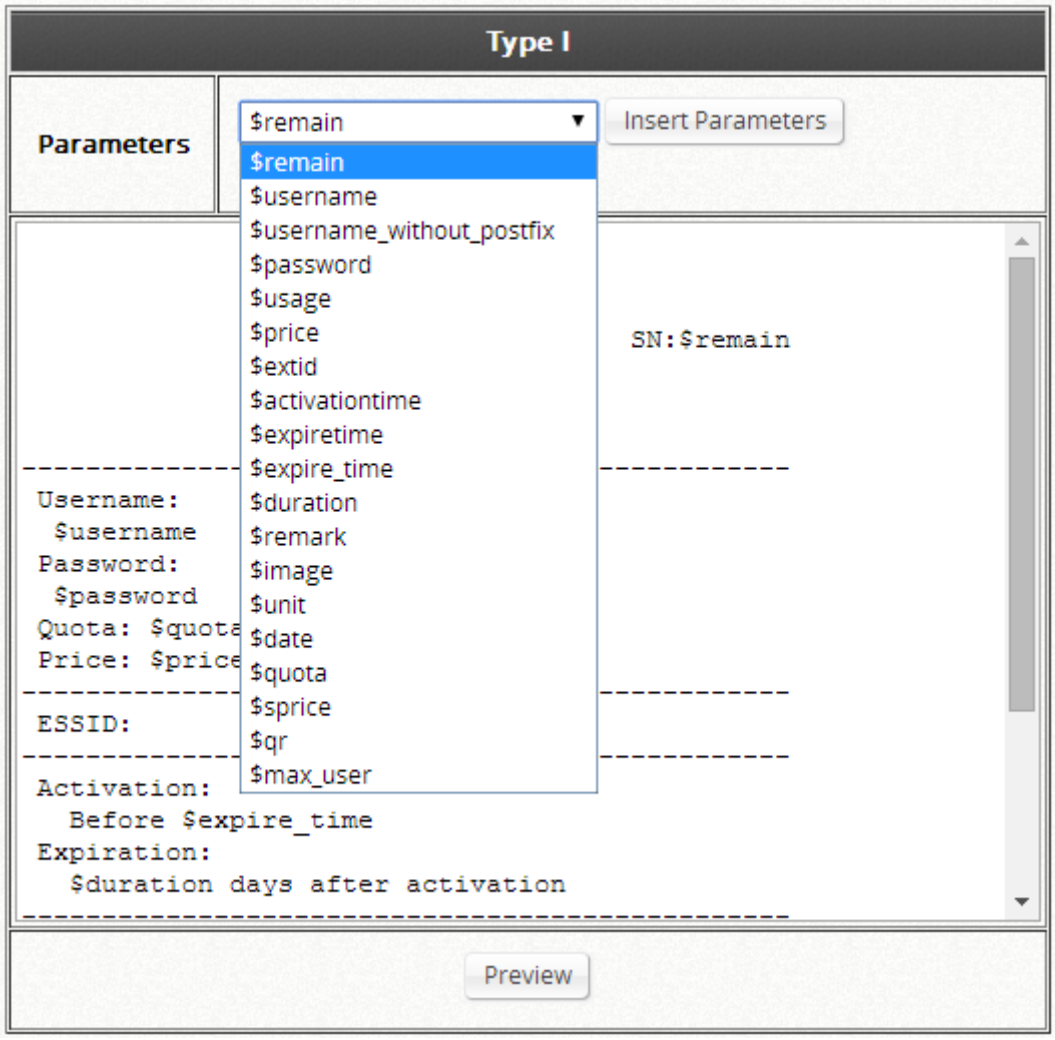
11.4　POS チケットのカスタマイズ

設定パス：Main Menu >> Users >> Internal Authentication >> On-Demand　>> POS Tickets

ホットスポットでの配置を柔軟にするために、テンプレートを使用した POS チケットのカスタマイズは EWS コントローラでサポートされています。最大 5 つのチケットテンプレートをシステムに保存できます。

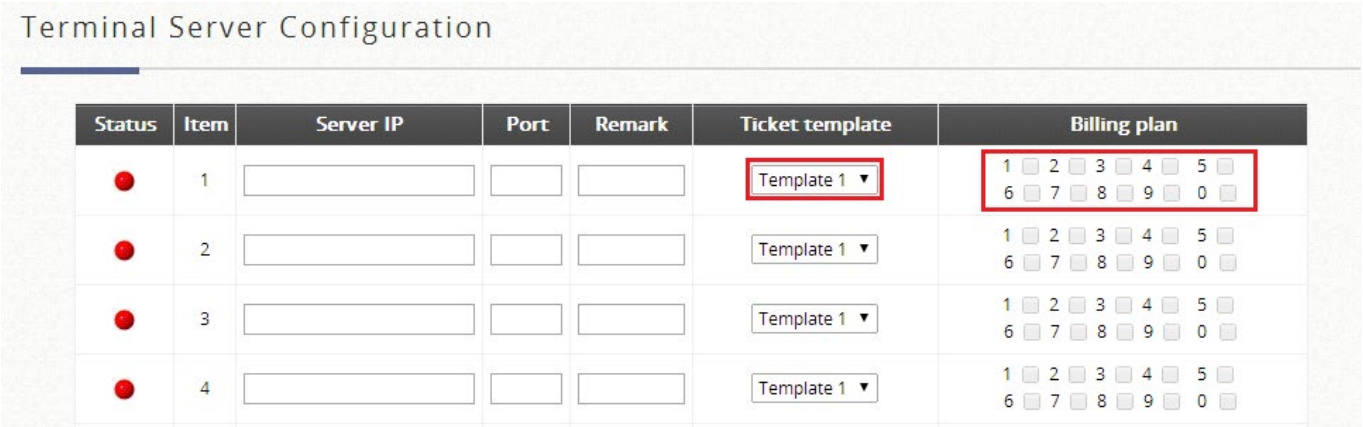


- 必要に応じて、TMB 形式で画像（会社のロゴなど）をアップロードできます。
- 幅は 2 種類あり、EC-PP200 には 3"が推奨されます。
- 構成済みのチケットテンプレートの言語を選択してください。EWS は、英語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語、簡体字中国語、繁体字中国語をサポートしています。
- チケットメニューで生成されたアカウントの場合、パスワードはランダムですが、管理者は 4 文字と 8 文字のパスワードを選択できます。
- 設定されている請求プランに応じて、適切なチケットタイプを選択してください。



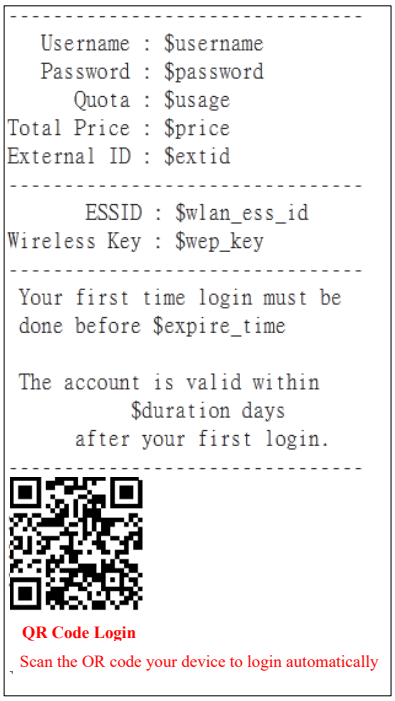
POS チケットのカスタマイズは、下のウィンドウから手動で入力するか、上記の例に示すように、ドロップダウンリストからパラメータを挿入して開始できます。

これが完了したら、ターミナルサーバーへの請求プランとチケットテンプレートの割り当てを開始できます。



管理者は、ドロップダウンリストから特定のチケットジェネレーターに必要なチケットテンプレートを選択できるようになりました。

QR コードログインの申込み



チケットジェネレーターを使用したオンデマンドアカウント生成は、ホットスポットプロバイダにとって非常に一般的な配置です。面倒なのは、アカウントのユーザー名とパスワードを手動で入力することです。特に、小さなキーボードで入力する必要があるモバイルデバイスでは、目に優しいとは言えません。

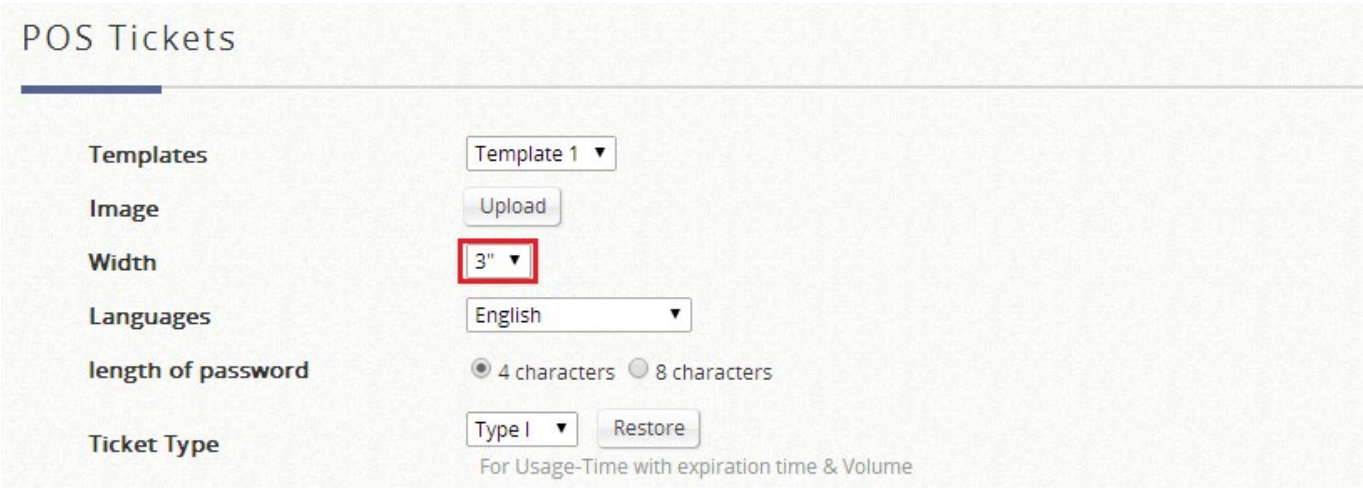
ユーザー名、パスワード、使用量、価格などを含むログイン資格情報は、すべて QR コードに埋め込まれています。

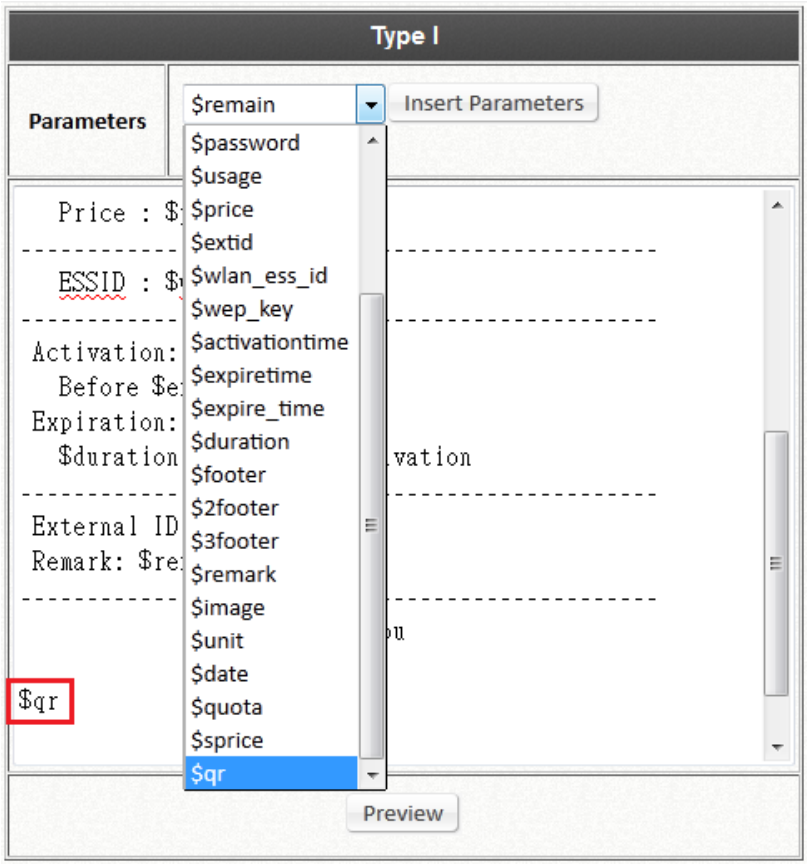
SSID に関連付けて、QR コードをスキャンするだけで、インターネットを閲覧する準備が整いました！

QR コードをサポートするための Web チケットの設定

QR コードの印刷をサポートするには、チケットをカスタマイズする必要があります。

Main Menu >> Users >> Authentications の順に選択し、**On-Demand User** と **Configure** をクリックして、チケットテンプレートのカスタマイズを設定してください。





利用された請求プランでは、QR コードをサポートするように対応するチケットテンプレートをカスタマイズする必要があります。

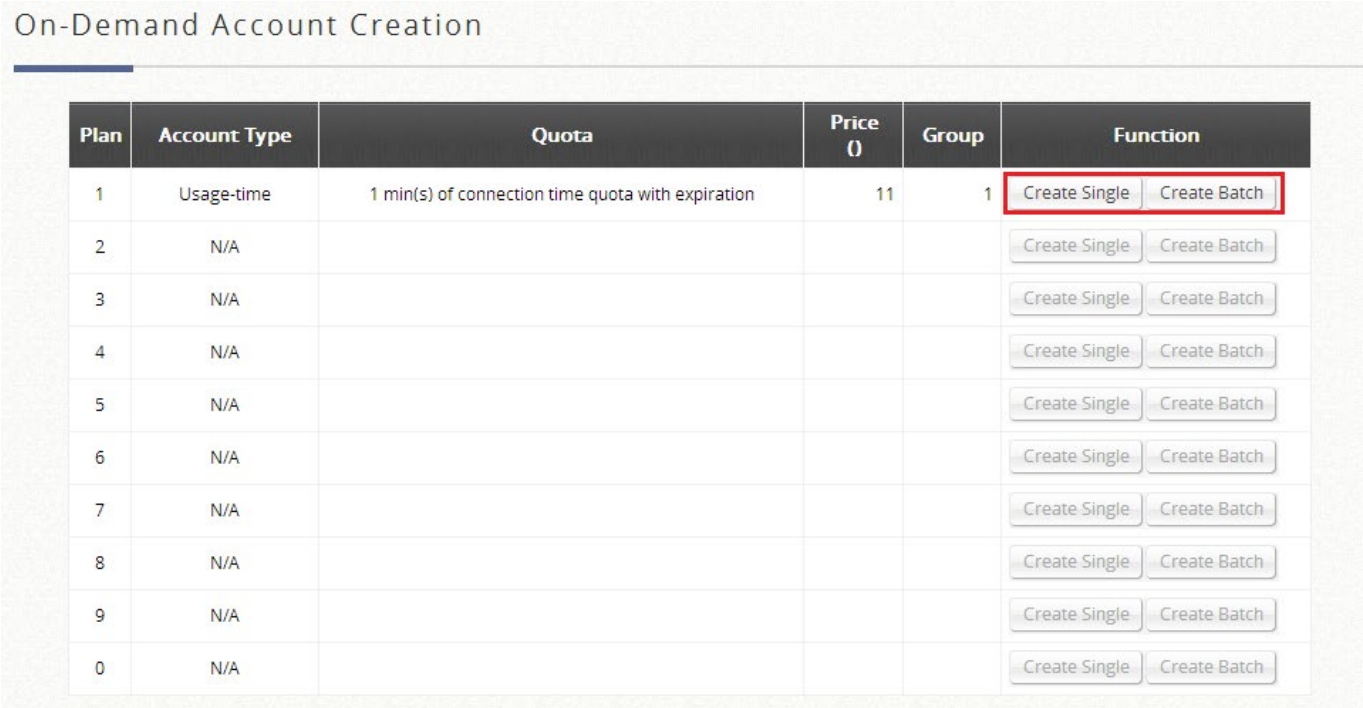
1) 幅を 3”に変更する必要があります（デフォルト値=2”）。
2) パラメータを追加するには、テンプレートに「$qr」を入力するか、ドロップダウンメニューから「$qr」を選択して Insert Parameters（パラメータを挿入する）をクリックしてください。

11.5 アカウントの作成

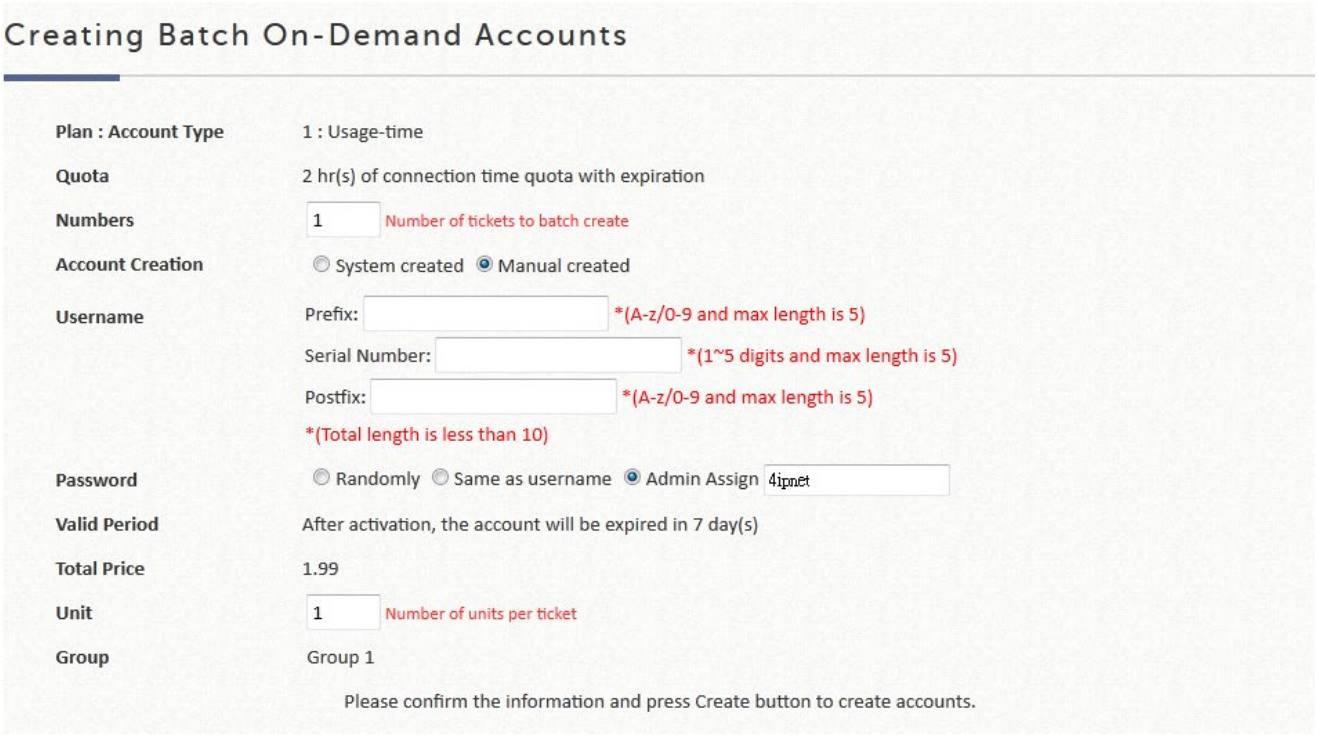
設定パス：Main Menu >> Users >> On-Demand Accounts >> Accounts Creation

管理者は、単一のアカウントを作成することも、一括でアカウントを作成することもできます。販売のためのゲストアカウントを事前に生成したい潜在的なホットスポットオペレータのために、オンデマンド機能には、一括作成機能があり、オンデマンドページへのアクセス権限を持つ管理者またはオペレータが一括で有効な請求プランの複数のアカウントを作成し、POS

プリンターに送信して販売用の物理的なチケットのプリントアウトを生成することができます。

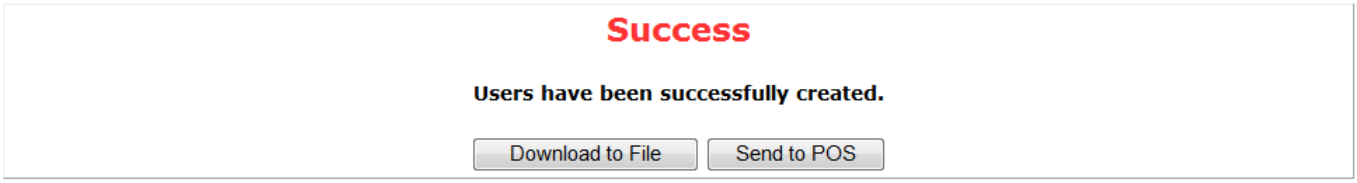


管理者は、一括でオンデマンドアカウントを作成するときに、ランダムに生成されたユーザー名とパスワードを使用するか、カスタム作成するかを選択できます。ランダムに生成されたパスワードの場合、ショート（4 文字）またはロング（8 文字）を使用できます。



カスタムユーザー名を作成する場合、アカウントのシリアル番号は 1 つのインクリメントになりますが、接頭辞と接尾辞は一定に保たれます。

生成されたアカウントは、安全に保管するためにダウンロードするか、一括印刷のためにプリンタに送信することができます。



11.6　ユーザーセルフサービス

外部支払いゲートウェイ経由のクレジットカード

設定パス：Main Menu >> Users >> Authentication >> On-Demand User >> External Payment Gateway

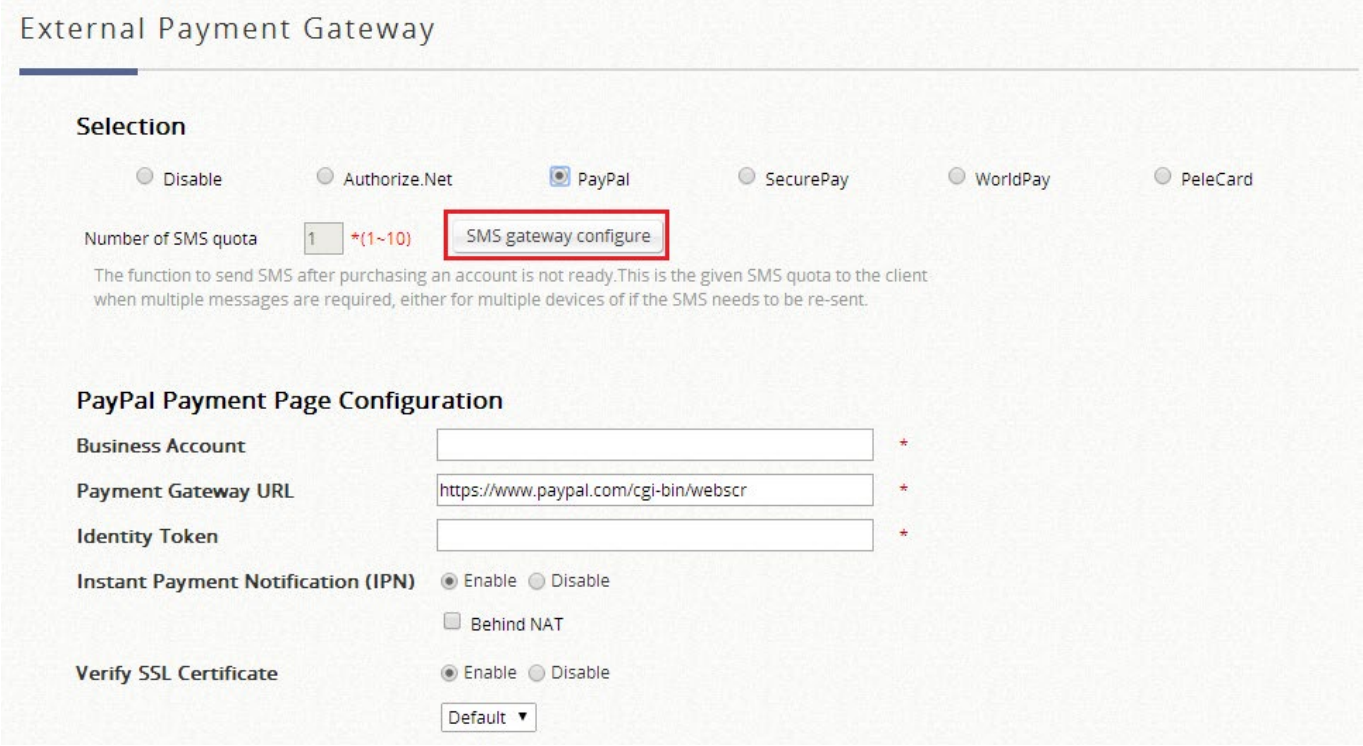
EWS コントローラは、オペレータが所有するアカウントの種類に応じて異なるタイプの支払いゲートウェイオプションをサポートしています。例えば、Authorize.NET、PayPal、SecurePay、WorldPay、PELECard があります。

最も一般的に使用される PayPal は、以下の図の例のように使用されています。

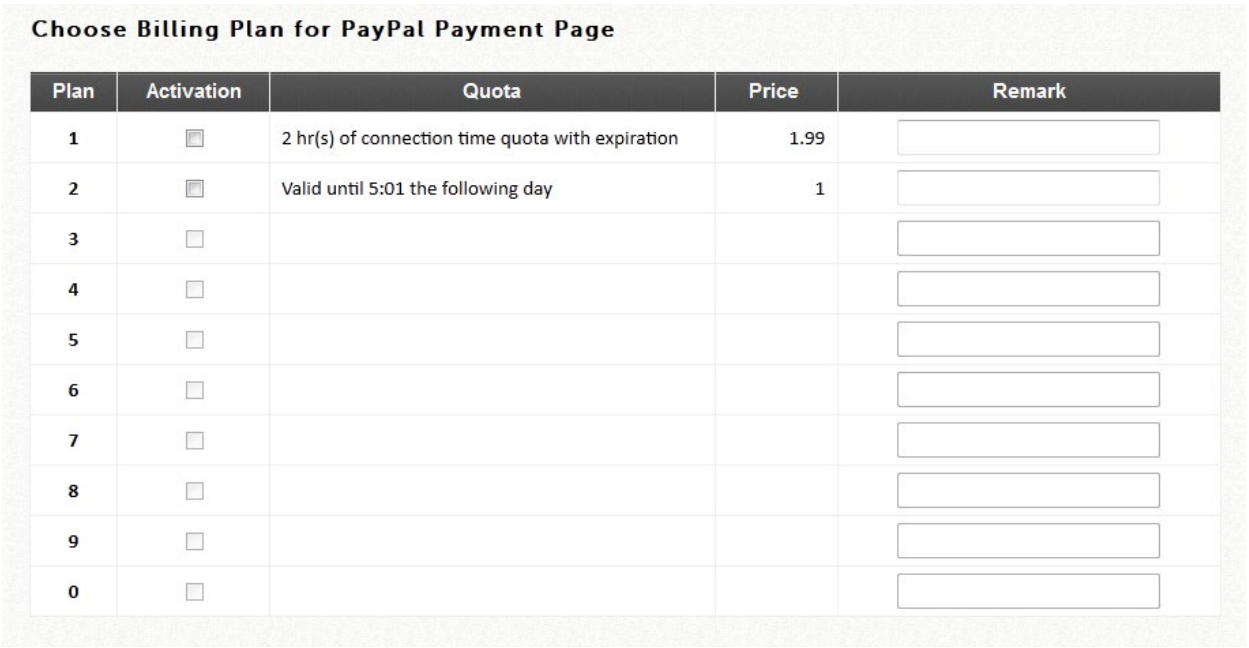
「PayPal」を設定する前に、ホットスポットの所有者が有効な PayPal「ビジネスアカウント」を持っている必要があります。
PayPal ビジネスアカウントを開設した後、ホットスポットの所有者は、「PayPal Payment Page Configuration」（PayPal 支払いページ設定）を続行するために、この PayPal アカウントの「**Identity Token**」（ID トークン）を見つける必要があります。

支払いページ設定に必要なマーチャントアカウントの資格情報を入力してください。コントローラの WAN IP が NAT の下にある場合、支払いエンドユーザーが取引結果を受け

取るには、**Instant Payment Notification（IPN）**フィールドで IP 転送情報を設定する必要があります。



エンドユーザーが支払ゲートウェイを通じて自己購入することを許可する、有効な請求プランを選択してください。

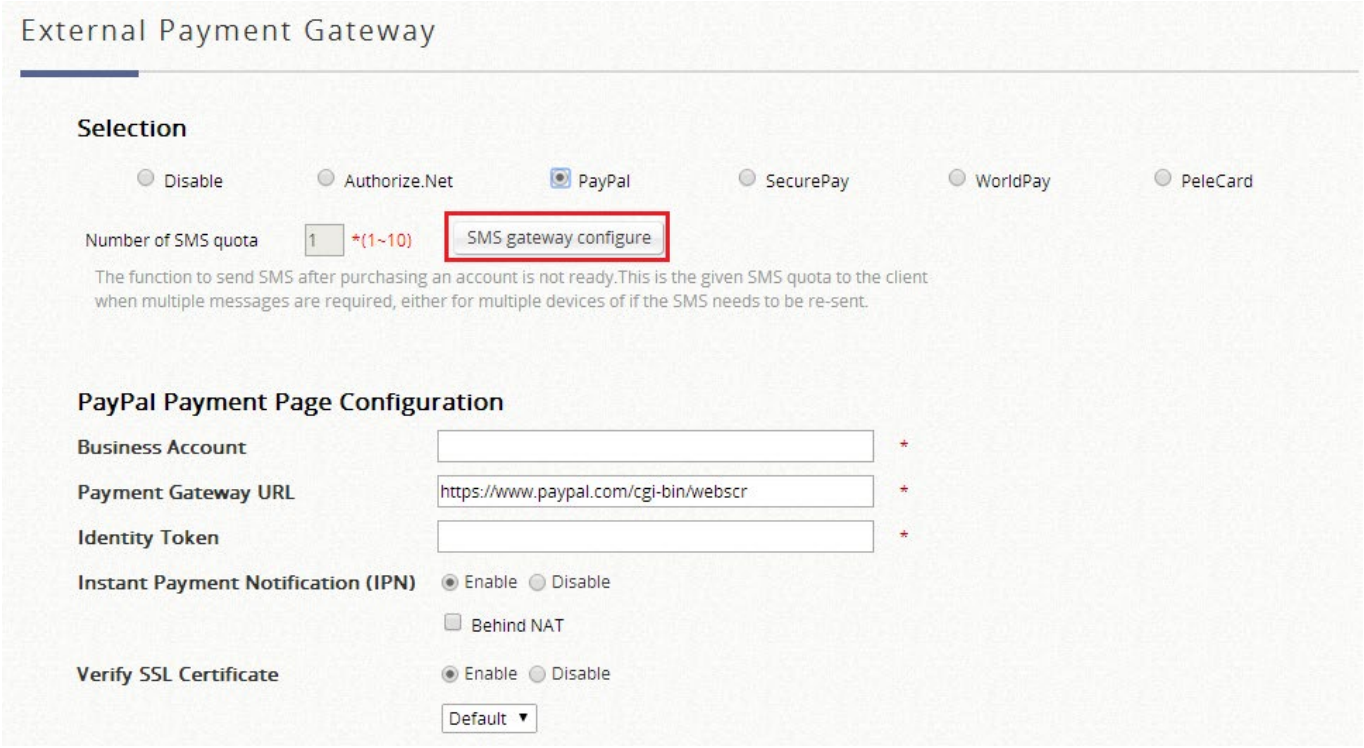


Web ページのカスタマイズを設定することで、サービスの免責事項をカスタマイズすることができます。

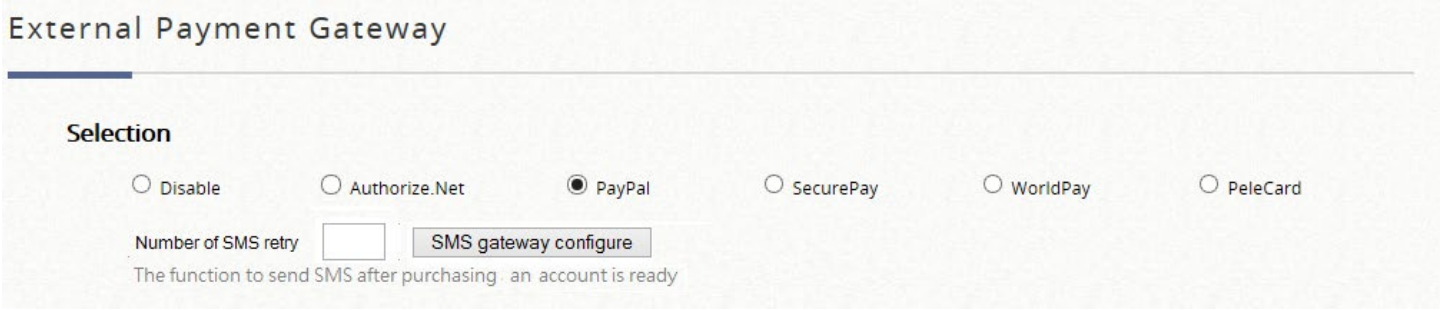
外部支払いゲートウェイの設定後、ログインページには、有効なクレジットカードでア

カウントを購入するためのエンドユーザーを段階的に案内するハイパーリンクが表示されます。

ユーザーがオンラインで新しいアカウントを購入した後に SMS 経由でアカウント情報を取得し、次回ログイン時にユーザー名とパスワードが忘れられるリスクを排除するために、管理者は SMS ゲートウェイと支払いゲートウェイを統合することができます。



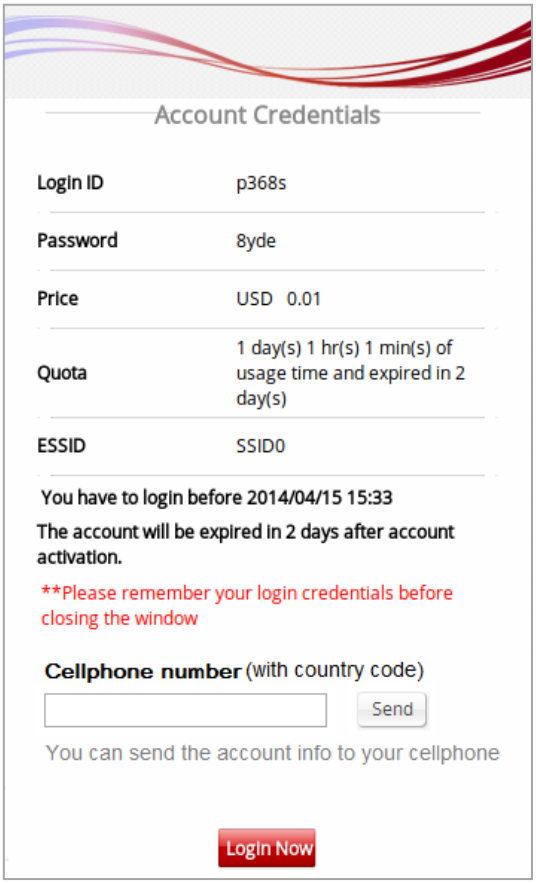
正常にセットアップされると、**Number of SMS Quota**（SMS クォータの数）フィールドが使用可能になります。



アカウントの購入者は、オンラインでアカウントの料金を支払った後、携帯電話番号を入力します。アカウントの購入者は、設定された番号を超えないように SMS を再送信

することができます。

外部支払いポータルをプレビューするには、ページの下部にある **Web Page Customization** の「Configure」をクリックしてください。システム内のすべてのカスタマイズ可能な Web ページと同様に、このページは、テンプレートによるカスタマイズ、html のアップロード、または外部ページの使用もサポートしています。SMS ゲートウェイで外部支払いゲートウェイを使用した場合に表示される内容の例を以下に示します。

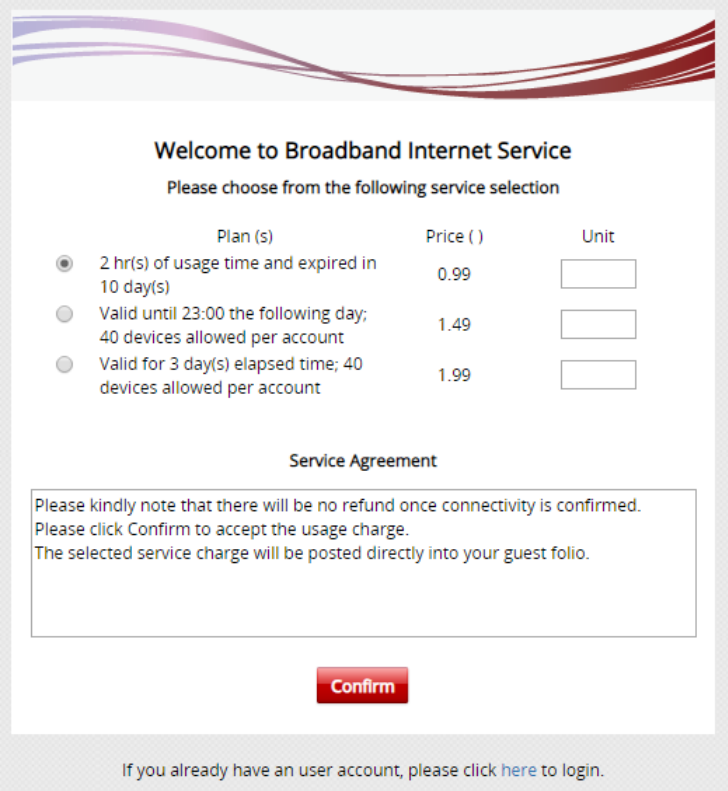


PMS セルフサービス

VLAN ネットワークを計画し、ポートロケーションマッピングの設定をすべて完了したら、設定が正しく機能しているかどうかを確認する必要があります。設定されたポートタイプに従って、ユーザーが VLAN マッピングされた部屋からインターネットにアクセスしようとすると、表示されるページまたはメッセージは次のようになります。

ユーザーが部屋からインターネットにアクセスしようとすると、ブラウザは利用可能な

プランとサービス契約のリストを含むログインページを表示します。サービス契約本文は、適用されたサービスゾーンのカスタムページ設定で設定できます。ユーザーは請求プランを選択し、Confirm ボタンをクリックすると、生成されたアカウント名とパスワードが表示されます。すでにユーザーアカウントをお持ちの場合は、「**here**」リンクをクリックして、所有しているユーザーアカウントでログインできます。



第12章 PMS 統合

ここでは、PMS 統合で使用されるポートロケーションマッピング機能について説明します。この機能は、サービスゾーンの下に複数の VLAN 分割を（別々の LAN ポートであるかのように）作成し、これらの VLAN を別の場所に個別にマッピングするように設計されています。この機能は、MTU/MDU 配置で、個別のクライアントに VLAN 接続を提供するためにゲートウェイの下に VLAN スイッチを配置する、個別のクライアントに VLAN を提供するために利用できます。

ポートロケーションマッピング機能は、おもてなしの場では、客室や公共エリアのインターネットサービスを管理するために一般的に使用されています。さらに、サードパーティのホスピタリティアプリケーションと連携して動作することができ、ゲートウェイと一般的な高速インターネットアクセス（HSIA）ハードウェアとフロントオフィスシステム（FOS）ソフトウェアとのシームレスな統合を提供する Net Retriever ミドルウェアでテストされています。

各ポートロケーションマッピングエントリは、エントリの VLAN タグに対応するロケーションで、課金（シングルまたはマルチユーザー）、無料またはブロックされたインターネットサービスを提供するように設定できます。有料サービスをご利用いただくには、少なくとも 1 つまたは複数のオンデマンド請求プランが作成され、ユーザーがインターネットアクセス料金を支払うための希望プランを選択することが必要がありますのでご注意ください。

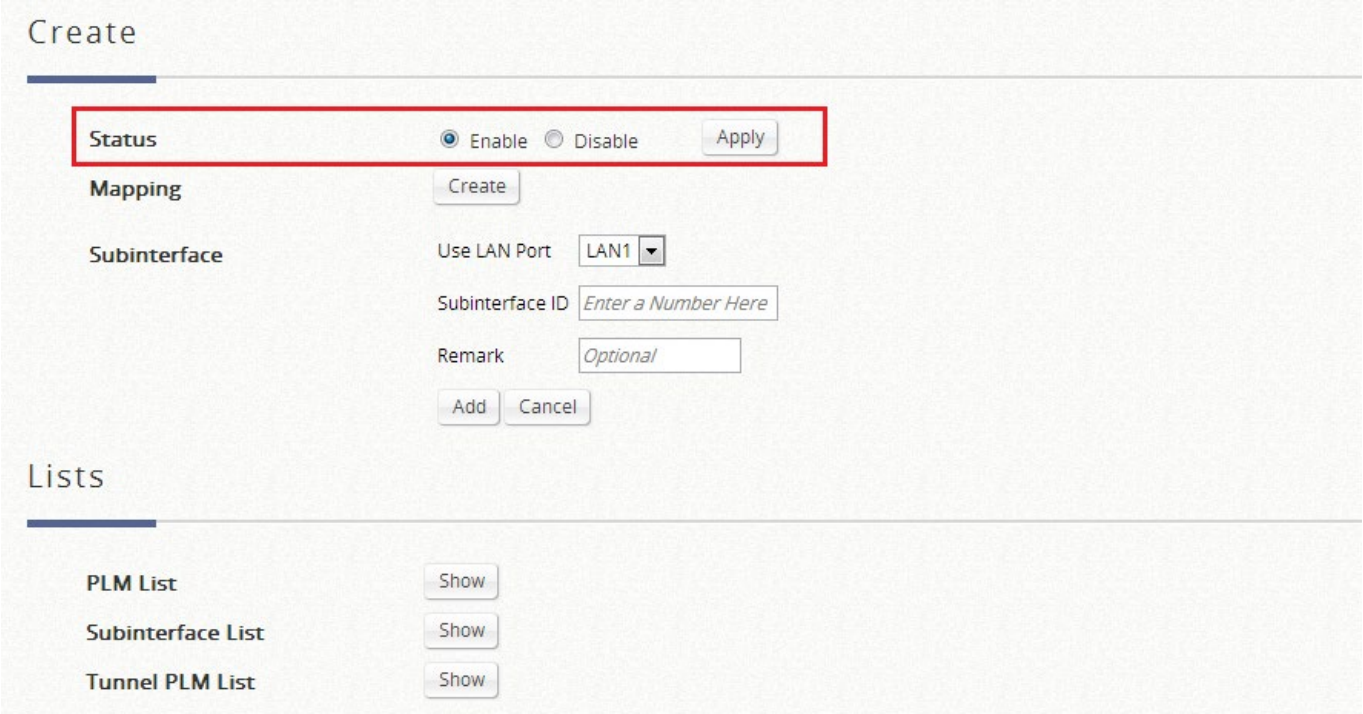
メモ

1. EWS コントローラは、デフォルトで Micros PMS、InnKeyPMS、および IDS インターフェースをサポートします。お客様独自のインターフェース・ホスピタリティソフトウェアを作成またはカスタマイズする際に、専用のサポートが必要な場合は、Edgecore 営業担当者までお問い合わせください。

12.1 ホテルの部屋ロケーションマッピング

設定パス：Main Menu >> System >> Port Location Mapping

ポートロケーションマッピング機能を使用すると、各サービスゾーンが複数の VLAN を所有し（各 VLAN がポートであるかのように）、クライアントの送信元を識別できます。
PMS ミドルウェアの設定、またはサービスゾーンへの VLAN の追加を行う前に、まずポートマッピング機能を有効にする必要があります。



管理者は、ポートロケーションマッピング機能を使用して、ロケーション（ホテルの部屋など）を VLAN スイッチまたは DSLAM デバイスの VLAN ポートにマッピングできます。各部屋は VLAN タグにマッピングされます。また、各部屋を異なるサービスゾーンに割り当てて、異なるポリシーを取得することができます。さらに、アプリケーションに応じて、異なるポートタイプの部屋を設定することができます。**Open**、**Block**、または **Auth.Required** です。

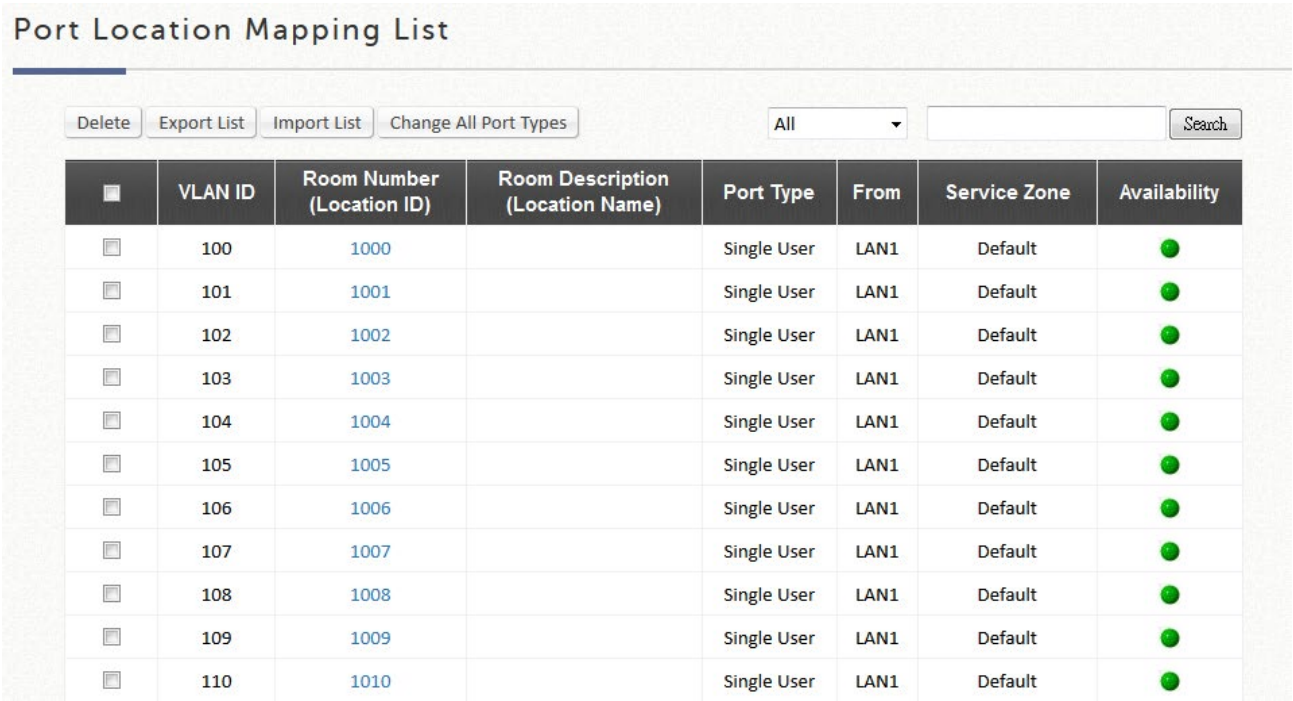
- **Open** というポートタイプは、ユーザーがこの部屋で無料でインターネットにアクセスできることを意味します。
- 部屋のインターネットアクセスを提供したくない場合は、部屋のポートタイプを「**Block**」に変更できます。ユーザーがブラウザを開いてインターネットにアクセスしようとすると、ブロックメッセージがポップアップしてユーザーに通知されます。
- **Auth.Required** というポートタイプは、主にユーザーに課金するためのホスピタリティアプリケーションで使用されます。ユーザーがブラウザを開いてインターネットに

アクセスしようとすると、免責事項と請求プランのオプションを含むページが表示されます。ユーザーは、希望するプランを選択し、confirm ボタンをクリックしてアカウントを購入することができます。アカウント費用は PMS に送信され、設定されたミドルウェアを介してホテルの請求書に追加されます。

メモ

1. VLAN ポートは 1 つずつ作成することも、一度に一括作成することもできます。その後の変更は、ポートタイプの変更設定ボックスで行えます。
2. ポートロケーションマッピングで設定された VLAN タグは、各サービスゾーンに割り当てられている VLAN タグと競合してはいけません。

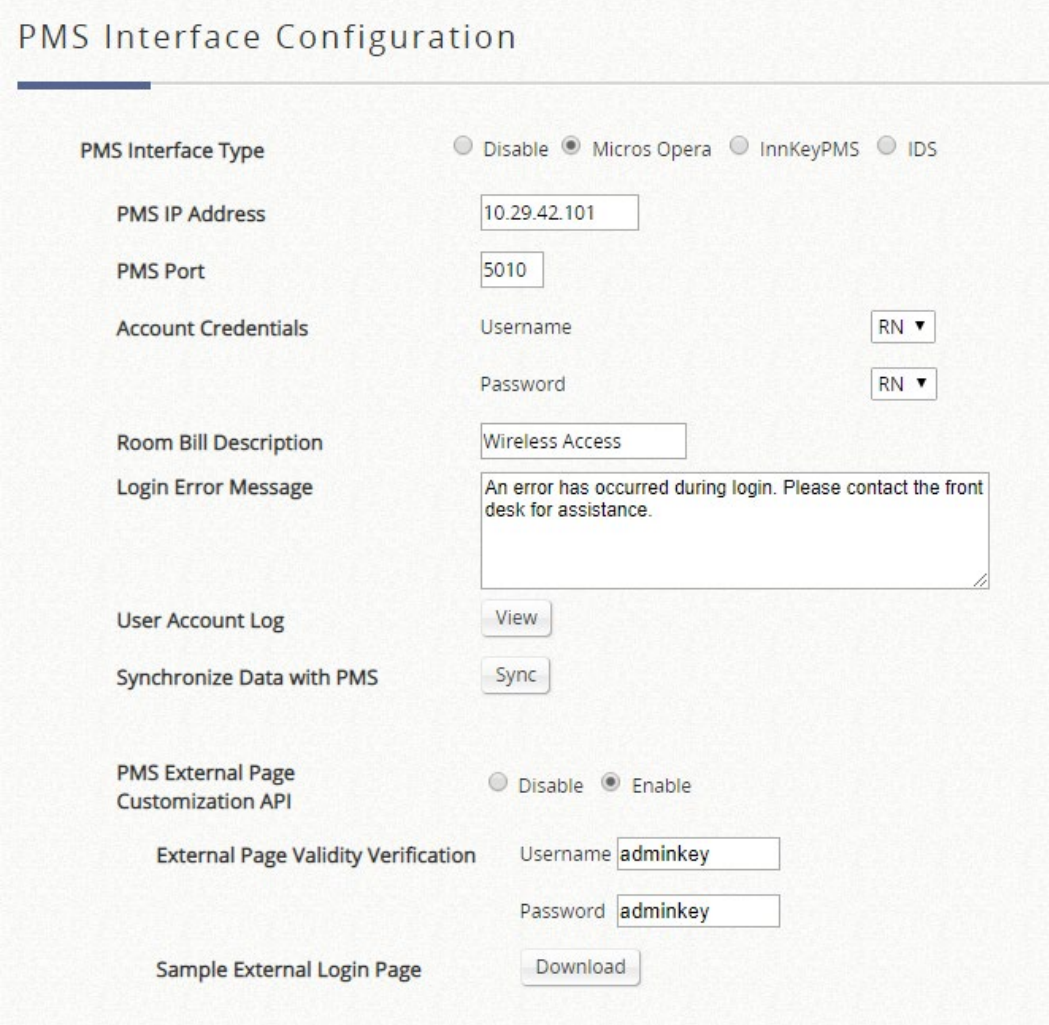
Port Location Mapping List には、VLAN ID、Room Num/Location ID、Port Type、Service Zone などの情報を含むすべてのプロファイルエントリが表示されます。**Delete** リンクをクリックすると、個々のポートロケーションマッピングプロファイルが消去されます。**Delete All** ボタンをクリックすると、ポートロケーションマッピングプロファイルがすべて消去されます。



12.2 PMS 設定

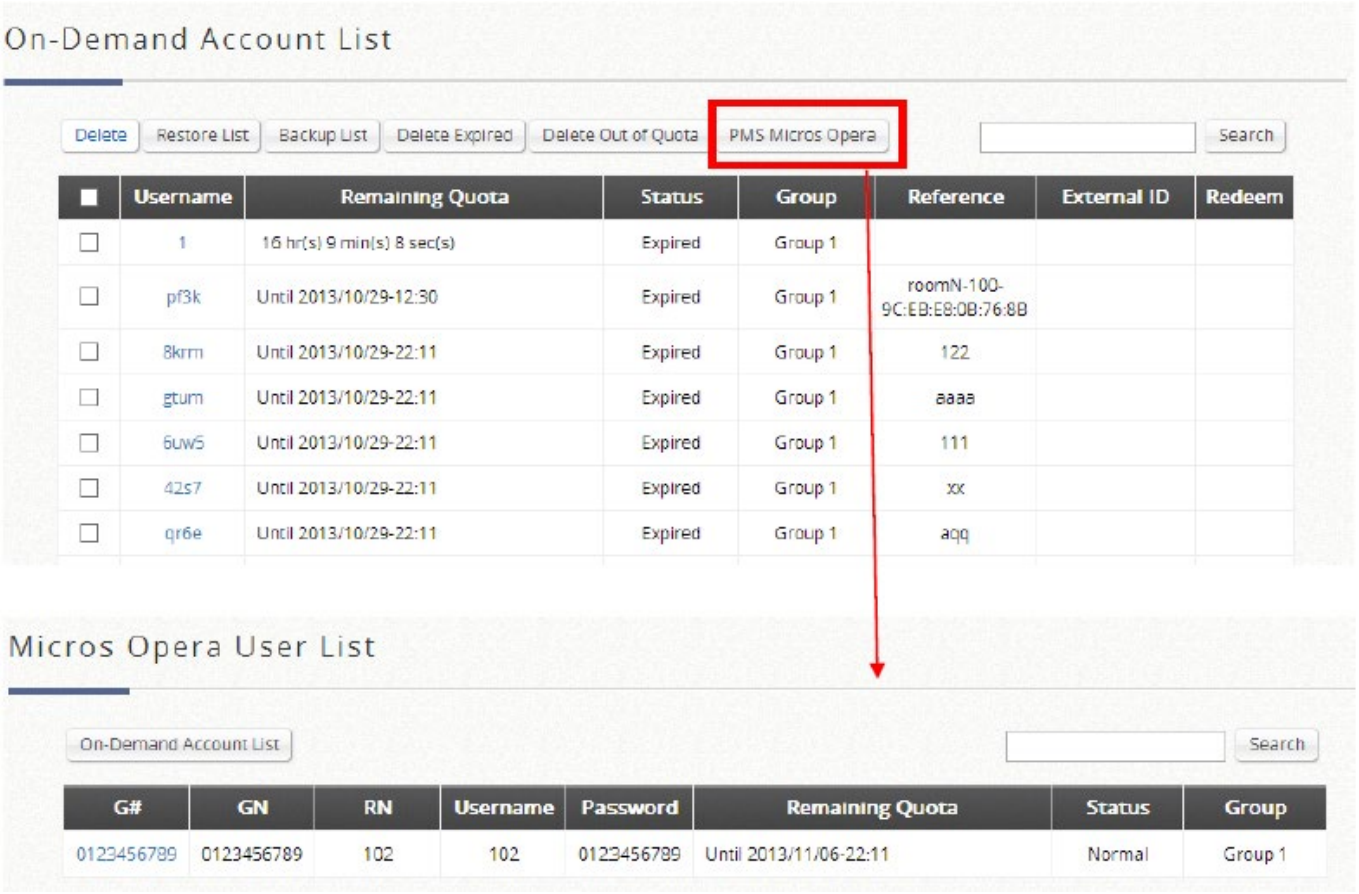
設定パス：Main Menu >> System >> PMS Interface

PMS Interface Configuration ページで、管理者はサイトのホスピタリティ管理システムまたは PMS システムと互換性のあるインターフェースタイプを選択できます。



Micros Opera/IDS

インターフェースタイプが Micros Opera または IDS の場合、PMS システム側で設定された PMS IP および Port を入力してください。管理者は、RN（部屋番号）、GN（ゲスト名）、G#（ゲスト番号）、G+（プロファイル名）の組み合わせを使用して、ユーザーアカウントの資格情報を定義し、ユーザー名とパスワード情報を伝送するためのプロトコル・パラメータを指定できます。Micros Opera ユーザーに関する詳細は、オンデマンドアカウントリストから監視することもできます。



Innkey PMS

インターフェースタイプが Innkey PMS の場合、クエリ API、ポスト API、および PMS システムの共有キーが統合に必要な情報です。部屋番号とゲスト番号は、ユーザーアカウントの資格情報になります。

外部ログインページ用の PMS API

PMS API は、ログイン情報、選択された請求プラン、購入単位などにアクセスプロセスを完了することができ、カスタマイズされたログインページを備えた柔軟な実装を管理者に提供します。管理者は、独自のユーザー名とパスワードを使用して、外部 Web サーバーと EWS コントローラ間の API プロトコルを保護することもできます。さらに、管理者が簡単に変更できるダウンロード可能な例があります。

外部ログインページ用の PMS API は、Micros Opera および IDS インターフェースでのみ利用可能です。

第13章 アカウントローミング

13.1　ローミング関連

ローミング機能は、他の ISP 加入者がより多くの利益源を生成するためにネットワークアクセスを提供しようとする事業者にとって、大規模な配置やアライアンス協力に不可欠な機能です。

EWS コントローラは、Boingo、iPass Connect などの市場におけるほとんどのローミングブローカーとのローミング関係を確立するために必要な WISPR 属性をサポートします。

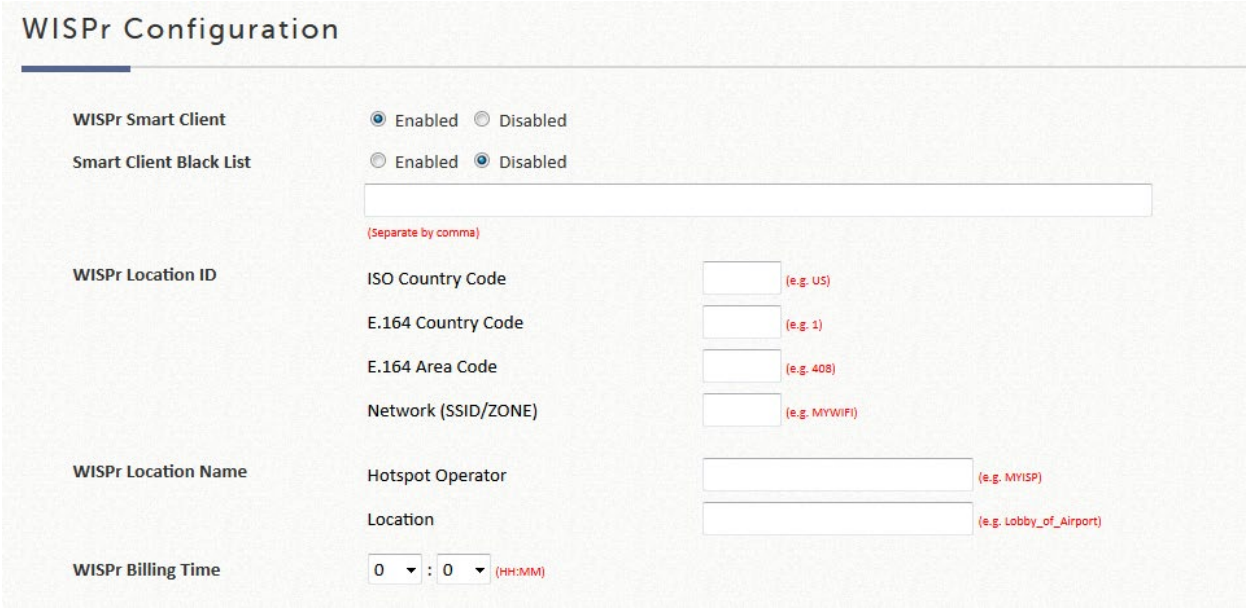
通信事業者の互換性および技術評価に関する詳細なサポートについては、Edgecore サポートチームにお問い合わせください。

13.2 ISP ローミング用の WiSPr

設定パス：Main Menu >> System >> Service Zones >> Service Zone Configuration

WiSPr（「whisper」と発音される）、無線インターネットサービスプロバイダローミングというプロトコルは、Wi-Fi Alliance に提出された草案で、携帯電話ユーザーがキャリア間でローミングできるようにするために使用されるのと同様の方法で、ユーザーが無線インターネットサービスプロバイダ間でローミングできるようにするものです。
RADIUS サーバーは、加入者の資格情報を認証するために使用されます。

RADIUS サーバーが構成されている場合、RADIUS 認証中に使用される WISPr 属性をこのサービスゾーンで定義できます。



WISPr Smart Client：WISPr エージェント（iPass、WiFi Skype、Boingo など）のローミングアカウントをお持ちのお客様がインターネットにアクセスできるようにする場合は、Enable を選択してください。クライアントのデバイス上のローミングソフトウェアが正しく動作するためには、System >> General の HTTPS Protected Login（HTTPS 保護されたログイン）フィールドを有効にしてください。

Smart Client Black List：WISPr エージェント名を入力し、その特定の WISPr ローミングエージェントからユーザーのインターネットへのアクセスをブロックすることを有効にしてください。例えば、「ipassconnect」を入力した場合、iPass クライアントはネットワーク内のローミングアクセスを拒否されます。

WISPr Location ID：これらの属性は、無線ホットスポットプロバイダが Web ポータルをカスタマイズできるようにするもので、クライアントデバイスの位置情報に基づいており、RADIUS ベンダー固有属性（VSA）となっています。

WISPr Location Name：これらの属性は、無線ホットスポットプロバイダが Web ポータルをカスタマイズできるようにするもので、クライアントデバイスの位置情報に基づいており、RADIUS ベンダー固有属性（VSA）となっています。

WISPr Billing Time：RADIUS アカウントの請求時間を設定してください。

13.3 クロスゲートウェイローミング

設定パス：Main Menu >> Network >> Client Mobility

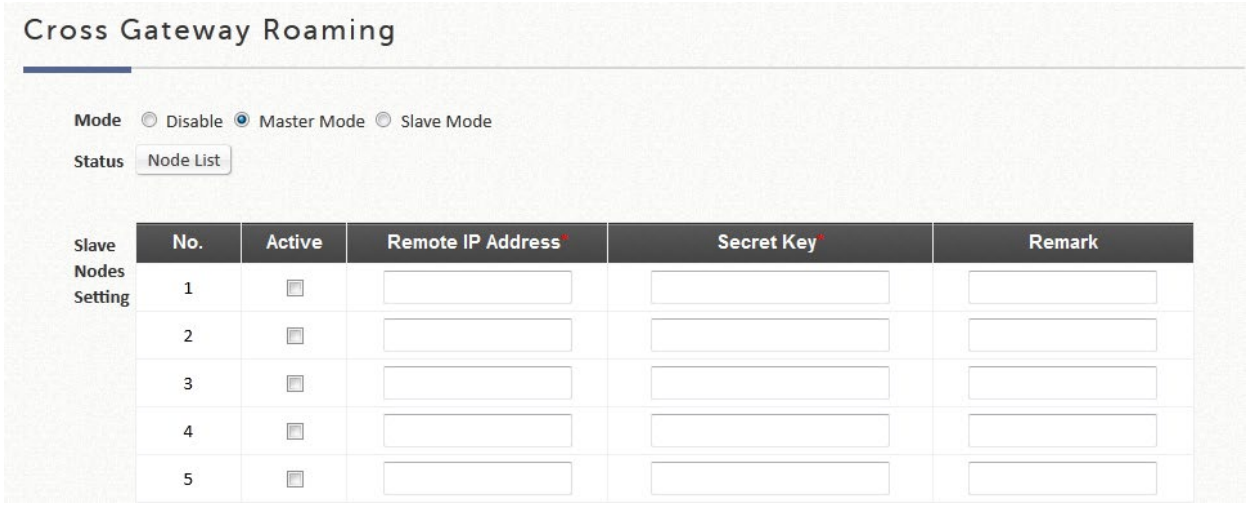
クロスゲートウェイローミング機能により、エンドユーザーは、複数のコントローラが存在している大規模なネットワーク配置をシームレスに移動できます。通常、ユーザーがエッジ AP から、別のコントローラで管理されている別のエッジ AP に移動すると、ネットワークが切断され、ネット閲覧を続けるために再ログインが必要になります。

クロスゲートウェイローミングを有効にすると、エンドユーザーはネットワークの中断を経験しません。トラフィックは、インターネットに転送するために元のコントローラにトンネリングされます。

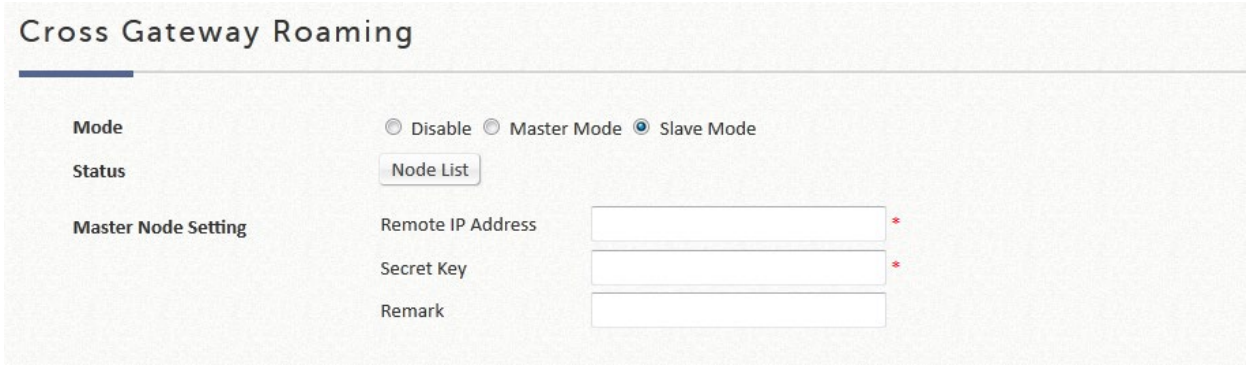
採用されたクロスゲートウェイローミングアーキテクチャ設計は、1 つのマスターノードが最大 15 のスレーブノードピアを持つことができるスタートポロジ設計です。マスターノードという用語は、単にこのノードがスタートポロジの中心に位置することを意味します。

役割の決定は、管理者の設定に完全に依存します。ローミングパートナーシップを確立するには、コントローラをマスターノードに、別のコントローラをスレーブノードに設定してください。秘密キーと両方のコントローラの WAN インターフェースがルーティング可能であることを確認してください。

スレーブノードの IP アドレスと秘密キーを設定してください。



スレーブノードのマスターノードと秘密キーを設定してください。



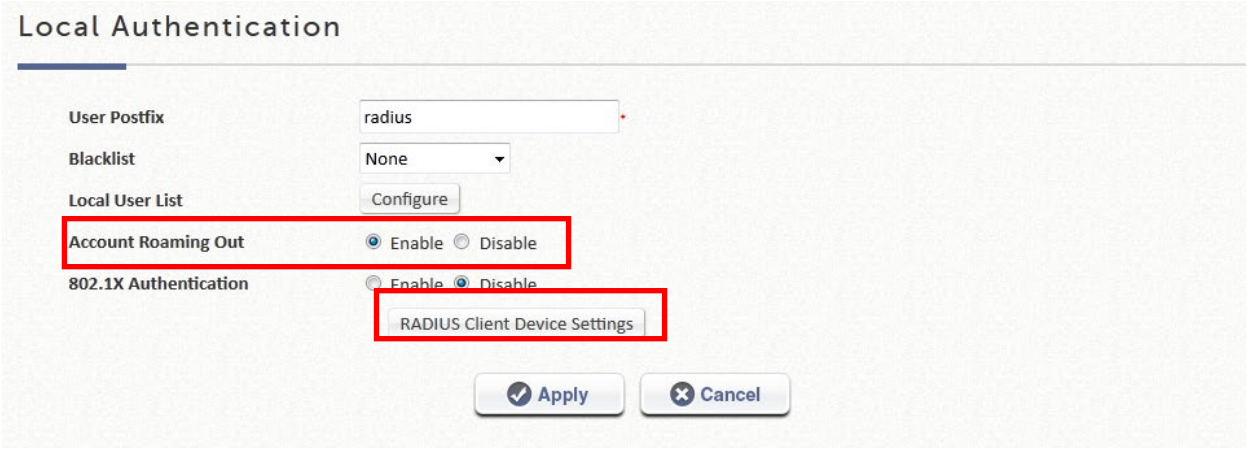
13.4 ローカル/オンデマンドアカウントのローミングアウト

EWS コントローラのローカルおよびオンデマンドの組み込みユーザーアカウントデータベースは、外部 RADIUS 認証データベースとして他のコントローラに使用できます。

このアプリケーションは、認証プロセス中にアカウントの資格情報を検索するために単一の中央コントローラを参照する機能を提供し、複数の支店を持つ企業やビジネスに最適です。

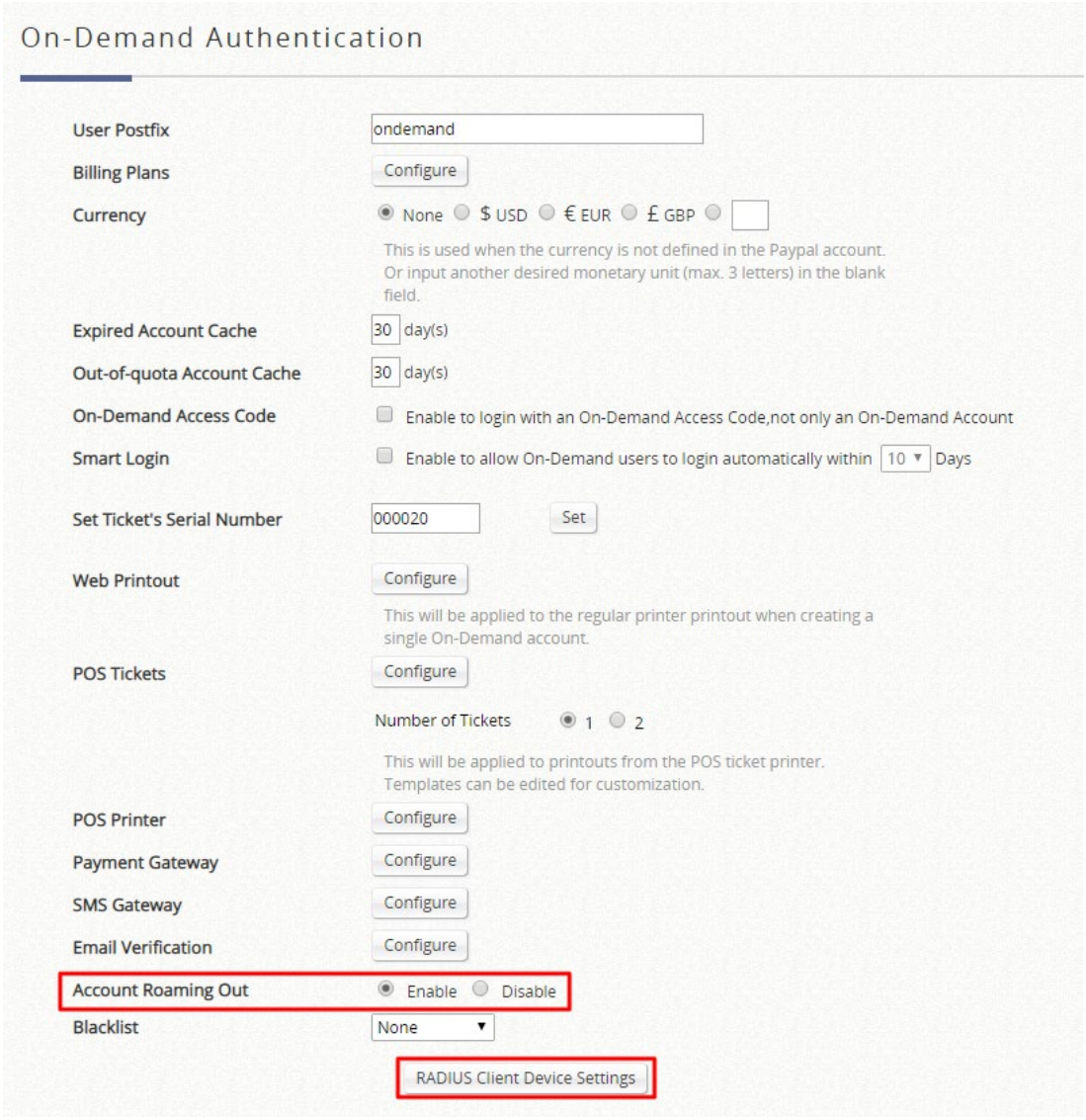
ローカルユーザーデータベースを別のコントローラの RADIUS データベースとして使用するには、次の手順で行います。

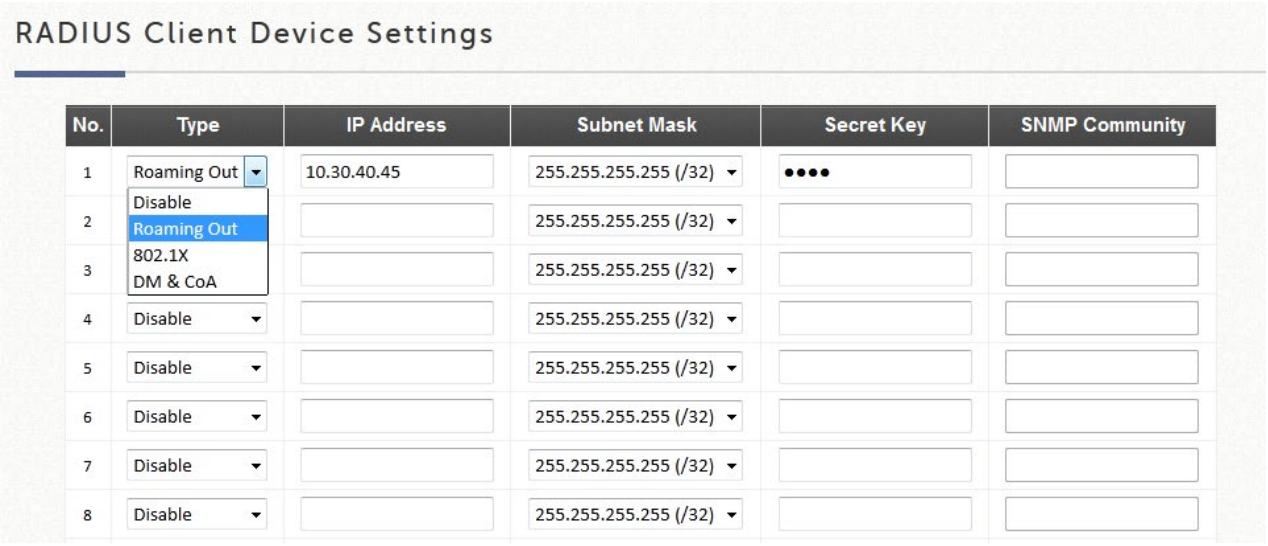
設定パス：Main Menu >> Users >> Internal Authentication >> Local



オンデマンドユーザーデータベースを別のコントローラの RADIUS データベースとして使用するには、次の手順で行います。設定パス：Main Menu >> Users >> Internal

Authentication >> On-Demand





ローカルまたはオンデマンドのローミングアウト機能を有効にしたら、RADIUS Client Device Settings（RADIUS クライアントデバイスの設定）ハイパーリンクをクリックし

てください。リダイレクトされたページでは、管理者は、RADIUS クライアントとして動作し、このコントローラの有効なユーザーデータベースに対して認証できるコントローラ IP を指定できます。

メモ

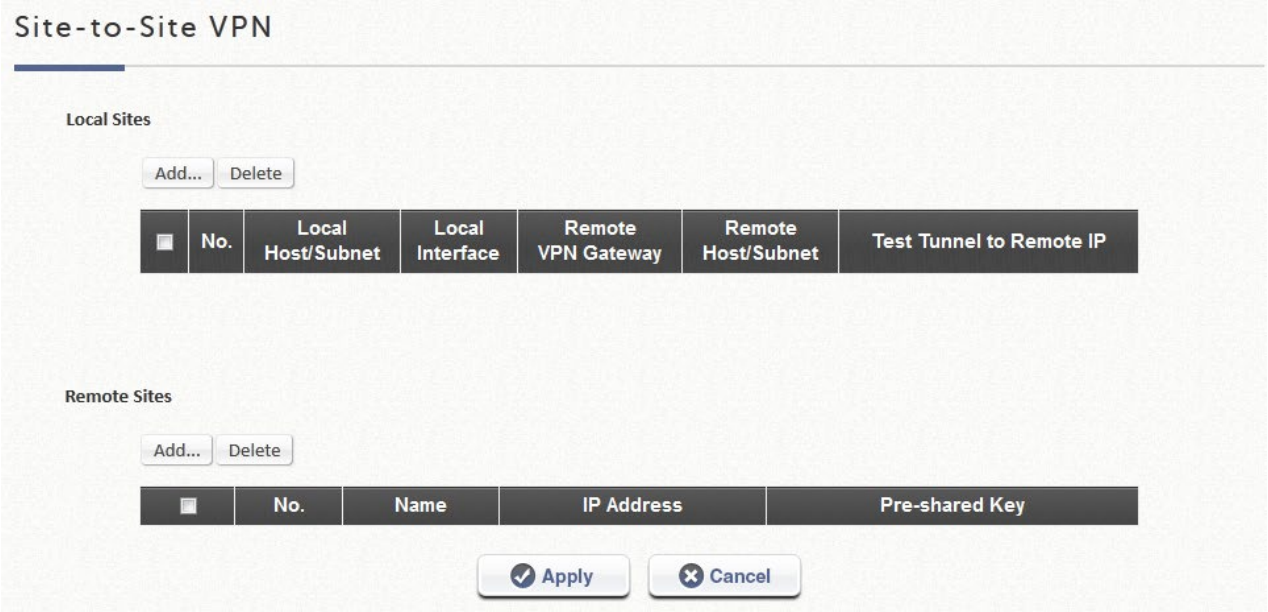
1. ユーザーデータベースの接尾辞が、2 つのコントローラ上で互いに競合しないよう設定されていることを確認してください。

第14章 VPN

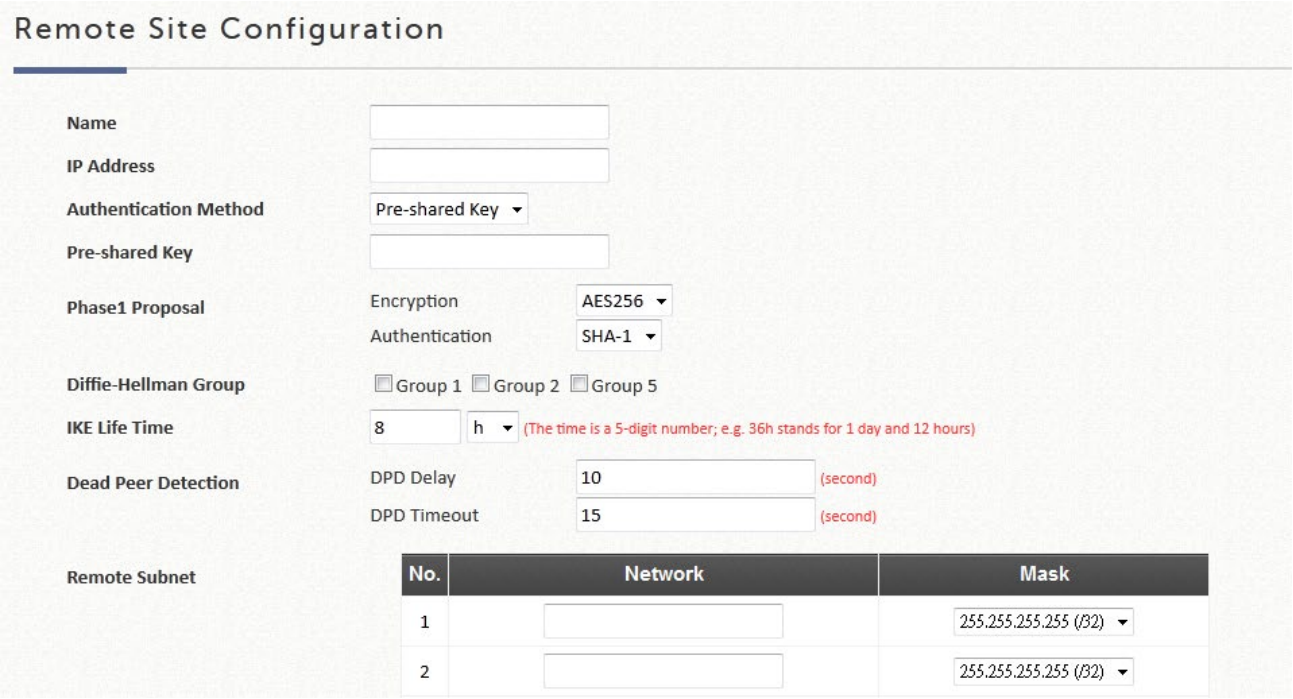
14.1 サイト間

設定パス：Main Menu >> Network >> VPN

EWS コントローラは、2 つ以上の EWS コントローラに対して**サイト間 VPN** をサポートし、WAN ネットワーク経由で相互に VPN トンネルを作成します。例えば、EWS コントローラが 2 つある場合、1 つの EWS コントローラのサブネットが別の EWS コントローラーのサブネットにアクセスできるようにする VPN トンネルを作成できます。



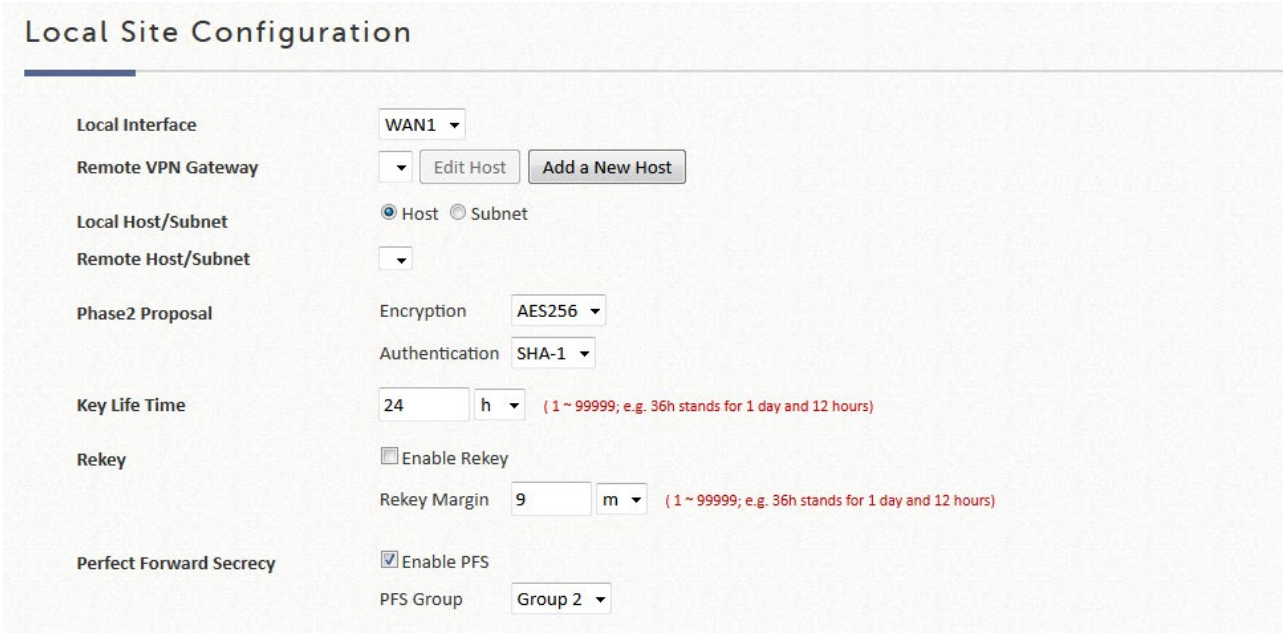
まず、少なくとも 1 つのリモートサブネットを持つリモートサイトを追加する必要があります。



メモ

1. 両方のサイトの IPSec 設定は同じである必要があります。

次に、リモートサイトにマッピングするためのサブネットを持つローカルサイトを作成します。例えば、EWS コントローラ_A の「192.168.11.0/24」>> EWS コントローラ_B の「192.168.111.0/24」のように、トンネルが作成されると、これら 2 つのサブネット内のユーザーは互いに到達できます。



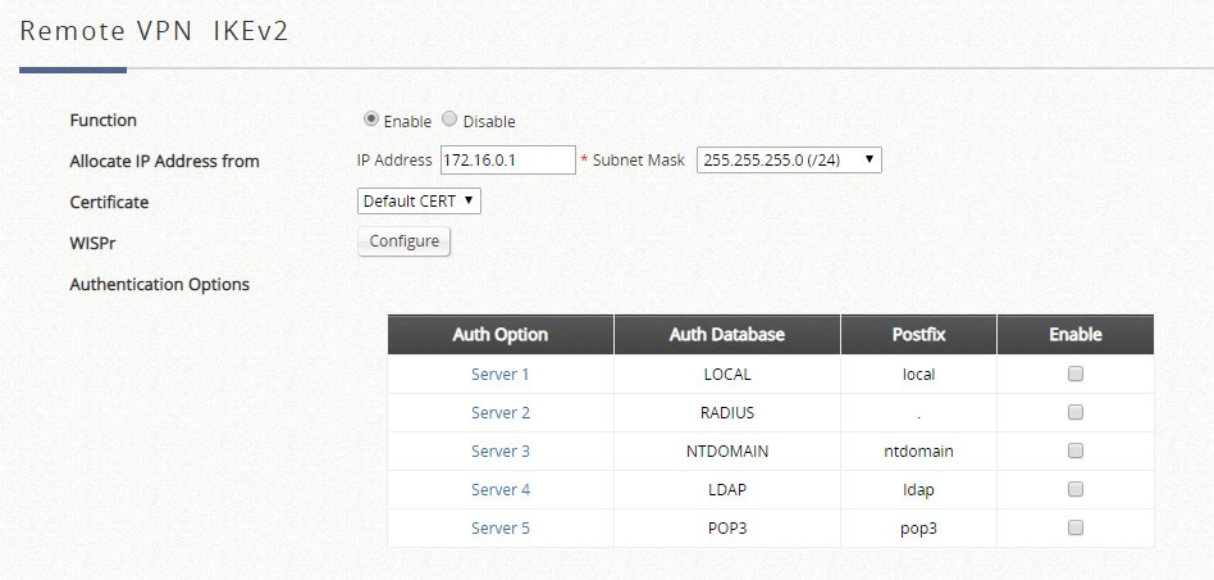
メモ

1. 複数の VPN トンネルを作成できますが、1 つの IP セグメントに 2 つのルーティングルールを設定できないため、IP セグメントマッピングは重複できません。

14.2 リモートクライアント

設定パス：Main Menu >> Network >> VPN

EWS コントローラは、リモートエリアからシステムへのユーザーログインのための**リモート VPN** をサポートしています。ユーザーが WAN の外部ネットワークからシステムにログインすると、EWS コントローラへのログインがローカルでサービスゾーンの下にあることがユーザーに表示されます。リモートユーザーとコントローラの間で転送されるデータは、**IKEv2** VPN トンネルで暗号化されます。また、ポリシーを適用することができ、ユーザーはネットワークにアクセスするためにシステムによって制御されます。



すべての設定は、サービスゾーンの設定に似ています。リモート VPN は、専用**サブネット**、**証明書**、**WISPr** 設定、**認証オプション**を使用して設定することもできます。

リモート VPN を有効にすると、ユーザーはクライアントデバイス上の VPN ツールを使用して、有効化された認証オプションのユーザー名とパスワードを使用して VPN リンクをセットアップできます。

メモ

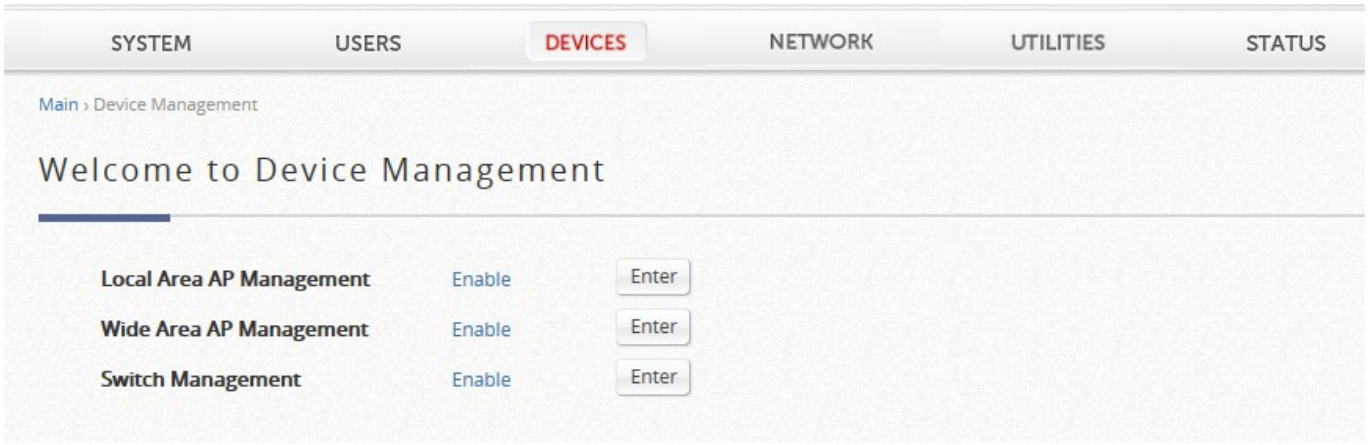
1. リモート VPN クライアントは、Main Menu >> Users >> Groups >> Configuration のページで異なるユーザーポリシーによって適用できます。

第15章 スイッチ管理

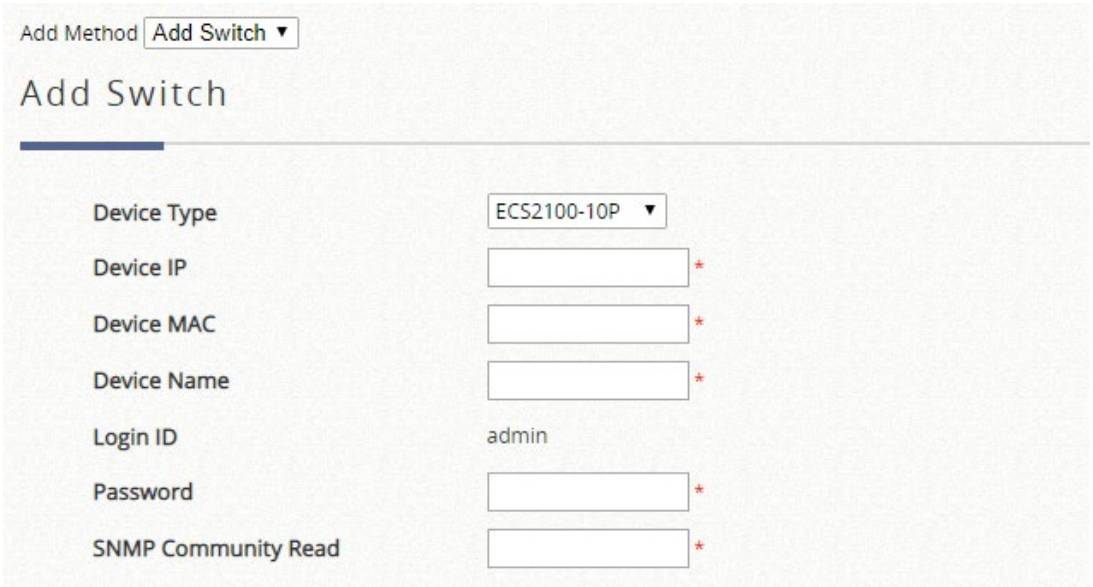
EWS コントローラは、Edgecore スイッチを管理するための包括的なインターフェースを提供します。

15.1 スイッチリスト

設定パス：Main Menu >> Devices >> Switch Management >> Switch List



EWS コントローラの WAN ポートまたは LAN ポートに接続されたスイッチは、手動で、または検出によって追加できます。



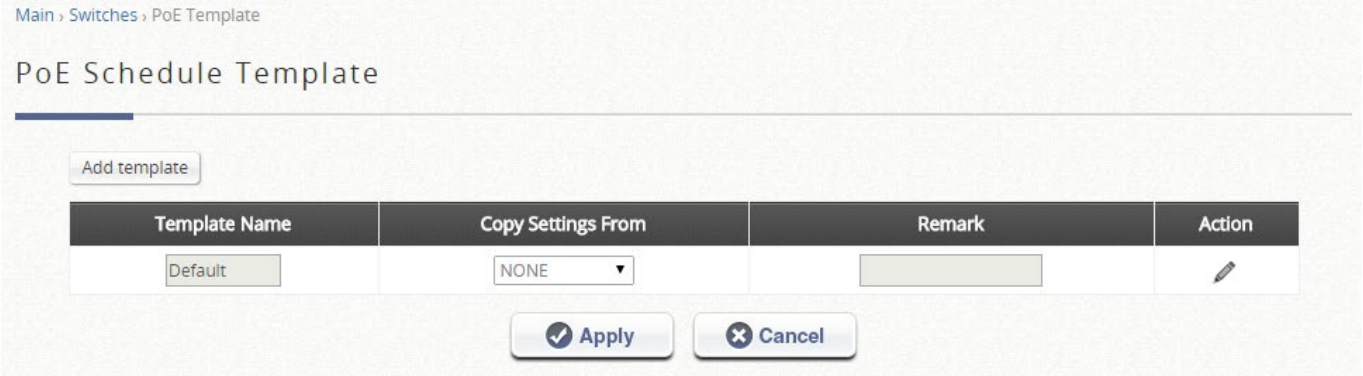
スイッチがリストに正常に追加されると、そのステータスが表示されます。

Switch List には、スイッチ名、スイッチタイプ、ステータス、IP アドレス、MAC アドレス、パワーバジェット、およびスイッチ管理 Web インターフェースへのショートカットリンクが表示されます。

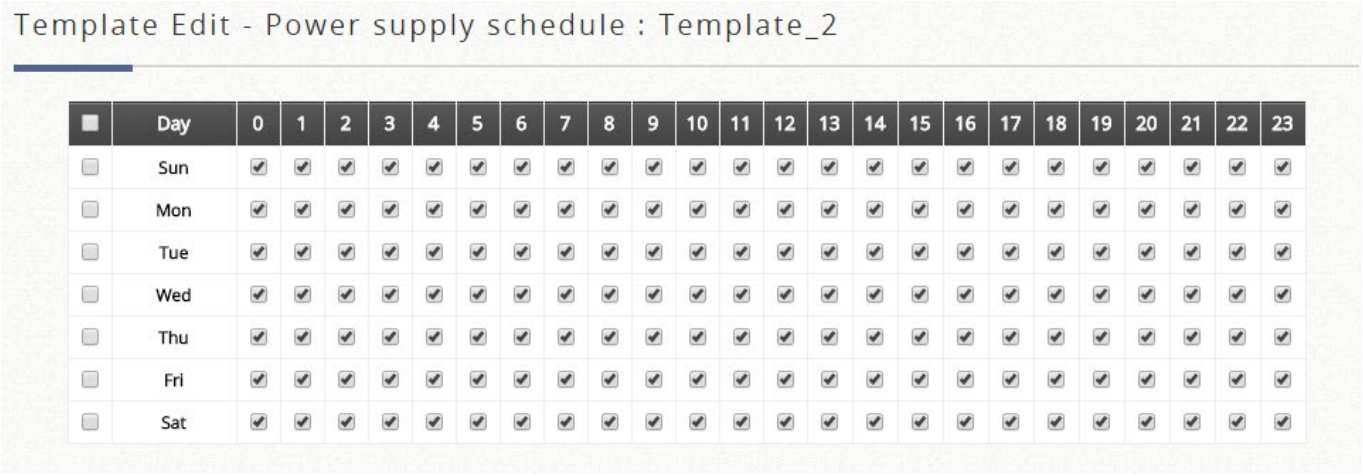
15.2 PoE スケジュールテンプレート

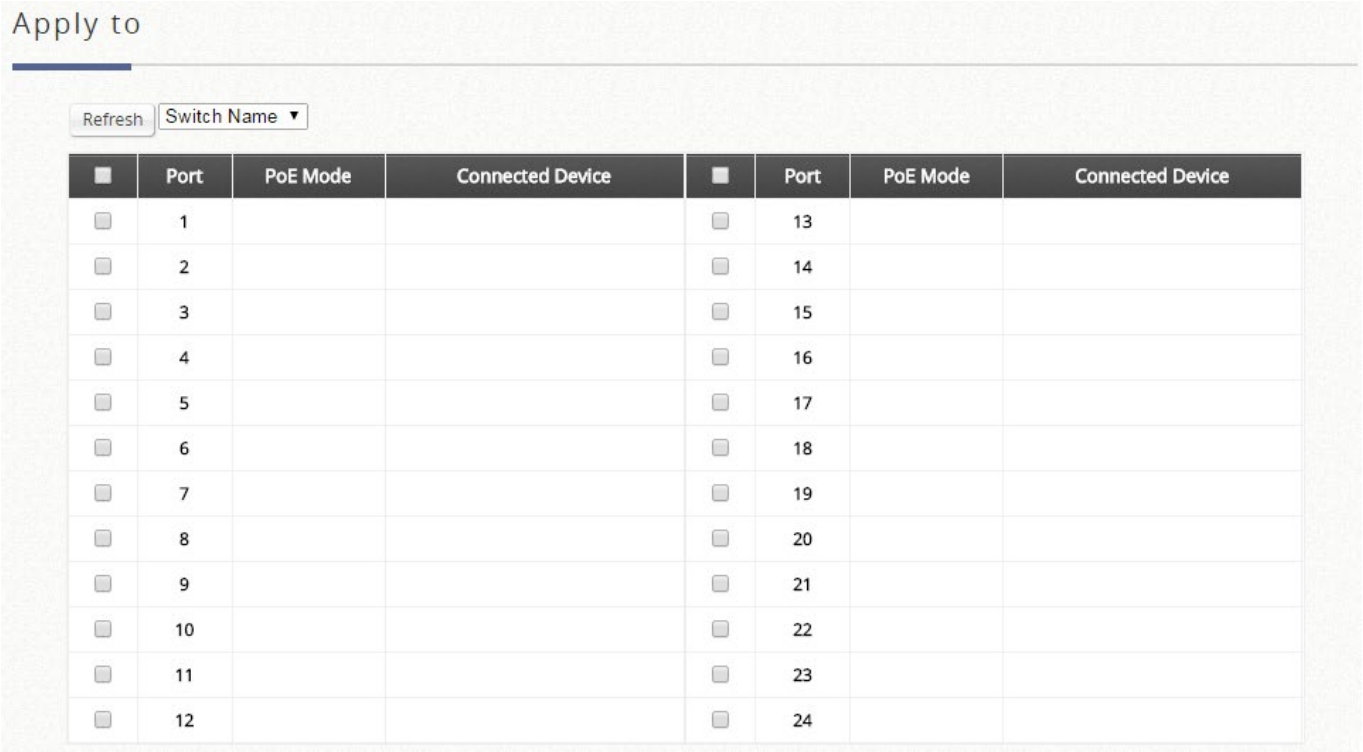
設定パス：Main Menu >> Devices >> Switch Management >> PoE Schedule Template

PoE スケジュールテンプレートを使用すると、管理者は、管理対象スイッチの割り当てられたポートに電力を供給するスケジュールを設定できます。この機能は、管理対象スイッチから PoE によって電力供給される場合に、AP スケジュールを制御するために使用できます。



テンプレートは、鉛筆アイコンをクリックして追加またはカスタマイズできます。





15.3　バックアップ設定

設定パス：Main Menu >> Devices >> Switch Management >> Backup Configuration

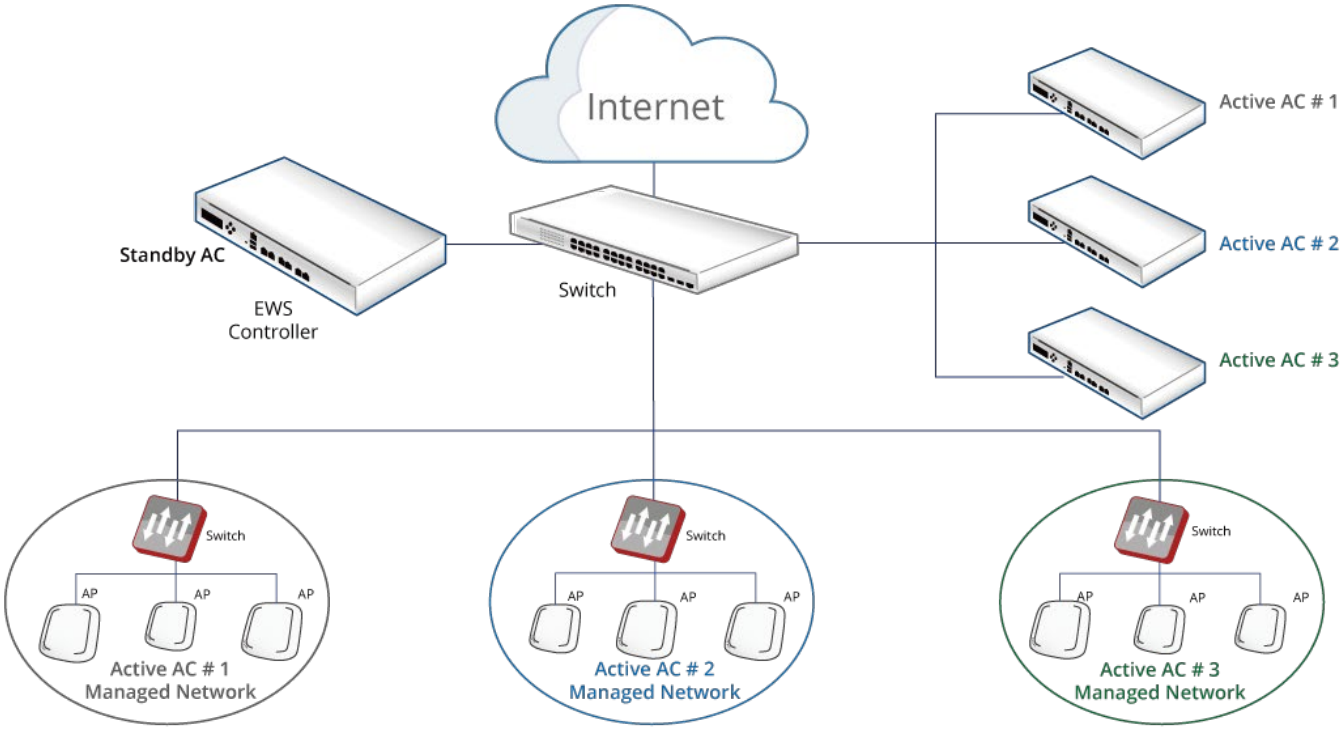
Backup Configuration には、管理対象スイッチからバックアップされた設定のリストが表示されます。スイッチを選択して「Backup」をクリックすると、設定をこのリストに保存できます。

第16章 プラットフォームに依存する機能

16.1 高可用性（HA）（EWS5203、EWS5204、EWS5207）

Edgecore HA の設計原則は、冗長性を使用して可用性を高め、サービス移行時の影響を最小限に抑えることです。Edgecore HA アプローチでは、AC（アクセスコントローラ）間に専用のメッセージリンクを実装し、N が≤ 3 の N+1 冗長システムを作成します。HA リンクが確立されると、アクティブ AC はすべてのネットワークトラフィックにサービスを提供しますが、スタンバイ AC はホットスタンバイ状態になり、アクティブ AC がサービスを提供できなくなった場合に備えて、ネットワークサービスを引き継ぐ準備が整います。

設定パス：Main Menu >> System >> High Availability



機能の説明：

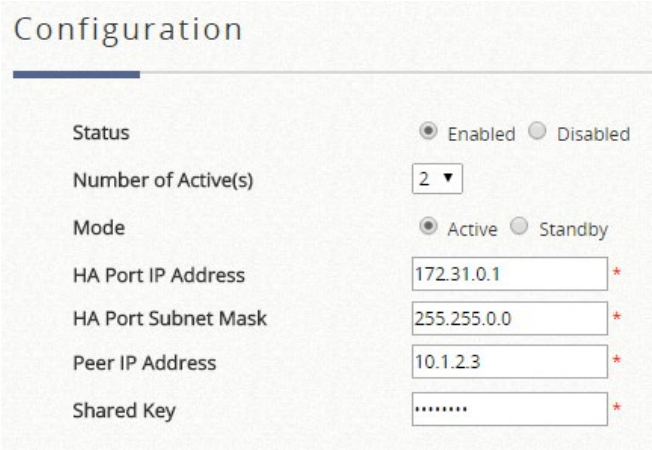
1. Edgecore HA 機能は、ソフトウェアによって決定された機能で、有効または無効にすることができます。

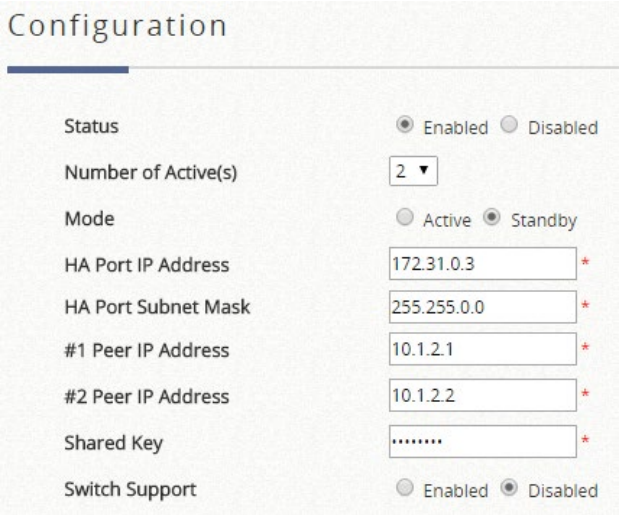
   ソフトウェアによって決定されたイーサネットの役割：

   - 有効にすると、LAN1 ポートが専用の HA ポートになります。

- 無効にすると、LAN1 は LAN ポートとして通常の機能のままになります。

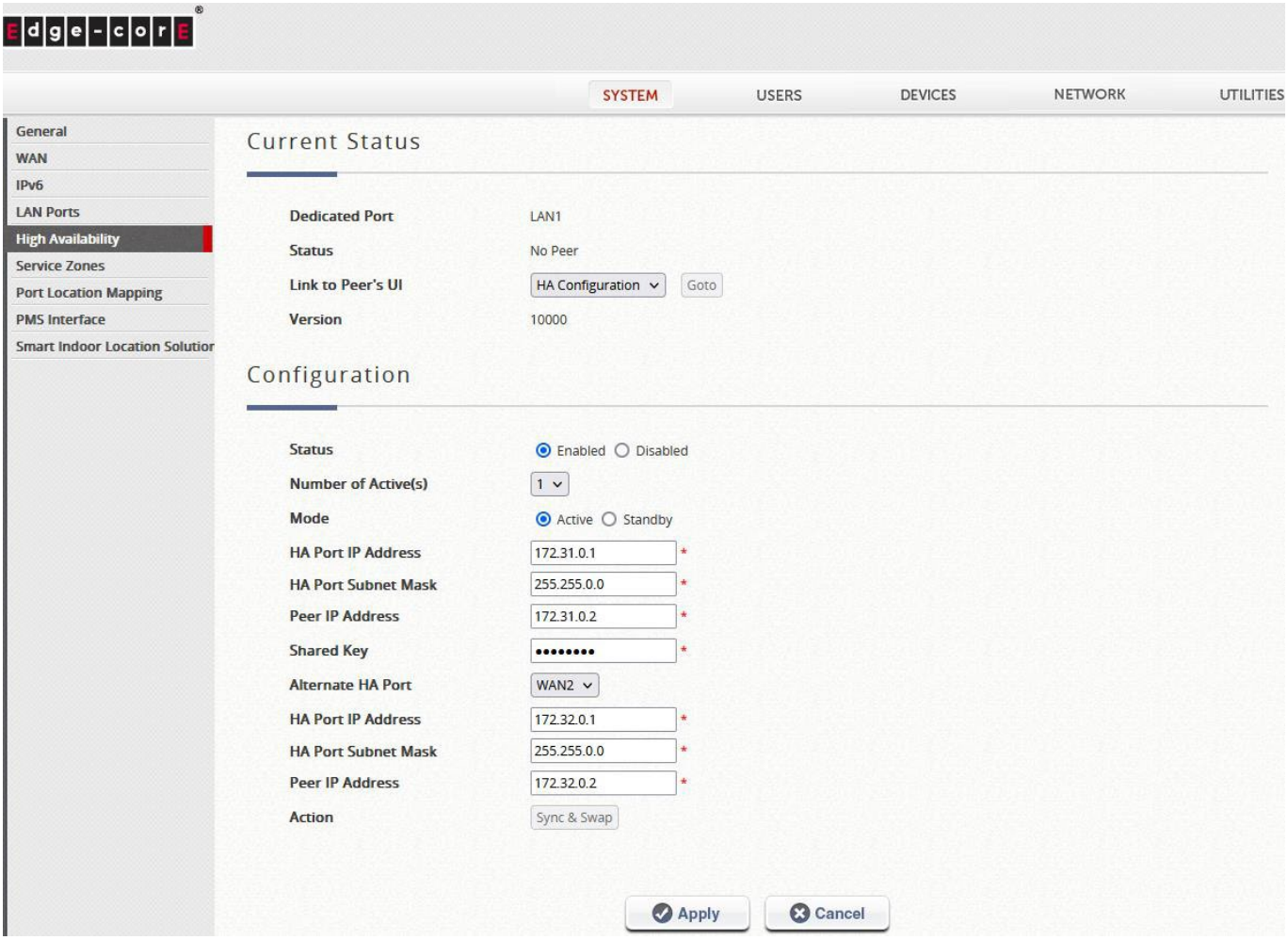
2. Web UI には、HA 機能が有効になっている場合に、この AC を「Active」または「Standby」として指定するための構成項目があります。
3. すべての HA 設定は手動で適用されます。これには、アクティブまたはスタンバイとしての AC の役割と、AC がダウンした後の HA ペアの復元が含まれます。





4. HA リンクが確立されると、すべてのシステム構成、ユーザーデータベース、ユーザーオンラインステータス、システムリソースステータス、管理対象 AP プロファイルをアクティブ AC からスタンバイ AC に同期します。
5. HA リンクが確立されると、スタンバイ AC による HA リンク監視メカニズムがあります。このリンク監視モジュールは、アクティブ AC のステータスをチェックします。アクティブ AC が応答していないイベント中、このモジュールは、この AC をサービスを提供しなくなったと見なし、ネットワークサービスを引き継いでいます。
6. HA リンク確立時には、アクティブ AC による HA リンク監視メカニズムがあります。この監視モジュールは、アクティブ AC の WAN1 ポートのステータスを確認します。 (Target for Detecting Internet Connection に記載の) IP アドレスやドメイン名への Ping に失敗すると、このモジュールはアクティブ AC はこれ以上サービスを提供できないと判断し、スタンバイ AC がネットワークサービスを引き継ぎます。もともとのアクティブ AC はスタンバイ AC になります。

7. ローカル APM 管理対象 AP は、L2 デバイスであるため、ネットワークの中断はほとんど発生しません。ローカルで管理される AP に関連付けられたクライアントは、サービススイッチオーバー中に、有線クライアントと同じシナリオ（ネットワークの中断がほとんどまたはまったく発生しません）が発生します。
8. トンネルが確立された L3 デバイス上のワイドエリア管理対象 AP（手動または CAPWAP 経由）は、サービススイッチオーバー後、最大 5 分（概算）以内に AP 管理能力をフルに確保してサービスを再開できます。
9. HA ステータスの変更電子メール通知は、Status > Reporting > Notification Settings > High Availability Mode Change で設定できます。HA N+1 の場合、サービスを提供するために新しいアクティブ AC が入れ替わったときに、新しいアクティブ AC によって電子メールが送信されます。また、HA がすでに有効になっているときにスタンバイ AC が検出されない場合、アクティブ AC から Standby-AC-is-DOWN のメールが送信されます。
10. HA 機能は、同じブランドおよび同じ FW バージョンおよびビルド番号の最大 3 つの AC に対してのみ有効にできます。
11. ユーザーは WAN2 をセカンダリ HA 検出ポートとして設定でき、プライマリ HA ポートが故障した場合、セカンダリ HA ポートがチェックされます。プライマリとセカンダリの両方のポートに障害が発生した場合、HA スワップイベントがトリガーされます。
12. 以下のトラップを HA イベント発生時のユーザーアラートに追加します：
    a. slavetoMaster： スタンバイからアクティブへの HA フェイルオーバー
    b. slaveDown: HA スタンバイダウン
    c. HAPortDown：HA ポートダウン
    d. AlternatePortDown：HA 代替ポートダウン
    e. InternetWAN1DOWN/InternetUP: インターネット接続の Ping テストに失敗/成功



メモ

1. 冗長構成時には、管理 IP アドレスリストに Active 機の IP アドレスを入れなければ Standby 機にアクセスできなくなります。
2. スタンバイ機がアクティブ機に同期できていないという情報は表示されません。また、通知もされません。現在のステータスの「ピア UI へリンク」の実行ボタンからスタンバイ機の管理画面へアクセスできない場合スタンバイ機がアクティブ機に同期できていない状態になります。
3. HA モードでは、コントローラが FW をアップグレードする必要がある場合、FW をアップグレードする前に HA を無効化する必要があります。

16.2 WiFi モニター（EWS5203、EWS5204、EWS5207）

WiFi モニターを使用すると、仮想エリアでも、実際の管理対象 AP 信号カバレッジでも、管理者はアクセスポイントの WiFi 信号カバレッジをシミュレートできます。また、管理対象 AP の

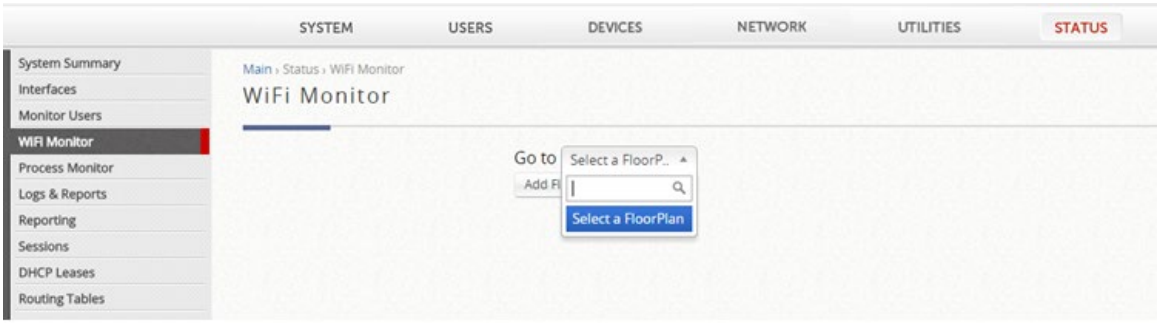
AP ステータスおよび統計情報も監視します。

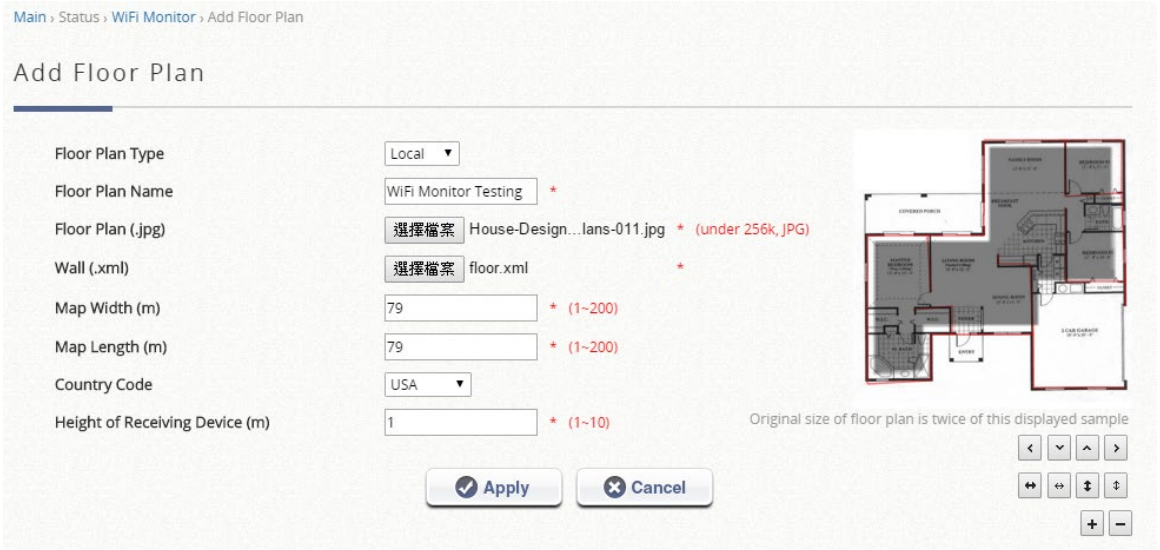
これは、管理者がネットワーク調査、初期設置段階での計画およびパフォーマンスの向上、および既存の配置の管理対象 AP の監視に役立つように設計されています。

フロアプランには、次の 3 つのタイプがあります。仮想、ローカル、ワイドです。

16.2.1.フロアプランを追加する

WiFi モニターは、AP を配置する場所と、AP の数が初期設置時にスループット要件を満たすかどうかを管理者が決定できるように設計されています。まず、.jpg 形式のマップまたはフロアプランが必要です。パーティションは.xml 形式または.osm 形式で描画されます。

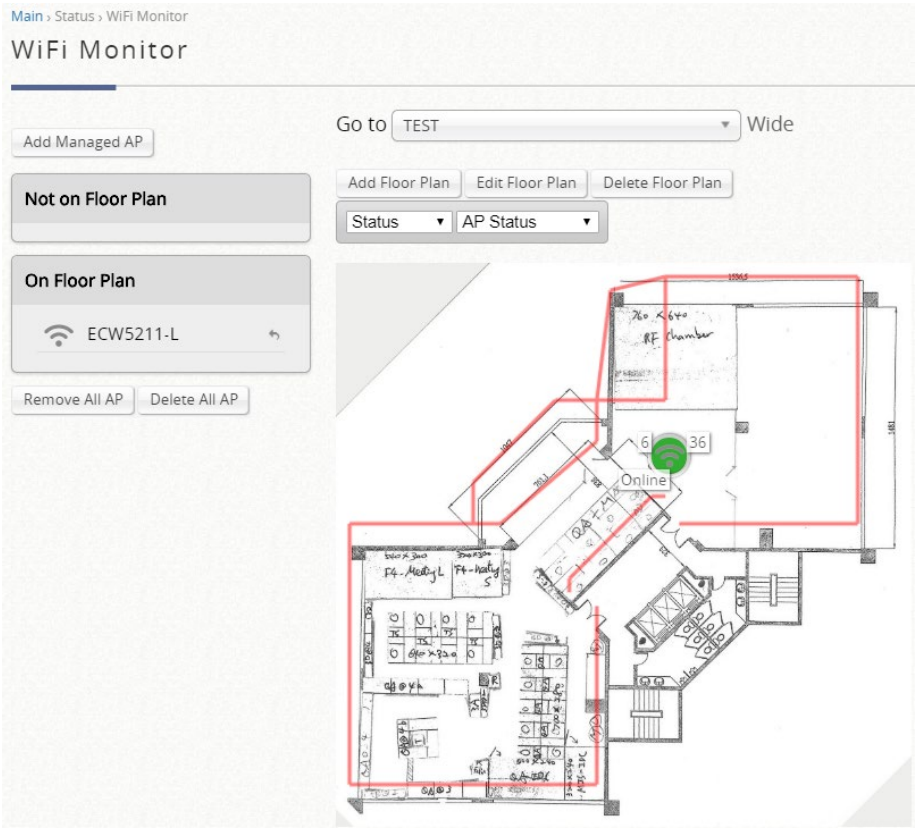




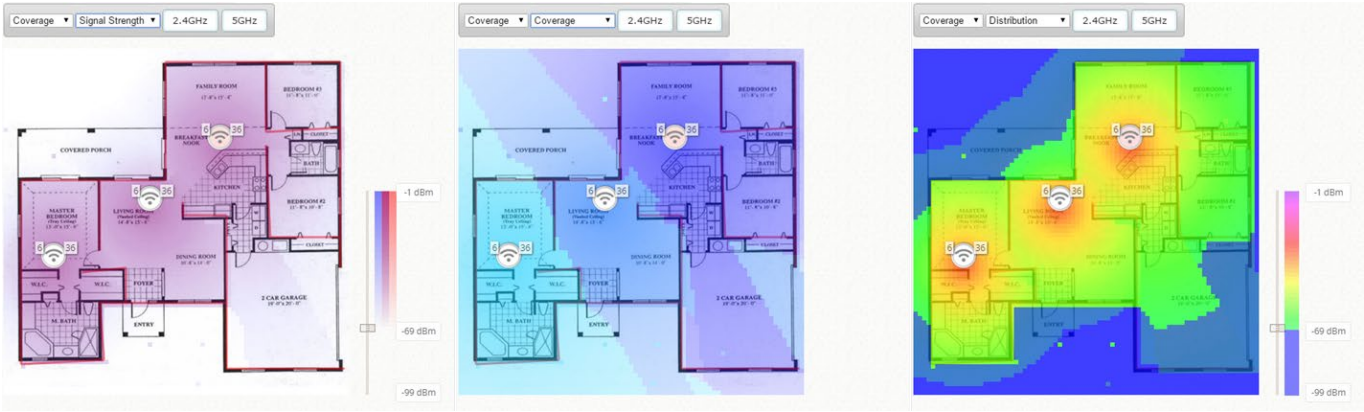
管理対象 AP シミュレーションは、場所に基づいてアクセスポイントの監視に利用されます。管理対象 AP シミュレーションのフロアプラン上の AP は、コントローラ上の実際の管理対象アクセスポイントです（ローカル AP 管理またはワイド AP 管理のいずれか）。

このアクセスポイントは、EWS コントローラによって管理される AP にリンクされており、IP アドレス、MAC アドレス、関連クライアント番号などの実際の AP 情報を見ることができます。これにより、管理者は AP の位置を基準に無線ネットワークを簡単に視覚化できます。

これらの管理対象 AP を作成したら、これらの AP をフロアプランにドラッグ＆ドロップするだけです。2.4GHz は青色、5GHz は赤色で信号強度を示します（したがって、両方のバンドが重なっている場合は紫色）。



管理対象 AP の信号強度とカバレッジは、AP モデル、送信電力、AP の高さなどの要因によって異なります。

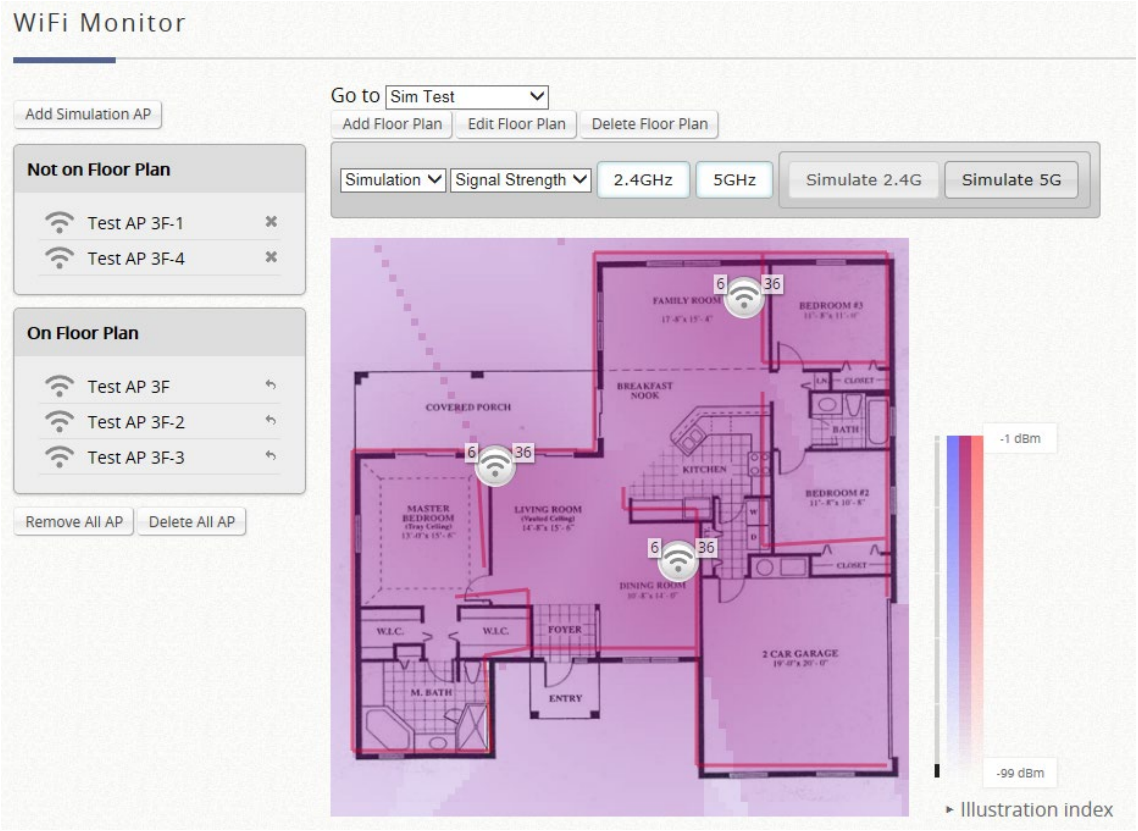


16.2.2.シミュレーション AP

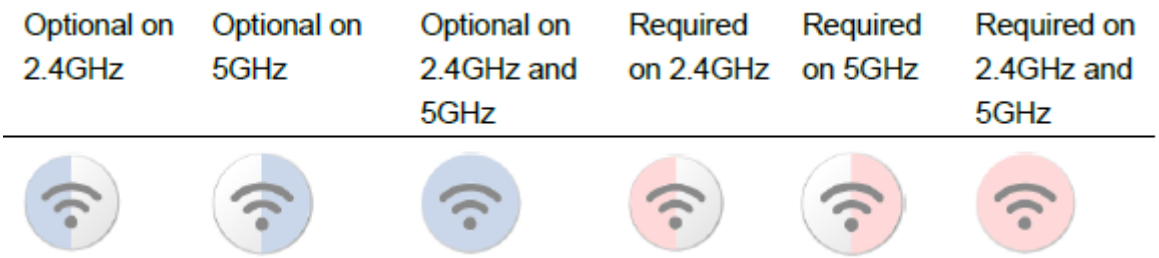
WiFi モニターは、Edgecore AP をシミュレートし、フロアプランに配置し、最適化で相関する設定をチェックすることができます。一方、シミュレーション AP の信号強度とカバレッジは、AP モデル、送信電力、AP の高さなどの要因によって異なります。

フロアプランとパーティションを配置すると、以下に示すように、シミュレーション用のフロ

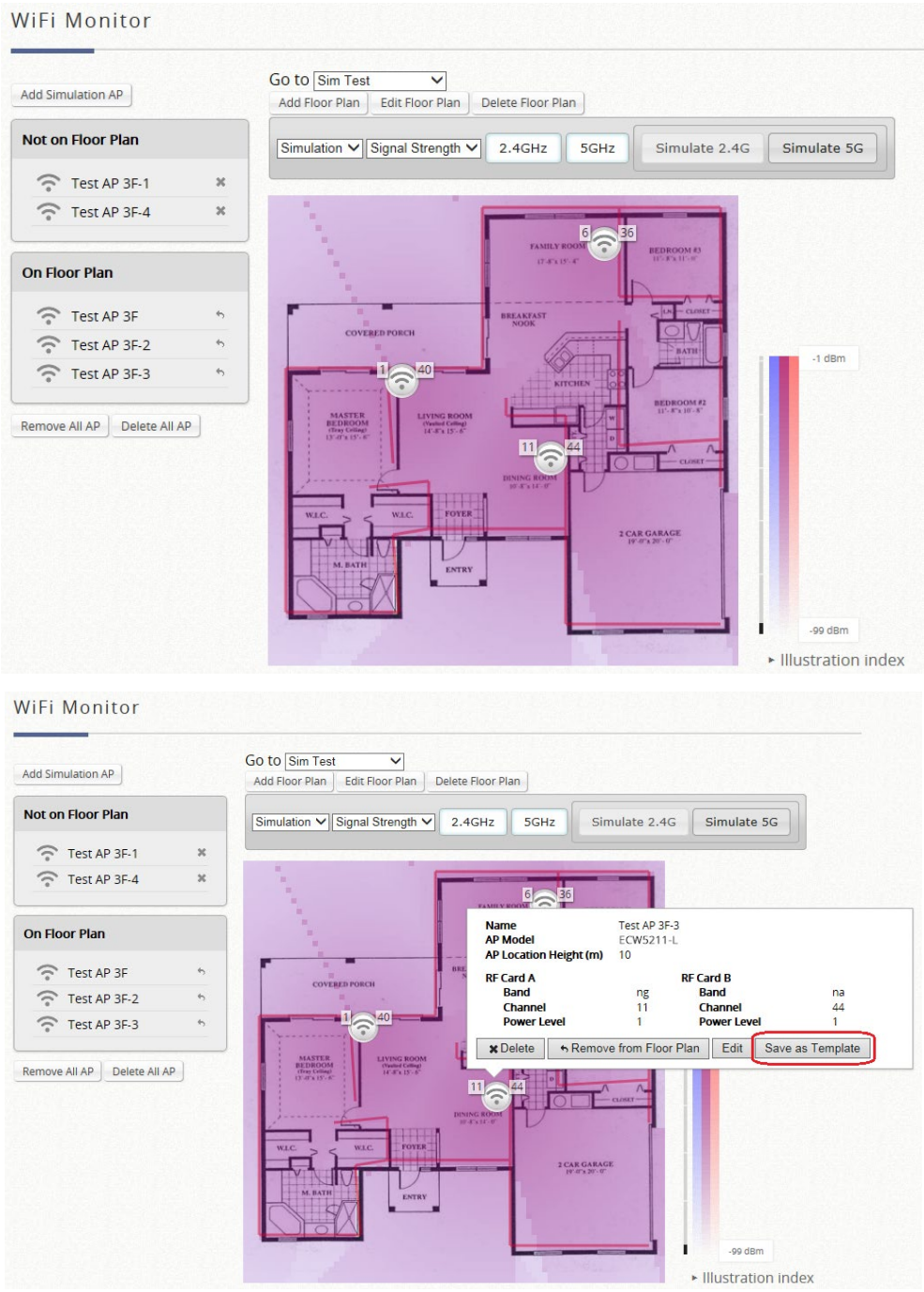
アプランにシミュレーション AP を追加できるようになりました。



「Simulate 2.4G」または「Simulate 5G」をクリックして、配置された AP が要件に適切かどうかを確認してください。



シミュレーションが正常に完了すると、推奨チャネル割り当てがシミュレーション AP の横に表示されます。

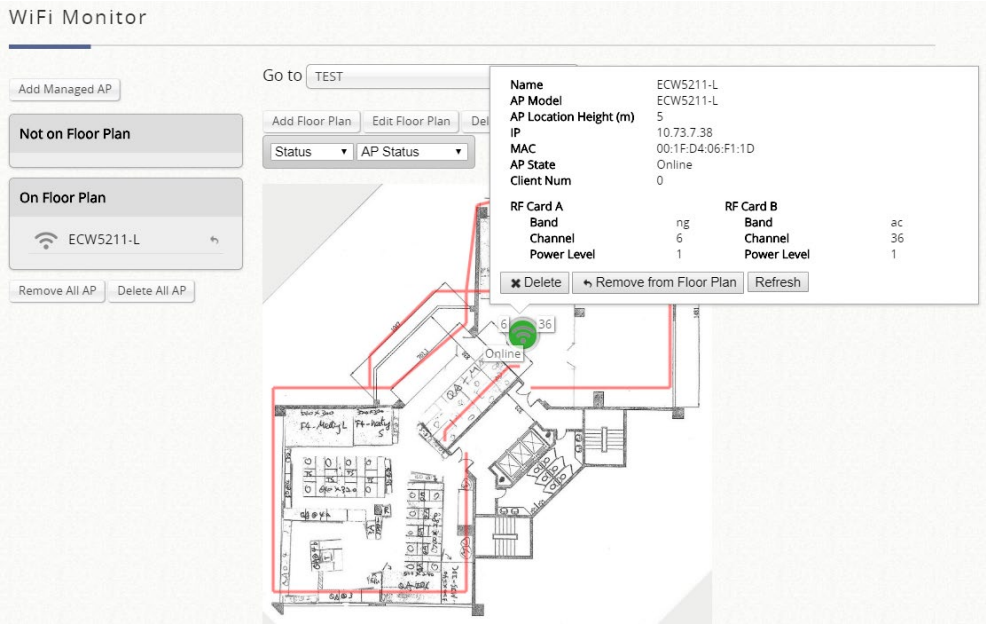


この設定は、AP 管理に使用するテンプレートに便利に保存できます。

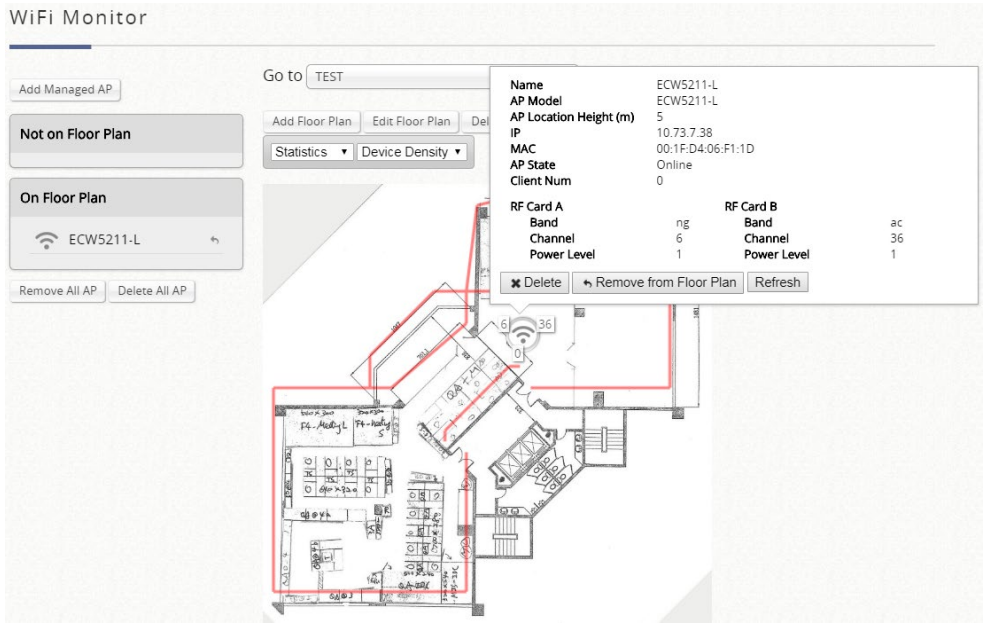
16.2.3.フロアプランの AP 監視

AP が動作しているエリアでは、管理者は作成したフロアプランから AP ステータスを表示できます。

AP ステータスは「Online」、「Offline」または「Disabled」と表示されます。また、AP がワイドエリア AP 管理によって管理されている場合、管理者は CPU アイドル状態とメモリ使用量を取得することもできます。



AP がワイドエリア AP 管理を使用して管理されている場合、AP 密度や AP 平均トラフィック、AP 平均トラフィックなどの AP 統計情報もサポートされます。



付録A　　EWS モデルと設置

付録 A-1 EWS の機種と設置方法

EWS コントローラ容量表

容量	EWS101	EWS5203	EWS5204	EWS5207
フォームファクタ	7.5 インチ デスクトップ	19 インチ（1U）	19 インチ（1U）	19 インチ（2U）
WAN	1 x GbE	2 x GbE または 2 x 1G SFP	2 x GbE 2 x 1G SFP	2 x GbE、 2 x 10Gb SFP+
LAN	4 x GbE	8 x GbE	6 x GbE 2 x 1G SFP	6 x GbE、 2 x 10Gb SFP+
ローカルアカウント	2000	10000	30000	50000
オンデマンドアカウント	2000	10000	30000	50000
管理対象 AP 容量（ローカルとワイド併用）	50	300	1000	3000
最大同時ユーザー数	200	3000	10000	30000
管理可能な AP モデル	リリースノートをご参照ください。			
監視対象 AP	100	250	500	500
サービスゾーン	デフォルト ＋8	デフォルト ＋8	デフォルト ＋32	デフォルト ＋64
ユーザーグループ	8	16	24	24
ユーザーポリシー	グローバル ＋12	グローバル ＋24	グローバル ＋40	グローバル ＋40

*1：さまざまな展開シナリオに対応するイーサネットポート割り当てオプション

*表の内容は予告なく変更する場合があります。

ハードウェアの概要

EWS101 ハードウェア

1	リセット/再始動ボタン	リセットボタンを 3 秒以上押し続けると、フロントパネルの LED の状態が点滅し始めます。この段階でボタンを放すとシステムを再始動します。リセットボタンを 10 秒以上押し続けると、フロントパネルの LED の状態が点滅から消えます。この段階

		で放すと、システムをデフォルト設定にリセットします。
2	**コンソール**	システムは、シリアルコンソールポートを介して設定できます。管理者は、Microsoft の Hyper Terminal などの端末エミュレーションプログラムを使用して、設定コンソールインターフェースにログインし、管理者パスワードを変更したり、システムステータスを監視したりすることができます。
3	**LAN1～LAN4**	クライアントマシンまたはスイッチは、LAN ポート（10/100/1000 Base-T RJ45）を介して EWS コントローラに接続します。
4	**WAN1**	ISP（インターネットサービスプロバイダ）からの ADSL ルータなどの外部ネットワークへのアップリンク接続用の WAN ポート（10/100/1000 Base-T RJ45）。
5	**USB**	将来の使用のために備えた機能。
6	**LED ディスプレイ**	**電源**：電源がオンになると、電源 LED が一定の緑色に点灯します。 **ステータス**：点滅は、システム OS が起動していることを示します。システムが動作可能な状態になると、LED は常に点灯します。

EWS5203 ハードウェア

1	**リセット/再始動ボタン**	リセットボタンを約 5 秒間押し続けると、システムを再始動する前にフロントパネルの LED の状態が点滅し始めます。 リセットボタンを 10 秒以上押し続けると、フロントパネルの LED の状態が点滅し始めてから、システムをデフォルト設定にリセットします。
2	**USB**	将来の使用のために備えました。
3	**WAN1/WAN2（SFP）**	ISP（インターネットサービスプロバイダ）からの ADSL ルータなどの外部ネットワークへのアップリンク接続用の 2 つのコンボ WAN ポート（SFP）。
4	**WAN1/WAN2（RJ45）**	ISP（インターネットサービスプロバイダ）からの ADSL ルータなどの外部ネットワークへのアップリンク接続用の 2 つのギガビット WAN ポート（10/100/1000 Base-T RJ45）。
5	**コンソール**	システムは、シリアルコンソールポートを介して設定できます。管理者は、Microsoft の Hyper Terminal などの端末エミュレーションプログラムを使用して、設定コンソールインターフェースにログインし、管理者パスワードを変更したり、システムステータスを監視したりすることができます。
6	**LED インジケータ**	**電源**：電源がオンになると、電源 LED が一定の緑色に点灯します。 **ステータス**：点滅は、システム OS が起動していることを示します。システムが動作可能な状態になると、LED は常に点灯します。
7	**LAN1～LAN8**	LAN トラフィックを処理するための 8 つのギガビット LAN ポート（10/100/1000 Base-T RJ45）。

EWS5204 ハードウェア

1	**液晶ディスプレイ**	ネットワーク管理者は、ネットワークインターフェース、SZ 構成などの重要なシステム設定を確認することができます。左から右へのナビゲーションボタンは、それぞれ「Esc」、「Up」、「Down」、「Enter」です。
2	**LED インジケータ**	2 つの LED インジケータ、電源、HDD（ハードディスク）があり、システムの異なるステータスを示します。
3	**再始動ボタン**	再始動ボタンを約 5 秒間押し続けると、システムが再始動します。
4	**コンソール**	システムは、シリアルコンソールポートを介して設定できます。管理者は、Microsoft の Hyper Terminal などの端末エミュレーションプログラムを使用して、設定コンソールインターフェースにログインし、管理者パスワードを変更したり、システムステータスを監視したりすることができます。
5	**USB**	将来の使用のために備えました。
6	**WAN1/WAN2（RJ45）**	2 つの WAN ポート（10/100/1000 Base-T RJ45）は、ISP（インターネットサービスプロバイダ）から ADSL ルータなどの外部ネットワークに接続されています。
7	**LAN1～LAN6（RJ45）**	クライアントマシンは、これらの LAN ポート（10/100/1000 Base-T RJ45）を介して EWS コントローラに接続します。
8	**WAN1/WAN2（SFP）**	2 つのコンボ WAN ポート（SFP）が ISP（インターネットサービスプロバイダ）から ADSL ルータなどの外部ネットワークに接続されています。
9	**LAN1/LAN2（SFP）**	クライアントマシンは、これらの LAN ポート（SFP）を介して EWS コントローラに接続します。

EWS5207 ハードウェア

1	**LED インジケータ**	**ERR（電源エラー）**： PSU の状態が正常であれば消灯し、いずれかの電源が故障した場合はオレンジ色のライトが点灯します。 **STBY（システムスタンバイ）**：システムの準備ができている場合は、オレンジ色のライトが常に点灯します。 **HDD（ハードディスク）**：データが転送されない場合は消灯し、HDD の読み取り/書き込みが行われている場合は緑色のライトが点滅します。 **PWR（電源）**： 電源を入れると緑のライトが点灯。
2	**液晶ディスプレイ**	ネットワーク管理者は、ネットワークインターフェース、SZ 構成などの重要なシステム設定を確認することができます。左から右へのナビゲーションボタンは、それぞれ「Esc」、「Up」、「Down」、「Enter」です。
3	**コンソール**	システムは、シリアルコンソールポートを介して設定できます。管理者は、Microsoft の Hyper Terminal などの端末エミュレーションプログラムを使用して、設定コンソールインターフェースにログインし、管理者パスワードを変更したり、システムステータスを監視したりすることができます。

4	**USB**	将来の使用のために備えました。
5	**MGMT ポート**	管理者が EWS コントローラを管理するためのものです。
6	**再始動ボタン**	再始動ボタンを約 5 秒間押し続けると、システムが再始動します。
7	**WAN1/WAN2（SFP+）**	2 つの WAN ポート（10G SFP+）は、ISP（インターネットサービスプロバイダ）から ADSL ルータなどの外部ネットワークに接続されています。
8	**LAN7/LAN8（SFP+）**	クライアントマシンは、これらの LAN ポート（10G SFP+）を介して EWS コントローラに接続します。
9	**WAN1/WAN2（RJ45）**	2 つの WAN ポート（10/100/1000 Base-T RJ45）は、ISP（インターネットサービスプロバイダ）から ADSL ルータなどの外部ネットワークに接続されています。
10	**LAN1～LAN6（RJ45）**	クライアントマシンは、これらの LAN ポート（10/100/1000 Base-T RJ45）を介して EWS コントローラに接続します。

設置手順

準備

1. EWS コントローラを開梱し、パッケージのチェックリストを確認します。
2. 前面パネルと背面パネルを確認し、ハードウェアと仕様セクションで説明されている各コントロールおよびネットワークインターフェースを識別します。
3. RJ-45 コネクタを備えたイーサネットケーブルを準備します。
4. Web 管理インターフェースにアクセスするための Web ブラウザを備えた PC を準備します。
5. ADSL、ケーブルモデム、その他のエッジデバイスなど、EWS コントローラがネットワークに接続するためのアップストリームデバイスを特定します。ISP から提供された DNS サーバーアドレスを収集します。

設置

1) 電源アダプタまたは電源ケーブルを背面パネルの電源ソケットに接続します。電源 LED が点灯し、正しく接続されていることを示します。
2) 前面パネルの WAN1 ポートにイーサネットケーブルを接続します。イーサネットケーブルのもう一方の端を、xDSL/ケーブルモデム、または内部ネットワークのスイッチ/ハブに接続します。このポートの LED が点灯し、正しく接続されていることを示します。
3) イーサネットケーブルを、前面パネルの LAN ポートに接続します。システムを設定するために、イーサネットケーブルのもう一方の端を管理者 PC に接続します。スイッチは、コントローラの LAN ポートに複数のデバイスを接続するために使用できます。

メモ

1. 最高の性能を保証するために、他のサプライヤーの部品を置き換えるのではなく、パッケージ内のすべての供給品を使用することを強くお勧めします。

付録 A-2 VEWS の機種と設置方法

VEWS コントローラー性能表

性能	VEWS5203	VEWS5204	VEWS5207	VEWS1000
ローカルアカウント数	10000	30000	50000	120000
オンデマンドアカウント	10000	30000	50000	120000
管理可能なＡＰ数	300	1000	3000	10000
最大同時接続ユーザー数	3000	10000	30000	100000
管理可能な AP モデル	リリースノートをご参照ください。			
モニターAP	250	500	500	500
WAPM テンプレート	500	500	500	500

導入インストラクション

前提条件

・Linuxシステム上で動作するOne Serverです。本書では Ubuntu v18.04 を例として使用します。

・VEWS のイメージファイル (qcow2 形式)。イメージファイルの入手については、ecwifi@edge-core.com までお問い合わせください。

・VM 環境の設定ファイル "V-EWS.xml"。テンプレートファイルの入手は、ecwifi@edge-core.com にお問い合わせください。

・VEWS のバウチャーコード。対応するライセンスのバウチャーコードは、Edge-core 営業または ecwifi@edge-core.com までお問い合わせください。

ステップ 1. Ubuntu システムに KVM をインストールする

ターミナルを開いて "sudopt install qemu-kvm libvirt-daemon-system libvirt-clients bridge-utils virtinst" を実行してください。

```
root@v-ews:/# apt install qemu-kvm libvirt-daemon-system libvirt-clients bridge-utils virtinst
```

インストール後、livbirt デーモンが動作していることを確認するために、"systemctl is-active libvirtd" を実行します。

```
root@v-ews:/var/lib/libvirt/images# systemctl is-active libvirtd
active
```

ステップ 2. システムのネットワーク構成を変更する

VM が物理インターフェイス経由でネットワークにアクセスできるようにするには、物理イーサネットインターフェイスと仮想ネットワークインターフェイスをブリッジするブリッジインターフェイスを作成する必要があります。以下のスクリーンショットは、**Netplan** ツールでネットワークを構成する例を示しています。この例では、ブリッジ・インターフェースを **br0** と名付け、物理ネットワーク・インターフェースを **ens33** としています。

```
# This is the network config written by 'subiquity'
network:
  ethernets:
    ens33:
      dhcp4: false
  bridges:
    br0:
      dhcp4: true
      interfaces:
              - ens33
  version: 2
```

ステップ **3.XML** ファイルを環境にあわせて編集する

・Modify □ <domain> <name> 要素の VM 名を変更します。

以下の画面は、「V-EWS」という名称を使用した例です。

```
<domain type='kvm'>
  <name>V-EWS</name>
  <memory unit='KiB'>1048576</memory>
  <currentMemory unit='KiB'>1048576</currentMemory>
  <vcpu placement='static'>2</vcpu>
  <resource>
    <partition>/machine</partition>
  </resource>
```

・<domain> <device> <disk> <source> 要素の VM ディスクパスを変更します。ここには、VEWS のイメージファイルのパスを記入する必要があります。

以下のスクリーンショットは、VEWS イメージのパスが "/var/lib/libvirt/images/Edgecore_V-EWS_3.43.S0_1.55.4.1-1.9481.2.33.2.38.qcow2" の場合の例です。

```
  <disk type='file' device='disk'>
    <driver name='qemu' type='qcow2'/>
    <source file='/var/lib/libvirt/images/Edgecore_V-EWS_3.43.V1_1.5-1.9481.2.46.4.8.qcow2'/>
    <target dev='vda' bus='virtio'/>
    <alias name='virtio-disk0'/>
    <address type='pci' domain='0x0000' bus='0x00' slot='0x04' function='0x0'/>
  </disk>
```

・<domain> <device> <interface> <source>要素で VM の NIC を変更します。

この例では、モードは「bridge」で、VM の NIC は br0 にブリッジされることになります。

```
<interface type='bridge'>
  <source bridge='br0'/>
  <target dev='vnet0'/>
  <model type='virtio'/>
  <alias name='net0'/>
  <address type='pci' domain='0x0000' bus='0x00' slot='0x03' function='0x0'/>
</interface>
```

ステップ4. 画像ファイルをコピーする

VEWS のイメージファイルを「/var/lib/libvirt/images/」にコピーします。

```
root@vincent-Aspire-4752:/var/lib/libvirt/images# ls -al
total 149132
drwx--x--x 2 root         root      4096  五  23 14:58 .
drwxr-xr-x 7 root         root      4096  五  23 13:27 ..
-rw-r--r-- 1 libvirt-qemu kvm  152698880  五  23 12:10 Edgecore_V-EWS_3.43.V1_1.5-1.9481.2.46.4.8.qcow2
-rw-r--r-- 1 root         root      1792  五  23 14:58 V-EWS.xml
root@vincent-Aspire-4752:/var/lib/libvirt/images#
```

ステップ **5. VM** の作成と起動

- 以下のコマンドを使用して、**VM** を作成し、起動します。

virsh define V-EWS.xml を実行します。

```
root@vincent-Aspire-4752:/var/lib/libvirt/images# virsh define V-EWS.xml
Domain V-EWS defined from V-EWS.xml
```

V-EWS を起動します。

```
root@vincent-Aspire-4752:/var/lib/libvirt/images# virsh start V-EWS
Domain V-EWS started
```

virsh list (VM が起動していることを確認します。)

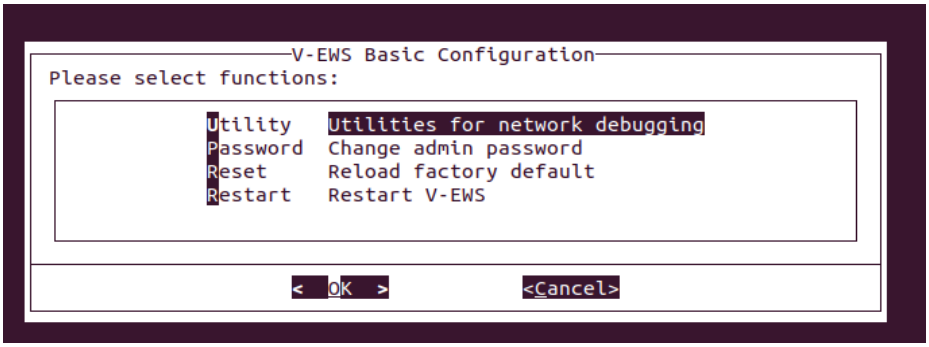
```
root@vincent-Aspire-4752:/var/lib/libvirt/images# virsh list
 Id    Name                           State
----------------------------------------------------
 1     V-EWS                          running
```

- ステップ **6.VM** のコンソールからデフォルト **IP** を取得する

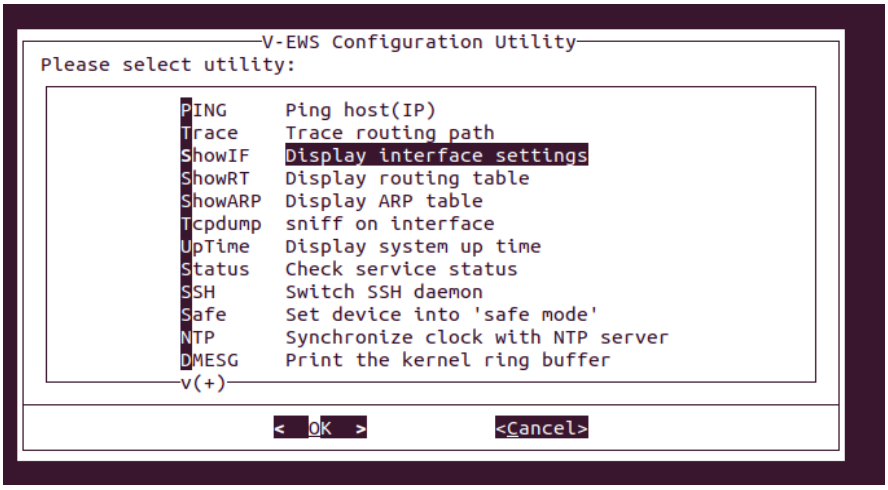
virsh console V-EWS」を実行し、コンソールモードにします。

```
root@vincent-Aspire-4752:/var/lib/libvirt/images# virsh console V-EWS
Connected to domain V-EWS
Escape character is ^]
```

"Enter "キーを押し、"Utility "を選択します。



- “ShowIF”を選択します。

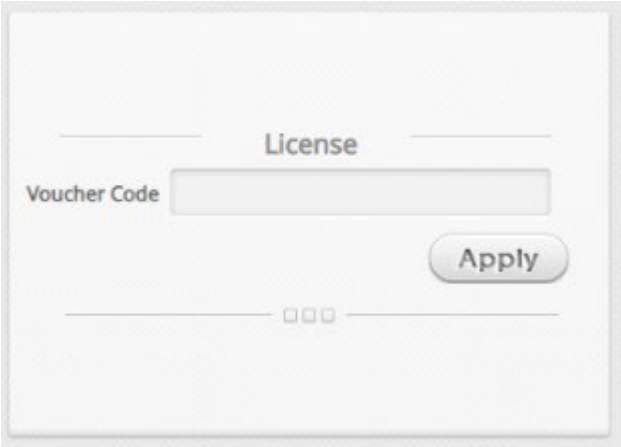


・WAN1 の IP アドレスを確認する

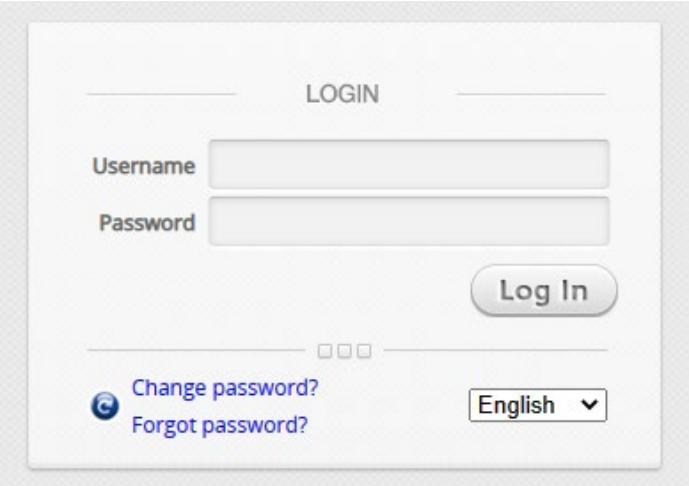
```
WAN1:
          Link encap:Ethernet  HWaddr 52:54:00:24:8C:86
          inet addr:10.71.1.120  Bcast:10.71.255.255  Mask:255.255.0.0
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1400  Metric:1
          RX packets:5318 errors:0 dropped:633 overruns:0 frame:0
          TX packets:403 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:510213 (498.2 KiB)  TX bytes:58533 (57.1 KiB)

Default:
          Link encap:Ethernet  HWaddr FA:61:66:87:D7:E7
          inet addr:192.168.1.254  Bcast:192.168.255.255  Mask:255.255.0.0
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:0 (0.0 B)  TX bytes:0 (0.0 B)

Press ENTER to continue
```

- ステップ **7.VEWS** をアクティベートする

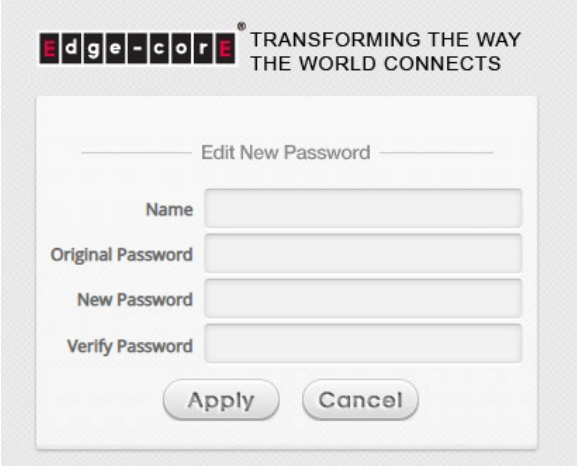
  ブラウザを開き、http://<WAN1 IP>/に接続します。



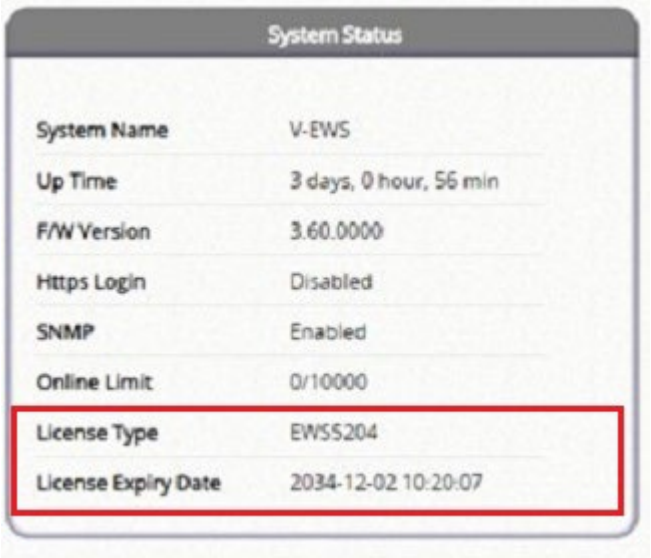
・クーポンコードを入力し、「適用」をクリックします。クーポンコードが有効な場合、ログインページにリダイレクトされます。



・デフォルトのユーザー名は "admin"、デフォルトのパスワードは "admin "を入力してください。指示に従ってパスワードを変更すると、新しいパスワードでログインできるようになります。



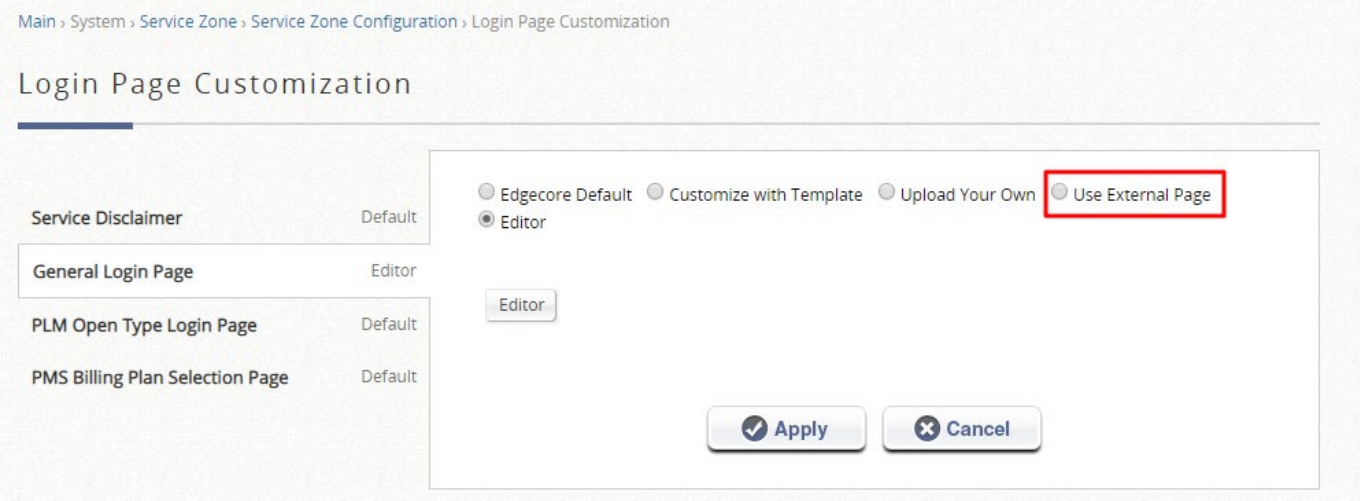
・ライセンス情報はダッシュボードで確認することができます。



付録B　　外部ページ

外部ページの概念

カスタムページに外部Webページを使用する場合は、External Pageを選択してください。外部WebページのURLを入力し、Previewボタンをクリックして到達可能かどうかを確認し、外部Webページがどのように表示されるかを見て、Applyボタンをクリックするだけです。



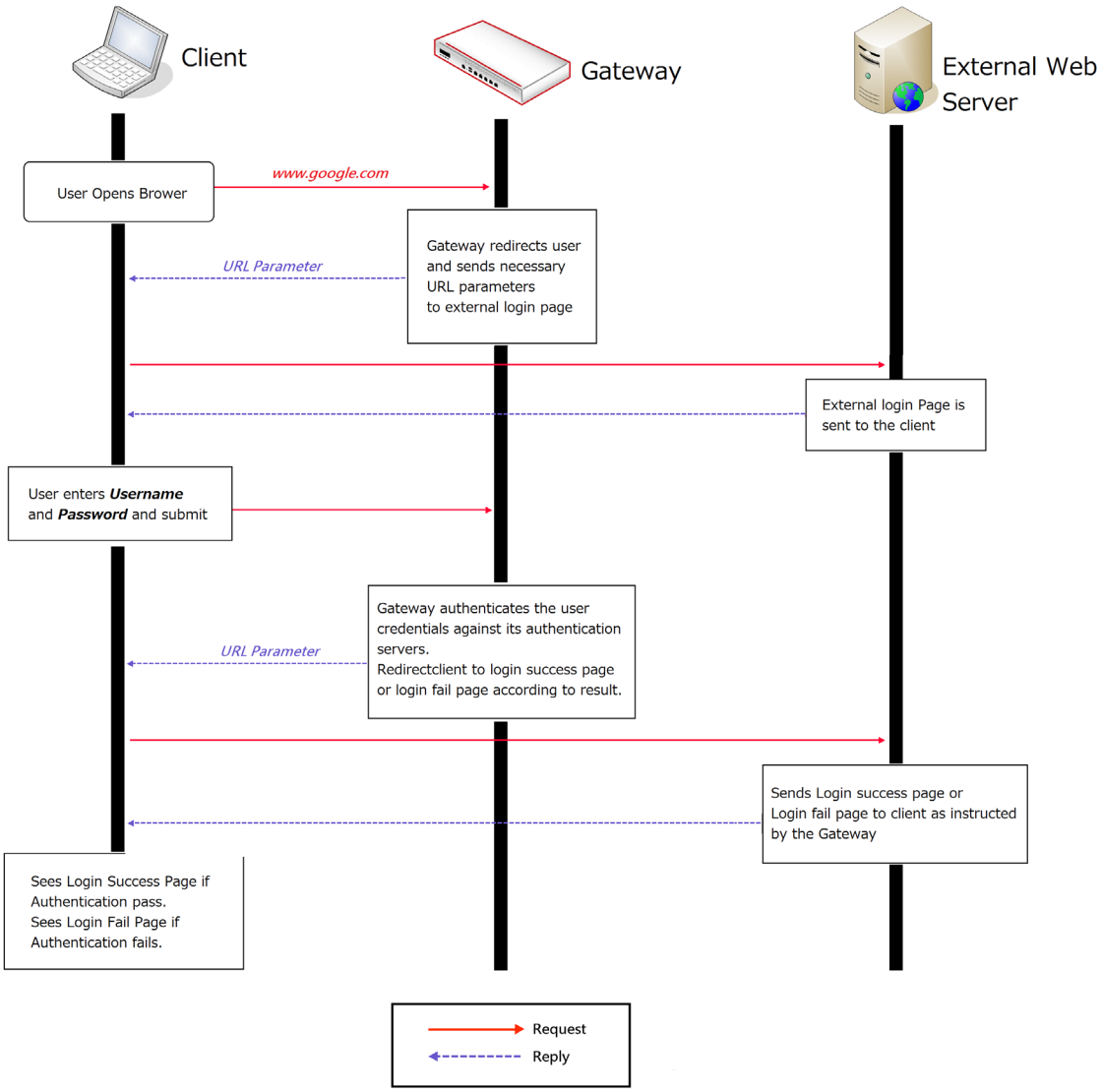
Main Menu>System>Service Zone>Service Zone Configuration>Login Page

ユーザーがこのサービスゾーンに接続し、Webブラウザを開いてインターネットにアクセスしようとすると、システムは設定された外部ログインページにユーザーをアドレス指定します。外部Webページにユーザーをアドレス指定しながら、ゲートウェイは、操作に必要なURLパラメータ（ユーザー認証など）も送信します。したがって、自己定義の各外部ページ（*ログイン*、*ログアウト*、*ログイン成功*、*ログアウト成功*など）には、ゲートウェイとの間の**URLパラメータ**を処理するためのコードが必要です。ログインページの簡単な例を以下に示します。*ログイン成功ページ*などの他のページに関連するURLパラメータについては、**外部ログインページパラメータ**を参照してください。

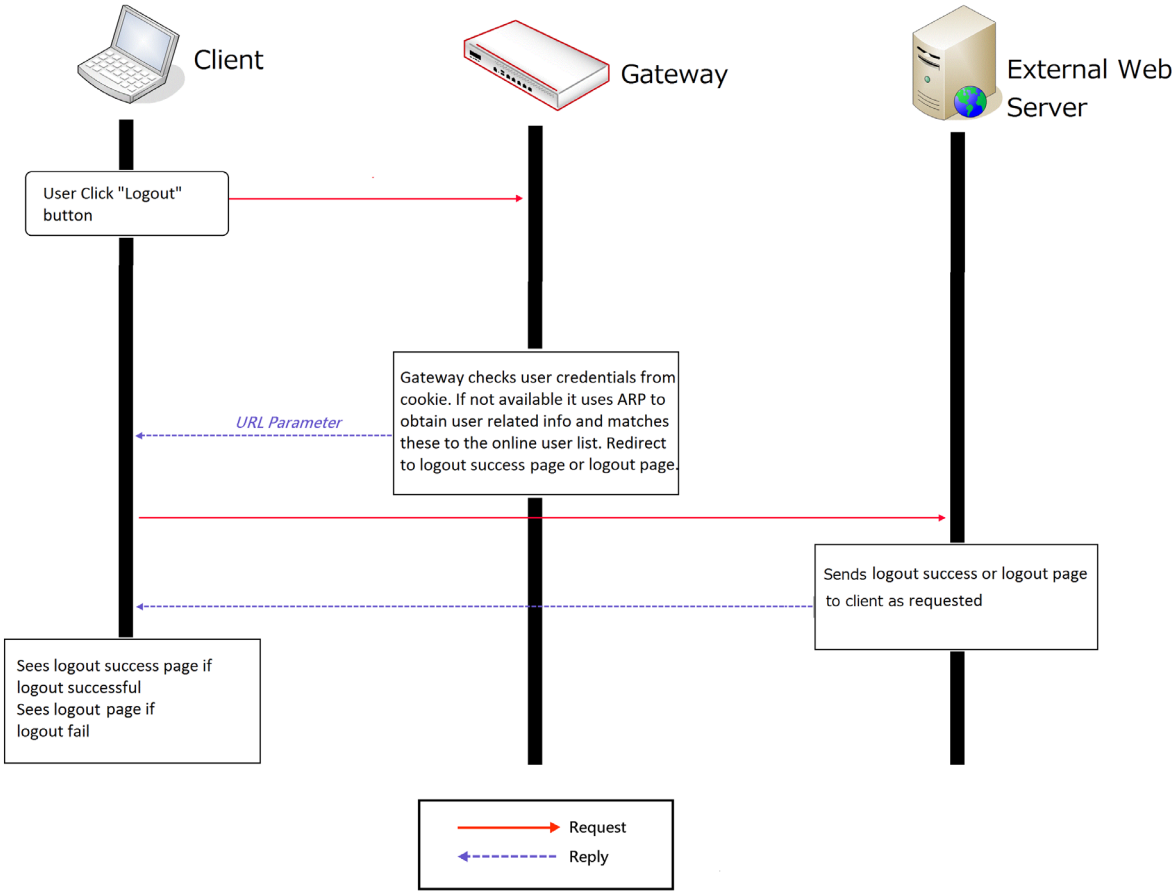
したがって、外部ページは、URLパラメータの使用に関する十分な知識を持つユーザーによって設計されていることが重要です。

次の図に、ユーザーのログイン/ログアウトフローを使用した外部ページの動作を示します。

ログイン：


Client
Gateway
External Web Server
User Opens Brower
www.google.com
Gateway redirects user and sends necessary URL parameters to external login page
URL Parameter
External login Page is sent to the client
User enters Username and Password and submit
Gateway authenticates the user credentials against its authentication servers.
Redirectclient to login success page or login fail page according to result.
URL Parameter
Sends Login success page or Login fail page to client as instructed by the Gateway
Sees Login Success Page if Authentication pass.
Sees Login Fail Page if Authentication fails.
Request
Reply

ログアウト：



ゲートウェイから外部ログインページに送信されるURLパラメータは次のとおりです。

フィールド	値	説明
loginurl	文字列（URL エンコード）	ユーザーがログインしたときに送信される URL。
remainingurl	文字列（URL エンコード）	ユーザーが残りのクォータを取得したいときに送信される URL。
vlanid	整数（1～4094）	VLAN ID
iface	整数（0～8）	サービスゾーン ID。デフォルトのサービスゾーンは 0
gwip	IP 形式	ゲートウェイでアクティブ化された WAN IP アドレス
gwmac	MAC 形式（':'で区切る）	ゲートウェイでアクティブ化された WAN MAC アドレス

client_ip	IP 形式	クライアント IP アドレス
ipv6_addr	IPv6 形式	クライアント IPv6 アドレス
umac	MAC 形式（':'で区切る）	クライアント MAC アドレス
session	文字列	暗号化されたセッション情報には、クライアント IP アドレス、MAC アドレス、日付、および戻り URL が含まれます。

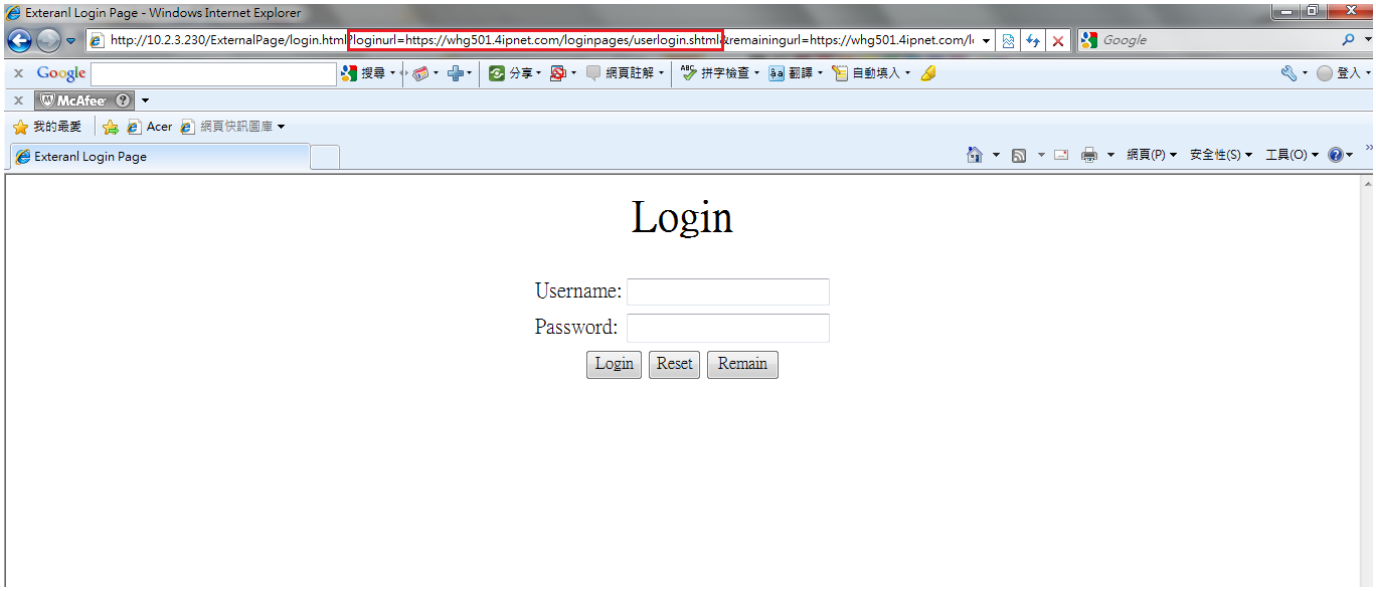
html コードで必要なパラメータを解析する必要があります。次の HTML コードセグメントは、自己定義の JavaScript 関数を使用して *loginurl* パラメータを解析する例です。

```
<FORM action="" method="post" name="form">
<script language="Javascript">
form.action = getVarFromURL(window.location.href, 'loginurl');
</script>
<INPUT type="text" name="myusername" size="25">
<INPUT type="password" name="mypassword" size="25">
<INPUT name="button_submit" type="submit" value="Enter">
<INPUT name="button_clear" type="button" value="Clear">
</FORM>
```

以下に、*loginurl* パラメータの解析に使用する、対応する自己定義の JavaScript 関数を示します。

```
function getVarFromURL(url, name) {
        if(name == "" || url == "") { return ""; }
        name = name.replace(/[¥[]/|"¥¥¥[").replace(/[¥]]/|"¥¥¥]");
        var regObj = new RegExp("[¥¥?&]"+name+"=([^&#]*)");
        var result = regObj.exec(url);
        if(result == null) { return ""; }
        else { return decodeURIComponent(result[1]); }
}
```

ブラウザを起動したときにユーザーに表示される外部ページの例が表示され、システムから送信された URL パラメータが赤で強調表示されます。



外部ページデザイン変数

このセクションには、ゲートウェイからさまざまな外部ページに送信されるすべての URL パラメータが表示されます。適切に機能するためには、自己設計のユーザーページに対して正しい変数を使用することが不可欠です。

1.外部ログインページ

変数：

フィールド	値	説明
loginurl	文字列（URL エンコード）	ユーザーがログインしたときに送信される URL。
remainingurl	文字列（URL エンコード）	ユーザーが残りのクォータを取得したいときに送信される URL。
vlanid	整数（1～4094）	VLAN ID
iface	整数（0～8）	サービスゾーン ID。デフォルトのサービスゾーンは 0
gwip	IP 形式	ゲートウェイでアクティブ化された WAN IP アドレス
gwmac	MAC 形式（':'で区切る）	ゲートウェイでアクティブ化された WAN MAC アドレス
client_ip	IP 形式	クライアント IP アドレス
ipv6_addr	IPv6 形式	クライアント IPv6 アドレス
umac	MAC 形式（':'で区切る）	クライアント MAC アドレス
nat_ip	IP 形式	スプリットトンネルからクライアントを識別するための内部 IP アドレス。

2.ログイン成功ページ

変数：

フィールド	値	説明
uid	文字列	ユーザーID（接尾辞を含む）
original_uid	文字列	元のユーザーID
utype	文字列（LOCAL、RADIUS、	認証サーバー名

	ONDEMAND、POP3、LDAP、SIP、NT Domain）	
umac	MAC 形式（':'で区切る）	クライアント MAC アドレス
sessionlength	整数（秒）	RADIUS ユーザーセッションの長さ（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
byteamount	整数（バイト）	RADIUS ユーザー容量制限（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
idletimeout	整数（秒）	アイドルタイムアウト
acct-interim-interval	整数（秒）	RADIUS アカウンティング中間更新間隔（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
logouturl	文字列（URL エンコード）	ユーザーがログアウトするときに送信される URL。
change_passwd_url	文字列（URL エンコード）	ユーザーがパスワードを変更したいときに送信される URL。（ローカルユーザーのみ使用可能）
ondemand_creation_url	文字列（URL エンコード）	ユーザーがオンデマンドユーザーを作成するときに送信される URL。（ローカルユーザーのみ使用可能）
vlanid	整数（1～4094）	VLAN ID
gwip	IP 形式	ゲートウェイでアクティブ化された WAN IP アドレス
client_ip	IP 形式	クライアント IP アドレス
ipv6_addr	IPv6 形式	クライアント IPv6 アドレス
sz	整数	サービスゾーン ID
group	整数	グループインデックス
policy	整数	ポリシーインデックス
available_plan	請求プラン：使用量、請求プラン：使用量	ローカルユーザーがオンデマンドユーザーを作成する場合
max_uplink	整数（b/s）	最大アップリンクレート
max_downlink	整数（b/s）	最大ダウンリンクレート
req_uplink	整数（b/s）	最小アップリンクレート
req_downlink	整数（b/s）	最小ダウンリンクレート
next_page	文字列	クライアントを URL に導く
CLASS	文字列	RADUIS クラス属性（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
WISPR-REDIRECTION-URL	文字列	クライアントを URL に導く
WISPR-SESSION-TERMINATE-TIME	文字列、形式：YYYY-MM-DDThh:mm:ssTZD	WISPr セッション終了時間属性（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
WISPR-SESSION-TERMINATE-END-OF-DAY	整数（0/1）	WISPr セッション終了日付属性。終了ルールを示す 0 または 1。（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
WISPR-BILLING-CLASS-OF-SERVICE	文字列	WISPr 請求クラス属性（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
WISPR-LOCATION-ID	文字列	WISPr ロケーション ID 属性（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
WISPR-LOCATION-NAME	文字列	WISPr ロケーション名属性（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
WISPR-BILLING-TIME	文字列、形式：HH:MM	WISPr 請求時間属性（RADIUS ユーザーのみ使用可能）
split_tunnel	整数（0/1）	クライアントがスプリットトンネルからの場合は 1、それ以外の場合は 0。
nat_ip	IP 形式	スプリットトンネルからクライアントを識別するための内部 IP アドレス。
custom	文字列	カスタマイズパラメータ

3.外部エラーページ

変数：

フィールド	値	説明
msg	文字列。以下を含む： The system is busy.Please try again later. Cannot find session related information. Please enable the Cookie in the browser setting or open a website to get a Cookie. Invalid IP address.Please check the IP address and try again. Invalid MAC address.Please check the MAC address and try again. Sorry, your account is not usable, because the authentication option is currently disabled. Please contact your network administrator. Sorry, your account is not usable, because the authentication option (associated with the postfix) is not found. Please contact your network administrator. Sorry, you are not allowed to log in, because your account is currently on the Black List. Sorry, you are not allowed to log in, because it is currently not the service hour for your account. You have already logged in. Sorry, there is a system problem checking the information of your account (XXX). Please contact your network administrator. Invalid username or password. Please check your username and password and try again. Cannot identify the policy for your account. Please contact your network administrator. User of this device (the MAC address) is not allowed to use this account. Please contact your network administrator. Sorry, the external authentication server is currently unreachable. Please contact your network administrator. Sorry, you are not allowed to create a remote VPN connection. 返信メッセージは RADIUS サーバーから送信されます。	エラーメッセージ

	（RADIUS 属性：返信メッセージ）	
loginurl	文字列（URL エンコード）	ユーザーログイン時に提出する URL。
remainingurl	文字列（URL エンコード）	ユーザーが残りのクォータを取得したいときに送信されなければならない URL。
vlanid	整数（1～4094）	VLAN ID
iface	整数	サービスゾーン ID。デフォルトのサービスゾーンは 0
client_ip	IP 形式	クライアント IP アドレス
gwip	IP 形式	ゲートウェイでアクティブ化された IP アドレス
ipv6_addr	IPv6 形式	クライアント IPv6 アドレス
umac	MAC 形式（':'で区切る）	クライアント MAC アドレス
original_uid	文字列	元のユーザーID
nat_ip	IP 形式	スプリットトンネルからクライアントを識別するための内部 IP アドレス。
custom	文字列	カスタマイズパラメータ

4.外部ログアウト成功ページ

変数：

フィールド	値	説明
uid	文字列	ユーザーID（接尾辞を含む）
original_uid	文字列	元のユーザーID
vlanid	整数（1～4094）	VLAN ID
gwip	IP 形式	ゲートウェイでアクティブ化された IP アドレス
used_time	整数	ユーザーの使用時間

5.外部オンデマンド/ゲストログイン成功ページ

変数：

フィールド	値	説明
uid	文字列	ユーザーID（接尾辞を含む）
original_uid	文字列	元のユーザーID
utype	文字列（LOCAL、RADIUS、ONDEMAND、POP3、LDAP、SIP、NT Domain）	認証サーバー名
umac	MAC 形式（':'で区切る）	クライアント MAC アドレス
sessionlength	整数（秒）	時間タイプのオンデマンドユーザーのクォータ
byteamount	整数（バイト）	オンデマンドユーザーのボリュームタイプのクォータ
chargetype	文字列	ユーザーアカウンティングタイプ
idletimeout	整数（秒）	アイドルタイムアウト
logouturl	文字列（URL エンコード）	ログアウト URL
redeemurl	文字列（URL エンコード）	引き換え URL
Vlanid	整数（1～4094）	VLAN ID
gwip	IP 形式	ゲートウェイでアクティブ化された WAN IP アドレス

client_ip	IP 形式	クライアント IP アドレス
ipv6_addr	IPv6 形式	クライアント IPv6 アドレス
sz	整数	サービスゾーン ID
group	整数	グループインデックス
policy	整数	ポリシーインデックス
next_page	文字列	クライアントを URL に導く
max_uplink	整数（b/s）	最大アップリンクレート
max_downlink	整数（b/s）	最大ダウンリンクレート
req_uplink	整数（b/s）	最小アップリンクレート
req_downlink	整数（b/s）	最小ダウンリンクレート
nat_ip	IP 形式	スプリットトンネルからクライアントを識別するための内部 IP アドレス。

6.外部ログアウト失敗ページ

変数：

フィールド	値	説明
uid	文字列	ユーザーID
gwip	IP 形式	ゲートウェイでアクティブ化された WAN IP アドレス
vlanid	整数（1～4094）	VLAN ID

外部ページデザイン変数

次のセクションでは、外部ページからコントローラが受け入れることができるすべての変数を収集し、表示します。いくつかは必須です。宛先パスは、デザイナーの参照用にも指定されています。

1.ユーザーログイン

パス：

（LAN IP アドレスまたは内部ドメイン名）/loginpages/userlogin.shtml

入力：

フィールド	必須	値	説明
myusername 代替変数：（username、user、account）	必須	文字列	ユーザーID
mypassword 代替変数（passwd、password、pass）	必須	文字列	ユーザーパスワード
session	オプション	文字列	このセッションのいくつかの情報を含むエンコードされた文字列。デフォルトはクッキーから取得される。

出力：

出力がない。ログイン成功ページに戻る。

2.ユーザーログアウト

パス：

（LAN IP アドレスまたは内部ドメイン名）/loginpages/logoff.shtml

入力：

フィールド	必須	値	説明
uid	オプション	文字列	ユーザーID。デフォルトはクッキーから取得される

出力：

出力がない。ログアウト成功ページに戻る。

3.残枠（クレジット残高）

パス：

（LAN IP アドレスまたは内部ドメイン名）/loginpages/reminder.shtml

入力：

フィールド	必須	値	説明
myusername 代替変数：（username、user、account）	必須	文字列	ユーザー名
mypassword 代替変数（passwd、password、pass）	必須	文字列	パスワード
ret_url	オプション	文字列（URL エンコード）	戻り URL。デフォルトは pop_reminder.shtml
command	オプション	文字列	getValue：コマンドが「getValue」に設定されている場合、戻り URL は無視され、ページは利用可能なクォータのみを出力する。

出力：

コマンドが「getValue」に設定されている場合、出力は単に「値」になります。（ユーザータイプに応じて秒またはバイト）

コマンドが設定されておらず、ret_url が指定されていない場合、クライアントは pop_reminder.shtml ページに誘導され、残りのクォータを UI スタイルで表示します。ret_url が指定されている場合、クライアントは ret_url に返され、ゲートウェイは URL にこれらの 4 つの変数を追加します。

フィールド	値	説明
msg	文字列。以下を含む：	結果とエラーメッセージ

	Remaining Quota:XXX byte(s) Credit Balance:XXXXXX Sorry, this feature is available for On-Demand user only. Sorry, this account or password is incorrect. Sorry, this account is out of quota. Sorry, this account is expired. Sorry, this account is redeemed.	
value	整数（秒またはバイト） またはエラーNo. -1：アカウントが見つかりません。 -2：クォータが不足しています。 -3：期限切れました。 -4：引き換えられました。	残りクォータ。ユーザーが時間タイプの場合、値は残り秒。ユーザーがボリュームタイプの場合、値は残りバイト。
uname	文字列	ユーザー名
type	文字列。以下を含む： TIME: Time type DATA: Volume type CUTOFF: Cut-off type	オンデマンドユーザー請求タイプ

4.パスワードの変更

パス：

（LAN IP アドレスまたは内部ドメイン名）/loginpages/user_change_password.shtml

入力：

フィールド	必須	値	説明
save	必須	1（1 にする必要がある）	
opw	必須	文字列	古いパスワード
npw	必須	文字列	新しいパスワード
npwc	必須	文字列	確認済みの新しいパスワード
ret_url	必須	文字列（URL エンコード）	戻り URL

出力：

クライアントは ret_url に戻り、ゲートウェイはパスワードを変更した結果を示す ret_url に結果を追加します。

フィールド	値	説明
result	文字列。以下を含む： Change password successfully User password is incorrect	結果とエラーメッセージ

	Invalid password format	

5.引き換え（オンデマンドユーザー）

パス：

（LAN IP アドレスまたは内部ドメイン名）/loginpages/redeemuserlogin.shtml

入力：

フィールド	必須	値	説明
username	オプション	文字列	現在のユーザーID（指定されていない場合、クッキーに保存されているユーザー名がデフォルト値になる）
upassword	オプション	文字列	現在のユーザーパスワード（指定されていない場合、クッキーに保存されているパスワードがデフォルト値になる）
myusername	必須	文字列	引き換えのユーザーID
mypassword	必須	文字列	引き換えのユーザーパスワード
ret_url	オプション	文字列（URL エンコード）	戻り URL。ログイン成功ページがデフォルト値

出力：

ret_url が指定されていない場合、クライアントはログイン成功ページに導かれ、さらに、JavaScript ウィンドウがポップアップして結果を表示します。ret_url が指定されている場合、クライアントは ret_url に戻され、ゲートウェイは引き換えプロシージャの結果を示すために、追加の変数 rmsg を追加します。

フィールド	値	説明
rmsg	文字列。以下を含む： Redeem process completed. Original user name cannot be found from the database. Redeem user name cannot be found from the database. Original user password is incorrect. Redeem user password is incorrect. Original user type and on demand user type do not match. Original user has not logged in. Redeem user logged in already. Had been redeemed before.	結果とエラーメッセージ

	User has run out of quota. Maximum allowable time has exceeded. Maximum allowable memory space has exceeded. Wrong postfix please check it. This account is expired.	

付録C　　便利な管理および評価ツール

便利な管理ツール

ここでは、HP、IBM、CA、BMC の大きなスイートを置き換えるためにしっかりとした仕事をしているオープンソースの IT 管理製品のトップ 6 を紹介します。それぞれは、低コストのプロフェッショナルサービスとフリーソフトウェアのダウンロードを提供しています。これらは主に、提供する機能とサポートするオペレーティングシステムで異なります。

QUEST BIG BROTHER

この Web ベースのシステムとネットワークモニターは、ほとんどの Windows、Unix、Linux OS をサポートしており、さらにユーザーが作成したスクリプトのリポジトリを使用することで、ネットワークに合わせて簡単に Big Brother をカスタマイズすることができます。その GUI は、赤が悪く、緑が良いことを意味する普遍的に理解されたカラーコードを備えています。

GROUNDWORK MONITOR PROFESSIONAL

2004 年に発売されたこの製品は、最初のエンタープライズ規模のオープンソースネットワーク管理ソリューションの 1 つです。Nagios、Apache、NMap を含む 100 以上の優れたオープンソースプロジェクトを、Web ベースのインターフェースなどの追加機能を備えた 1 つのフレームワークに統合します。Monitor Professional は、Linux、Unix および Windows サーバー、アプリケーション、データベース、ネットワークボックスなどのエンタープライズネットワークを一元的に管理および監視します。

HYPERIC HQ ENTERPRISE

Hyperic のソフトウェアは、データセンターに向けて、ハードウェア、ミドルウェア、仮想化、Web およびオープンアプリケーションを含む Web インフラストラクチャのすべてのレイヤを管理および監視するために構築されています。また、トレンドと分析も行います。Apache、JBoss、Linux などをサポートしています。

OPENNMS

この Java ベースのネットワーク管理ツールは、サービスのポーリング、データ収集、イベントと通知の管理に重点を置いています。現在、Linux、Mandrake、Solaris、Mac OS X など様々なオープンオペレーティングシステムをサポートしています。OpenNMS 2.0 では Windows サポートが予定されています。

OPENQRM

同じくデータセンター管理を対象とする OpenQRM は、数千台の Linux サーバーと Windows サーバーを管理し、データセンターの使用状況や利用率を追跡できます。また、ポリシーベースの自動プロビジョニングも行います。こちらも監視のために Nagios を統合しています。

ZENOSS CORE

主に Python で書かれているこの管理プラットフォームは、サーバー、ネットワークデバイス、OS およびアプリケーションのイベント管理、可用性、パフォーマンス監視を提供します。Zenoss は Linux、FreeBSD、Mac OS X 上で動作し、VMPlayer と Zenoss 仮想アプライアンスを搭載した Windows 上で動作します。

評価ツール

Wireshark（パケットキャプチャおよびデバッグ分析用）

Wireshark は、世界有数のネットワークプロトコルアナライザです。これにより、コンピュータネットワーク上で実行されているトラフィックをキャプチャし、インタラクティブに閲覧することができます。これは、多くの業界や教育機関でデファクトスタンダード（時にはデジュールスタンダード）となっています。

Wireshark の開発は、世界中のネットワーキング専門家の貢献のおかげで繁栄しています。1998 年に始まったプロジェクトの続きになります。

http://www.wireshark.org/

inSSIDer（ワイヤレススキャンおよび周波数アナライザ用）

inSSIDer は、近くの AP 信号と深度周波数を空中でスキャンし、配置サイトのチャネル解析を行うための便利なツールです。

次のことが可能です。

— Wi-Fi と周囲のネットワークを検査する

— 近くの何百ものアクセスポイントをスキャンしてフィルタリングする

— 競合するアクセスポイントや Wi-Fi チャンネルに関するトラブルシューティング

— Wi-Fi が集中しているエリアのアクセスポイントを強調表示する

— 時間の経過とともに受信信号の強度を dBm で追跡する

— MAC アドレス、SSID、チャネル、RSSI、最後に見た時間によって結果を並べ替える

— Wi-Fi および GPS データを Google Earth の KML ファイルにエクスポートする

http://www.metageek.net/products/inssider/

付録D　　オンデマンドアカウントタイプ

オンデマンドアカウントの種類には、主に次の 4 種類があります。

- **使用時間**　（使用可能な時間クォータを購入する）
- **ボリューム**　　（使用可能なトラフィック量クォータを購入する）

プリペイド概念です。使用中のみクォータが減らされます。クォータが枯渇するか、アカウントの有効期限に達すると、アカウントは期限切れになります。

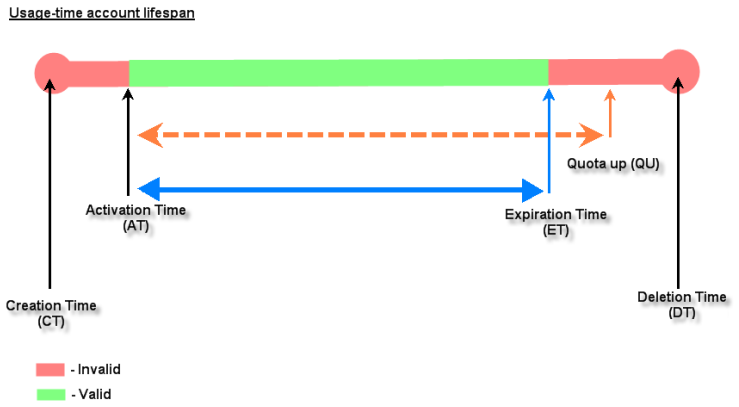
- **ホテルカットオフ**　（有効なアカウントの時間間隔を購入する）
- **継続時間**　（有効なアカウントの時間間隔を購入する）

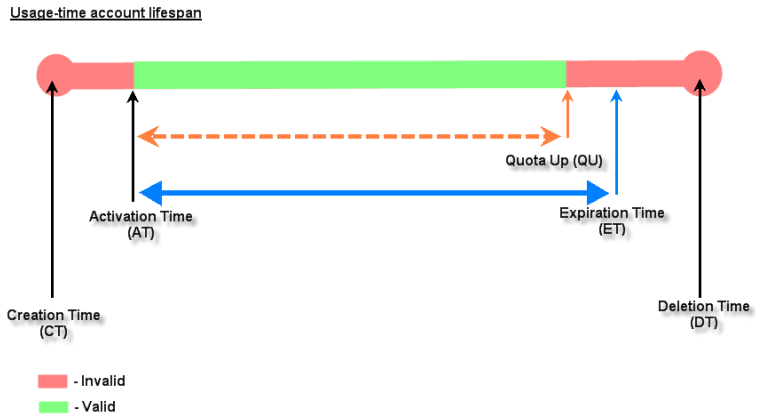
使用時間間隔を定義します。カウントダウンは、アカウントがアクティブ化されたときに開始され、有効期限/日付に達したときに期限切れになります。

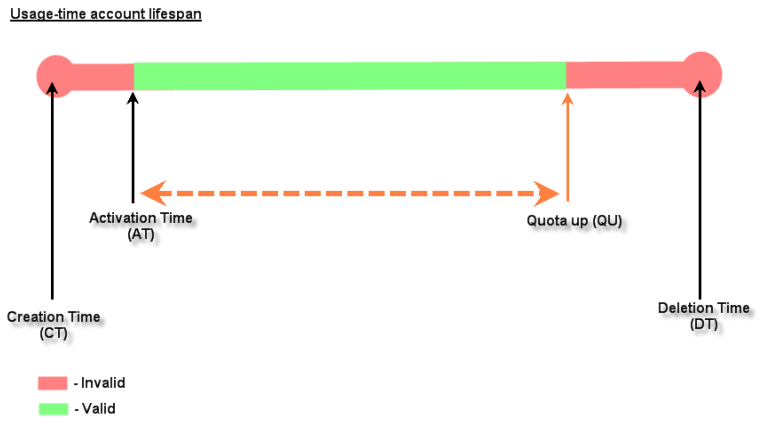
使用時間

- 残りのクォータでアカウントが有効である限り、ユーザーはインターネットにアクセスすることができ、ログインして所定の期間内に購入したアカウントを有効にする必要があります。

- 使用時間のアカウントは、次の項目を選択できます。
  - **有効期限あり**
    - カウントダウンは、最初のログインの直後に開始されます。*有効期間*が使い切れたり、クォータが枯渇したりすると、アカウントは期限切れになります。
  - **有効期限なし**
    - アカウントは、クォータを使い切った場合にのみ有効期限が切れます。

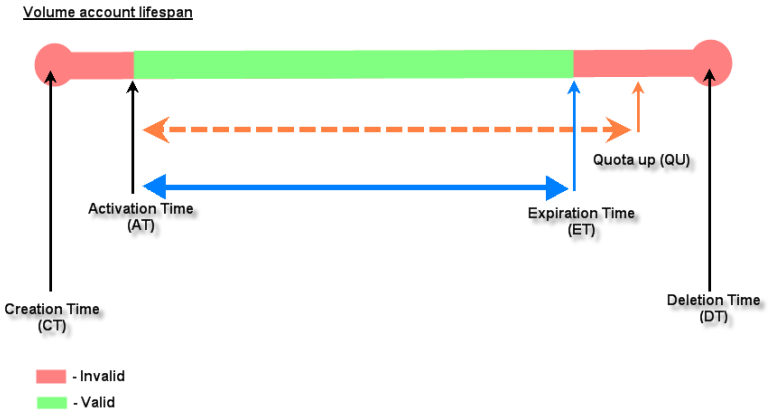


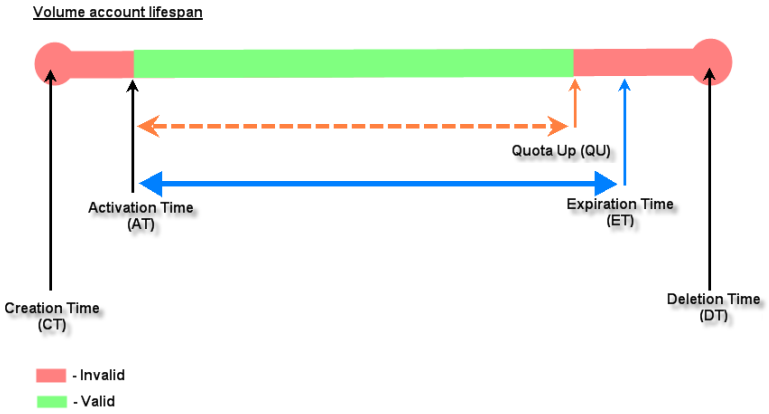




ボリューム

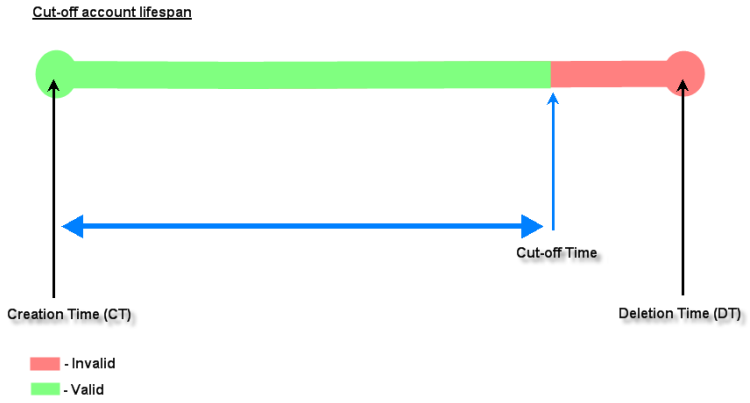
- 残りのクォータでアカウントが有効である限り、ユーザーはインターネットにアクセスすることができ、ログインして所定の期間内に購入したアカウントを有効にする必要があります。
- *有効期間*が使い切れたり、クォータが枯渇したりすると、アカウントは期限切れになります。

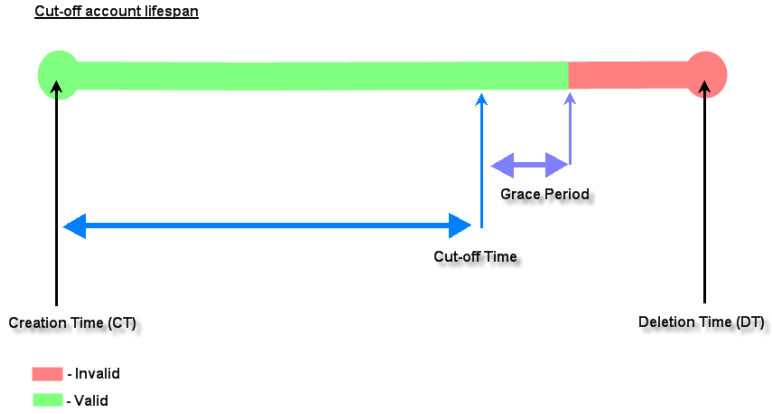




ホテルカットオフ時間

- オペレータは、アカウントの有効期限が切れる時計の時間を設定できます。
- アカウントが作成されると自動的にアクティブになります。
- 単位は、「カットオフ」を実行する日数です。例えば、次のようになります。単位=2 日間、カットオフ時間=10:00 の場合、アカウントは作成時から 2 日後の午前 10:00 に期限切れになります。
- *猶予期間*が付与されていない限り、*カットオフ時間*に達すると、アカウントの操作性は無効になります。
- 主に宿泊時間に応じてインターネットサービスを提供するために、ホテルの会場で使用されています。





継続時間

■ アカウントが有効な時間内であれば、ユーザーはインターネットにアクセスできます。カウントダウンは、アカウントがアクティブ化されると開始され、*有効期限*に達すると期限切れになります。

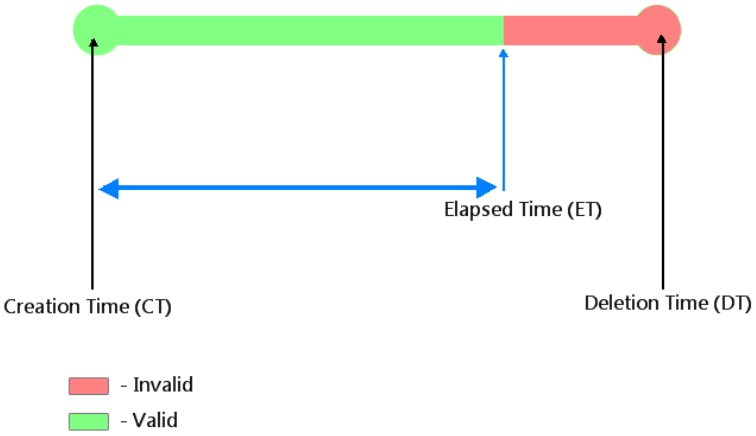
■ 継続時間のアカウントはさらに次のように分類できます。

- **経過時間**
  - アカウント作成時間である*アクティベーション時間*を基準にしています。有効期限に達すると、アカウントは*有効期限*が切れます。
- **開始終了時間**
  - アカウントの*開始時間*と*終了時間*を明示的に定義します。アカウントは、*終了時間*に達すると有効期限が切れます。

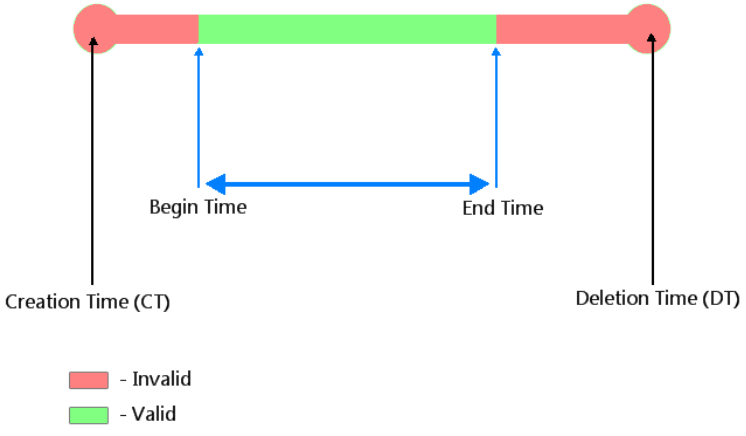
ロ カットオフ時間

- 作成日以内に「カットオフ」する時計の時間を明示的に定義します。

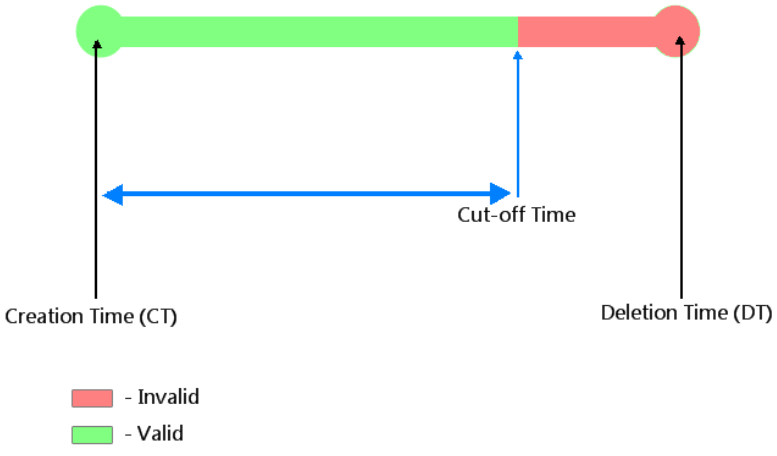
Duration-time Elasped account lifespan



Duration-time Begin-End Account lifespan

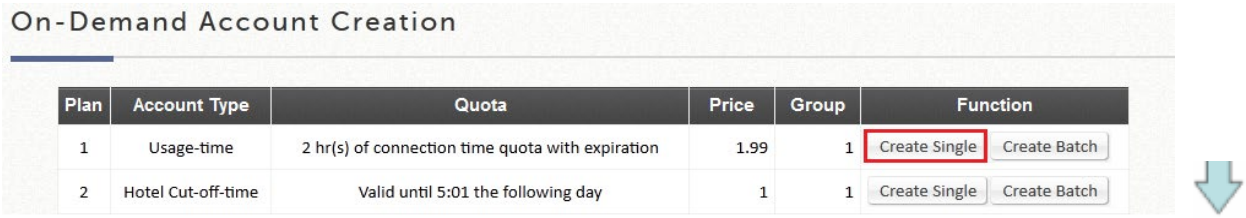


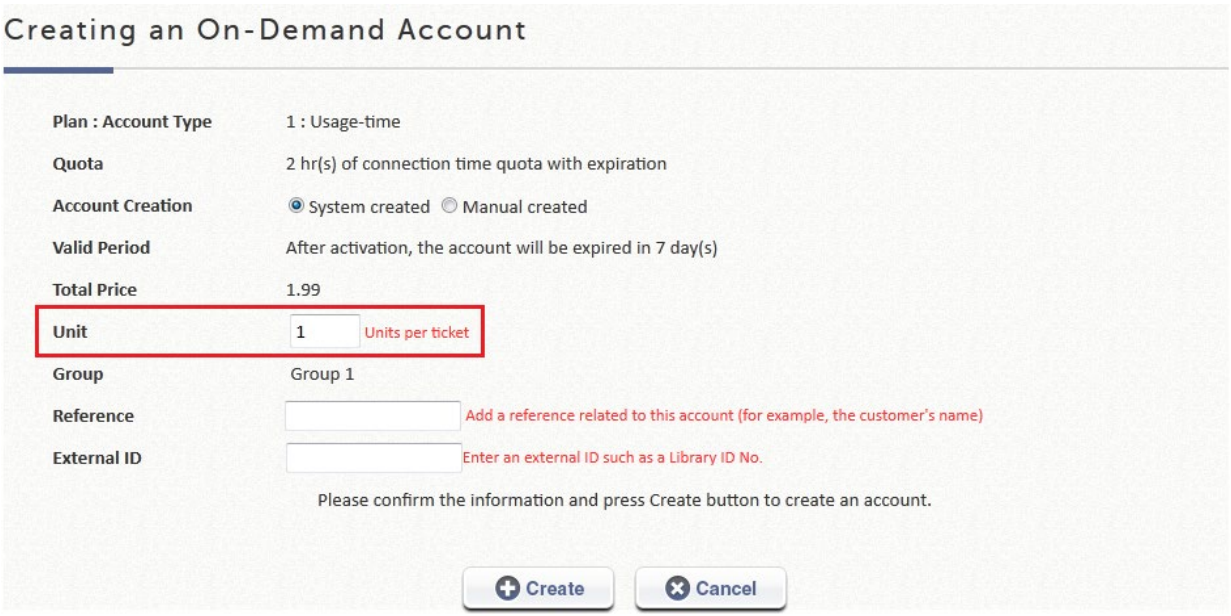
Duration-time Cut-off account lifespan



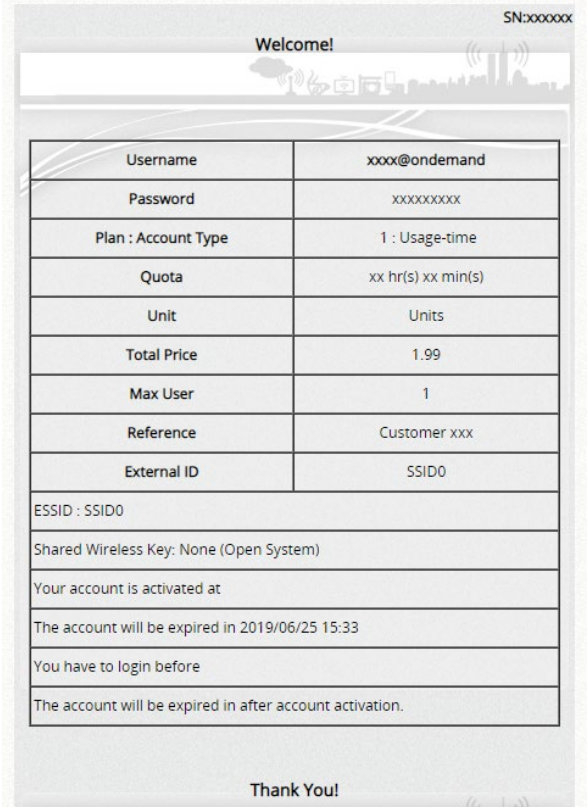
メモ

1. 請求プランは 10 個しかないため、同じタイプで異なるクォータのアカウントを作成する場合は、Unit フィールドを使用して作成することができます。





ネットワークオペレータは、**Unit** フィールドの 1～9 の範囲の整数でクォータを乗算することができます。1 つのアカウントに対して複数ユニットクォータの生成をサポートするのは、使用時間、ボリューム、および継続経過時間のアカウントタイプのみです。



SN:xxxxxx

Welcome!

Username	xxxx@ondemand
Password	xxxxxxxxx
Plan : Account Type	1 : Usage-time
Quota	xx hr(s) xx min(s)
Unit	Units
Total Price	1.99
Max User	1
Reference	Customer xxx
External ID	SSID0
ESSID : SSID0	
Shared Wireless Key: None (Open System)	
Your account is activated at	
The account will be expired in 2019/06/25 15:33	
You have to login before	
The account will be expired in after account activation.	

Thank You!

付録E　　UI リファレンスインデックス

I.Dashboard

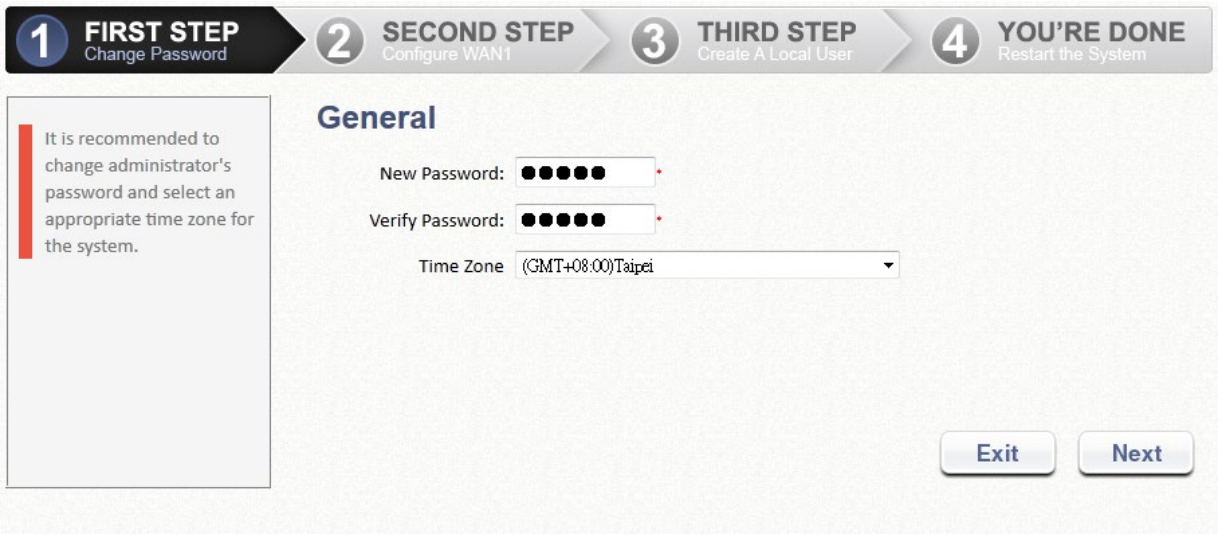
このページには、一般的なシステム設定、ネットワークインターフェース、オンラインユーザーなどを含む、管理者が把握する必要がある重要なシステム関連情報が表示されます。ドロップダウンメニューを使用して、このページの情報更新レートを選択できます。

右上隅にある「Download」ボタンは、システムステータスのスナップショットを提供するツールです。この情報は、メンテナンスまたはトラブルシューティングの目的で使用できます。

また、管理者は「Display Mode」（表示モード）を編集することで、ダッシュボードに表示する項目を選択できます。ダッシュボードは、必要な情報を表示するためにのみカスタマイズできます。

II.Setup Wizard

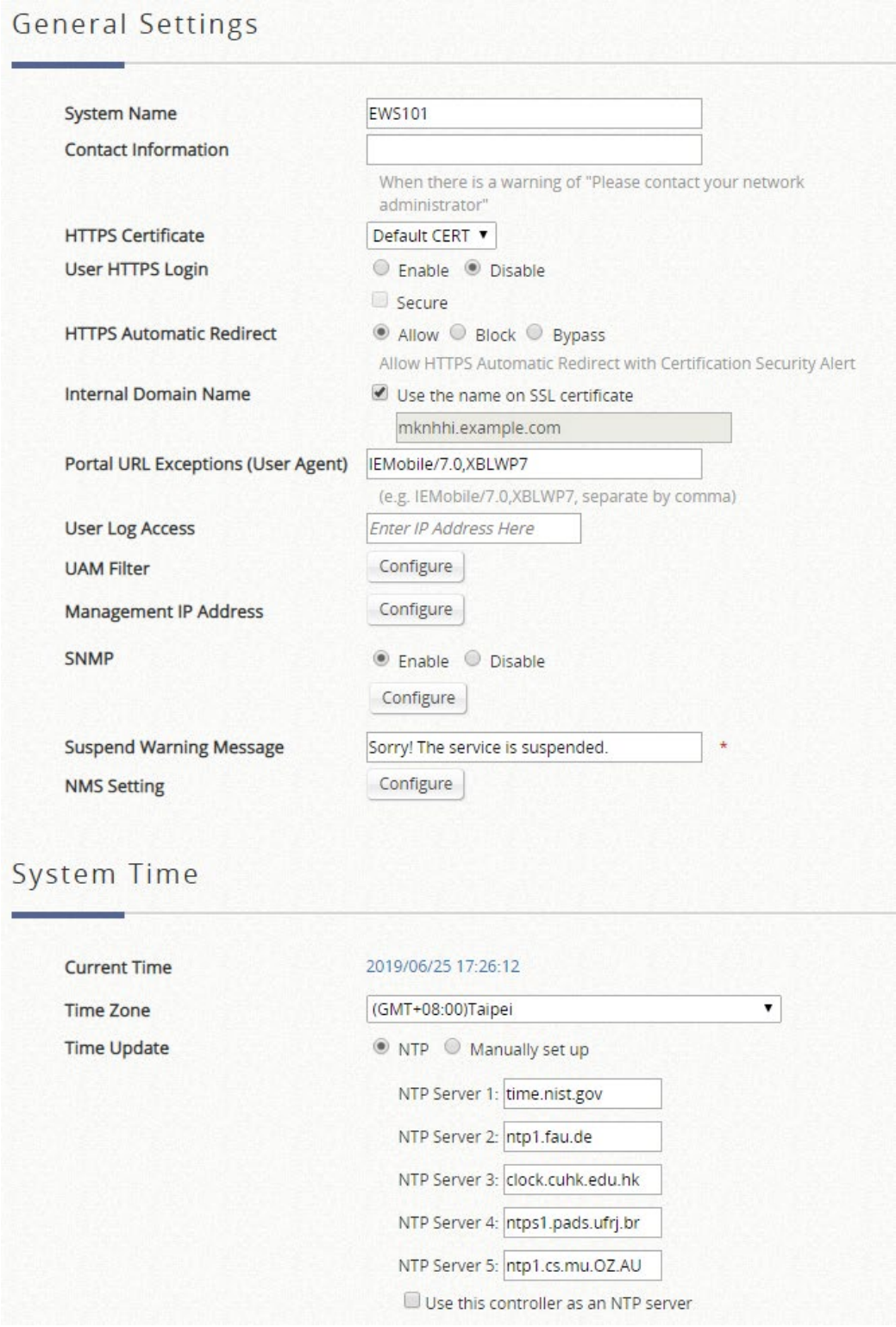
このウィザードは、セットアップ手順を簡易的に提供します。各ステップの指示に従って、システム管理者パスワードの変更、タイムゾーンの選択、WAN1 インターフェースの設定、およびローカルユーザーアカウントの作成を行ってください。セットアップ手順を完了したら、システムを再始動して設定を有効にする必要があります。再始動後、最小限の設定で動作可能な状態になっています。



A.System

System：このセクションは、システム構成に関するものです。これには、一般情報、WAN 構成、LAN ポート、サービスゾーンなどが含まれます。

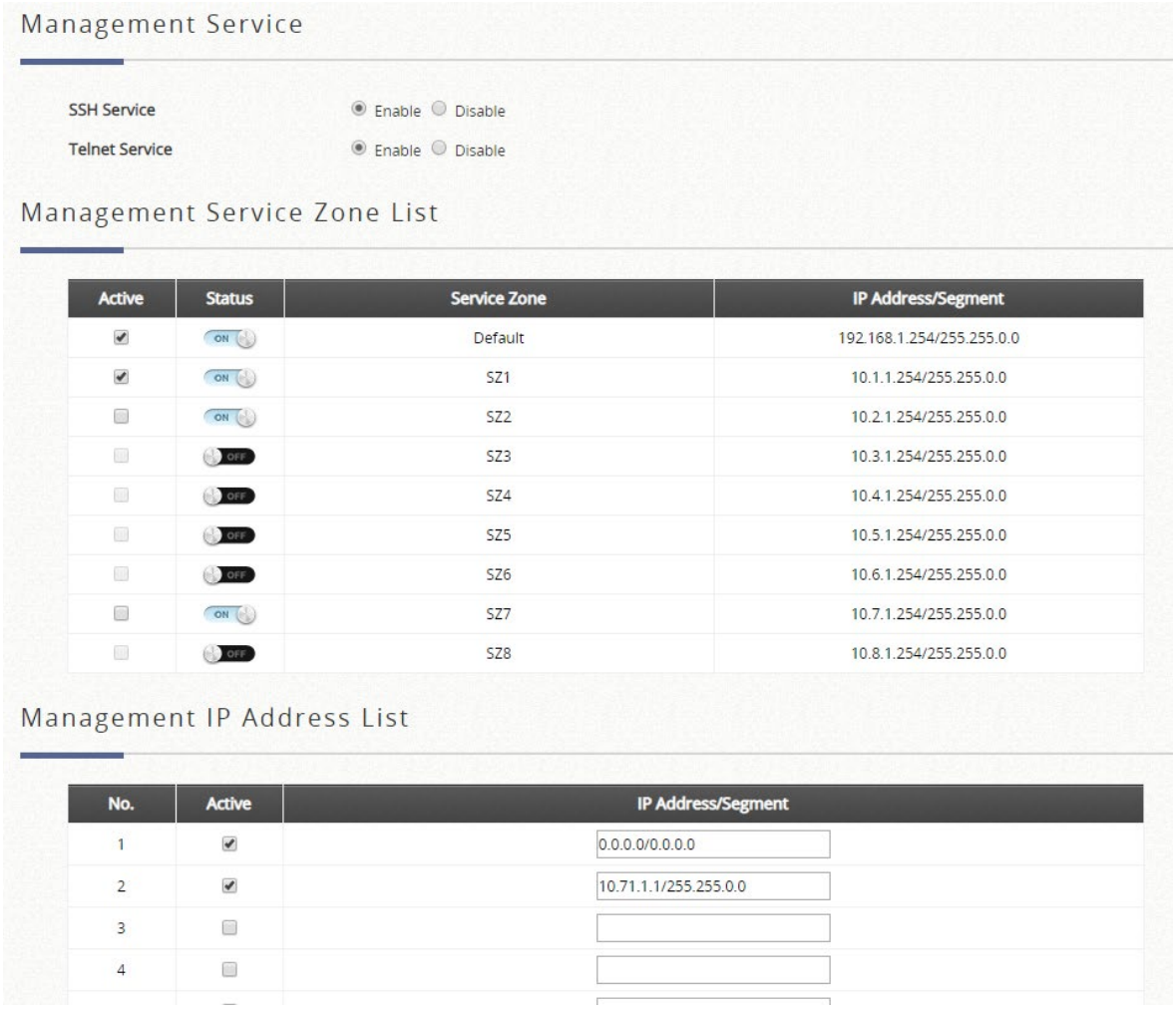
1）General



- **System Name**：これは、コントローラに付けることができるニーモニック名です。設定が完了すると、Web ブラウザのフレームに表示されます。

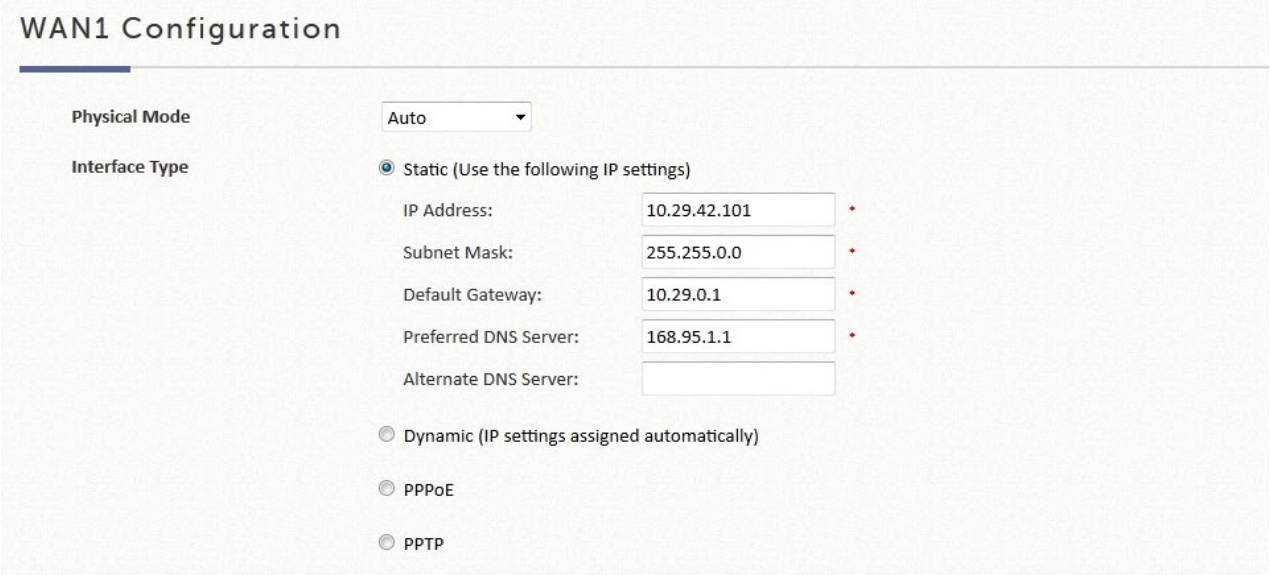
- **Contact Information**：これは、インターネット接続が切断された場合にクライアントの Web ブラウザに表示される電子メール、携帯電話、またはその他の連絡手段です。
- **HTTPS Certificate**：サイトの安全性の検証として、独自のネットワーク証明書を選択できます。証明書は、「Utilities > Certificates > System Certificate」でアップロードおよび管理できます。
- **User HTTPS Login**：HTTPS で認証されたエンドユーザーに対して、暗号化されたコンテンツ転送を許可するオプションを示します。「Secure」オプションは、「高」暗号化暗号スイートのみをサポートします。
- **HTTPS Automatic Redirect**：ユーザーが最初にネットワークに接続したときに HTTPS 要求を許可または拒否するオプションを提供します。有効にすると、HTTPS トラフィックはリダイレクトされますが、証明書のセキュリティ警告が表示されることがあります。HTTPS を無効にすると、すべての HTTPS トラフィックが拒否され、タイムアウトになります。このオプションを使用すると、ユーザーのデバイス上のすべてのセキュリティ警告が効果的に表示されなくなります。HTTPS リクエストがタイムアウトになると、一部のブラウザが HTTP Web ページをキャプティブポータルにリダイレクトするように自動的に要求することがあります。
  - **HTTPS Automatic Redirect を有効にする**：キャプティブポータルにアクセスする前に、HTTPS で閲覧しているユーザーに、証明書のセキュリティ警告が表示される場合があります。
  - **HTTPS Automatic Redirect をブロックする**：HTTPS で閲覧しているユーザーはタイムアウトになります。つまり、Web ページは宛先に到達しないため、空白になります。
  - **サインイン前に非 HTTP トラフィックをバイパスする**：ユーザーがキャプティブポータルで免責事項ページを受け入れていない場合や、サインインプロセスを完了していない場合でも、すべての HTTPS ウェブサイトの閲覧が許可されます。
- **Internal Domain Name**：システムの完全修飾ドメイン名（FQDN）です。LAN インターフェースの IP アドレスを記憶する代わりに、コントローラにアクセスするのに最適です。管理者が Internal Domain Name フィールドに目的のドメイン名を入力すると、入力した内部ドメイン名は、LAN IP アドレスではなく、ログイン成功ページの URL に表示されます。また、HTTPS が有効になっている場合、アップロードされた証明書のドメイン名を入力すると、ログイン速度が向上し、ユーザーログインページの URL が変更されます。ソーシャルメディアログインでは、この内部ドメイン名は、ログインに成功したクライアントをログイン成功ページにリダイレクトするのに役立ちます。
- **Portal URL Exceptions (User Agent)**：ここに記載されている特定の開かれているブラウザを除き、ユーザーの初回ログイン後に目的のランディングページが表示される場合があります。
- **User Log Access IP Address**：一度設定すると、入力された IP を介してのみユーザーログにアクセスできます。
- **UAM Filter**：Universal Access Method（UAM）フィルタは、過剰なトラフィックによるシステムの過負荷を防ぐために、認証の前にユーザーエージェントからのブラウザ以外の HTTP 要求をドロップします。
- **Management IP Address List**：この設定ボタンを使用すると、ネットワーク管理者は、Web 管理インターフェースの閲覧を許可された予約済みの IP アドレス/範囲を選択できます。リモートコンソールインターフェースは、デフォルトで無効になっています。
- **SNMP**：SNMP プロトコルを介したシステム情報の取得を有効または無効にするオプションを示します。管理者は、SNMP トラップメッセージを送信するために特定のポートを割り当てることができます。CPU 使用率、メモリ使用率、DHCP スコープ、ハートビート期間などの詳細なしきい値を設定できます。
- **Suspend Warning Message**：サービスゾーンのサービスが一時的に中断されたときに、管理者がユーザーにメッセージを入力するためのフィールドです
- **Time**：このセクションでは、システム時間を手動で設定するオプション、または外部 NTP サーバーを指定して自動で時間を同期させるオプションを示します。
  - **Current Time**：以下の設定直後のシステム時間です。
  - **Time Zone**：システムがあるローカルタイムゾーンを選択するドロップダウンリストです。
  - **Time Update（NTP）**： システムは、NTP サーバー1～5 の順で外部 NTP サーバーを指定することにより、自動時刻同期を完了します。デフォルトでは、Use this controller as an NTP server チェックボックスがチェックされ、管理されている AP の時刻が同期されます。

- **Time Update（Manually Set Up）**：システム時刻は手動で設定されます。

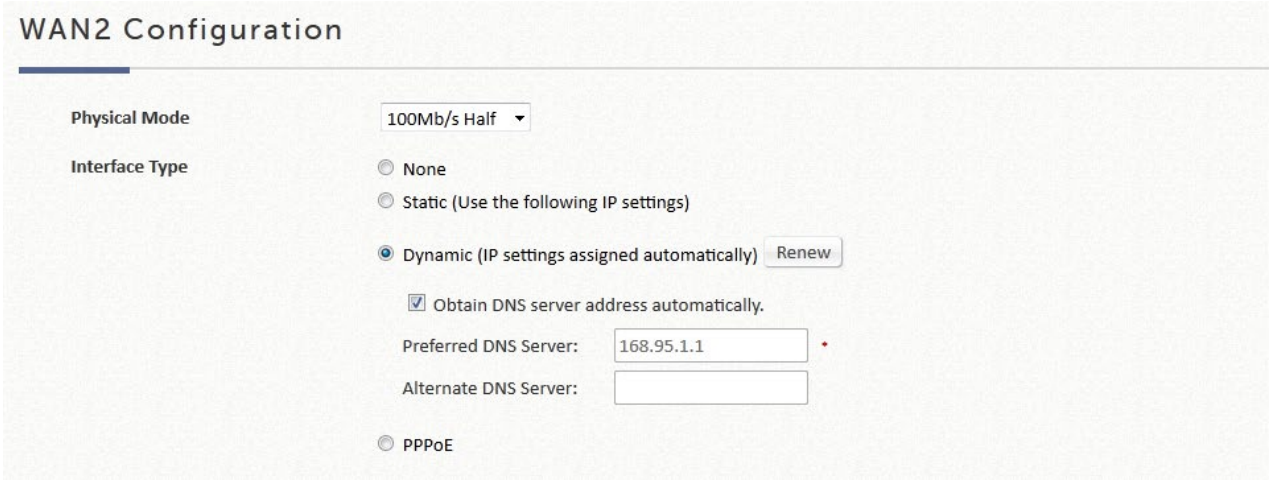


- **Management Service**：リモートコンソール管理インターフェースを有効または無効にするオプションです。
  - **SSH Service**：ポート 22 の暗号化されたリモートコンソールインターフェースです。セキュリティ上の理由から、悪意のあるユーザーがシステムにアクセスするのを防ぐために、SSH サービスを無効にすることをお勧めします。ただし、Edgecore サポートチームによるリモートトラブルシューティングが必要な場合は、事前に有効にしておいてください。
  - **Telnet Service**：ポート 23 の暗号化されていないリモートコンソールインターフェースです。セキュリティ上の理由から、Telnet サービスはデフォルトで無効になっており、悪意のあるユーザーがシステムにアクセスできないようにしています。
- **Management Service Zone List**：「System > Service Zone, chapter2.4」で設定されている有効なサービスゾーンがある場合、管理者は Active で IP アドレスの範囲に一致するデバイスがシステムの WMI にアクセスできるようにすることができます。
- **Management IP Address List**：リモートアクセスのために、IP アドレス/セグメントは、管理者がシステムの WMI にアクセスできるようにカスタマイズすることができます。チェックボックスにチェックを入れて、表のエントリがアクティブになっていることを確認してください。例えば、「192.168.3.1」と「192.168.1.0/24」を入力すると、192.168.3.1 のデバイスと 192.168.1.0～192.168.1.255 の範囲のデバイスだけが Web 管理インターフェースに到達できることを意味します。 管理者が特定の IP アドレスを入力する場合は、セグメントを入力する必要はありません。（192.168.5.44/32 ではなく、192.168.5.44 と入力してください。）

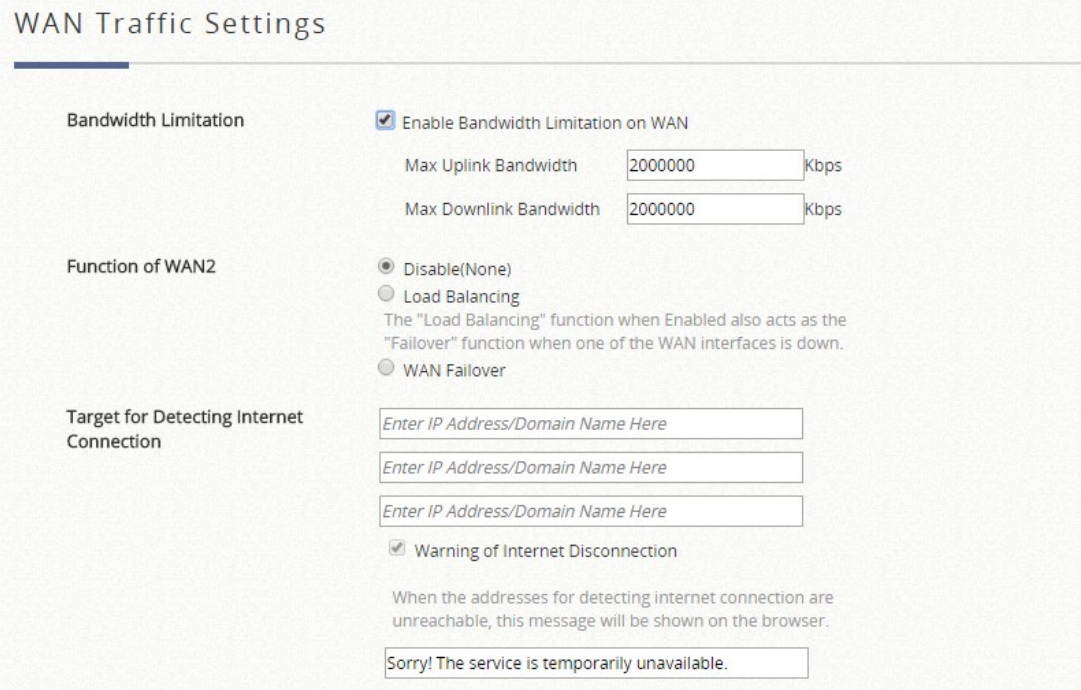
2）WAN



- **Physical Mode**：管理者は、ドロップダウンリストを使用して、WAN 接続の速度と二重を選択できます。自動ネゴシエーションがオンの場合、システムはインターフェースに接続されたシステムとデバイスの両方がサポートする最高性能の伝送モード（速度/二重/フロー制御）を選択します。
- **Static**：WAN ポートの IP アドレスを手動で指定します。
- **Dynamic**：DHCP サーバーがアップストリームネットワークで使用可能なネットワーク環境にのみ適用されます。Renew ボタンを押すと自動的に IP アドレスが取得されます。
- **PPPoE**：ISP が提供する PPPoE ダイヤルアップ接続のためのものであり、ISP は設定を完了するためにパスワード付きのアカウントを発行します。
- **PPTP**：一部の IPS（ヨーロッパ諸国）は、ダイヤルアップ接続に PPTP プロトコルを提供する場合があります。発行された PPTP アカウントと、PPTP サーバー用のパスワードが必要です。
- **Transmission Option**：（EWS5204、EWS5207 のみ）SFP ファイバポートを使用して設計された Edgecore キャリアグレードモデルです。次のように構成できます。
  - **Ether Port**：サービス用に銅線イーサネット WAN ポートを配置します。
  - **Fiber Port**：サービス用の SFP ファイバポートを配置します。
  - **Fiber Port and Ether Port**：ファイバポートとイーサネットポートの橋渡しをします。物理的には、SFP ポートまたはイーサポート経由で 1 つのアップリンクだけを接続します。
  - **Bonding**：サービス用に SFP ポートと銅線イーサネットポートの両方を配置します。このオプションは、2 つの接続を集約し、集約されたスループットが高くなります。



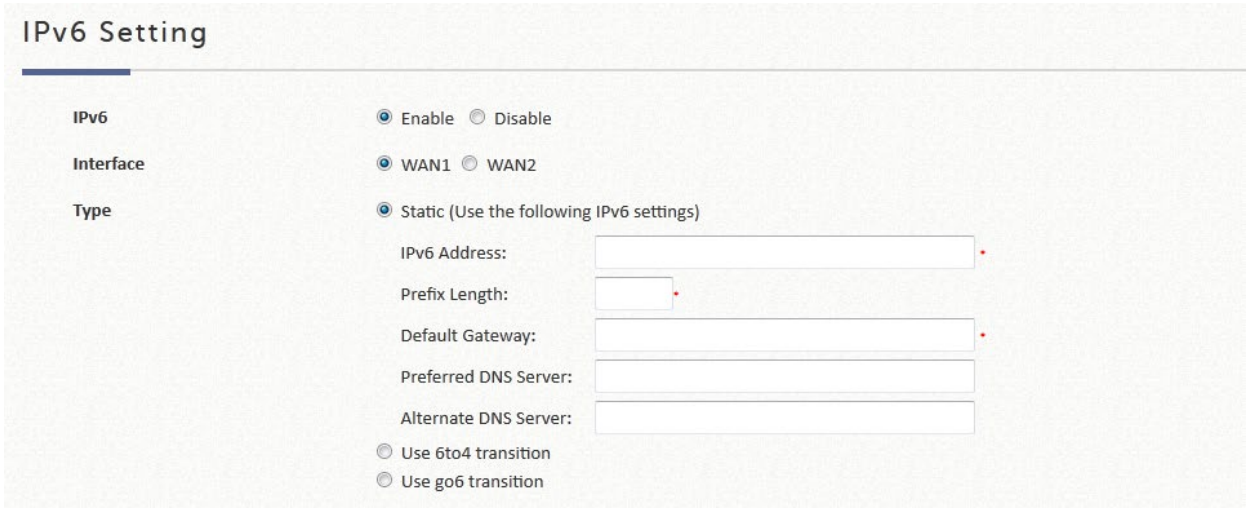
- **Physical Mode**：管理者は、ドロップダウンリストを使用して、WAN 接続の速度と二重を選択できます。自動ネゴシエーションがオンの場合、システムはインターフェースに接続されたシステムとデバイスの両方がサポートする最高性能の伝送モード（速度/二重/フロー制御）を選択します。
- **None**： WAN2 インターフェースによるサービスの提供を無効にします。
- **Static**：WAN ポートの IP アドレスを手動で指定します。
- **Dynamic**：DHCP サーバーがアップストリームネットワークで使用可能なネットワーク環境にのみ適用されます。Renew ボタンを押すと自動的に IP アドレスが取得されます。
- **PPPoE**：ISP が提供する PPPoE ダイヤルアップ接続のためのものであり、ISP は設定を完了するためにパスワード付きのアカウントを発行します。
- **Transmission Option**：（EWS5204、EWS5207 のみ）SFP ファイバポートを使用して設計された Edgecore キャリアグレードモデルです。次のように構成できます。
  - **Ether Port**：サービス用に銅線イーサネット WAN ポートを配置します。
  - **Fiber Port**：サービス用の SFP ファイバポートを配置します。
  - **Fiber Port and Ether Port**：ファイバポートとイーサネットポートの橋渡しをします。物理的には、SFP ポートまたはイーサポート経由で 1 つのアップリンクだけを接続します。
  - **Bonding**：サービス用に SFP ポートと銅線イーサネットポートの両方を配置します。このオプションは、2 つの接続を集約し、集約されたスループットが高くなります。



- **Bandwidth Limitation**：デフォルトでは無効です。この制限は、WAN1 と WAN2 の両方で組み合わせられていますが、帯域幅は ISP オペレータのネットワーク速度によって制限されます。
- **Function of WAN2**：次の機能は、WAN2 が有効になっている場合にのみ機能します。
  - **Disable**：WAN2 は、ロードバランシングと WAN フェイルオーバーなしでシステムの別のアップリンクとして動作します。
  - **Load Balancing**：管理者がセッション、バイト、またはパケットを使用して計算された負荷の割合に基づいて、システムトラフィックを WAN1 ポートおよび WAN2 ポートに分散させる場合にこのオプションを選択します。
  - **WAN Failover**：WAN1 がダウンするたびに、WAN2 は WAN1 によって処理されたトラフィックを処理するオプションとして選択します。ネストされたオプションが選択されている場合、WAN1 リンクが再び立ち上がると、サービスは WAN1 リンクに戻されます。この機能は、ロードバランシングと同時に使用することはできません。
- **Address for Detecting Internet Connection**：アップリンクサービスが生きているかダウンし

ているかを検証するために、検出対象として最大 3 つのアウトバウンドサイトを指定できます。警告メッセージテキストのフィールドはカスタマイズできます。このフィールドは、3 つの検出対象がすべて応答しなかった場合にユーザーの Web ブラウザに表示されます。

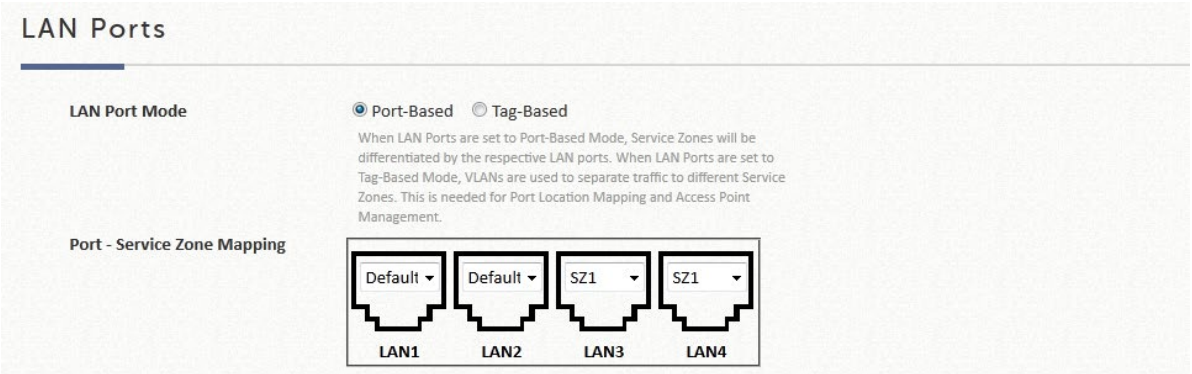
3）IPv6



- **Status**：選択した WAN インターフェースで IPv6 サポートを有効または無効にします。
- **Interface**：IPv6 アドレスで構成するデバイスの外部インターフェースを選択します。
- **Type**：1 つの IPv6 方式を選択します。
  - **Static**： 関連する IPv6 情報をすべて手動で入力します。赤いアスタリスクは必須フィールドです。お使いのインターネットパッケージに、ISP による静的な IPv6 アドレスの問題がある場合に最適です。
  - **6to4**：6to4 とは、IPv4 から IPv6 に移行するためのインターネットの移行機構で、明示的なトンネルを設定することなく、IPv4 ネットワーク（一般的には IPv4 インターネット）上で IPv6 パケットを送信できるようにする仕組みです。6to4 オプションは、選択した WAN インターフェースに静的 IPv4 アドレスが設定されている場合にのみ選択できます。

4）LAN ポート

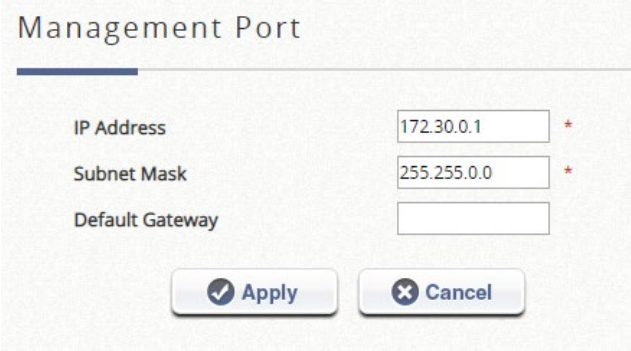
デフォルトでは、システム内の「サービスゾーン」には、組織内の有線および無線カバレッジエリアが含れています。このページには、サービスゾーンのマッピングを識別するためのオプションがあります。



- **LAN Port Mode**：ポートとサービスゾーンのマッピングを識別するオプションを選択します。
  - **Port-based**：各物理 LAN ポートは、有効なサービスゾーンにマッピングすることも、サービスの提供を無効にすることもできます。実際にサービスを提供するために利用可能なサービスゾーンの最大量は、コントローラ上の LAN ポートの数によって決まることに注意してください。
  - **Tag-based**：物理 LAN ポートに関係なく、異なるサービスゾーンが VLAN ID によって識別されます。つまり、タグベースモードは、トラフィックパケットにタグ付けされた VLAN ID に基づいて、クライアントをサービスゾーンに動的にマッピングします。
- **Port – Service Zone Mapping**：ポートベースモードが選択されている場合に、有効化されたサービスゾーンによる物理 LAN ポートの設定を行います。

5）MGMT Port

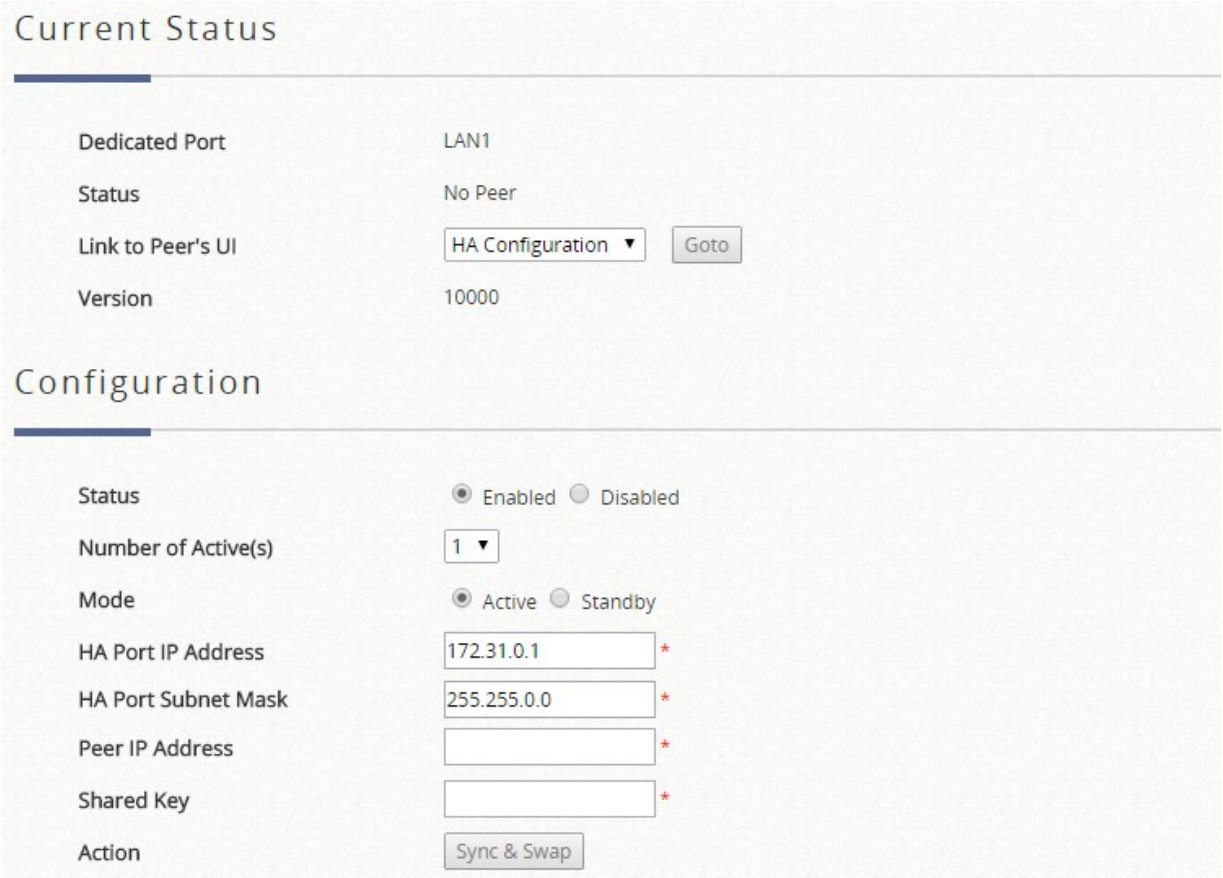
（EWS5207 で利用可能）



管理ポートの IP 設定は、このページで設定できます。

6）High Availability

（EWS5203、EWS5204、EWS5207 で利用可能）



Configuration：

- **Status**： この機能はここでオンとオフを切り替えることができます。
- **Number of Active(s)**：N+1 HA に対して最大 3 つのアクティブを選択します
- **Mode**：この特定のコントローラの役割は、ここで手動で決定する必要があります。
- **HA Port IP Address**： 専用の HA ポートに設定された IP アドレスです。すべてのコントローラの HA ポート IP が同じサブネットの下にあることを確認する必要があります。
- **HA Port Subnet Mask**： HA 通信用のサブネットマスクです。
- **Peer IP Address**： ピアコントローラの HA ポートの IP アドレスを入力します。
- **Shared Key**： 両方のコントローラに秘密の文字列を入力します。HA 接続を成功させるには、Shared Key（共有キー）が同じである必要があります。
- **Switch Support**：HA N+1、N=2 または 3 の場合には、HA 発生時に関連する LAN ポートと VLAN ID が自動的に変更できるため、Edgecore SW1024 を強く推奨します。管理者が SW1024 のポート 1、ポート 4、ポート 2 を VLAN 101、41、42 でそれぞれアクティブ AC に設定する場合は、#1 のアクティブ関連ポートに 1,4,2 を入力し、#1 のアクティブ LAN ポート VLAN ID に 101,41,42 と入力してください。
- **Action**：この機能は、プライマリコントローラでトリガーされ、サービスをセカンダリコントローラに手動で切り替えることができます。（1+1 HA でのみ使用可能）

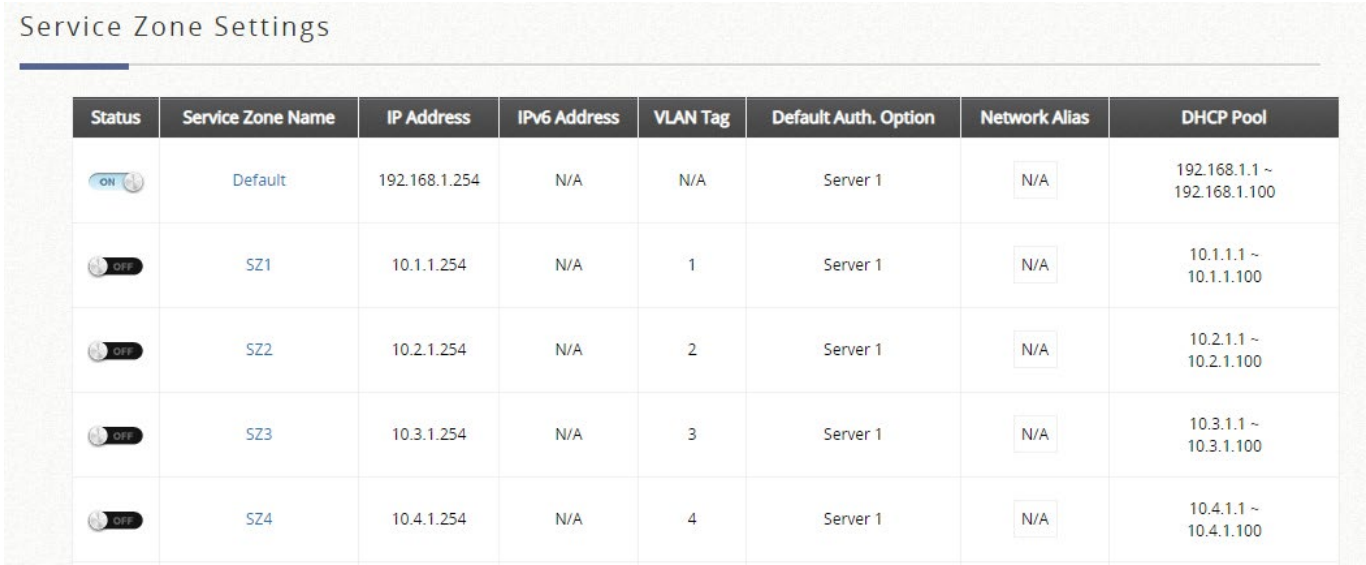
Current Status：

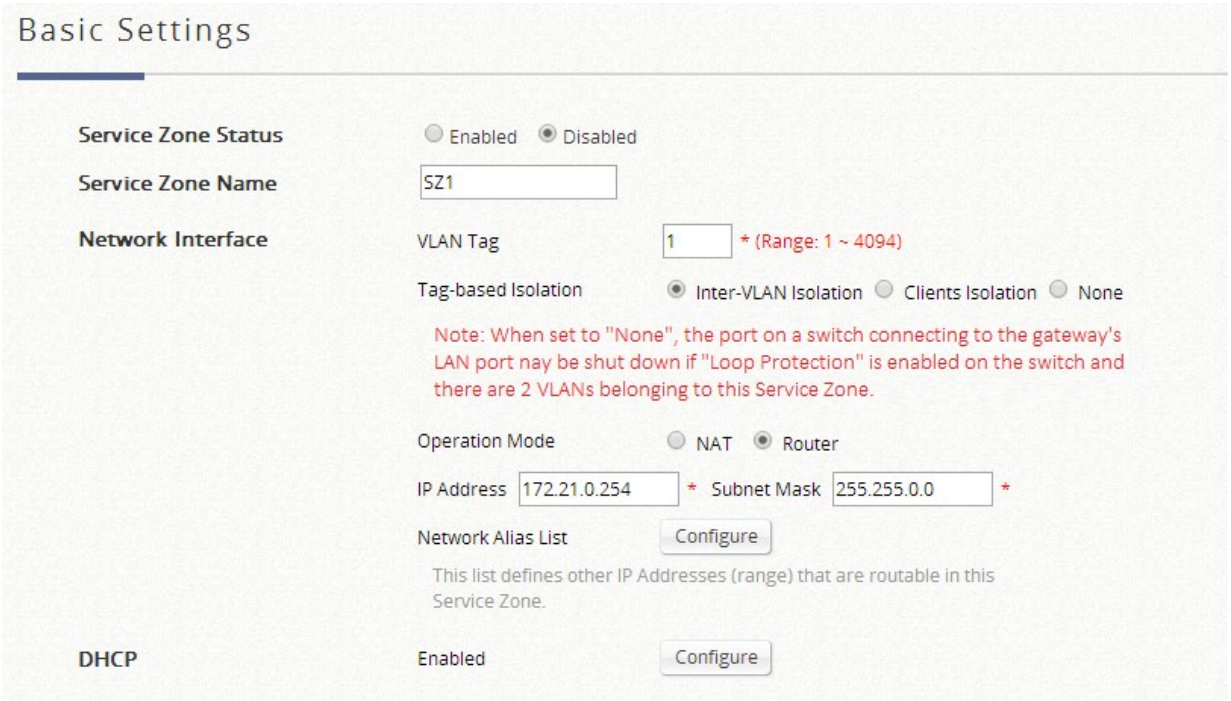
- **Dedicated Port**： 現在、すべてのコントローラモデル用の LAN1 です。
- **Status**： HA リンクの現在のステータスを反映します。
- **Link to peer's UI**：ページを選択して、ピア Web UI にすばやくアクセスできます。アクティブなものでのみ使用できます。
- **Version**： HA 機能のリビジョンを表示します。

7）Service Zones

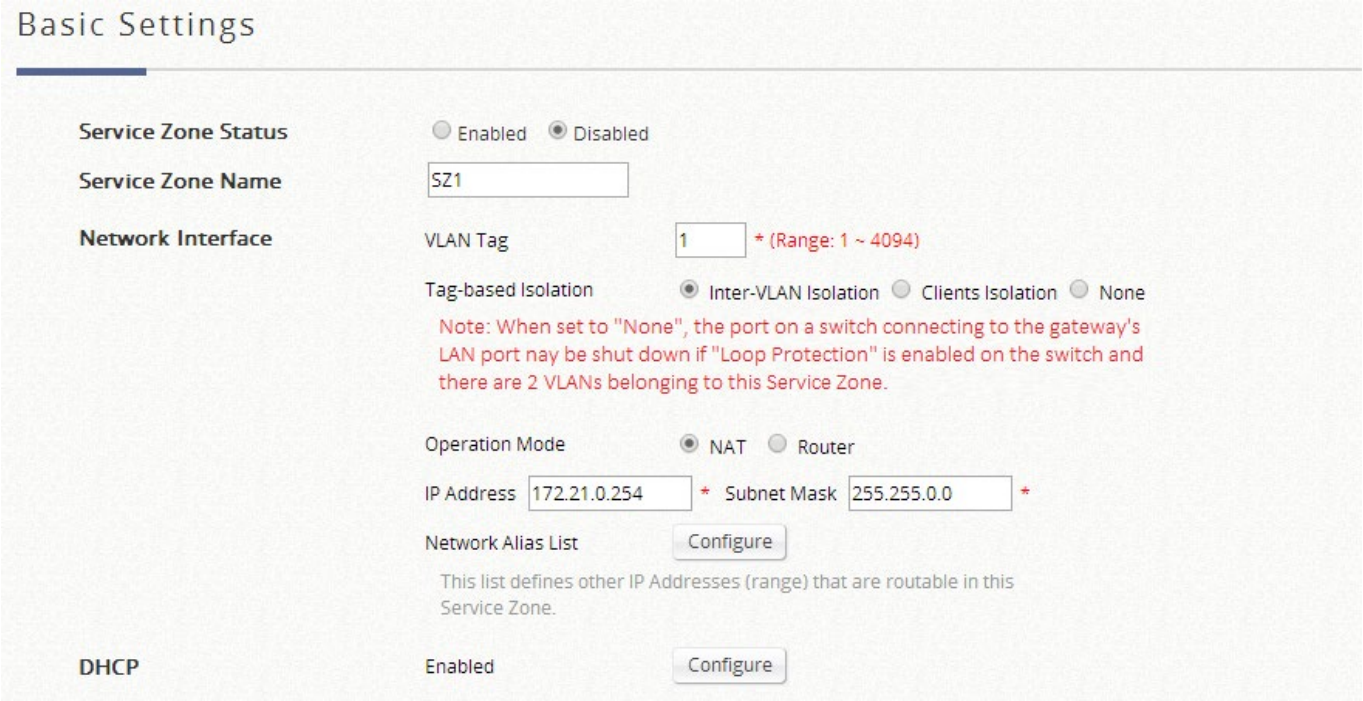
この表には、サービスゾーンと関連設定が一覧表示されます。

- **Status**：各サービスゾーンのステータスです。デフォルトのサービスゾーンでは、常に「ON」です。
- **Service Zone Name**：サービスゾーンの名前です。
- **IP Address**： 各サービスゾーンのコントローラの IP アドレスです。
- **IPv6 Address**： 各サービスゾーンのコントローラの IPv6 アドレスです。
- **VLAN Tag**：（タグベースモードでのみ）各サービスゾーンにマッピングされた VLAN タグ番号です。
- **LAN Port Mapping**： （ポートベースモードでのみ）LAN ポートとサービスゾーン間のマッピングです。
- **Default Auth.Option**：各サービスゾーンに指定されているデフォルトの認証サーバーです。
- **Network Alias**：各サービスゾーンのエイリアスサブネットです。
- **DHCP Pool**： DHCP サーバーのステータスまたは DHCP プールの IP 範囲です。





ルータモード



NAT モード

- **Service Zone Status**：デフォルトのサービスゾーンを除き、各サービスゾーンを有効または無効にすることができます。
- **Service Zone Name**：サービスゾーンの名前をここに入力できます。

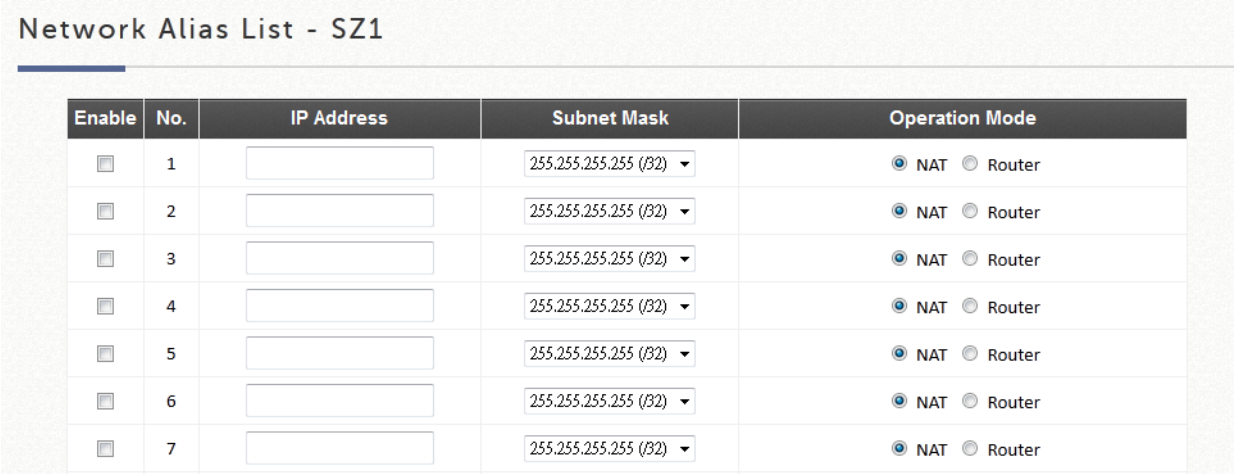
Network Interface：

- **VLAN Tag（タグベースモードのみ）**：サービスゾーンにマッピングされている VLAN タグ番号です。
- **Tag-Based Isolation（タグベースモードのみ）**：管理者は、各サービスゾーンで異なるアイソレーションオプションを選択できます。
  - **Inter-VLAN Isolation**：同じサービスゾーン内の 2 つのクライアントが、異なる VLAN および異なる LAN ポートから入ってくるときにお互いを見ることはありません。アイソレーションは、トラフィックがゲートウェイを通過するときに行われることに注意してください。スイッチまたは AP を配置する場合は、AP/スイッチでステーションアイソレーションを有効にする必要があります。
  - **Clients Isolation**：同じレイヤ 2 ネットワーク上のすべてのクライアントは、このサービスゾーンで互いにアイソレーションされます。
  - **None**：このサービスゾーンのクライアントにはアイソレーションが適用されません。
- **Port-Based Isolation（ポートベースモードのみ）**：管理者は、各サービスゾーンで異なるアイソレーションオプションを選択できます。
  - **Inter-Port Isolation**：同じサービスゾーン内の 2 つのクライアントが、異なるポートから入ってくるときにお互いを見ることはありません。アイソレーションは、トラフィックがゲートウェイを通過するときに行われることに注意してください。スイッチまたは AP を配置する場合は、AP/スイッチでステーションアイソレーションを有効にする必要があります。
  - **Clients Isolation**：同じレイヤ 2 ネットワーク上のすべてのクライアントは、このサービスゾーンで互いにアイソレーションされます。
  - **Until Auth.**： 同じレイヤ 2 ネットワーク上のすべてのクライアントは、認証の前に、このサービスゾーンで互いにアイソレーションされます。
  - **None**：このサービスゾーンのクライアントにはアイソレーションが適用されません。
- **Operation Mode**
  - **NAT**：Network Address Translation モードの頭字語です。アップリンクネットワークに転送する前に、コントローラの LAN 側のデバイスのプライベート IP アドレスをルーティング可能な IP に変換

します。プライベート IP アドレスは、コントローラの WAN 側のデバイスまたはルータには見えません。NAT を配置しているコントローラだけが対応する変換を認識します。このモードは、LAN 上のユーザーが外部デバイスから「見え」されないように保護するだけでなく、制限されたパブリック IP の問題も解決します。

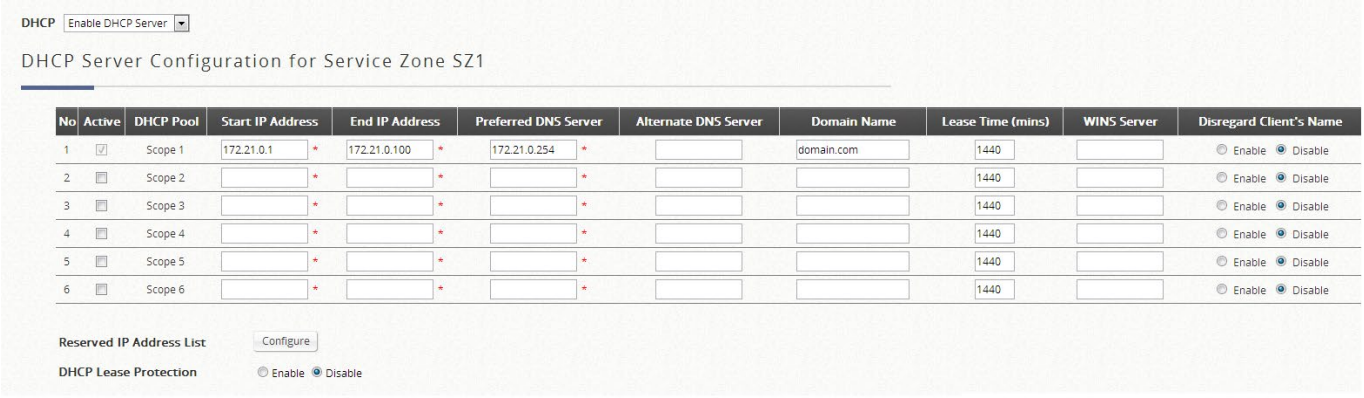
- **Router**：コントローラへのアドレス変換を行わないネットワーク動作モードです。ルータモードは、パブリック IP を使用する場合、またはダウンストリームデバイスがアップストリームルータへのルーティング可能な IP アドレスを必要とする場合に選択されます。

- **IP Address**：このサービスゾーンの IP アドレスです。
- **Subnet Mask**：このサービスゾーンのサブネットマスクです。
- **IPv6 Settings**： このサービスゾーンの IPv6 アドレスと設定（IPv6 が有効な場合のみ）です。
- **Network Alias List**：管理者は、オプションでサービスゾーンに対して多数のエイリアスネットワークセグメントを設定できます。この機能により、1 つのサービスゾーンを多数のサービスゾーンとして見ることができ、また、サービスゾーンのネットワークインターフェースの IP アドレスを隠すことができ、ある程度、LAN クライアントからの攻撃から保護することができます。***Configure*** ボタンをクリックして、Network Alias List ページを表示します。



- 目的のエイリアス IP アドレスを入力し、優先する Subnet Mask と Operation mode を選択し、Enable チェックボックスにチェックを入れ、***Apply*** ボタンをクリックして設定を有効にします。

- **DHCP**：ドロップダウンメニューから、この特定のサービスゾーンの DHCP サーバーは無効、有効、または中継することができます。
「*Enable DHCP Relay*」が有効になっている場合は、外部 DHCP サーバーの IP アドレスを入力すると、クライアントの IP アドレスは外部 DHCP サーバーによって割り当てられます。システムは、外部 DHCP サーバーから、このサービスゾーンのダウンストリームクライアントに DHCP 情報のみをリレーします。冗長 DHCP サーバーは、DHCP サーバーリレーモードに設定すると設定できます。コントローラは、DHCP サーバーと同じサブネットにある必要があることに注意してください。



- **Start IP Address/End IP Address**：DHCP サーバーに組み込まれている IP アドレスの範囲は、クライアントに割り当てられます。注：ネットワークインターフェースのデフォルト IP アドレスが変更された後に管理者が EWS コントローラ管理ページにアクセスできるように、管理 IP アドレスリストを適宜変更してください（System Configuration >> System Information >> Management IP Address List）。
- **Preferred DNS Server**：このサービスゾーンで使用されるプライマリ DNS サーバーです。
- **Alternate DNS Server**：このサービスゾーンで使用される代替 DNS サーバーです。
- **Domain Name**：このサービスゾーンのドメイン名を入力します。
- **WINS Server**：WINS サーバーがこのサービスゾーンに適用可能な場合の WINS（Windows インターネットネーミングサービス）サーバーの IP アドレスです。
- **Lease Time**：これは、DHCP サーバーから発行された IP アドレスが有効かつ使用可能な期間です。
- **Disregard Client Name**：有効にすると、IP アドレスを要求しているデバイスの名前は記録されません。一方、無効を選択すると、システムは IP アドレスを発行するときにデバイスの名前を記録します。デバイス名（ホスト名）は、**DHCP Lease** タブに表示されます。

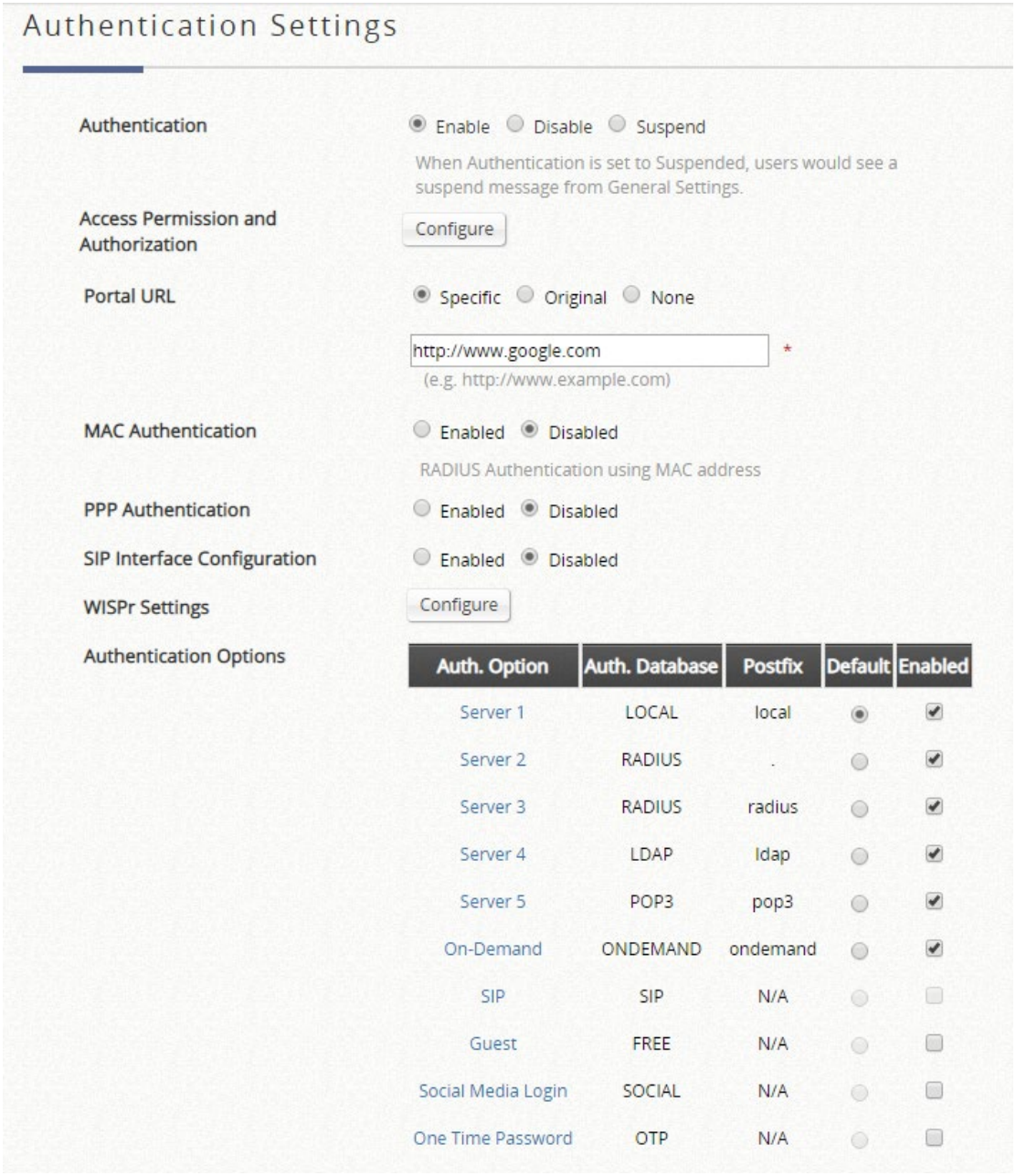
- **Reserved IP Address List**：特定のデバイス（MAC）の DHCP サーバーIP 範囲内の特定の IP を予約するための構成リスト（内部ファイルサーバーなど）です。**Configure** ボタンをクリックして、予約済み IP リストを編集します。

- **DHCP Lease Protection**：有効にすると、リース期限切れの IP が現在オンラインになっているかどうかを確認するためのコントローラのオプションのチェックメカニズムです。はいの場合、コントローラはユーザーセッションが終了するまでこの IP アドレスの発行を停止します。

➢ **Assigned IP Address for AP Management**：LAPM によって新しく検出された AP がサービスゾーンに追加されるときに管理対象 AP に IP アドレスを割り当てるための IP セグメントです。

Authentication Settings

システムは、いくつかの認証オプションをサポートしています。それは、ローカル、オンデマンド、ゲスト、ワンタイムパスワード、RADIUS、SIP、LDAP、NT ドメイン、POP3、ソーシャルメディアです。すべての認証オプションを有効にして同時に適用できます。これは、次のセクション「ユーザー」で強調します。

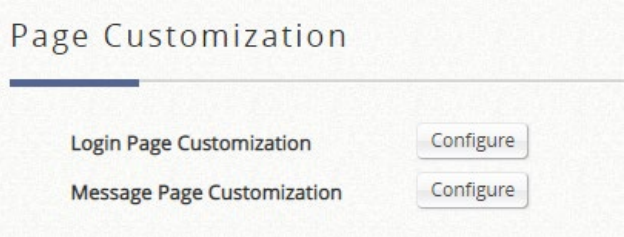


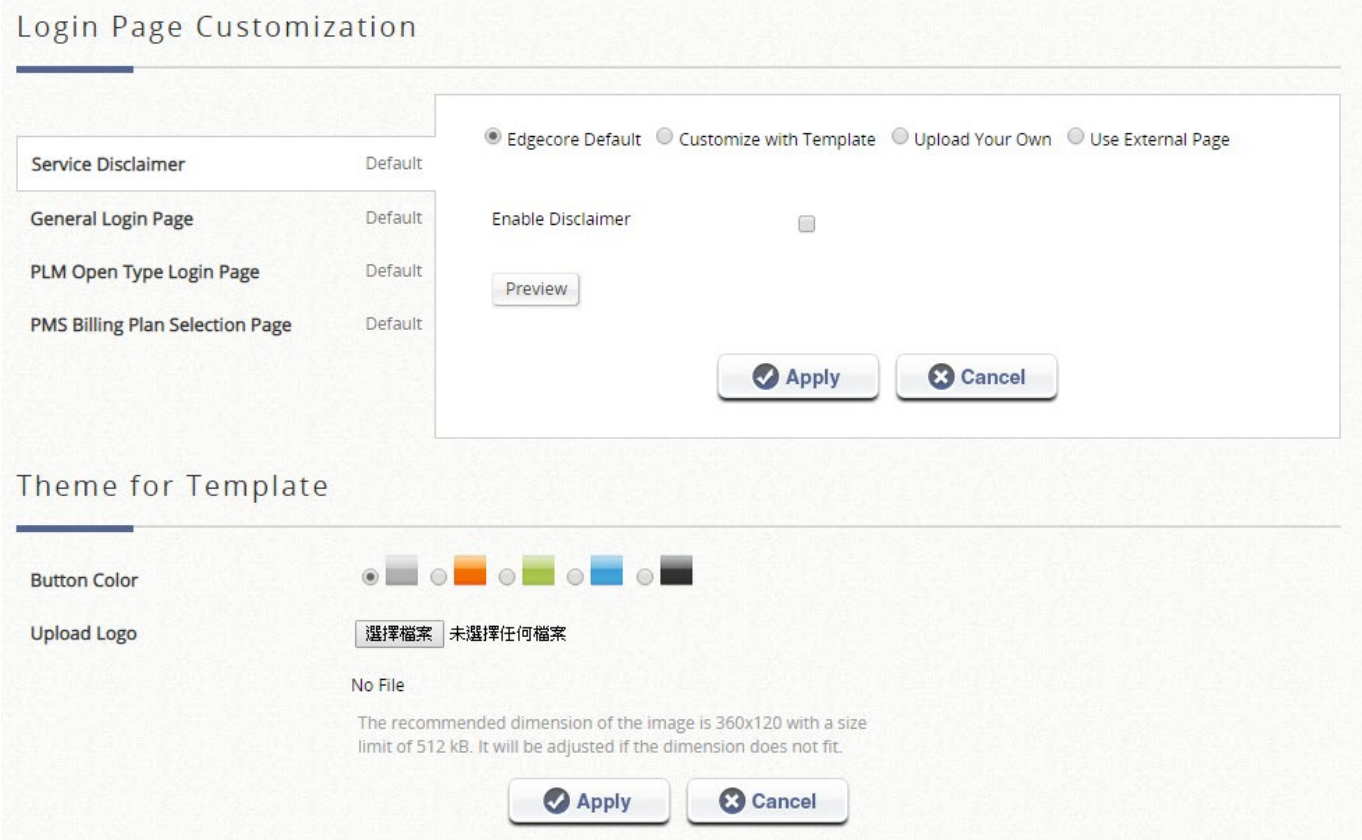
- **Authentication Options**：管理者は、使用する設定済みの認証サーバーを指定できます。複数の認証サーバーがサービスに対して有効になっている場合、接尾辞は認証サーバー識別子として使用されます。
- **Portal URL**：ここで必要なランディングページの仕様を設定できます。有効にすると、管理者はユーザーの初回ログイン後に開いたブラウザの URL を設定できます。
- **MAC Authentication**：RADIUS MAC 認証機能が有効になると、接続されたデバイスに設定された RADIUS サーバーに MAC アドレスが入力されている場合、コントローラは自動的に認証され、認証が成功するとすぐにアクセスを許可します。ユーザーは、透過的なログインを経験します。
- **PPP Authentication**：ポイントツーポイントプロトコル（PPP）とは、2 つのネットワークノード間の直接接続を確立するために一般的に使用されるデータリンクプロトコルです。この機能がサービスに対して有効になっている場合、エンドユーザーは有効なユーザー名とパスワードを使用してダイヤルアップ接続設定を設定できます（ローカルユーザーと RADIUS ユーザーのみをサポートします）。ダイヤルアップ接続が確立されると、ユーザーは UAM ログインなしで正常に認証されます。
- **Assign IP Address From**：PPP がダイヤルアップ仮想インターフェースに IP アドレスを割り当てることができる開始 IP 範囲です。割り当てられたインターフェース IP アドレスは、トンネルの両側のネットワーク間のルーティングに使用されます。

Page Customization

各サービスゾーンには、固有のログインページまたはメッセージページを持つように設定できます。ログインページには 3 つのタイプがあります。一般ログインページ、PLM オープンタイプログインページ（ポート

ロケーションマッピングの無料アクセス用)、および PMS 請求プラン選択ページです。必要に応じて、サービス免責事項ページを有効にできます。これらのページは完全にカスタマイズ可能で、管理者には完全な柔軟性を提供します。メッセージページはカスタマイズでき、メッセージページには以下が含まれます。ログイン成功ページ、オンデマンドユーザーのログイン成功ページ、ログイン失敗ページ、デバイスログアウトページ、ログアウト成功ページ、ログアウト失敗ページ、およびオンラインデバイスリストです。

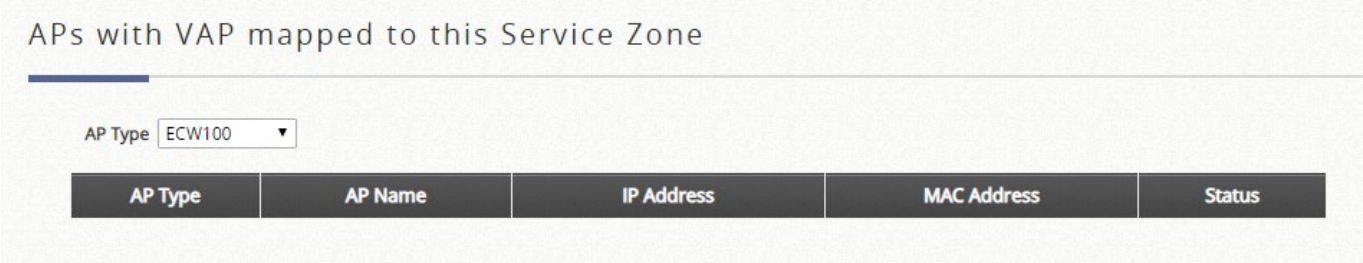




Edgecore のデフォルトページとは別に、次の 3 つのカスタマイズオプションがあります。Customize with Template（テンプレートでのカスタマイズ）、Upload Your Own（独自のアップロード）、Use External Page（外部ページの使用）です。

- **Edgecore Default**：ゲートウェイには、Edgecore ロゴが付いた標準の Edgecore デフォルトログインページがあり、管理者は必要に応じてサービス免責事項を有効にすることができます。
- **Customize with Template**：このオプションでは、管理者が簡単にカスタマイズできるようにテンプレートが用意されています。一般的なレイアウトは管理者用に設定されていますが、内容は自分の好みに合わせてカスタマイズできます。カラーテーマとロゴをアップロードし、サービス免責事項などのコンテンツフィールド、テキストカラーをテンプレート内のレイアウトに入力することができます。
- **Upload Your Own**：管理者には、ログインページとして html ファイルをアップロードするオプションがあります。「Download HTML Sample File」（HTML サンプルファイルのダウンロード）では、編集元となるサンプル HTML コードを管理者に提供します。このサンプル HTML コードをダウンロードしたら、任意のブラウザでファイルを開き、右クリックして「View Page Source」（ページソースの表示）を選択してください。ファイルが.html 形式で保存されていれば、任意のテキストエディタで HTML コードを編集できます。
- **Use External Page**：ログインページには、定義済みの外部 URL を指定できます。このオプションで

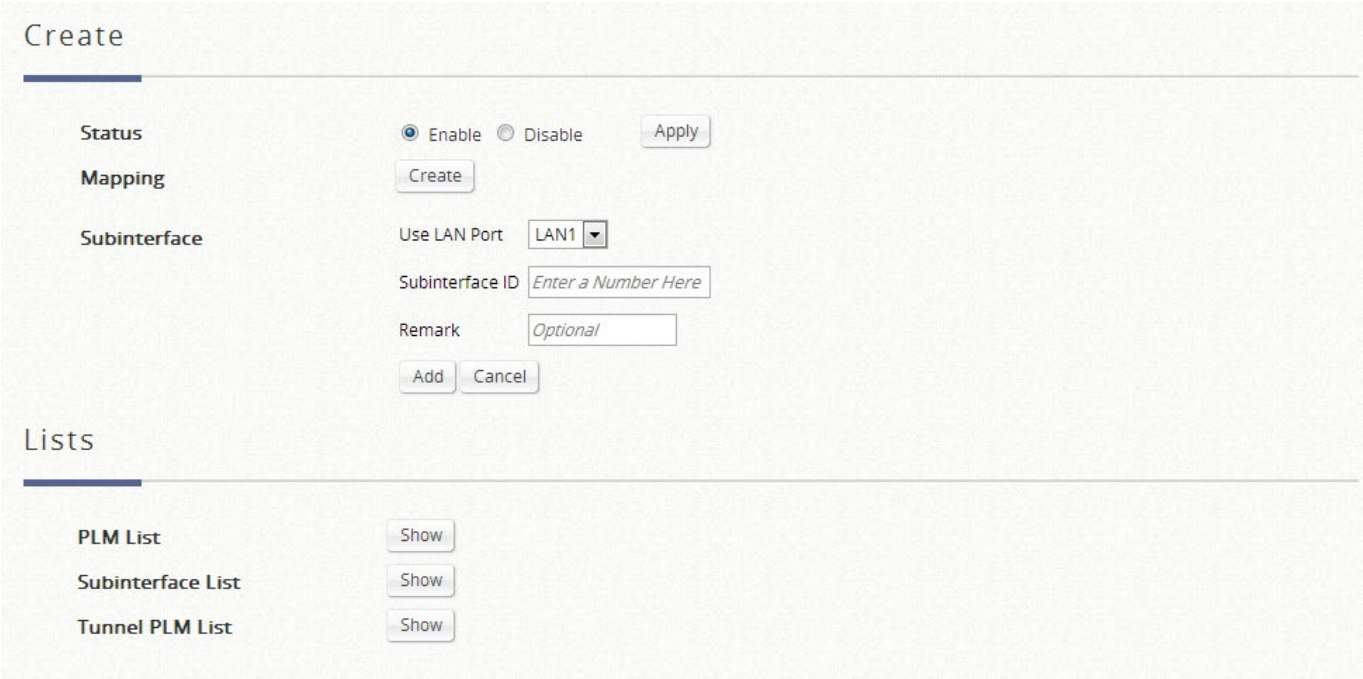
は、メッセージページと連携する URL パラメータの使用に関する広範な知識が必要であり、慎重に編成する必要があります。外部ログインページのカスタマイズの詳細については、テクニカルガイドを参照してください。



- **Managed AP(s)**：LAPM で管理され、サービスゾーンで動作する AP がここに表示されます。このリストは AP タイプ別に整理されています。AP は、AP 名のショートカットリンクをクリックして設定できます（Main > Access Points > Local Area AP Management > List > AP Configuration へのリンク）。これは概要のように機能し、管理者は一目で簡単にステータスをチェックできます。

8）Port Location Mapping

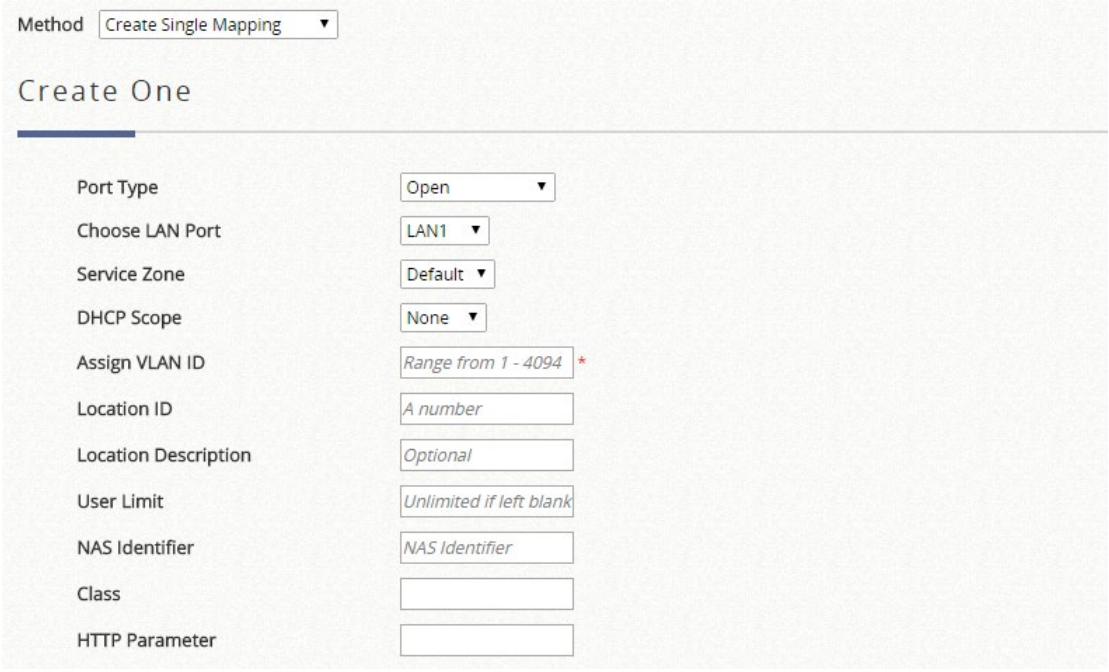
ポートロケーションマッピング機能を使用すると、各サービスゾーンが複数の VLAN を所有し（各 VLAN がポートであるかのように）、クライアントの送信元を識別できます。管理者は、ポートロケーションマッピング機能を使用して、ロケーション（ホテルの部屋など）を VLAN スイッチまたは DSLAM デバイスの VLAN ポートにマッピングできます。各部屋は VLAN タグにマッピングされます。また、各部屋を異なるサービスゾーンに割り当てて、異なるポリシーを取得することができます。さらに、アプリケーションに応じて、異なるポートタイプの部屋を設定することができます。**Authentication Required**、**Open** または **Block** です。



- **Open**：このポートタイプは、ユーザーがこの部屋で無料でインターネットにアクセスできることを意味します。

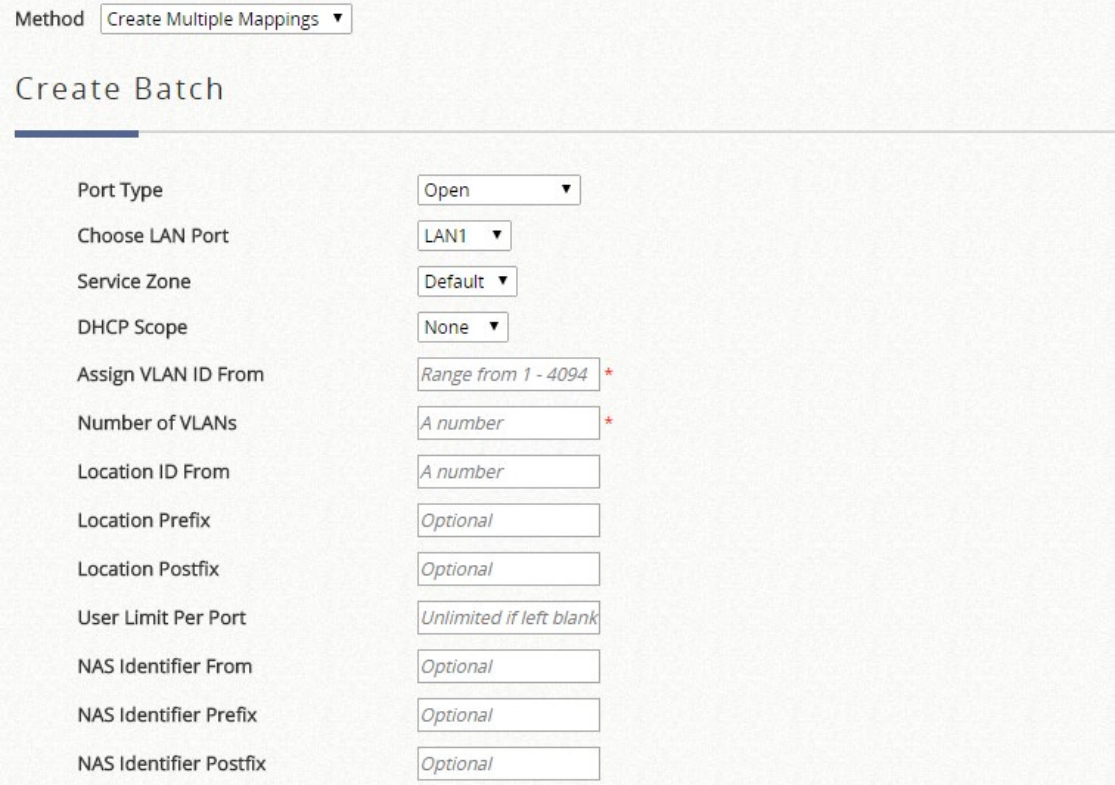
- **Block**：部屋のインターネットアクセスを提供したくない場合は、部屋のポートタイプを「**Block**」に変更できます。ユーザーがブラウザを開いてインターネットにアクセスしようとすると、ブロックメッセージがポップアップしてユーザーに通知されます。
- **Auth.Required**：このポートタイプは、主にユーザーに課金するためのホスピタリティアプリケーションで使用されます。ユーザーがブラウザを開いてインターネットにアクセスしようとすると、免責事項と請求プランのオプションを含むページが表示されます。ユーザーは、希望するプランを選択し、confirm ボタンをクリックしてアカウントを購入することができます。アカウント費用は PMS に送信され、設定されたミドルウェアを介してホテルの請求書に追加されます。

➢ **Create Single Mapping**



- **Port Type**：部屋のデフォルトの状態は、次のようになります。Open、Block、または Auth.Required です。
- **Choose LAN Port**：トラフィックを受信する LAN ポートを選択します。
- **Service Zone**：対応する場所にインターネットサービスを提供するために使用されるサービスゾーンプロファイルです。
- **DHCP Scope**： 対応するサービスゾーンから使用する DHCP プールを選択します。
- **Assign VLAN ID**： VLAN ID です。
- **Location ID**：数値の ID 番号（通常は部屋番号）です。
- **Location Description**： 参照用の説明（オプション）です。
- **User Limit**： 対応するポートのバッチ内の最大ユーザー数です
- **NAS Identifier**：RADIUS 属性のオプションパラメータです。
- **Class**：RADIUS 属性のオプションパラメータです。
- **HTTP Parameter**： 外部ログインページが設定され、追加の HTTP パラメータが必要な場合にのみ使用されます。

➢ **Create Multiple Mappings**

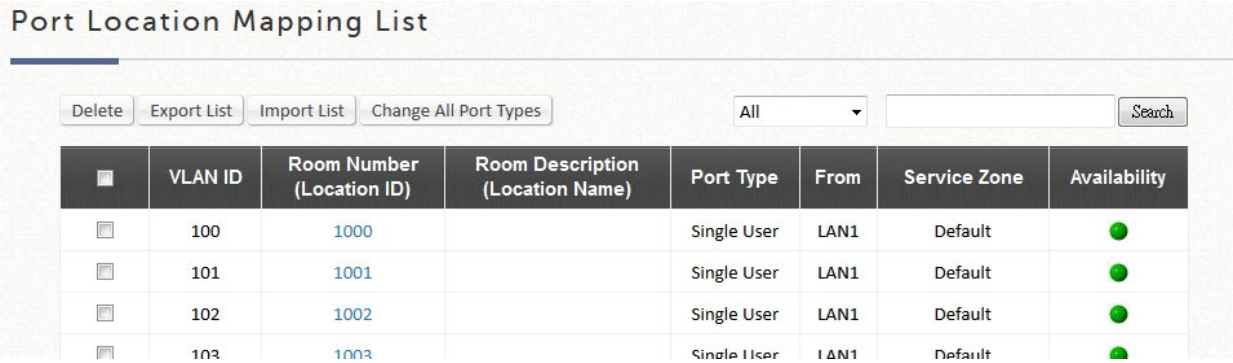


- **Port Type**：部屋のデフォルトの状態は、次のようになります。Free、Block、Single User、Multiple User です。
- **Choose LAN Port**：トラフィックを受信する LAN ポートを選択します。
- **Service Zone**：対応する場所にインターネットサービスを提供するために使用されるサービスゾーンプロファイルです。
- **DHCP Scope**： 対応するサービスゾーンから使用する DHCP スコープを選択します。
- **Assign VLAN ID From**： 開始 VLAN ID です。
- **Number of VLAN**：VLAN の合計数です。
- **Location ID**：数値の ID 番号（通常は部屋番号）です。
- **Location ID Prefix**：（部屋番号の）接頭辞です。
- **Location ID Postfix**：（部屋番号の）接尾辞です。
- **User Limit Per Port**：対応するポートのバッチ内の最大ユーザー数です。
- **NAS Identifier From/Prefix/Postfix**：オプションの RADIUS 属性です

➢ **Subinterface**

サブインターフェース ID を入力すると、複数の VLAN ヘッダーを 1 つのイーサネットフレームに組み込むことができます。この機能は、さらなる分離のために複数の VLAN ヘッダーを必要とする大規模なネットワークでよく使用されます

➢ **Port Location Mapping List**



Port Location Mapping List には、VLAN ID、Room Num/Location ID、Port Type、Service Zone などの情報を含むすべてのプロファイルエントリが表示されます。

- **Delete**：個々のポートロケーションマッピングプロファイルを消去します。
- **Export List**：存在していたポートロケーションマッピングリストをバックアップします。
- **Import List**：ポートロケーションマッピングリストを復元します。
- **Change All Port Type**：すべての部屋にポートタイプを設定します。Free、Block、Single User、Multiple User です。

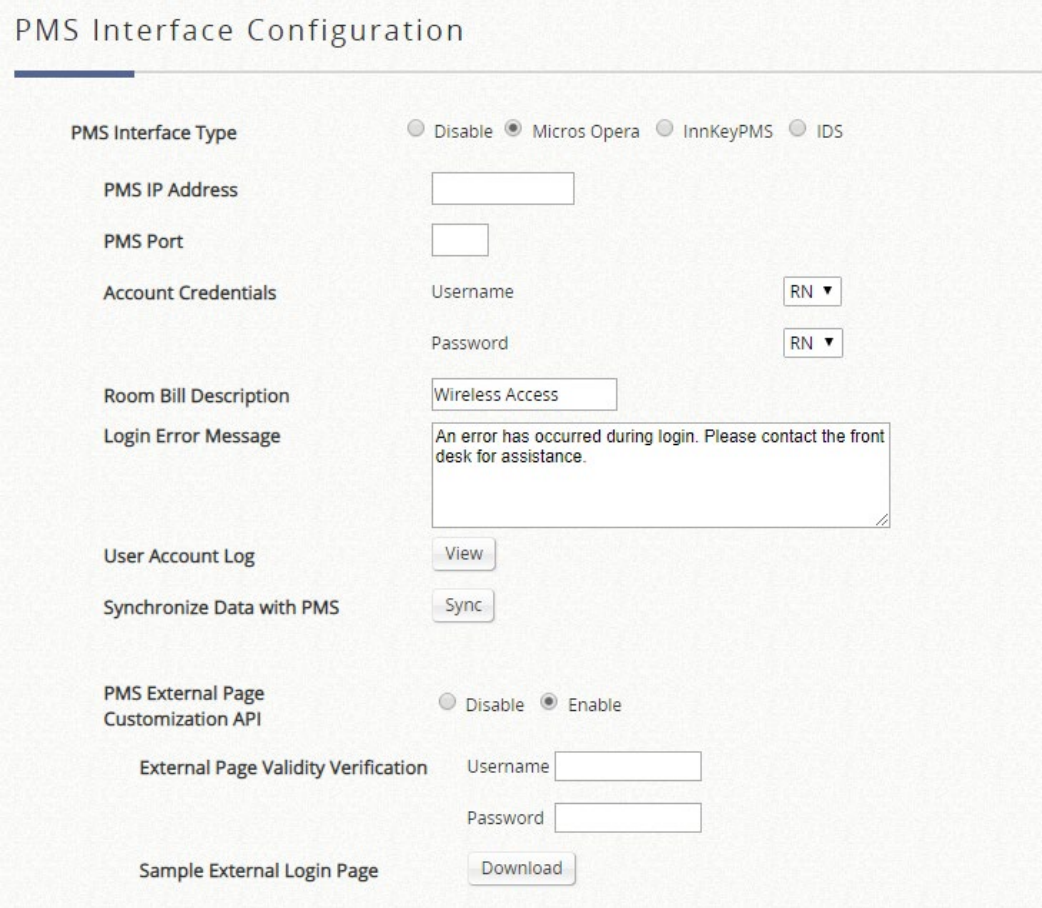
➢ **Tunnel PLM List**

リモート AP からコントローラにトンネリングされる VAP の場合、管理者は、NAS 識別子を割り当てるとともに、サービス用の IP プールを指定することもできます。

Wide Area AP Management の管理対象 AP List では、管理者は NAS 識別子を割り当て、管理対象 AP の VAP ごとにサービス用の IP プールを指定できます。これは、AP とコントローラの間にトンネルを確立するときに設定できます。

9）PMS Interface

PMS インターフェースへの接続を設定することにより、システムは、PMS サーバーからの特定のメッセージをリッスンすることができます。ホテルのゲストがインターネットアクセスのために客室料金プランを購入すると、システムは PMS サーバーに記録を転記します。



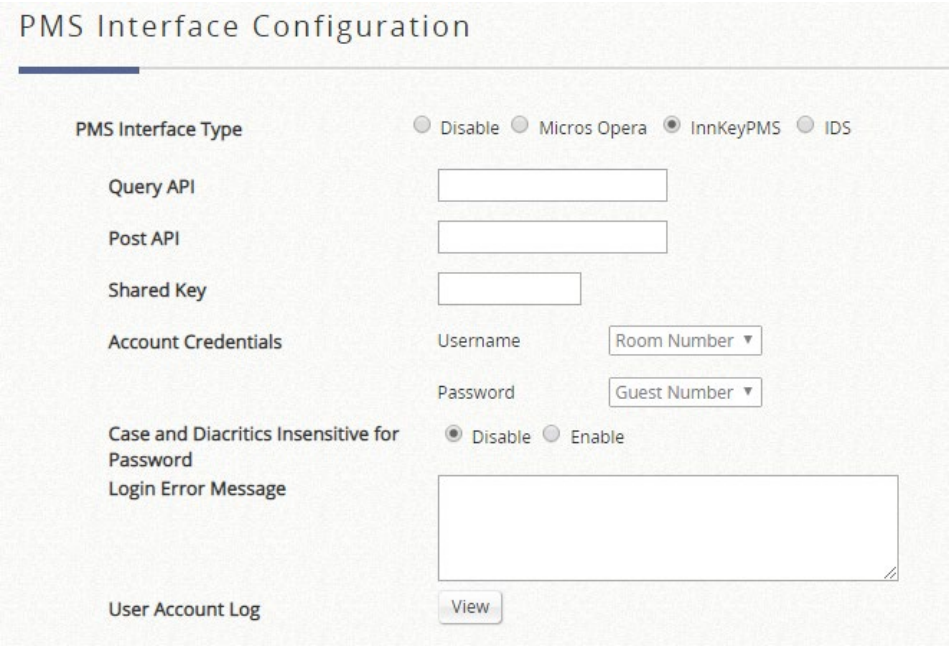
- **PMS Interface Type**：統合する PMS インターフェースタイプを選択します。

Micros Opera/IDS

- **PMS IP**：Micros Opera PMS が使用する IP を入力します。
- **PMS ポート**：Micros Opera PMS が使用するポートを入力します。
- **Account Credentials**：管理者は、RN（部屋番号）、GN（ゲスト名）、G#（ゲスト番号）、G+（プロファイル名）の組み合わせを使用して、ユーザーアカウントの資格情報を定義し、ユーザー名とパスワード情報を伝送するための Micros プロトコルパラメータを指定できます。
  - **Case and Diacritics Insensitive for Password**： ゲスト名をパスワードとして使用する場合、大文字と小文字と発音区別記号は、PMS サーバーに保存されている情報に正確に従います。大文字と小文字と発音区別記号を無視するには、このオプションを有効にします。
- **Room Bill Description**：入力した説明は、PMS 統合を介して部屋請求書に表示されます。
- **Login Error Message**：エラーメッセージの内容をカスタマイズできます。
- **User Account Log**：この機能に関連するバックグラウンドで発生したイベントは記録され、ここに表示されることがあります。
- **Synchronize Data with PMS**：「Sync」をクリックして、PMS サーバーとデータを同期し、データベースが最新の状態であることを確認します。
- **PMS External Page Customization API**：PMS API は、ログイン情報、選択された請求プラン、購入単位などにアクセスプロセスを完了することができ、カスタマイズされたログインページを備えた柔軟な実装を管理者に提供します。
  - **External Page Validity Verification**：管理者は、独自のユーザ名とパスワードを使用して、外部 Web サーバーと無線 LAN コントローラ間の API プロトコルを保護することもできます。
  - **Sample External Login Page**：管理者が簡単に統合および変更する方法を理解できるダウンロード可能な例があります。
  - すべての req_type は、Json でファイル化された「フォーマット」を使用することができます。
  - req_type=1（equals：bpinfo）は請求プラン情報を表示することができ、フィールド「all」を追加すると、非アクティブなものを含むすべての請求プランが表示されます
  - req_type=2（equals：check）利用可能な請求プラン、ユニット、および特定の請求プランを購入することが許可されているかどうかを確認し、エラーがある場合、それは管理者のためのエラーコー

ドとメッセージを返します

- req_type=3（equals：userinfo）は、ユーザーの情報とステータスを表示することができます。フィールド「all」を追加すると、カスタマイズされた属性 A0-A9 の値が表示されます。特定のフィールド（A5、A9）を追加すると、対応する値が表示されます。
- テストする前に、それは関数 send_req で使用されている無線 LAN コントローラの管理者のパスワードであることに留意してください
- 対応するサービスゾーンについては、Use External Page（外部ページの使用）を使用してログインページをカスタマイズしてください



Innkey PMS

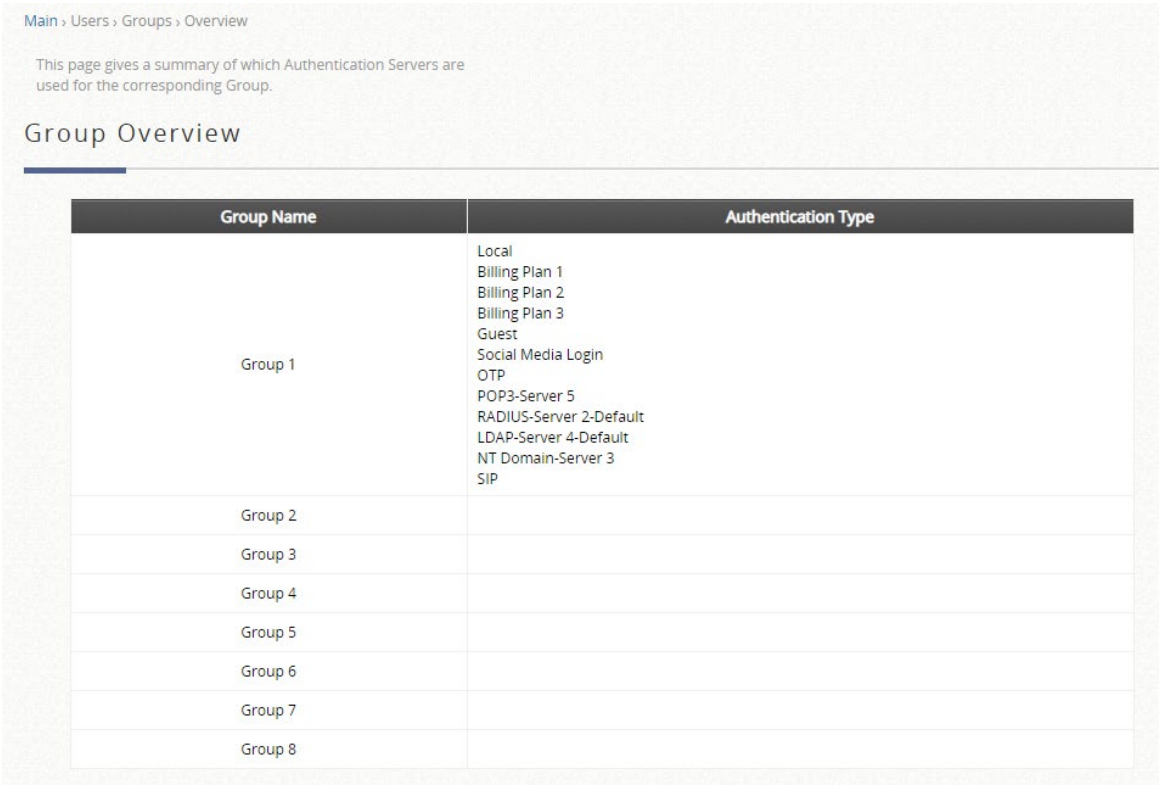
- **Query API**：クエリ API の IP を入力します。
- **Post API**：ポスト API の IP を入力します。
- **Shared Key**：Innkey PMS API の共有キーを入力します。
- **Account Credential**：部屋番号とゲスト番号は、ユーザーログイン時のユーザー名とパスワードとなります。
- **Case and Diacritics Insensitive for Password**：パスワードの確認時に大文字と小文字と発音区別記号を無視するには、このオプションを有効にします。
- **Login Error Message**：エラーメッセージの内容をカスタマイズできます。
- **User Account Log**：この機能に関連するバックグラウンドで発生したイベントは記録され、ここに表示されることがあります。

B.Users

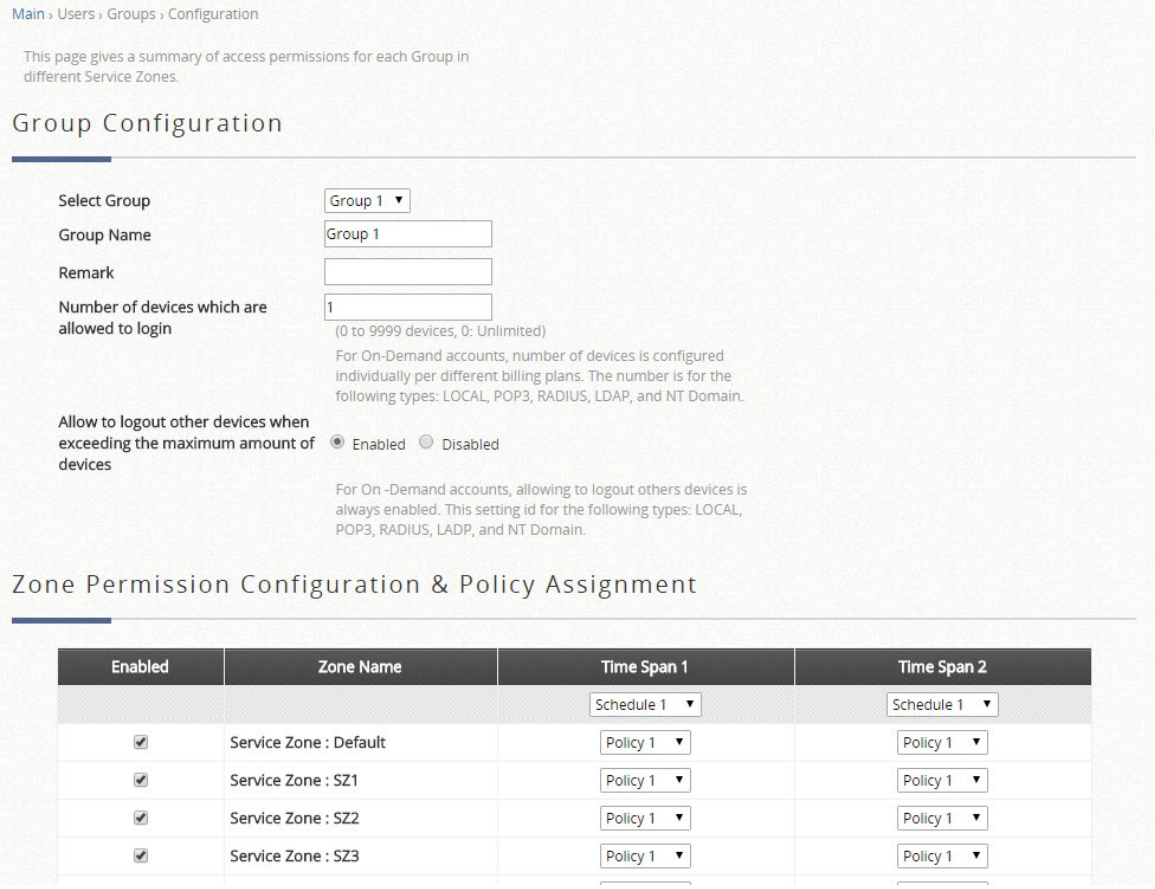
Users：このセクションは、ユーザー認証、認可、およびアカウンティングに関するものです。これには、グループ設定、内部/外部認証設定、オンデマンドアカウント、ポリシー設定、権限リストの設定、追加制御が含まれます。

1）Groups

Group Overview ページには、対応するグループで使用されている認証サーバーの概要が表示されます。



16 セットのグループオプション（モデルの依存関係）と Zone Permission Configuration & Policy Assignment をそれぞれ定義して、異なるサービスゾーン内の異なるユーザーグループのアクセス管理を強制できます。対応は「Group Configuration」ページで設定できます。



複数のデバイスが同じアカウント資格情報でログインできるようにするには、ここの「Number of devices which are allowed to login」で番号を定義します。オンデマンド認証オプションの複数のデバイスログインは、選択した請求プランで設定できます。

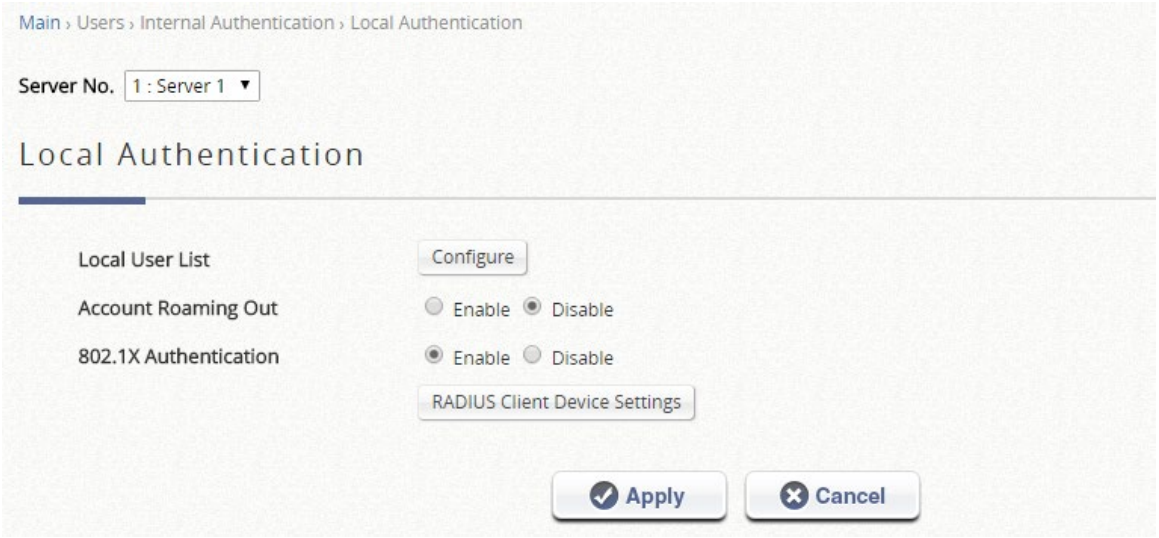
2）Internal Authentication

システムは、内部データベースと外部データベースの両方を含む複数の認証オプションをサポートしています。内部認証データベースには、「ローカル」、「オンデマンド」、「ゲスト」があります。

a) Local Authentication

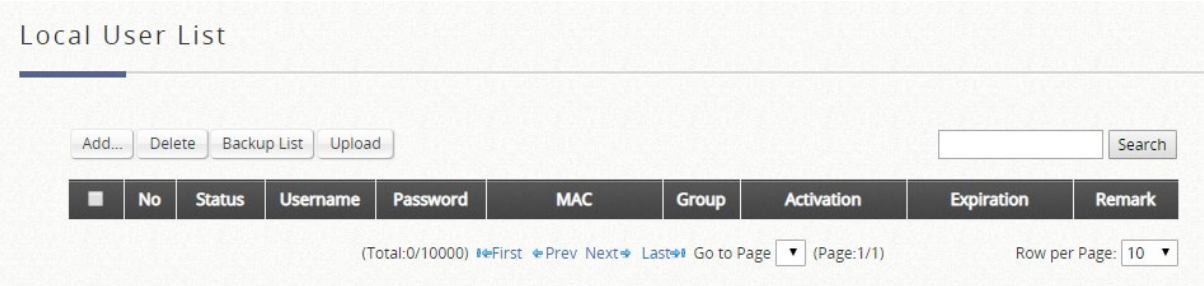
このタイプの認証方法は、ユーザー、多くの場合、スタッフと資格情報を内部的に格納するローカルデータベースをチェックします。ローカルユーザーデータベースは、管理者が手動で実行しない限り、削除されない静的アカウントを保存するように設計されています。

「ローカル」のデフォルトの認証は、認証サーバー1 に設定されています。このユーザー接尾辞は、複数のオプションが同時に使用されている場合に、特定のユーザーアカウントに対してどの認証オプションを使用するかを識別するためにシステムに使用されます。ローカルアカウントを操作するには、Local User List の「Configure」に移動します。



- **Local User List**：「Configure」をクリックして、ローカルアカウントリストを表示し、アカウントを設定します。

- **Account Roaming Out**：コントローラを外部 RADIUS 認証要求の RADIUS サーバーとして使用する場合、ローカルアカウントデータベースを有効/無効にします。
- **802.1X Authentication**：コントローラを外部 802.1X 認証要求の RADIUS サーバーとして使用する場合、ローカルアカウントデータベースを有効/無効にします。
  - **RADIUS Client Device Settings**： コントローラで RADIUS または 802.1X 認証を実行できるデバイスのクライアントリストと秘密キーを設定します。

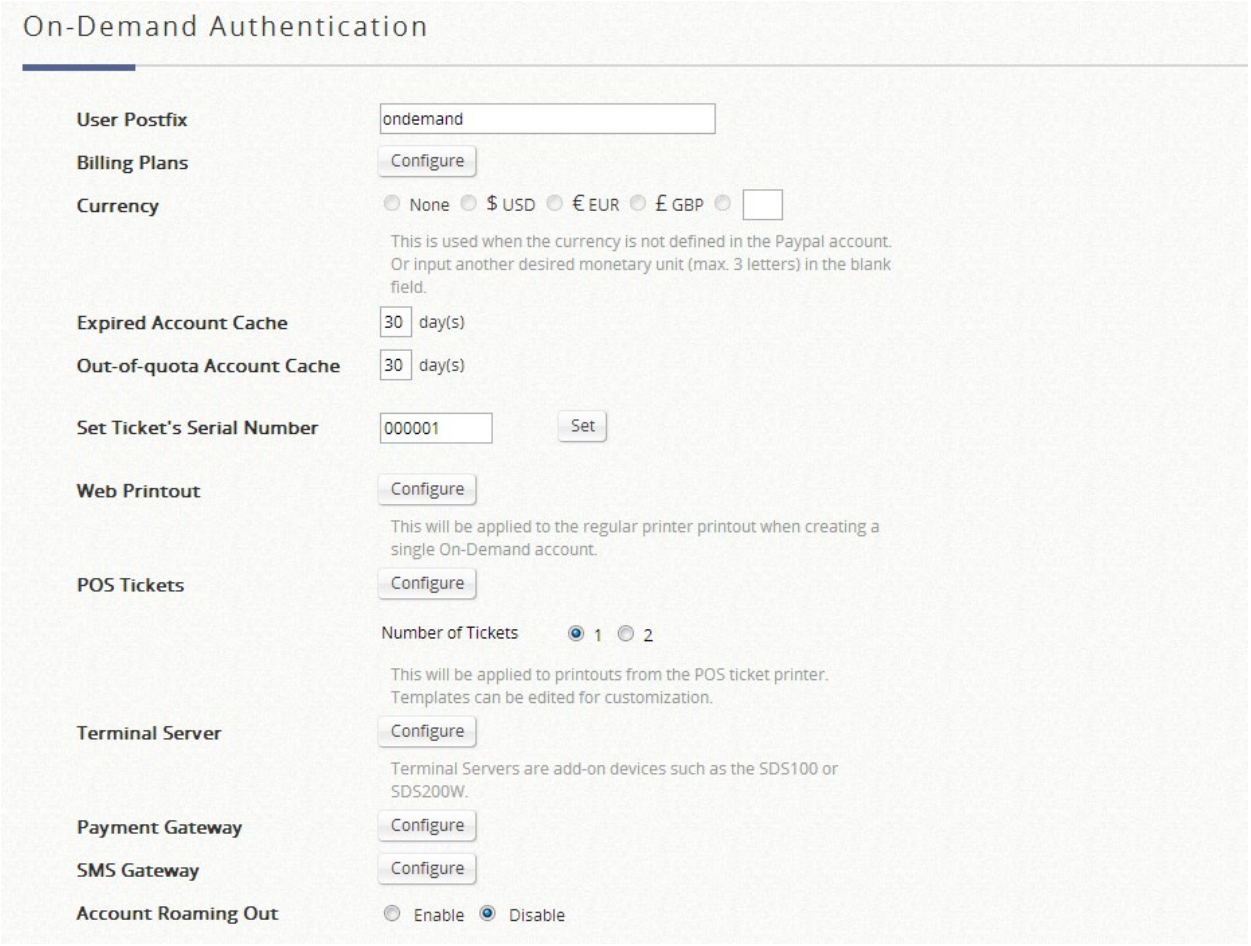


- **Add**：ユーザー名、パスワード、MAC アドレス、グループ、アカウントスパン、および備考などのアカウント情報を持つ 1 つまたは複数のアカウントを作成します。
- **Delete**：個別に削除でき、または「すべて選択」チェックボックスを選択することで、全部に削除することもできます。
- **Backup**：ユーザーの資格情報を CSV 形式のテキストファイルとして新しいウィンドウにエクスポートします。
- **Upload**：アカウントをローカルユーザーデータベースにインポートし、大量のローカルアカウントを作成する便利な方法です。
- **Edit Account Information**：既存のユーザーアカウントの場合、ページ上のユーザー名のハイパーリンクをクリックするだけで、アカウント属性を再設定し、さらに変更を加えることができます。

- **Username**：新しいローカルアカウントのユーザ名です。新しいアカウントを追加するときは必須です。
- **Password**：新しいローカルアカウントのパスワードです。新しいアカウントを追加するときは必須です。
- **MAC Address**：指定された MAC アドレスを持つデバイスを使用してのみアクセスを許可できるという条件の下で、この特定のアカウントをバインドします。
- **Group**：作成するアカウントのグループプロファイルです。
- **Account Span**：このアカウントに強制される時間制約です。
- **Remark**：管理者が強調したい追加のメモです。これは、ユーザーリストに表示されます。

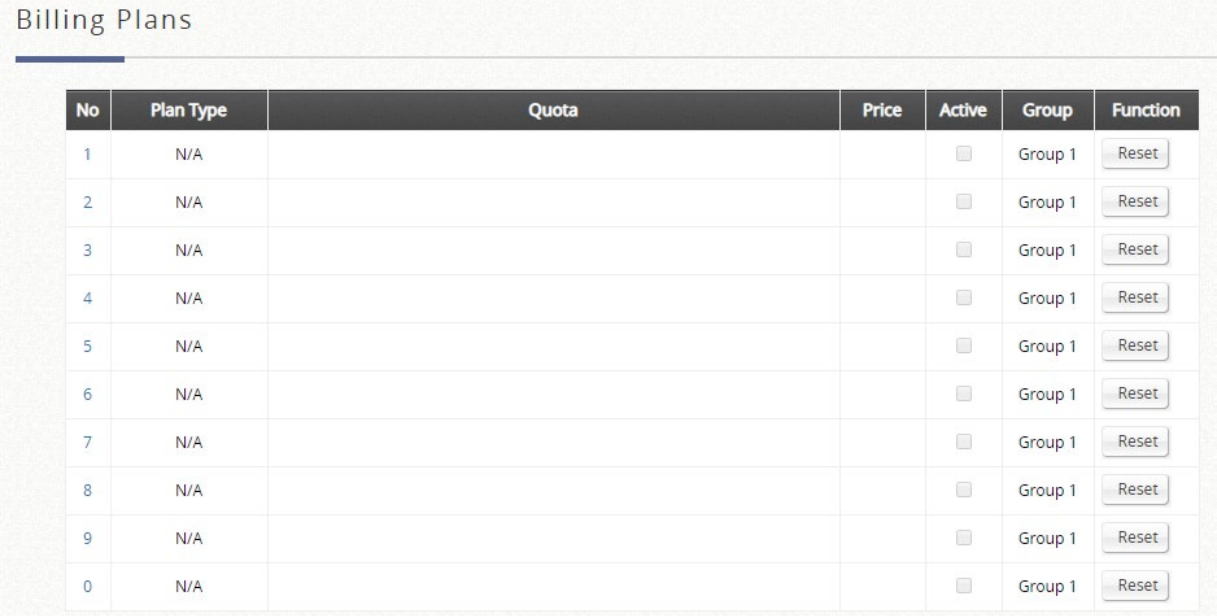
b) On-Demand Authentication

オンデマンド認証オプションは、通常、パブリックホットスポットなどの短期的な使用に使用されます。オンデマンド認証オプションに関連する設定は、請求プランプロファイル、POS チケットのカスタマイズ、ターミナルサーバーリスト、外部支払いゲートウェイの設定など、ここで設定できます。



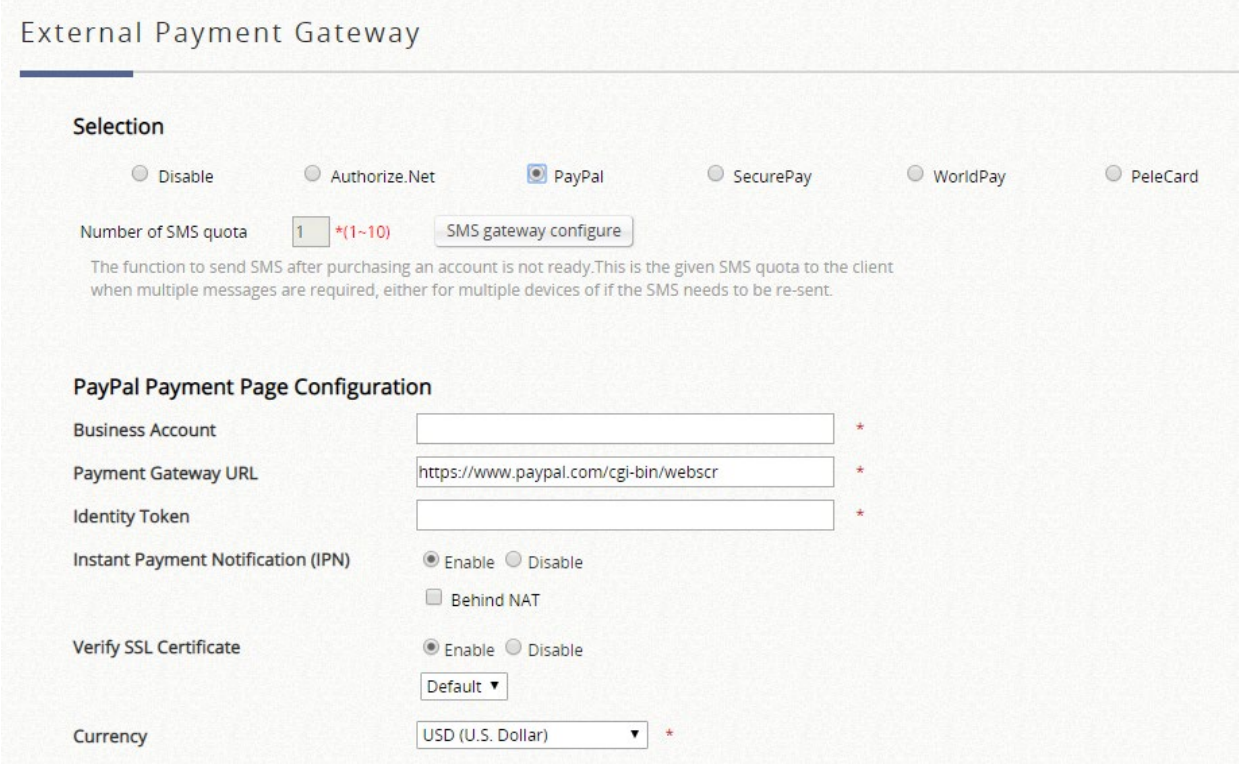
- **User Postfix**：このユーザー接尾辞は、複数のオプションが同時に使用されている場合に、特定のユーザーアカウントに対してどの認証オプションを使用するかを識別するためにシステムに使用されます。
- **Billing Plans**：「Configure」ボタンをクリックして、請求プランを編集します。
- **Currency**：各オンデマンド資格情報の価格を示します。
- **Expired Account Cache**：すでに期限切れになっているため、データベースからオンデマンドアカウントを排除する日間です。
- **Out-of-quota Account Cache**：すでにクォータが不足しているため、データベースからオンデマンドアカウントを排除する日間です。
- **On-Demand Access Code**：ユーザー名とパスワード以外のアクセスコードを使用したオンデマンドユーザーのログインを許可/禁止します。
- **Smart Login**：オンデマンドユーザーのログインを特定の期間内に自動的に許可/禁止します。
- **Set Ticket's Serial Number**：次の POS チケットの印刷のシリアル番号を設定します。
- **Web Printout**： オンデマンドアカウントを 1 つ作成するときにアカウント情報ページをカスタマイズするには、「Configure」ボタンをクリックします。また、ここで結果をプレビューすることもできます。
- **POS Tickets**： POS プリンタで印刷するアカウントチケットをカスタマイズするには、「Configure」ボタンをクリックします。
- **POS Printer**：POS プリンタを追加/削除するには、「Configure」ボタンをクリックします。
- **Payment Gateway**：「Configure」ボタンをクリックして、支払いゲートウェイインターフェースを設定し、ユーザーが自分でアカウントを購入することができます。
- **SMS Gateway**： SMS ゲートウェイの統合を設定するには、「Configure」ボタンをクリックします。オンデマンドアカウント情報は、アカウント作成時に SMS メッセージで送信できます。
- **Email Verification**：「Configure」ボタンをクリックして、メール認証機能を設定します。ユーザーは、電子メールで送信されたリンクを有効にすることで、アカウントの追加のクォータにアクセスできます。
- **Account Roaming Out**：コントローラを外部 RADIUS 認証要求の RADIUS サーバーとして使用する場合、オンデマンドアカウントデータベースを有効/無効にします。
  - **RADIUS Client Device Settings**：コントローラで RADIUS または 802.1X 認証を実行できるデバイスのクライアントリストと秘密キーを設定します。

Billing Plans



最大 10 件の請求プランを設定できます。請求プランには、次の 4 種類があります。使用時間、ボリューム、ホテルカットオフ時間、継続時間です。請求プランタイプの概念については、付録 D を参照してください。

Payment Gateway



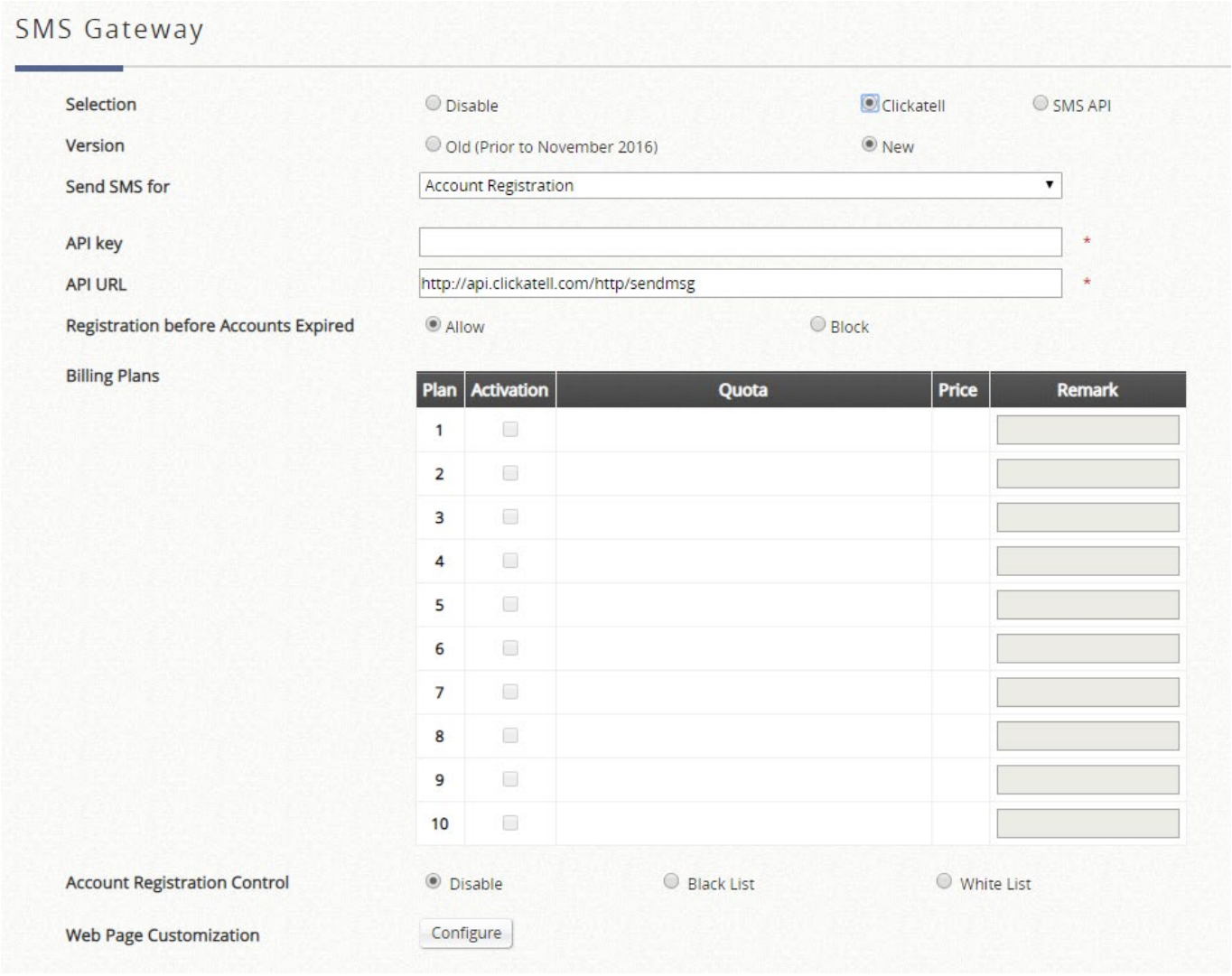
- **Payment Page Configuration**：支払いゲートウェイの種類によって、記入すべき情報が異なります。これらの情報は、支払いゲートウェイのアカウントで見つけることができます。
- **Instant Payment Notification (IPN)**：（Paypal のみ）IPN を有効にすると、Paypal は取引が発生したときにコントローラに通知を送信します。コントローラの WAN IP が NAT の下にある場合、支払いエンドユーザーが取引結果を受け取るには、IP 転送情報を設定する必要があります。
- **Choose Billing Plans for Payment Page**：ユーザーがアカウントを購入するときに利用可能な請求プラ

ンを選択します。

- **Web Page Customization**： 「Configure」をクリックして、サービス免責事項ページ、請求プラン選択ページ、およびアカウント認証ページをカスタマイズします。

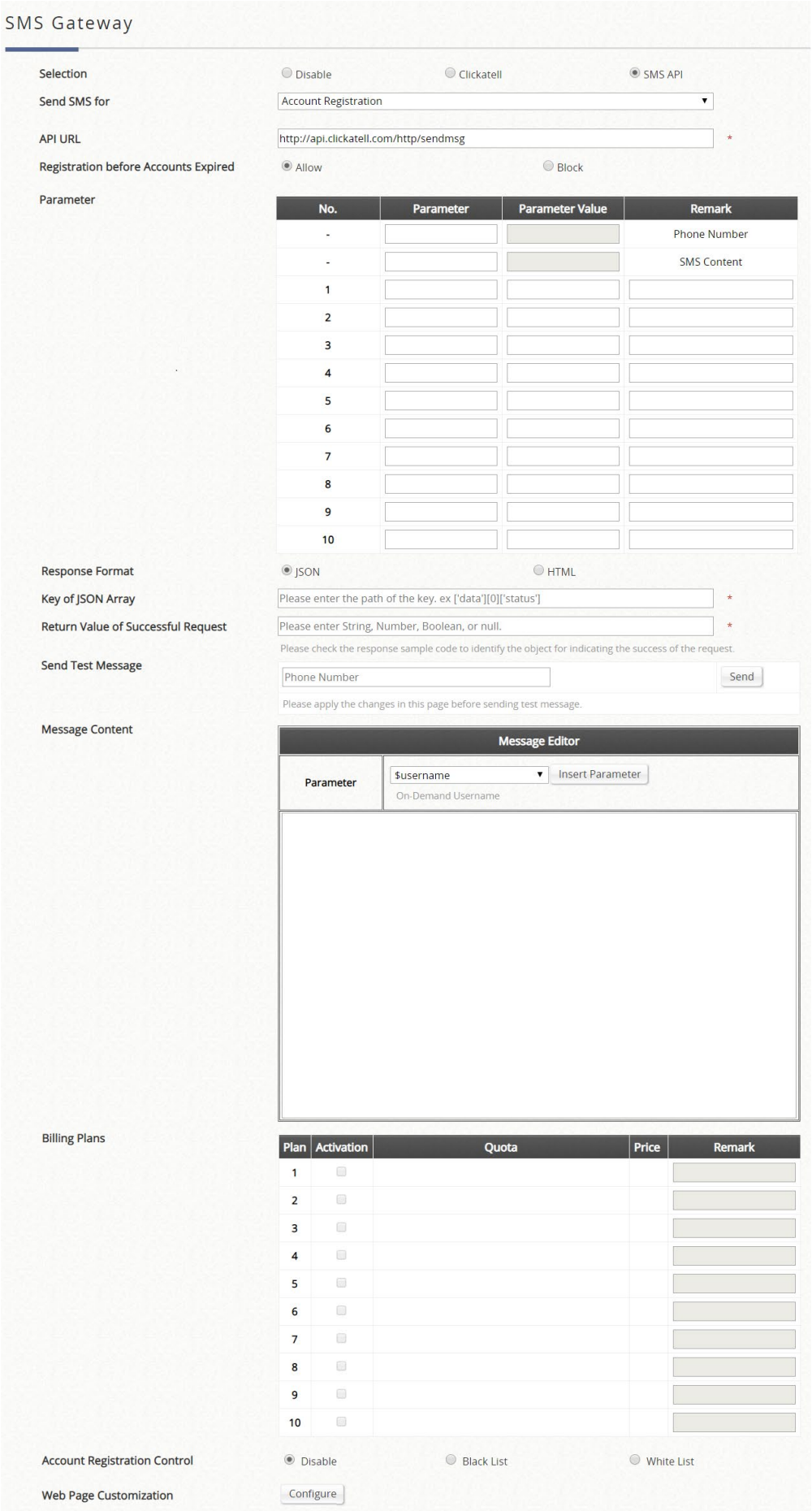
SMS Gateway

- **Selection**：統合する SMS ゲートウェイのタイプを選択します。
  - **Clickatell**：SMS メッセージを送信するために Clickatell API で接続します。
  - **SMS API**：SMS ゲートウェイの HTTP API と統合するための汎用オプションです。コントローラは、パラメータが設定された指定の API URL に HTTP リクエストを送信し、リクエストが成功したかどうかを定義されたパターンで識別します。
- **Version（Clickatell のみ）**：旧バージョン（2016 年 11 月以前）は、REST プロトコルの Clickatell API を API ID、ユーザー名、パスワードの JSON 形式で提供しています。新バージョンは、統合のために HTTP プロトコルの API キーのみが必要となります。
- **Send SMS for**：コントローラが SMS メッセージを送信する条件を選択します。
  - **Account Registration**：ユーザーが自己登録し、SMS 経由で Wi-Fi アカウントを受信できるようにします。
  - **Account Purchases via Payment Gateway**：オンライン支払いゲートウェイ経由でオンデマンドアカウントを購入した Wi-Fi ユーザーに対して、SMS 機能を有効にします。彼らは SMS を使用して購入したアカウントを自分のモバイルデバイスに送信するオプションが与えられます。
  - **Both**：両方のオプションを有効にします。
- **API Key（Clickatell のみ）**：特定の統合サービスの呼び出しとロック解除に使用される Clickatell API の認証キーです。
- **API URL**：SMS リクエストを Clickatell API サーバーに送信するためのリンクです。デフォルトは http://api.clickatell.com/http/sendmsg です。
- **Registration before Accounts Expired**：Allow を選択すると、1 つ目のアカウントの有効期限が切れていないか、まだ使用されていない場合でも、同じ携帯電話番号で 2 つ目のオンデマンドアカウントを申請できます。Block を選択すると、1 つ目のアカウントの有効期限が切れた後に 2 つ目のオンデマンドアカウントを送信するようにユーザーを制限します。



- **Parameter（SMS API のみ）**：SMS リクエストを送信するための API パラメータと値です。
- **Response Format（SMS API のみ）**：JSON または HTML です。選択された選択肢は、SMS サービスによって提供される応答のタイプによって異なります。応答形式は、SMS テキストメッセージが正常に送信されたかどうかを判断するために無線 LAN コントローラによって使用されます。
- **Key of JSON Array（SMS API のみ）**：SMS リクエストの応答からの値のキーパスを JSON 形式で指定します。例：['data'][0]['status']
- **Return Value of Successful Request（SMS API のみ）**：成功した応答のテキストをここに入力します。
- **Send Test Message（SMS API のみ）**：携帯電話番号が入力され、「テスト」の SMS メッセージが送信されます。SMS メッセージの送信時に、オンデマンドアカウントは作成されません。「Test」ボタンを使用して、SMS リクエストのトラブルシューティングや、SMS プロバイダから送信された応答メッセージの表示を行うことができます。
- **Message Content（SMS API のみ）**：Message Editor ボックスで、Wi-Fi ユーザーが受信する SMS テキストメッセージをカスタマイズします。ユーザー名、接尾辞のないユーザー名、パスワード、クォータの説明など、作成したオンデマンドアカウントに関する 4 つのパラメータを入力できます。

パラメータ	定義
$username	作成したオンデマンドアカウントのユーザー名です。
$Username_without_postfix	$username と同じですが、接尾辞はありません。
$password	作成したオンデマンドアカウントのパスワードです。
$quota	作成したオンデマンドアカウントのクォータの説明です。

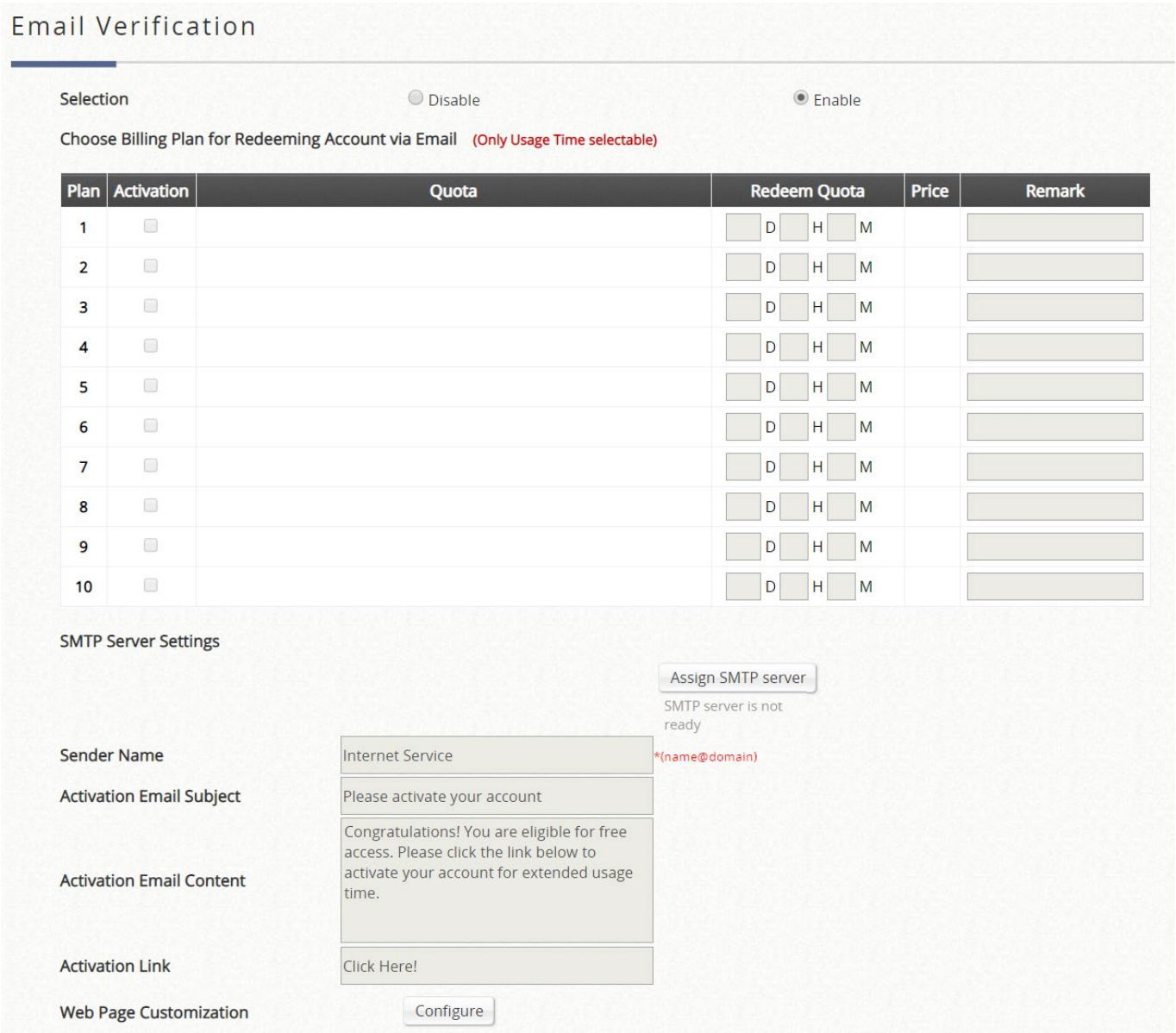


- **Billing Plans**：作成された「アクティブ」な請求プランが表示され、SMS 経由でオンデマンドアカウントを作成するために使用されます。少なくとも 1 つの請求プランを選択する必要があります。
- **Account Registration Control**：Disable、Black List、White List を選択します。指定されている携帯電話

番号のみを制限または許可しない場合は、Disable にします。Black List は、登録から特定の携帯電話番号を拒否します。White List は、特定の携帯電話番号のみ登録できます。

- **Web Page Customization**：Default、Customize with Template（テンプレートでのカスタマイズ）、Upload Your Own（独自のアップロード）、Use External Page（外部ページの使用）オプションを使用して、サービス免責事項および請求プランの選択ページをカスタマイズします。

Email Verification

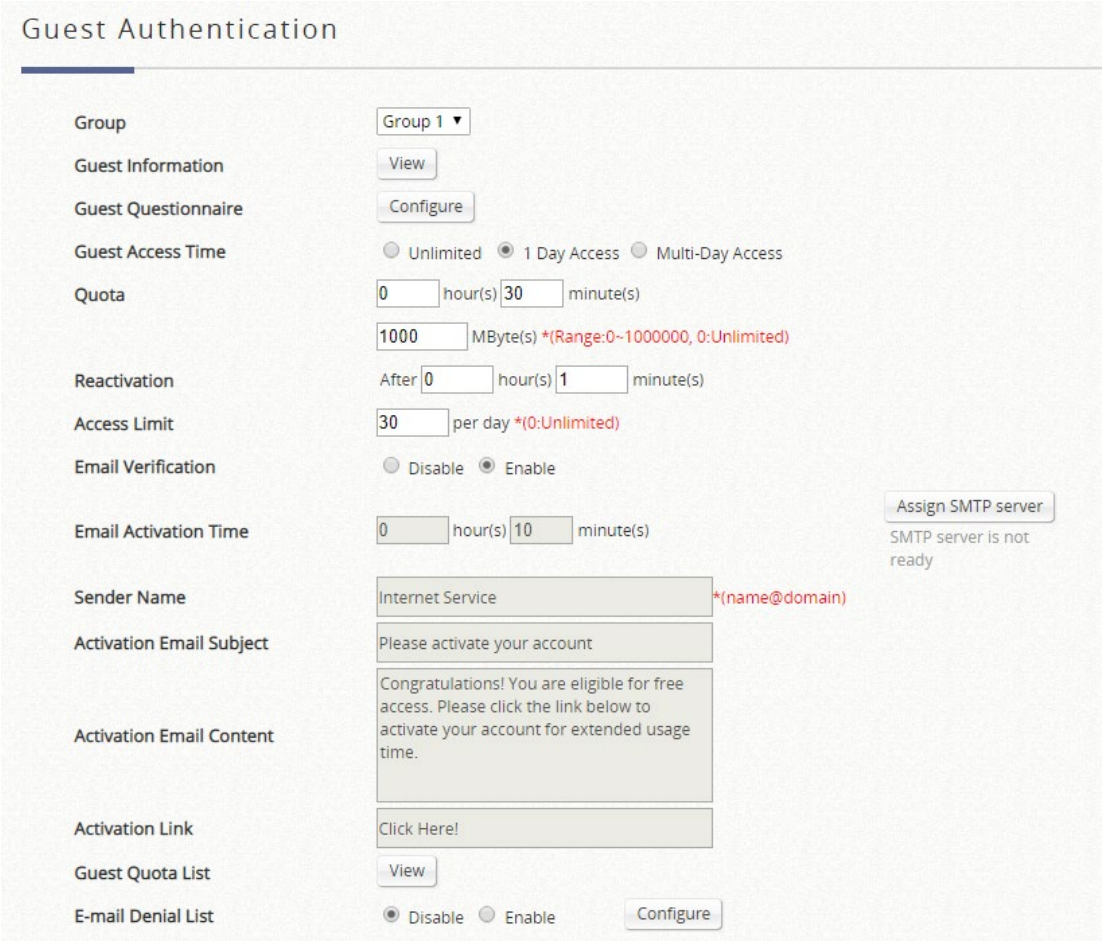


- **Selection**： この機能を有効または無効にします。
- **Choose Billing Plan for Redeeming Account via Email (only Usage Time Selectable)**：設定済みの請求プランを選択し、使用時間タイプの請求プランのみがこの機能をサポートします。
  - **Activation**：メール検証機能を許可する請求プランを選択します。
  - **Quota**：各請求プランの現在の概要を表示します。
  - **Redeem Quota**：引き換え時に追加で使える使用時間です。
  - **Price**：各請求プランの現在の価格を表示します。
  - **Remark**：ウォールド・ガーデンの各エントリーのアイデンティティを示すためのカスタムフィールドです。
- **SMTP Server Settings**：引き換えクライアント用のメールを送信するための SMTP サーバーを割り当てます。この SMTP は、ゲスト電子メール検証と共有されます。
- **Sender Name**：クライアントのメールボックスに表示される送信者名です。

- **Activation Email Subject**：クライアントのメールボックスに表示されるカスタマイズ可能な電子メールの件名です。
- **Activation Email Content**：クライアントのメールボックスに表示されるカスタマイズ可能な電子メール内容（最大 2000 文字）です
- **Activation Link**：クライアントの電子メールでアカウントを引き換えるためのハイパーリンク付きの名前です。
- **Web Page Customization**：カスタマイズされたタイプは選択可能ですが、Edgecore Default と Customize with Template（テンプレートでのカスタマイズ）のみのサポートとなっています。

c) Guest Authentication

ゲスト認証オプションは技術的にはユーザーデータベースではなく、ユーザーがユーザーアカウントやパスワードなしでネットワークにアクセスして閲覧できるように特別に設計されたオプションです。この機能により、ユーザーは特定のサービスゾーンに関連付けて、ゲストメールや管理者が定義した社会保障番号などのゲストアンケートによって指定されたテキスト文字列を入力し、実際の認証なしでネットワークを利用することができます。



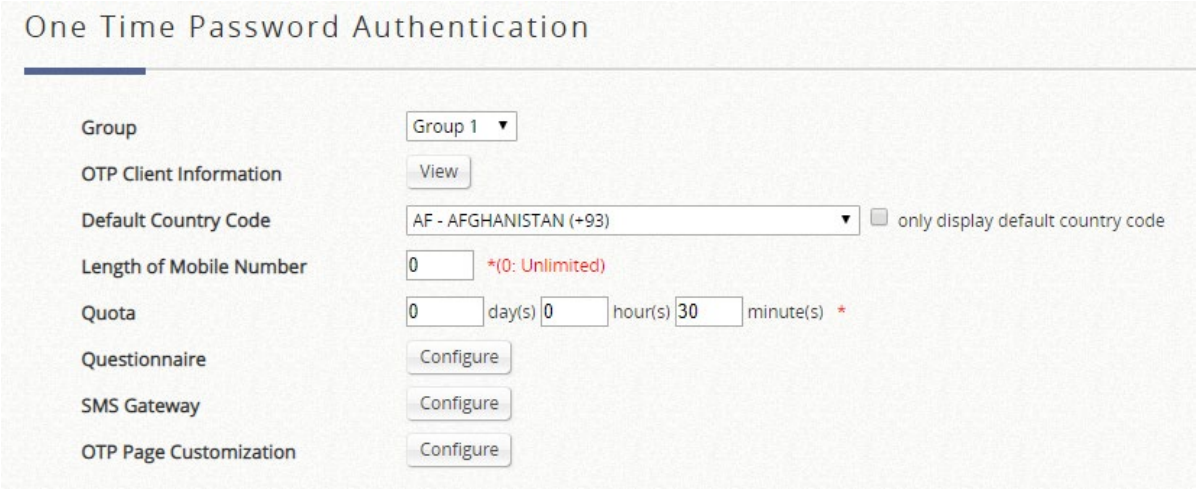
- **Group**：ゲストログインクライアントが属するユーザーグループです。特定のサービスゾーンにマッピングし、ユーザーポリシープロファイルの制限を適用できます。
- **Guest Information**：アカウントの一部の情報は、管理者のさらなる分析やマーケティングの目的で利用可能です。アカウントの電子メールやその他のアンケートが有効なフィールドは、管理者のデータ操作のためにダウンロードできます。エントリは自動的にクリアされませんが、残り 1000 エントリ（11000/12000、最大 12000 エントリ）のときにメールで通知するようにしています。
  - **Download**：管理者は、収集したゲスト情報をダウンロードできます。

- **Delete All**：管理者は、保存されたデータをすべて削除できます。管理者は、エクスポート後にすべてのエントリを削除して、リストを最新の状態に保つことができます。

- **Questionnaire**：管理者がゲストログイン用のログインページで追加の質問をカスタマイズできるオプションに提供します。ゲストユーザーからのアクセス情報が収集され、Guest Information リストに表示されます。
- **Guest Access Time**：MAC アドレスに基づいてユーザーの時間制約を定義します。
  - **Unlimited**： 許容の使用時間に制限はありません。
  - **1 Day Access**：クライアントは、使用時間の制約で強制されます。
  - **Multi-Day Access**：クライアントは、使用時間の制約で強制されます。
- **Quota**：各ゲストクライアントに対して許可される期間と量です。
- **Reactivation（1 Day Access のみ）**：時間が経過すると、新しいセッションを定義することが可能になります。
- **Access Limit（1 Day Access のみ）**：デバイスが 1 日に無料アカウントを要求できる回数を定義します。
- **Email Verification**： 入力された電子メールが有効な電子メールアドレスであることを確認します。クライアントはメールサーバーから送信されたメール内のリンクをクリックすることで、アクティベーション時間内にこのアカウントをアクティブにして、使用時間を延長する必要があります。アクティベーションは単なるタイマーであり、アカウントのクォータには追加されないことに注意してください。
- **SMTP Server Settings**：引き換えクライアント用のメールを送信するための SMTP サーバーを割り当てます。この SMTP は、オンデマンド電子メール検証と共有されます。Gmail を SMTP サーバーの例とすると、設定は以下のとおりです。
  - **SMTP server address**：smtp.gmail.com
  - **SMTP port**： 465
  - **Encryption**：SSL
  - **Authentication: Login**：アカウント名：管理者の Gmail メールアドレス
  - **Authentication: Login**： パスワード：管理者の Gmail メールのパスワード
  - **Sender Email Address**：管理者の Gmail メールアドレス。
- **Sender Name**：クライアントのメールボックスに表示される送信者名です。
- **Activation Email Subject**：クライアントのメールボックスに表示されるカスタマイズ可能な電子メールの件名です。
- **Activation Email Content**：クライアントのメールボックスに表示されるカスタマイズ可能な電子メール内容（最大 2000 文字）です。
- **Activation Link**：クライアントの電子メールでアカウントを引き換えるためのハイパーリンク付きの名前です。
- **Guest Quota List**：アクセスを制限されたゲストアカウントの残りの許容回数を MAC アドレスと電子メールアドレスで確認できます。（毎日午前 0 時に自動的に更新され、最大値に達すると最も古いエントリは削除されます。）
- **Email Denial List**：迷惑メールボックスの防止が必要な場合は、電子メールドメインにログイン許可を確認します。

d) One Time Password

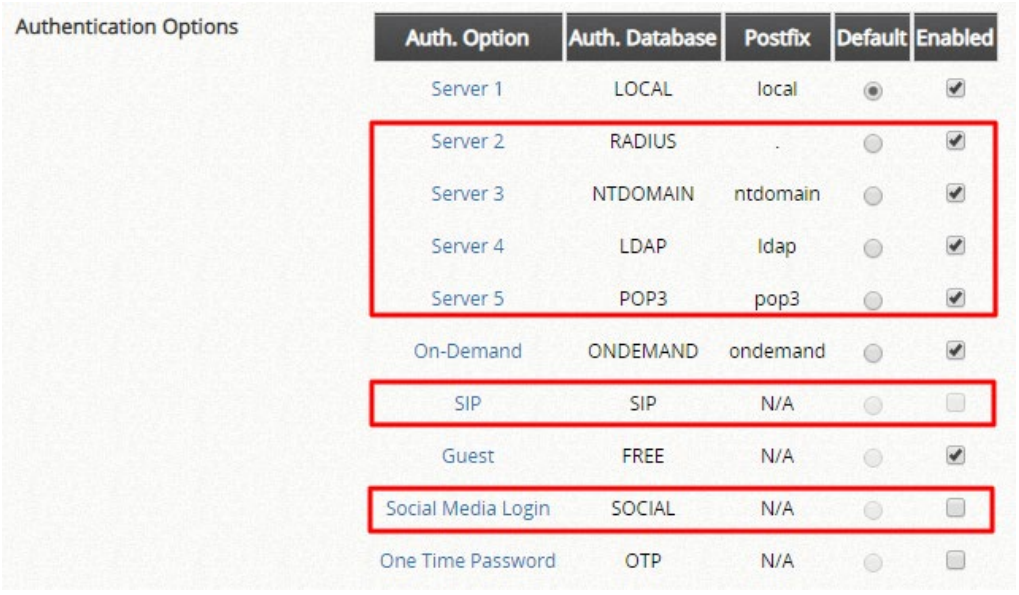
ワンタイムパスワード（OTP）認証オプションの場合、クライアントは自分の携帯電話番号を入力し、認証ページに入力するために必要なワンタイムパスワードを含む SMS メッセージを受信することで、インターネットにアクセスできます。その後、クライアントはインターネット閲覧を始めることができます。



- **Group**：OTP 認証クライアントは、各サービスゾーンで設定されたユーザーポリシーによって適用されます。
- **OTP Client Information**：ワンタイムパスワードを尋ねたクライアントの情報です。
  - **Download**：管理者は、収集した OTP クライアントの情報をダウンロードできます。
  - **Delete All**： 管理者は、保存されたデータをすべて削除できます。管理者は、エクスポート後にすべてのエントリを削除して、リストを最新の状態に保つことができます。
- **Default Country Code**：ログインページに表示されるデフォルトの国コードを設定します。
- **Length of Mobile Number**：携帯電話の番号形式を桁数で設定します。
- **Quota (Duration Time)**：OTP 認証クライアントの期間を指定します。最大所要時間は 364 日 23 時間 59 分です。
- **Questionnaire**： OTP 登録ページに表示された 5 つのエントリです。
- **SMS Gateway**：Clickatell（レガシー/新規）、SMS API（テキスト内容のカスタマイズを確認）、関連設定については、オンデマンドユーザーデータベースの SMS ゲートウェイ設定を参照してください
- **Web Page Customization**：カスタマイズされたタイプは選択可能ですが、*Edgecore Default* と *Customize with Template*（テンプレートでのカスタマイズ）のみのサポートとなっています。

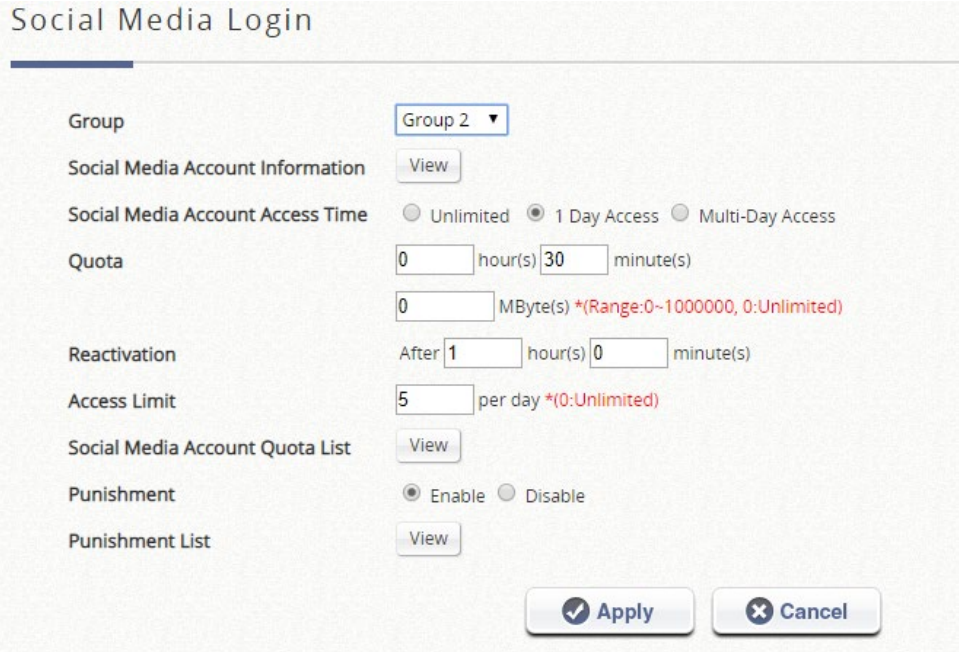
3）External Authentication

最大 5 台の外部認証サーバーを同時に設定し、有効にすることで、ネットワーク上の既存のユーザーアカウントデータベースを容易にできます。外部認証オプションには、RADIUS、POP3、LDAP、NT ドメイン、SIP などがあります。



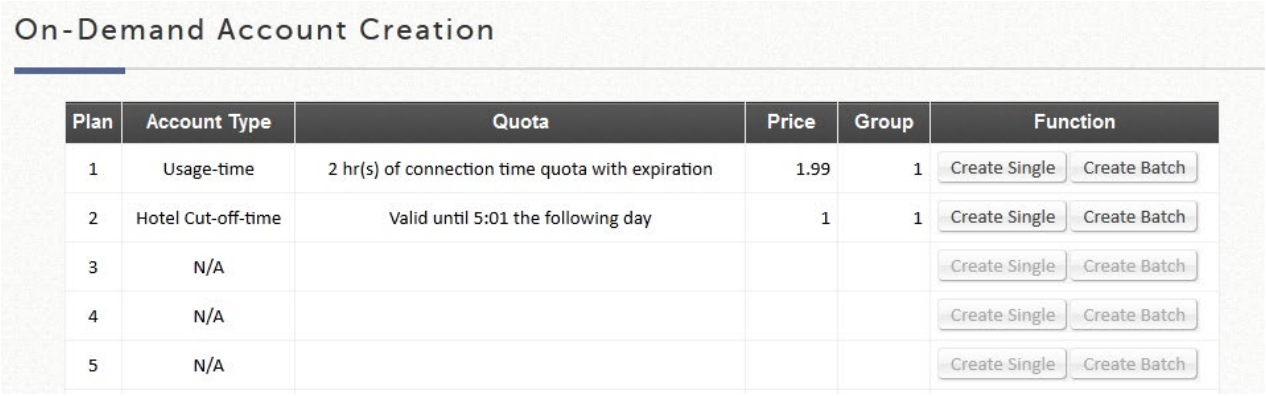
a) Social Media Authentication

- **Group**： ソーシャルメディアログインクライアントが属するユーザーグループです。特定のサービスゾーンにマッピングし、ユーザーポリシープロファイルの制限を適用できます。
- **Social Media Account Information**：アカウントの一部の情報は、管理者のさらなる分析やマーケティングの目的で利用可能です。ソーシャルメディアアカウントリスト上のアカウント名、アカウントメール、性別、誕生日、位置情報は、管理者のデータ操作のためにダウンロードすることができます（ソーシャルメディアが提供を許可している場合）。エントリは自動的にクリアされませんが、残り 1000 エントリ（11000/12000、最大 12000 エントリ）のときにメールで通知するようにしています。
  - **Download**：管理者は、収集したゲスト情報をダウンロードできます
  - **Delete All**：管理者は、保存されたデータをすべて削除できます。管理者は、エクスポート後にすべてのエントリを削除して、リストを最新の状態に保つことができます。
- **Social Media Account Access Time**：「制限付き」に設定すると、MAC アドレスに基づいて使用時間の制約が強制されます。
- **Quota**：各ソーシャルメディアログインクライアントに対して許可される期間と量です。
- **Reactivation**：時間が経過すると、新しいセッションを定義することが可能になります。
- **Access Limit**：デバイスが 1 日に無料アカウントを要求できる回数を定義します。

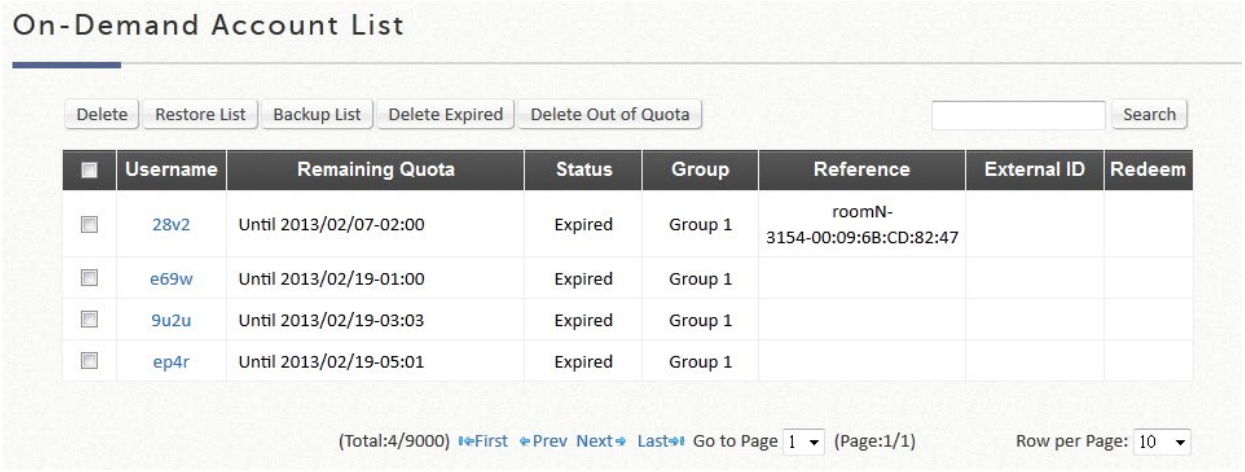


- **Social Account Quota List**：アクセスを制限されたゲストアカウントの残りの許容回数を MAC アドレスと電子メールアドレスで確認できます。（毎日午前 0 時に自動的に更新され、最大値に達すると最も古いエントリは削除されます。）
- **Punishment**：罰メカニズムを有効/無効にします。事前承認されたクライアントが 5 分以内にログインプロセスを完了していない場合、クライアントエントリがこの表に表示されます。クライアントがソーシャルログインボタンを 3 回繰り返しクリックしても失敗した場合は、罰として 15 分かかります。
- **Punishment List**： 罰せられるクライアントは、ここに記載されています。管理者は、Punishment List の制限を解除することができます。

4）On-Demand Accounts



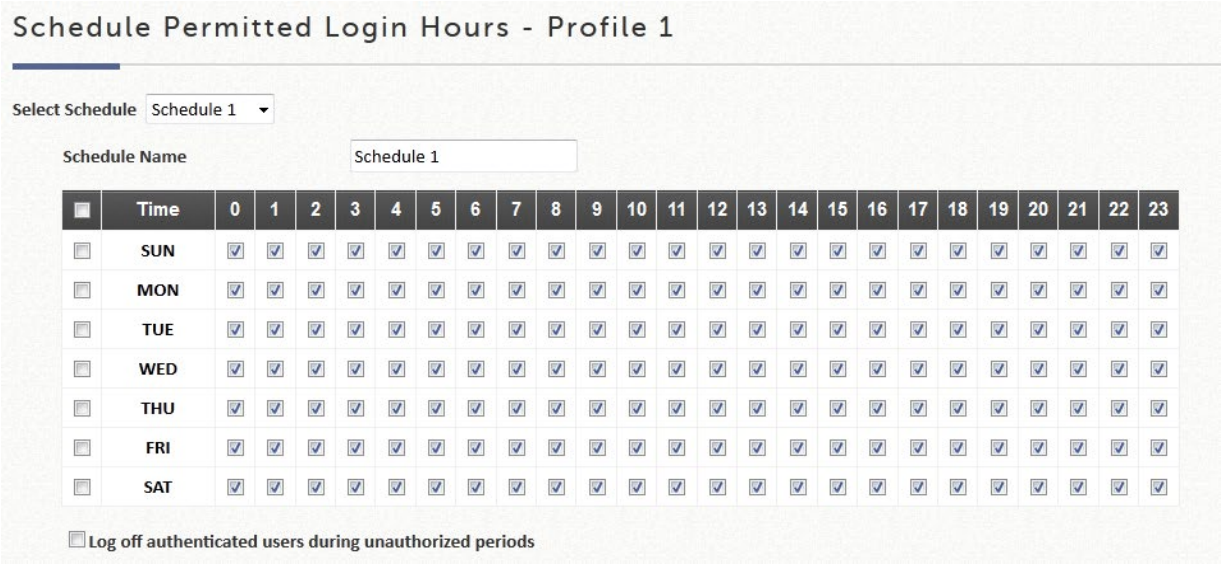
- **アカウント作成**：管理者は、単一のアカウントを作成し、または「Batch Create」機能を使用して複数のアカウントを作成することもできます。アカウントを作成する前に、少なくとも 1 つの請求プランを設定して有効にする必要があります。 アカウントは、ランダムなユーザー名とパスワードで作成することも、手動で作成することもできます（最大 8 文字）。ユーザー名およびパスワードは、一括作成用に手動で作成することもできます。（例：接頭辞=ABC、接尾辞=DEF、シリアル番号 0001。）



- **Account List**：作成されたすべてのオンデマンドアカウントと関連情報は、このページに一覧表示されます。このリストでは、管理者は、アカウントの復元/削除や管理者の引き換えなど、オンデマンドアカウントを操作することもできます。

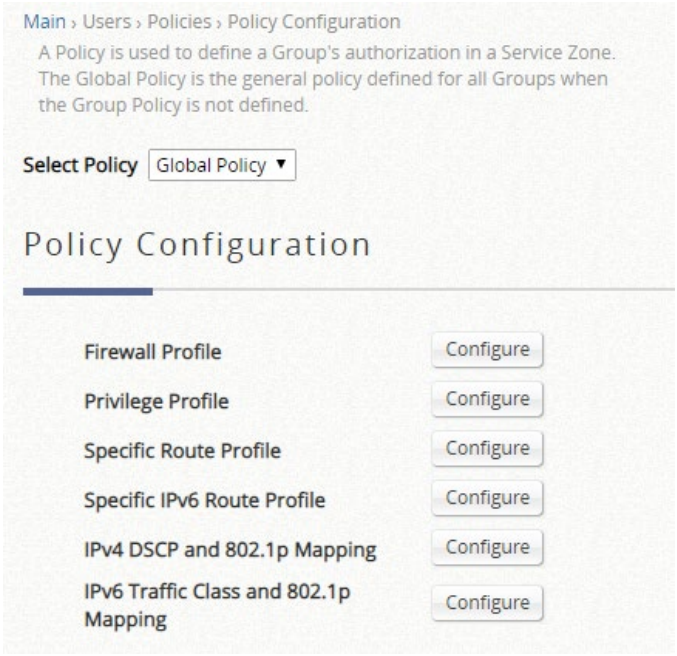
5）Schedule

管理者は、有効なサービスゾーンのユーザーグループに適用する別のログイン時間権限を設定できます。構成済みのスケジュールプロファイルを適用するには、Groups Configuration に進みます。



6）Policies

グローバルポリシーは、**Firewall Profile**、**Specific Route Profile**、**Schedule Profile**、**Maximum Concurrent Sessions** 管理など、システムのユニバーサルポリシーであり、ユーザーが規制されて別のポリシーに適用されない限り、すべてのユーザーに適用されます。



各ポリシーは、**Firewall Profile**、**Specific Route Profile**、**Schedule Profile**、および **Maximum Concurrent Sessions** 管理で構成されます。ポリシーは、Policy タブで定義できます。管理者は、1 つの定義済みのポリシーを選択して、特定のサービスゾーン内のグループに適用できます。異なるサービスゾーン内のユーザーのグループは、異なるポリシーを適用できます。例えば、営業部の地域や財務部の地域からアクセスしている間に、異なるネットワークアクセス権で営業を適用することができます。

- **Select Policy**： 使用可能な異なるポリシープロファイルの数は、モデルタイプによって異なります。
- **Firewall Profile**： ファイアウォールプロファイルは、このポリシーによって管理されるユーザーに適用されるプロトコルとルールを指定します。各ポリシープロファイルには、独自のカス

タマイズ可能なファイアウォールプロファイルがあります。

- **Service Protocol**：このリンクをクリックすると、ポリシーの Service List ページが表示され、管理者はプロトコル（TCP/UDP/ICMP/IP）によってサービスのリストを定義できます。ここで定義されたサービス名は、ファイアウォールルールを設定するための選択肢リストを形成します。
- **User Firewall Rules**：このリンクをクリックすると、ポリシーの Firewall Rules ページが表示されます。ルール No.1 が最も高い優先度を持ち、ルール No.2 は 2 番目の優先度を持ち、以降も順次となります。各ファイアウォールルールは、送信元、送信先、ポリシーのサービスリストからのサービス、およびパス/ブロックアクションによって定義されます。必要に応じて、ファイアウォールルールのスケジュールを設定して、ファイアウォールルールの施行時期を指定できます。このスケジュールは Always（常に）、Recurring（繰り返し）、または One Time（1 回）に設定できます。
- **DoS Protection（グローバルプロファイルのみ）**：DoS 攻撃に対する保護のオプションを設定します。

➢ **Privilege Profile**：ユーザー生成セッション数の制限は、ここで設定できます。ネットワークの使用状況に基づいて、この属性を慎重に調整してください

- **Password Change（非グローバルプロファイルのみ）**：「Allow」に設定すると、権限プロファイルを適用したユーザーがログインパスワードを柔軟に変更できます。
- **Maximum Concurrent Sessions**：この権限プロファイルを持つユーザーがセッション制限に達すると、このユーザーは新しい接続から一定の期間中断されます。
- **Disable timeout for this group（非グローバルプロファイルのみ）**：「Enable」に設定すると、このポリシーによって適用されたクライアントが自動的にログアウトされないようにすることができます。このオプションを有効にすると、システムのロードが増加する可能性があることに注意してください。

➢ **QoS Profile（非グローバルポリシーのみ）**：トラフィックの設定を編集できます。帯域幅調整が必要な場合、管理者はチェックボックスにチェックを入れて、クライアントが認証を完了した特定の期間後に 2 番目の QoS を選択できます。

- **Traffic Class**： 各ポリシーには独自のトラフィッククラスを設定でき、同じトラフィックプロファイル内の IPv4 と IPv6 に対して異なるトラフィッククラスリマーキングを設定できます。
- **Group Total Downlink**：このグループ内のクライアントが共有できる最大帯域幅を定義します。
- **Group Total Uplink**：このグループ内のクライアントが共有できる最大帯域幅を定義します。
- **Individual Maximum Downlink**：このグループ内の個々のクライアントに対して許可される最大帯域幅を定義します。Individual Maximum Downlink は Group Total Downlink の値を超えることはできません。
- **Individual Maximum Uplink**：このグループ内の個々のクライアントに対して許可される最大帯域幅を定義します。Individual Maximum Uplink は Group Total Uplink の値を超えることはできません。
- **Individual Request Downlink**：このグループ内の個々のクライアントに対して許可される保証された最小帯域幅を定義します。Individual Request Downlink は、Group Total Downlink と Individual Maximum Downlink の値を超えることはできません。
- **Individual Request Uplink**：このグループ内の個々のクライアントに対して許可される保証された最小帯域幅を定義します。Individual Request Uplink は、Group Total Uplink および Individual Maximum Uplink の値を超えることはできません。

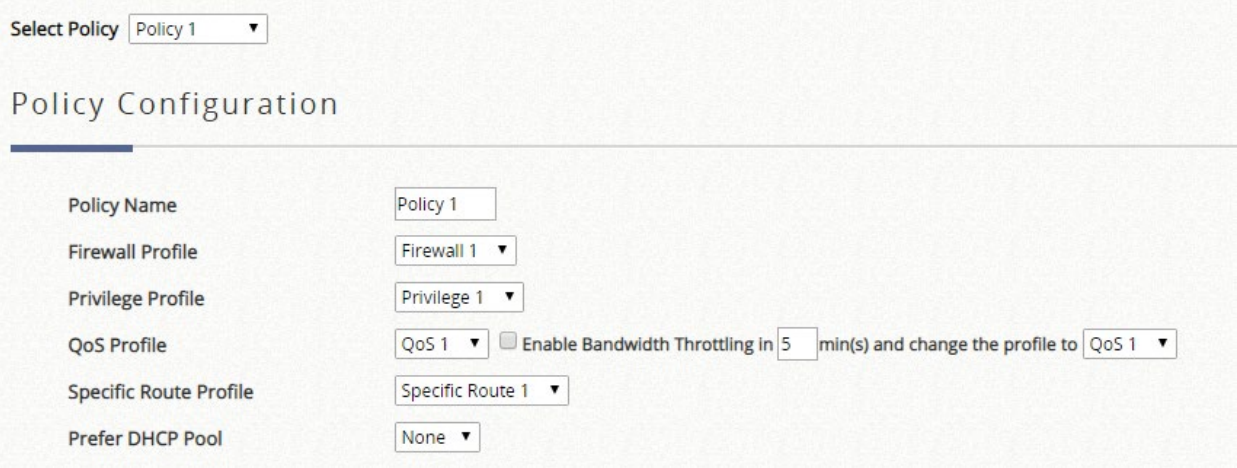
➢ **Specific Route Profile**：このポリシーでユーザーに適用するルーティングルールをここで設定できます。

➢ **Specific IPv6 Route Profile**：このポリシーでユーザーに適用するルーティングルールをここで設定できます。

➢ **IPv4 DSCP and 802.1p Mapping（グローバルポリシーのみ）**：この基準は、IPv4 DSCP タグから、管理された VLAN ネットワークで送信するために必要な 802.1p トラフィッククラスへのスタティックマッピング設定を可能にします。

➢ **IPv6 Traffic Class and 802.1p Mapping（グローバルポリシーのみ）**：この基準は、IPv6 トラフィックタグから、管理された VLAN ネットワークで送信するために必要な 802.1p トラフィッククラスへのスタティックマッピング設定を可能にします。

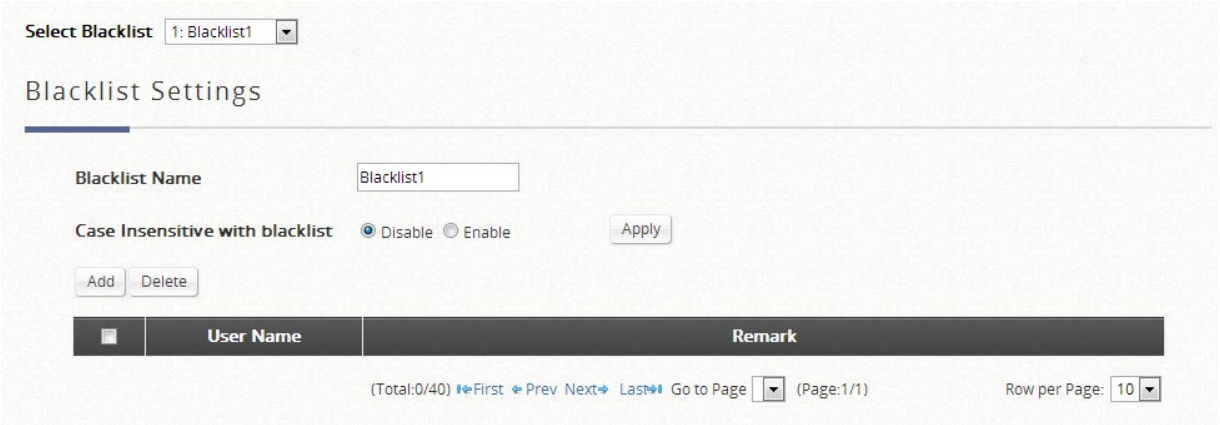
ポリシー1～x（モデル依存）は、異なるサービスゾーン内の特定のユーザーグループに適用できます。ポリシー1 の優先順位が最も高く、優先度の高いポリシーが最初に適用されるポリシーとなります。



優先 DHCP プール（サービスゾーン DHCP 構成で定義）もここで選択できます。

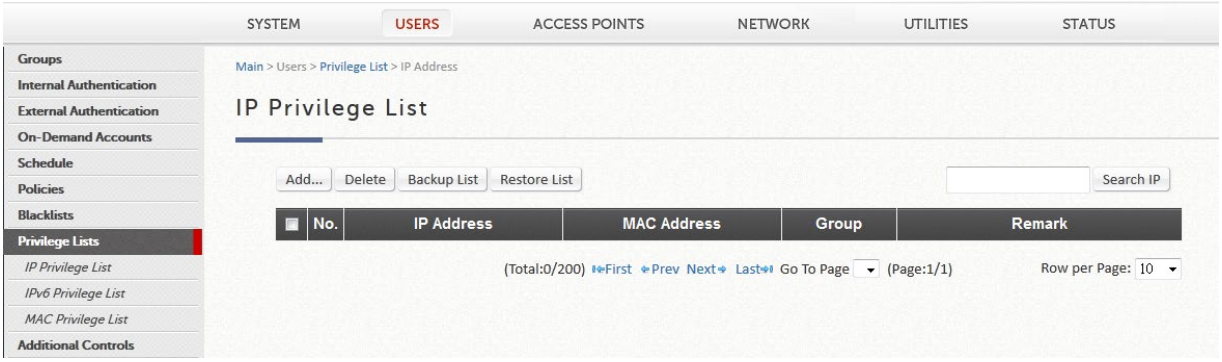
7）Blacklists

ブラックリストプロファイルを定義できます。また、これらのブラックリストプロファイルのいずれかを使用して、アクティブ認証オプションを設定できます。ブラックリストに登録されているユーザーアカウントは、システムにログインできません。クライアントのアクセスは拒否されます。管理者は、ドロップダウンメニューからブラックリストを 1 つ選択すると、このブラックリストがこの特定の認証オプションに適用されます。ブラックリストの名前は、大文字と小文字を区別しないように設定できます。



8）Privilege Lists

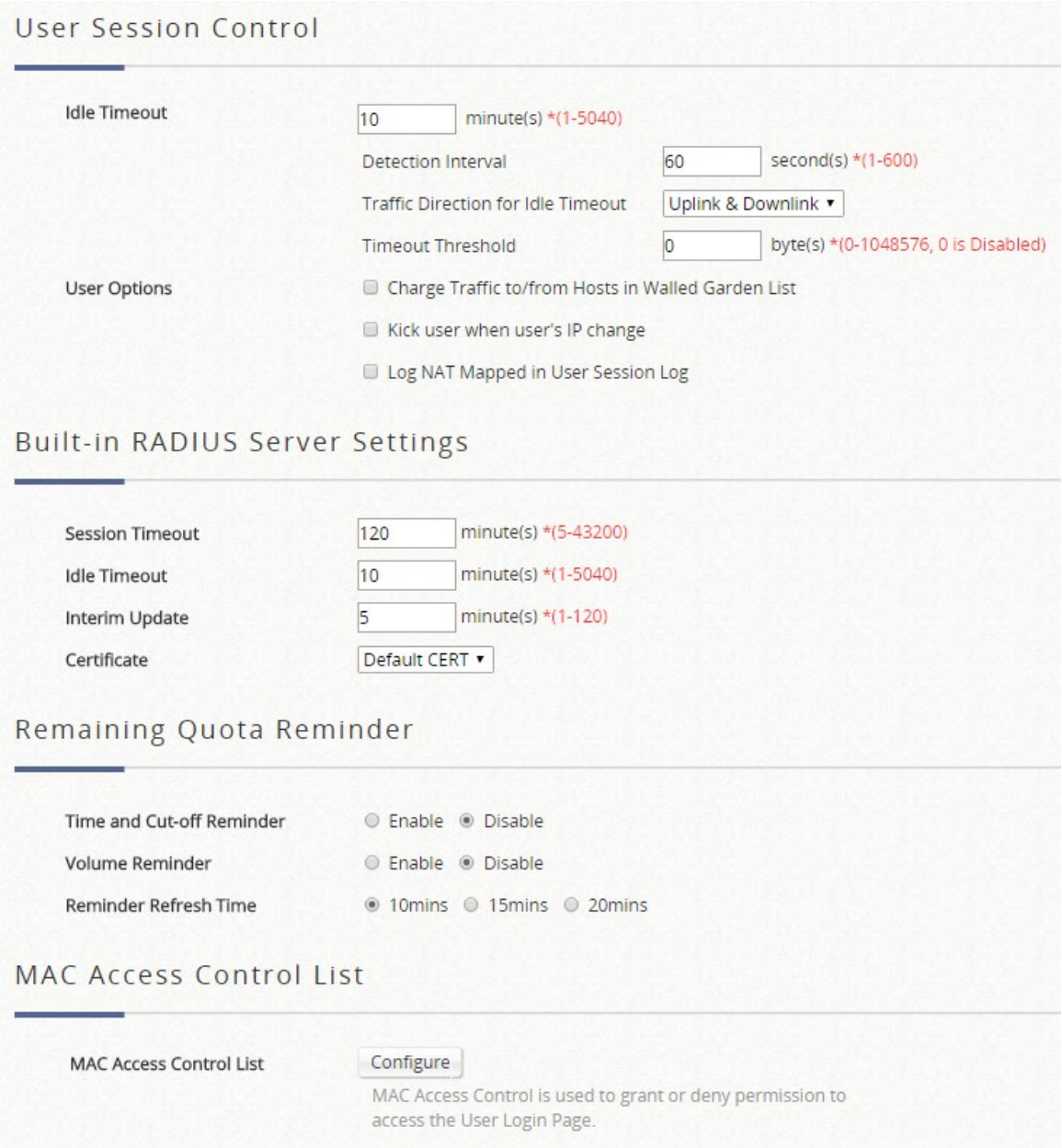
権限機能は、IP アドレス、MAC アドレス、IPv6 アドレスに基づく 3 種類の権限リストをサポートしています。リストに指定されているデバイスは、ネットワークにアクセスするための認証を必要としません。 ユーザグループは、IP Privilege List のデバイスに割り当てることができますが、MAC Privilege List には割り当てられません。



- **Privilege List**： 認証フリーリストには、管理者が認証を必要とせずに個人の特権的なアクセスを指定できる 3 つのタイプがあります。これは、IP アドレス、IPv6 アドレスまたは MAC アドレスのいずれかを介して達成することができます。

9）Additional Control

このセクションは、その他の設定に関するものです。User Session Control、Built-in RADIUS Server Settings、Customization、Remaining Time Reminder、MAC ACL が含まれます。管理者は、User Session Control でアイドルタイムアウトなどのユーザーセッションを制御できます。Built-in RADIUS Server Settings には、セッションタイムアウトなどの 3 つの機能があります。Customization では、管理者は証明書をシステムにアップロードできます。Remaining Time Reminder は、画面上のクライアントに残り時間情報を提供します。管理者は、MAC ACL（Access Control List）内のクライアントの MAC アドレスを使用して、システムに対するアクセス制御を管理できます。



User Session Control

- **Idle Timeout**：アクティビティなしのタイムベースをアイドルタイムアウトとみなすように設定します。
- **Idle Detect Interval**： アイドル条件に達するかどうかをチェックする時間間隔です。上記で設定したアイドル時間を超えるアイドル間隔が連続して累積されると、ユーザーがログアウトするアイドルタイムアウトアクションが発生します。
- **Traffic Direction for Idle Timeout**：ユーザーのアクティビティ検査は、アップリンクトラフィックのみまたは両方向によってチェックされます。
- **Threshold for Idle Traffic Detection**： 設定された値よりも小さいトラフィックフローがアイドルと見なされるしきい値を指定します。
- **Charge Traffic to/from Host in Walled Garden List**： オンデマンドユーザーデータベースの使用時間またはボリュームタイプのアカウントの場合、管理者は、ウォールド・ガーデンまたはウォールド・ガーデンの広告リストに記載されているウェブサイトへの訪問を請求するか、請求しないかを選択することができます。
- **Kick out user when user's IP change**： ユーザーが IP アドレスを変更したときに、システムによって強制的に切断されるかどうかを管理者が設定するオプションです。
- **Log NAT Mapped in User Session Log**：プライベート IP/ポートからパブリック IP/ポートへの各接続のマッピングを表示するには、このオプションを有効にする必要があります。

Built in RADIUS Server Settings

- **Session Timeout**：組み込み RADIUS サーバー経由で認証されたユーザーによって生成されたセッションの場合（アカウントローミングユーザーである可能性がある）、タイムアウト範囲はここで手動で設定できます。この属性は慎重に設定してください。
- **Idle Timeout**： 組み込み RADIUS サーバー経由で認証されたユーザー（アカウントローミングユーザーなど）の場合、アイドルタイムアウト範囲はここで手動で設定できます。この属性は慎重に設定してください。
- **Interim Update**： 組み込み RADIUS サーバー経由で認証されたユーザー（アカウントローミングユーザーなど）の場合、アカウンティング間隔はここで手動で設定できます。この属性は慎重に設定してください。
- **Certificate**： 組み込み RADIUS サーバーの証明書が選択可能になります。

Remaining Quota Reminder

- **Time and Cut-off reminder**：このオプションは、時間ベースのアカウントクォータがなくなりそうになったことをオンデマンドユーザーに警告メッセージを表示するオプションです。
- **Volume Reminder**： このオプションは、ボリュームベースのアカウントクォータがなくなりそうになったことをオンデマンドユーザーに警告メッセージを表示するオプションです。
- **Reminder Refresh Time**：残りのクォータ付きログイン成功ページは、10/15/20 分ごとに更新され、更新された残りのクォータが表示されるように設定できます。

MAC Access Control List

- **MAC ACL**： 管理者は、MAC 許可リストまたは拒否リストのいずれかの MAC アドレスに対して制限対策を構成できます。

C.Devices

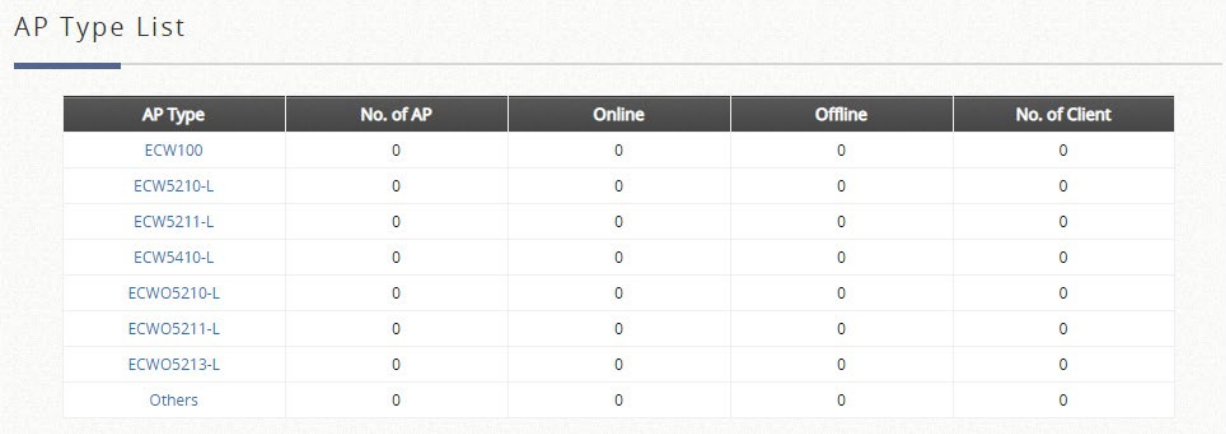
Devices：このセクションは、AP とスイッチの管理に使用します。AP とスイッチのさまざまな属性を示すだけでなく、さまざまな設定のために提供されるさまざまな機能があります。

1）Local Area AP Management

a）概要

各 AP タイプの基本情報をリストする概要です。AP 数、オンライン数、オフライン数、および各 AP タイプの関連クライアントの合計数が含まれます。

この表には、システムの管理下でサポートされているすべての AP が表示され、AP タイプ別に一覧表示されます。

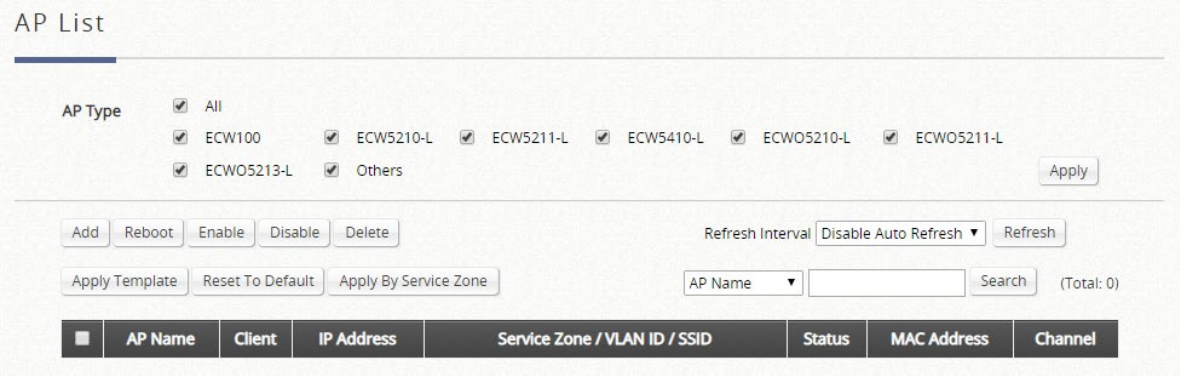


チェックボックスにチェックを入れて任意の AP を選択し、必要に応じて下のボタンをクリックして、選択した AP に ***Reboot***、***Enable***、***Disable***、***Delete***、***Apply Template***、***Apply Service Zone***（タグベース）を適用します。

b）List

タイプ、名前、IP アドレス、MAC アドレス、オンラインステータスなど、各管理対象 AP の情報を表示するリストです。このセクションの機能には、再起動、有効化、無効化、削除、新しいテンプレートの適用、サービスゾーンによる適用およびその他の設定などの操作も含まれます。

システム管理下のサポート対象の AP がすべてリストに表示されます。管理者は、**Discovery** タブまたは **Adding** タブからサポートされている AP を追加できます。AP が追加されると、このリストには、AP タイプ、AP 名、IP アドレス、MAC アドレス、サービスゾーン、ステータスなど、現在管理されている AP が表示されます。管理者は、個々の AP の前にあるチェックボックスにチェックを入れるか、上部のチェックボックスにチェックを入れてすべての AP をまとめて選択することで、再起動、有効化、無効化、削除、テンプレートの適用、またはサービスゾーンによる適用を実行できます。

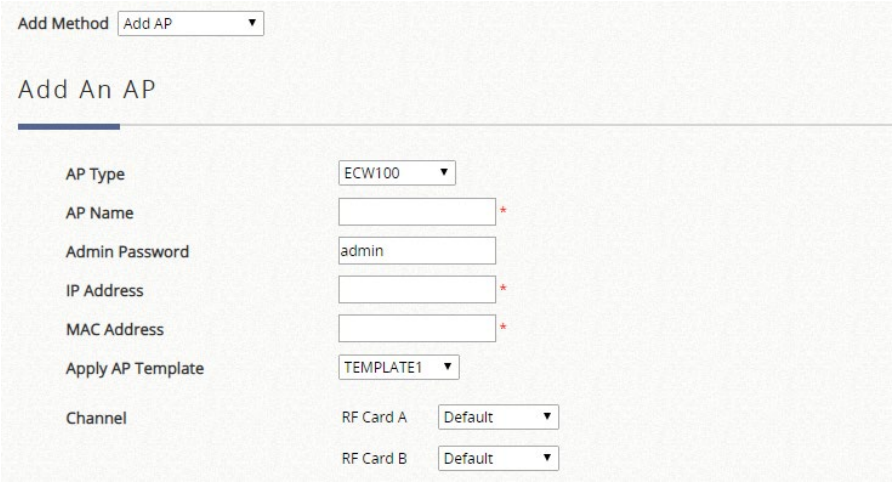


リストのチェックボックスにチェックを入れて任意の AP を選択し、必要に応じてボタンをクリックして、選択した AP に ***Reboot***、***Enable***、***Disable***、***Delete***、***Apply Template***、***Reset to Default***、***Apply Service Zone***、***Add to Floor Plan*** を適用します。

c）Adding

追加機能を使用して、AP に必要な情報を入力して AP を手動で設定します。システムには、AP の設定を簡素化するために使用できるテンプレートが用意されています。

管理者は、「Add」をクリックして「Add AP」を選択すると、サポートされている AP を **List** 表に手動で追加できます。システムは、指定された値を使用して AP を設定します。処理後、AP リストに AP のステータスが「オンライン」または「オフライン」と表示されます。



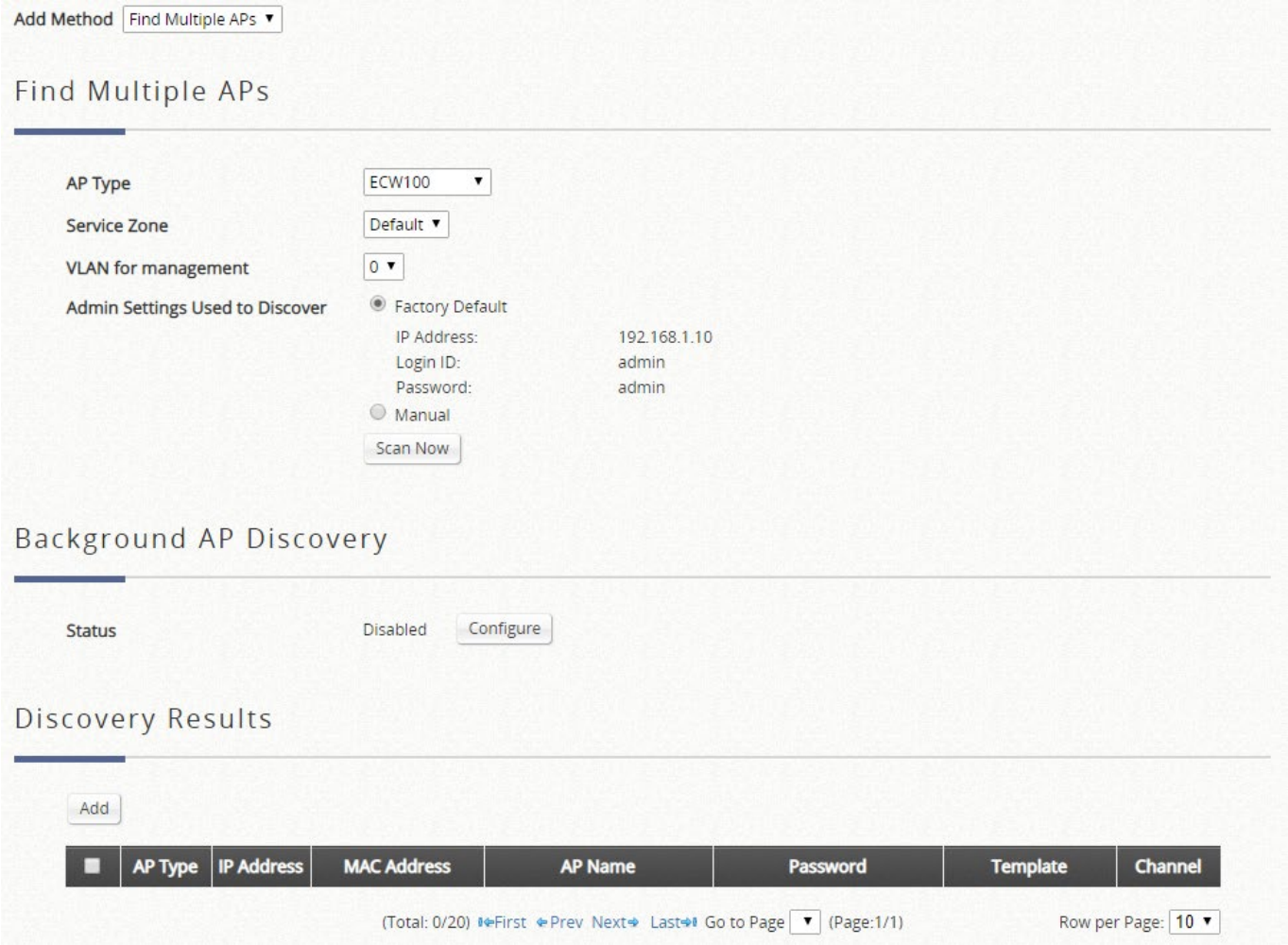
- **AP Type**：リストに追加する AP のモデルタイプです。
- **AP Name**：特定の AP のニーモニック名です。
- **Admin Password**：この AP に必要なパスワードです。
- **IP Address**： 指定された AP の IP アドレスです。
- **MAC Address**： 特定の AP の MAC アドレスです。

- **Apply AP Template**： 追加した AP に適用する AP テンプレートを選択します。
- **Channel**： 選択したチャンネルは、追加された AP に適用されます。

d）Discovery

この検出機能は、LAN ポートに接続されたときに、サポートされているタイプの AP を手動でまたは自動的に検出し、検出された各 AP に固有の IP アドレスを自動的に割り当てます。AP List から「Add」をクリックし、「Find Multiple APs」を選択してください。

Background AP Discovery 機能を有効にすると、システムは 10 分に 1 回、または管理者が設定した時間に従ってスキャンします。AP が検出され、**Auto Adding AP to the List** が有効になっている場合は、チェックされたサービスゾーンプロファイルで設定された開始 IP アドレスから使用可能な IP アドレスが割り当てられ、選択したテンプレートに適用されます。AP が使用するチャネルを設定することもできます。



- **AP Type**：検索するシステムの AP モデル名を選択します。
- **Service Zone**：接続されているデバイスの AP を管理するサービスゾーンを選択します。
- **VLAN for management**：検出された AP の管理用の VLAN を設定します。
- **Admin Settings Used to Discover**：接続されている AP のインターフェースと管理資格情報が変更されていない場合は、factory default を選択します。それ以外の場合は、manual を選択し、それに応じて IP 範囲と管理設定を指定します。管理者は、検出プロセス中いつでもコントローラのスキャンを停止できます。
- **Background AP Discovery**：設定されると、システムは新しく接続された AP デバイスの設定済みの IP 範囲を定期的にスキャンし、検出結果を自動的に表示します。

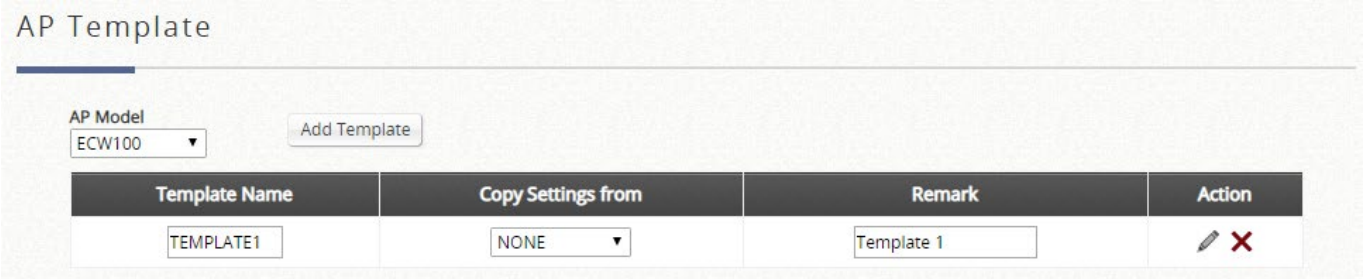
- **Discovery Results**：上記で設定した検出基準に一致する検出された AP デバイスを表示します。

e）Templates

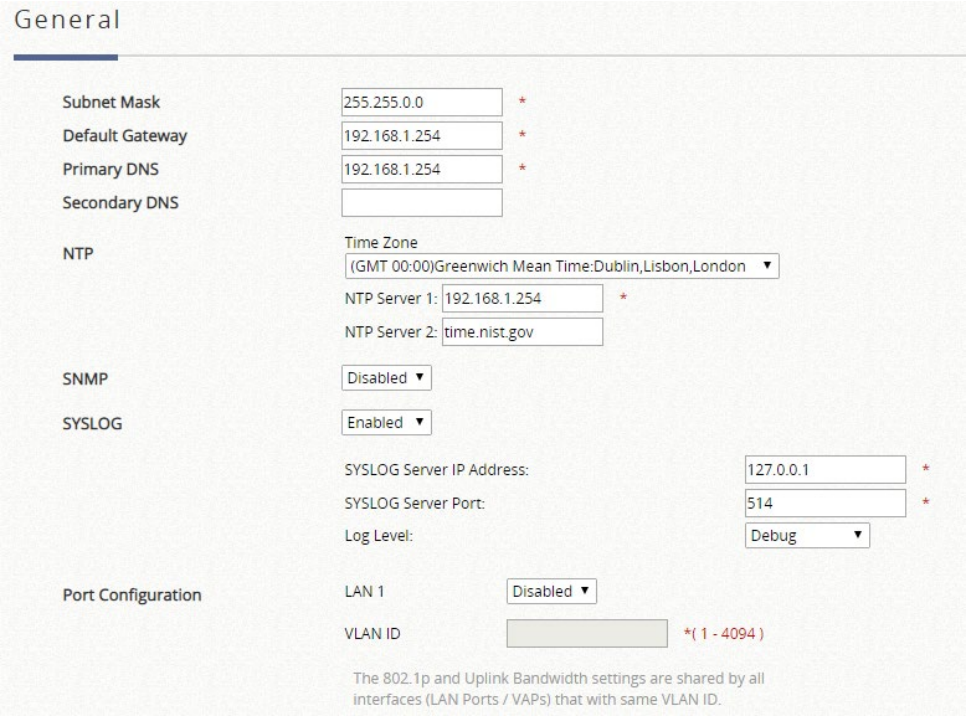
AP 設定テンプレートを定義できます。最大 8 つのテンプレートを編集・保存し、「Adding」および「Discovery」セクションで使用できます。

AP モデル別のテンプレート

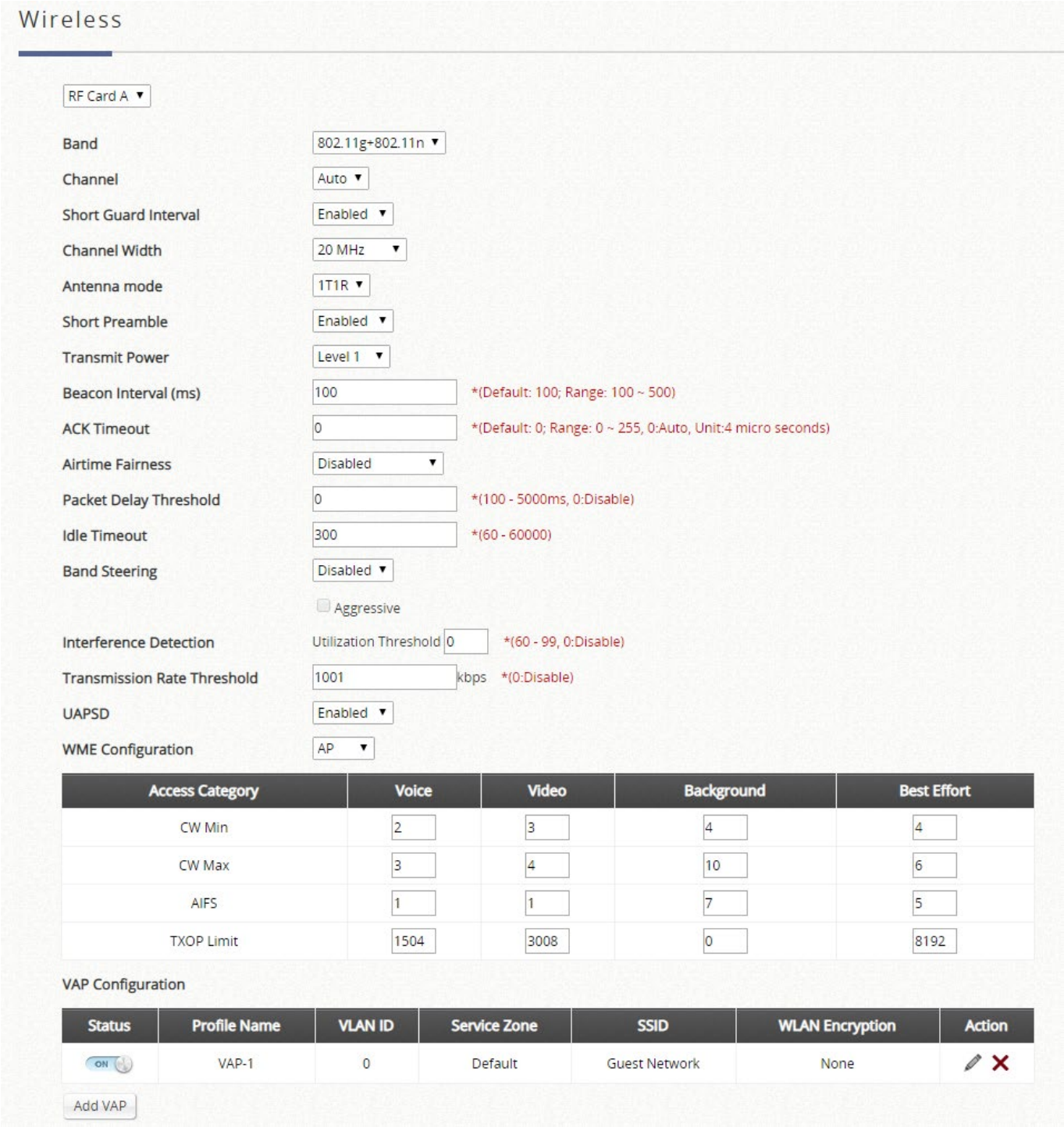
システムは、AP の設定を含む最大 8 つのテンプレートをサポートします。管理者は、設定を 1 つずつ設定するように AP 管理インターフェースをログに記録する代わりに、テンプレートで設定を一緒に設定できます。**AP type** を選択し、***編集***アイコンをクリックして **Template Editing** ページに入ります。



- **Template Editing**：管理者は、テンプレート設定を手動で設定することも、**Copy Settings From** オプションを使用して、特定の既存の管理対象 AP から設定をコピーすることもできます。詳細設定を表示するには、***Configure*** ボタンをクリックします。
  - **Name**：この特定のテンプレートに表示される名前です。
  - **Copy Settings From**：事前設定された既存の AP を選択し、***Apply*** をクリックして、その設定をテンプレート設定として保存します。
  - **Remark**：このテンプレートプロファイルの備考または追加情報です。
  - **Action**： 鉛筆アイコンで描かれた編集をクリックして設定を入力するか、赤い十字をクリックしてテンプレートを削除します



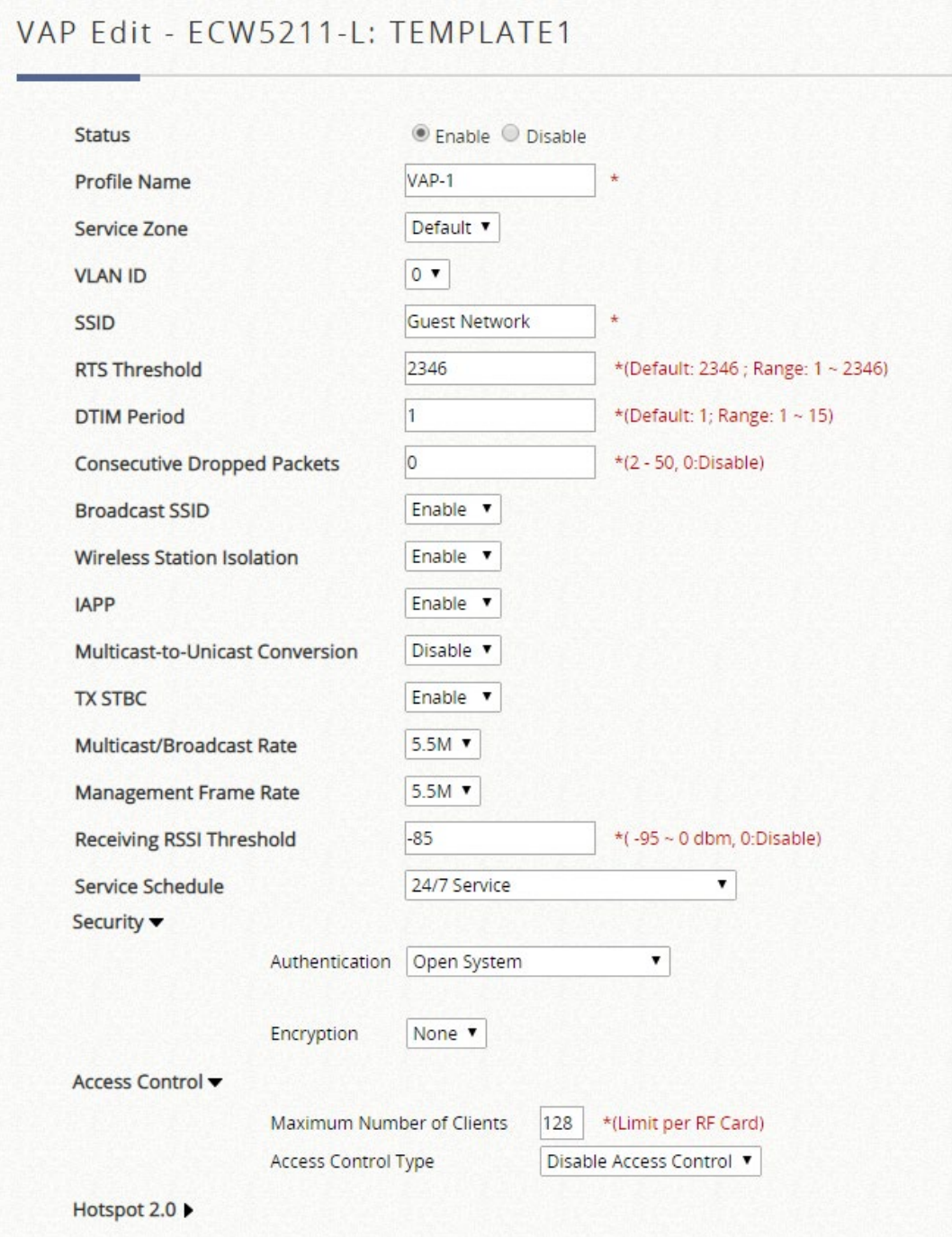
- **General**：このセクションでは、必要に応じて、ここで **Subnet Mask** と **Default Gateway** を修正します。**NTP Servers** と **Time Zone** を設定します。さらに、管理者は、**SYSLOG** サーバーを有効にして、APからログを受信し、**SNMP** の読み取り/書き込み機能を有効にすることができます。また、**Port Configure** により、管理者は各 LAN ポートに VLAN タグを設定できます。



- **Wireless**：
  - **SSID Broadcast**：AP の SSID がネットワークでブロードキャストできるようにするには、このオプションを選択します。プライベート使用を目的とした認証を無効にしたネットワークがある場合は、SSID ブロードキャスト機能を無効にすることをお勧めします。
  - **Band**：編集する AP モデルテンプレートに応じて、**802.11a、802.11b、802.11g、802.11a+802.11n、802.11b+802.11g、802.11g+802.11n、802.11ac** の各モードを選択できます。
  - **Channel Width（802.11g+n、802.11a+n、802.11ac のみ）**： 20MHz、40MHz、または Auto のいずれかを選択します。スループットを向上させるために、チャネル帯域幅を 40MHz に倍増することがサポートされています。80MHz は、802.11ac モードでの選択が可能です。
  - **Antenna Mode（802.11g+n、802.11a+n、802.11ac のみ）**：MIMO で使用するストリーム番号を選

択します。使用可能な最大ストリーム数は、モデルによって異なります。

- **Transmit Power**：一部の AP モデルでは、システムから送信される信号強度をレベルで選択できます。各レベルは、最高電力から 1dBm の減少を示します。**Level 1** は実際の最高電力であり、**Level 2** は最高電力から 1dBm を引いた値です。
- **Beacon Interval (ms)**：20～1000 ミリ秒の値を入力します。デフォルト値は 100 ミリ秒です。入力された時間は、アクセスポイントとワイヤレスネットワークとの間でビーコン信号が送信される頻度を意味します。
- **ACK Timeout**：「確認応答（ACK）フレーム」の待ち時間間隔です。ACK が間隔内に受信されない場合、パケットは再送信されます。ACK タイムアウト間隔を長くすると、パケット損失は減少しますが、スループットは低下/悪化します。
- **Airtime Fairness**：「Fair Access」に設定すると、異なるバンドの互換性を持つすべてのデバイスのエアタイムが同じになります。「Preferred Access」に設定すると、N 個のクライアントが優先されます。この機能は、異なるバンドをサポートするデバイスを持つネットワークに最適です。
- **Packet Delay Threshold (ms)**：これは Tx キューフラッシングメカニズムで、キューが x ミリ秒以上処理されている場合にパケットをドロップし、すぐに他のキューを処理することを目的としています。これはデフォルトで無効になっています（=0）。
- **Idle Timeout (s)**：クライアントは、非アクティブ状態が設定された時間（デフォルトは 300 秒）に達すると切断します。
- **Band Steering**：有効にすると、5GHz 接続を持つクライアントは、2.4GHz 帯域の輻輳を軽減するために、5GHz 帯域に誘導されます。これは、2 つの RF カードで AP が 2.4GHz および 5GHz に設定されている場合にのみ適用されます。「Aggressive」にチェックを入れると、5GHz 接続を持つクライアントは、5GHz 帯に接続する必要があります。
- **Interference Detection**：現在のチャネルの使用率が設定されたしきい値（%）に達すると、AP は別のチャネルに切り替わります。
- **Transmission Rate Threshold**：送信レートが設定されたしきい値よりも低い場合、関連付けられたクライアントはキックされます。これにより、関連付けられているすべてのクライアントに対して高い接続速度が保証されます。
- **UAPSD**：USPAD サポートを有効/無効にします。
- **WME Configuration**：アクセス優先度は、異なるパラメータを使用して設定することができます。AP 側のパラメータとクライアント側のパラメータをそれぞれ設定できます。CW Min：競合ウィンドウの最小値、CW Max：競合ウィンドウの最大値、AIFS：フレーム送信間隔、TXOP Limit：送信機会の制限。
- **VAP Configuration**：「Status」列の下の VAP を有効/無効にします。VAP の設定は、「Action」の下の編集アイコンをクリックすることによって行うことができます。



- **Status**：VAP はここで有効または無効にできます
- **Profile Name**：ID/管理目的で使用される特定の RF カードとその VAP のプロファイル名です。
- **Service Zone**：ドロップダウンリストから VAP のマッピングサービスゾーンを選択します。
- **VLAN ID**：この VAP の VLAN ID を選択します
- **SSID**：SSID は、クライアントが特定の VAP に関連付ける識別子として機能します。さまざまなワイヤレスセキュリティタイプのように、さまざまなサービスレベルと組み合わせることができます。
- **RTS Threshold**：1 から 2346 までの値を入力します。RTS（送信要求）Threshold は、隠しノードの問題を防ぐために、フラグメントを送信する前にシステムが送信要求（RTS）を発行するパケットサイズを決定します。データサイズが指定された値を超えると、RTS メカニズムが作動します。RTS Threshold を低く設定すると、多くのクライアントデバイスが AP と関連付けられているエリア

や、クライアントが遠く離れており AP だけを検出できてお互いに検出できないエリアで役立ちます。

- **DTIM Period**：指定した周波数で周期ビーコン内に生成する DTIM 間隔を入力します。DTIM を高くすると、無線クライアントはより多くのエネルギーを節約できますが、スループットは低下します。
- **Consecutive Retries Threshold**：これは、クライアントが送信範囲外であると判断する前にパケット送信が失敗した場合に、AP が試行する最大送信リトライ回数です。設定された回数だけ送信の再試行が失敗すると、アクセスポイントはクライアントをキックして、接続されている他のクライアントのパフォーマンスを最適化します。
- **SSID Broadcast**：この機能を無効にすると、システムの SSID がブロードキャストされなくなります。SSID のブロードキャストが無効になっている場合は、正しい SSID を持つデバイスだけがシステムに接続できます。
- **Wireless Client Isolation**：この機能を有効にすると、システムに関連するすべてのステーションがアイソレーションされ、システムとしか通信できません。
- **IAPP**：IAPP（AP 間通信プロトコル）は、アクセスポイントが接続されているステーションに関する情報を共有するプロトコルです。この機能を有効にすると、システムは関連する無線ステーションの情報をピアアクセスポイントに自動的にブロードキャストします。これにより、同じ無線 LAN 内の IAPP 対応アクセスポイント間でワイヤレスステーションがスムーズにローミングできるようになります。
- **Multicast-to-Unicast Conversion**：Multicast-to-Unicast Conversion が有効な場合、マルチキャストパケットはアクセスポイントのネットワークインターフェースと IP マルチキャストホストを介して転送されます。登録情報が記録され、マルチキャストグループに分類されます。その後、内部スイッチは、マルチキャストトラフィックを要求するポートだけにトラフィックをインテリジェントに転送できます。逆に、Multicast-to-Unicast Conversion を行わないと、マルチキャストトラフィックはブロードキャストトラフィックのように扱われ、パケットがすべてのポートに転送され、ネットワークの非効率性が生じます。
- **Multicast/Broadcast Rate**：マルチキャスト/ブロードキャストパケットの帯域幅設定です。ワイヤレスクライアントがマルチキャスト/ブロードキャストパケットを送信するために帯域幅を大きくまたは小さくする必要がある場合は、管理者がアクセスポイントのマルチキャスト/ブロードキャスト帯域幅をここでカスタマイズできます。
- **Management Frame Rate**：この機能は、管理フレームの帯域幅を制御します。レートが高いほど、トランスミッションがカバーする範囲が短くなります。
- **Receiving RSSI Threshold**：接続速度が高いステーションを維持するために、受信感度がしきい値よりも低い場合、ステーションはキックアウトされます。
- **Security**：アクセスポイントは、各 VAP プロファイルでさまざまなワイヤレス認証およびデータ暗号化方式をサポートしています。これにより、管理者はクライアントに異なるサービスレベルを提供できます。セキュリティタイプには、Open、WEP、802.1X、WPA-Personal、および WPA-Enterprise があります。
- **Access Control**：管理者は、MAC アドレスに基づいてクライアントデバイスのワイヤレスアクセス

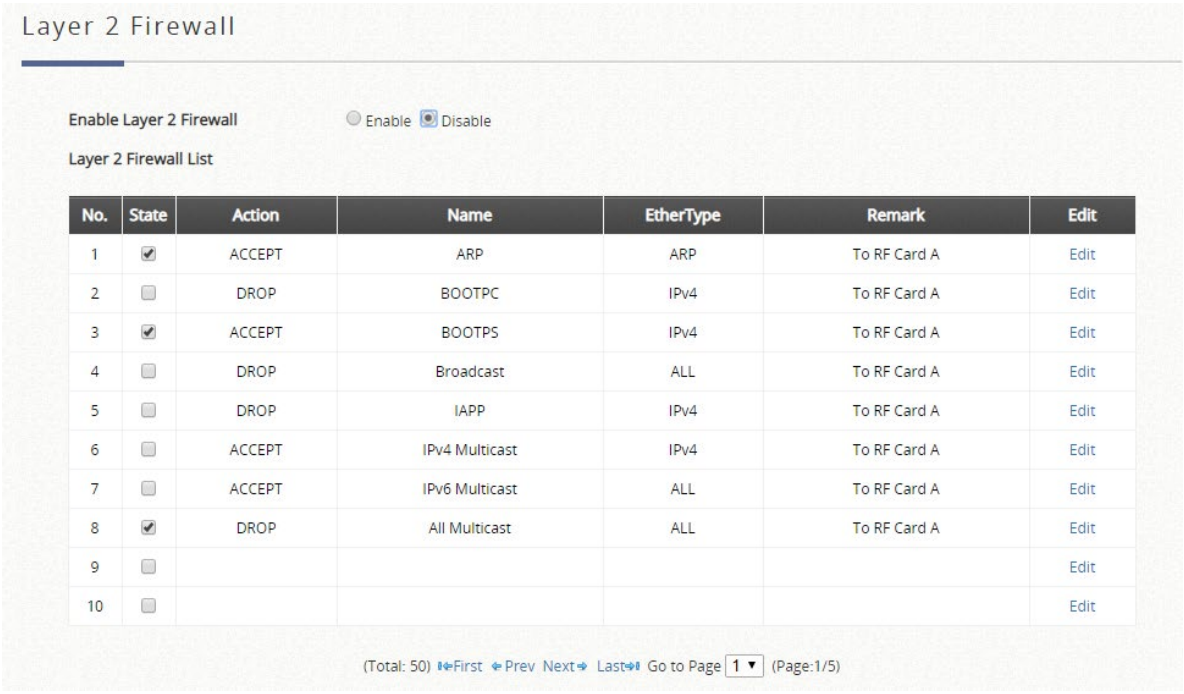
を制限できます。

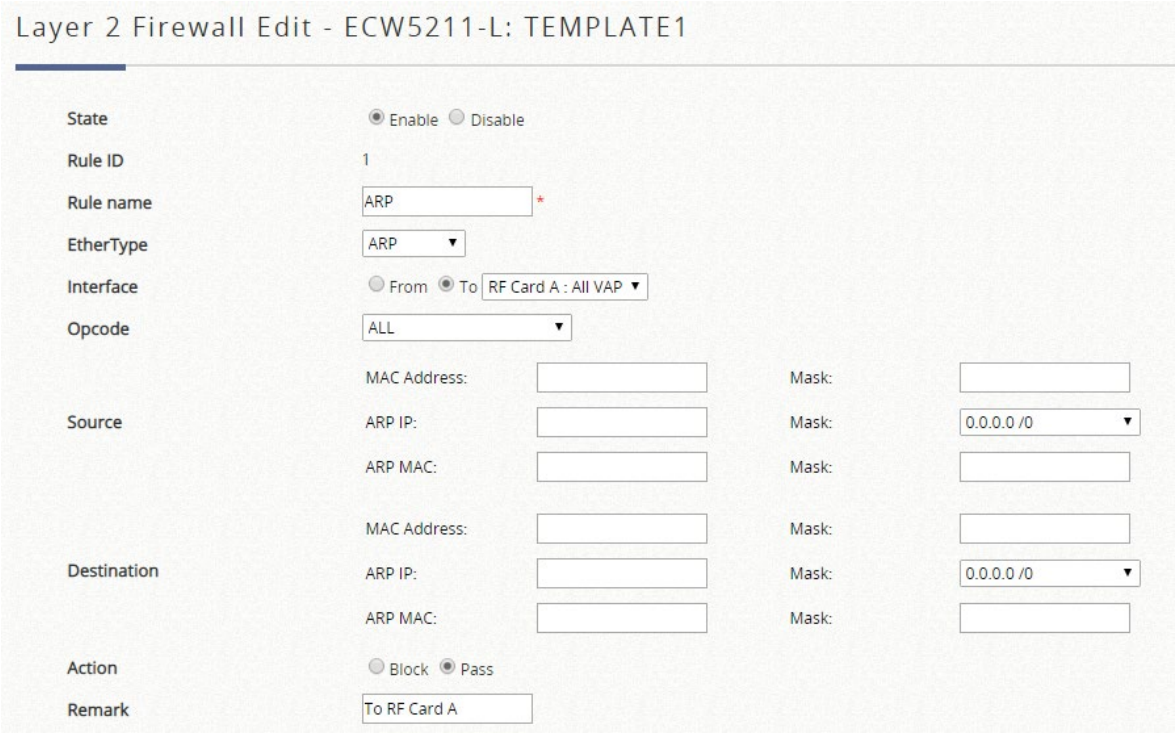
- **Disable Access Control**： Disable を選択すると、クライアントデバイスがシステムにアクセスするための制限はありません。
- **MAC ACL Allow List**： MAC ACL Allow List を選択すると、Allow List（「許可された MAC アドレス」）にリストされているクライアントデバイス（MAC アドレスで識別される）のみが、システムへのアクセスを許可されます。管理者は、リストされた MAC を再度有効にするまで、Disable をオンにすることで、許可された MAC アドレスを一時的にブロックできます。
- **MAC ACL Deny List**： MAC ACL Deny List を選択すると、Deny List（「拒否された MAC アドレス」）にリストされているものを除き、すべてのクライアントデバイスがシステムへのアクセスを許可されます。管理者は、Disable をオンにすることで、拒否された MAC アドレスが一時的にシステムに接続することを許可できます。
- **RADIUS ACL**： クライアントが AP に関連付けようとすると、AP はクライアントの MAC アドレスを指定した RADIUS 要求を、設定された RADIUS サーバーに送信します。RADIUS サーバーによって受け入れられた MAC アドレスだけが AP にアソシエートできます。ここでの RADIUS サーバー設定は、同じ VAP の WPA エンタープライズおよび 802.1X 設定と共有されることに注意してください。また、この機能はレガシーWiFi 5 AP でのみサポートされていることに注意してください。

- **Hotspot 2.0**：ホットスポット 2.0 は、公共の WiFi 加入者により良い帯域幅とサービスを提供するために WiFi Alliance によって開始された WiFi 認定パスポイントとして知られています。ホットスポット 2.0 機能は、サービスプロバイダとそのパートナー専用に設計されています。設定を完了するには、サービスプロバイダまたはサービスチームにご相談ください。

RF カード B のワイヤレス設定は、デュアル無線アクセスポイントで使用できます。一部の AP モデルでは、設定パラメータが異なる場合があります。

- **Layer 2 Firewall**：





- **State**：それぞれのルールを有効または無効にします
- **Rule**：この特定のルールの番号付けによって、表内の使用可能なファイアウォールルールの優先順位が決定されます。
- **Rule name**：ここでルール名を指定できます。
- **EtherType**：ドロップダウンリストには、このルールが適用される使用可能なタイプのトラフィックが表示されます。
- **Interface**：これは、目的のインターフェースで着信/発信方向を示します。
- **DSAP/SSAP**（EtherType が IEEE 802.3 の場合）：この値は、802.2 LLC フレームヘッダーのフィールドに対してさらに指定できます。

- **Type**（EtherType が IEEE 802.3 の場合）：このフィールドは、カプセル化されたトラフィックのタイプを示すために使用できます。
- **Source**：MAC アドレス/マスクは送信元 MAC を示します。（EtherType が **IPv4** の場合）IP アドレス/マスクは送信元 IP アドレスを示します。ARP IP/MAC & MASK は ARP ペイロードフィールドを示します。
- **Destination**：MAC アドレス/マスクは宛先 MAC を示します。（EtherType が **IPv4** の場合）IP アドレス/マスクは宛先 IP アドレスを示します。ARP IP/MAC & MASK は ARP ペイロードフィールドを示します。
- **Action**：ルールは **Block** または **Pass** として選択できます
- **Remark**：このルールの注意事項はここで指定できます。

f）Firmware

ファームウェア機能は、AP ファームウェアのバージョンを確認し、新しい AP ファームウェアをシステムにアップロードするためのツールを提供します。

システムは AP のファームウェア管理をサポートし、新しいファームウェアのアップロード、既存のファームウェアの削除、および管理対象 AP へのファームウェアのダウンロードを行います。AP のファームウェアバージョンは、統合されているバージョンである必要があります。

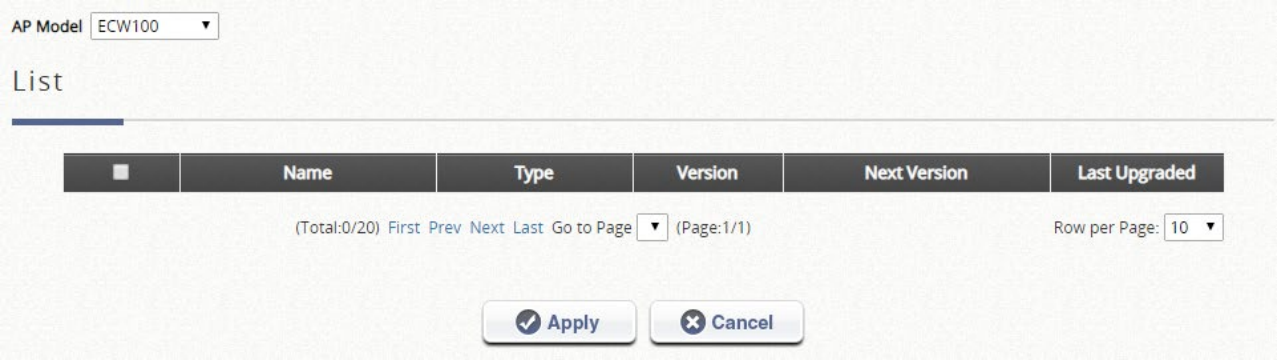
Firmware Upload には、AP のファームウェアの現在のバージョンが表示されます。新しいファームウェアをアップロードして、現在のファームウェアを更新できます。アップロードするには、まず ***Add*** をクリックし、***Browse*** をクリックしてファイルを選択し、***Upload*** をクリックします。

- **AP Firmware List**： アップロードされたファームウェアがここに表示されます。
- **File Name**：アップロードされた AP ファームウェアの名前です。
- **AP Type**：ファームウェアの AP タイプです
- **Version**：ファームウェアのバージョンです
- **Size**： ファームウェアのファイルサイズです
- **Checksum**：自動的に検出されたファームウェアのセキュリティ識別情報です。
- **Download**：選択したファームウェアをローカルディスクに保存するには、***Download*** をクリックします。
- **Delete**：選択したファームウェアをシステムから削除するには、***Delete*** をクリックします。

g）Upgrade

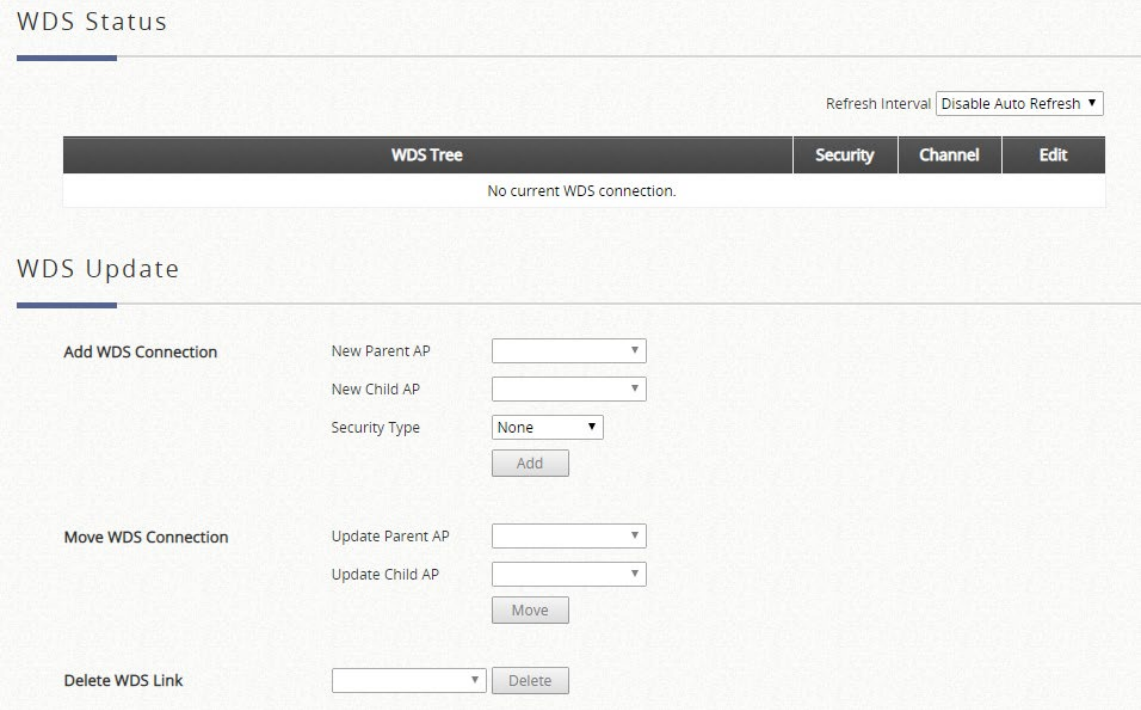
アップグレード機能を使用すると、管理者はシステムに保存されているファームウェアファイルを使用して AP ファームウェアをアップグレードできます。

管理者は、選択列の AP のチェックボックスにチェックを入れることで、選択した AP のファームウェアを個別に、または同時にアップグレードできます。アップグレード前のバージョンと次のバージョンの両方が、システムに統合されているバージョンである必要があります。



h）WDS Management

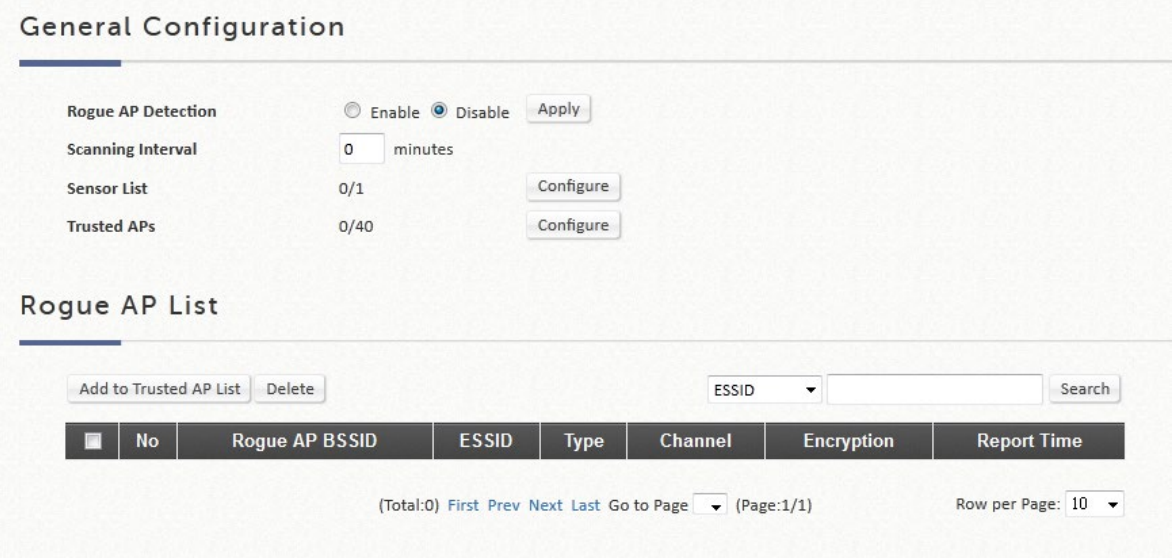
WDS（Wireless Distribution System）とは、AP（アクセスポイント）を無線で接続するための機能です。システムの WDS 管理機能は、管理者が WDS ネットワークの「ツリー」構造を設定するのに役立ちます。



- **WDS Status**： Status には WDS ツリーに追加された AP を、Security と Channel の設定とともに表示します。WDS は、複数のツリーに対して設定できます。関連する WDS ツリーの **WDS 接続設定**を変更するには、***Edit*** をクリックします。
- **WDS Update**： 次の操作を実行して、WDS 接続を更新します。
  - ***Add***： WDS にない子 AP と、AP リストから親 AP を持つ新しい WDS 接続を追加します。選択した親 AP が現在の WDS ツリーのいずれにもない場合、新しい WDS ツリーが追加されます。新しく追加された WDS ツリーの **WDS 接続設定**を変更するには、***Edit*** をクリックします。
  - ***Move***： WDS からの子 AP と WDS で接続可能な親 AP を使用して WDS 接続を更新すると、以前の親 AP への子 AP の以前の WDS 接続が削除されます。
  - ***Delete***： 子 AP への WDS 接続を含め、選択した AP のすべての WDS 接続が削除され、有線接続のない子 AP には到達できなくなります。

i）Rogue AP Detection

配置された環境で、管理されていない AP または悪意のある AP を検出するように設計されています。非管理対象 AP が管理対象 AP と同じ SSID を使用している場合でも、管理対象 AP をセンサーとして非管理対象 AP を検出します。AP の BSSID、ESSID、タイプ、チャネル、暗号化、およびレポート時間が表示されます。



- **General Config**：この設定項目には、このタブページ内の機能をオンにするためのスイッチが含まれています。例えば、***Rogue AP Detection*** 機能と、オプションの「Channel Switching」機能があります。
- **Sensor List Config**： この設定項目には、ワイドエリア AP 管理で現在管理されているすべての AP のリストが含まれます。管理者は、不正 AP をスキャンするセンサーとして 1 つ以上の AP を選択できます。
- **Trusted AP Config**：この設定項目を使用すると、管理者は検出された不正 AP のリストを維持し、信頼できる AP としてマークできます。
- **Rogue AP List**：このウィンドウには、検出された不正 AP がすべてリストされます。不正 AP には、BSSID、チャネル、暗号化、レポート時間などの関連情報が示されます。ウィンドウの下部にあるオプションボタンから、このリストで選択した不正 AP を信頼できるリストに追加したり、無視できる場合は削除したりできます。

- **General Configuration**

  - **Scanning Interval**： このフィールドの単位は分です。「Rogue AP Detection」を無効にするには、0 を入力します。「Rogue AP Detection」を有効にするには、検出間隔として 1～999 の範囲の整数を入力してください。

- **Sensor List Config**

  - **AP Type**：ドロップダウンメニューには、選択するための管理可能なモデルタイプが含まれます。選択したモデルタイプの管理対象 AP が、下のスクロールウィンドウに表示されます。

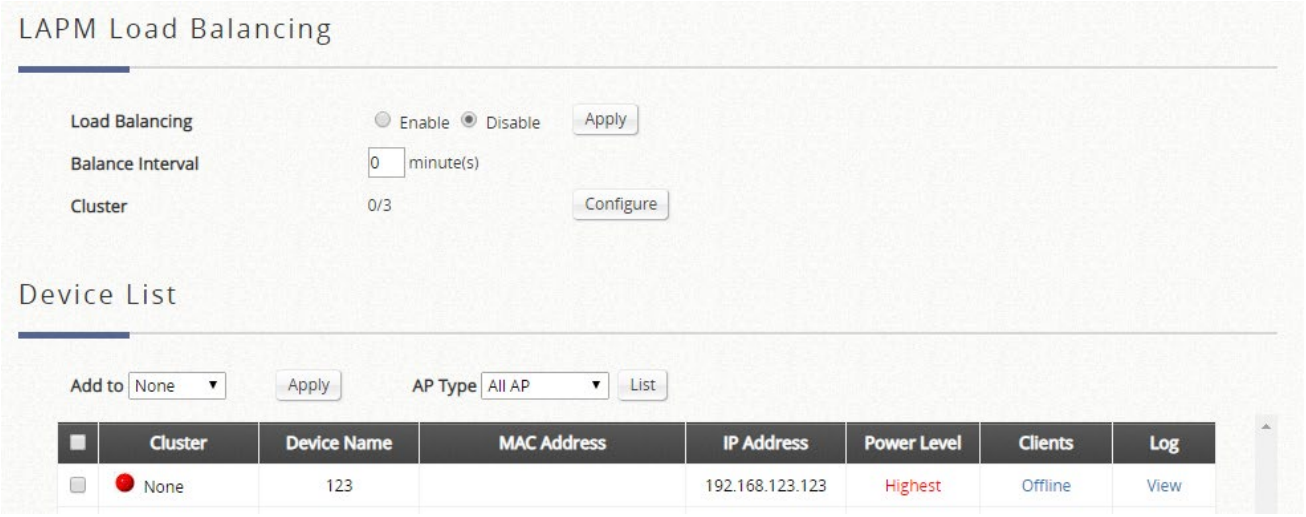
  管理者は、リストされた AP を 1 つ以上確認し、下部にある apply ボタンをクリックして、これらの AP をスキャナーとして指定することができます。

- **Trusted AP Config**

- **BSSID**：管理者は、このリスト内の既知の信頼できる AP の BSSID を静的に割り当てることができます。このリストに入力された、まだ管理されていない AP が環境に存在する場合、不正 AP デバイスリストには表示されません。
- **Remark**： 管理者は、リスト上の信頼できる AP に関連する追加情報の文字列を入力できます。

j）AP Load Balancing

管理対象 AP が過負荷にならないようにする機能です。システムは、AP の関連クライアント数が事前に定義されたしきい値を超えていることを検出し、同じグループ内の他の AP がまだしきい値を下回っている場合、バランシング機能は、過負荷の AP の送信電力を減少させ、他の利用可能な AP の送信電力を増加させるためにアクティブにされ、これにより、他の利用可能な AP が関連付けられる可能性が高くなります。システムは、管理対象 AP をグループに分割し、グループしきい値、および AP ロードバランシングをトリガーする時間間隔を定義できます。



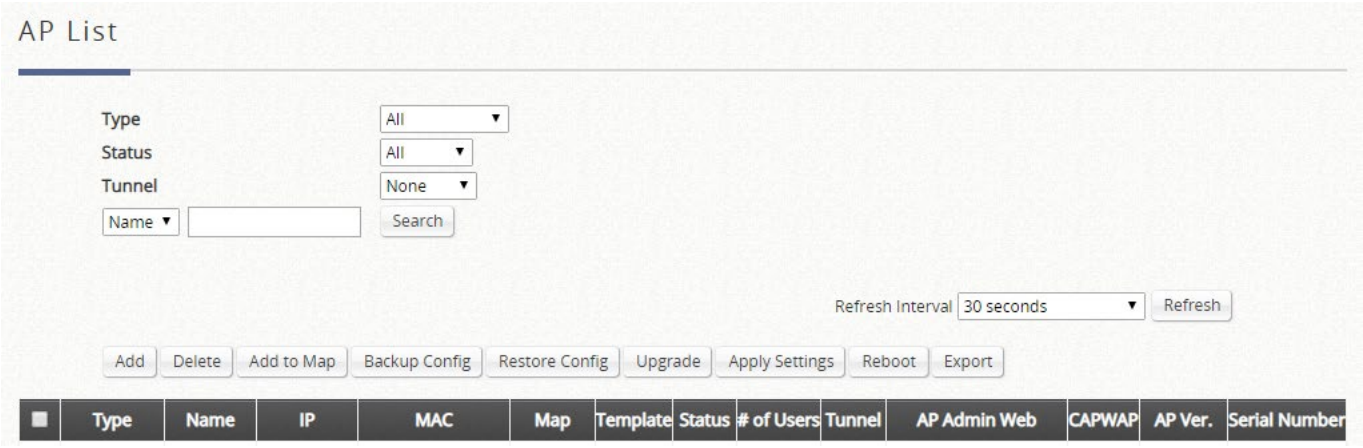
- **Load Balancing**：この設定項目を使用すると、管理者は AP ロードバランシング機能を適用する基準を指定できます。
- **Balance Interval**：管理者は、システムがクラスタ内のクライアント数を同期する時間間隔を指定します。
- **Cluster**：この項目を設定ページに入力すると、現在のすべての AP グループとそのステータス情報が表示されます。
- **Device List**：スクロール可能なウィンドウには、グループ、名前、MAC、IP、電力レベル、ローディングなどの相対情報とともに、モデル名でソートされたすべての管理対象 AP が表示されます。管理対象 AP には、AP ロードバランシング機能を適用するために属する AP グループを示す Group 列があります。

2）Wide Area AP Management

a）AP List

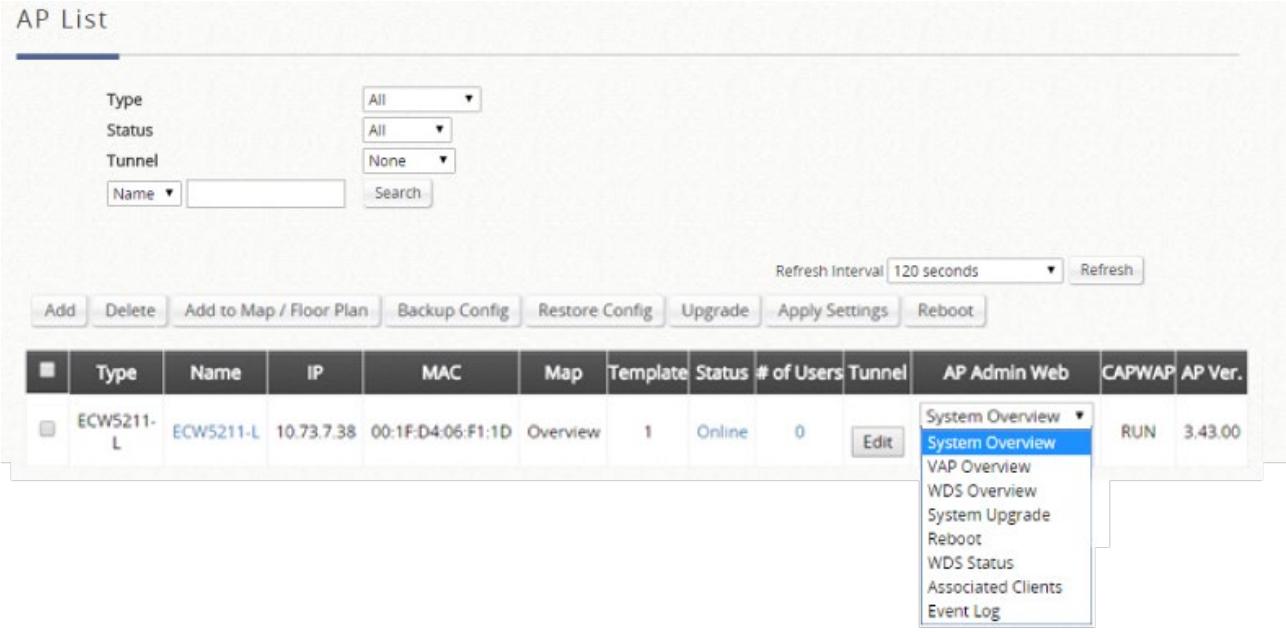
タイプ、名前、IP アドレス、MAC アドレス、AP オンライン/オフラインステータス、ユーザー数、トンネルのステータス、AP ファームウェアのバージョン、地理的位置など、各管理対象 AP の情報を表示するリストです。このセクションの機能には、削除、マップに追加、構成のバックアップ、バックアップ設定、復元設定、アップグレード、設定の適用、再起動などの操作も含まれます。

システム管理下のサポート対象の AP がすべてリストに表示されます。最初は、リストは空です。管理者は、Discovery タブまたは Adding タブからサポートされている AP を追加できます。AP が追加されると、このリストには、AP タイプ、AP 名、IP アドレス、MAC アドレス、ステータス、クライアント数、トンネルステータス、AP ファームウェアバージョン、地理的位置など、現在管理されている AP が表示されます。管理者は、個々の AP の前にあるチェックボックスにチェックを入れるか、上部のチェックボックスにチェックを入れてすべての AP をまとめて選択することで、削除、マップに追加、バックアップ設定、復元設定、アップグレード、設定の適用、管理対象 AP の再起動を実行できます。



AP を管理対象リストに追加した後、リストされた AP の管理のためにいくつかの操作を実行できます。

- **Go**：EWS コントローラは、ワイドエリア AP の設定をリモートで直接設定することはできません。ただし、Goto ボタンは、リモート AP の WMI にアクセスするための便利なリンクです。
  Goto ボタンは、表示されている AP のステータスが Online の場合にのみアクティブになります。

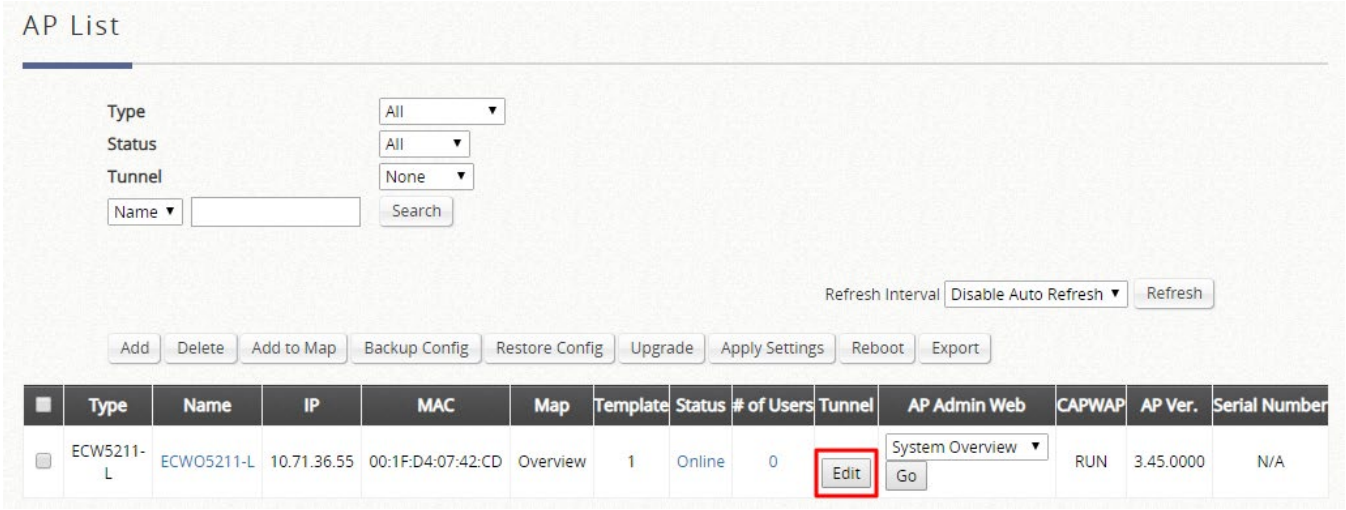


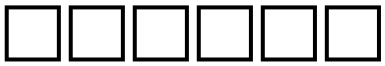
列ヘッダーのドロップダウンリストは、どの WMI ページに移動するかを指定するためのものです。

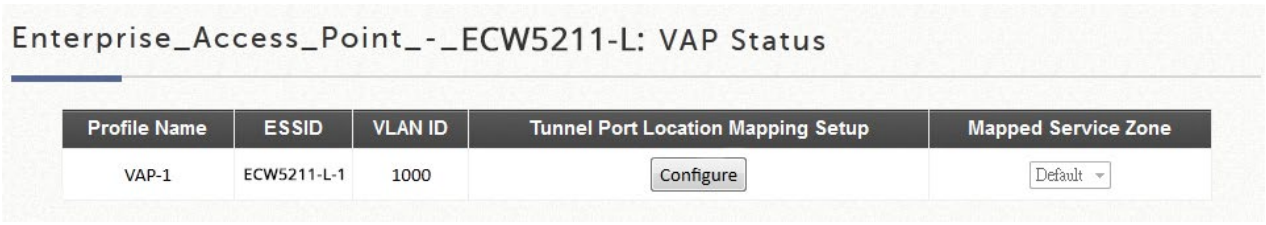
- **Delete**：チェックされている AP をリストから削除します。
- **Add to Map/Floor Plan**：このボタンをクリックすると、ポップアップウィンドウが開きます。管理者は、ドロップダウンリストから、マップ上またはフロアプラン上の選択した AP にマークを付けることができます。マッププロファイルまたはフロアプランが設定されていない場合、ドロップダウンリストで選択できるマップ/フロアプランはありません。
- **Backup Config:**このボタンをクリックすると、ポップアップウィンドウが開き、管理者は選択した AP の構成設定を EWS コントローラのストレージに保存された.db ファイルにバックアップできます。Backup Config タブページの下に、ダウンロードまたは削除用のバックアップファイルが一覧表示されます。
- **Restore Config**：このボタンをクリックすると、ポップアップウィンドウが開き、管理者は管理者 PC または EWS コントローラのストレージにローカルに保存された.db ファイルを使用して、選択した AP の構成設定を復元できます。
- **Upgrade**：このボタンをクリックすると、ポップアップウィンドウが開き、管理者は管理者 PC または EWS コントローラのメモリ（**Firmware** タブページの下）にローカルに保存されたファームウェアファイルを使用して、選択した AP のファームウェアをアップグレードできます。
- **Apply Settings**：すでに用意されている WAPM テンプレートを選択した AP に適用して、AP の設定を実装したり、特定の管理アプリケーションの AP 管理者のパスワードを変更したりします。
- **Reboot**：このボタンをクリックすると、選択した AP が再起動します。
- **Export**：選択可能な列で現在の AP リストをエクスポートします。
- **Edit（AP 名）**：このボタンをクリックすると、AP の属性編集ページに入り、管理者はデバイス名と SNMP コミュニティを指定できます。AP がマップ上にマークされている場合、このページでは、管理者は地理的位置、カバレッジ、関連リンクを設定し、マップ上に表示されるマーカーまたはアイコン画像をカスタマイズすることができます。

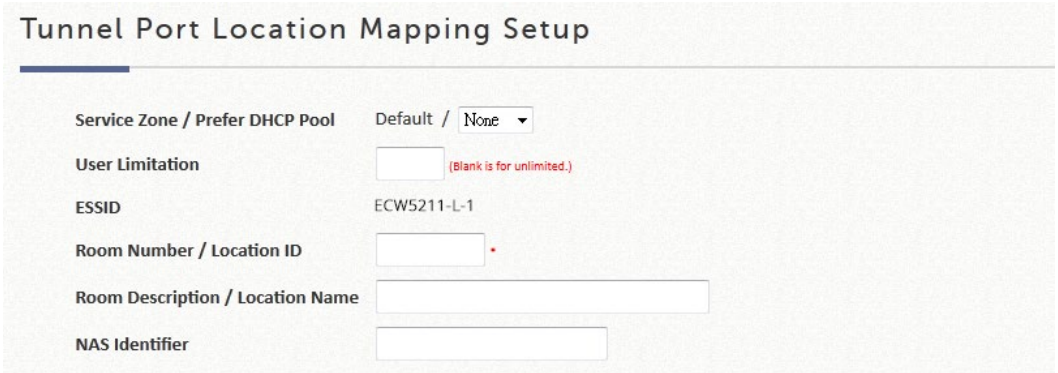
- **Edit（トンネルステータス）**：完全なトンネル VAP のポートロケーションマッピングパラメータを設定するには、このボタンをクリックします。管理者は、NAS 識別子を割り当て、管理対象 AP の完全トンネル化された VAP ごとにサービス用の IP プールを指定できます。

移動先：***Main >> Devices >> Wide Area AP Management >> AP List。***









- **Service Zone / Prefer DHCP Pool**：このフィールドエントリには、この VAP がトンネリングされる SZ が表示されます。優先 DHCP プールを使用すると、管理者は、この VAP 内のクライアントに IP を発行に割り当てる IP プールを指定できます。
- **User Limitation**：管理者は、この VAP からサービスの IP アドレスを割り当てることができるクライアントの数を指定できます。
- **ESSID**： この VAP の ESSID がここに表示されます。
- **Room Number / Location ID**：管理者は、この VAP のロケーション ID を説明するテキスト文字列を入力で

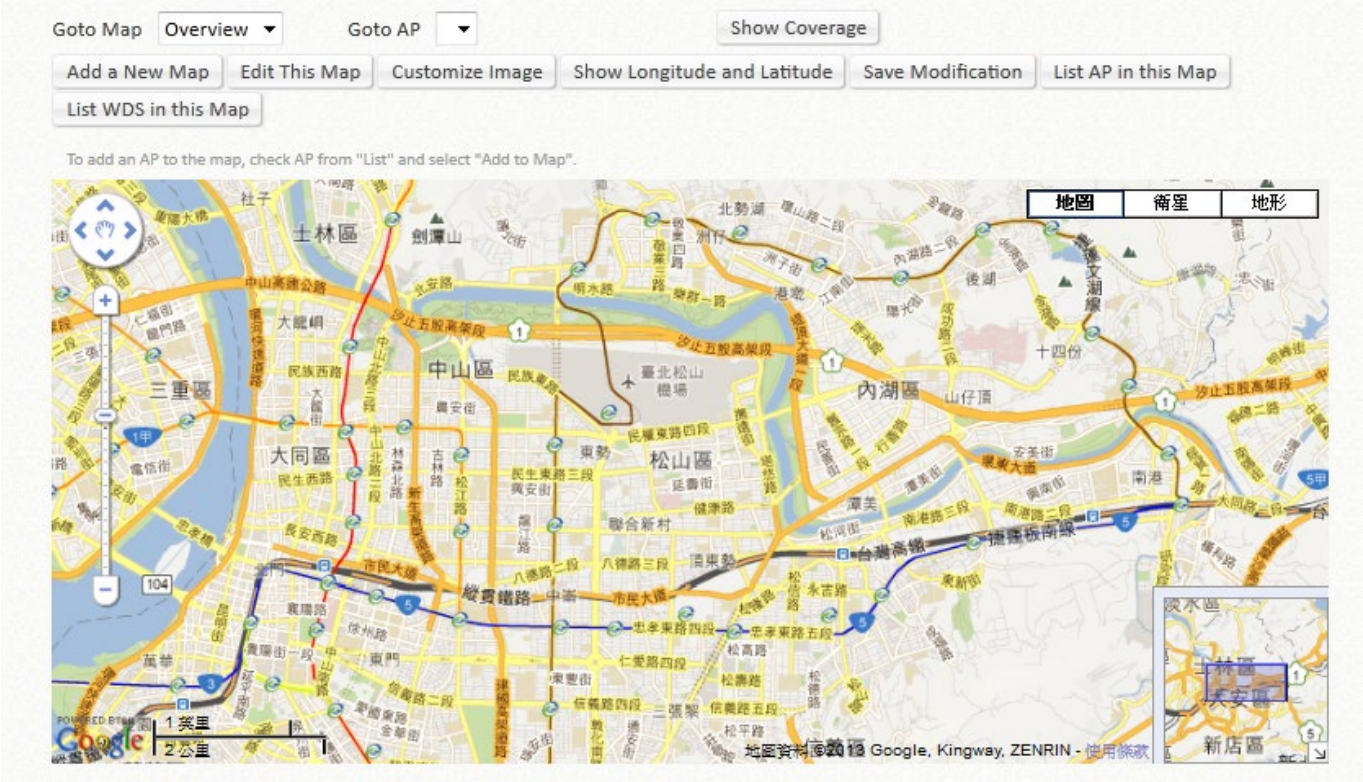
きます。

- **Room Description/ Location Name**：管理者は、この VAP のロケーション名を説明するテキスト文字列を入力できます。
- **NAS Identifier**：管理者は、必要に応じて、この VAP と結合する追加の NAS ID を割り当てることができます。

b）AP Grouping

Map Configuration

Map タブページは Google マップ API バージョン 3 で実装されており、管理者はワイドエリア AP 管理の下にあるすべての AP の所在を一目で確認できます。この機能は、ネットワークの計画と管理に関して役立ちます。
管理者が管理リストに AP を追加すると、以下のように Google マップ API でこれらの AP にタグを付けたり、マークを付けたりして、その地理的位置を示すことができます。



マップを作成する手順：

ステップ 1： ISP からパブリック IP アドレスを取得し、このアドレスを WAN インターフェースに設定します。

ステップ 2： Google Maps Registration key（Google マップ登録キー）を申請します。

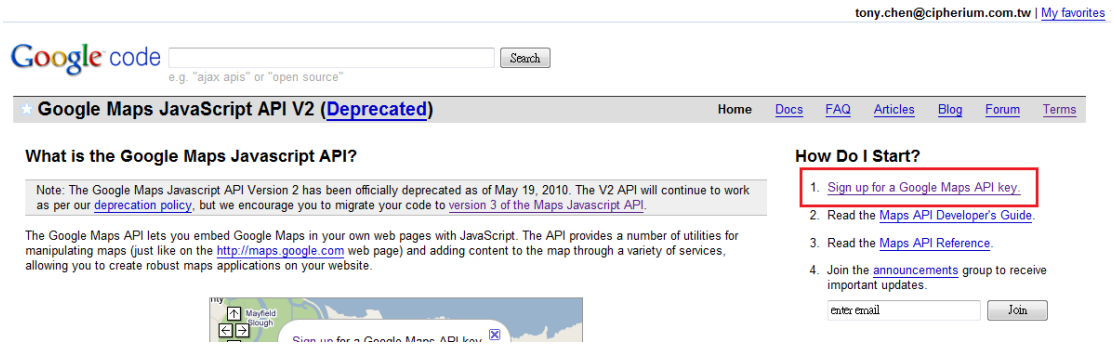
ステップ 3： Map ページの ***Add a New Map***（新しいマップを追加）ボタンをクリックします。Map Name（マップ名）と登録キーを設定します。

ステップ 4： AP を検出し、これらの AP を管理対象リストに追加します。

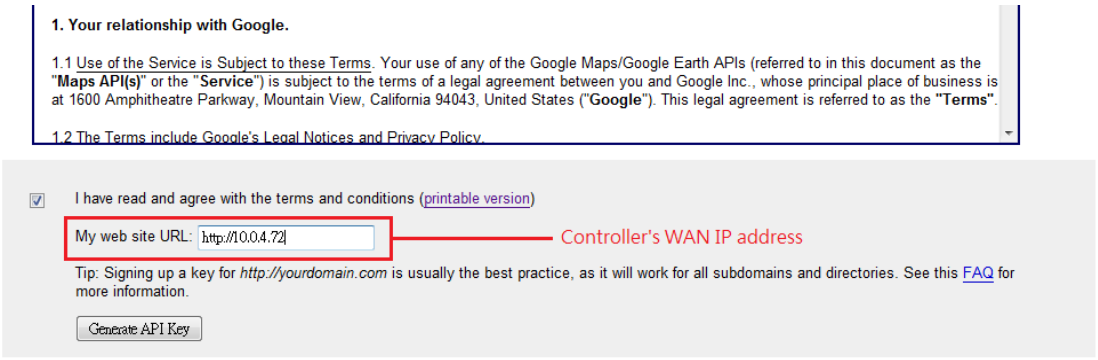
ステップ 5： List ページで、作成したマップにいくつかの AP を追加します。

AP 情報を使用してマップを構成するために必要な手順については、以降のセクションで説明します。

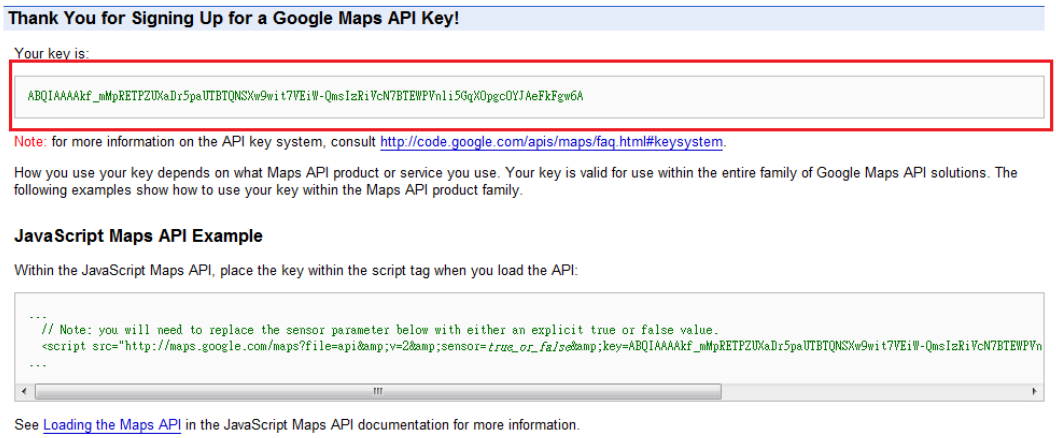
ワイドエリア AP 管理で新しい地図を追加する前に、Google アカウントにサインアップする必要があります。または Google アカウントがすでに使用可能な場合は、この手順をスキップすることができます。このアカウントは、Google Maps API v3 キーの申請に使用されます。 詳細については、https://cloud.google.com/maps-platform/ の Google の指示に従って、そのような Maps API v3 キーを取得し、**Map Configuration ページ**の下の**「Google Maps Registration Key」**フィールドにキー情報を提供してください。



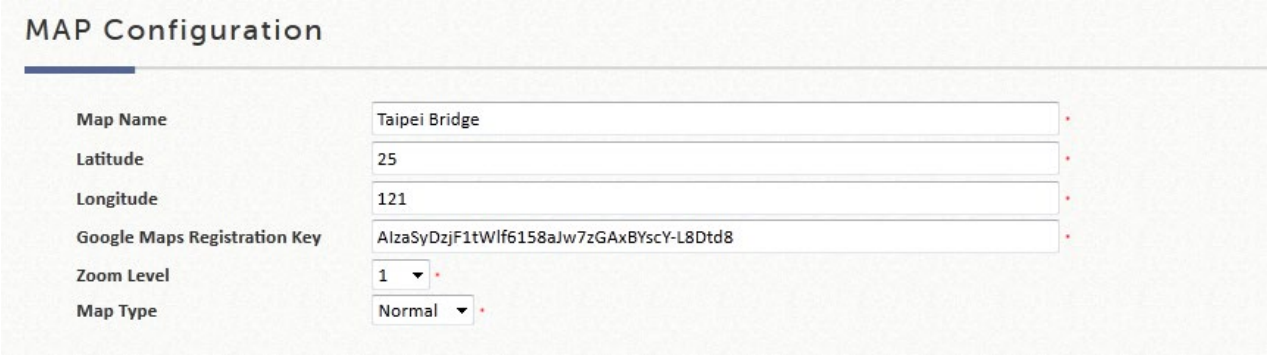
「**Sign up for a Google Maps API key**」をクリックします。



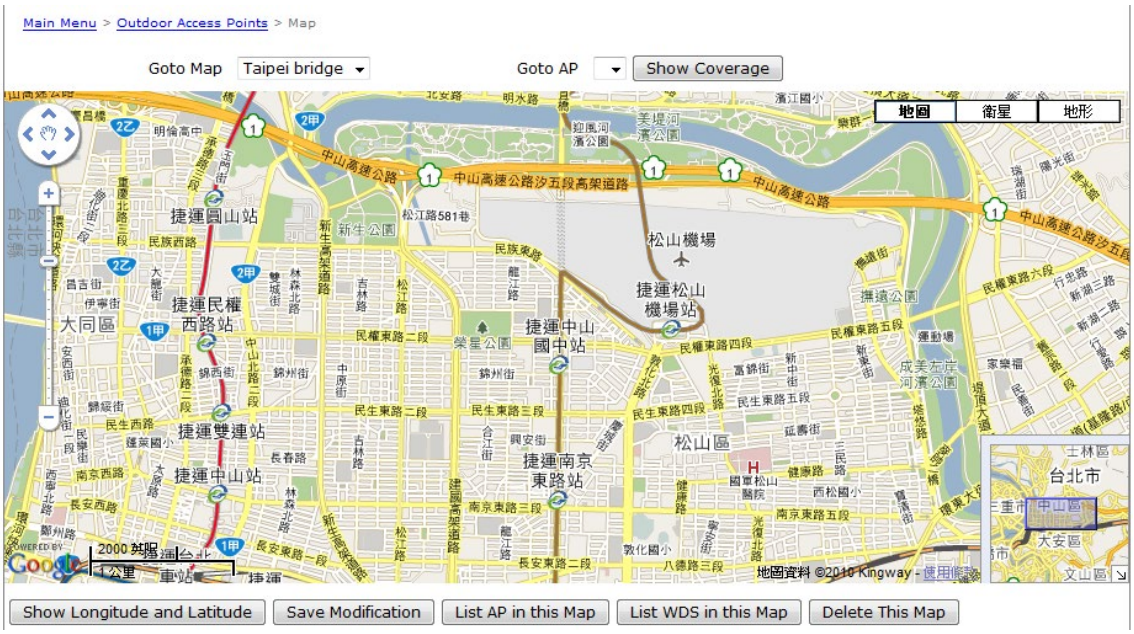
利用規約のチェックボックスをクリックし、EWS コントローラの WAN IP アドレスを入力します。Google は、EWS コントローラ用の API キーを生成します。



次に、EWS コントローラの WMI の **Map** タブページに戻り、ページの一番下までスクロールし、**Add a New Map** ボタンをクリックします。



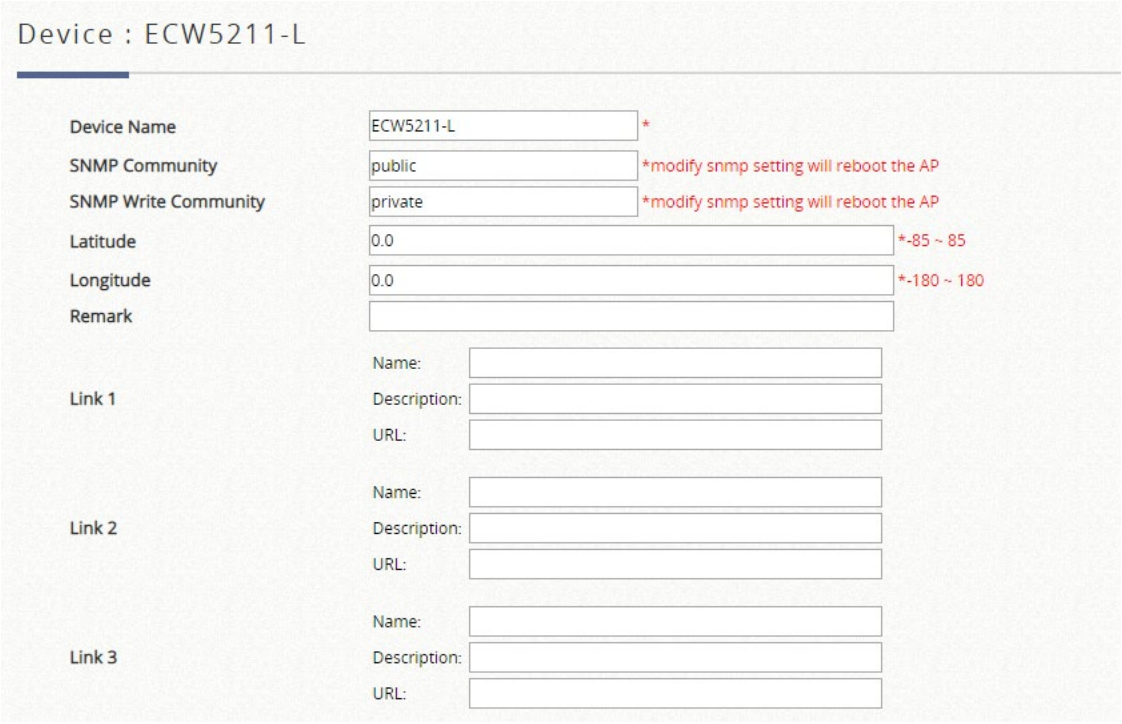
設定のために編集ページが開きます。このマップの **Map Name**（マップ名）と、**Longitude**（経度）と **Latitude**（緯度）で定義されている地理的位置を入力してください。また、Google が発行した**キー**も記入してください。最後に、**Zoom Level** と **Map Type** を選択し、***Save*** ボタンをクリックします。



上のスクリーンショットは、マップ名を Taipei Bridge（台北橋）、ズームレベル 14 と Normal Map Type（標準マップタイプ）として台北市を示した例です。

複数の AP を配置し、Wide Area AP Management の下の **List** に一覧表示している場合は、その地理的位置を特定のマップ上にマークできます。

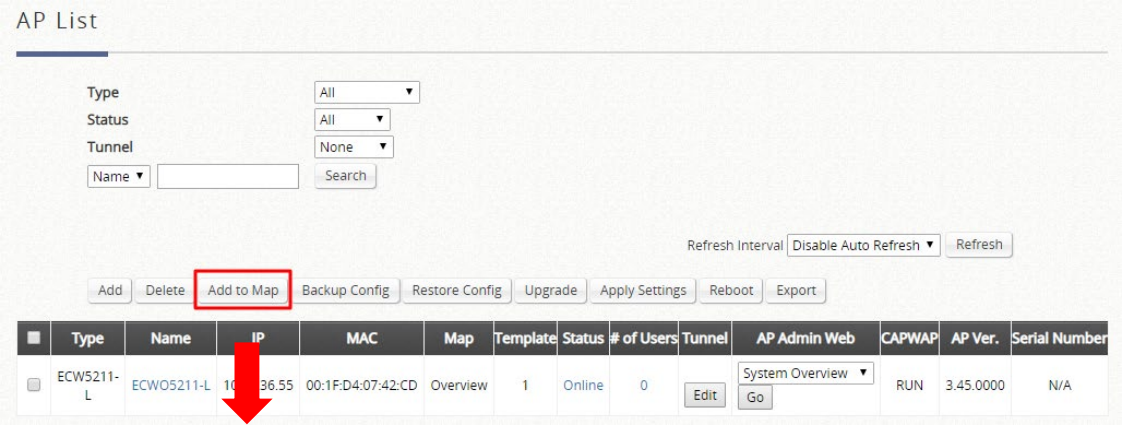
まず、**List** タブページに移動し、マップ上にマークしたい AP の **Edit** ボタンをクリックします。AP 設定ページで、この AP の座標（**Latitude** と **Longitude**）と信号カバレッジの半径を設定します。

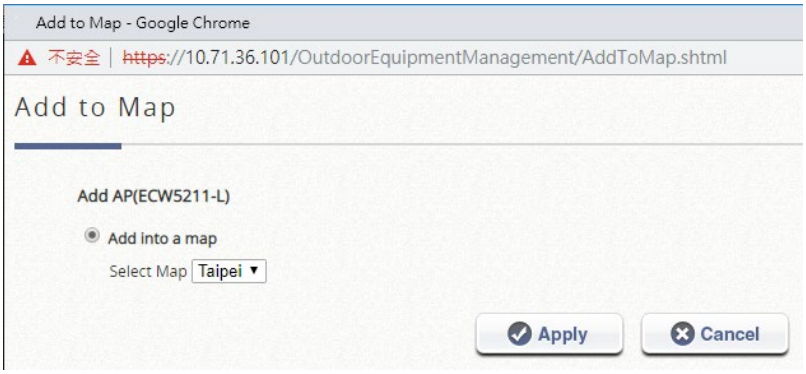


この特定の AP をマークする座標を入力します。**Link 1～Link 3** は、マップ上のダイアログボックスに表示される HTTP リンクを設定するためのもので、この AP に接続されている IP 監視カメラの IP アドレスや、この AP が配置されている会場のウェブサイトの URL など、AP に関連する追加情報を参照することができます。

管理者は、マップ上に表示されているカスタマイズされたサムネイル画像をアップロードできます。必要な設定をすべて設定し、画像をアップロードしたら、***Apply*** ボタンをクリックし、AP **List** ページに戻ります。

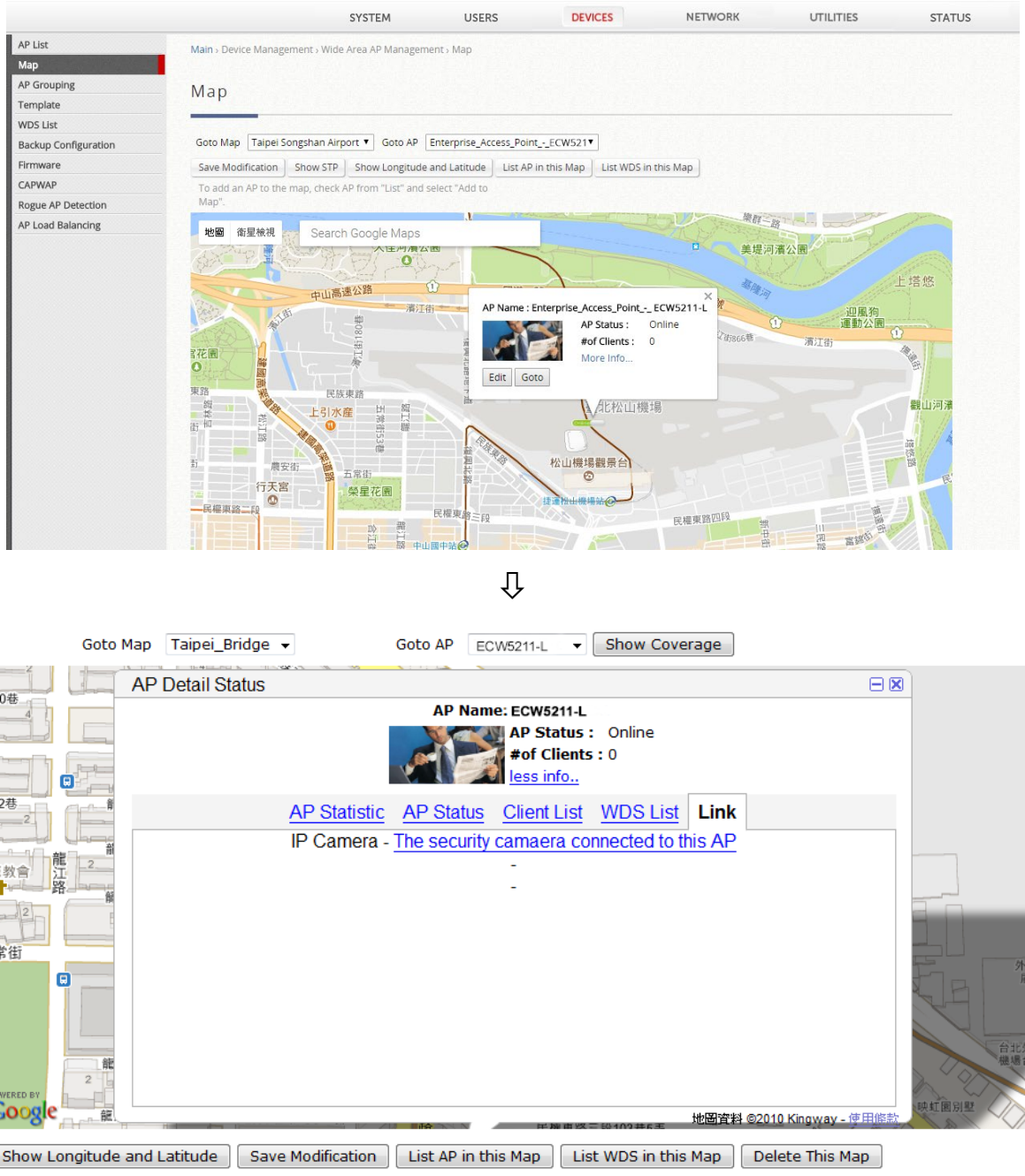
マップ上にマークしたい AP をチェックし、「**Add to Map/Floor Plan**」ボタンをクリックし、これらの AP をマークするマップの名前を選択して「***OK***」ボタンをクリックしてください。





選択した AP は、以下に示すように、設定された物理座標でマーカーイメージとしてマップ上に表示されます。

AP アイコンをクリックすると、設定済みの追加情報やリンクに関するダイアログボックスが表示されます。**AP status**、**Client List**、**WDS List**、および AP に関連する **Links** については、**more info** リンクをクリックしてください。

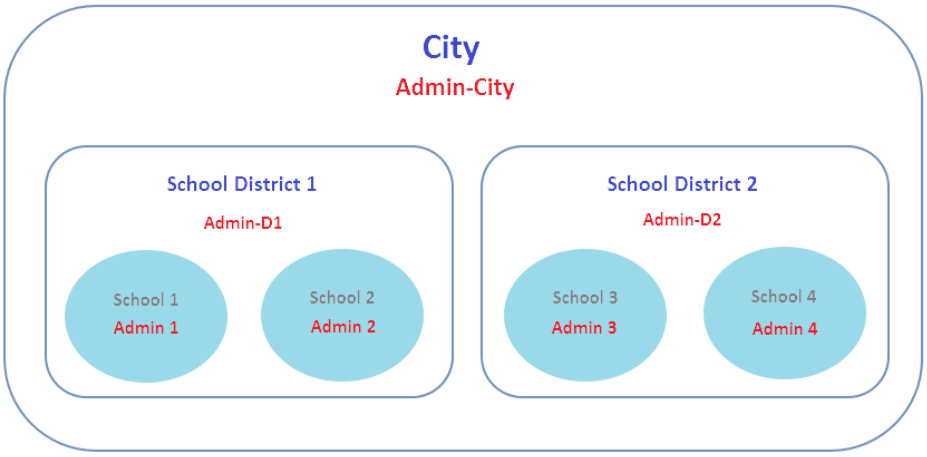


AP status、**Client List**、および **WDS List** の情報は、SNMP を介してリモート AP から収集されます。

AP Grouping

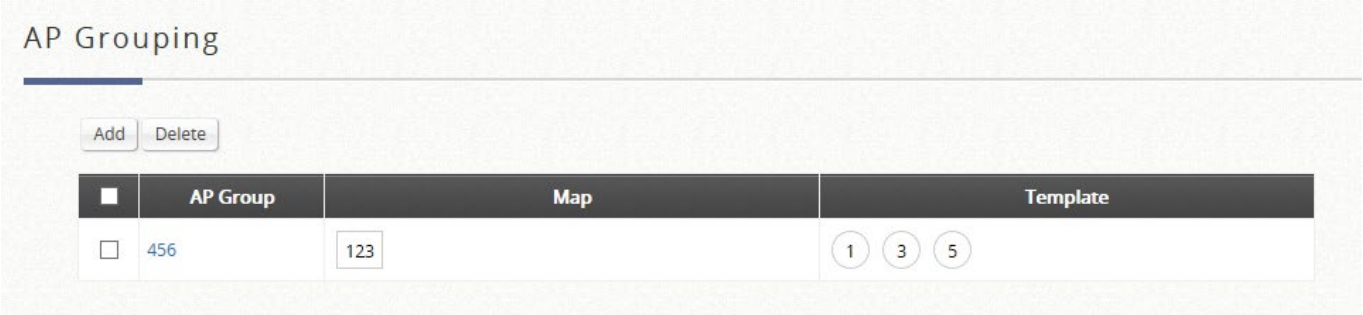
Wide Area AP Management では、すべての管理対象 AP を、マップによって AP グループに指定する必要があります。各 AP は、マップに属するように設定する必要があります。すべての AP がデフォルトマップに追加されます。または、新しい AP を追加する前に、選択用の新しいマップを作成することもできます。

AP のグループ化を使用すると、異なるレベルの管理者が異なる AP グループで AP を管理できます。AP グループには、複数のマップと AP テンプレートを含めることができます。一方、マップを異なる AP グループに含めることができます。異なる管理者グループには、AP グループごとに異なる読み取り/書き込み権限を割り当てることができます。

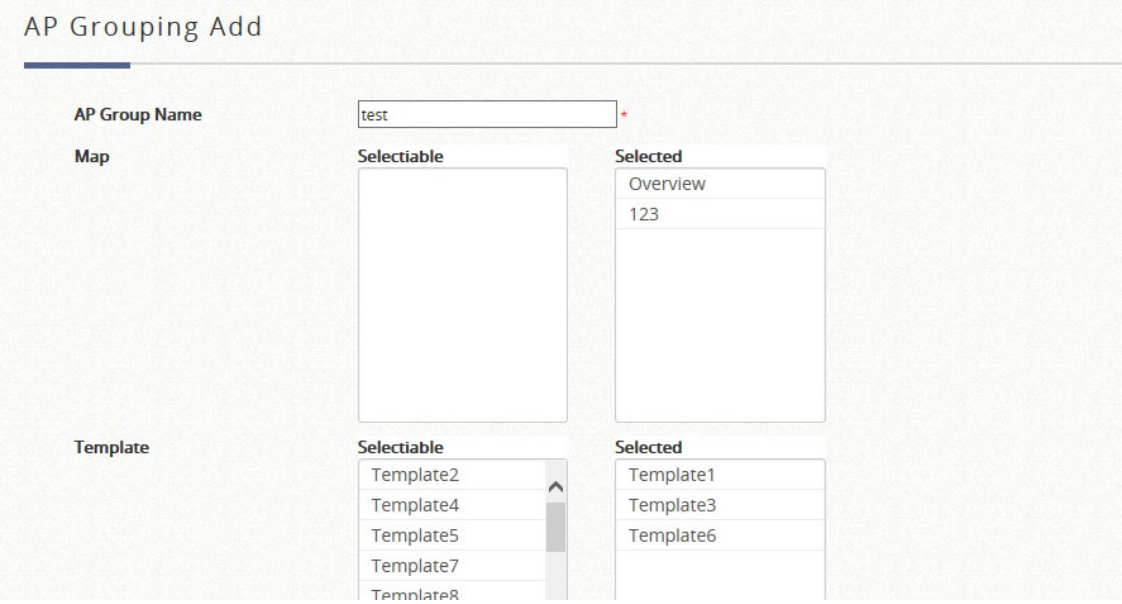


Edgecore コントローラは、Google マップ上の AP の追加をサポートしています。プロセスを以下に示します。

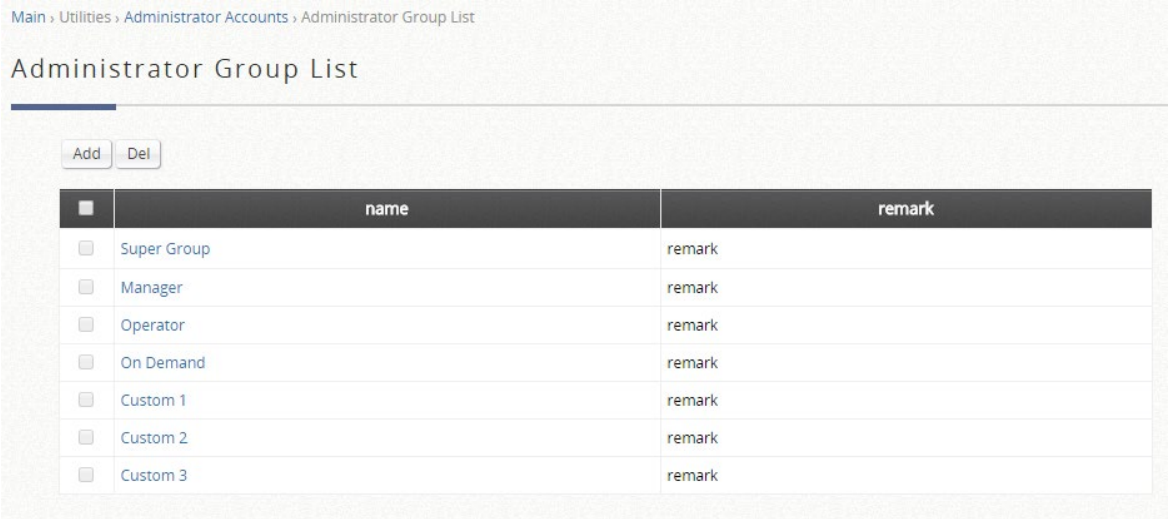
1. ページ下部の **Map List** の下にある **Add** をクリックして独自のマップを作成し、ポップアップウィンドウに表示される必要なフィールドに入力します。**Apply** をクリックします。
2. AP の属性プロファイル（経度と緯度）に AP の配置位置を追加します。*「Main Menu > Devices > Wide Area AP Management > List - AP Attribute (Edit)」*
3. List ページに戻り、AP を選択し、「**Add to Map/Floor Plan**」ボタンをクリックして、目的のマップを選択します。設定後、管理者は選択したマップ上の AP のアイコンを見ることができるはずです。
4. 概要パス：*「Main Menu > Devices > Wide Area AP Management > Map」*
5. *「Main Menu > Devices > Wide Area AP Management > AP Grouping > AP Grouping List」*の順に選択して、AP グループを追加または削除します。



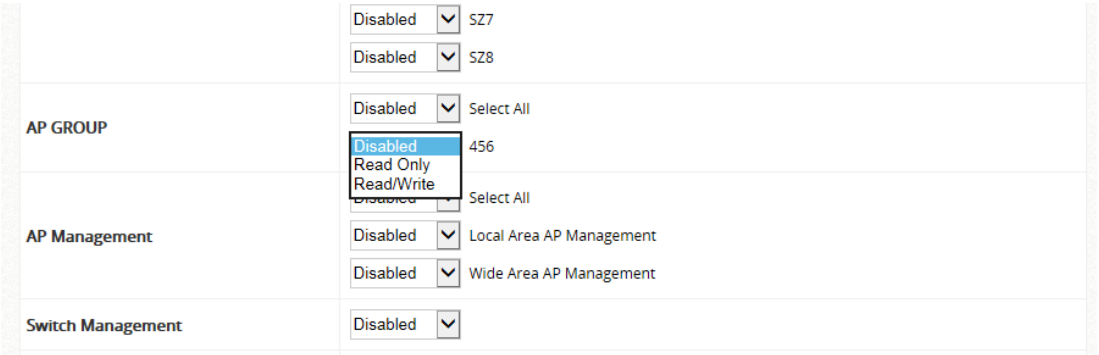
6. Add をクリックして AP グループを追加してください。各 AP グループには、管理対象のマップとテンプレートを含めることができます。



7. AP グループを作成したら、管理者グループを Administrator Group List に追加することによって、各 AP グループにアクセス許可を割り当てることができます。

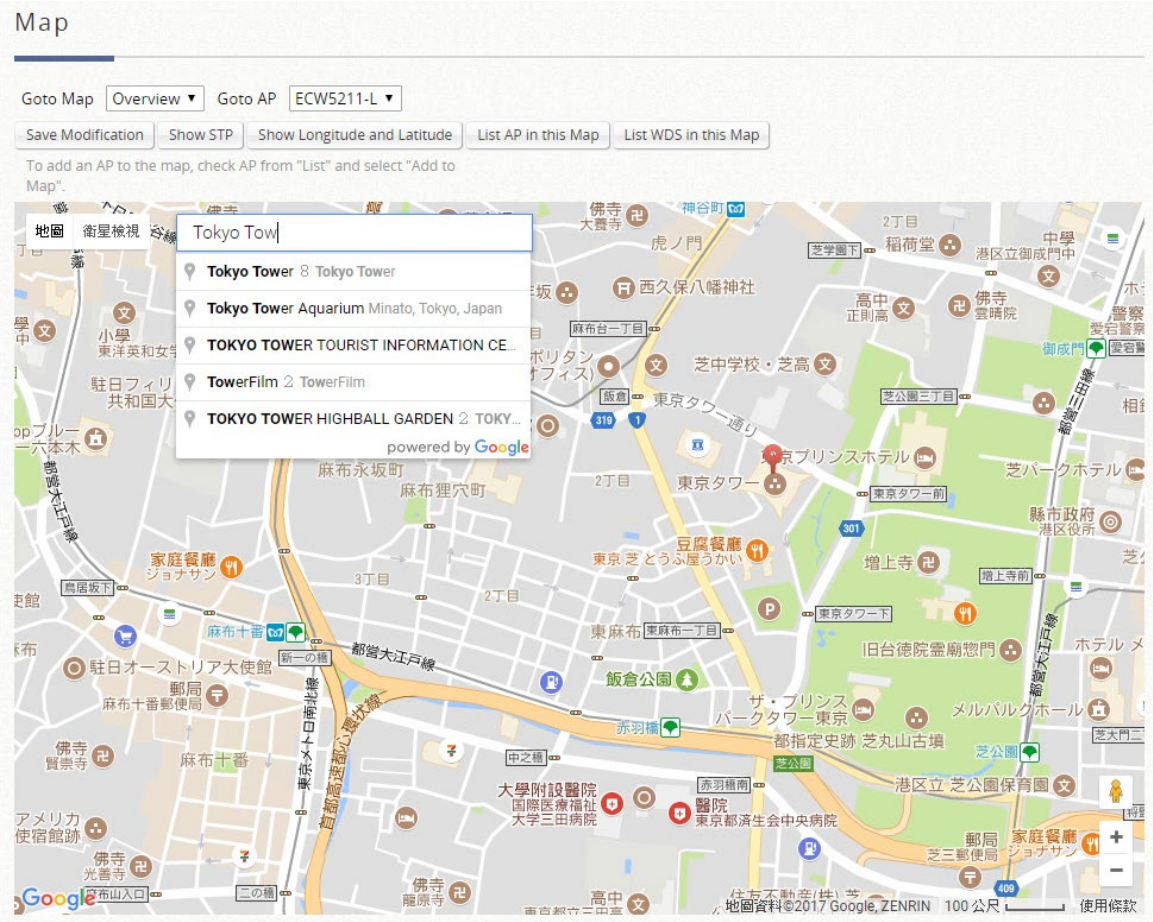


8. AP グループへの権限の割り当ててください。



c）Map

マップは、Google マップ上の管理対象 AP と WDS リンクを表示します。これは、無線ネットワークの計画と管理のためのユーティリティです。



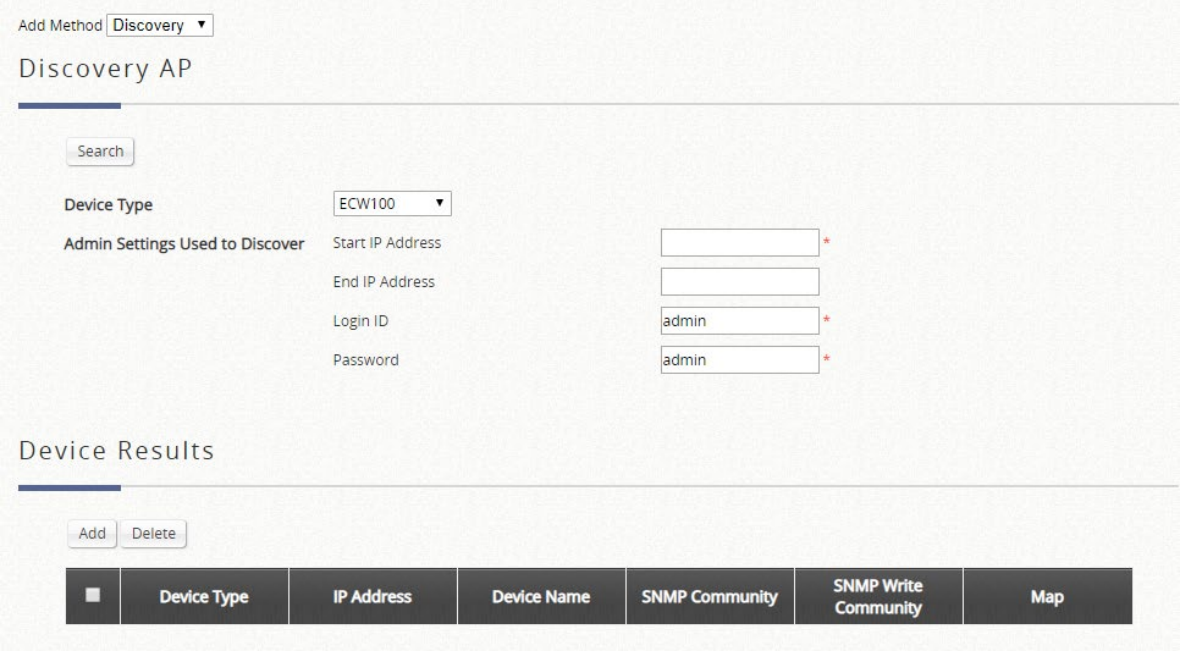
- **Goto Map**：複数のマッププロファイルを設定している場合、この機能では異なるマップを切り替えることができます。
- **Goto AP**： 管理者がリスト上の AP を選択し、選択した AP がマップの中央に表示されるようにマップが移動する機能です。
- **Save Modification（Overview マップを除く）**： この機能は、マップに加えられた変更を保存し、マップのプロファイル属性を上書きするためのものです。例えば、元のマップを変更または画面移動した場合、このボタンをクリックすると、変更内容が保存されます。
- **Show Longitude and Latitude**：この機能を押すと、マップの現在中心点の経度と緯度がポップアップウィンドウに表示されます。
- **List AP in this Map**：このボタンをクリックすると、ブラウザに新しいページが開き、**List** タブページにリダイレクトされ、マップ内の AP のリストが表示されます。
- **List WDS in this Map**：このボタンをクリックすると、ブラウザに新しいページが開き、**WDS List** タブページにリダイレクトされ、マップ内の WDS リンクのリストが表示されます。
- **Map/Satellite**：グラフィカルビューまたは実際の衛星画像のビューを切り替えます。

- **Search**：管理対象 AP を検索するのではなく、Google マップから位置や場所を検索できます。
- **Distance Calculation**：選択した 2 つの AP 間の距離を計算します。

d）Discovery

この検出機能は、インターネットまたはイントラネットを介して、サポートされているタイプの AP を検出する機能です。検出された AP は、管理されたデバイスに追加され、SNMP 読み取りコミュニティ文字列を自動的に割り当てることができます。このコミュニティ文字列は、定期的なステータス収集に使用されます。AP を検出するには、AP List から ***Add*** をクリックし、Add Method ドロップダウンリストから ***Discovery*** を選択します。

管理者が新しい AP を検出しようとしたら、Device Type を選択します。次に、AP の現在の IP 範囲、Login ID と Password を入力します。次に、Discovery ボタンをクリックします。新しい AP が検出されると、次の Discovery Results リストに表示されます。



- **Start/End IP address**：管理者は、AP 検出の IP アドレス範囲を指定する必要があります。指定した IP アドレスは、外部ネットワーク IP アドレスまたは内部ネットワーク IP アドレスです。これは、管理対象ネットワークに接続されている複数のデバイスをスキャンする場合に便利です。指定範囲外の IP アドレスを持つ AP は、検出後にリストされません。
- **Login ID/Password**：対象 AP の管理インターフェースのログイン ID とパスワードを入力すると、管理者は AP の SNMP コミュニティをリモートで設定できます。
- **Discover**： 管理者が新しい AP を検出しようとしたら、**Device Type** を選択します。次に、AP の現在の IP 範囲、**Login ID**、**Password** を入力します。次に、***Discover*** ボタンをクリックします。新しい

AP が検出されると、次の Discovery Results リストに表示されます。管理者は、検出プロセス中いつでもコントローラのスキャンを停止できます。

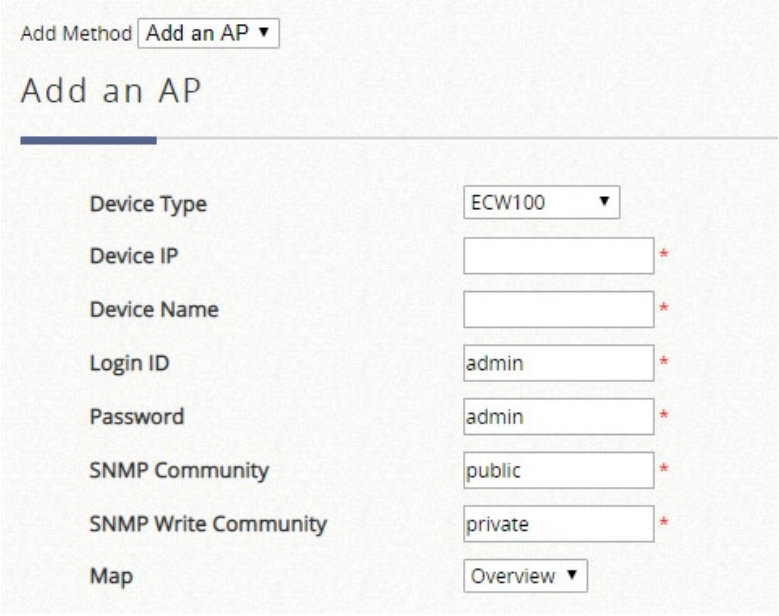
- **Device Results**：検出プロセスが完了すると、検出された AP がここに一覧表示されます。管理者は ***Add*** をクリックして、AP を管理対象のリストに登録できます。
  - **Device Type**：検出された AP の AP モデルです。
  - **IP Address**： 検出された AP の IP アドレスです。
  - **Device Name**：設定によってデバイスを識別するには、デバイス名を指定します。
  - **SNMP Community**：ステータスアクセスに使用される SNMP 読み取りコミュニティ文字列です。
  - **SNMP Write Community**：設定の変更に使用される SNMP 書き込みコミュニティ文字列です。
  - **Map**：特定のマップで管理対象デバイスを特定の階層管理またはグラフィカルビューに指定します。

e）Adding

追加機能を使用して、AP に必要な情報を入力して AP を手動で設定します。

管理リストに追加する複数の AP を検索して一覧表示できる **Discovery** 機能に加えて、管理者は **Add an AP** を選択して、管理リストに 1 つのアクセスポイントを直接追加することもできます。デバイスの IP アドレス、名前、ログイン資格情報を設定し、SNMP コミュニティ文字列を設定し、***Apply*** ボタンをクリックするだけです。

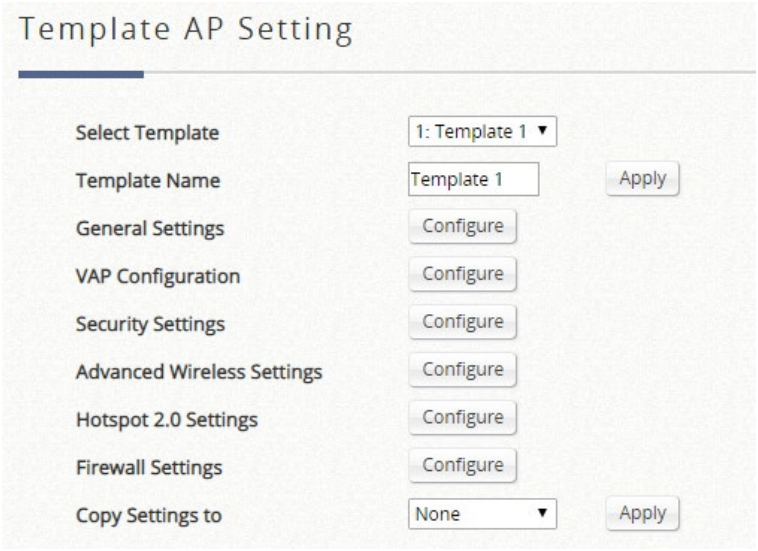
管理者は、ここでサポートされている AP を List 表に手動で追加できます。手動で追加した AP は、最初に AP List に「offline」の状態で表示されます。システムは、SNMP プロトコルを使用して AP への接続を試みます。SNMP 読み取りが成功すると、手動で追加した AP が online になります。



- **Device Type**：ワイドエリア AP のデバイスタイプです。

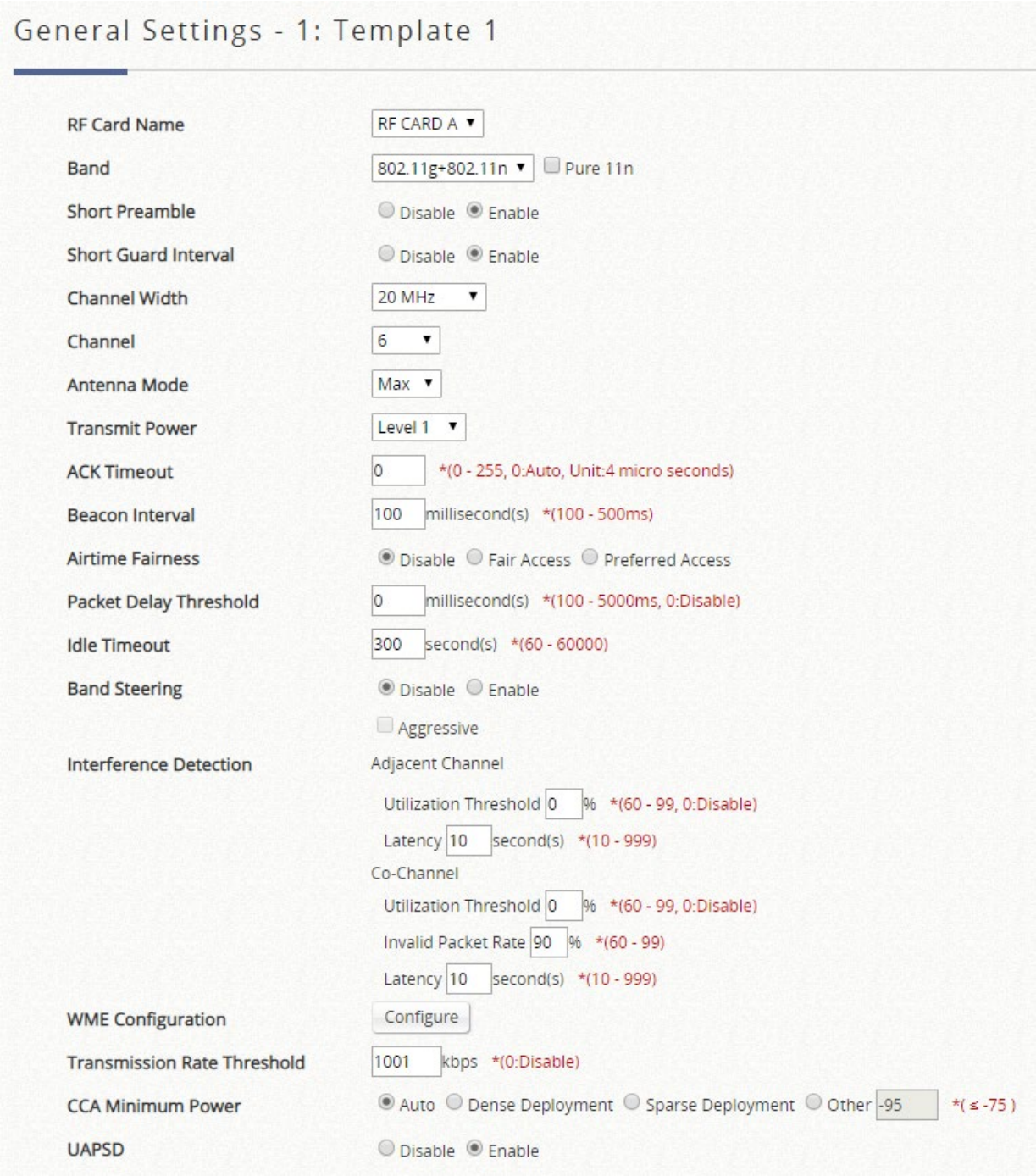
- **Device IP**：管理リストに追加する AP の IP アドレスです。
- **Device Name**：この AP デバイスに与えられたニーモニック名です。
- **Login ID**：デバイスの管理インターフェースのログイン名です。
- **Password**：デバイスの管理インターフェースのログインパスワードです。
- **SNMP Community**：ステータスアクセスに使用される SNMP 読み取りコミュニティ文字列です。
- **SNMP Write Community**： 設定の変更に使用される SNMP 書き込みコミュニティ文字列です。
- **Map**：特定のマップで管理対象デバイスを特定の階層管理またはグラフィカルビューに指定します。

f）Template



アクセスポイントのファームウェアのバージョンに応じて、国コードを選択してください。これにより、アクセスポイントで使用可能なチャネルが動的に変更されます。

- **General Settings**



- **RF Card Name**：AP の RF カードを選択します。
- **Band**：編集する AP モデルテンプレートに応じて、**802.11a、802.11b、802.11g、802.11a+802.11n、802.11b+802.11g、802.11g+802.11n、802.11ac** の各モードを選択できます。
- **Short Preamble**：56 ビットの同期フィールドを持つショートプリアンブルは、無線 LAN の伝送効率を向上させることができます。ショートプリアンブルを使用する場合は *Enable* を、128 ビットの同期フィールドでロングプリアンブルを使用する場合は *Disable* を選択します。
- **Short Guard Interval（Band が 802.11g+802.11n または 802.11a+802.11n の場合に利用可能）**： ガード間隔は、シンボル間の干渉を排除するために送信されるシンボル（文字）間の間隔です。802.11n でスループットをさらに向上させるには、短いガード間隔が従来の半分になります。短いガード間隔を使用する場合は Enable を、通常のガード間隔を使用する場合は Disable を選択してくだ

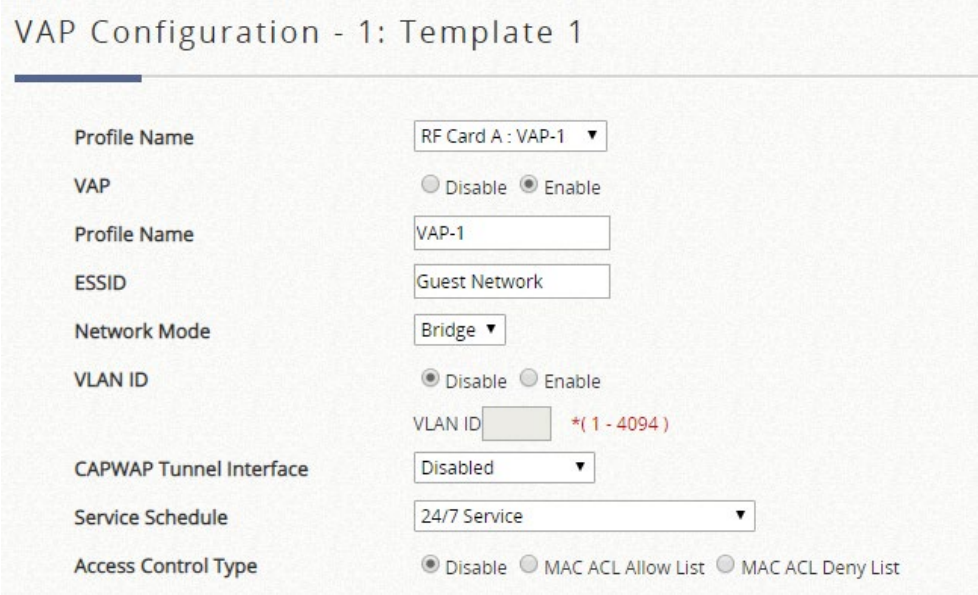
さい。

- **Channel Width（802.11g+n、802.11a+n、802.11ac のみ）**： 20MHz、40MHz、または Auto のいずれかを選択します。スループットを向上させるために、チャネル帯域幅を 40MHz に倍増することがサポートされています。80MHz は、802.11ac モードでの選択が可能です。
- **Channel**：ネットワーク設定に対応する適切な*チャンネル*をドロップダウンメニューから選択します。「Auto」に設定され、Band が「802.11a」、「802.11a+n」、または「802.11ac」に設定されている場合、選択したチャネルが干渉するか、DFS チャネル信号が検出されると、チャネルセレクタ表が表示されます。
- **Antenna Mode（802.11g+n、802.11a+n、802.11ac のみ）**： 送受信用の空間ストリームの数を設定します。
- **Transmit Power**：一部の AP モデルでは、システムから送信される信号強度をレベルで選択できます。各レベルは、最高電力から 1dBm の減少を示します。**Level 1** は実際の最高電力であり、**Level 2** は最高電力から 1dBm を引いた値です。
- **Beacon Interval (ms)**：20～1000 ミリ秒の値を入力します。デフォルト値は 100 ミリ秒です。入力された時間は、アクセスポイントとワイヤレスネットワークとの間でビーコン信号が送信される頻度を意味します。
- **ACK Timeout**：「確認応答（ACK）フレーム」の待ち時間間隔です。ACK が間隔内に受信されない場合、パケットは再送信されます。ACK タイムアウト間隔を長くすると、パケット損失は減少しますが、スループットは低下/悪化します。
- **Airtime Fairness**： 「Fair Access」に設定すると、異なるバンドの互換性を持つすべてのデバイスのエアタイムが同じになります。「Preferred Access」に設定すると、802.11n クライアントと 802.11ac クライアントが優先されます。この機能は、異なるバンドをサポートするデバイスを持つネットワークに最適です。
- **Packet Delay Threshold (ms)**：これは Tx キューフラッシングメカニズムで、キューが x ミリ秒以上処理されている場合にパケットをドロップし、すぐに他のキューを処理することを目的としています。これはデフォルトで無効になっています（=0）。
- **Idle Timeout (s)**：クライアントは、非アクティブ状態が設定された時間（デフォルトは 300 秒）に達すると切断します。
- **Band Steering**：有効にすると、5GHz 接続を持つクライアントは、2.4GHz 帯域の輻輳を軽減するために、5GHz 帯域に誘導されます。これは、2 つの RF カードで AP が 2.4GHz および 5GHz に設定されている場合にのみ適用されます。「Aggressive」にチェックを入れると、5GHz 接続を持つクライアントは、5GHz 帯に接続する必要があります。
- **Interference Detection**：現在のチャネルまたは隣接チャネルの使用率、遅延、および無効なパケットレートが設定されたしきい値に達すると、AP は別のチャネルに切り替わります。
- **Transmission Rate Threshold**：送信レートが設定されたしきい値よりも低い場合、関連付けられたクライアントはキックされます。これにより、関連付けられているすべてのクライアントに対して高い接続速度が保証されます。
- **WME Configuration**：Wireless Multimedia Extensions（WME）は、Wi-Fi マルチメディア（WMM）

とも呼ばれ、IEEE 802.11e 規格に基づく Wi-Fi Alliance の相互運用性認定です。IEEE 802.11 ネットワークに基本的なサービス品質（QoS）機能を提供します。アクセス優先度は、異なるパラメータを使用して設定することができます。CW Min：競合ウィンドウの最小値、CW Max：競合ウィンドウの最大値、AIFS：フレーム送信間隔、TXOP Limit：送信機会の制限。

- **UAPSD**：U-APSD は Unscheduled Automatic Power Save Delivery の略で、WMM で動作する 802.11 省電力機構です。クライアントデバイスが省電力モードの場合（つまり、受信機がオフになっているため、データフレームを受信できない）、AP はクライアント宛てのすべてのフレームを一時的にバッファリングします。

➢ **VAP Configuration**

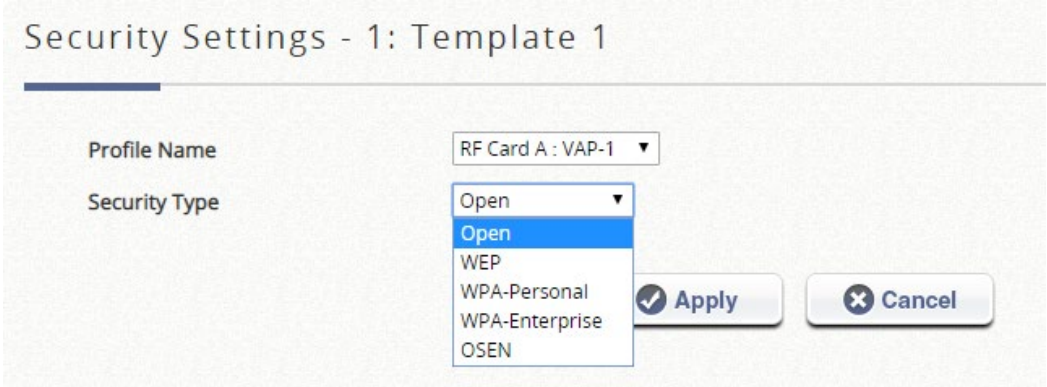


- **VAP**：この VAP を***有効***または***無効***にします。
- **Profile Name**： ID/管理目的で使用される特定の RF カードとその VAP のプロファイル名です。
- **ESSID**：ESSID（拡張サービスセット ID）は、クライアントが特定の VAP に関連付ける識別子として機能します。 さまざまなワイヤレスセキュリティタイプのように、さまざまなサービスレベルと組み合わせることができます。
- **Network Mode**：VAP の動作モードです。
  - **Bridge Mode**：VAP は透過的に動作します（NAT なし、DHCP なし）。これにより、クライアントデバイスには LAN 側の DHCP サーバーから動的 IP アドレスが割り当てられます。アップリンクゲートウェイ/スイッチによって認識されるクライアントトラフィックの送信元 IP アドレスは、クライアントの元の IP アドレスのままになります。
  - **NAT Mode**： VAP は、この SSID に組み込み DHCP サーバーを備えたネットワークアドレス変換（NAT）デバイスのように動作します。これにより、クライアントデバイスには、この SSID で設定された DHCP プールから動的 IP アドレスが割り当てられます。NAT 変換後、アップリンクゲートウェイ/スイッチによって認識されるクライアントトラフィックの送信元 IP アドレスは

AP の IP アドレスになります。

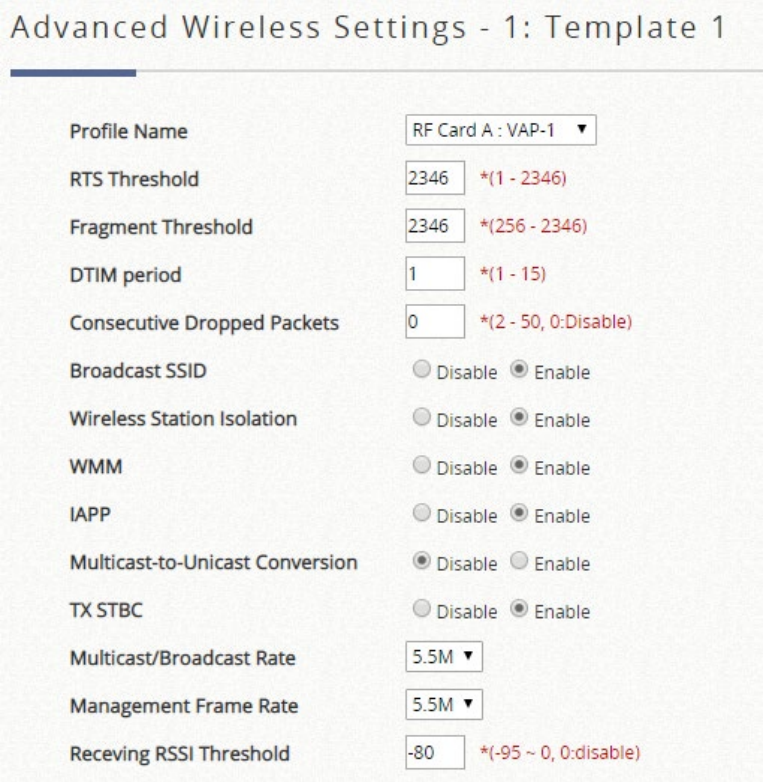
- **Uplink Bandwidth**： アップリンク帯域幅制御は、VAP 上でキロビット/秒単位で設定できます。無制限の帯域幅制御の場合は 0 を設定します。VLAN が有効な場合にのみ設定できます。同じ VLAN ID を持つ VAP には、同じアップリンク帯域幅の制限が必要です。
- **Downlink Bandwidth**：ダウンリンク帯域幅制御は、VAP 上でキロビット/秒単位で設定できます。無制限の帯域幅制御の場合は 0 を設定します。VLAN が有効な場合にのみ設定できます。
- **VLAN ID**：Edgecore アクセスポイントは、タグ付き VLAN（仮想 LAN）をサポートします。VLAN 機能を有効にするには、各 VAP には 1 から 4094 までの有効な値を持つ固有の VLAN ID が与えられる必要があります。VLAN が有効になると、VAP で QoS がサポートされます。
- **CAPWAP Tunnel Interface**：ドロップダウンを選択して、VAP が AP とコントローラの間に確立された CAPWAP トンネルを通過するトラフィックを指定します。CAPWAP トンネルインターフェースが「**Complete**」または「**Split**」トンネルである場合は、この VAP にマッピングするサービスゾーンを選択できます。
- **Service Zone**： 完全トンネル VAP またはスプリットトンネル VAP の場合は、マッピング先のサービスゾーンを選択します。
- **Service Schedule**：この VAP のサービス時間をカスタマイズします。
- **Access Control Type**： VAP に関連付けることを許可するデバイスを決定するために、デバイスのリスト（MAC アドレス）を設定します。
  - **Disable**： クライアントデバイスがアクセスするための制限はありません。
  - **MAC ACL Allow List**：リストされているクライアントデバイス（MAC アドレス）のみが、システムへのアクセスを許可されます。
  - **MAC ACL Deny List**： Deny List にリストされているものを除き、クライアントデバイス（MAC アドレス）がシステムへのアクセスを許可されます。

➢ Security Settings



ドロップダウンメニューから **Open**、**WEP**、**WPA-Personal**、**WPA-Enterprise**、および **OSEN** を含む、希望する **Security Type** を選択します。

➢ **Advanced Wireless Settings**



- **RTS Threshold**：1 から 2346 までの値を入力します。RTS（送信要求）Threshold は、隠しノードの問題を防ぐために、フラグメントを送信する前にシステムが送信要求（RTS）を発行するパケットサイズを決定します。データサイズが指定された値を超えると、RTS メカニズムが作動します。 RTS Threshold を低く設定すると、多くのクライアントデバイスが AP と関連付けられているエリアや、クライアントが遠く離れており AP だけを検出できてお互いに検出できないエリアで役立ちます。
- **Fragmentation Threshold（802.11a、802.11b、802.11g モード）**：256 から 2346 までの値を入力します。このしきい値より大きいパケットサイズは、送信前にフラグメント化（1 つのチャンクではなく複数のピースで送信）されます。値が小さいほどフレームは小さくなりますが、伝送中のフレーム数は多くなります。Fragment Threshold を低く設定すると、通信が不十分なエリアや、重大な電波干渉によって妨害されるエリアに便利です。
- **DTIM Period**： 指定した周波数で周期ビーコン内に生成する DTIM 間隔を入力します。DTIM を高くすると、無線クライアントはより多くのエネルギーを節約できますが、スループットは低下します。
- **Consecutive Retries Threshold**： これは、クライアントが送信範囲外であると判断する前にパケット送信がドロップされた場合に、AP が試行する最大送信リトライ回数です。設定された回数だけ送信の再試行が失敗すると、アクセスポイントはクライアントをキックして、接続されている他のクライアントのパフォーマンスを最適化します。
- **Broadcast SSID**：この機能を無効にすると、システムの SSID がブロードキャストされなくなります。SSID のブロードキャストが無効になっている場合は、正しい SSID を持つデバイスだけがシステムに接続できます。
- **Wireless Station Isolation**： この機能を有効にすると、システムに関連するすべてのステーションがア

イソレーションされ、システムとしか通信できません。

- **IAPP**： IAPP（AP 間通信プロトコル）は、アクセスポイントが接続されているステーションに関する情報を共有するプロトコルです。この機能を有効にすると、システムは関連する無線ステーションの情報をピアアクセスポイントに自動的にブロードキャストします。これにより、同じ無線 LAN 内の IAPP 対応アクセスポイント間でワイヤレスステーションがスムーズにローミングできるようになります。
- **Multicast-to-Unicast Conversion**：Multicast-to-Unicast Conversion が有効な場合、アクセスポイントは、マルチキャストトラフィックを要求するポートだけにトラフィックをインテリジェントに転送します。逆に、無効にすると、マルチキャストトラフィックはブロードキャストトラフィックのように扱われ、パケットがすべてのポートに転送され、ネットワークの非効率性が生じます。
- **TX STBC**： STBC は、単一の RF 受信機（非 MIMO）でも S/N 比を改善することを可能にする MIMO 送信機によって行われる事前送信エンコードです。
- **Multicast/Broadcast Rate**： マルチキャスト/ブロードキャストパケットの帯域幅設定です。ワイヤレスクライアントがマルチキャスト/ブロードキャストパケットを送信するために帯域幅を大きくまたは小さくする必要がある場合は、管理者がアクセスポイントのマルチキャスト/ブロードキャスト帯域幅をここでカスタマイズできます。
- **Management Frame Rate**： この機能は、管理フレームの帯域幅を制御します。レートが高いほど、トランスミッションがカバーする範囲が短くなります
- **Receiving RSSI Threshold**：接続されているステーションの接続速度が高くなるように、受信感度が設定されたしきい値を満たさない限り、ステーションはネットワークに関連付けることができません。

➢ **Hotspot 2.0 Settings**

ホットスポット 2.0 は、公共の WiFi 加入者により良い帯域幅とサービスを提供するために WiFi Alliance によって開始された WiFi 認定パスポイントとして知られています。ホットスポット 2.0 機能は、サービスプロバイダとそのパートナー専用に設計されています。設定を完了するには、サービスプロバイダまたはサービスチームにご相談ください。

➢ **Firewall Settings**

- **Proxy ARP**：有効にすると、AP はダウンリンクステーションに代わって ARP 要求に応答します。AP によって維持される ARP テーブルは、AP アップリンクから ARP 要求を受信したときにルックアップテーブルとして使用されます。逆に、Proxy ARP を使用しないと、ARP 要求が AP の無線ネットワークにブロードキャストされ、ネットワークが非効率になります。

➢ **Linkyfi’s Location Engine**

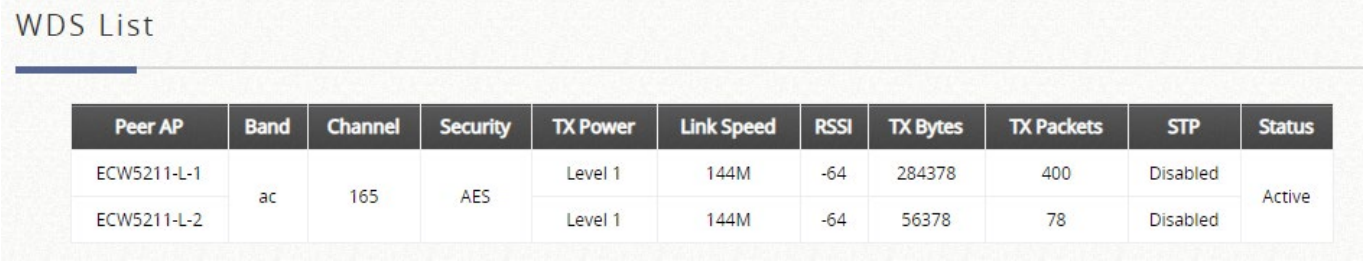
Linkyfi は、公共の Wi-Fi ホットスポット用に AVSystem によって設計されたプラットフォームです。Edgecore AP は、ロケーショントラッキングとトラフィック分析のために専用の Linkyfi サーバーと統合することができます。

- **Real Time Location System**：屋内位置とリアルタイムナビゲーションのための Linkyfi リアルタイム位置情報システム（RTLS）サーバーとの統合を可能にします。

- **DNS DPI**：DNS トラフィックを分析するために Linkyfi DNS DPI サーバーと統合できるようにします。

g）WDS List

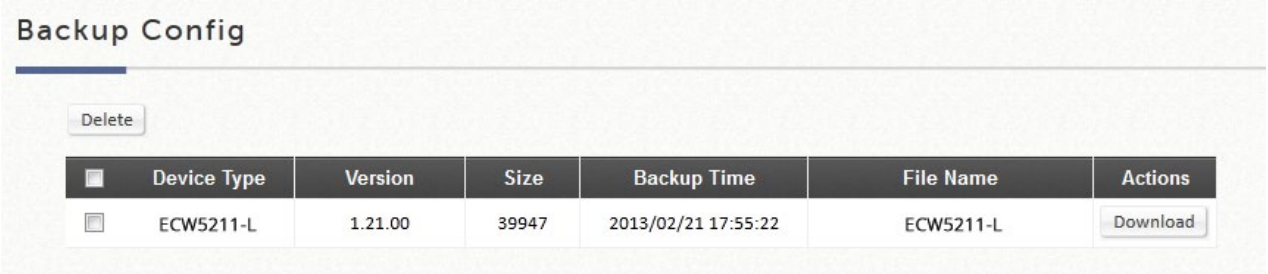
このリストは、管理対象 AP に設定された各 WDS リンクの情報（Peer AP、Band、Channel、Security、TX Power、Link Speed、RSSI、TX Bytes、TX Packets、STP、Status など）を表示します。



List に記載された AP 間で確立された WDS リンクは、リンクのバンドとチャネル、セキュリティ設定（ある場合）、送信電力、バイト、パケットなどの関連情報とともにここに一覧表示されます。

h）Backup Config

バックアップされた Config ファイルを使用して、AP の設定を **List** に復元できます。管理者が AP の構成設定をバックアップすると、すべてのバックアップファイルが **Backup Config** タブページに表示され、ローカルストレージデバイスにダウンロードしたり、EWS コントローラのメモリから削除したりできます。



また、自動**デイリーバックアップ**も利用可能です。バックアップ時間を 24 時間体制で設定すると、その時間に AP のバックアップ設定が自動的に実行されます。

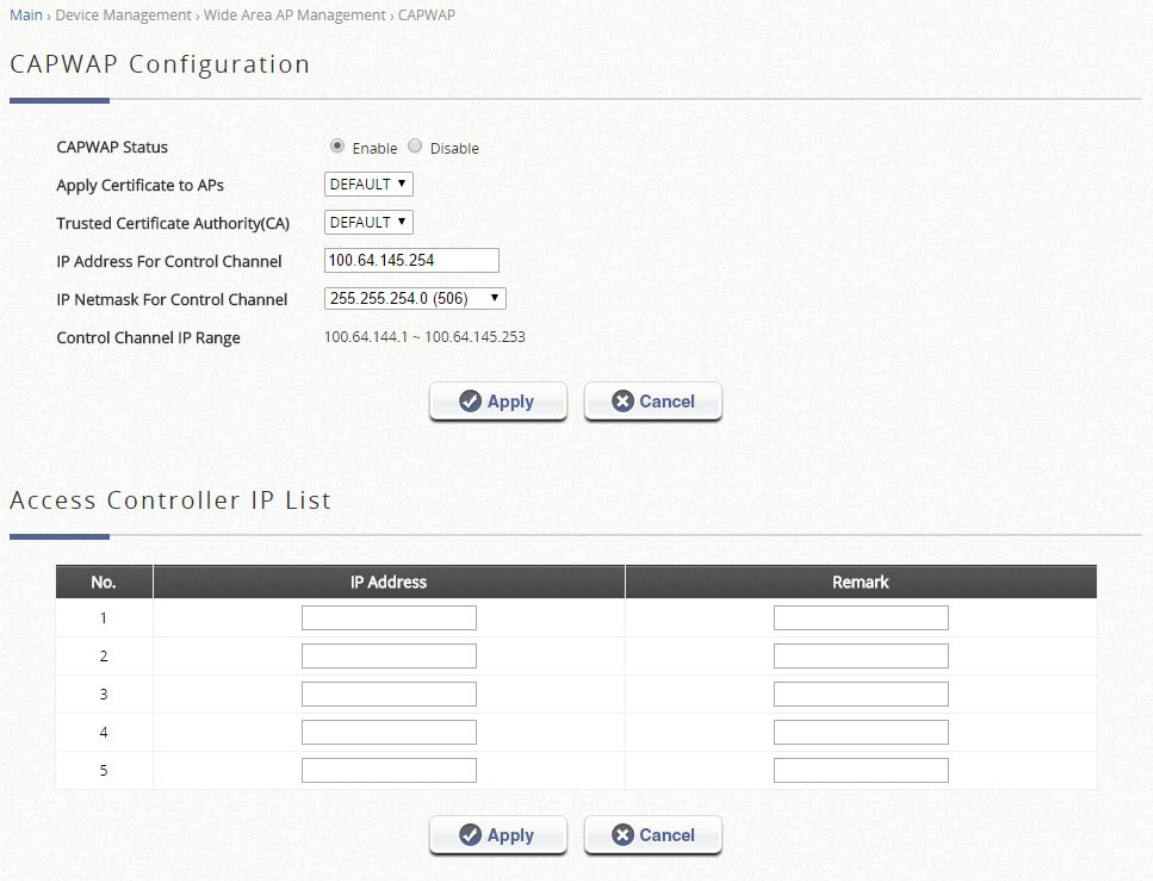
i）Firmware

EWS コントローラは、AP のファームウェアを内蔵メモリに保存できます。**Firmware** タブページでは、管理者は新しい AP ファームウェアを EWS コントローラのメモリにアップロードできます。これによ

り、AP **List** ページからリモートの AP アップグレードおよび復元操作を簡単に実行できます。このページの下に表示されている AP ファームウェアは、必要に応じて EWS コントローラメモリからダウンロードまたは削除できます。

j）CAPWAP

CAPWAP は、EWS コントローラが無線アクセスポイントの集合を管理できるようにする標準の相互運用可能なプロトコルです。

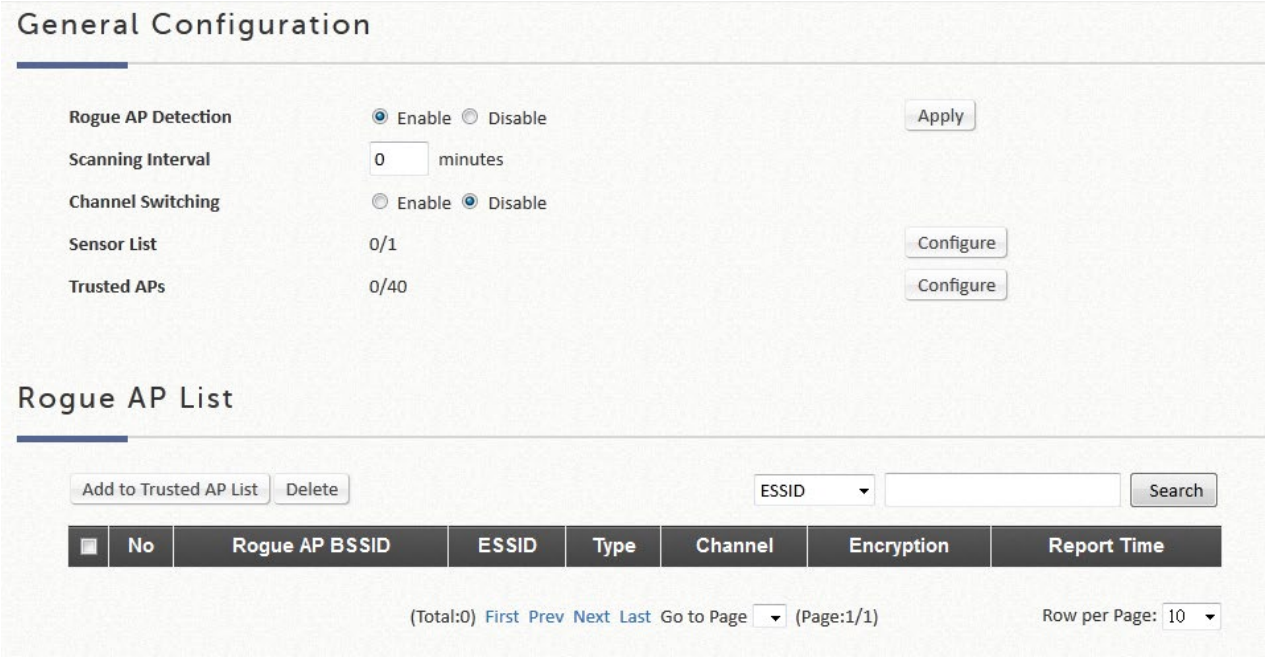


- **CAPWAP Status**： CAPWAP 機能の設定状態です。***Enable*** をクリックして、アクセス EWS コントローラをオンにして、CAPWAP サポート対象の AP を管理対象 AP リストに自動的に追加できるようにします。

- **Apply Certificate to APs**： この設定項目では、管理者は、AC と AP の間の CAPWAP ネゴシエーション中に使用する証明書を選択できます。選択した証明書が無効である場合、ネゴシエーションは失敗し、AP は管理対象リストに自動的には追加されません。
- **IP Address For Control Channel**：制御チャネルの反対側で CAPWAP トンネル AP をネゴシエートする AC 側の IP アドレスです。
- **IP Netmask For Control Channel**：ネットマスクのサイズは、管理対象 AP の最大数に応じて自動/手動で設定できます。
- **Control Channel IP Range**：AP 側に割り当てる IP プールです。通信する制御チャネルを確立します。IP の数は、上記の IP アドレスと制御チャネルの IP ネットマスクによって定義されます。
- **Access Controller IP List**： AC は、サービスを提供できなくなった場合に備えて、他の CAPWAP サポート対象の AC を CAPWAP AP のバックアップ AC として静的に指定できます。番号は、これらのバックアップ AC の AP に対する優先度を指定します。元の AC がダウンした場合、AP は最初に No. 1 のバックアップ AC への加入を試みます。

k）Rogue AP Detection

配置された環境で、管理されていない AP または悪意のある AP を検出するように設計されています。非管理対象 AP が管理対象 AP と同じ SSID を使用している場合でも、管理対象 AP をセンサーとして非管理対象 AP を検出します。AP の BSSID、ESSID、タイプ、チャネル、暗号化、検出時間が表示されます。

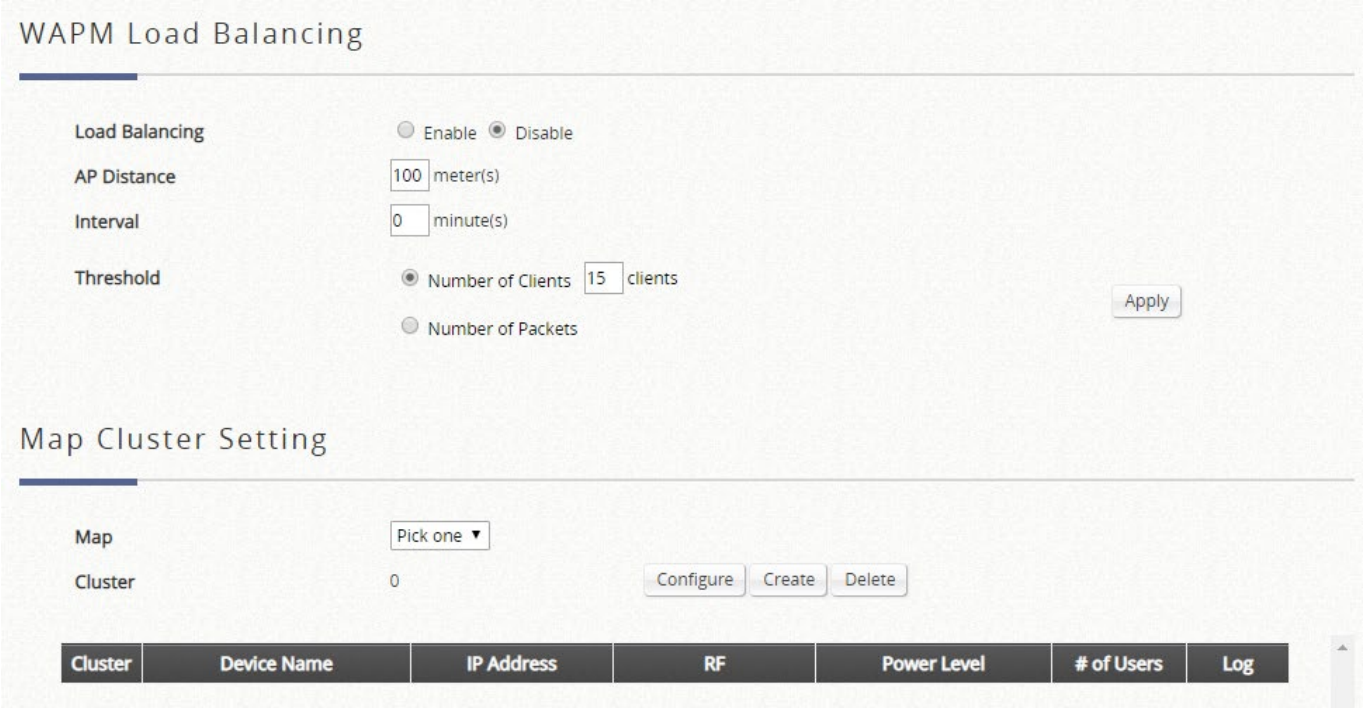


l）AP Load Balancing

管理対象 AP が過負荷にならないようにする機能です。システムは、AP の関連クライアント数が事前に定義さ

れたしきい値を超えていることを検出し、同じグループ内の他の AP がまだしきい値を下回っている場合、バランシング機能は、過負荷の AP の送信電力を減少させ、他の利用可能な AP の送信電力を増加させるためにアクティブにされ、これにより、他の利用可能な AP が関連付けられる可能性が高くなります。システムは、管理対象 AP をグループに分割し、グループしきい値、および AP ロードバランシングをトリガーする時間間隔を定義できます。

ワイドエリア AP 管理機能は、さまざまな管理対象 AP のグループ化をサポートし、送信電力管理を実行して、同じグループの AP 間でネットワークの負荷をできるだけ均等に分散させます。



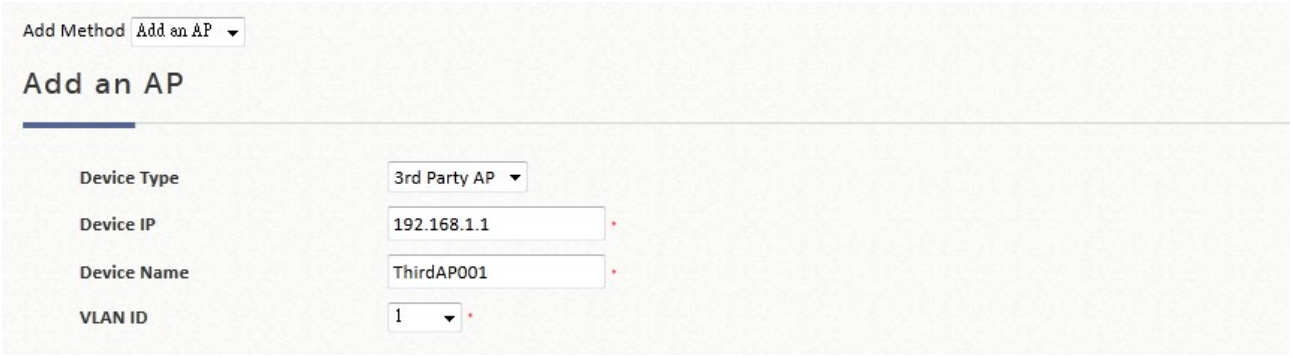
- **WAPM Load Balancing**：この設定項目を使用すると、管理者は AP ロードバランシング機能を適用する基準を指定できます。
- **AP Distance**：このパラメータを使用すると、管理者は管理対象 AP をグループ化するための手段として使用される距離を指定できます。単位はメートルで、管理者は 0～999 の範囲の整数を設定できます。0 は機能が無効であることを示します。設定された距離内で互いに距離を置いた AP は、同じグループと見なされます。
- **Interval**：このパラメータにより、管理者は、コントローラが同じグループ内の各 AP のロードをチェックし、必要に応じてロードバランシングを開始する時間間隔を指定できます。
- **Threshold**：管理者はこのパラメータを使用して、AP のシステム負荷の測定値として、***Number of Client*** または ***Number of Packets*** のどちらかを選択できます。管理者は、ロードバランシングメカニズムを開始するシステムしきい値を指定できます。
- **Map**：マップを選択して、このマップ上のクラスタと AP を表示します。
- **Cluster**：このマップ上のクラスタ数を表示します。
  - **Configure**： 各クラスタの AP ロードバランシング機能を有効/無効にするページに入ります。

- **Create**：AP の距離に従って、現在のマップ上にクラスタを作成します。
- **Delete**：現在のマップ上のクラスタを削除します。

➢ **Cluster and Device List**：スクロール可能なウィンドウには、グループ、名前、IP、電力レベル、ローディングなどの相対情報とともに、モデル名でソートされたすべての管理対象 AP が表示されます。管理対象 AP には、AP ロードバランシング機能を適用するために属する AP クラスタを示す Group 列があります。View ボタンをクリアする、各 AP の AP ロードバランシングのログが表示されます。

m）Third Party AP Management

Device Type から THIRDAP を選択して、サードパーティの AP を追加します。サードパーティの AP の IP アドレス、名前、VLAN ID を指定して、AP リストに手動で追加します。***Add*** をクリックしてすると、リストアイコンへの追加とチェックリストの追加が完了します。



サードパーティの AP のリストを確認および管理するには、次のページに移動します。***Access Points >> Enter Wide Area AP Management >> List***

タイプリストからこのサードパーティの AP を管理します。列から AP 属性と管理を編集します。

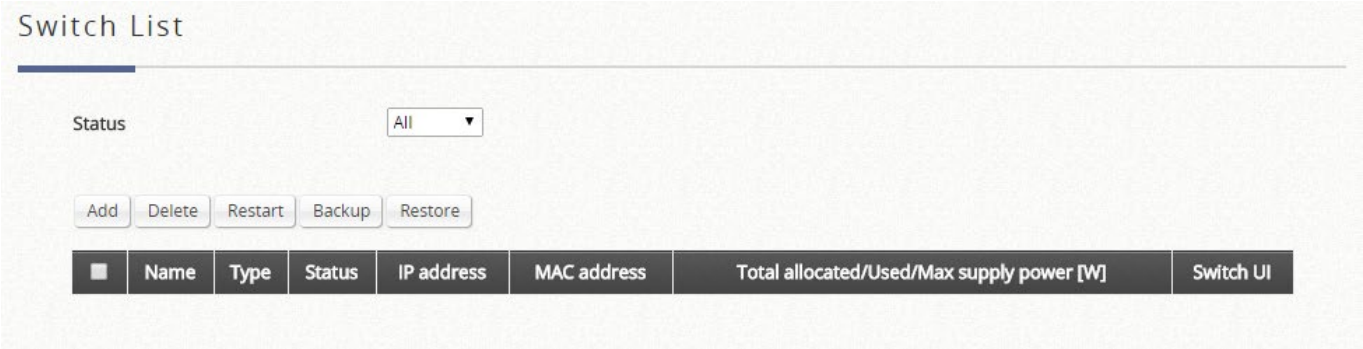
Map アイコンに移動します。追加されたサードパーティの AP は、Google マップの機能やすべてのマップ機能にも配置できます。

3）Switches

Switches：このセクションは、スイッチ管理に関連するすべての設定を設定するために使用します。

a）Switch List

EWS コントローラは、Edgecore スイッチを管理することができます。システム管理下のスイッチがこのリストに表示されます。

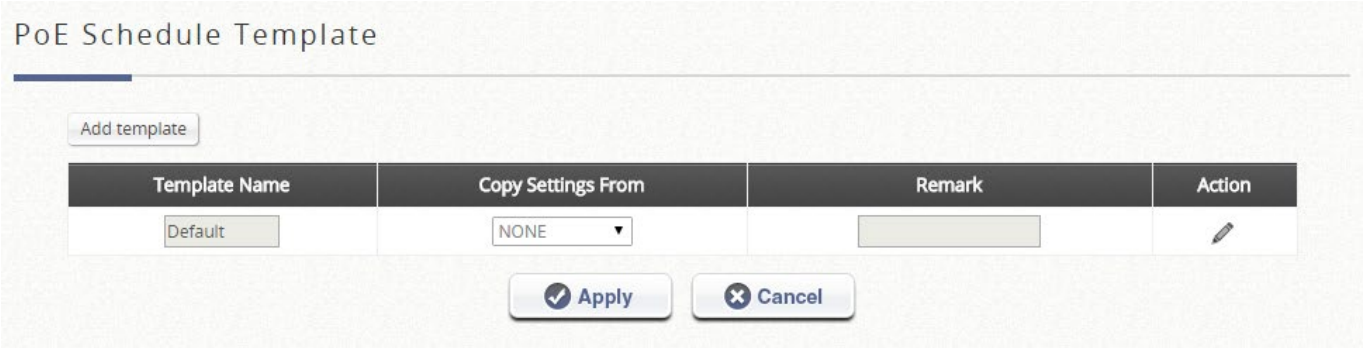


スイッチの名前がハイパーリンクとして表示されます。各管理対象スイッチのハイパーリンクをクリックすると、スイッチのその他の設定（一般設定、PoE 設定、VLAN メンバーシップ設定、ポート設定、PoE スケジュール）ができます。
AP の詳細ステータス情報（一般設定、PoE 設定、VLAN メンバーシップ設定、ポート設定、PoE スケジュール）を表示するには、各管理対象 AP のステータスを示すハイパーリンクをクリックします。

- **Add**：「追加」機能は、必要な情報を入力してスイッチを設定するために使用されます。スイッチをリストに追加すると、スイッチのステータスが「online」または「offline」と表示されます。
- **Delete**：対応するチェックボックスにチェックを入れてリストから削除したいスイッチを選択し、Delete ボタンをクリックします。
- **Restart**： 対応するチェックボックスにチェックを入れてリストから再起動したいスイッチを選択し、Restart ボタンをクリックします。
- **Backup**： 「Backup」ボタンは、コントローラ上のスイッチの設定.db ファイルを保存します。このファイルは、スイッチの設定を復元するために使用できます。
- **Restore**： バックアップ設定ファイルがコントローラに保存されている場合、スイッチのチェックボックスにチェックを入れ、Restore ボタンをクリックしてスイッチの設定を復元します。

b）PoE Schedule Template

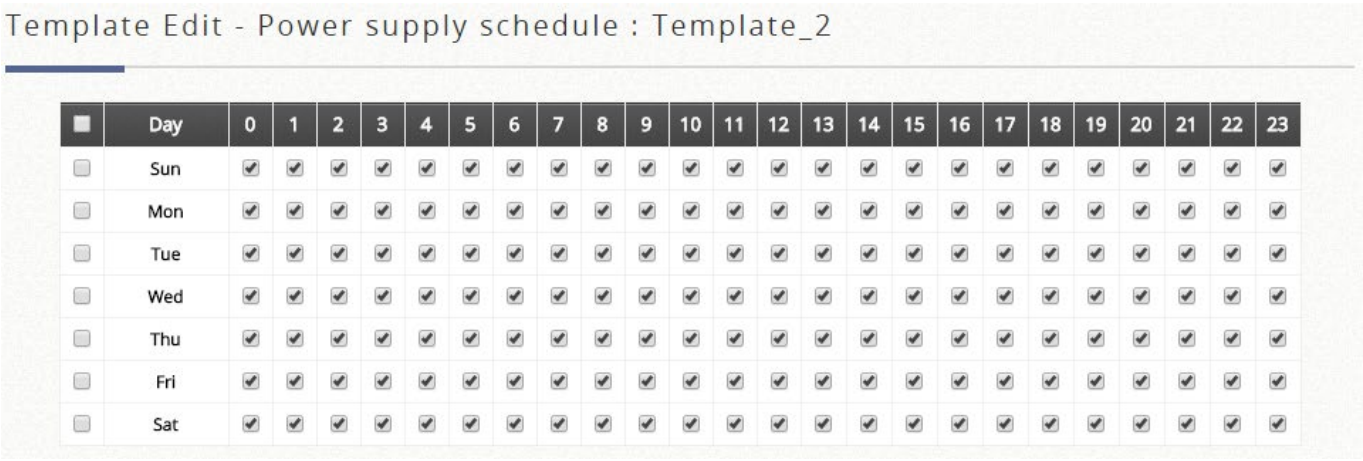
システムは、EWS モデルに応じて、最大数の PoE スケジュールテンプレートをサポートします。



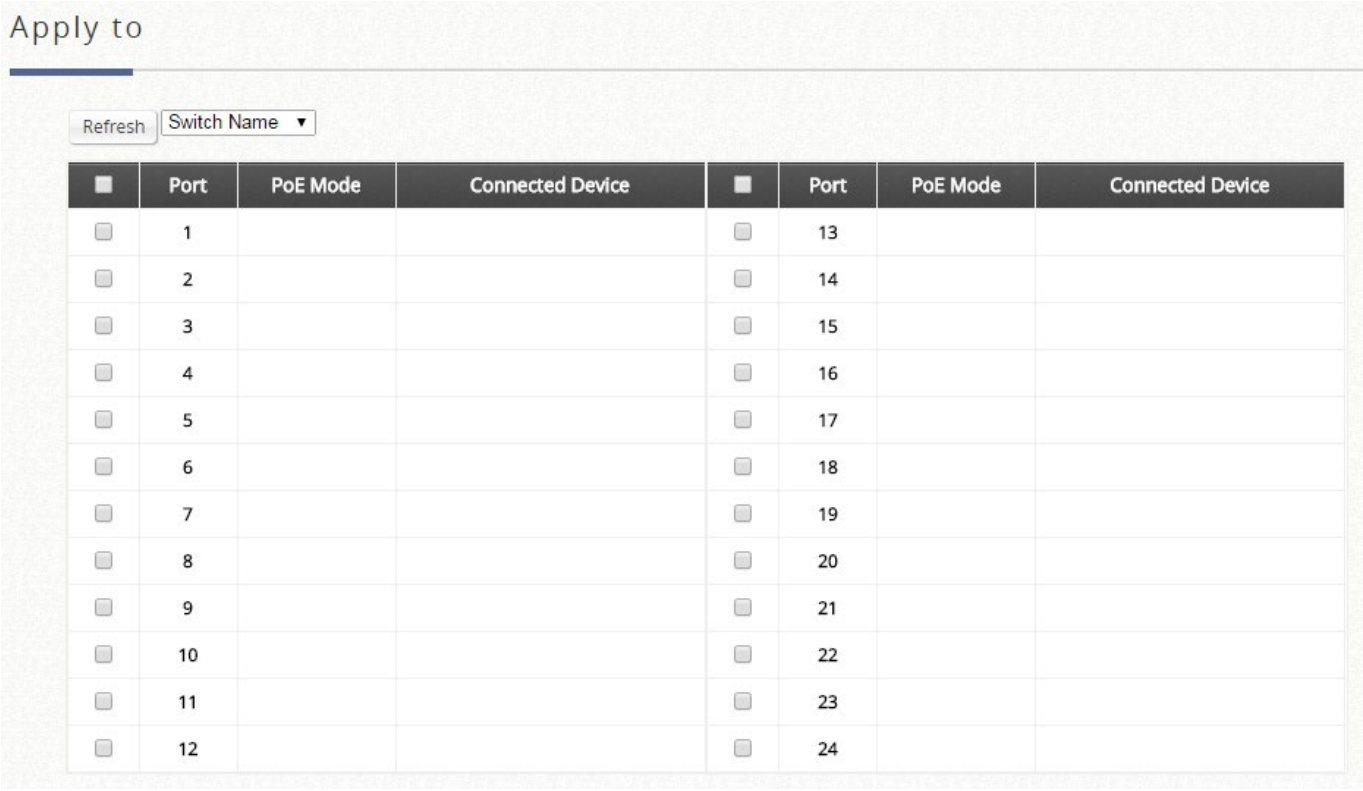
最初のテンプレートは既定のテンプレートであり、削除できません。テンプレート名は簡単に参照できるようにカスタマイズできます（例：Switch-Core1）。

鉛筆アイコンで示された「設定」をクリックして、テンプレートの設定を入力します。PoE スケジュールテンプレートでは、次の項目を設定できます。

- Power Supply Schedule



- Apply to：バンド、チャンネル幅、送信電力など



既存の管理対象スイッチがオンラインで、新しく追加したスイッチに同じ設定を適用する場合は、Copy Settings From のドロップダウンリストから選択し、Apply をクリックします。

管理者が参照できるように、Remark セクションに追加の備考を追加できます。

c）Backup Configuration

このリストには、バックアップされた設定の概要が表示されます。管理者は、復元用に設定ファイルをダウンロードできます。または、チェックボックスにチェックを入れて、選択した設定ファイルを削除します。

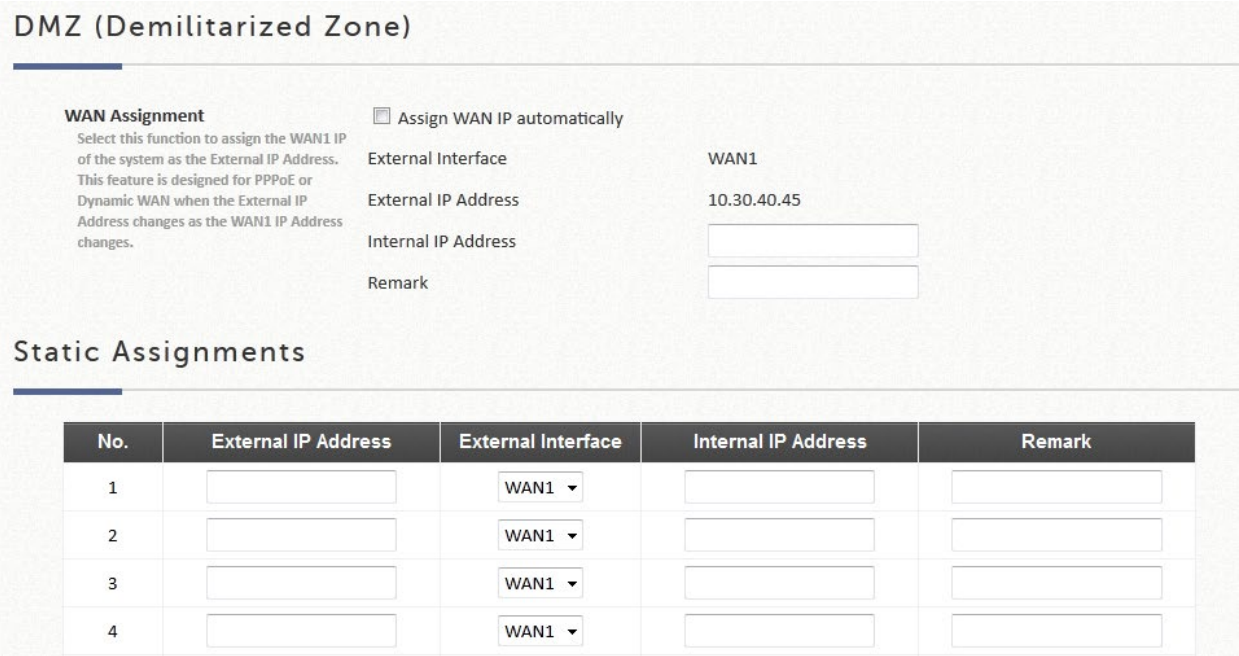
E.Network

Network：このセクションは、すべてのネットワーク設定を設定するために使用されます。

1）NAT

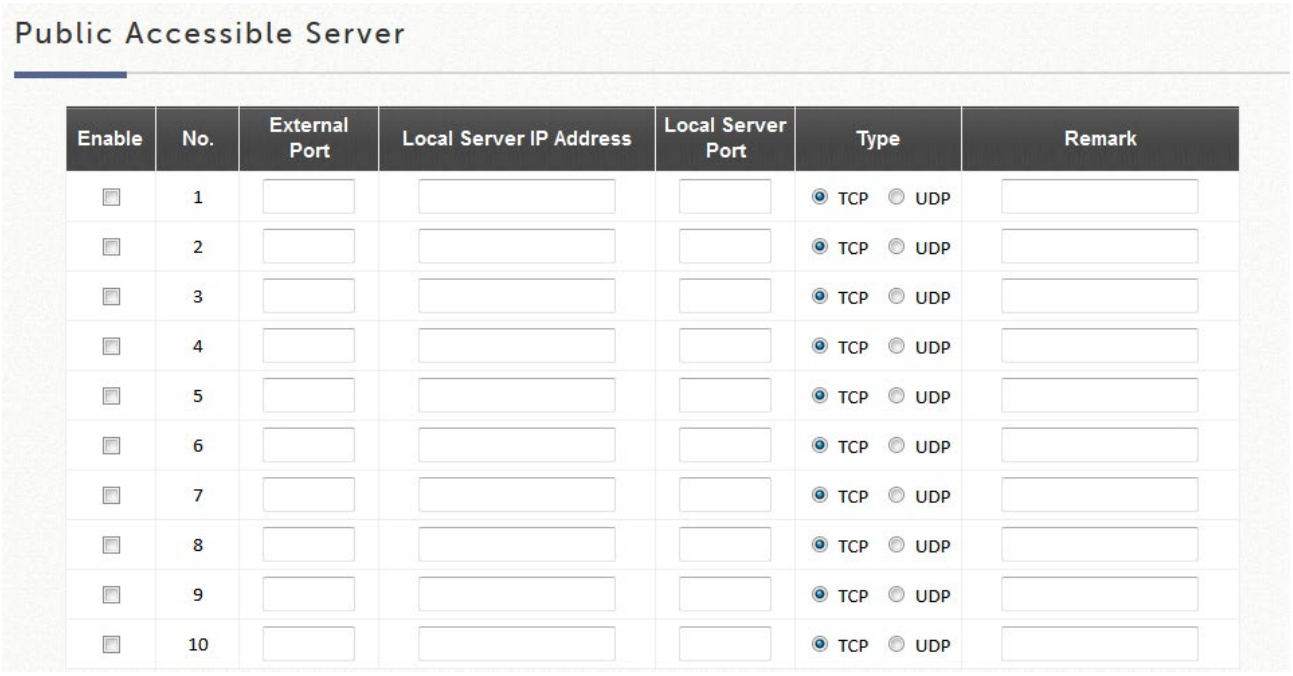
NAT 機能は、次の 3 種類のネットワークアドレス変換をサポートします。DMZ（Demilitarized Zone）、Public Accessible Server、IP/Port Forwarding です。

Demilitarized Zone



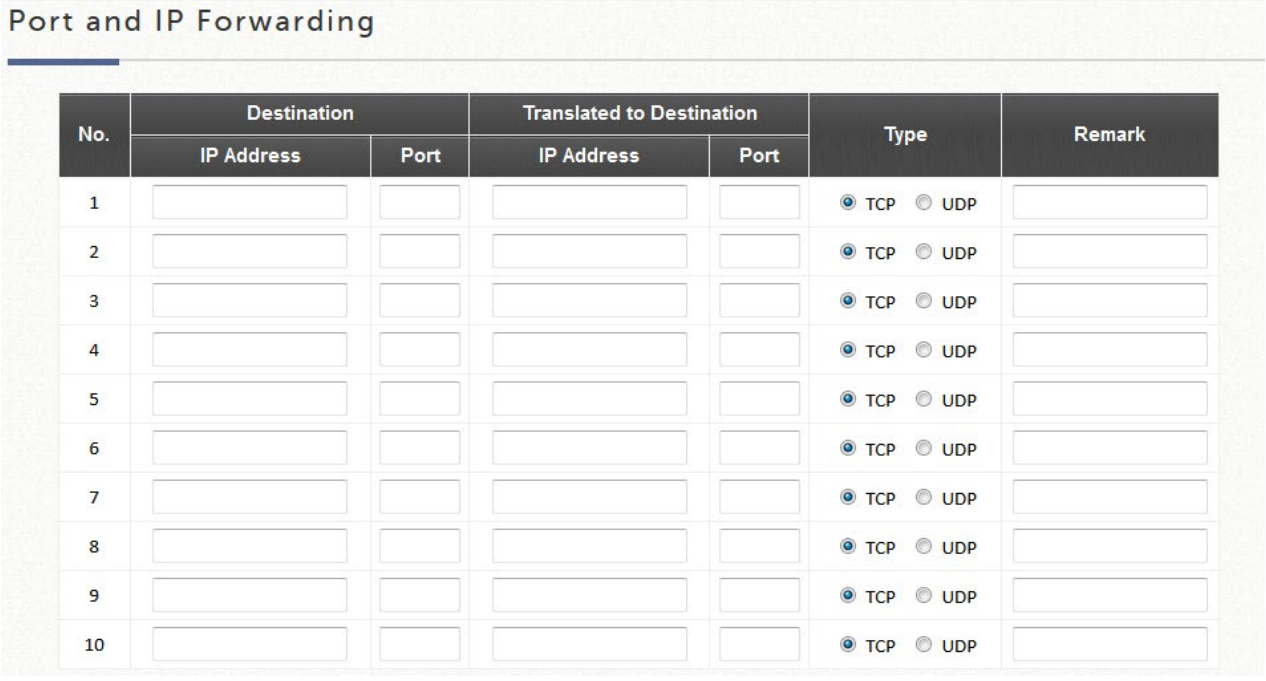
システムは、静的割り当てで、内部 IP アドレス（LAN）から外部 IP アドレス（WAN）へのマッピングの特定のセットをサポートします。WAN IP 自動割り当ての外部 IP アドレスは、WAN1 インターフェースが動的である場合に動的に変更される外部インターフェース（WAN1）の IP アドレスです。**Assign WAN IP Automatically**（WAN IP を自動的に割り当てる）をオンにすると、入力した内部 IP アドレスが WAN1 インターフェースにバインドされます。各 **Static Assignment**（静的割り当て）は、選択した外部インターフェース（WAN1 または WAN2）にバインドできます。使用できる静的 **Internal IP Address**（内部 IP アドレス）と **External IP Address**（外部 IP アドレス）のセットがあります。**Internal** IP Address（内部 IP アドレス）と **External** IP Address（外部 IP アドレス）はセットとして入力されます。セットアップ後、WAN へのアクセスは、内部 IP アドレスにアクセスするためにマッピングされます。これらの設定は、***Apply*** ボタンをクリックするとすぐに有効になります。

Public Accessible Servers



Public Accessible Servers を使用すると、管理者は仮想サーバーを設定できます。これにより、管理対象ネットワーク外のクライアントデバイスが、管理対象ネットワーク内のこれらのサーバーにアクセスできるようになります。一般に、TCP サービスや UDP サービスなど、物理サービスの異なるセットに対して、異なる仮想サーバーを構成できます。**「External Service Port」**（外部サービスポート）、**「Local Server IP Address」**、**「Local Server Port」**を入力してください。サービスの種類として**「TCP」**または**「UDP」**を選択します。**Enable** 列で、有効にするサーバーをチェックします。これらの設定は、***Apply*** ボタンをクリックするとすぐに有効になります。

Port & IP Forwarding



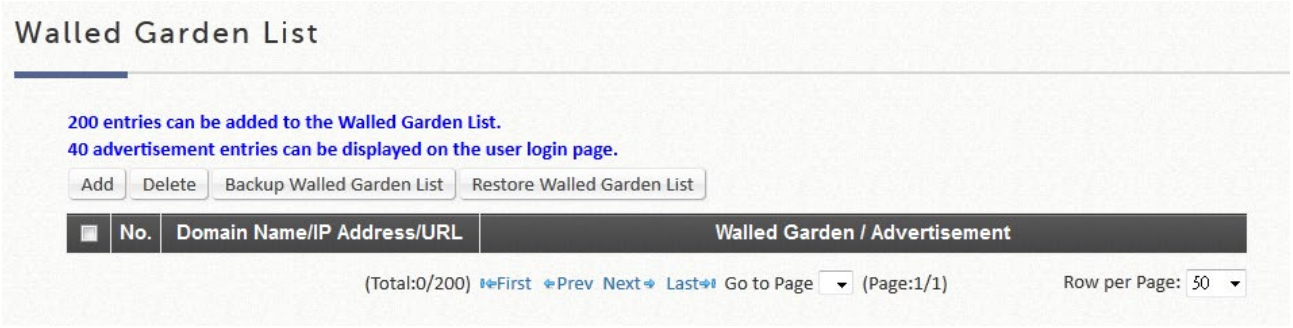
この機能により、管理者はリダイレクトの目的で IP アドレスの特定のセットを設定できます。ユーザーがここに記載されている宛先 IP アドレスに接続しようとすると、接続パケットが変換され、対応する宛先にリダイレクトされます。**Destination**（宛先）の「**IP Address**」と「**Port**」、**Translated to Destination**（変換先）の「**IP Address**」と「**Port**」を入力してください。サービスの種類として「**TCP**」または「**UDP**」を選択します。これらの設定は、***Apply*** をクリックするとすぐに有効になります。

2）Monitor IP

監視 IP 機能では、複数の IP アドレスを定義できます。システムは、これらの IP ベースのネットワークデバイスを監視し、設定可能な間隔に基づいて電子メールを介して定期的にオンラインステータスを報告することができます。これらの監視対象デバイスには、HTTP または HTTPS 接続を介してアクセスできます。監視対象デバイスの管理インターフェースは、システムが NAT モードで動作しているときに、デバイスの IP アドレスのハイパーリンクを介してアクセスできます。

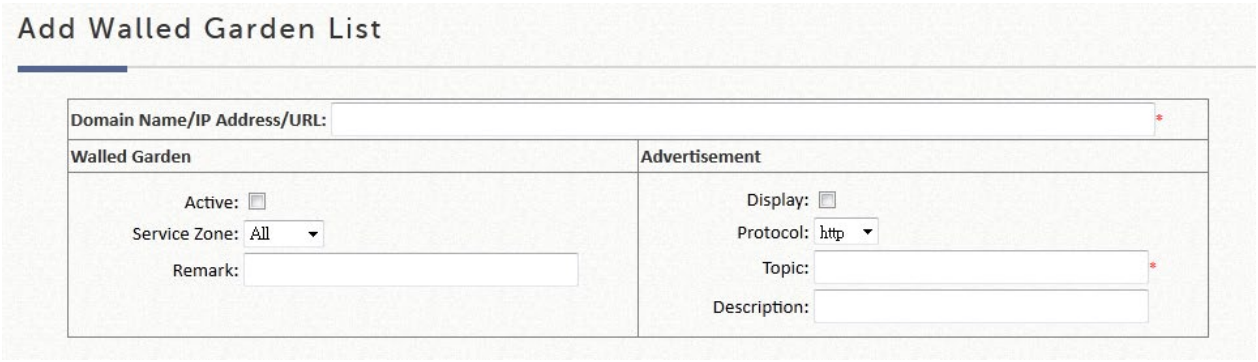
3）Walled Garden and Walled Garden Ad

この機能は、ユーザーがログインと認証の前にここにリストされているウェブサイトにアクセスするための特定の無料サービスを提供します。このリストでは、ウェブサイトの特定のアドレスまたはドメイン名を定義できます。ネットワークアクセス権を持たないユーザーは、実際のネットワークサービスを無料で体験することができます。リストにウェブサイトの **IP アドレス**または**ドメイン名**を入力し、***Apply*** をクリックして設定を保存します。ウォールド・ガーデンリストは、バックアップまたは復元できます。



Walled Garden Advertisements は、クライアントがシステムによって認証される前にアクセスするための広告リンクです。例えば、ホテルにネットワークアクセス権がないゲストは、これらのサイトを無料で訪問することができます。

システムは、最大 200 個のウォールド・ガーデンエントリをサポートし、200 個のうち 40 個をウォールド・ガーデンの広告として選択することができます。



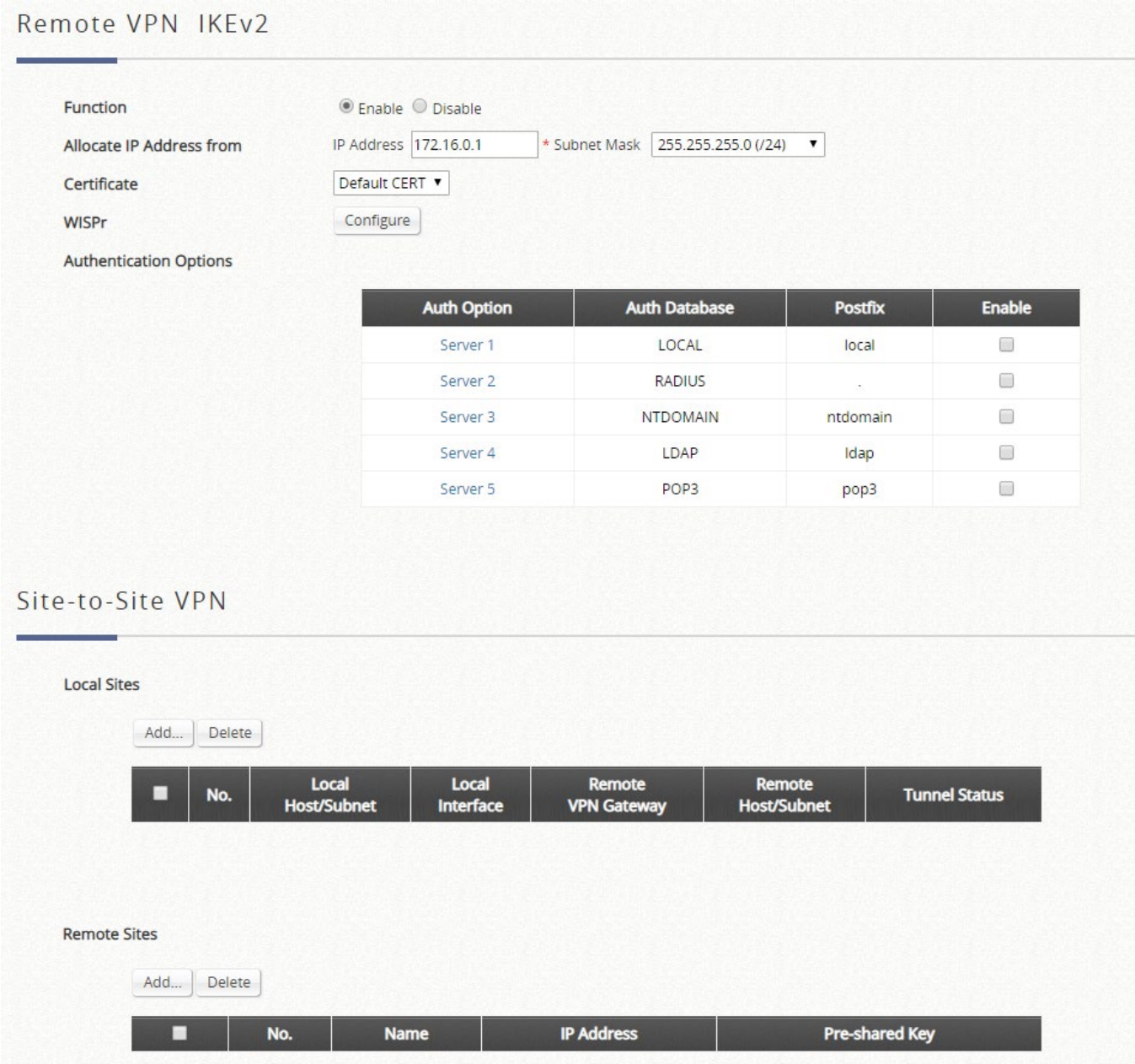
- ***Add*** をクリックして、新しいエントリを追加します。Domain Name/IP Address/URL（ドメイン名/IP アドレス/URL）を入力し、「Active」チェックボックスを選択します。***Apply*** をクリックすると、項目が追加され、リストに表示されます。
- **Display**： ***Display*** を選択すると、サービスゾーン設定に対応するログインページに広告リンクが表示されます。

ウォールド・ガーデンの広告として選択したエントリは URL である必要があります。また、接頭辞を持つ IP アドレスにすることはできません。

ウォールド・ガーデンの広告機能を有効にするには、ウォールド・ガーデンと広告チェックの両方のチェックボックスにチェックを入れる必要があります。

4）VPN

このタブでは、システム上で 2 種類の VPN を使用できます。Remote VPN（リモート VPN）、および Site-to-Site VPN（サイト間 VPN）です。 Remote VPN（リモート VPN）の場合、システムは、リモートクライアントとシステム間の VPN トンネルで、IKEv2 を介したデータ転送を暗号化できるようにします。Site-to-Site VPN（サイト間 VPN）の場合、IPSec トンネルを使用して、インターネット経由で他の IPSec 対応デバイスに接続できます。

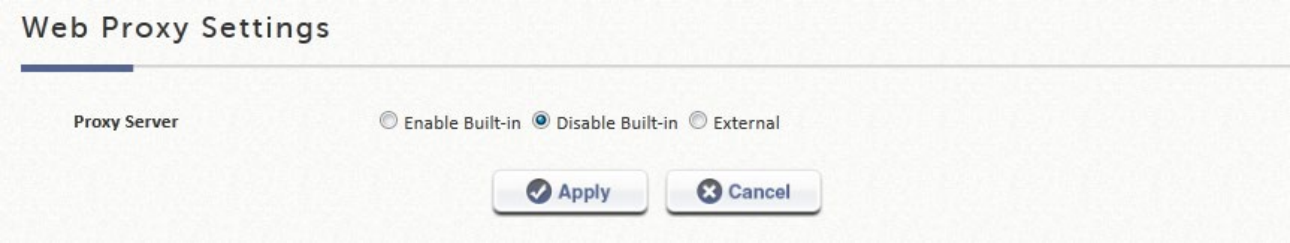


5）Proxy Server

システムは、組み込みプロキシサーバーと外部プロキシサーバー機能を提供します。認証が成功すると、クライアントは目的のプロキシサーバーに戻ります。

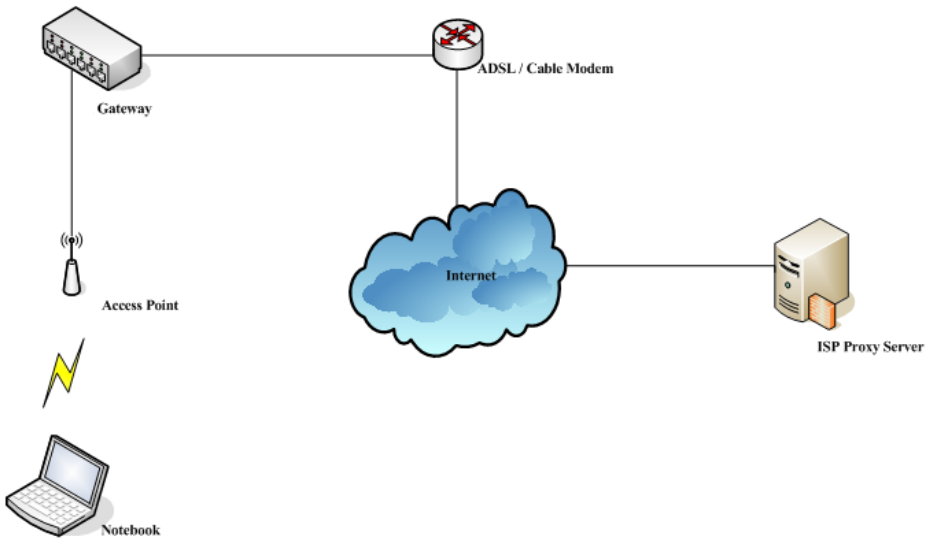
基本的に、プロキシサーバーは、クライアントがネットワークリソースにすばやくアクセスするのに役立ちます。

このセクションでは、EWS コントローラのプロキシサーバー設定を設定する基本的な例を示します。



■ **インターネットプロキシサーバーの使用**

コントローラに内蔵されたプロキシサーバーは、LAN 環境の外側またはインターネットに配置されたプロキシサーバーであっても、**有効**にすることができます。例えば、次の図は、ISP のプロキシサーバーの使用方法を示しています。



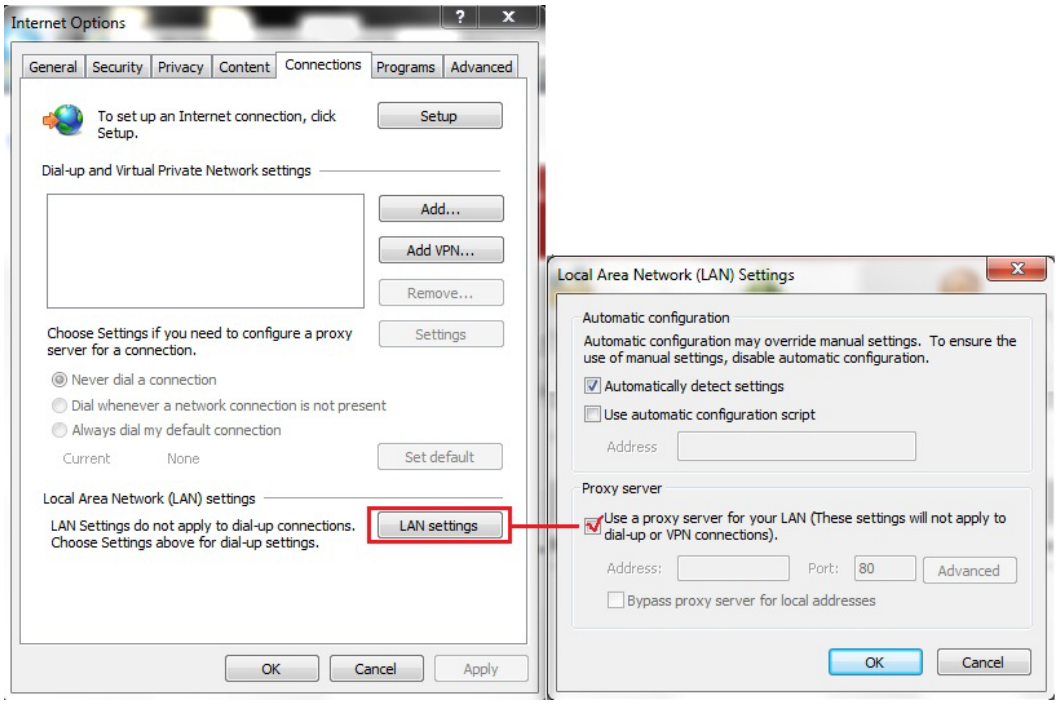
次の手順に従って、プロキシ設定を完了してください。

ステップ1 ***admin*** アカウントを使用してシステムにログインします。

ステップ2 ***Network >> Proxy Server >> Web Proxy Settings*** ページの順に選択します。

Built-in Proxy Server（組み込みプロキシサーバー）を有効にします。***Apply*** をクリックして設定を保存します。

ステップ3 クライアントステーションの Internet Options でプロキシサーバー設定を有効にします。



組み込みプロキシサーバーを有効にすると、すべてのトラフィックがコントローラ上のローカルのプロキシサーバーに転送されます。

外部プロキシサーバーの使用

外部プロキシサーバーを指定するには、「External」オプションを選択し、プロキシサーバーの適切な IP アドレスと使用ポートを入力します。

次の手順に従って、プロキシ設定を完了してください。

ステップ1 ***admin*** アカウントを使用してシステムにログインします。

ステップ2 **Network >> Proxy Server >> Web Proxy Settings** の順に選択します。Proxy Server で **External**（外部）を選択します。

プロキシサーバーの IP アドレスとポート番号を External Proxy Servers（外部プロキシサーバー）設定に追加します。***Apply*** をクリックして設定を保存します。

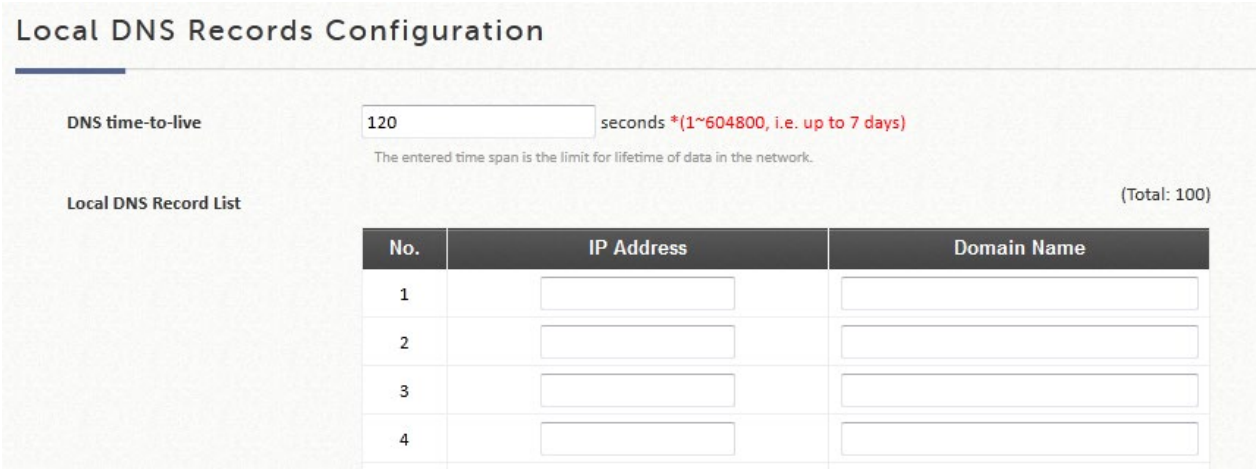
ステップ3 クライアントステーションの Internet Options でプロキシサーバー設定を有効にします。

メモ

プロキシサーバーを有効にすると、クライアントはクライアントステーションの Internet Options でプロキシサーバー設定を手動で確認する必要があります。透過プロキシを適用するには、IP/Port Forwarding を使用してください。

6）Local DNS Record

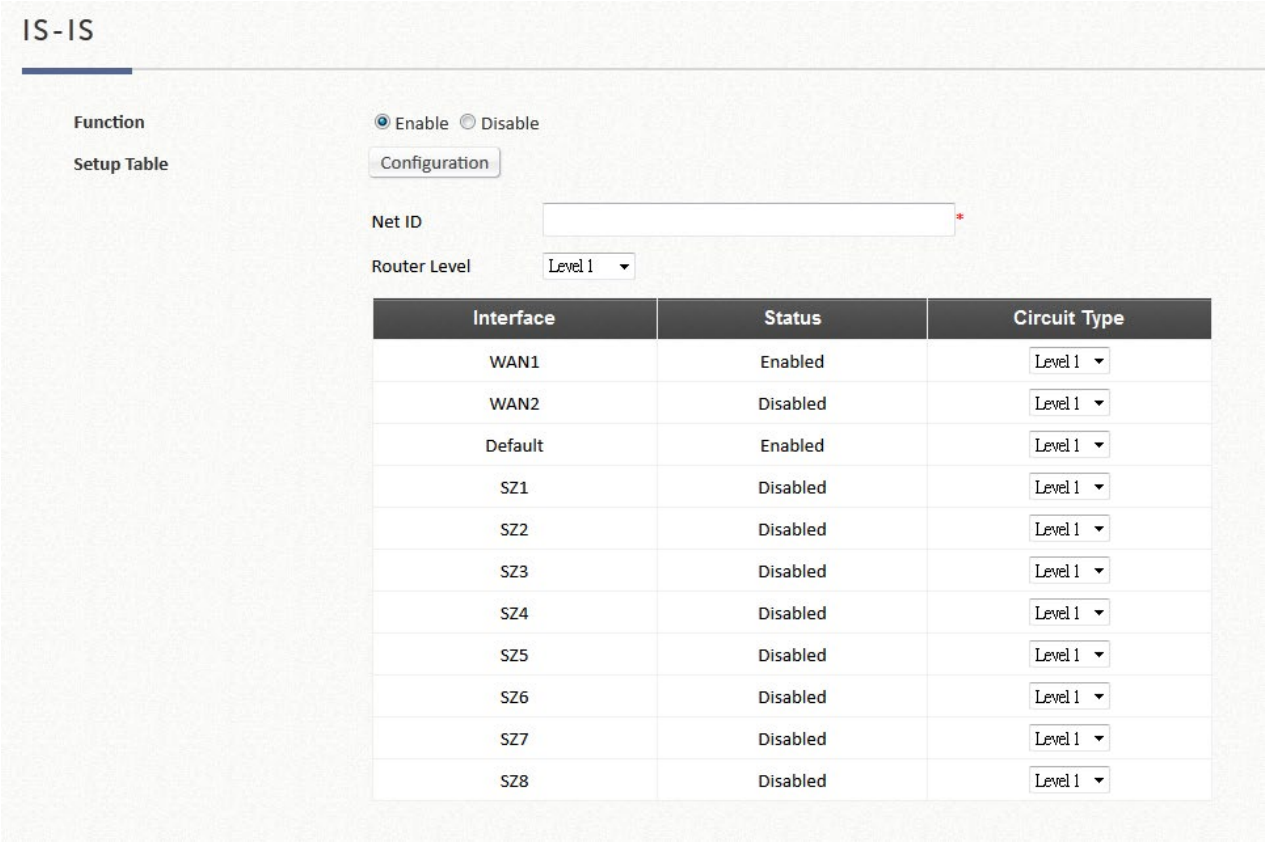
管理者は、EWS コントローラの LAN ネットワークに接続されているすべてのクライアントに対して、IP マッピングにドメイン名を静的に割り当てることができます。この機能を使用すると、特定のドメイン名の優先 IP アドレスにクライアントをディスパッチできます。



7）Dynamic Routing

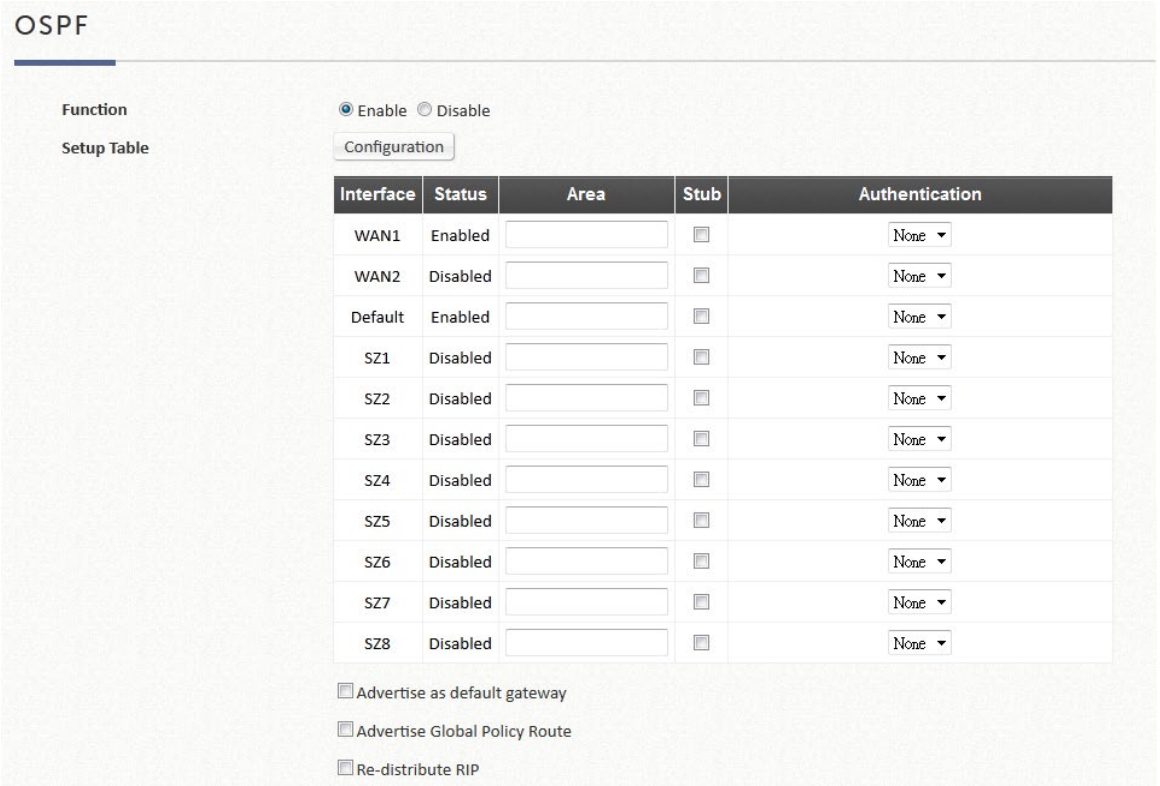
この機能は、次の 3 つの動的ルーティングプロトコルをサポートします。RIP、OSPF、および IS-IS です。

- **ISIS 設定**：これは、コンピュータネットワーク、物理的に接続されたコンピュータまたは類似のデバイスのグループ内で効率的に情報を移動するように設計されたルーティングプロトコルです。各インターフェースの回線タイプは、レベル 1 またはレベル 2 に設定できます。



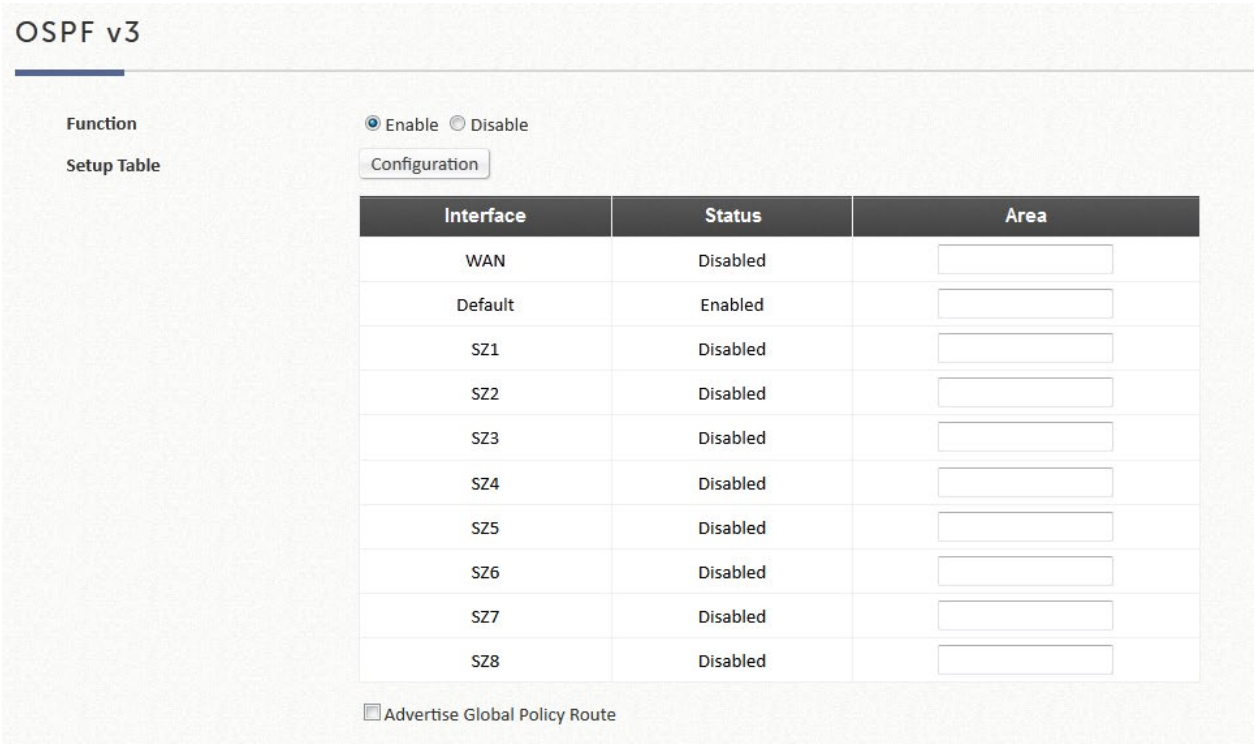
- Net ID：これは、ISO アドレスのネットワークエンティティタイトル（NET）です。NET は IP アドレスと同じように、インターネットワーク上のルータを一意に識別するために使用されます。
- Route Level：Level 1 のシステムは、エリア内でルーティングされます。目的地がエリア外にある場合、Level 2 のシステムに向かってルーティングされます。Level 2 の中間システムは、エリア間や他のルーティングドメインに向かってルーティングします。各ネットワークインターフェースのレベルタイプを割り当てることができます。

- **OSPF 設定**：これは、インターネットプロトコル（IP）ネットワークのための適応型ルーティングプロトコルです。各インターフェースのエリア、スタブと認証を設定することができます。

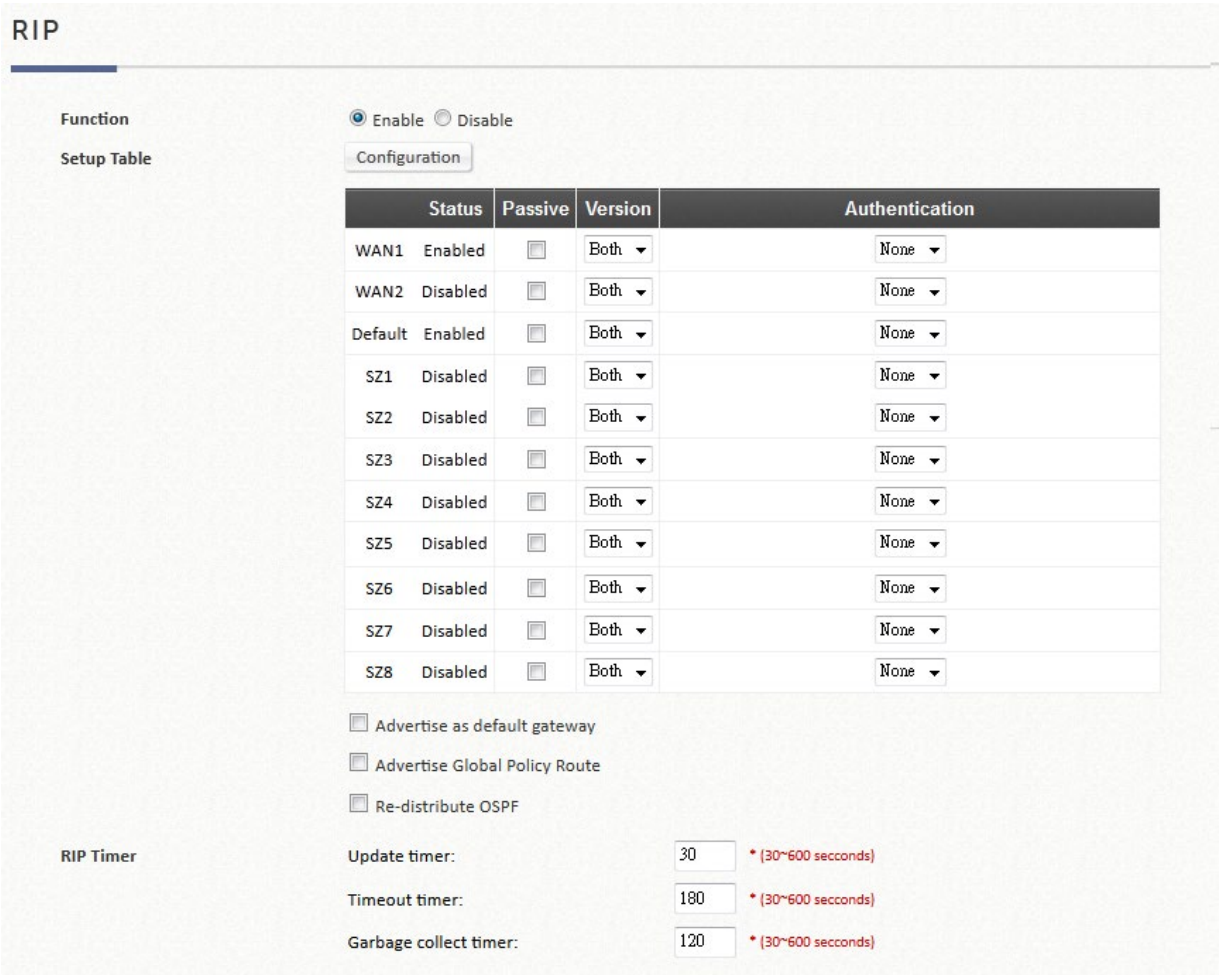


- Area：エリアとは、管理上グループ化されたルーティングドメイン内のネットワークとホストのセットです。Area 0 は、*バックボーンエリア*と呼ばれ、階層の最上位レベルにあり、非バックボーンエリア（番号 1、2）への接続を提供します。
- Stub：AS 外部広告がフラッディングされないエリアです。
- Authentication：OSPF ネイバーの認証を許可します。認証方式の「none」は、OSPF に認証が使用されないことを意味し、これがデフォルトの方式です。MD5 認証では、MD5 パスワードを入力します。パスワードはネットワークを通過しません。
- Advertise as Default Gateway：このコントローラがデフォルトゲートウェイであることを近隣ノードに通知します。
- Advertise Global Policy Route：このコントローラのグローバルポリシールートを近隣ノードに通知します。
- Redistribute RIP：このオプションをオンにすると、OSPF を使用して RIP 経由で取得したルーティング情報を配信できるようになります。

- **OSPF v3 設定：IPv6 dynamic routing configuration**



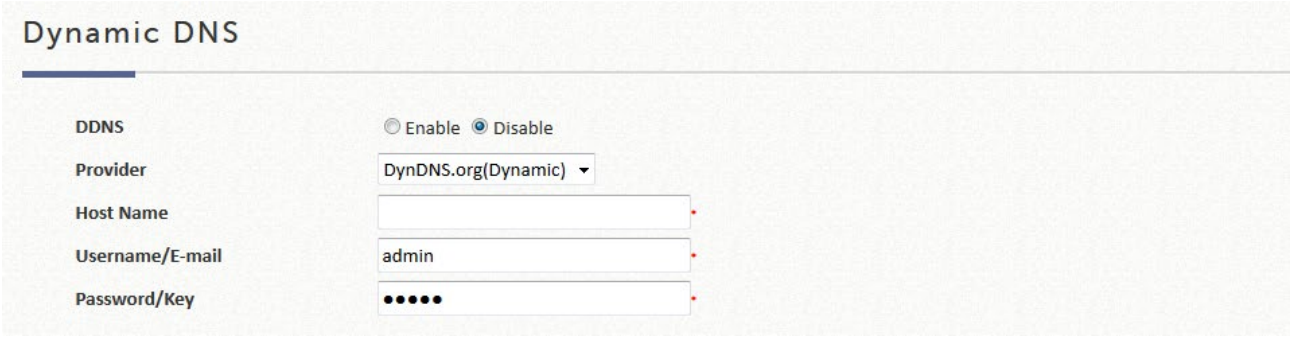
- **RIP 設定**：これは、ローカルおよびワイドエリアネットワークで使用される動的ルーティングプロトコルです。各インターフェースをパッシブバージョンまたはサポートバージョン、および認証に設定できます。



- Passive：RIP パケットは、パッシブとしてチェックされている場合、ネットワークインターフェースから送信されません。
- Version：このインターフェースの RIP バージョンを選択します。RIPv1 はブロードキャストを使用して RIP パケットを配信し、RIPv2 はマルチキャストを使用して RIP パケットを配信します。どちらもブロードキャストとマルチキャストを使用します。
- Authentication：RIP ネイバーの認証を許可します。認証方式の「none」は、RIP に認証が使用されないことを意味し、これがデフォルトの方式です。RIP 認証が有効になっているインターフェースでの認証には、プレーンテキスト認証と MD5 認証の 2 つのモードがあります。
- Advertise as Default Gateway：このコントローラがデフォルトゲートウェイであることを近隣ノードに通知します。
- Advertise Global Policy Route：このコントローラのグローバルポリシールートを近隣ノードに通知します。
- Redistribute OSPF：このオプションをオンにすると、RIP を使用して OSPF 経由で取得したルーティング情報を配信できるようになります。
- RIP Timer：
  - Update timer：システムがルーティング情報の即時更新を要求する時間を秒単位で指定します。
  - Timeout Timer：ルートは、限られた時間だけルーティングテーブルに保持されます。ルーティングテーブルにルートがインストールされるたびに、特別な*タイムアウト*タイマーが開始されます。ルータが、そのルートに関する情報を含む別の *RIP 応答*を受信すると、そのルートは「リフレッシュ」と見なされ、*タイムアウト*タイマーがリセットされます。このタイマーが期限切れになると、ルートは無効としてマークされます。
  - Garbage Collection Timer：ルーティングテーブルから無効なルートを消去するまでの時間を秒単位で指定します。

8）DDNS

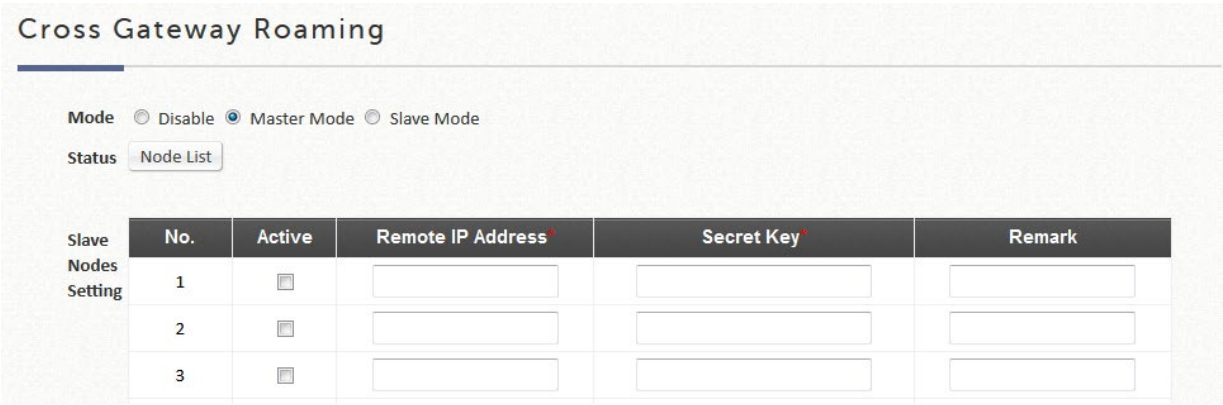
この機能を有効にする前に、動的 DNS ホスト名を動的 DNS プロバイダに登録しておく必要があります。EWS コントローラは、WAN ポートの動的 IP アドレスから静的ドメイン名へのエイリアスを作成する DNS 機能をサポートしており、管理者は EWS コントローラの WAN に簡単にアクセスできます。動的 DHCP が WAN ポートでアクティブ化されると、DNS サーバーの IP アドレスが定期的に更新されます。これらの設定は、***Apply*** をクリックするとすぐに有効になります。



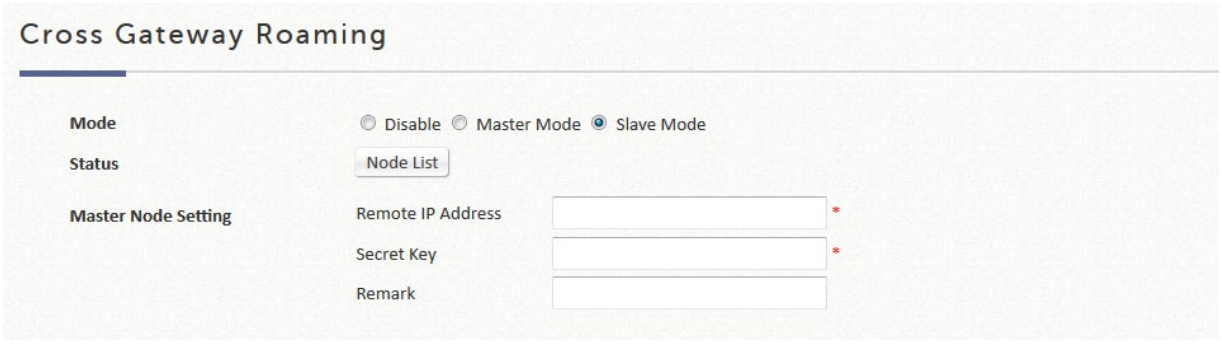
- **DDNS**： この機能を有効または無効にします。
- **Provider**：DNS プロバイダを選択します。
- **Host name**： WAN ポートの IP アドレス/ドメイン名です。
- **Username/E-mail**： DNS プロバイダの登録 ID（ユーザー名または電子メール）です。
- **Password/Key**： DNS プロバイダの登録パスワードです。

9）Client Mobility

- **IP PNP**：この機能を有効にすると、静的/DHCP IP、DNS、ゲートウェイを持つデバイスがコントローラからインターネットにアクセスできるようになります。
- **Cross Gateway Roaming**： このゲートウェイを **Master** または **Slave** に設定します。**Master** モードでは、**Slave IP** と **Secret Key**（秘密キー）も入力する必要があります。**Slave** モードでは、**Master IP** と **Key** を入力します。
  - **Master Node**： マスターノードの設定では、1 つのマスターが最大 15 個のスレーブノードの設定を有効にすることができます。



  - **Slave Node**：スレーブノードの設定では、マスターノードの設定を入力します。


Cross Gateway Roaming
Mode
Disable
Master Mode
Slave Mode
Status
Node List
Master Node Setting
Remote IP Address
Secret Key
Remark

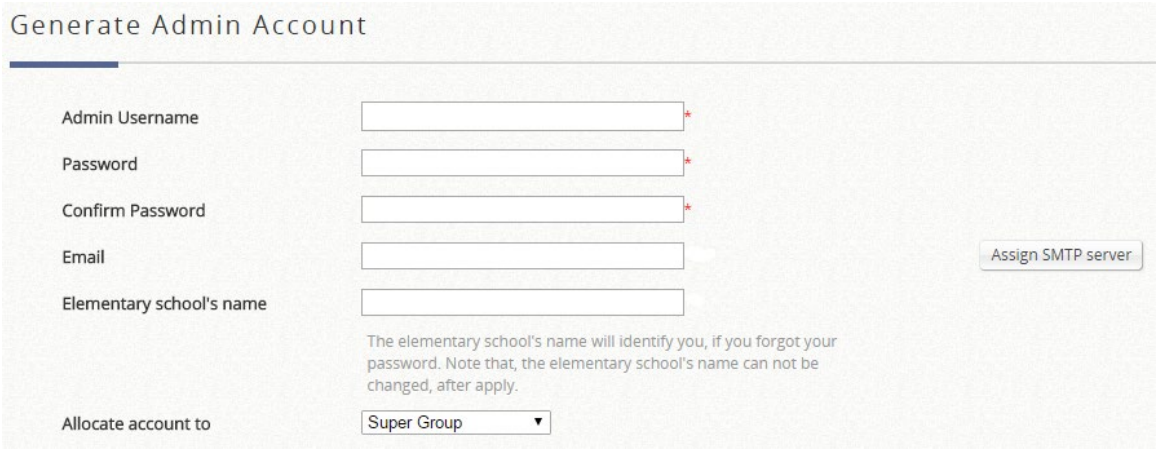
F.Utilities

Utilities：このセクションでは、アカウントの変更、システムのバックアップ/復元、ファームウェアのアップグレード、サービスの再始動、ネットワークユーティリティ、および証明書の機能を提供します。

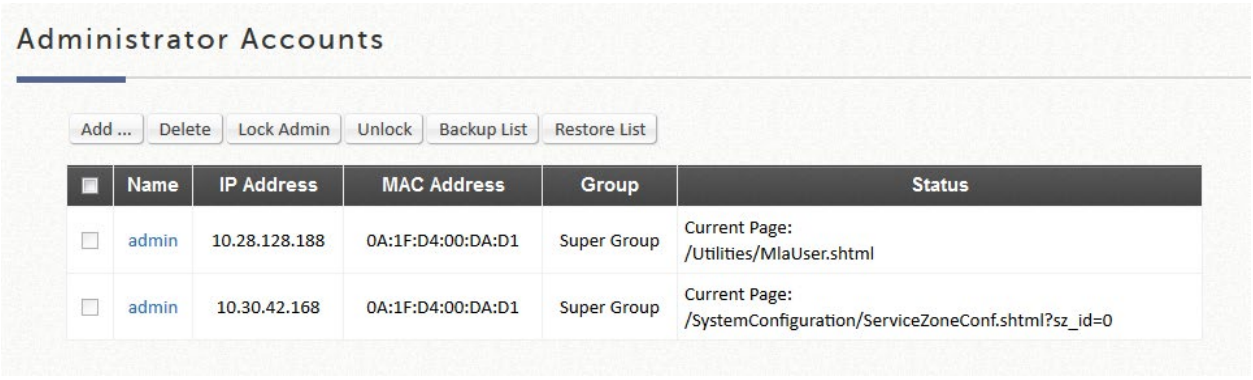
1）Administrator Account

これは、管理者アカウントの作成、編集、削除、および確認に使用できます。

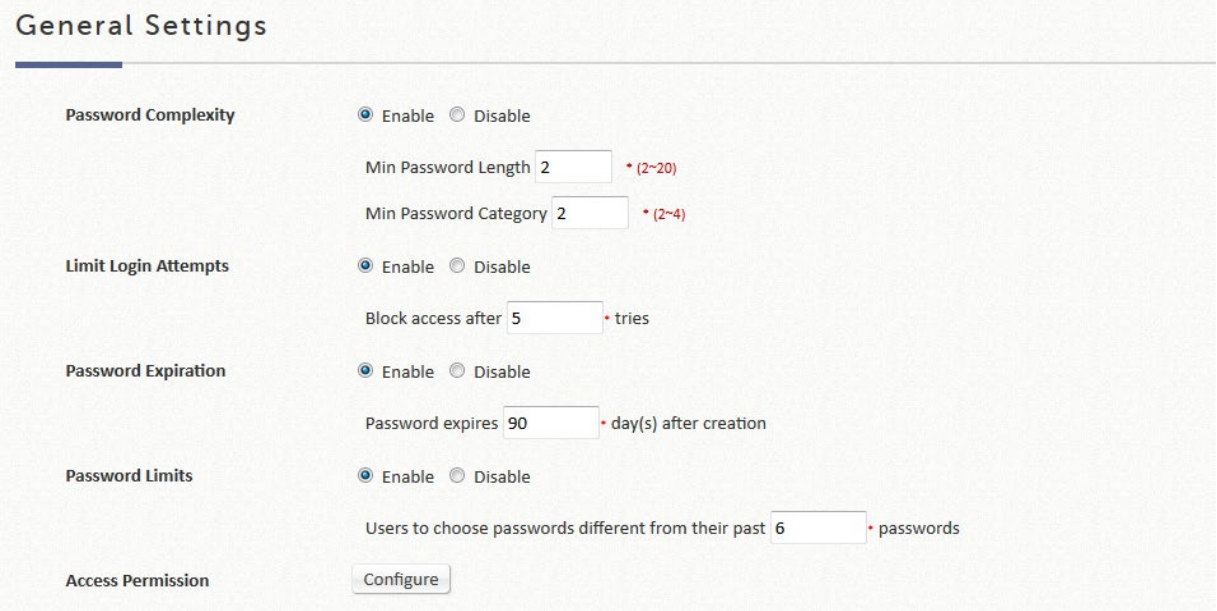
管理者のログインアカウントは「admin」です。システムの管理者パスワードは、管理者名をクリックし、元のパスワードと新しいパスワードを入力することで変更できます。システムのデフォルトの管理者パスワードは「admin」です。Elementary School's Name（小学校名）フィールドは、管理者のユーザー名またはパスワードを忘れた場合に備えて、セキュリティのために入力することもできます。Email と Elementary School's Name（小学校名）は両方とも空欄にするか、または両方とも記入する必要があることに注意してください。



また、管理者は、異なる権限を持つ他の管理者アカウントを作成することもできます。



管理者は、自分のパスワードを変更したり、管理責任を取るために管理者リストにアカウントを追加したりする権限を持っています。

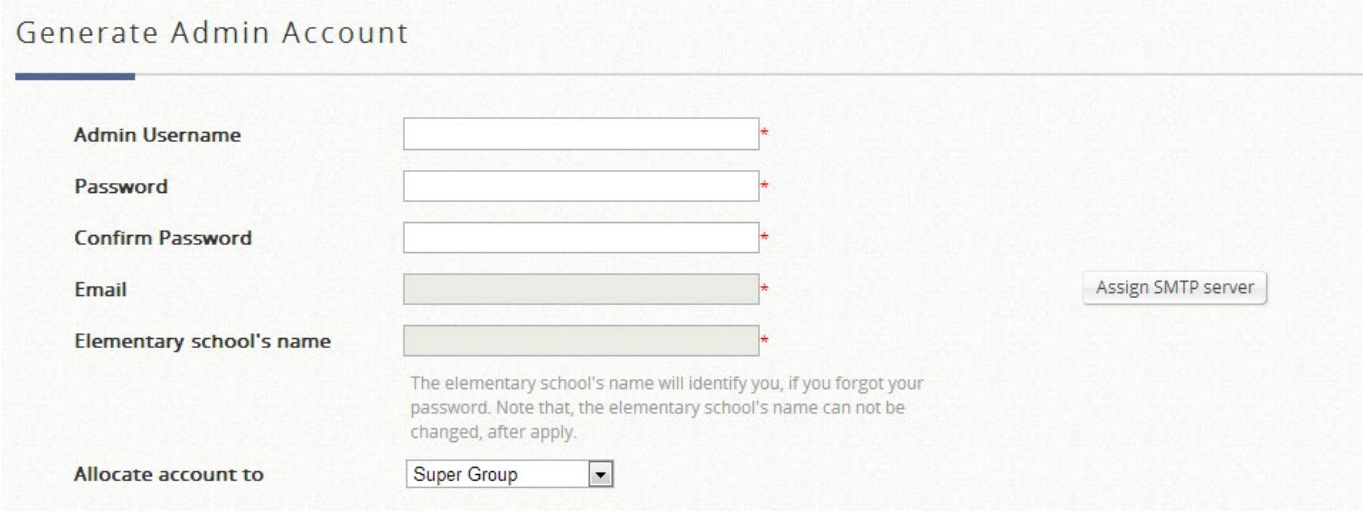


- **Password Complexity** により、管理者は、サブ管理者が使用するパスワードをどのように形成するかを制限できます。
  Min password Length は、パスワード文字列の最小長に制限を設定します。
  Min password Category を使用すると、管理者はサブ管理者のパスワードが必要とされる複雑さを定義できます。以下は、それぞれの数字が何を表しているかを示しています。

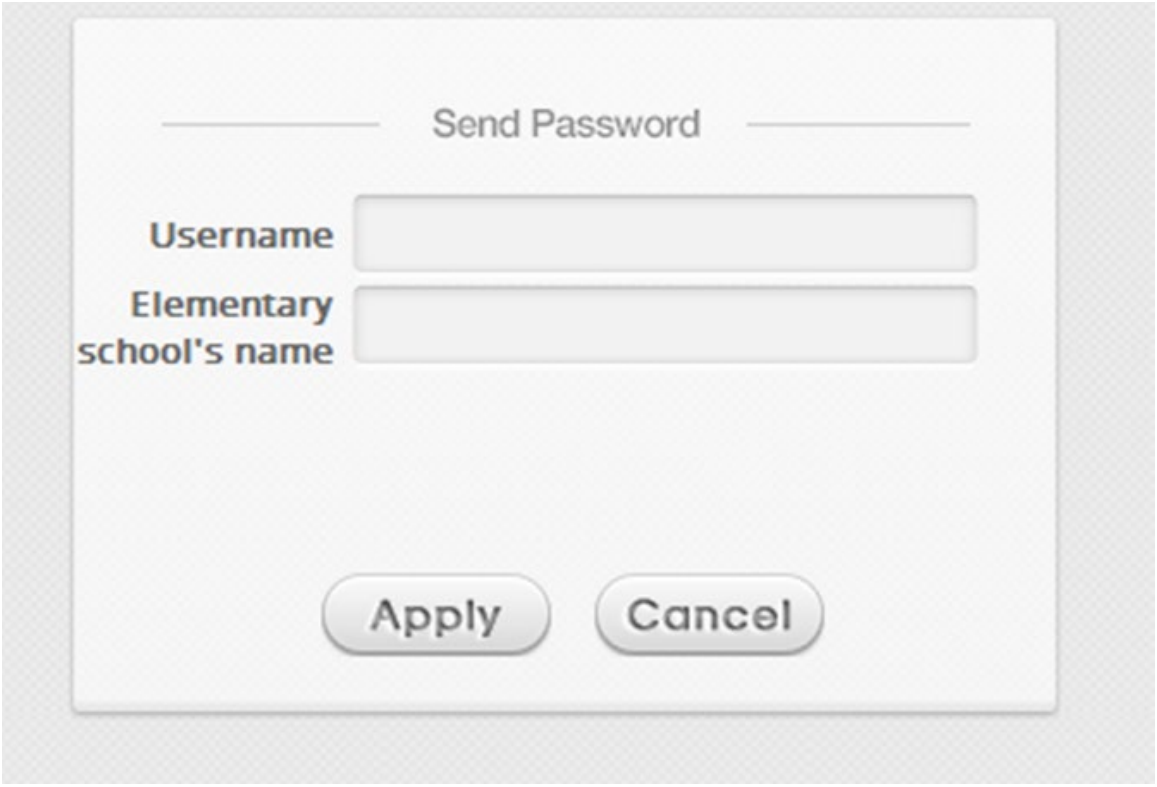
数字	定義
0	パスワードはチェックされません
1	パスワードには、少なくとも 1 つの形式（大文字/小文字/数字/特殊文字）を含める必要があります
2	パスワードには少なくとも 2 つの形式を含める必要があります
3	パスワードには、少なくとも 3 つの形式を含める必要があります
4	パスワードには少なくとも 4 つの形式を含める必要があります

- **Limit Login Attempts（有効な場合）**：サブ管理者がパスワードを再試行できる回数を入力します。この数以上を試行した場合、サブ管理者は再度文字列を入力することができません。
- **Password expiration（有効な場合）**：管理者がパスワードの有効期限日数を決定する機能です。最初のログインから数えて、各パスワードに対して有効な期間を定義できます。パスワードの有効期限が切れると、オペレータは将来の使用のために新しいパスワードを設定する必要があります。期限切れのパスワードは再利用できません。
- **Password Limits（有効な場合）**：過去に使用されたパスワードを確認する数を決定します。例えば、管理者が「5」を入力した場合、システムは新しく追加されたパスワードが最新の 5 つのパスワードと同じかどうかをチェックします。もし同じであれば、サーバーは管理者に新しいパスワード文字列を再度選択するように要求します。

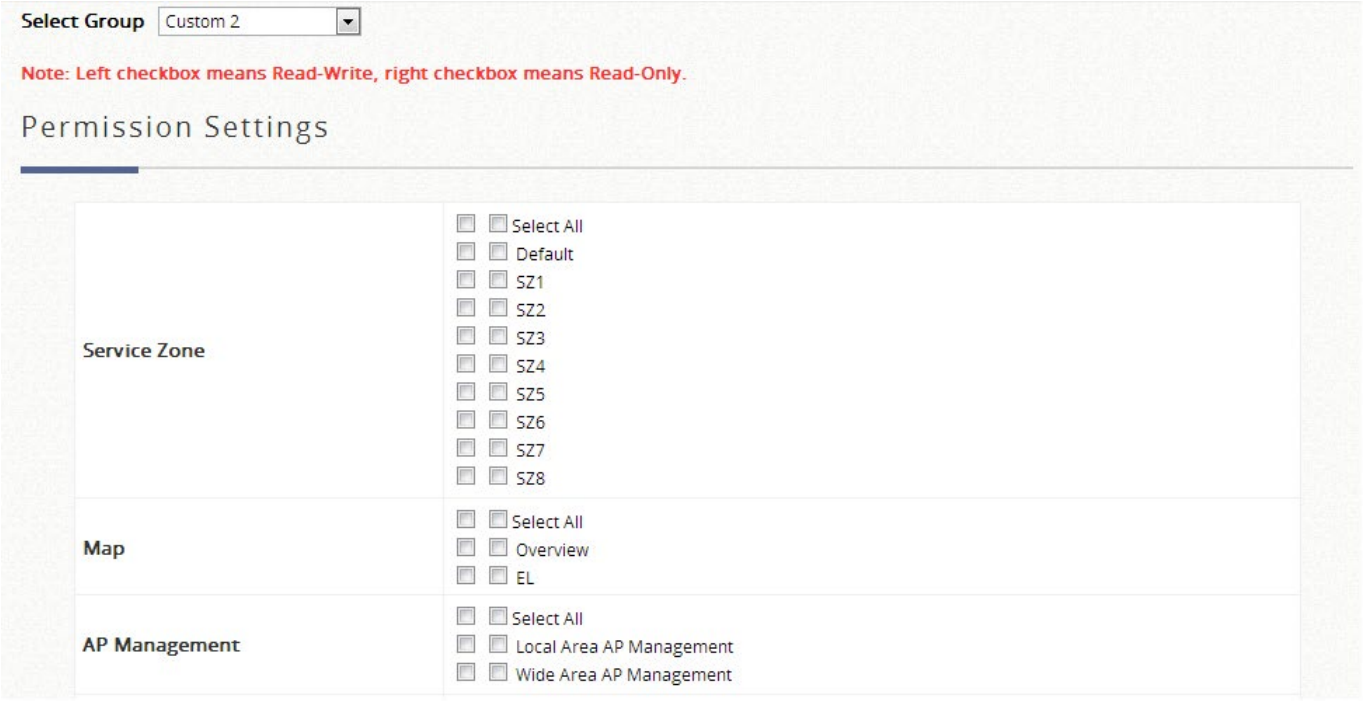
■ **サブ管理者の作成**



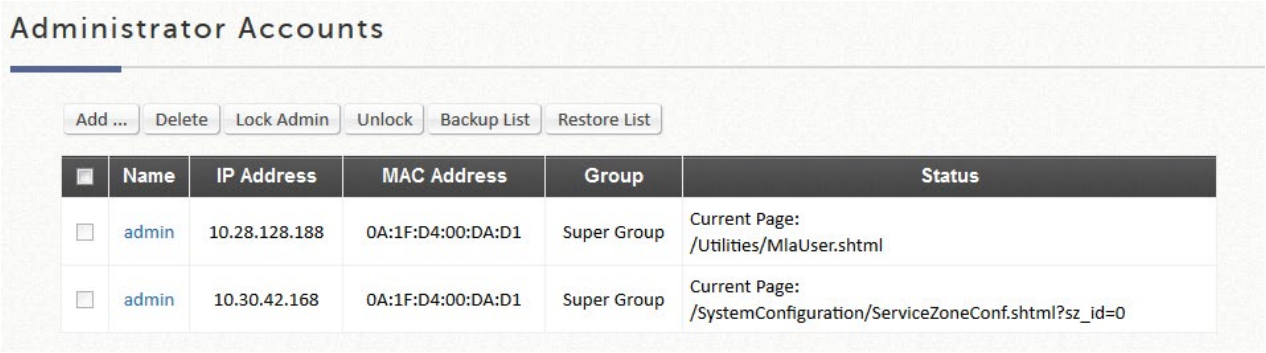
Generate 表に移動して、サブ管理者を作成し、権限制限を定義します。管理者がパスワードを忘れた場合、Email と Elementary School Name（小学校名）の両方を入力することで、アカウント資格情報が割り当てられたメールアドレス宛てにメールされます。システムが電子メールリマインダーを送信するには、SMTP サーバーを設定する必要があります。



サブ管理者は、Super Group、Manager、Operator、On-Demand Manager、Custom1、Custom2、Custom3 の 6 つのカテゴリに分類できます。ドロップダウンリストの右側にある configure をクリックして、相違点を表示および変更します。「Super Group」の権限制限は変更できないことに注意してください。 設定が完了したら、Apply ボタンを押して、リストにアカウントを作成します。



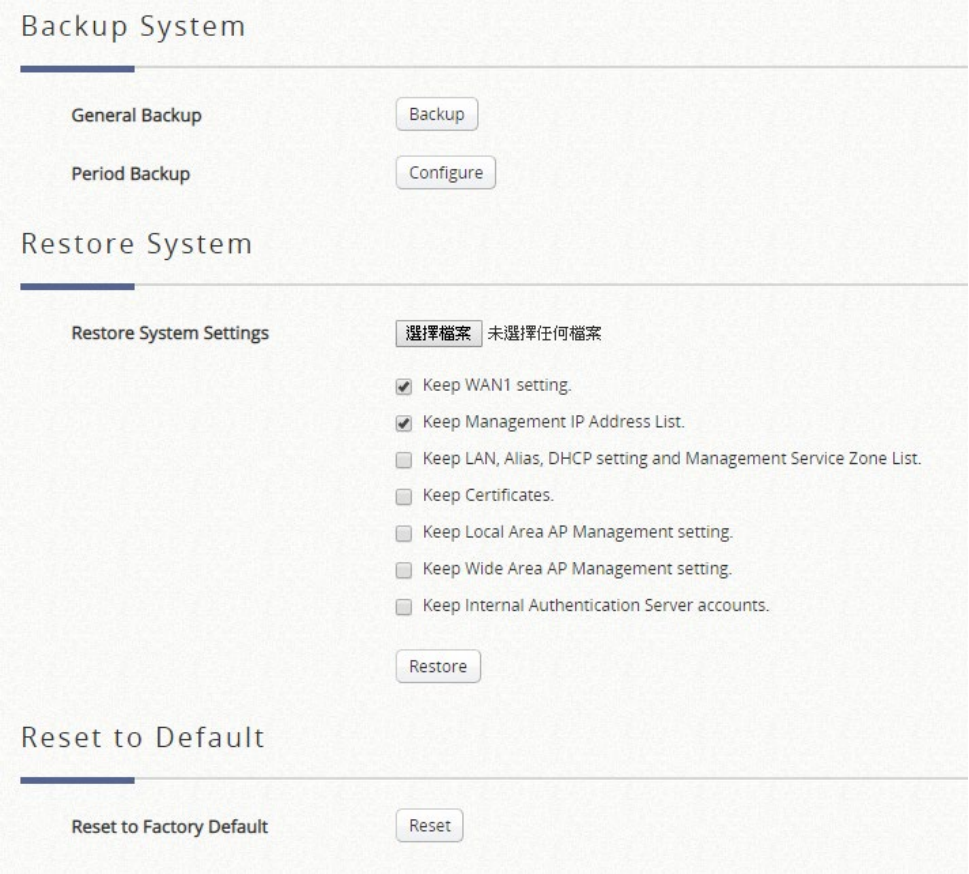
- **The admin list** は、管理者がオンライン管理者の数と各サブ管理者の状態など、各管理アカウントの活動状態を追跡するためのリストとして機能します。



削除できるのは作成されたサブ管理者のみであることに注意してください。チェックボックスにチェックを入れて、特定のサブ管理者が管理ページにアクセスすることを禁止することに対して「Lock」または「Unlock」（ロック解除）します。また、管理者は、「name」列のハイパーリンクをクリックして、管理者/サブ管理者の関連設定を編集することもできます。

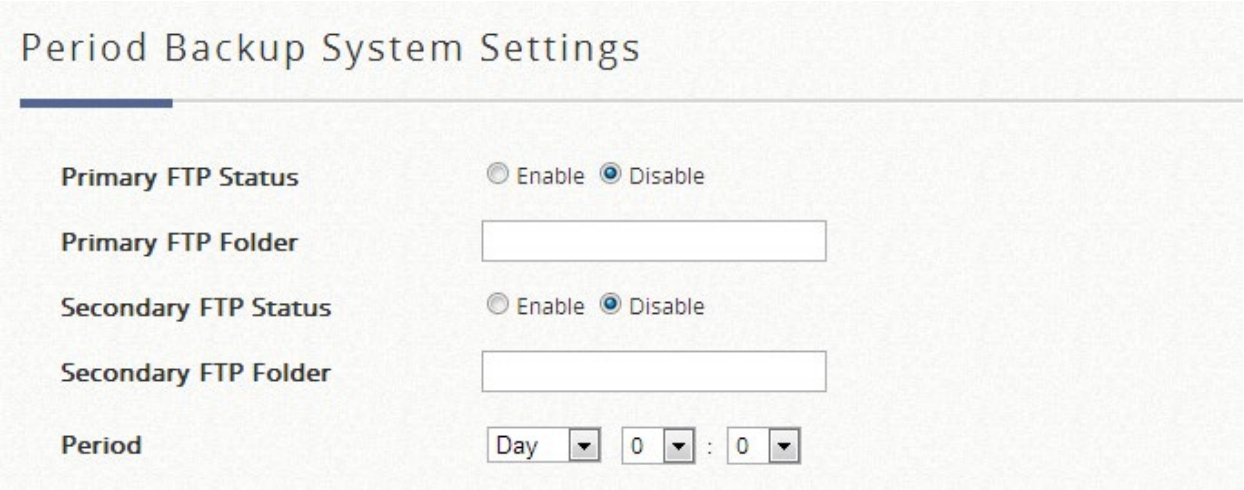
2）Backup & Restore

これは、システム設定のバックアップと復元に使用されます。システムの工場出荷時のデフォルトに戻すこともできます。



General Backup の下の ***Backup*** ボタンをクリックして、現在のシステム構成を管理コンソールのローカルディスク上のバックアップファイルに保存します。バックアップファイルは、現在のシステム設定とローカルユーザーアカウントを保持します。
バックアップファイルをシステムに復元するには、***Browse*** ボタンをクリックしてバックアップファイルを選択し、***Restore*** ボタンをクリックしてプロセスを実行します。

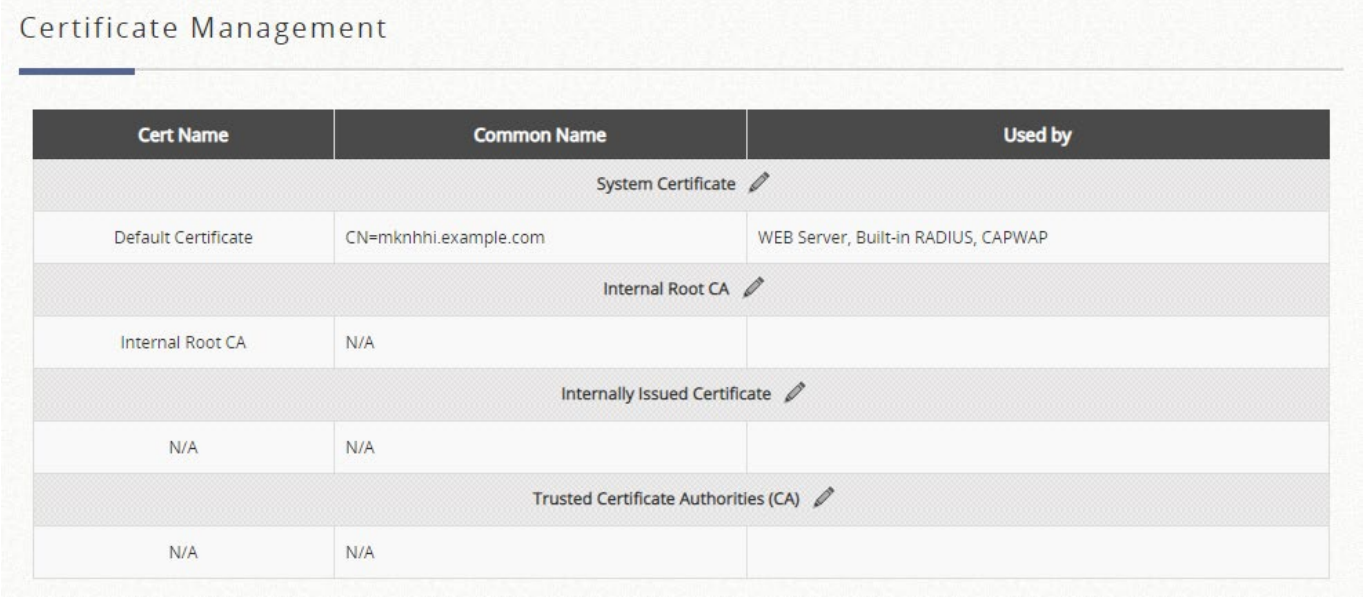
バックアップは FTP 経由で定期的に行うことができます。この機能を有効にするには、Period Backup の下の ***Configure*** ボタンをクリックします。



- **Restore System Settings：** ***Browse*** をクリックして、コントローラによって作成された.db データベースバックアップファイルを検索し、***Restore*** をクリックして、バックアップファイルを保存した時点と同じ設定に復元します。「Keep WAN1 setting and Management IP Address List」オプションを選択すると、リモートアクセス用の WAN1 設定を保持できます。
- **Reset to Factory Default**：***Reset*** をクリックして、コントローラの工場出荷時のデフォルト設定を読み込みます。

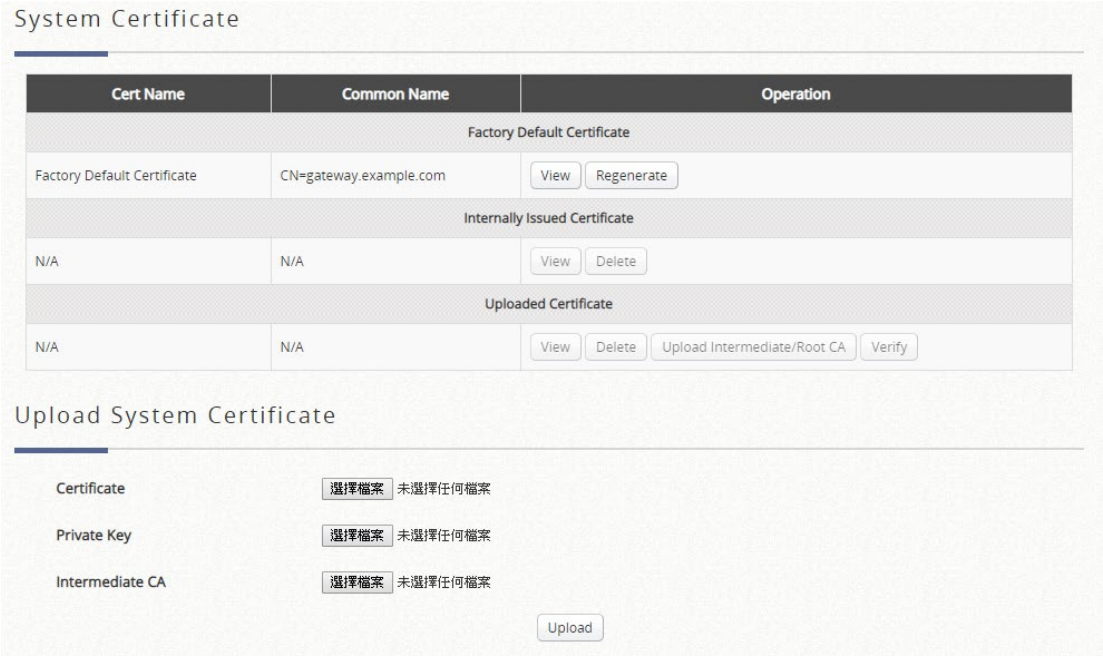
3）Certificates

このタブでは、管理者は、システム証明書の管理、ルート CA の作成、ルート CA からの証明書の署名、および証明書のアップロードを行うことができます。「Used By」列には、現在使用中の証明書とそれに対応するアプリケーションが表示されます。さまざまな種類の証明書をさらに構成するには、「鉛筆」アイコンをクリックします。



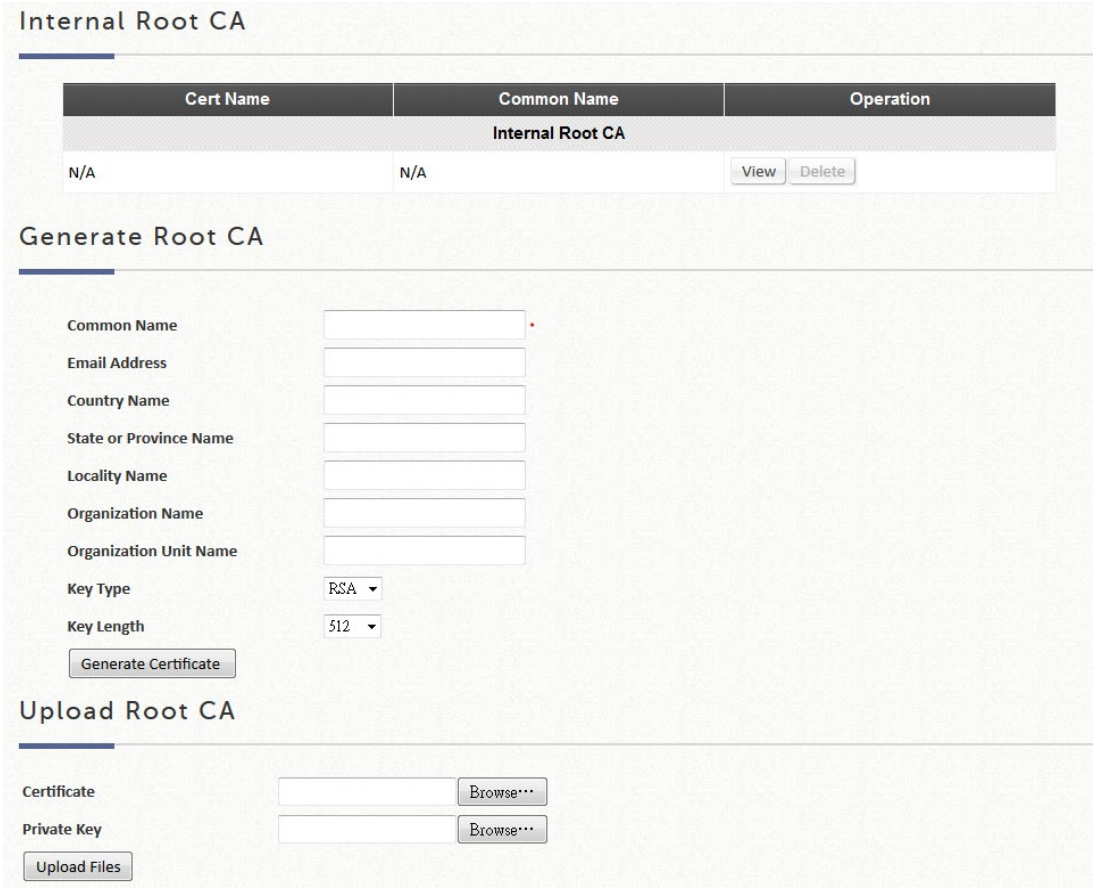
- **System Certificate**

これは、システムを識別する証明書です。これらの証明書は、HTTPS ログイン、CAPWAP などのアプリケーションに使用できます。コントローラには、削除できない出荷時デフォルト証明書（gateway.example.com）が組み込まれていますが、証明書のアップロードは許可されています。「Regenerate」（再生成）ボタンをクリックすると、固有の CN を持つ新しいデフォルト証明書が作成されます。証明書の詳細を表示するには、対応する View（表示）ボタンをクリックしてください。証明書と公開キーをローカルディスクにダウンロードするには、「Get CERT」（証明書を取得する）と「Get Key」（キーを取得する）をクリックしてください。



- **Internal Root CA**

管理者は、プライベート用にルート CA を生成することができます。作成されたルート CA 証明書をダウンロードして、システムによって生成された証明書に署名するために使用できます。システムでは、内部ルート CA を 1 つしか作成できないことに注意してください。



ルート CA 証明書は、一致する秘密キーを使用してアップロードすることもできます。

- **Internally Issued Certificates**

内部ルート CA を作成する必要がある場合は、内部発行の証明書に署名できます。

生成された証明書が一覧表示され、証明書/キーのペアは、**View** の **Get Cert**、**Get key** でダウンロードできます。

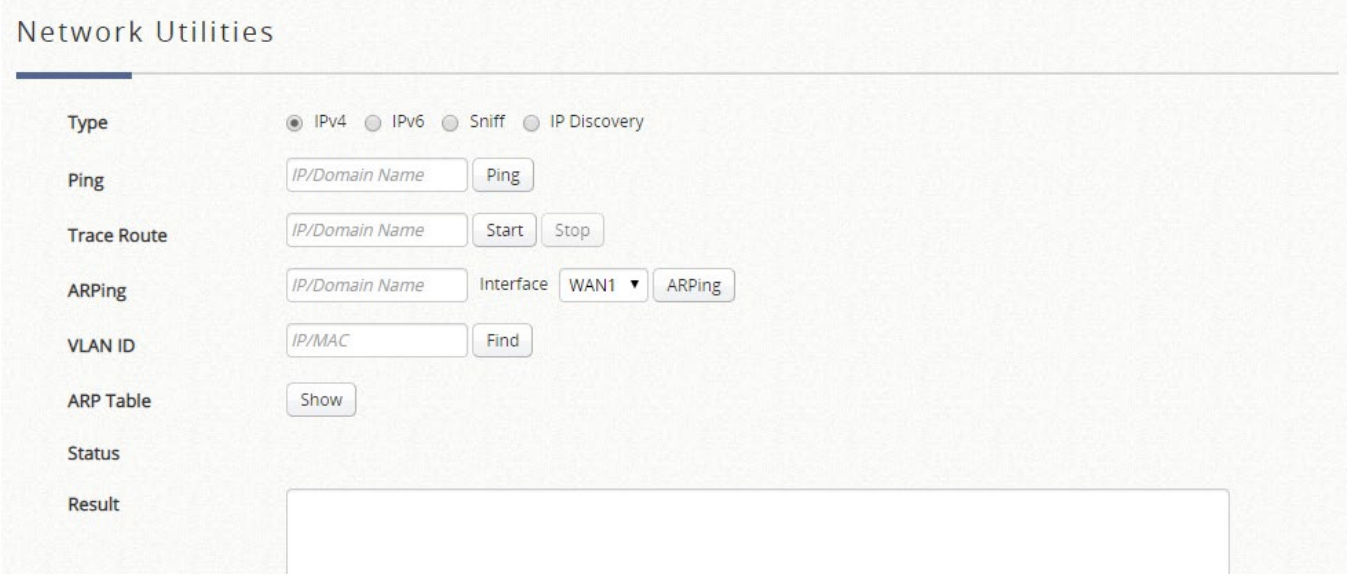
- **Trusted Certificate Authorities**

自己署名証明書とシステムのルート CA とは別に、管理者は、他の CA エンティティまたは信頼できる CA によって署名された他の証明書をシステムにアップロードすることもできます。これらの信頼できるルート CA 証明書は、コントローラが外部支払いゲートウェイおよび/または CAPWAP 対応 AP の証明書を認識し、信頼するためのものです。

信頼できる CA をアップロードするには、browse をクリックして、信頼できる CA 証明書をローカルディスクからシステムにアップロードしてください。

4）Network Utilities

Web ベースの Ping、トレースルート、ARP テーブルなどの一部のネットワークユーティリティは、システムでサポートされています。

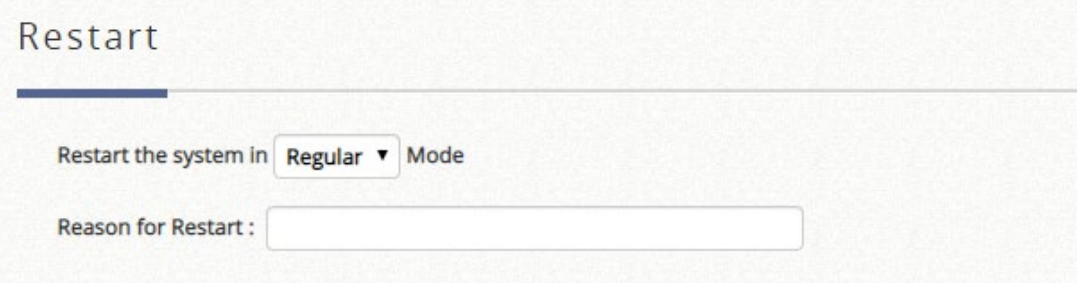


項目	説明
IPv4	▪ **Ping**：管理者が IP アドレスやホストドメイン名を使用してデバイスを検出し、それが生きているかどうかを確認することができます。 ▪ **Trace Route**：管理者は、IP アドレスまたはホストドメイン名を使用して、ゲートウェイから宛先へのパケットの実際のパスを回復することができます。 ▪ **ARPing**：管理者が特定の IP アドレスまたはドメイン名に対する ARP 要求を送信できるようにします。 ▪ **ARP Table**： 管理者は、アドレス解決プロトコル（ARP）で使用される、IP から物理アドレスへの変換表を表示できます。
IPv6	▪ **Ping**：管理者が IPv6 アドレスやホストドメイン名を使用してデバイスを検出し、それが生きているかどうかを確認することができます。 ▪ **Trace Route 6**：管理者は、IPv6 アドレスまたはホストドメイン名を使用して、ゲートウェイから宛先へのパケットの実際のパスを回復することができます。 ▪ **Neighbor Discovery**（近隣検出）：管理者は、この機能を使用して、同じ IP セグメン

	トまたはドメイン名にある IPv6 近隣ノードを知ることができます。 ▪ **Neighbor Cache**（近隣キャッシュ）：近隣キャッシュ内の近隣の情報を管理するノードです。この機能により、管理者はシステムの近隣キャッシュに格納されている情報を表示できます。
Sniff	この機能を使用すると、管理者は選択したインターフェースからのパケットをリッスンできます。管理者は、**Expression** フィールドの tcpdump コマンドを使用して、キャプチャするパケットのタイプをさらにフィルタリングできます。
IP Discovery（IP 検出）	この機能を使用すると、コントローラは同じレイヤ 2 ネットワーク内で接続されている AP の IP アドレスを検出できます。管理者は、検出された AP の IP 設定を変更することもできます。
Status	管理者がネットワークユーティリティ機能を実行している場合、操作の状態がここに表示されます。
Result（結果）	操作結果が表示されます。

5）Restart

Restart ボタンをクリックして、システムを再始動します。システム Web 管理インターフェースに再度アクセスする前に、点滅タイマーが終了するまでお待ちください。



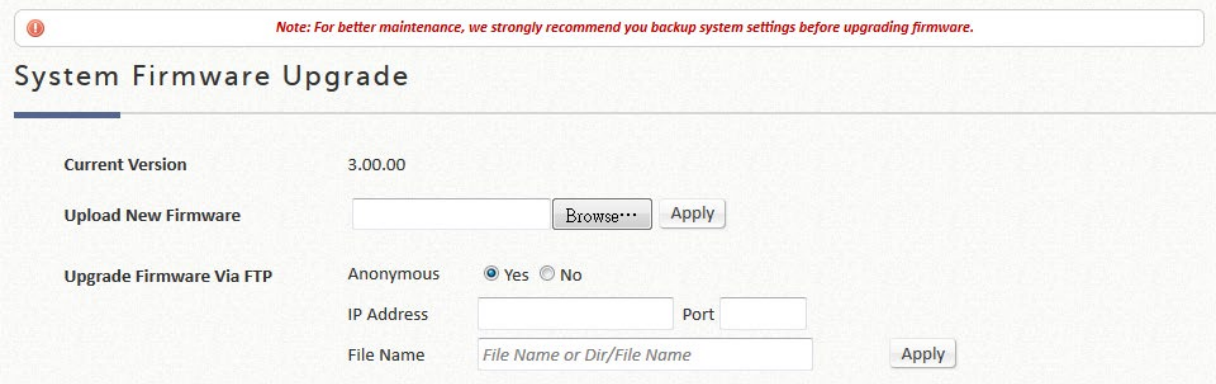
6）System Upgrade

管理者は、ウェブサイトから最新のファームウェアをダウンロードし、ここでシステムをアップグレードすることができます。***Browse*** をクリックしてファームウェアファイルを検索し、***Apply*** をクリックしてファームウェアアップグレードを実行します。アップグレードプロセスが完了するまでに数分かかる場合があります。その後、新しいファームウェアをアクティブ化するためにシステムを再起動する必要があります。

FTP ファームウェアのアップグレードもオプションです。 FTP サーバーの IP アドレス、FTP サーバーポート、および FTP アカウント名とパスワードを入力し、最後に、システムのアップグレードに使用する FTP サーバーに格納されている完全なファームウェアファイル名を指定してください。

システムファームウェアをアップグレードするには、***Browse*** ボタンをクリックして新しいファームウェアファイルを選択し、***Apply*** ボタンをクリックしてプロセスを実行します。ファームウェアのアップグレードが正常に完了した後、システムを再始動するよう管理者に通知する確認メッセージが表示されます。（**ファームウェアのアップグレードには数分かかる場合がありますので、確認メッセージをお待ちください）

ファームウェアのアップグレード後に工場出荷時のデフォルトにリセットする前に、システムを再起動する必要があります。



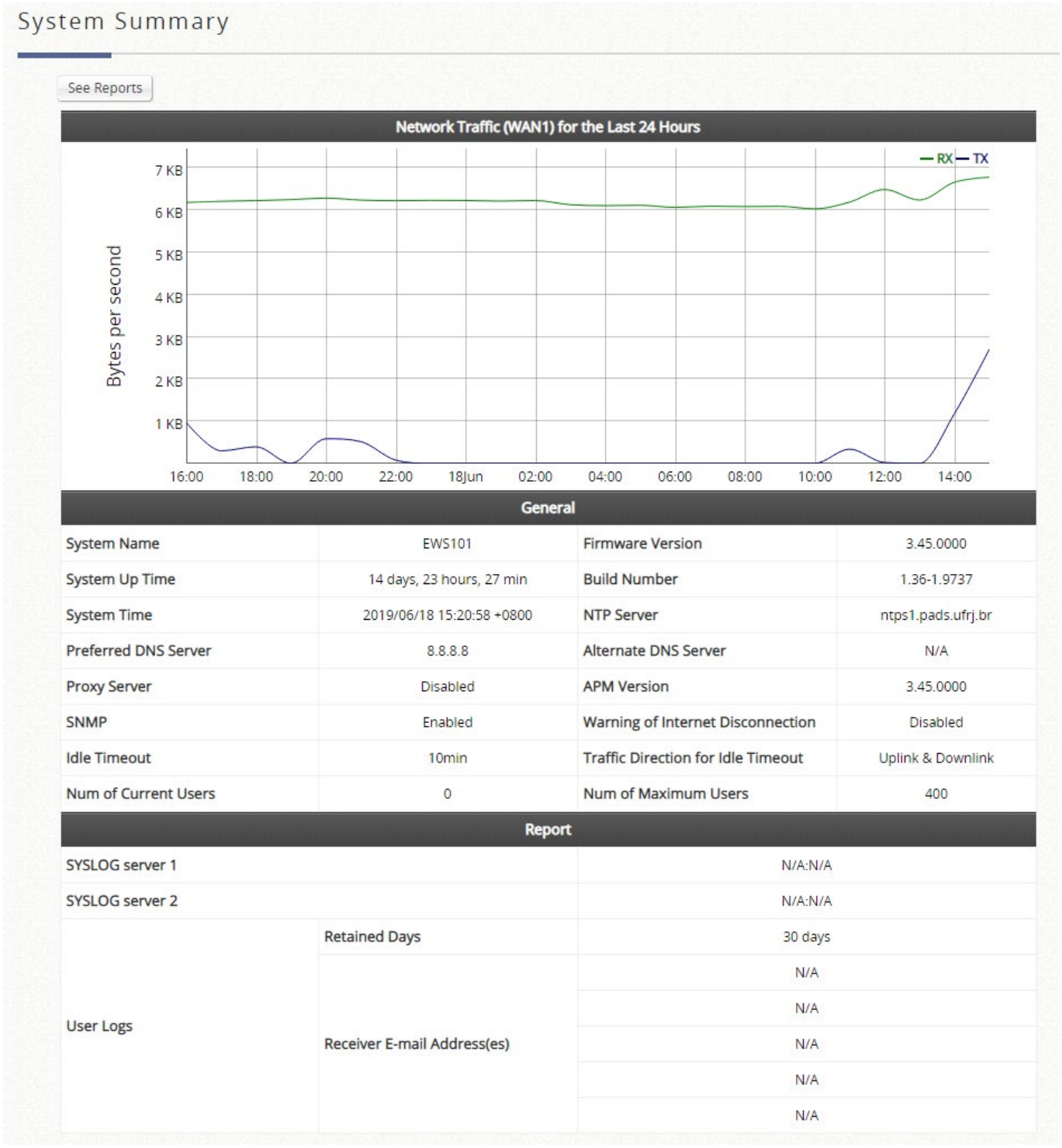
G.Status

Status：システムステータス、インターフェースステータス、ハードウェアステータス、ルーティングテーブル、オンラインユーザー、セッションリスト、ユーザーログ、および通知構成の設定に関する情報を提供します。

1）System Summary

システム上の現在の設定を表示します。

システムの概要は、管理者の参考のためにここに記載されています。



General			
System Name	システム名です。デフォルト名はモデル番号です。	**Firmware Version**	EWS コントローラの現在のファームウェアバージョンです
System Up Time	システムの動作時間を表示します。	**Build Number**	現在のビルド番号です。
System Time	ローカル時間はシステム時間として表示されます。	**NTP Server**	システムが整列するように設定されているネットワークタイムサーバーです。
Preferred DNS	優先 DNS サーバーの IP アドレス	**Alternate DNS**	代替 DNS サーバーの IP アドレス

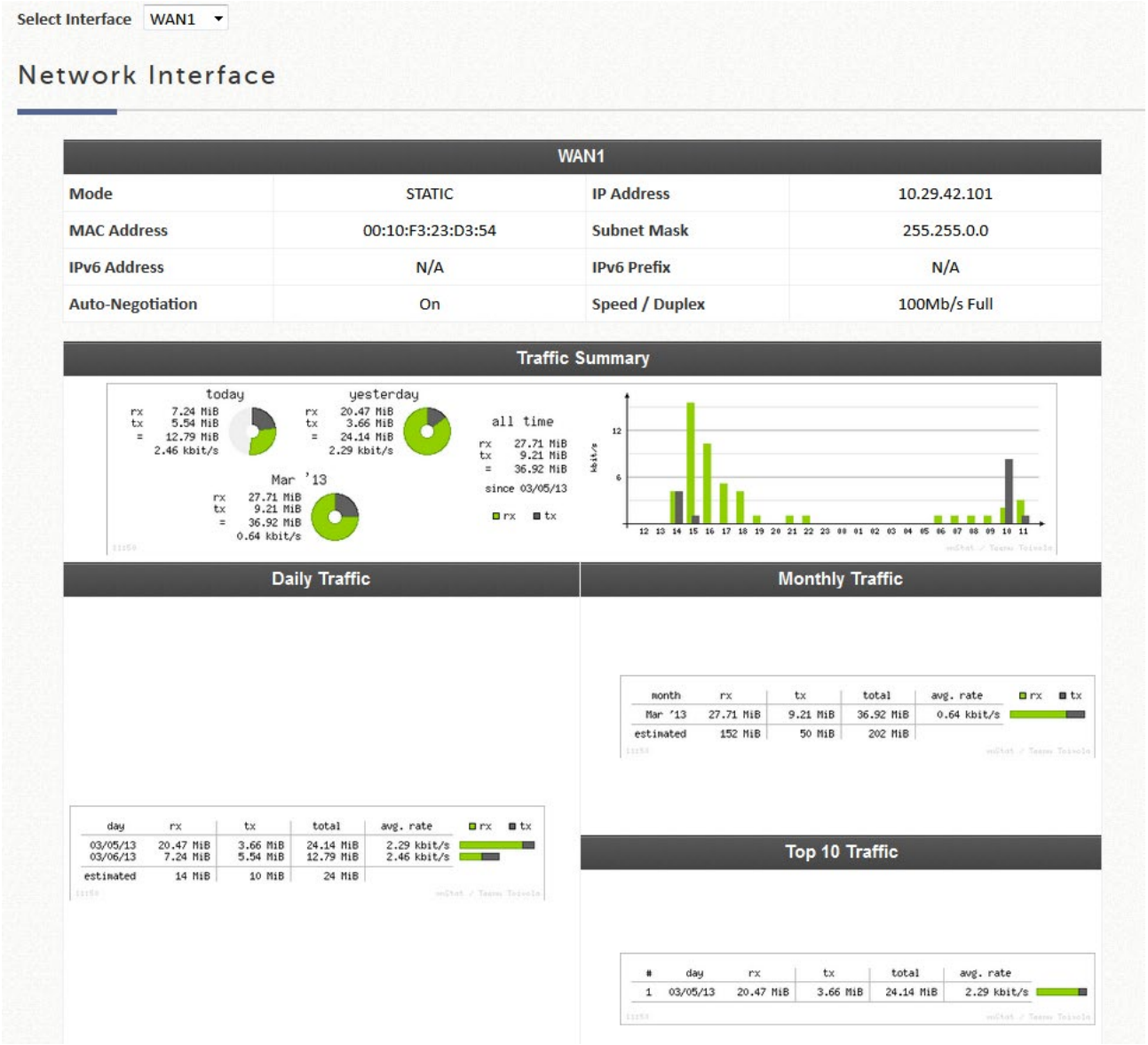
Server	です。	**Server**	です。
Proxy Server	有効/無効/外部	**APM Version**	AP 管理モジュールのバージョンです。
WAN Failover	有効/無効	**Load Balancing**	有効/無効
SNMP	有効/無効	**Warning of Internet Disconnection**	有効/無効
Idle Timeout	アカウントが自動的に失効する前に、ユーザーがアクティブでないことを許可した分です。	**Traffic Direction for Idle Timeout**	アップリンク/アップリンク & ダウンリンク ユーザーのアクティビティ検査は、アップリンクトラフィックのみまたは両方向によってチェックされます。
Num of Current Users	現在のオンラインユーザー数です。	**Num of Maximum Users**	オンラインユーザーの最大数です。
Report			
Syslog server 1			外部 Syslog サーバーの IP アドレスとポート番号です。**N/A** は、設定されていないことを意味します。
Syslog server 2			外部 Syslog サーバーの IP アドレスとポート番号です。**N/A** は、設定されていないことを意味します。
User Logs	**Retained Days**		システムがユーザーの情報を保持する最大日数です。
	Receiver Email Address (es)		トラフィック履歴またはユーザーのトラフィック履歴情報の送信先となる電子メールアドレスです。

「See Reports」をクリックすると、インターフェース別にソートされた次のレポートが表示されます。ネットワークトラフィック、CPU 負荷、CPU 温度、メモリ使用量、ストレージ使用量、オンラインユーザー、ログイン成功、セッション、DHCP リース、DNS クエリが含まれます。また、時間範囲と間隔を選択することで、レポートを好みに合わせてカスタマイズすることもできます。これらのレポートは、電子メール、syslog、または FTP 経由で送信できます。

2）Interface

すべてのネットワークインターフェースの現在の設定を表示します。 ドロップダウンメニューから Interface を選択してください。

各サービスゾーンは仮想システムを表します。したがって、システムのネットワークインターフェースの情報はサービスゾーン別にグループ化されます。



項目		説明
インターフェース（WAN1/WAN2）	**Mode**	このインターフェースの動作モードです。
	MAC Address	WAN ポートの MAC アドレスです。
	IP Address	WAN ポートの IPv4 アドレスです。
	Subnet Mask	WAN ポートのサブネットマスクです。
	IPv6 Address	選択したインターフェースの IPv6 アドレスです
	IPv6 Prefix	IPv6 アドレスの接頭辞です
	Auto-Negotiation	自動ネゴシエーションがオンの場合、システムはインターフェースに接続されたシステムとデバイスの両方がサポートする最高性能の伝送モード（速度/二重/フロー制御）を選択します。
	Speed/Duplex	選択したインターフェースの現在の速度と二重を表示します。
Traffic Summary		このインターフェースの TX レートと Rx レートの毎日、毎月、およびすべての時間のグラフィカルな概要を表示します。
Daily Traffic		その日のトラフィック情報を表で表示します。

Monthly Traffic		トラフィック情報を表で表示します。
Top 10 Traffic		その日のトラフィックのトップ 10 の記録を表示します。
サービスゾーン — Default、SZ1～SZ8	**Mode**	SZ の操作モードです。
	MAC Address	SZ の MAC アドレスです。
	IP Address	SZ の IP アドレスです。
	Subnet Mask	SZ のサブネットマスクです。
	IPv6 Address	SZ の IPv6 アドレスです
サービスゾーン — DHCP Scope（Default、SZ1～SZ8）	**Status**	有効/無効は、デフォルトのサービスゾーン内の DHCP サーバーのステータスを表します
	WINS IP Address	DHCP サーバー上の WINS サーバーの IP です。**N/A** は、設定されていないことを意味します。
	Start IP Address	DHCP IP 範囲の開始 IP アドレスです。
	End IP address	DHCP IP 範囲の終了 IP アドレスです。
	Lease Time	IP アドレスのリース時間の分です。

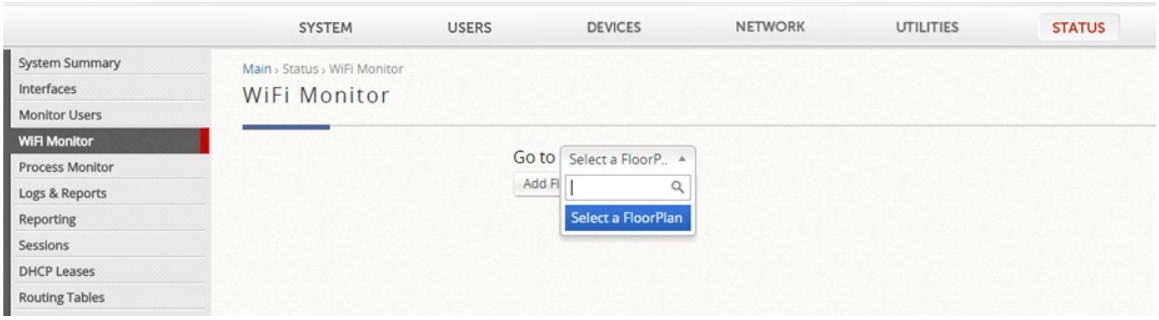
3）Monitor Users

すべてのオンラインユーザー/デバイスがここに表示されます。管理者は、***Kick Out*** ボタンをクリックして、任意のユーザーセッションを終了できます。非ログインユーザーもここに表示されます。

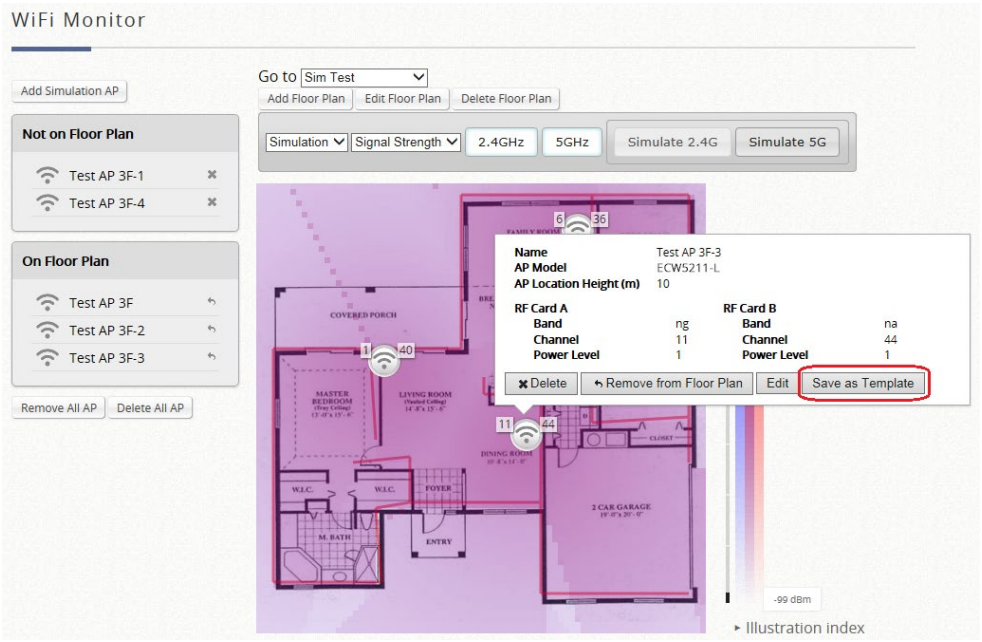
- **Online Users**： 認証に成功したローカルユーザーです。
- **Roaming In User**： ローミングピアコントローラで認証されたローミングユーザーです（クロスゲートウェイローミングの場合）。
- **Roaming Out User**：RADIUS プロトコルを介して外部コントローラで認証されたオンデマンドユーザーです。
- **Non-Login Local User**： IP アドレスを取得しましたが、ローカルユーザーの認証はまだされていません。
- **MAC Login Devices**：切断された MAC 認証デバイスは、物理的に再接続する必要がなく、MAC ログインデバイスリストで MAC 認証が可能です
- **Authenticated Users**：コントローラに対して不明な IP 情報を持つ認証完了ユーザーです（802.1X、MAC 認証、PPP 認証、または CoA ログイン経由）。
- **Smart Login Users**：スマートログイン期間内のオンデマンドユーザーです。このリストのユーザーは、次回ネットワークにアクセスするときに自動的にログインされます。

4）WiFi Monitor

WiFi モニターを実行するには、まずフロアプランを作成して管理対象 AP 監視またはシミュレーションを開始してから、2-D フロアプランを EWS コントローラにアップロードする必要があります。***Add Floor Plan*** ボタンをクリックして、フロアプランを追加してください。



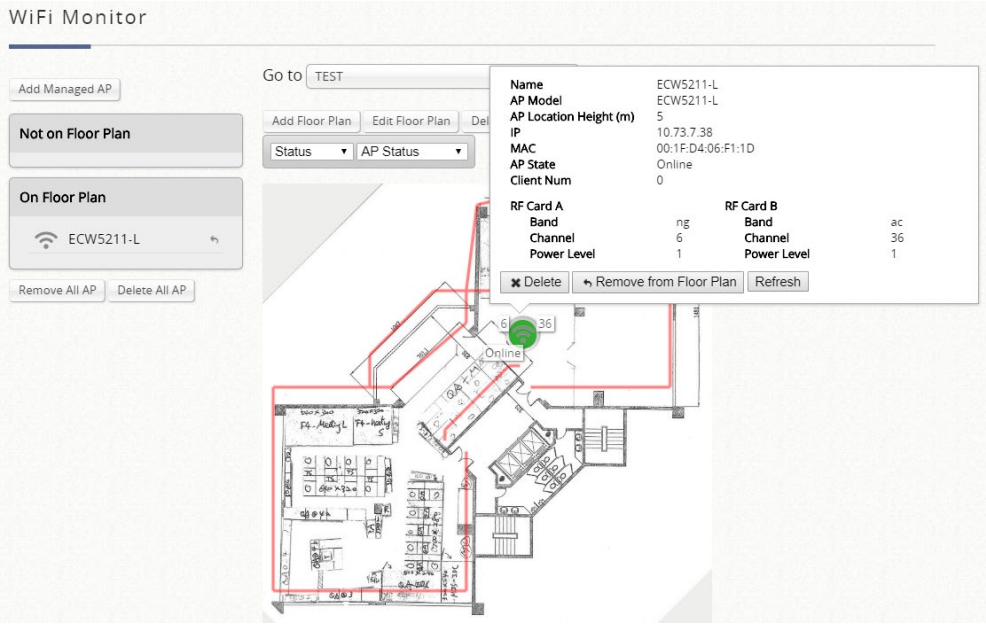
- **Floor Plan Type**：フロアプランのタイプです。ローカルエリア AP 管理またはワイドエリア AP 管理から管理対象 AP を監視する場合は、「Local」または「Wide」を選択します。AP シミュレーションの場合は「Virtual」を選択します。
- **Floor Plan Name**：管理者の参照用の自己定義名です。
- **Floor Plan**：フロアプランのファイル（.jpg 形式）を選択します。
- **Wall**：ウォールのファイル（.xml または.osm 形式）を選択します。
- **Map Width**：フロアプランの実際の幅です。
- **Map Length**：フロアプランの実際の長さです。
- **Country Code**：国コード（EU/US）を選択します。これにより、アクセスポイントの最大出力電力が決まります
- **Height of Receiving Device (m)**： 想定される受信クライアントデバイスの平均高さです。



Virtual Type

シミュレーションは、***Simulate 2.4G*** または **Simulate 5G** ボタンをクリックして実行できます。満足のいく結果が得られれば、各 AP の設定をテンプレートとして保存して、AP 管理で AP に適用できます。

- **Signal Strength**：色が濃いほど、信号強度は強くなります。
- **Coverage**：各 AP のカバレッジエリアは、異なる色によって表されます。
- **Distribution**：信号の強さを示すために、さまざまな色を使用します。



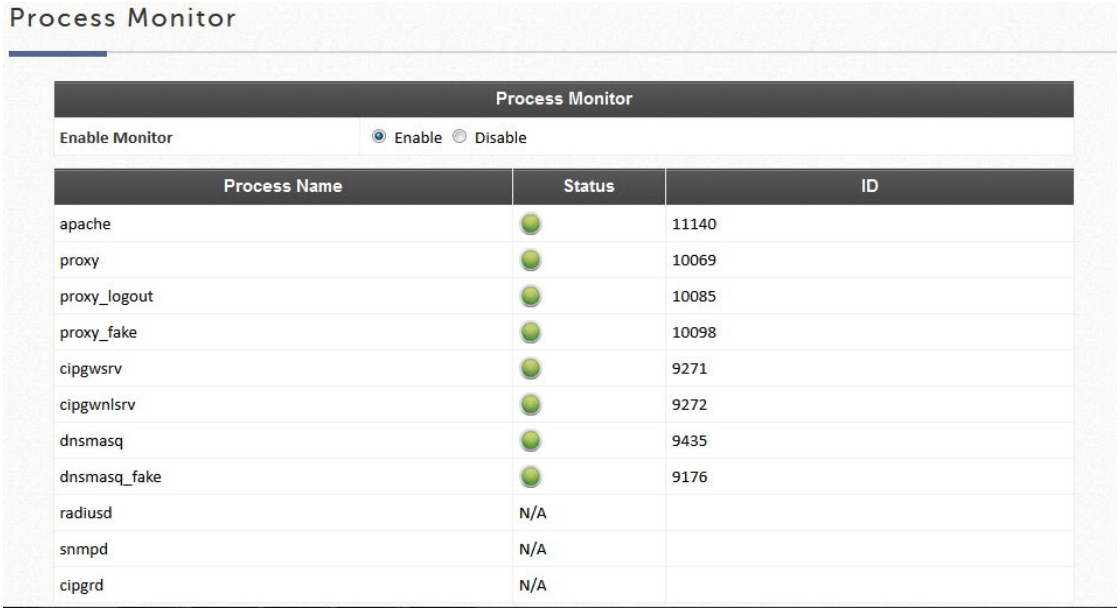
Local & Wide Type

- **AP Status**：オンライン/オフラインの状態、CPU 使用率（ワイドタイプのみ）、メモリ使用率（ワイドタイプのみ）を視覚化します。

- **Statistics**：各 AP のデバイス密度と平均トラフィックレート（ワイドタイプのみ）を表示します。
- **Coverage**：仮想タイプと同様に、各 AP のカバレッジをさまざまな方法で表示します。

6）Process Monitor

プロセスモニターは、ゲートウェイ上のプロセスデーモンのアクティブなステータスを表示するネットワークユーティリティです。管理者は、ラジオボタンをクリックすることで、プロセスモニタの **Enable** または **Disable** を選択することができます。



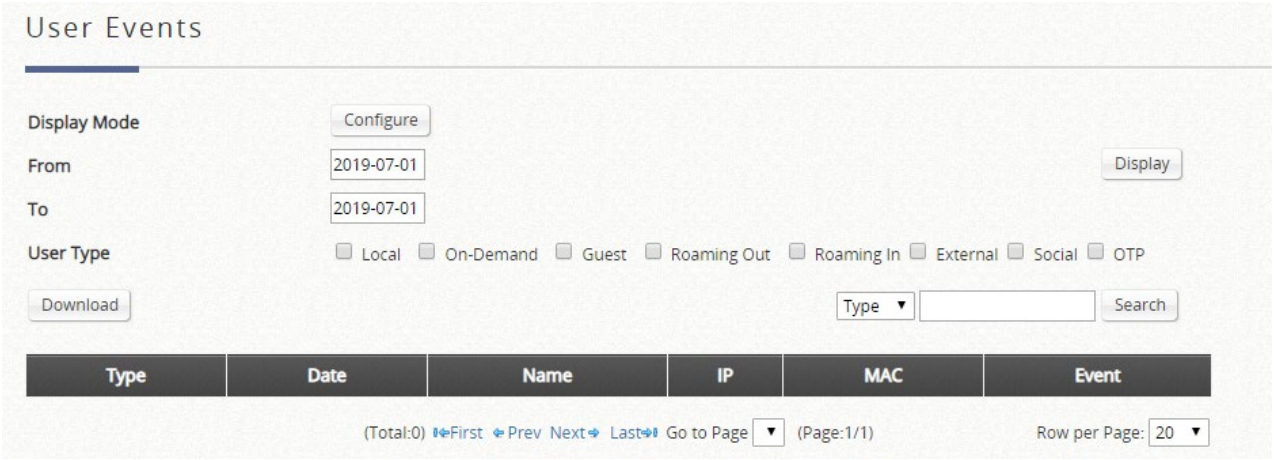
7）Logs & Reports

このページは、CAPWAP ログ、設定変更ログ、ローカル Web ログ、RADIUS サーバーログ、システムログ、UAMD ログなどのログを含むシステムのトラフィック履歴を確認するために使用されます。ユーザーログはユーザーイベントにまとめられ、各ユーザーによって生成されたトラフィックデータの累積記録も最新の暦月に保持されます。ただし、これらの情報はすべて揮発性メモリに格納されるため、再起動/再始動操作中に失われます。したがって、ログ情報を文書化する必要がある場合は、管理者が手動でバックアップを作成する必要があります。

- **CAPWAP Log**：このページには、コントローラと CAPWAP 対応の AP 間で通信される CAPWAP メッセージが表示されます。
- **Configuration Change Log**：このページには、コントローラの WMI 設定を変更したユーザーのアカウントと IP が表示されます。
- **Local Monthly Usage**：システムは、各ローカルユーザーによって生成されたトラフィックデータの累積記録を、最新 2 カ月の間に保持します。ローカルユーザー月間ネットワーク使用量記録の各行は、システム名、接

続時間使用量、Packets In、Bytes In、Packets Out、Bytes Out の 6 フィールドで構成されています。

- **Local Web Log**：このページには、コントローラ組み込み Web サーバー上でアクセスされた Web ページが表示されます。
- **On-Demand Billing Report**：このページは、オンデマンドアカウントの取引概要です。
- **RADIUS Server Log**：このページには、コントローラを通過する RADIUS メッセージが表示されます。
- **SIP Call Usage**：ログには、開始時刻、発信者、着信者、期間（秒）などの SIP クライアント（デバイスおよびソフトクライアント）のログインおよびログアウトアクティビティが表示されます。
- **System Log**：このページには、イベントトレース用のシステム関連のログが表示されます。
- **UAMD Log**：UAM デーモンから出力される UAM 関連情報を表示します。
- **User Events**：管理者の好みに合わせてカスタマイズ可能なすべてのユーザー関連情報を表示します。



「Download」ボタンでは、表示されたユーザーイベントをカンマ区切りの.txt ファイルにダウンロードできます。このファイルは、セル（MS Excel）にインポートできます。

ユーザータイプが異なると、ユーザー情報が異なることに注意してください。ユーザータイプに適用できない場合、カテゴリは空白のままになります。

ローカルユーザーに適用可能なユーザーイベントカテゴリ：

Date、Type、Name、IP、IPv6、MAC、Pkts In、Bytes In、Pkts Out、Bytes Out、VLAN ID、Group、Policy、MaxDnLoad、MaxUpload、ReqDnLoad、ReqUpload。

オンデマンドユーザーに適用可能なユーザーイベントカテゴリ：

Date、System Name、Type、Name、Unit、Price、Total Price、IP、IPv6、MAC、Pkts In、Bytes In、Pkts Out、Bytes Out、Activation Time、1st Login Expiration Time、Account Valid Through、Remark、VLAN ID、Group、Policy、MaxDnLoad、MaxUpload、ReqDnLoad、ReqUpload。

ローミングアウトユーザーの適用可能なユーザーイベントカテゴリ：

Date、Type、Name、NSID、NASIP、NASPort、UserMAC、SessionID、SessionTime、Bytes in、Bytes

Out、Pkts In、Pkts Out、Message。

ローミングインユーザーに適用可能なユーザーイベントカテゴリ：

Date、Type、Name、NSID、NASIP、NASPort、UserMAC、UserIP、SessionID、SessionTime、Bytes in、Bytes Out、Pkts In、Pkts Out、Message。

- **Alarm**：選択した項目のエラーまたは警告メッセージです。障害が解決されるまで、アラームはアラームリストに残ります。
- **Management Events**：選択した項目の管理関連のログです。

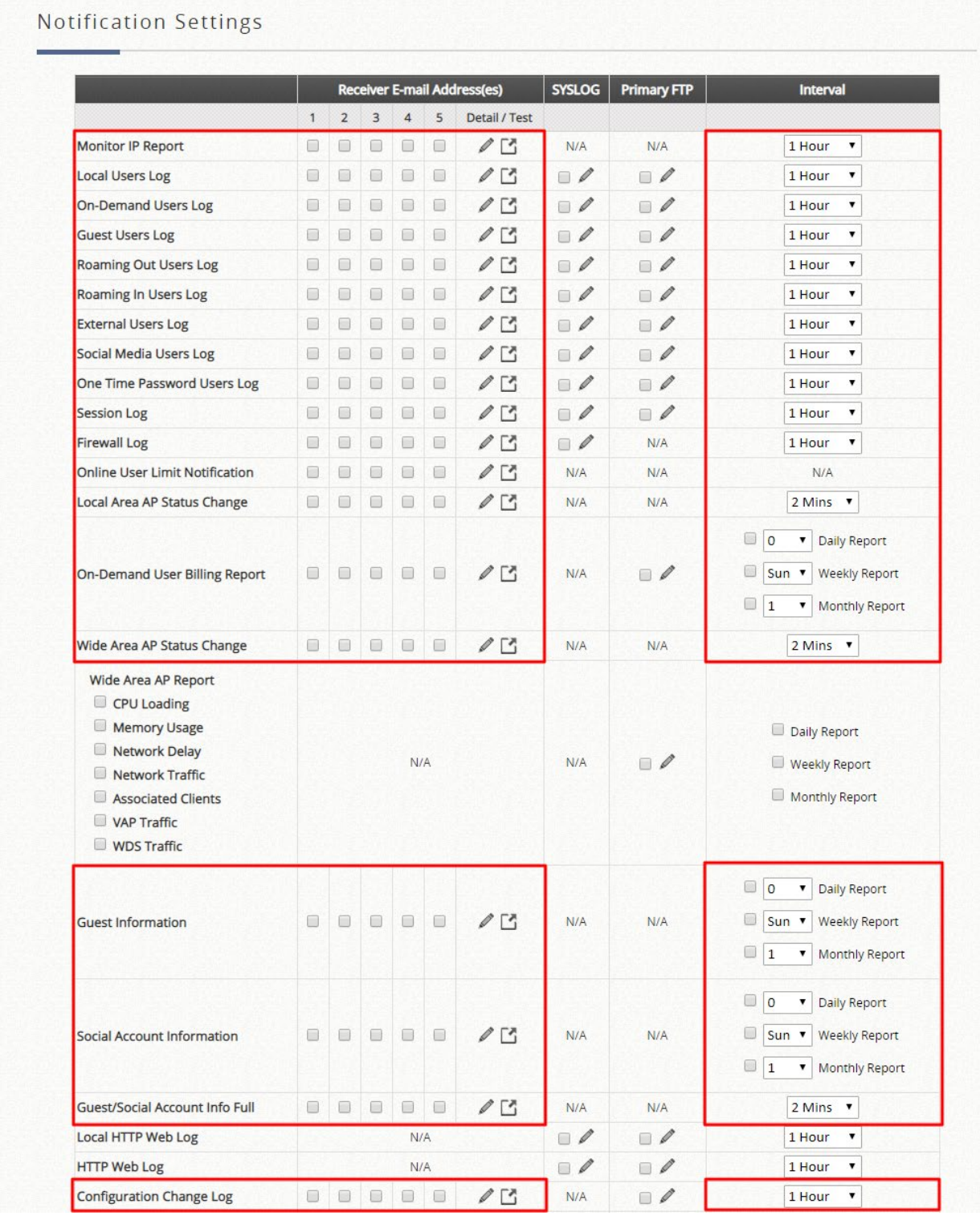
8）Reporting

EWS コントローラは、設定された電子メールアドレス、SYSLOG サーバー、または FTP サーバーに、ユーザーおよび/またはシステム関連のさまざまなレポートを自動的に送信できます。

Notification Settings ページ：
この設定ページでは、選択した時間間隔に基づいて、事前設定された電子メール、SYSLOG サーバー、または FTP サーバーに送信するログの種類を選択できます。

- **ログを電子メールに送信する**

  「SMTP Settings」で設定した電子メールアドレスには、以下のログの種類を送信できます。監視 IP のレポート、ユーザーログ、オンデマンドユーザーログ、トライアルユーザーログ、ローミングアウトユーザーログ、ローミングインユーザーログ、外部ユーザーログ、セッションログ、ファイアウォールログ、ローカルエリア AP ステータス変更、オンデマンドユーザー請求レポート、ワイドエリア AP ステータス変更、および設定変更ログです。1～5 の数字は、「SMTP Settings」で設定された対応する電子メールアドレスを表します。必要な電子メールアドレスプロファイル（1～5）をクリックし、レポートまたはログを送信する時間間隔を選択してください。

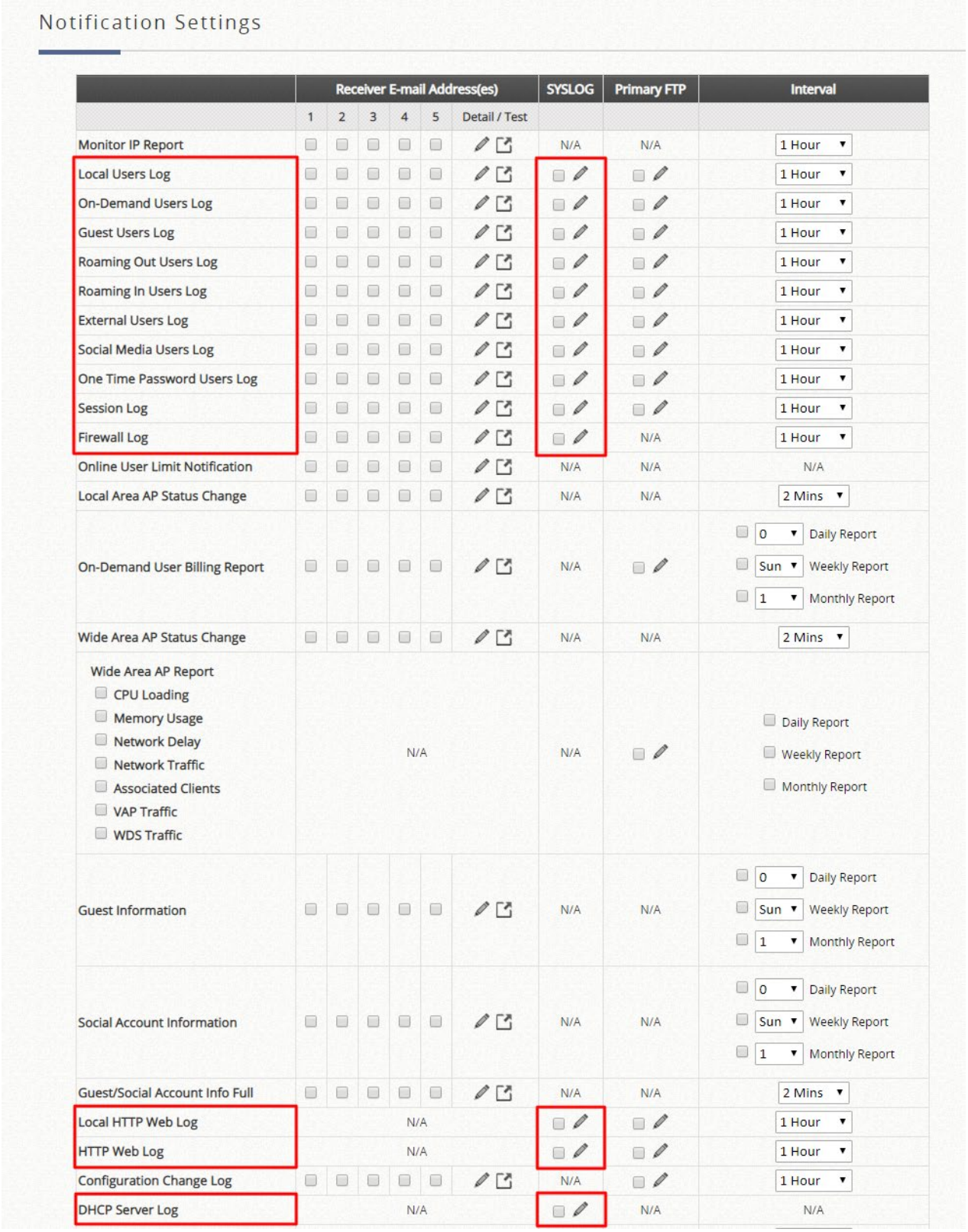


- **Detail**： このオプションボタンをクリックすると、対応するログの電子メールの件名を設定できます。
- **Send**：このラジオボタンをクリックすると、選択した電子メールアドレスにテストログが送信されます。

▪ ログを SYSLOG に送信する

「SYSLOG Settings」で設定した外部 SYSLOG サーバーには、以下のログの種類を送信できます。ローカルユーザーログ、オンデマンドユーザーログ、トライアルユーザーログ、ローミングアウトユーザーログ、ロー

ミングインユーザーログ、外部ユーザーログ、セッションログ、ファイアウォールログ、ローカル HTTP Web ログ、HTTP Web ログ、DHCP サーバーログです。必要なログの種類をクリックし、ログを送信する時間間隔を選択してください。

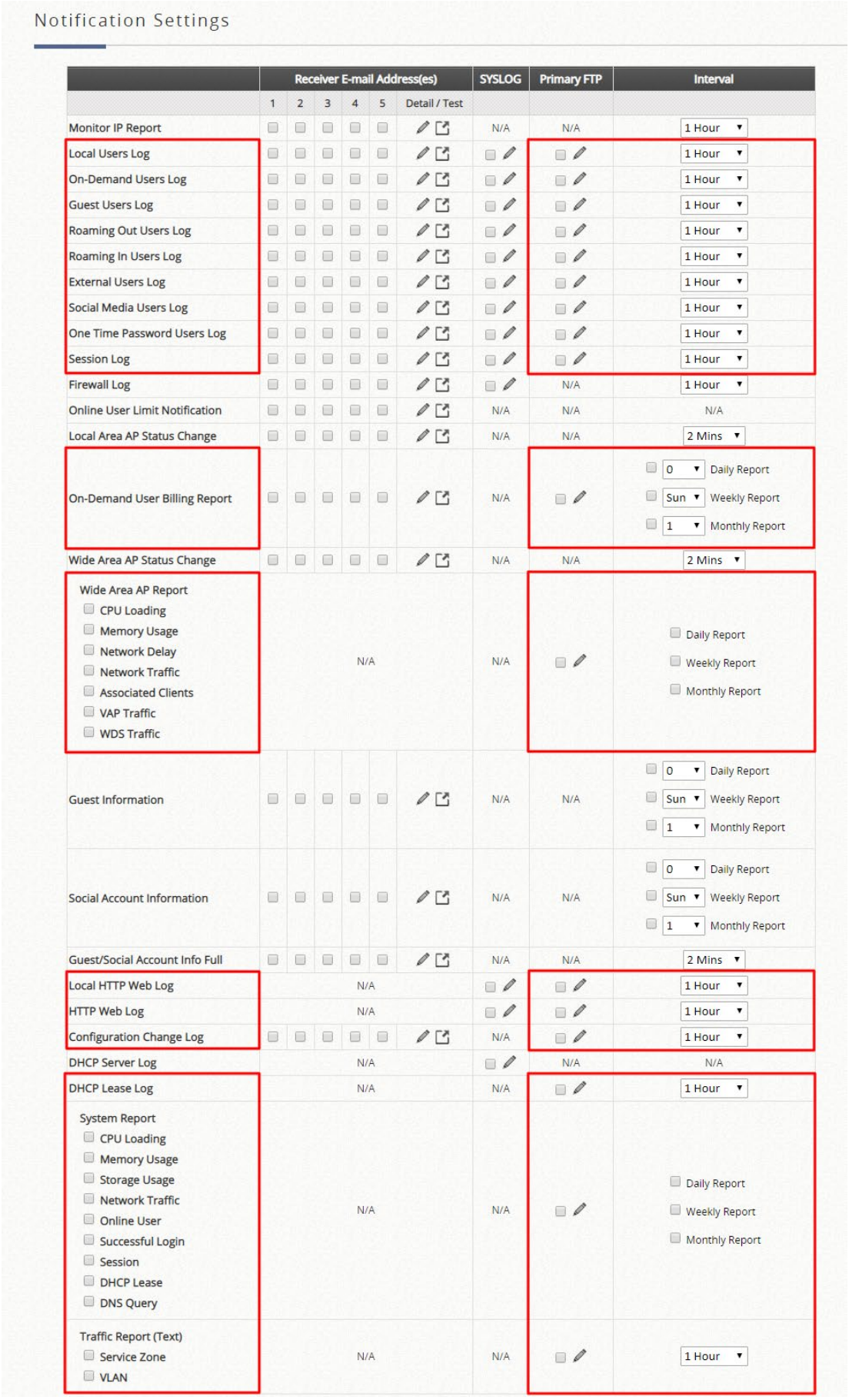


- **Detail**： このボタンをクリックすると、SYSLOG サーバー上のフィルタリング要件を満たすために、対応するログに割り当てられるタグ、重大度、ファシリティなどの SYSLOG 属性を設定できます。

注：選択したログを設定済みの SYSLOG サーバーに送信するには、SYSLOG Settings で「System Log」オプションを有効にする必要があります。

- **ログを FTP に送信する**

  「FTP Settings」で設定した外部 FTP サーバーには、以下のログの種類を送信できます。ローカルユーザーログ、オンデマンドユーザーログ、トライアルユーザーログ、ローミングアウトユーザーログ、ローミングインユーザーログ、外部ユーザーログ、セッションログ、オンデマンド請求レポートログ、ワイドエリア AP レポート、ローカル HTTP Web ログ、HTTP Web ログ、設定変更ログ、DHCP リースログ、システムレポート、トラフィックレポートです。必要なログの種類をクリックし、ログを送信する時間間隔を選択してください。

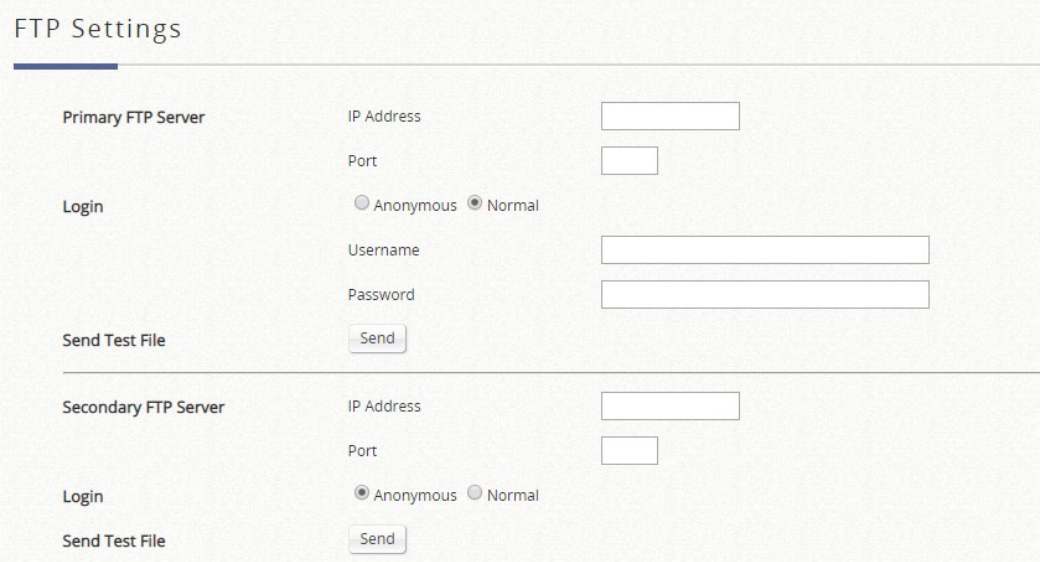


Detail：このボタンをクリックすると、送信されたログが FTP サーバーに格納される FTP サーバーフォルダを指定することができます。

注：FTP サーバーに出力されるログファイルは、**$トピック_追加の説明_$システム名_$日付_時間.txt** の形式に従って名前が付けられます。 例えば、次のようになります。HTTPWebLog_GW1_2010-10-15_0800.txt

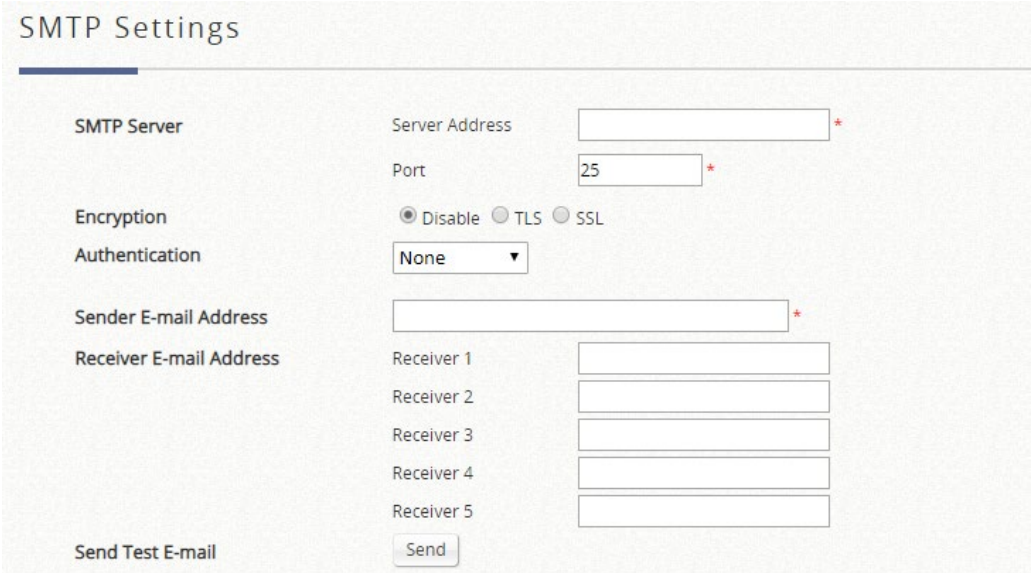
- **FTP Settings**： 選択したユーザーログとシステムログが送信される外部 FTP サーバーの設定を許可できます。

FTP Settings ページ：



- **FTP Destination**：FTP サーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。FTP で認証が必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。「Send Test File」ボタンを使用すると、現在の FTP 送信先の設定をテストするためのテストログを送信できます。

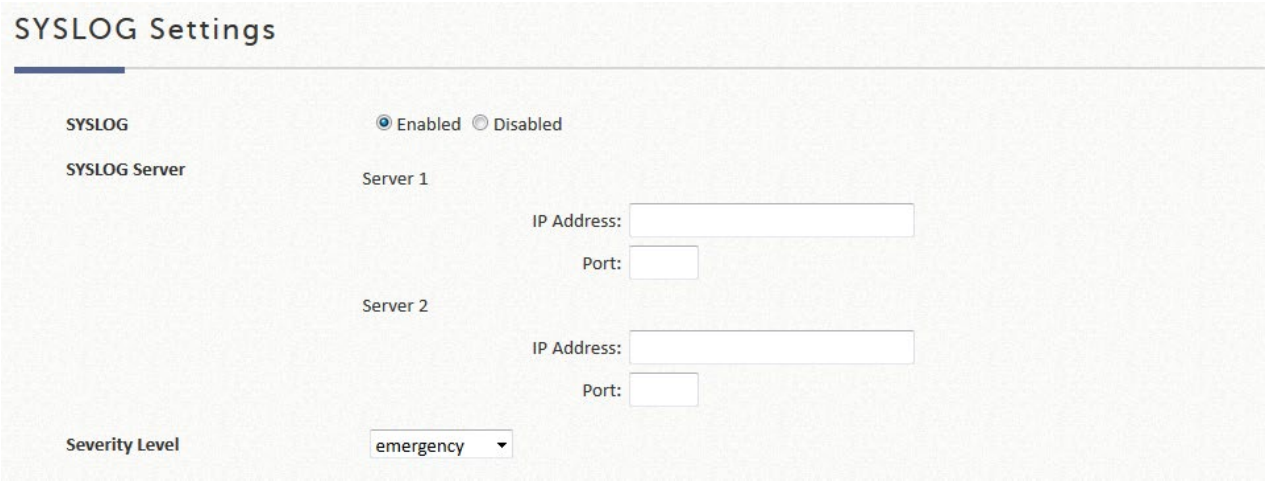
- **SMTP Settings**： 5 つの受信者の電子メールアドレスと、さまざまなユーザー関連のログを送信する必要なメールサーバー設定を設定できます。



- **SMTP Server**： 送信者の SMTP サーバーの IP アドレスを入力します。
- **SMTP Port**： デフォルトでは、ポート番号は 25 です。SMTP サーバーが SSL 経由の SMTP を実行している場合、管理者は他のポートを指定できます。
- **Encryption**： SMTP サーバーが TLS または SSL 経由で SMTP を実行する場合は、このオプションを有効にしてください。
- **SMTP Authentication**：システムには、**Plain**、**Login**、**CRAM-MD5**、**NTLMv1**、または「**None**」の 4 つの認証方法が用意されています。選択した認証方法に応じて、**アカウント名**、**パスワード**、**ドメイン**を入力します。
  - **NTLMv1** は現在一般に使用できません。
  - **Plain** と **CRAM-MD5** は標準化された認証メカニズムであり、**Login** と **NTLMv1** は Microsoft 独自のメカニズムです。UNIX のログインとパスワードを使用できるのは、**Plain** と **Login** のみです。Netscape は **Plain** を使用しています。Outlook と Outlook Express は、**NTLMv1** を使用するように設定できますが、デフォルトでは **Login** を使用します。
  - Pegasus は **CRAM-MD5** または **Login** を使用していますが、どの方法を使用するかを設定できません。
- **Sender E-mail Address**： 監視を担当する管理者の電子メールアドレスです。これは、送信者の電子メールとして表示されます。
- **Receiver E-mail Address（1～5）**：最大 5 件の電子メールアドレスを設定して、通知を受信できます。

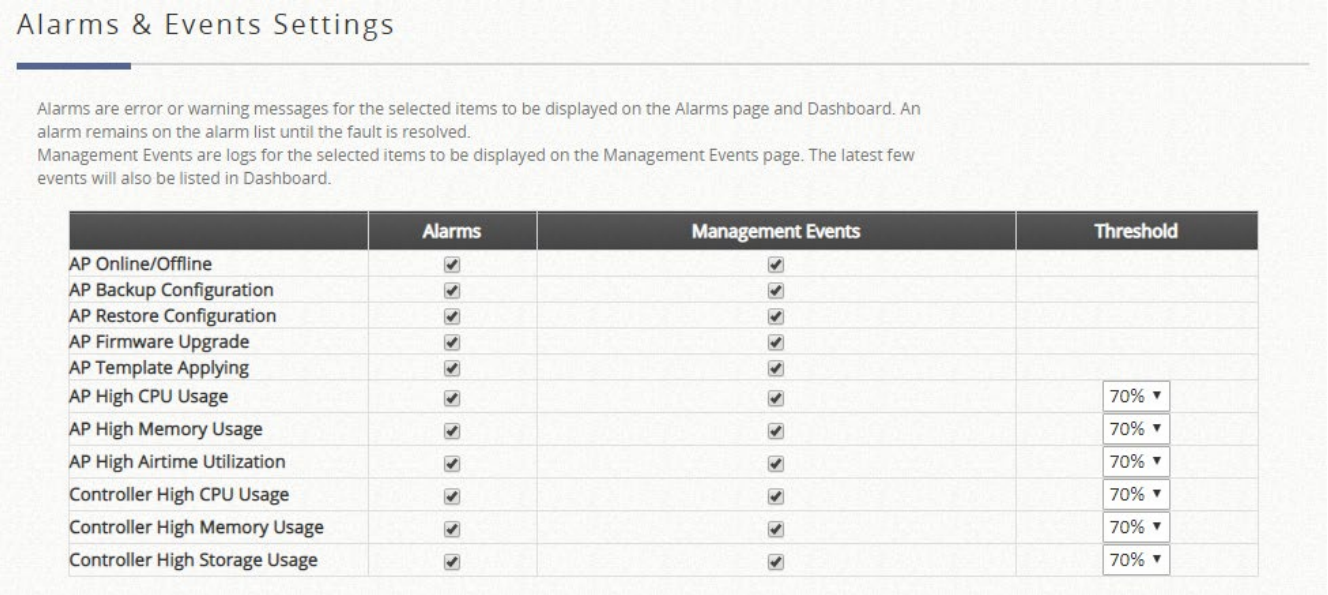
- **SYSLOG Settings**： 選択したユーザーログとシステムログが送信される 2 つの外部 SYSLOG サーバーの設定を許可できます。

SYSLOG settings ページ：



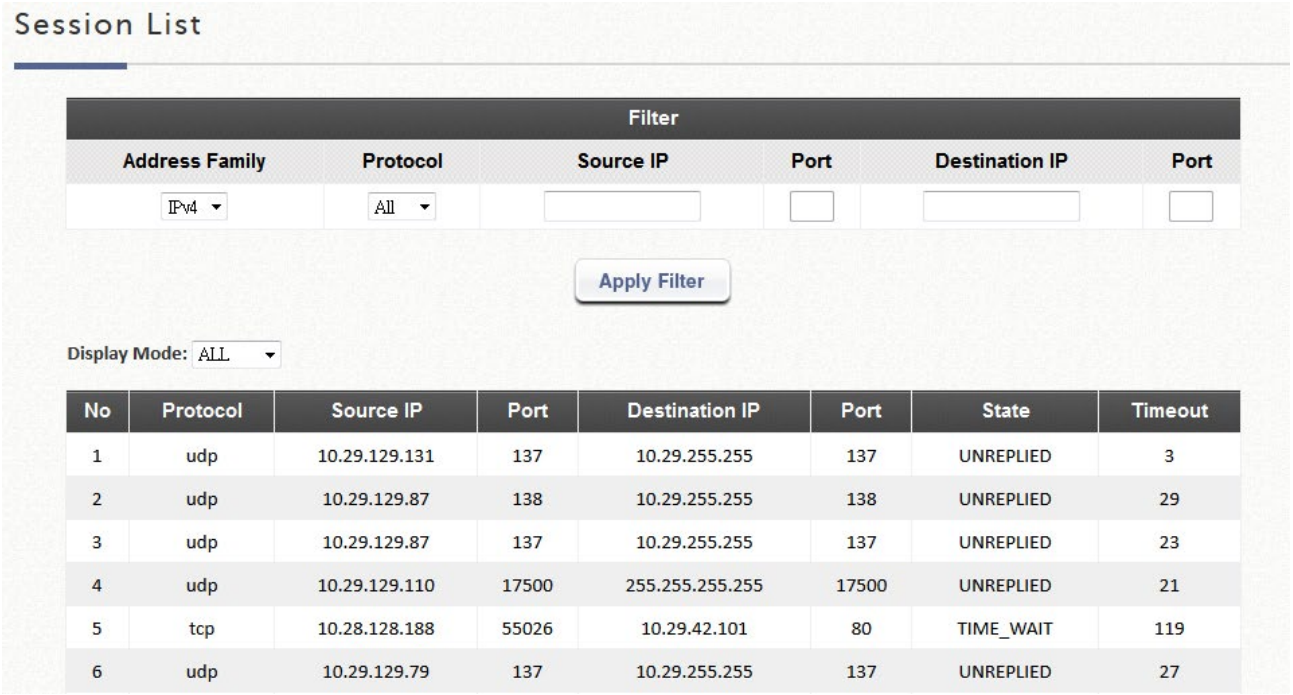
- **SYSLOG Destinations**：最大 2 つの外部 SYSLOG サーバーを設定できます。外部 SYSLOG サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。
- **Severity Level**：このレベルよりも深刻なログは、外部 SYSLOG サーバーに送信されます。

- **Alarms & Events Settings**：アラームまたは管理イベントとして監視する項目を設定します。アラームは、選択した項目のエラーメッセージまたは警告メッセージで、Alarms ページおよび Dashboard に表示されます。障害が解決されるまで、アラームはアラームリストに残ります。管理イベントは、Management Events ページに表示される、選択した項目のログです。最新のいくつかのイベントも Dashboard に表示されます。



9）Session List

このページでは、管理者はクライアントとシステムの間で現在確立されているセッションを検査できます。各結果には、送信元と宛先の IP とポートの値が表示されます。フィルタ条件を定義し、希望する結果のみを表示できます。



10）DHCP Lease

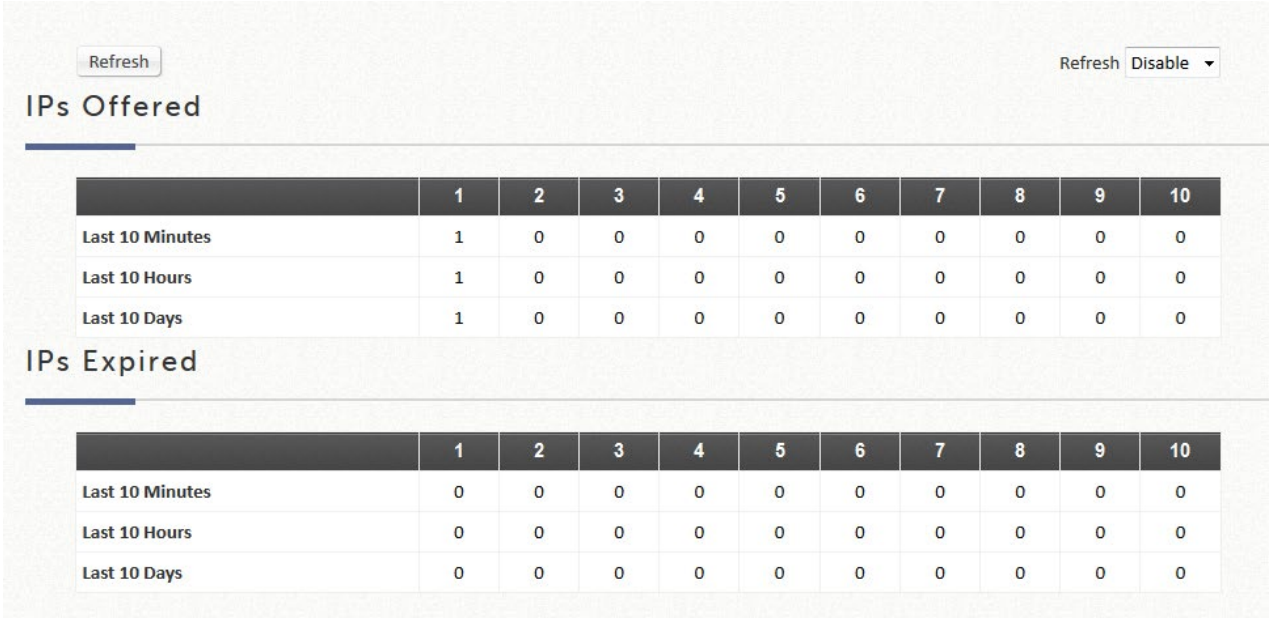
DHCP IP リース情報は、このページで確認できます。

- **Statistics of IP Offered**

  ここには、**Last 10 Minutes**（分）、**Hours**（時間）、および **Days**（日間）の有効なリース数が表示されます。ヘッダー1～10 は単位乗数です。例えば、列 2 の下の数字は過去 20 分/時間/日間のリース数を示し、列 3 の下の数字は過去 30 分/時間/日間のリース数を示します。

- **Statistics of IP Expired**

  ここには、**Last 10 Minutes**（分）、**Hours**（時間）、および **Days**（日間）に期限切れになったクライアントへの IP リースが表示されます。ヘッダー1～10 は単位乗数です。例えば、列 2 の下の数字は過去 20 分/時間/日間の期限切れ数を示し、列 3 の下の数字は過去 30 分/時間/日間の期限切れ数を示します。



- **DHCP Lease Log**

  DHCP リースログがここに表示され、IP アドレス、MAC アドレス、またはサービスゾーンでの検索が可能です。

DHCP Lease Log

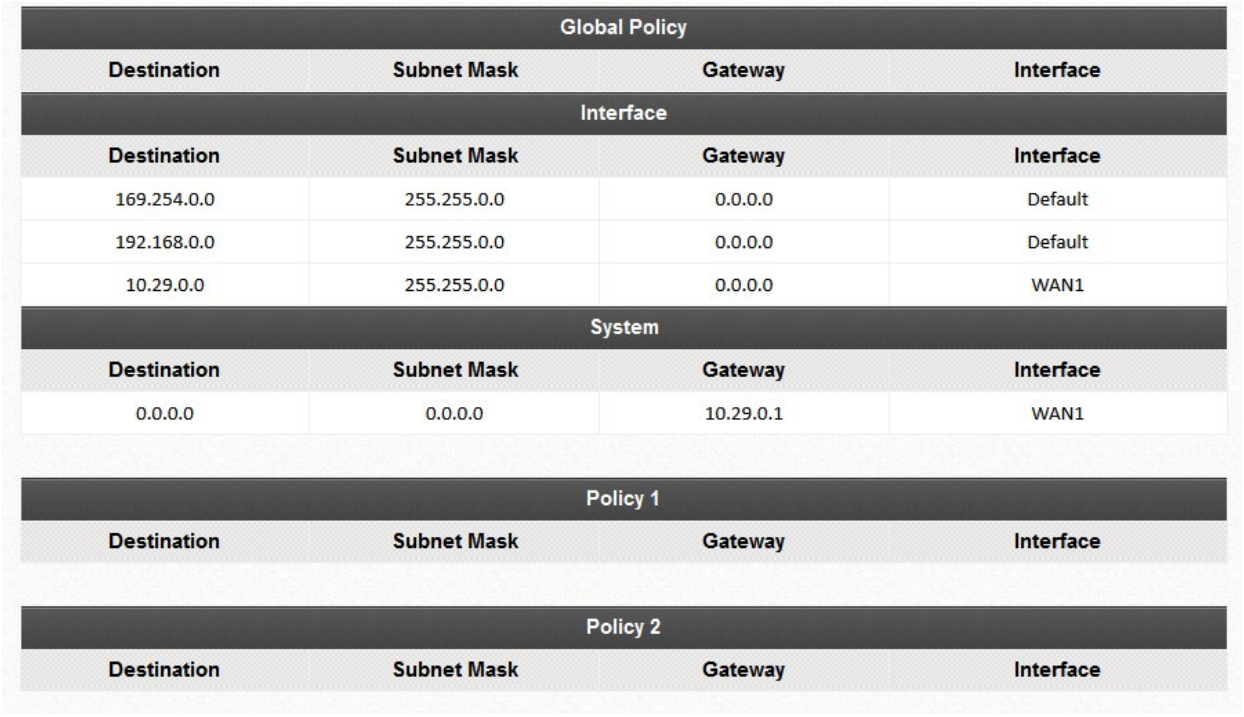
Date	Type	IP Address	MAC Address	Host Name	Service Zone	Lease Expires	Client ID	Vendor Class
2013-03-06 11:50:37	Add	192.168.1.47	00:09:6b:cd:82:47	Support_IBM_X30	Default	2013-03-07 11:50:33	01:00:09:6b:cd:82:47	MSFT 5.0
2013-03-06 11:57:35	Add	192.168.1.47	00:09:6b:cd:82:47	Support_IBM_X30	Default	2013-03-07 11:57:35	01:00:09:6b:cd:82:47	MSFT 5.0
2013-03-06 14:03:29	Update	192.168.1.47	00:09:6b:cd:82:47	Support_IBM_X30	Default	2013-03-07 14:03:29	01:00:09:6b:cd:82:47	MSFT 5.0
2013-03-06 14:07:38	Update	192.168.1.47	00:09:6b:cd:82:47	Support_IBM_X30	Default	2013-03-07 14:07:38	01:00:09:6b:cd:82:47	MSFT 5.0
2013-03-06 14:56:23	Add	192.168.1.47	00:09:6b:cd:82:47	Support_IBM_X30	Default	2013-03-07 14:56:23	01:00:09:6b:cd:82:47	MSFT 5.0
2013-03-06 15:05:51	Add	192.168.1.47	00:09:6b:cd:82:47	Support_IBM_X30	Default	2013-03-07 15:05:49	01:00:09:6b:cd:82:47	MSFT 5.0
2013-03-06 15:14:08	Load	192.168.1.47	00:09:6b:cd:82:47	Support_IBM_X30	Default	2013-03-07 15:05:49	01:00:09:6b:cd:82:47	*
2013-03-06 15:15:10	Add	192.168.1.47	00:09:6b:cd:82:47	Support_IBM_X30	Default	2013-03-07 15:15:09	01:00:09:6b:cd:82:47	MSFT 5.0
2013-03-06 15:23:00	Update	192.168.1.47	00:09:6b:cd:82:47	Support_IBM_X30	Default	2013-03-07 15:23:00	01:00:09:6b:cd:82:47	MSFT 5.0

- **DHCP Lease List**

  DHCP サーバーから発行された有効な IP アドレスと、この IP アドレスを使用するクライアントの関連情報がここに表示されます。

11）Routing Table

ルーティングテーブルには、すべての IPv6 および IPv4 ルートルールがあります。システムルートルールもここに示されています。ポリシールートルールの優先度はグローバルポリシールートルールよりも高く、システムルートルールの優先度は最も低いです。



Global Policy			
Destination	Subnet Mask	Gateway	Interface
Interface			
Destination	Subnet Mask	Gateway	Interface
169.254.0.0	255.255.0.0	0.0.0.0	Default
192.168.0.0	255.255.0.0	0.0.0.0	Default
10.29.0.0	255.255.0.0	0.0.0.0	WAN1
System			
Destination	Subnet Mask	Gateway	Interface
0.0.0.0	0.0.0.0	10.29.0.1	WAN1

Policy 1			
Destination	Subnet Mask	Gateway	Interface

Policy 2			
Destination	Subnet Mask	Gateway	Interface

IPv4 または IPv6 をクリックすると、各ポリシーまたはインターフェースのルーティングルールが表示されます。

- **Policy 1～n**：1 から n までの個々のポリシーの情報を表示します。
- **Global Policy**： グローバルポリシーの情報を表示します。
- **System**： システム管理に関する情報を表示します。
  - **Destination**： デバイスの宛先 IP アドレスです。
  - **Subnet Mask**：ポートのサブネットマスクの IP アドレスです。
  - **Gateway**：ポートのゲートウェイ IP アドレスです。
  - **Interface**：**WAN1**、**WAN2**、**デフォルト**、またはトラフィックインターフェースに適用する名前付き**サービスゾーン**を含むインターフェースネットワークの選択です。

付録F　　AP キャパビリティ

AP の WAPM 機能に関するキャパシティー表

AP の種類	AP リスト	MAP/AP グルーピング	テンプレートコンフィグ	WDS リスト	バックアップコンフィグ	ファームウェアアップロード	CAPWAP トンネル	不正 AP の探知	AP ロードバランシング	対応バージョン
OAP100	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
OAP100e	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
EAP100	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
ECW100	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
ECW5210-L	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
ECW5211-L	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
ECW5410-L	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
ECWO5210-L	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
ECWO5211-L	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
ECWO5213-L	V	V	V (Legacy)	V	V	V	V	V	V	3.45.0000 or newer
OAP103-BR	V	V	V (Legacy)		V	V	V		V	11.6.4 or newer
EAP101	V	V	V (New Generation)		V	V	V		V	11.2.0-795 or newer
EAP102	V	V	V (New Generation)		V	V	V		V	11.2.0-796 or newer
EAP104	V	V	V (New Generation)		V	V	V		V	12.0.0 or newer
SP-W2M-AC1200	V	V	V (New Generation)		V	V	V		V	7.0.0-2987 or newer
サードパーティー	V	V								

P/N: V390000420230817